

東野土居遺跡Ⅲ

南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅸ
(高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅦ)



2016.2

高 知 県 教 育 委 員 会
(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

東野土居遺跡Ⅲ

南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅹ
(高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅠ)

2016.2

高 知 県 教 育 委 員 会
(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

序

東野土居遺跡の発掘調査は、国土交通省が進める高規格道路南国安芸道路建設に伴い、平成21年4月から24年3月まで3カ年にわたって発掘調査を実施しました。東野土居遺跡の所在する香南市野市町の東部を流れる香宗川上流域ではこれまで幾度となく発掘調査が行われ、考古資料を通して地域の歴史を復元することが可能となっていました。香宗川下流域においてはこれまでにあまり発掘事例がなく、地域の様相を把握できていない地域でした。

3カ年にわたる東野土居遺跡の調査を通じて、当遺跡は弥生時代前期末に生活の営みが始まり弥生時代後期末から古墳時代前期にかけて最初の盛行期を迎え、次に古墳時代後期から古代・中世にかけて繁栄した遺跡であることが明らかとなりました。古代瓦の出土や中世の大溝に囲まれた屋敷群の存在は今後高知平野の歴史を語る上で重要な位置を占めるものと思われまます。

今回の報告書は、東野土居遺跡の東部に広がる弥生時代と古墳時代の集落跡や古代の掘立柱建物群、中世の屋敷群を中心としたものです。これらの成果は東野土居遺跡の変遷を考えるうえにおいて貴重なものと考えられ、本書が地域の歴史や文化の解明や斯学の向上に役立つことができれば幸いです。

本調査につきましては国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所、香南市教育委員会をはじめ地元の皆様には多大なご理解とご協力を得ることができました。また発掘作業・整理作業に従事していただきました作業員の皆様に対しましても厚く御礼を申し上げます。

平成28年2月

公益財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター
所長 松田直則

例言

1. 本書は南国安芸道路の建設に伴い、平成22年度に実施した東野土居遺跡調査第ⅣA区及び調査第ⅣB-1区の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、高知県教育委員会が国土交通省四国地方整備局から受託し、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター(現公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター)が発掘調査を実施した。
3. 東野土居遺跡は香宗川右岸に広がる野市台地の縁辺部に立地する弥生時代から近世までの複合遺跡で、弥生時代及び古墳時代の集落跡や古代の掘立柱建物群、中世の屋敷群、近世の屋敷跡など多くの遺構・遺物が確認されている。調査第ⅣA区及び調査第ⅣB-1区の発掘調査は平成22年度に実施し、調査面積は調査第ⅣA区が1,839㎡、調査第ⅣB-1区が1,734㎡で、発掘調査延べ面積は3,573㎡であった。
4. 発掘調査・整理作業は次の体制で行った。

平成22年度

総括：財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 小笠原孝夫
総務：同次長 森田尚宏, 同総務課長 里見敦典, 同主任 弘末節子
調査総括：同調査課長兼企画調整班長 廣田佳久
調査担当：同調査第四班長 出原恵三, 同専門調査員 安岡猛・鍵山真一, 同主任調査員 筒井三菜・下村裕, 測量補助員 都築愛・秋山英洋
事務補助員：友永可奈

平成27年度

総括：公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 松田直則
総務：同次長兼総務課長 東勝彦, 同総務係長 吉森和子, 同主任 黒岩千恵
整理総括：同調査課長兼調査第一班長 吉成承三
整理担当：同調査第三班長 坂本裕一, 同主任調査員 筒井三菜・下村裕, 調査補助員 大賀幸子
事務補助員：谷幸絵

5. 本書の執筆は調査第ⅣA区を下村, 調査第ⅣB-1区を筒井・久家が行い、編集は下村が行った。現場写真は調査第ⅣA区が下村, 調査第ⅣB-1区が筒井が撮影し、遺物写真は坂本が撮影した。また、遺物観察表については整理作業員の方に指定した設定で変換作成して頂いた。
6. 遺構についてはST(竪穴建物跡), SB(掘立柱建物跡), SA(柵列・塀跡), SK(土坑), SD(溝跡), SE(井戸), P(ピット), SX(性格不明遺構)で表記した。なお、ST(竪穴建物跡)に関しては東野土居遺跡全体で通し番号としている。また、掘立柱建物跡の一部については模式図(S=1/200)とし、掲載している遺構平面図の縮尺はそれぞれに記しており、方位Nは世界測地系のGNである。
7. 遺物については原則として弥生土器は縮尺1/4, その他は縮尺1/3で掲載し、一部の遺物については縮尺を変えているが、各挿図にはスケールを表記している。また、遺物番号は通し番号とし挿図と図版の遺物番号は一致している。
8. 現地調査及び報告書作成をするにあたっては、下記の方々のご指導及び貴重なご教示、ご助言を賜った。記して感謝の意を表したい。

例言

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの諸氏

9. 調査にあたっては、国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所のご協力を頂いた。また、地元住民の方々に遺跡に対するご理解とご協力を頂き、厚く感謝の意を表したい。
10. 発掘調査及び整理作業については、多くの方々に労を厭わず作業に従事して頂き、感謝の意を表したい。
11. 出土遺物は「10 - 1KH」と注記し、高知県立埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第Ⅰ章 序章.....	1
1. はじめに.....	1
2. 調査の契機と経過.....	1
3. 調査の概要.....	3
(1) 遺跡の概要.....	3
(2) 調査の方法.....	3
第Ⅱ章 IV A 区.....	5
1. 調査区の概要と基本層序.....	5
(1) 調査の概要.....	5
(2) 基本層序.....	5
2. 検出遺構と遺物.....	5
(1) 竪穴建物跡.....	5
(2) 掘立柱建物跡.....	55
(3) 柵列・塀跡.....	66
(4) 土坑.....	67
(5) 溝跡.....	92
(6) 井戸.....	105
(7) ピット.....	105
(8) 遺物包含層.....	117
第Ⅲ章 IV B - 1 区.....	133
1. 調査区の概要と基本層序.....	133
(1) 調査の概要.....	133
(2) 基本層序.....	134
2. 検出遺構と遺物.....	135
(1) 竪穴建物跡.....	135
(2) 掘立柱建物跡.....	206
(3) 柵列・塀跡.....	212
(4) 土坑.....	212
(5) 溝跡.....	223
(6) ピット.....	233
(7) 性格不明遺構.....	241
(8) 遺物包含層.....	244

挿図目次

図1-1	東野土居遺跡位置図.....	1
図1-2	調査区配置図(S=1/8,000).....	2
図1-3	グリッド設定図(S=1/13,000).....	3
図2-1	調査区北壁セクション図.....	5
図2-2	ST19.....	6
図2-3	ST19埋土出土遺物実測図.....	7
図2-4	ST20・21埋土出土遺物実測図.....	7
図2-5	ST22.....	8
図2-6	ST22埋土出土遺物実測図.....	8
図2-7	ST23埋土出土遺物実測図.....	9
図2-8	ST24上層出土遺物実測図.....	10
図2-9	ST24下層出土遺物実測図.....	10
図2-10	ST25.....	11
図2-11	ST25上層出土遺物実測図1(壺・甕).....	12
図2-12	ST25上層出土遺物実測図2(鉢他).....	13
図2-13	ST25中層出土遺物実測図.....	14
図2-14	ST25下層出土遺物実測図.....	14
図2-15	ST25床面・中央ピット出土遺物実測図.....	15
図2-16	ST26.....	16
図2-17	ST26埋土・ピット出土遺物実測図.....	17
図2-18	ST27.....	17
図2-19	ST27上層出土遺物実測図.....	18
図2-20	ST27下層出土遺物実測図.....	18
図2-21	ST27床面・ピット出土遺物実測図.....	19
図2-22	ST28.....	20
図2-23	ST28上層出土遺物実測図1(壺・甕).....	21
図2-24	ST28上層出土遺物実測図2(鉢).....	21
図2-25	ST28上層出土遺物実測図3(高杯).....	22
図2-26	ST28上層出土遺物実測図4(器台他).....	22
図2-27	ST28中層出土遺物実測図1(壺・甕).....	23
図2-28	ST28中層出土遺物実測図2(鉢).....	24
図2-29	ST28中層出土遺物実測図3(高杯他).....	25
図2-30	ST28中層出土遺物実測図4(庄内式土器).....	26
図2-31	ST28下層出土遺物実測図.....	26
図2-32	ST28床面出土遺物実測図.....	27
図2-33	ST29.....	27

図2-34	ST29上層出土遺物実測図	28
図2-35	ST29中層出土遺物実測図	30
図2-36	ST29下層出土遺物実測図	31
図2-37	ST29床面出土遺物実測図	32
図2-38	ST29床面・中央ピット出土遺物実測図	33
図2-39	ST30	35
図2-40	ST30上層出土遺物実測図1(壺他)	36
図2-41	ST30上層出土遺物実測図2(土錘)	37
図2-42	ST30中層出土遺物実測図	37
図2-43	ST30下層出土遺物実測図1(壺・甕)	38
図2-44	ST30下層出土遺物実測図2(鉢他)	38
図2-45	ST30床面出土遺物実測図1(壺他)	39
図2-46	ST30床面出土遺物実測図2(叩石他)	40
図2-47	ST30中央ピット・SK2出土遺物実測図	41
図2-48	ST31埋土出土遺物実測図	42
図2-49	ST32	42
図2-50	ST32上層出土遺物実測図	43
図2-51	ST32下層出土遺物実測図	44
図2-52	ST32床面・中央ピット出土遺物実測図	45
図2-53	ST33	46
図2-54	ST33上層出土遺物実測図	47
図2-55	ST33下層出土遺物実測図	48
図2-56	ST33床面出土遺物実測図	49
図2-57	ST33(SK2)出土遺物実測図	50
図2-58	ST34	51
図2-59	ST34上層出土遺物実測図	52
図2-60	ST34下層出土遺物実測図	53
図2-61	ST34床面出土遺物実測図	54
図2-62	SB1	55
図2-63	SB2	55
図2-64	SB2(P5)出土遺物実測図	56
図2-65	SB3	56
図2-66	SB4	57
図2-67	SB4(P8)出土遺物実測図	57
図2-68	SB5	58
図2-69	SB6	58
図2-70	SB6(P5)出土遺物実測図	58
図2-71	SB7	58

插图目次

图2-72	SB7出土遗物实测图	59
图2-73	SB8	59
图2-74	SB8出土遗物实测图	60
图2-75	SB9	60
图2-76	SB9(P11)出土遗物实测图	61
图2-77	SB10	61
图2-78	SB10出土遗物实测图	61
图2-79	SB11	62
图2-80	SB12	62
图2-81	SB13	62
图2-82	SB14	63
图2-83	SB15	63
图2-84	SB15(P3)出土遗物实测图	63
图2-85	SB16	64
图2-86	SB17	64
图2-87	SB18	65
图2-88	SB18(P8)出土遗物实测图	65
图2-89	SB19	65
图2-90	SA1	66
图2-91	SA1出土遗物实测图	66
图2-92	SA2	66
图2-93	SA2出土遗物实测图	66
图2-94	SA3	66
图2-95	SK1·2·5出土遗物实测图	67
图2-96	SK13出土遗物实测图	69
图2-97	SK22	70
图2-98	SK22出土遗物实测图	70
图2-99	SK25出土遗物实测图	71
图2-100	SK26出土遗物实测图	71
图2-101	SK28·30出土遗物实测图	72
图2-102	SK33	72
图2-103	SK33出土遗物实测图	73
图2-104	SK38	74
图2-105	SK38出土遗物实测图	75
图2-106	SK40出土遗物实测图	76
图2-107	SK46出土遗物实测图	77
图2-108	SK47	78
图2-109	SK47出土遗物实测图	78

図2-110	SK50・55出土遺物実測図	79
図2-111	SK61	80
図2-112	SK61出土遺物実測図	81
図2-113	SK65	82
図2-114	SK65出土遺物実測図	82
図2-115	SK66	83
図2-116	SK68・69	83
図2-117	SK68・69出土遺物実測図	84
図2-118	SK72	84
図2-119	SK72出土遺物実測図	84
図2-120	SK73出土遺物実測図	85
図2-121	SK75出土遺物実測図	85
図2-122	SK78出土遺物実測図	86
図2-123	SK79出土遺物実測図	86
図2-124	SK81・84出土遺物実測図	86
図2-125	SK84	87
図2-126	SK85出土遺物実測図	88
図2-127	SK90・93・95出土遺物実測図	89
図2-128	SK97・98出土遺物実測図	90
図2-129	SK102・103出土遺物実測図	91
図2-130	SK103	91
図2-131	SD2	92
図2-132	SD2出土遺物実測図	92
図2-133	SD11出土遺物実測図	93
図2-134	SD13	93
図2-135	SD13出土遺物実測図	94
図2-136	SD15出土遺物実測図	95
図2-137	SD17	96
図2-138	SD17出土遺物実測図	96
図2-139	SD18・19	96
図2-140	SD18・19出土遺物実測図	96
図2-141	SD21出土遺物実測図	97
図2-142	SD37	99
図2-143	SD37出土遺物実測図	99
図2-144	SD38出土遺物実測図	100
図2-145	SD39	101
図2-146	SD39出土遺物実測図	102
図2-147	SD42出土遺物実測図	102

挿図目次

図2 - 148	SD45.....	103
図2 - 149	SD45出土遺物実測図.....	104
図2 - 150	SE1出土遺物実測図.....	105
図2 - 151	P1～10出土遺物実測図.....	106
図2 - 152	P11～20出土遺物実測図.....	108
図2 - 153	P21～30出土遺物実測図.....	111
図2 - 154	P31～40出土遺物実測図.....	113
図2 - 155	P41～49出土遺物実測図.....	115
図2 - 156	第Ⅲ層出土遺物実測図1(弥生土器).....	118
図2 - 157	第Ⅲ層出土遺物実測図2(土師器・須恵器).....	118
図2 - 158	第Ⅲ層出土遺物実測図3(土師質土器).....	119
図2 - 159	第Ⅲ層出土遺物実測図4(瓦質土器他).....	120
図2 - 160	第Ⅲ層出土遺物実測図5(土製品他).....	121
図2 - 161	第Ⅳ層出土遺物実測図1(弥生土器他).....	122
図2 - 162	第Ⅳ層出土遺物実測図2(備前焼他).....	123
図2 - 163	第Ⅴ層出土遺物実測図1(弥生土器).....	125
図2 - 164	第Ⅴ層出土遺物実測図2(土師器・須恵器).....	126
図2 - 165	第Ⅴ層出土遺物実測図3(土師質土器).....	127
図2 - 166	第Ⅴ層出土遺物実測図4(土師質土器).....	128
図2 - 167	第Ⅴ層出土遺物実測図5(土師質土器他).....	129
図2 - 168	第Ⅴ層出土遺物実測図6(備前焼他).....	130
図2 - 169	第Ⅴ層出土遺物実測図7(瓦他).....	132
図3 - 1	調査区北壁セクション図1.....	133
図3 - 2	調査区北壁セクション図2.....	134
図3 - 3	調査区東壁セクション図.....	134
図3 - 4	調査区南壁セクション図.....	135
図3 - 5	ST35.....	135
図3 - 6	ST35出土遺物実測図.....	136
図3 - 7	ST36.....	136
図3 - 8	ST36出土遺物実測図.....	137
図3 - 9	ST37.....	138
図3 - 10	ST37出土遺物実測図1.....	139
図3 - 11	ST37出土遺物実測図2.....	140
図3 - 12	ST38・39.....	141
図3 - 13	ST38・カマド断面図.....	142
図3 - 14	ST38・39出土遺物実測図1.....	143
図3 - 15	ST38・39出土遺物実測図2.....	144
図3 - 16	ST39.....	145

図3-17	ST39出土遺物実測図	146
図3-18	ST40	146
図3-19	ST40出土遺物実測図	148
図3-20	ST41・42	149
図3-21	ST41出土遺物実測図	150
図3-22	ST42出土遺物実測図	151
図3-23	ST43	151
図3-24	ST43出土遺物実測図1	152
図3-25	ST43出土遺物実測図2	153
図3-26	ST44・カマド断面図	153
図3-27	ST44出土遺物実測図	154
図3-28	ST45	155
図3-29	ST45出土遺物実測図	156
図3-30	ST46	157
図3-31	ST46出土遺物実測図1	158
図3-32	ST46出土遺物実測図2	159
図3-33	ST47	160
図3-34	ST47出土遺物実測図1	161
図3-35	ST47出土遺物実測図2	162
図3-36	ST48	163
図3-37	ST48出土遺物実測図	164
図3-38	ST49	165
図3-39	ST49出土遺物実測図	166
図3-40	ST50	167
図3-41	ST50出土遺物実測図	169
図3-42	ST51	170
図3-43	ST51出土遺物実測図1	171
図3-44	ST51出土遺物実測図2	172
図3-45	ST52	173
図3-46	ST52出土遺物実測図	174
図3-47	ST53	175
図3-48	ST53・54出土遺物実測図	176
図3-49	ST54	176
図3-50	ST55	177
図3-51	ST55出土遺物実測図	178
図3-52	ST57	179
図3-53	ST57出土遺物実測図	180
図3-54	ST58	181

插图目次

图3 - 55	ST58出土遺物実測図1	182
图3 - 56	ST58出土遺物実測図2	183
图3 - 57	ST59・60	184
图3 - 58	ST59出土遺物実測図	186
图3 - 59	ST60出土遺物実測図	187
图3 - 60	ST61・62	188
图3 - 61	ST61・62出土遺物実測図	189
图3 - 62	ST63	190
图3 - 63	ST63出土遺物実測図	191
图3 - 64	ST64	192
图3 - 65	ST64出土遺物実測図1	193
图3 - 66	ST64出土遺物実測図2	194
图3 - 67	ST65	194
图3 - 68	ST65出土遺物実測図	195
图3 - 69	ST66	196
图3 - 70	ST67	197
图3 - 71	ST67出土遺物実測図1	198
图3 - 72	ST67出土遺物実測図2	199
图3 - 73	ST67出土遺物実測図3	200
图3 - 74	ST67出土遺物実測図4	201
图3 - 75	ST67出土遺物実測図5	202
图3 - 76	ST68	203
图3 - 77	ST68出土遺物実測図	204
图3 - 78	SB1	205
图3 - 79	SB2	205
图3 - 80	SB2出土遺物実測図	206
图3 - 81	SB3	206
图3 - 82	SB4	207
图3 - 83	SB4出土遺物実測図	207
图3 - 84	SB5	207
图3 - 85	SB6	208
图3 - 86	SB6出土遺物実測図	208
图3 - 87	SB7	208
图3 - 88	SB8	209
图3 - 89	SB8出土遺物実測図	209
图3 - 90	SB9	210
图3 - 91	SB9出土遺物実測図	210
图3 - 92	SB10	210

図3 - 93	SB11・11 - 1.....	211
図3 - 94	SB12.....	211
図3 - 95	SB13.....	211
図3 - 96	SB14.....	211
図3 - 97	SB15.....	211
図3 - 98	SB16.....	212
図3 - 99	SA1.....	212
図3 - 100	SK1・2.....	212
図3 - 101	SK1出土遺物実測図.....	212
図3 - 102	SK6.....	213
図3 - 103	SK6出土遺物実測図1.....	214
図3 - 104	SK6出土遺物実測図2.....	216
図3 - 105	SK7.....	217
図3 - 106	SK7出土遺物実測図.....	217
図3 - 107	SK9.....	217
図3 - 108	SK9出土遺物実測図.....	218
図3 - 109	SK11出土遺物実測図.....	218
図3 - 110	SK13出土遺物実測図.....	218
図3 - 111	SK16.....	219
図3 - 112	SK16出土遺物実測図.....	220
図3 - 113	SK22出土遺物実測図.....	220
図3 - 114	SK27.....	220
図3 - 115	SK27出土遺物実測図.....	221
図3 - 116	SK29出土遺物実測図.....	222
図3 - 117	SK34.....	222
図3 - 118	SK34出土遺物実測図.....	222
図3 - 119	SK38出土遺物実測図.....	223
図3 - 120	SD1・2.....	223
図3 - 121	SD4.....	223
図3 - 122	SD4出土遺物実測図.....	223
図3 - 123	SD5.....	223
図3 - 124	SD5出土遺物実測図.....	224
図3 - 125	SD7.....	224
図3 - 126	SD7出土遺物実測図.....	224
図3 - 127	SD8出土遺物実測図.....	225
図3 - 128	SD10出土遺物実測図.....	225
図3 - 129	SD11.....	225
図3 - 130	SD11出土遺物実測図.....	226

插图目次

图3-131	SD14出土遺物実測図	226
图3-132	SD15	226
图3-133	SD15出土遺物実測図	227
图3-134	SD20	227
图3-135	SD22	227
图3-136	SD21・22出土遺物実測図	228
图3-137	SD24出土遺物実測図	228
图3-138	SD25出土遺物実測図	228
图3-139	SD26	229
图3-140	SD26出土遺物実測図1	230
图3-141	SD26出土遺物実測図2	231
图3-142	SD26出土遺物実測図3	232
图3-143	SD26出土遺物実測図4	233
图3-144	P2	234
图3-145	柱穴出土遺物実測図1	235
图3-146	柱穴出土遺物実測図2	236
图3-147	柱穴出土遺物実測図3	238
图3-148	P23	240
图3-149	P25	241
图3-150	SX1	241
图3-151	SX1出土遺物実測図	241
图3-152	SX2出土遺物実測図	241
图3-153	SX9	242
图3-154	SX9出土遺物実測図	242
图3-155	SX10	242
图3-156	SX10出土遺物実測図	243
图3-157	遺物包含層出土遺物実測図1	245
图3-158	遺物包含層出土遺物実測図2	246
图3-159	遺物包含層出土遺物実測図3	247
图3-160	遺物包含層出土遺物実測図4	249
图3-161	遺物包含層出土遺物実測図5	250
图3-162	遺物包含層出土遺物実測図6	251
图3-163	遺物包含層出土遺物実測図7	252
图3-164	遺物包含層出土遺物実測図8	253
图3-165	遺物包含層出土遺物実測図9	254
图3-166	遺物包含層出土遺物実測図10	256
图3-167	遺物包含層出土遺物実測図11	257
图3-168	遺物包含層出土遺物実測図12	258

図3-169 遺物包含層出土遺物実測図13.....	259
図3-170 遺物包含層出土遺物実測図14.....	260
図3-171 遺物包含層出土遺物実測図15.....	261

遺物観察表目次

遺物観察表 1 (IV A区).....	267
遺物観察表 2 (IV A区).....	268
遺物観察表 3 (IV A区).....	269
遺物観察表 4 (IV A区).....	270
遺物観察表 5 (IV A区).....	271
遺物観察表 6 (IV A区).....	272
遺物観察表 7 (IV A区).....	273
遺物観察表 8 (IV A区).....	274
遺物観察表 9 (IV A区).....	275
遺物観察表10(IV A区).....	276
遺物観察表11(IV A区).....	277
遺物観察表12(IV A区).....	278
遺物観察表13(IV A区).....	279
遺物観察表14(IV A区).....	280
遺物観察表15(IV A区).....	281
遺物観察表16(IV A区).....	282
遺物観察表17(IV A区).....	283
遺物観察表18(IV A区).....	284
遺物観察表19(IV A区).....	285
遺物観察表20(IV A区).....	286
遺物観察表21(IV A区).....	287
遺物観察表22(IV A区).....	288
遺物観察表23(IV A区).....	289
遺物観察表24(IV A区).....	290
遺物観察表25(IV A区).....	291
遺物観察表26(IV A区).....	292
遺物観察表27(IV A区).....	293
遺物観察表28(IV A区).....	294
遺物観察表29(IV A区).....	295
遺物観察表30(IV A区).....	296
遺物観察表31(IV A区).....	297
遺物観察表32(IV A区).....	298

遺物觀察表目次

遺物觀察表33(IVA区)	299
遺物觀察表34(IVA区)	300
遺物觀察表35(IVA区)	301
遺物觀察表36(IVA区)	302
遺物觀察表37(IVB-1区)	305
遺物觀察表38(IVB-1区)	306
遺物觀察表39(IVB-1区)	307
遺物觀察表40(IVB-1区)	308
遺物觀察表41(IVB-1区)	309
遺物觀察表42(IVB-1区)	310
遺物觀察表43(IVB-1区)	311
遺物觀察表44(IVB-1区)	312
遺物觀察表45(IVB-1区)	313
遺物觀察表46(IVB-1区)	314
遺物觀察表47(IVB-1区)	315
遺物觀察表48(IVB-1区)	316
遺物觀察表49(IVB-1区)	317
遺物觀察表50(IVB-1区)	318
遺物觀察表51(IVB-1区)	319
遺物觀察表52(IVB-1区)	320
遺物觀察表53(IVB-1区)	321
遺物觀察表54(IVB-1区)	322
遺物觀察表55(IVB-1区)	323
遺物觀察表56(IVB-1区)	324
遺物觀察表57(IVB-1区)	325
遺物觀察表58(IVB-1区)	326
遺物觀察表59(IVB-1区)	327
遺物觀察表60(IVB-1区)	328
遺物觀察表61(IVB-1区)	329
遺物觀察表62(IVB-1区)	330
遺物觀察表63(IVB-1区)	331
遺物觀察表64(IVB-1区)	332
遺物觀察表65(IVB-1区)	333
遺物觀察表66(IVB-1区)	334
遺物觀察表67(IVB-1区)	335
遺物觀察表68(IVB-1区)	336
遺物觀察表69(IVB-1区)	337

遺構計測表目次

竪穴建物跡計測表1.....	341
竪穴建物跡計測表2.....	342
竪穴建物跡計測表3.....	343
掘立柱建物跡計測表.....	344
土坑計測表1.....	345
土坑計測表2.....	346
土坑計測表3.....	347
土坑計測表4.....	348

図版目次

図版 1	調査前風景(西より) 調査区北壁セクション(南より)	図版 11	ST28 弥生土器(165)出土状態, ST28 庄内式土器(177)出土状態, ST28 弥生土器(187)出土状態, ST29 弥生土器(201・203)出土状態, ST29 弥生土器(208)出土状態, ST30 弥生土器(284)出土状態, ST30 石製品(301)出土状態, ST30(SK2)バンクセクション(西より)
図版 2	調査区西側遺構検出状態(東より) 調査区西側遺構検出状態(南より)	図版 12	ST33 弥生土器(364)出土状態, ST33 金属製品(367)出土状態, ST34 石製品(399)出土状態, SB2(P5)弥生土器(407)出土状態, SB4(P5)バンクセクション(南より), SB7 東側掘方バンクセクション(南より), SK61 須恵器(495)出土状態, SK65 石製品(502)出土状態
図版 3	調査区西側遺構完掘状態(東より) 調査区西側遺構完掘状態(南より)	図版 13	SK66 バンクセクション(南より), SK66 完掘状態(南より), SK69 バンクセクション(南より), SK72 集石検出状態(北東より), SK85 金属製品(520)出土状態, SK103 バンクセクション(南より), SD13 バンクセクション(東より), SD21 土師質土器(556・557)出土状態
図版 4	調査区東側遺構検出状態(西より) 調査区東側遺構完掘状態(西より)	図版 14	SD38 バンクセクション(南より), SD39 バンクセクション(南より), SD39 完掘状態(南より), SD42 バンクセクション(南より), SD45 バンクセクション(南より)
図版 5	ST22・SK65 完掘状態(南より) ST25 完掘状態(南より)		
図版 6	ST28 完掘状態(南より) ST29 完掘状態(南より)		
図版 7	ST30 完掘状態(南より) ST32 完掘状態(南より)		
図版 8	ST33 完掘状態(東より) SB3 完掘状態(南より)		
図版 9	SB4 完掘状態(東より) SB6 完掘状態(北より)		
図版 10	ST23 須恵器(22)出土状態, ST24 須恵器(34)出土状態, ST25 バンクセクション(北東より), ST27 土製品(101)出土状態, ST27 弥生土器(106)出土状態, ST28 バンクセクション(南東より), ST28 弥生土器(149)出土状態, ST28 遺物(161・166・176・177)出土状態		

図版目次

- より), SE1バンクセクション(北より), 第三層石製品(716)出土状態, 第V層須恵器(785)出土状態
- 図版15 弥生土器(壺・甕), 須恵器(甗)
- 図版16 弥生土器(甕・高杯・器台), 庄内式土器(甕)
- 図版17 弥生土器(壺・甕)
- 図版18 弥生土器(壺・甕)
- 図版19 弥生土器(壺・甕・高杯)
- 図版20 弥生土器(壺・甕・高杯)
- 図版21 弥生土器(甕・高杯)
- 図版22 弥生土器(甕), 土師器(甕), 須恵器(高杯)
- 図版23 弥生土器(鉢・高杯), 土師器(甕), 須恵器(甕)
- 図版24 弥生土器(壺・鉢), 土製品(支脚)
- 図版25 弥生土器(壺・鉢・高杯・柄杓形土器), 石製品(砥石)
- 図版26 弥生土器(壺・鉢・高杯), 土製品(支脚), 石製品(石杵)
- 図版27 弥生土器(壺・鉢), 土製品(支脚)
- 図版28 弥生土器(壺・鉢), 土製品(支脚), 石製品(砥石)
- 図版29 弥生土器(壺・鉢), 土製品(支脚), 石製品(石杵)
- 図版30 弥生土器(鉢・高杯・製塩土器), 土製品(支脚)
- 図版31 弥生土器(甕・鉢・高杯), 庄内式土器(甕)
- 図版32 弥生土器(甕・鉢・高杯), 土師器(甕), 瓦質土器(鍋), 石製品(砥石)
- 図版33 土師質土器(杯・鍋), 白磁(碗), 瓦(平瓦), 近世磁器(皿)
- 図版34 土師器(羽釜), 須恵器(壺), 瓦質土器(三足鍋), 瀬戸焼(壺), 青磁(碗)
- 図版35 土師器(羽釜), 須恵器(壺・甕・器台), 土師質土器(羽釜), 石製品(石鍋・砥石)
- 図版36 土師質土器(鍋), 瓦質土器(鍋・播鉢), 瓦器(椀), 備前焼(甕), 瀬戸焼(天目茶碗), 青磁(碗)
- 図版37 弥生土器(壺), 須恵器(高杯・杯身), 土製品(土錘), 石製品(磨石・砥石・叩石)
- 図版38 弥生土器(壺・鉢・高杯・手づくね土器), 庄内式土器(甕), 土製品(土錘), 石製品(叩石), 金属製品(鉄鏃)
- 図版39 弥生土器(壺・鉢), 土師質土器(皿・小皿), 石製品(石庖丁)
- 図版40 須恵器(杯蓋), 緑釉陶器(椀), 土師質土器(皿・小皿), 青花(皿), 石製品(石庖丁), 金属製品(鉄鏃・鉈)
- 図版41 土師質土器(杯・皿・小皿), 土製品(土錘), 石製品(石庖丁)
- 図版42 土師質土器(杯・皿・小皿), 石製品(扁平片刃石斧・石庖丁), 金属製品(鉄鏃)
- 図版43 弥生土器(壺), 須恵器(杯蓋), 土師質土器(杯・小皿), 青磁(碗), 石製品(石鏃・砥石), 金属製品(銭貨)
- 図版44 土師質土器(杯・小皿), 瀬戸焼(皿), 白磁(皿), 瓦(平瓦), 土製品(土錘), 石製品(砥石)
- 図版45 調査前風景(西より)
調査区西側遺構検出状態(東より)
- 図版46 調査区東側遺構検出状態(西より)
調査区西側遺構完掘状態(東より)
- 図版47 調査区東側遺構完掘状態(西より)
調査区西側遺構完掘状態(上空より)
- 図版48 調査区東側遺構完掘状態(上空より)
調査区東側遺構完掘状態(南上空より)
- 図版49 調査区西側北壁セクション(南より)
調査区東側北壁セクション(南より)
- 図版50 ST35 完掘状態(北東より), ST35 遺物出土状態, ST35 弥生土器(892)出土状態, ST35 土製品(896)出土状態, ST36 移動式カマド(902)出土状態
- 図版51 ST37 完掘状態(南西より), ST37 遺物出土状態1, ST37 遺物出土状態2, ST37 中央ピット遺物出土状態, ST37 北壁セクション(南より)
- 図版52 ST38・39 完掘状態(北西より), ST38 カマドセクション(西より), ST38 セクションベルト(北より), ST39 中央ピット遺物出土状態, ST39 セクション(西より)
- 図版53 ST40 完掘状態(南西より), ST40 セクション(北より), ST40 焼土及び遺物

- 出土状態, ST40 カマド状粘土及びバンク(北より), ST40 カマド状粘土須恵器(973)出土状態
- 図版54 ST41・42完掘状態(南より)
ST41・42完掘状態(南西より)
- 図版55 ST43完掘状態(南西より), ST43バンクセクション(北東より), ST43弥生土器(995)出土状態, ST43遺物出土状態, ST43石製品(1002)出土状態
- 図版56 ST44完掘状態(南西より), ST44バンクセクション(南より), ST44カマド状焼土及び遺物出土状態, ST44カマド状粘土出土状態(南西より), ST44須恵器(1011)出土状態
- 図版57 ST43・45完掘状態(北東より)
ST45焼土・土師器(1018)出土状態
- 図版58 ST46完掘状態(北より), ST46バンク及び遺物・炭化物出土状態, ST46バンクセクション(北より), ST46中央ピット半裁状態(南より), ST46床面遺物出土状態
- 図版59 ST46・47完掘状態(西より), ST47バンクセクション(南より), ST47弥生土器(1043)出土状態, ST47中央ピット半裁状態(南より), ST47石製品(1058)出土状態
- 図版60 ST48・49完掘状態(東より), ST49完掘状態(南より), ST49須恵器(1082)出土状態, ST49カマド・遺物出土状態, ST48床面中央ピット・遺物出土状態
- 図版61 ST50完掘状態(東より), ST50遺物出土状態, ST50バンクセクション(東より), ST50床面検出状態(北より), ST50中央ピット半裁状態(南より)
- 図版62 ST51完掘状態(南東より), ST51バンクセクション(東より), ST51遺物出土状態, ST51石製品(1120)出土状態, ST51完掘状態(南より)
- 図版63 ST52完掘状態(西より)
ST53・54完掘状態(西より)
- 図版64 ST52・大溝完掘状態(上空より), ST53・54完掘状態(上空より), ST54バンクセクション(東より), ST55・57・58完掘状態(上空より), ST55遺物出土状態, ST55中央ピットセクション(南より), ST57小型丸底鉢(1156)出土状態, ST57弥生土器(1154)出土状態
- 図版65 ST58完掘状態(北東より), ST58バンクセクション(東より), ST58土師器(1172)出土状態, ST58角礫・焼土検出状態(北より), ST58完掘状態(上空より)
- 図版66 ST59・60完掘状態(北より), ST59バンクセクション(南より), ST59弥生土器(1181・1183)出土状態, ST60弥生土器(1190)出土状態, ST59・60完掘状態(上空より)
- 図版67 ST61・62完掘状態(北東より)
ST63～65完掘状態(北東より)
- 図版68 ST63～65完掘状態(南東より), ST64バンクセクション1(北より), ST64バンクセクション2(北より), ST64遺物出土状態1, ST64遺物出土状態2
- 図版69 ST63～65完掘状態(南東より), ST65バンクセクション(南より), ST65バンクセクション(西より), ST65弥生土器(1235)出土状態, ST65遺物出土状態
- 図版70 ST67・68完掘状態(北より), ST67遺物出土状態1, ST67遺物出土状態2, ST67バンクセクション(北より), ST67・68完掘状態(上空より)
- 図版71 ST68完掘状態(南より), ST68弥生土器(1331)出土状態, SB1完掘状態(北より), SB4完掘状態(北西より), SB8・SD25完掘状態(南より), SB8完掘状態(南より), SK6遺物出土状態1, SK6遺物出土状態2
- 図版72 SK6遺物出土状態, SK6完掘状態(西よ

付図目次

- り), SK7 土製品(1385) 出土状態, SK11 土師質土器(1391) 出土状態, SK16 集石 出土状態, SK27 石製品(1402) 出土状態, SK29 遺物出土状態, SK34 遺物出土状態
- 図版 73 ST65, SK27・30・33・38 完掘状態(上空より), SD5・6 完掘状態(北より), SD5 バンク南壁セクション(南より), SD5・6 バンク南壁セクション(南より), SD7 完掘状態(北より), SD7 バンク南壁セクション(南より), SD11 バンク東壁セクション(東より), SD11 瓦質土器(1426) 出土状態
- 図版 74 SD24 完掘状態(南より), SD24 バンク南壁セクション(南より), SD25 完掘状態(東より), SD25 バンク西壁セクション(西より), SD25 土師質土器(1448) 出土状態, SD26 南壁セクション(南より), SD26 南側集石検出状態(北より), SD26 須恵器(1460) 出土状態
- 図版 75 P2 遺物出土状態, P14 遺物出土状態, P22 土師器(1508) 出土状態, P23 弥生土器(1509) 出土状態, SX8 遺物出土状態, SX10 土師器(1522)・須恵器(1523) 出土状態, 遺物包含層弥生土器(1561) 出土状態, 作業風景(西より)
- 図版 76 弥生土器(甕・高杯), 庄内式土器(甕)
- 図版 77 弥生土器(壺・甕・高杯), 土師器(甕)
- 図版 78 弥生土器(壺), 土師器(甕), 小型丸底鉢, 須恵器(甕)
- 図版 79 弥生土器(壺), 土師器(高杯), 小型丸底鉢
- 図版 80 弥生土器(壺・甕・高杯)
- 図版 81 弥生土器(甕・甌), 須恵器(硯)
- 図版 82 弥生土器(壺・台付鉢), 土師器(甕・甌), 須恵器(甕), 土製品(支脚)
- 図版 83 弥生土器(鉢・高杯), 土製品(支脚)
- 図版 84 弥生土器(鉢), 須恵器(杯蓋・杯身)
- 図版 85 弥生土器(壺・鉢), ミニチュア土器, 石製品(磨石)
- 図版 86 弥生土器(鉢), 須恵器(杯身・高杯), 石製品(叩石・磨石)
- 図版 87 弥生土器(鉢), 土師器(椀), 小型丸底鉢, ミニチュア土器, 石製品(砥石)
- 図版 88 弥生土器(壺・鉢), 土師器(椀), 土製品(支脚), 石製品(砥石)
- 図版 89 弥生土器(壺・鉢・高杯), 土師質土器(羽釜)
- 図版 90 弥生土器(鉢・高杯), 土師器(椀), 須恵器(高杯), 瓦質土器(鍋), 瓦(平瓦)
- 図版 91 弥生土器(壺・鉢・高杯), 須恵器(甕・提瓶), 瀬戸焼(皿)
- 図版 92 弥生土器(壺), ミニチュア土器, 手づくね土器, 土製品(支脚), 石製品(石庖丁・刃器), 金属製品(鉄鏃・鉈)
- 図版 93 弥生土器(壺・鉢・高杯・器台か), 庄内式土器(甕), ミニチュア土器, 石製品(角錐状石器), 金属製品(鉄鏃)
- 図版 94 弥生土器(鉢), 手づくね土器, 土師器(椀), 土製品(支脚), 石製品(石庖丁・紡錘車)
- 図版 95 弥生土器(壺・甕), ミニチュア土器, 土師器(椀・皿), 瓦器(椀), 土製品(土錘)
- 図版 96 白磁(碗・皿), 青磁(碗・皿), 常滑焼(甕), 備前焼(播鉢), 瀬戸焼(鉢), 石製品(石鍋), 金属製品(鉄鎌)

付図目次

- 付図 1 東野土居遺跡調査第Ⅳ A・Ⅳ B - 1 区遺構平面図(S=1/200)
- 付図 2 東野土居遺跡調査第Ⅳ A 区遺構平面図(S=1/150)
- 付図 3 東野土居遺跡調査第Ⅳ B - 1 区遺構平面図(S=1/150)

第 I 章 序章

1. はじめに

本書は、高知県教育委員会が平成21年度に実施した試掘調査の結果を受け、平成22年度に実施した高知南国道路外1件埋蔵文化財発掘調査のうち東野土居遺跡における調査第IV A区及び調査第IV B-1区の発掘調査成果をまとめたものである。

この調査は、国土交通省(四国地方整備局土佐国道事務所)が計画し、実施している一般国道南国安芸道路建設工事に伴い、工事によって影響を受ける遺跡(埋蔵文化財)について事前の発掘調査を行ったうえで出土遺物等の整理作業を行い、遺跡の記録保存を図ることを目的としている。

東野土居遺跡は平成20年度に実施した事前の試掘調査によって周知の埋蔵文化財包蔵地範囲が拡大した遺跡である。本遺跡は香宗川右岸に広がる野市台地上に立地する弥生時代から近世までの複合遺跡で、弥生時代及び古墳時代の集落跡や古代の掘立柱建物群、中世の屋敷群、近世の屋敷跡などが確認されている。

2. 調査の契機と経過

南国安芸道路は、高知市と安芸市間36kmを結ぶ一般国道55号の自動車専用道路である高知東部自動車道の一環として安芸地方生活圏と高知中央生活圏の連携強化を図るほか、四国横断自動車道と接続し広域交通ネットワークの形成を目的とする道路で、昭和62年には国の高規格幹線道路網計画に組み込まれている。高知東部自動車道は延長36kmと長く、高知県内で最も周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)が集中する高知平野を横断する路線であることから、大規模で長期的な発掘調査が予想された。埋蔵文化財について具体的な調整を開始したのは平成15年度からであり、まず埋蔵文化財の取り扱いについて国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所と高知県教育委員会が調整を行った。その結果、当面の工事予定区域については周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)があるものの、これまで発掘調査が実施されておらず、遺構の遺存状態が全く不明であるため土地の買収が完了した箇所の試掘調査及び確認調査を平成19年度までは財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター(現公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター)、平成20年度からは高知県教育委員会が順次実施した。

平成20年度の南国安芸道路関係では土居地区が対象となり試掘調査が実施された結果、調査対象地に設定したトレンチから遺構が検出され、当該箇所が本発掘調査の必要があると判断された。また、平成21年

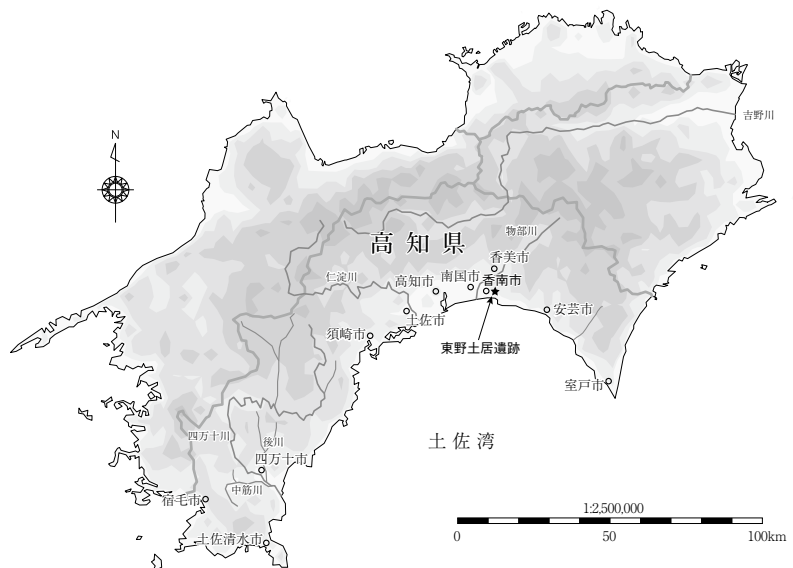


図1-1 東野土居遺跡位置図

2. 調査の契機と経過

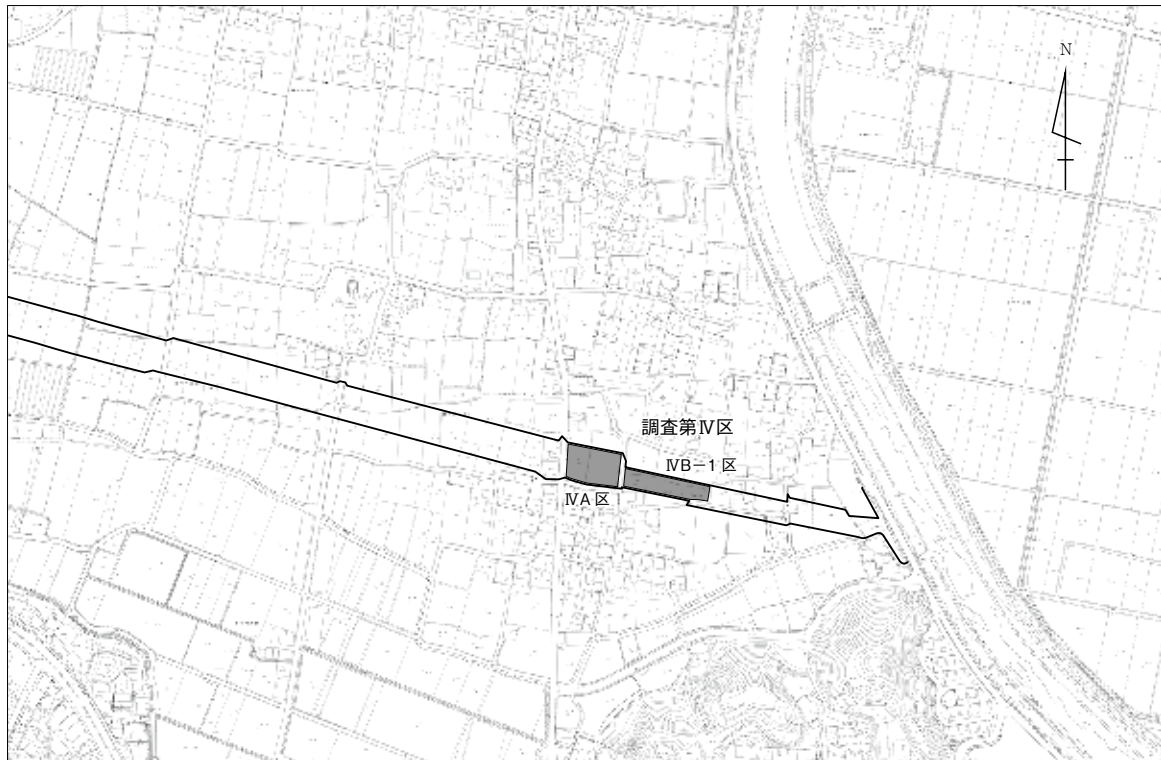


図1-2 調査区配置図(S=1/8,000)

度には確認調査が実施され、調査対象地で36カ所のトレンチから遺構が検出された。本遺跡は平成元年に実施された分布調査の結果、確認された遺跡であり、地名をとって「東野土居遺跡」と命名されていたが、この試掘調査の結果を受けて周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)の範囲は拡大することとなった。このため、国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所と高知県教育委員会の間で本発掘調査について協議を行い、平成21年度から本発掘調査を実施することとなった。

調査第IV A区及び調査第IV B-1区の調査は国土交通省四国地方整備局から高知県教育委員会が業務委託を受け、平成22年4月1日付けで高知県教育委員会と財団法人高知県文化財団(現公益財団法人高知県文化財団)との間で業務委託契約を締結したうえで、本発掘調査を実施した。

平成16年度以降に南国安芸道路の路線内で本発掘調査が実施された周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)は、本遺跡のほか口槇ヶ谷遺跡(南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅰ)や花宴遺跡(南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅱ)、徳王子前島遺跡(南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅲ)、坪井遺跡(南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅳ)、徳王子大崎遺跡(南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅴ)、徳王子広本遺跡(南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅵ)、東野土居遺跡Ⅰ(南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅶ)、東野土居遺跡Ⅱ(南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅷ)であり、順次発掘調査報告書が公開されている。

3. 調査の概要

(1) 遺跡の概要

東野土居遺跡は平成元年に実施された分布調査で確認されていた遺跡で、平成20年度の試掘調査によって周知の埋蔵文化財包蔵地範囲は拡大され、弥生時代から近世にかけての遺構・遺物が確認される複合遺跡となった。

本遺跡は香宗川右岸の野市台地上に立地しており、調査対象区域東部において弥生時代終末から古墳時代前期及び古墳時代後期の竪穴建物跡 100 軒以上が検出されており、当該期には大規模な集落が存在していたことが明らかとなった。

古代では調査対象区域東部で掘立柱建物跡群が確認されており、当該期の瓦なども出土していることから当時の官衙関連施設や寺院に関連する施設があった可能性が考えられる。また、中世では調査対象区域中央部から東部にかけて一辺約 35～55m を測る 10 区画以上の屋敷跡や幅 3～4m、深さ 1.5～2m を測る堀に囲まれた一辺約 80m の屋敷跡などが確認されており、当該期の屋敷群が展開していたものとみられる。

近世では調査対象区域西部で溝跡に囲まれた屋敷跡が確認されており、当該期の村落が広がっていたと考えられる。

(2) 調査の方法

試掘調査の結果を受けて、平成22年度に世界測地系の4級基準点を設置し、発掘調査に備えた。

測量は世界測地系第4座標系(IV系)の基準点を使用し、X=61,100m、Y=22,400m(北緯33°33'02", 東経133°44'28", 真北方向角-0°07'59")を原点とし、A～F(100mグリッド:大グリッド)を組み、調査対象区域内に西から順にアルファベットを配した。100mグリッドの中にはそれぞれのアルファベットを冠する20m(中グリッド:1～25)グリッドを設定し、調査で使用する4mグリッド(小グリッド:1～25)にはA1-1と枝番を付した。なお、遺構図にはグリッド名ではなく座標値を標記している。

堆積層の掘削は原則として遺物包含層直上までは機械力を導入し、遺物包含層以下は人力掘削を実施した。なお、遺物包含層でも遺物量が少ない場合などは作業効率を考慮し、機械力で遺構検出を行った。また、遺跡の成り立ち等を明らかにするために地質学や土壌学等関連分野の協力を得て、古環境の復元にも重点を置いた。なお、下層確認調査も含めた調査総面積は3,573㎡であり、出土遺物

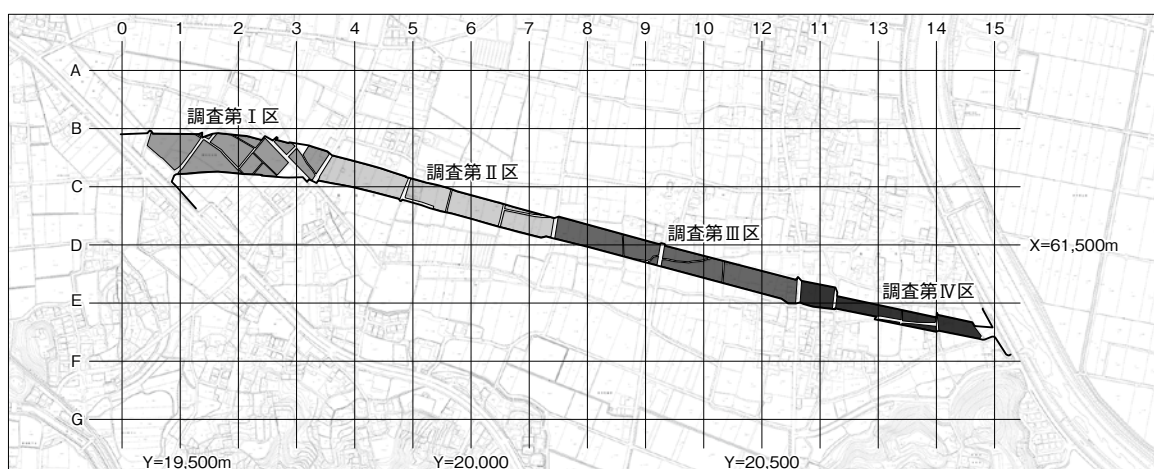


図1-3 グリッド設定図(S=1/13,000)

3. 調査の概要 (2) 調査の方法

の総コンテナ数は389箱を数える。

第Ⅱ章 IV A区

1. 調査の概要と基本層序

(1) 調査の概要

調査対象区域の東部に位置する調査区で、面積は1,839㎡である。遺構は調査区全域から検出されており、弥生時代の竪穴建物跡10軒、掘立柱建物跡2棟、古墳時代の竪穴建物跡6軒、古代の掘立柱建物跡7棟、区画溝跡1条、中世の掘立柱建物跡10棟、柵列跡2列、区画溝跡4条などを中心に弥生時代から中世の土坑や溝跡、柱穴が多数検出されている。遺物は弥生時代から中世のものが多数出土している。

(2) 基本層序(図2-1)

調査区で認められた基本層序は以下のとおりである。

調査区北壁セクション

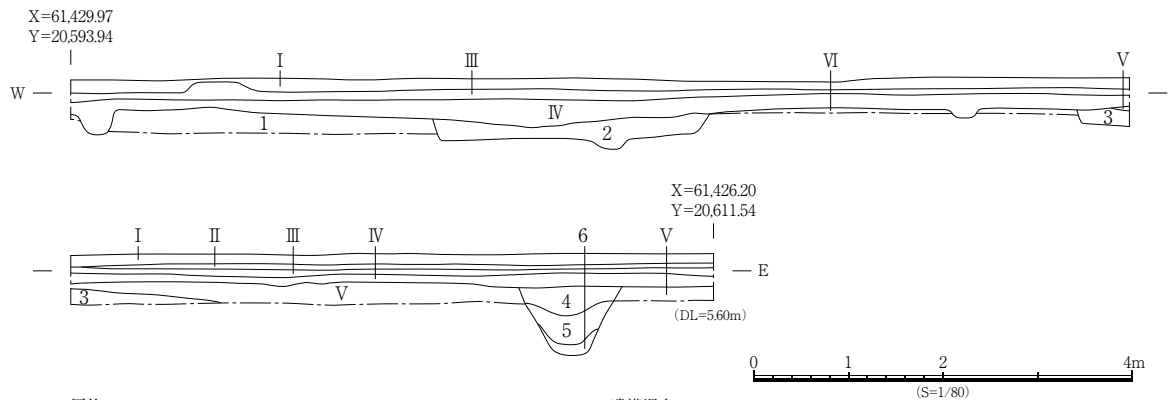
- 第Ⅰ層 小礫を含む黄灰色(2.5Y4/1)シルト質細粒砂層(耕作土)
- 第Ⅱ層 小礫を含む灰黄褐色(10YR4/2)シルト質細粒～中粒砂層
- 第Ⅲ層 小礫を含み鉄分の沈着がみられる黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂層(遺物包含層)
- 第Ⅳ層 小～中礫を含む黒褐色(10YR3/1)シルト質極細粒砂層(遺物包含層)
- 第Ⅴ層 小～大礫を含む黒色(10YR2/1)シルト質極細粒砂層(遺物包含層)
- 第Ⅵ層 小礫を含む暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒砂層(地山)

2. 検出遺構と遺物

(1) 竪穴建物跡

ST19(図2-2)

調査区西部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡で、SK45、P22に切られる。長軸は約3.2m、短軸は約3.0mを測り、面積は約9.6㎡である。検出面からの深さは約10cmで、床面の標高は約5.4m



層位

- 第Ⅰ層 小礫を含む黄灰色(2.5Y4/1)シルト質細粒砂層(耕作土)
- 第Ⅱ層 小礫を含む灰黄褐色(10YR4/2)シルト質細粒～中粒砂層
- 第Ⅲ層 小礫を含み鉄分の沈着が見られる黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂層(遺物包含層)
- 第Ⅳ層 小～中礫を含む黒褐色(10YR3/1)シルト質極細粒砂層(遺物包含層)
- 第Ⅴ層 小～大礫を含む黒色(10YR2/1)シルト質極細粒砂層(遺物包含層)
- 第Ⅵ層 小礫を含む暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒砂層(地山)

遺構埋土

1. 土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、褐色(7.5YR4/4)シルト質細粒砂をブロック状に含む(ST21)
2. 土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質細粒砂をブロック状に含む(ST20)
3. 土器を含む小礫と炭化物混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒～中粒砂(ST23)
4. 土器を含む小礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂(SD39)
5. 土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質中粒砂(SD39)
6. 土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR2/2)シルト質中粒～粗粒砂(SD39)

図2-1 調査区北壁セクション図

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

を測る。埋土は土器を含む小礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒砂をブロック状に含み、床面では5個のピットを検出した。主柱穴はP1・2と考えられ、床面からの深さはP1が28cm、P2が13cmを測る。

出土遺物は埋土から弥生土器239点、土師器79点、須恵器1点、石製品2点がみられ、弥生土器5点(1~5)、石製品2点(6・7)が図示できた。

埋土出土遺物(図2-3 1~7)

1~5は弥生土器で、1~4は甕である。1・2は口縁部が斜め上方に直線的に立ち上がるもので、1は口縁部内面にヨコナデ、外面にナデを施し、胴部内面にはハケ調整、外面にはタタキ目とヘラナデ調整が認められる。2は口縁部内面にハケ、外面にヨコナデを施し、胴部内面にはナデ調整、外面にはタタキ目が認められる。3は口縁部を欠損し、内面には胴上部にハケのちナデ、胴下部にナデ、底部にハケを施す。外面には胴部にタタキ目、胴下部から底部にかけてタタキ目とハケ調整が認められ、胴中央部には煤が付着する。4は口縁部から胴部にかけての破片で、口縁部内面にハケ、外面にヨコナデを施す。胴部内面にはハケ調整のちナデ調整、外面にはハケ調整が認められる。5は高杯と考えられるもので、杯部のみ残存する。杯部は椀形を呈し、内面にはナデ、外面にはハケを施したあと、内外面とも丁寧なヘラミガキ調整が認められ、口縁端部内外面にはヨコナデを施す。

6・7は石製品である。6は砥石で、両面と両側面に使用痕が認められ、石材は砂岩である。7は台石と考えられるもので、片面中央部に使用痕が認められる。

ST20

調査区北部で検出した隅丸方形を呈するとみられる竪穴建物跡で、ST21を切る。北側は調査区外へ続き、長軸・短軸及び面積は不明である。検出面からの深さは約26cmで、床面の標高は約5.1mである。埋土は土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂で、にぶい黄褐色(10YR3/4)シルト質細粒砂をブロック状に含む。床面でピットは検出されていない。

出土遺物は埋土から弥生土器80点、土師器5点、須恵器2点がみられ、弥生土器1点(8)、須恵器2点(9・10)が図示できた。

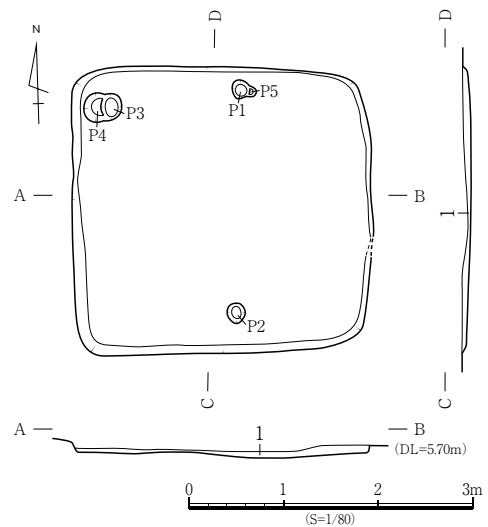
埋土出土遺物(図2-4 8~10)

8は弥生土器である。甕の底部と考えられるもので、内面にはナデ調整、外面にはタタキ目のちナデ調整が認められる。

9・10は須恵器の杯身で、口縁部のみ残存する。9・10とも内外面に回転ナデを施す。底部外面には回転ヘラケズリ調整が認められ、9の底部外面には粘土塊が付着する。

ST21

調査区北部で検出した隅丸方形を呈するとみられる竪穴建物跡で、ST20に切られる。北側は調査区外へ続き、長軸・短軸及び面積は不明である。検出面からの深さは約22cmで、床面の標高は約



遺構埋土
1. 土器を含む小礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂で、
にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒砂をブロック状に含む

図2-2 ST19

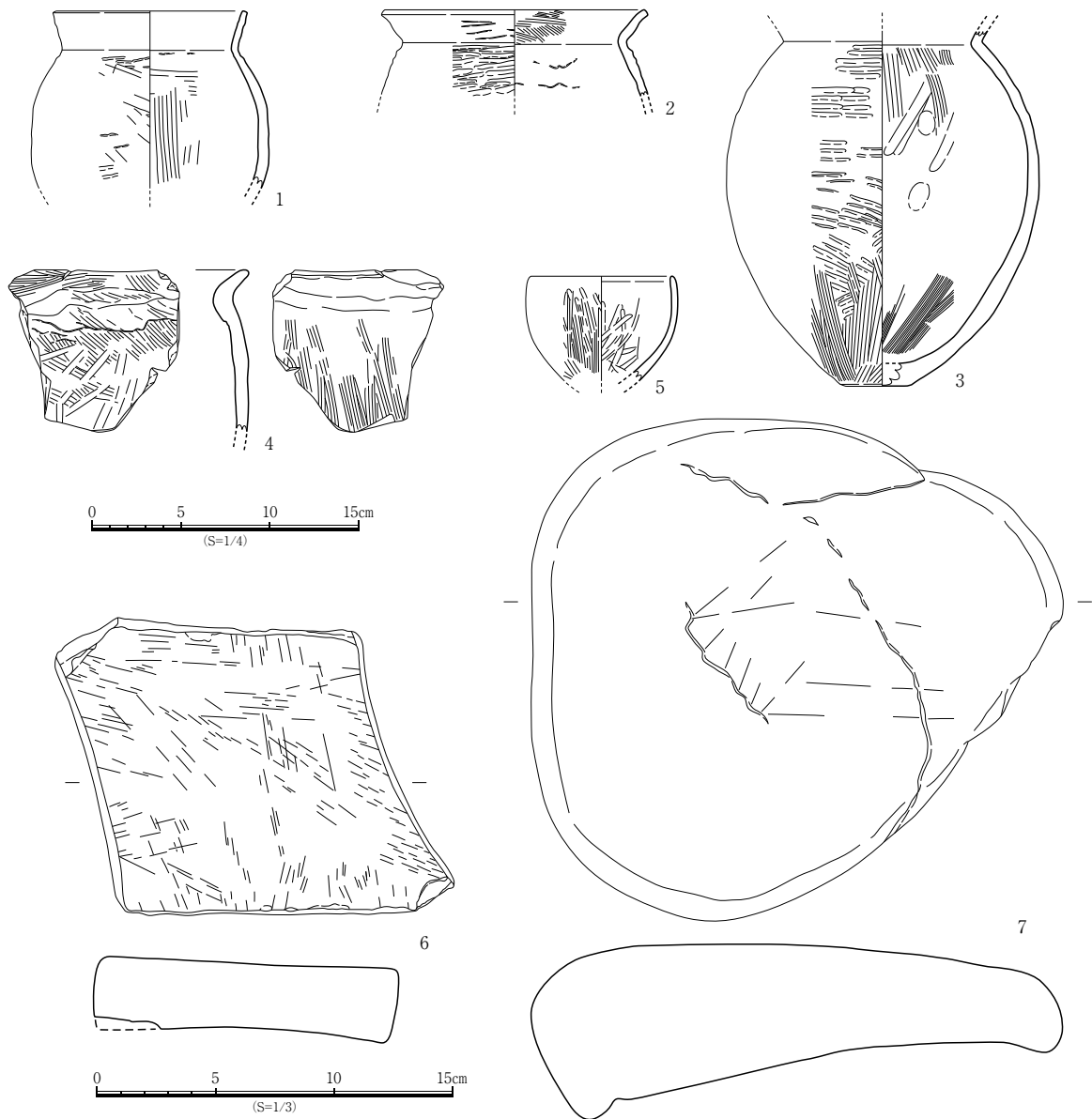


図2-3 ST19埋土出土遺物実測図

5.2mである。埋土は土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、褐色(7.5YR4/4)シルト質細粒砂をブロック状に含む。床面でピットは検出されていない。

出土遺物は埋土から弥生土器132点、土師器1点がみられ、弥生土器1点(11)が図示できた。

埋土出土遺物(図2-4 11)

11は弥生土器の甕とみられ

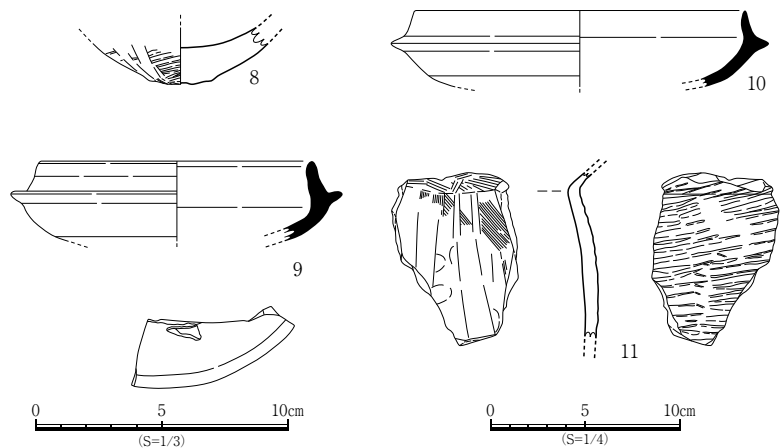


図2-4 ST20・21埋土出土遺物実測図

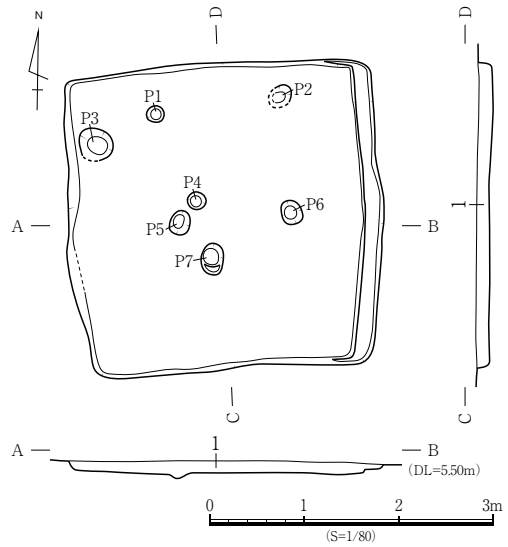
2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

る口縁部から胴部にかけての破片で、口縁部内面にはハケ、胴上部内面にはハケのちナデ、胴中央部内面にはナデを施す。外面にはタタキ目が認められ、胴中央部下端には煤が付着する。

ST22(図2-5)

調査区北部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡で、SK65, SD20 に切られる。長軸は約 3.3m, 短軸は約 3.2m を測り、面積は約 10.6 m² である。検出面からの深さは約 13cm で、床面の標高は約 5.2m を測り、東側には幅約 12 cm の段部が認められる。埋土は土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒～中粒砂で、床面では7個のピットを検出した。支柱穴は4個とみられ、北側で確認したP1・2が相当すると考えられるが、南側では検出できなかった。

出土遺物は埋土から弥生土器 583 点, 土師器 69 点, 須恵器 3 点, P2 から弥生土器 1 点, 土師器 1 点, P5 から弥生土器 3 点, P7 から弥生土器 2 点, 土師器 2 点が見られ、埋土から出土した弥生土器 6 点(12~17)が図示できた。



遺構埋土
1. 土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒～中粒砂

図2-5 ST22

埋土出土遺物(図2-6 12~17)

12~17は弥生土器で、12・13は壺である。12は広口壺とみられる口縁部破片で、口縁端部内外面と口縁部内面にヨコナデ、口縁部外面にヨコナデのちハケを施す。13は胴部から底部にかけての破片である。胴中央部内面にはハケ、胴下部から底部の内面にはナデを施す。胴部外面にはタタキ目、底部外面にはナデ調整が認められるが、全体的に摩耗が著しい。

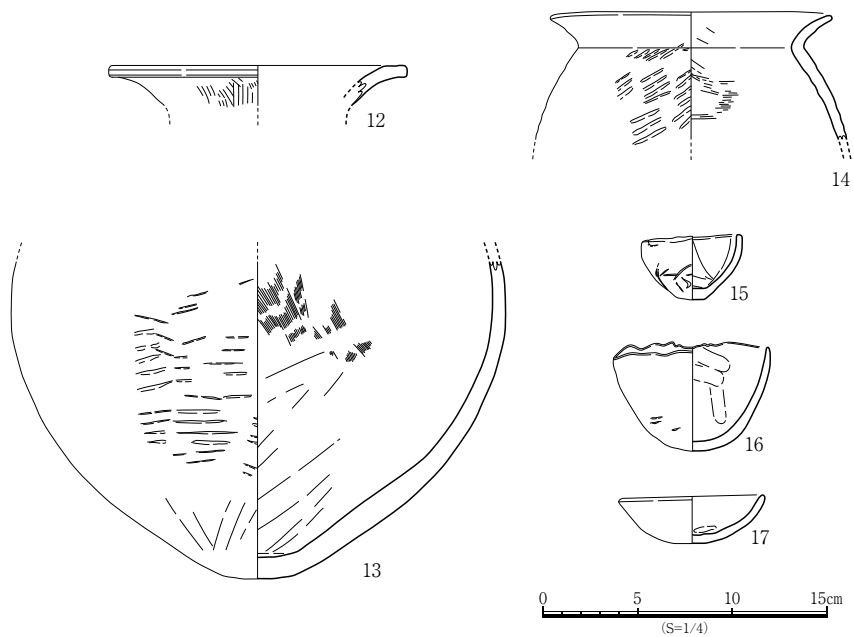


図2-6 ST22埋土出土遺物実測図

14は甕である。口縁部から胴上部にかけての破片で、内面にはハケ、外面にはタタキを施すが、全体的に摩耗が著しい。15~17は鉢で、15・16は椀状を呈し、ほぼ完存する。15は内外面にナデを施し、外面には手づくね成形による亀裂が明瞭に残る。16は内面にナデを施し、外面にはタタキ目とナデ調整が認められる。17は皿状を呈するもので、口縁部の一部を欠損する。内外面にナデを施し、底部内面には指頭圧痕が認められる。

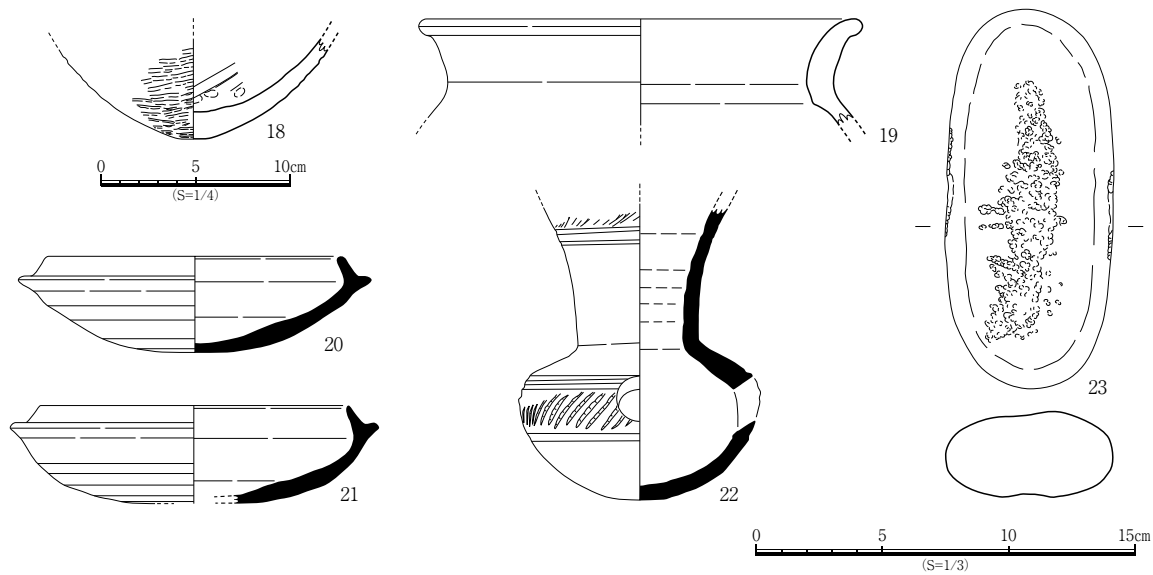


図2-7 ST23埋土出土遺物実測図

ST23

調査区北部で検出した隅丸方形を呈するとみられる竪穴建物跡で、ST28を切り、SD20、P31に切られる。北側は調査区外へ続き、長軸・短軸と面積は不明である。検出面からの深さは約15cmで、床面の標高は約5.2mを測る。埋土は土器を含み、小礫と炭化物混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒～中粒砂で、床面でピットは検出されなかった。

出土遺物は弥生土器598点、土師器42点、須恵器11点、石製品1点がみられ、弥生土器1点(18)、土師器1点(19)、須恵器3点(20～22)、石製品1点(23)が図示できた。

埋土出土遺物(図2-7 18～23)

18は弥生土器の甕と考えられる底部破片で、内面にナデ、外面にタタキを施す。

19は土師器の甕と考えられる口縁部破片で、口縁部は緩やかに外反して立ち上がり、端部は丸く収める。調整は摩耗が著しく不明である。

20～22は須恵器である。20・21は杯身で、内面と口縁部外面に回転ナデを施し、底部外面には回転ヘラケズリ調整が認められる。22は甕で口縁部を欠損する。頸部から胴部の内外面には回転ナデを施し、底部内面には粗いヘラケズリ調整、底部外面には不定方向のヘラケズリ調整が認められ、外面のみナデを加える。胴中央部には径1.7cmの孔を穿ち、外面にはハケ状原体による刻目を配する。頸部外面上端には櫛描波状文が残り、胴部外面の一部と頸部内面には自然釉が認められる。

23は石製品の叩石で、両面中央部に強い敲打痕、両側面と片側の端部に弱い敲打痕がみられる。石材は砂岩である。

ST24

調査区北東部で検出した隅丸方形を呈するとみられる竪穴建物跡で、ST31を切る。北側は調査区外へ続き、長軸・短軸と面積は不明である。検出面からの深さは約22cmで、床面の標高は約4.7mを測る。埋土は1層が土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂、2層が土器を含む小礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒～中粒砂で、床面でピットは検出されなかった。

出土遺物は上層から弥生土器200点、土師器6点、須恵器9点、下層から弥生土器371点、土師器9点、

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

須恵器2点がみられ、上層では弥生土器2点(24・25)、須恵器4点(26～29)、下層では弥生土器4点(30～33)、須恵器1点(34)が図示できた。

上層出土遺物(図2-8 24～29)

24・25は弥生土器である。24は高杯の脚柱部のみ残存し、外面にはヘラミガキ、内面にはナデを施す。25は器台とみられるもので、脚柱部のみ残存する。内面にナデ、外面にヘラミガキを施し、受部内面には煤が付着する。

26～29は須恵器である。26は杯蓋と考えられるもので、つまみは欠損し、かえりは口

縁内に収まる。内面と口縁部外面には回転ナデを施し、天井部外面には回転ヘラケズリ調整がみられる。27・28は杯身である。内面と口縁部外面に回転ナデを施し、底部外面には回転ヘラケズリ調整が認められる。29は高杯で、杯部のみ残存する。内外面に回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整が認められる。

下層出土遺物(図2-9 30～34)

30～33は弥生土器である。30は甕とみられる底部破片で、内面にナデ、外面にタタキのちナデを施す。31～33は高杯である。31は有稜高杯の杯部破片で、内外面にヨコナデのちヘラミガキを施す。32・33は脚柱部の破片である。32は脚柱部下端に4ヵ所穿孔し、内面にナデ、外面に丁寧なナデを施す。脚柱部外面上端にはヘラミガキ調整が残る。33は摩耗が著しく調整は不明であるが、内面に絞り目が残る。

34は須恵器の甕で、頸部から胴部にかけての破片で、頸部内面に回転ナデ、胴部内面に同心円状のタタキを施す。胴部外面にはハケ調整が認められ、頸部内外面には自然釉が残る。

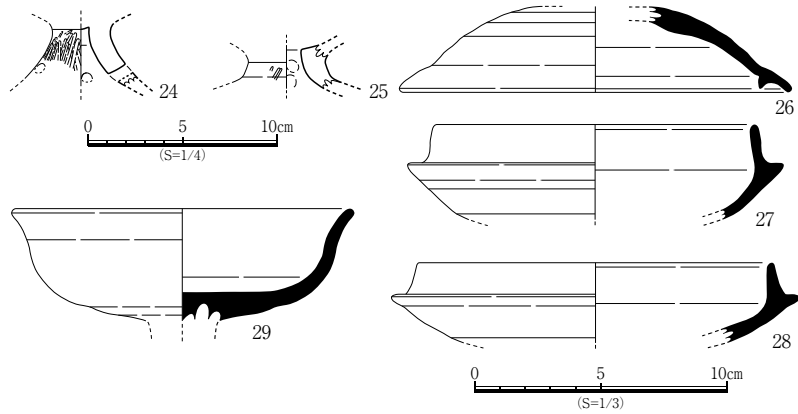


図2-8 ST24上層出土遺物実測図

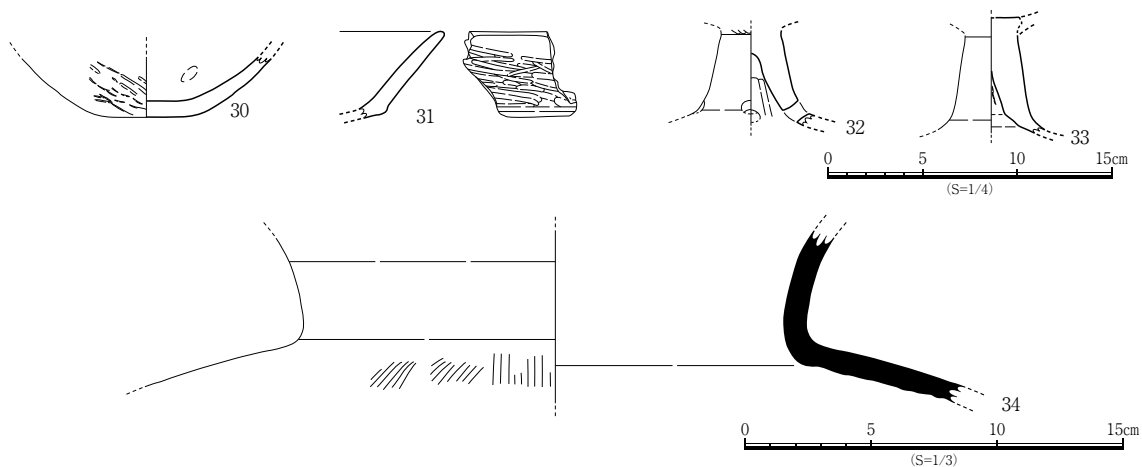
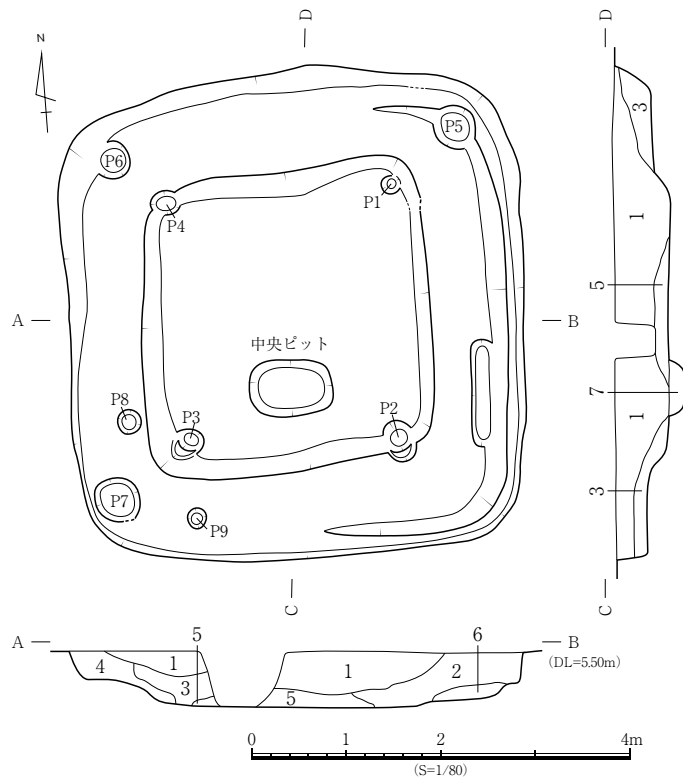


図2-9 ST24下層出土遺物実測図

ST25(図2-10)

調査区中央部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡で、SK84・90とSD35、P36～40に切られる。長軸は約5.2m、短軸5.0mを測り、面積は約26.0㎡である。検出面からの深さは約58cmで、床面の標高は約4.8mを測る。周囲には地山削り出しのベッド状遺構が存在し、床面との比高差は東側は約11cm、西側は約18cm、南側は約10cm、北側は約19cmである。埋土は1層が土器を多量に含む小礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒～中粒砂で、灰黄褐色(10YR5/2)シルト質中粒砂をブロック状に含み、2層が土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂、3層が土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質粗粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒砂をブロック状に含み、4層が土器を含む小礫混じりの灰黄褐色(10YR4/2)シルト質中粒～粗粒砂で、1層をブロック状に含み、5層が土器を含む小礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質中粒砂、6層が土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質



遺構埋土

1. 土器を多量に含む小礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒～中粒砂で、灰黄褐色(10YR5/2)シルト質中粒砂をブロック状(1～10cm大)に含む
2. 土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂
3. 土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質粗粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒砂をブロック状に含む
4. 土器を含む小礫混じりの灰黄褐色(10YR4/2)シルト質中粒～粗粒砂で、1層をブロック状に含む
5. 土器を含む小礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質中粒砂
6. 土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂で、1層をブロック状に含む
7. 炭化物を含む小～中礫混じりの灰黄褐色(10YR4/2)シルト質細粒砂(中央ピット)

図2-10 ST25

細粒砂で1層をブロック状に含み、床面では中央ピット、ピット、壁溝を検出した。中央ピットは床面の南寄りに位置し、平面形は東西に長い楕円形を呈する。長軸約1.1m、短軸0.7mを測り、床面からの深さは約15cmで、埋土は炭化物を含む小～中礫混じりの灰黄褐色(10YR4/2)シルト質細粒砂である。検出したピットのうち床面の四隅に存在するP1～4は位置関係から支柱穴とみられ、床面からの深さはP1が23cm、P2が42cm、P3が37cm、P4が25cmを測る。また、ベッド隅に位置するP5～7は補助柱の可能性も考えられ、東側には残存長約1.1m、幅約23cm、深さ約2cmの壁溝が残る。

出土遺物は上層から弥生土器2,223点、中層から弥生土器489点、下層から弥生土器322点、床面から弥生土器49点、中央ピットから弥生土器4点、P6から弥生土器3点、P7から弥生土器3点、P8から弥生土器2点、P9から弥生土器2点が出土し、上層では弥生土器17点(35～51)、土製品1点(52)、中層では弥生土器8点(53～60)、土製品1点(61)、下層では弥生土器5点(62～66)、石製品1点(67)、床面では弥生土器4点(68～71)、石製品2点(72・73)、中央ピットでは土製品1点(74)が図示できた。

上層出土遺物(図2-11・12 35～52)

35～50は弥生土器で、35～37は壺である。35は口縁部が斜め上方に直線的に立ち上がるもので、

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

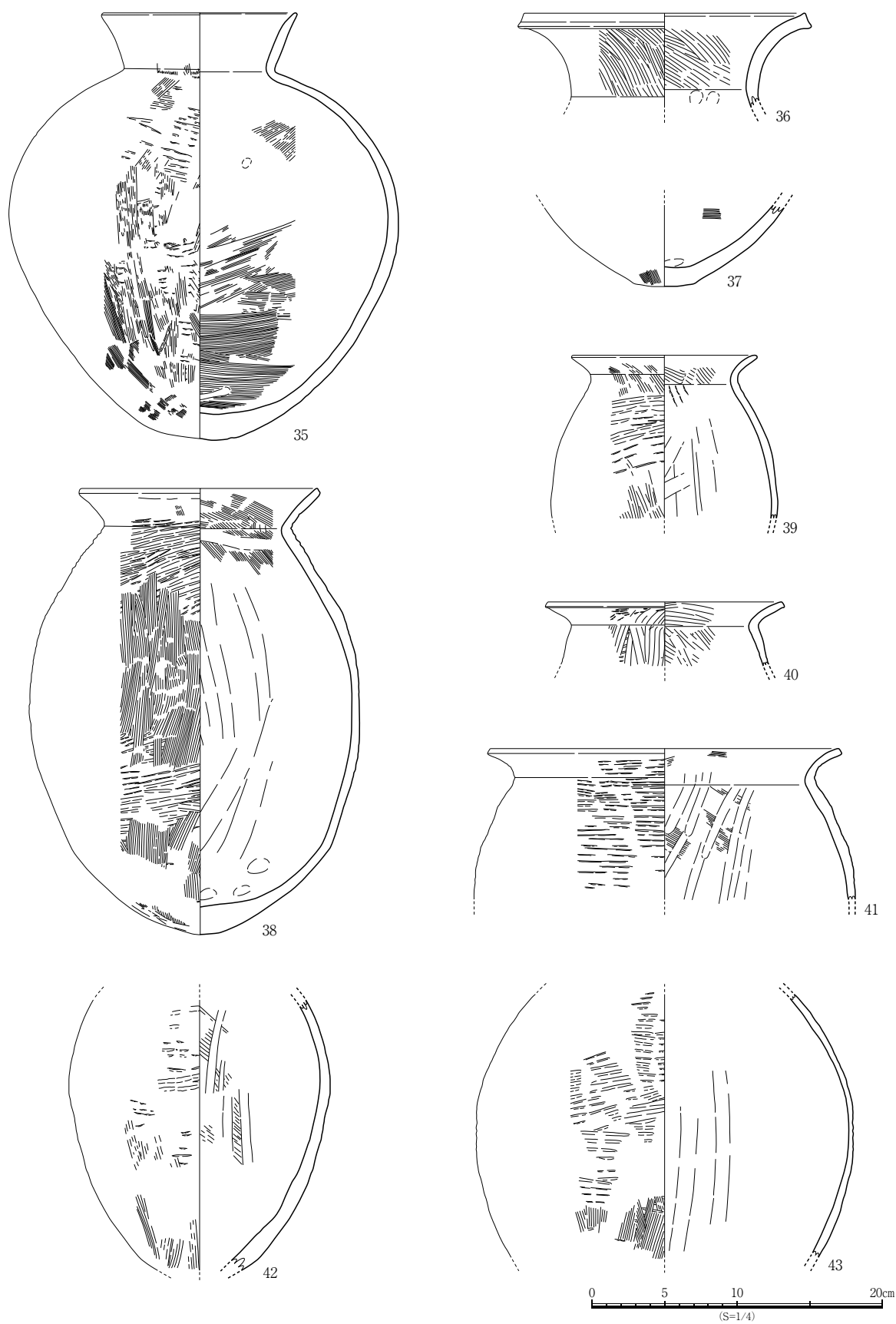


図2-11 ST25上層出土遺物実測図1(壺・甕)

口縁部内外面にナデ、胴部から底部内面にハケを施す。頸部外面にはハケ調整、胴部外面にはタタキ目とハケ調整、底部外面にはタタキ目が認められる。36は広口壺で、口縁部は緩やかに外反する。口縁端部は面をなし、端部両端は上下に拡張する。口縁端部内外面にヨコナデ、口縁部内外面に粗いハケを施す。37は壺の底部とみられるもので、内面にハケとナデを施し、外面は摩耗のため調整は不明瞭である。38～43は甕である。38は口縁部が斜め上方に直線的に立ち上がるもので、口縁端部は面をなす。口縁端部内外

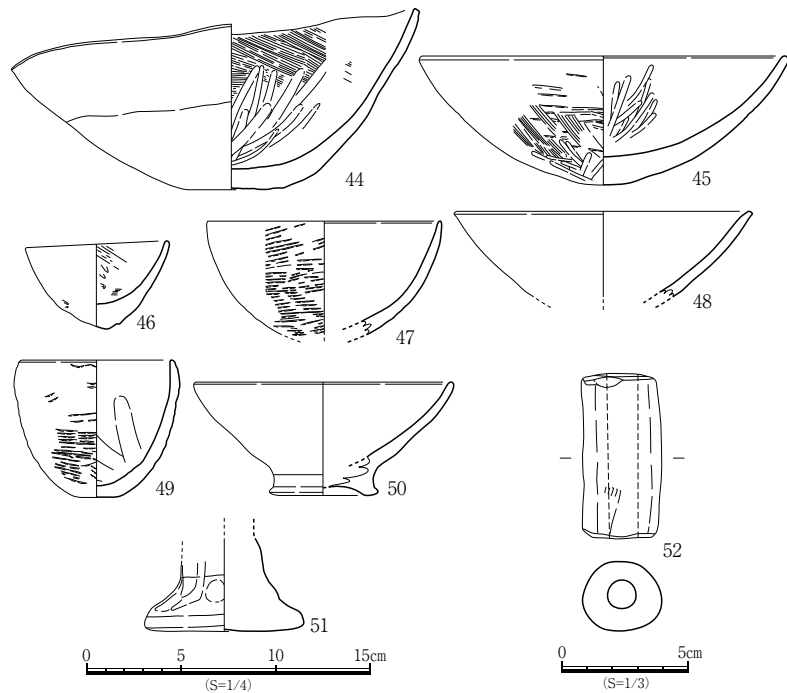


図2-12 ST25上層出土遺物実測図2(鉢他)

面にはヨコナデ、口縁部内面から胴上部内面にはハケ、胴中央部から底部内面には強いナデを施す。胴部外面にはタタキ目とハケ調整が認められる。39～41は口縁部が緩やかに外反するものである。39は口縁端部を丸く仕上げ、口縁端部内外面にヨコナデ、口縁部内外面にハケ、胴部内面にナデを施す。胴上部外面にはタタキ目、胴中央部にはタタキ目とハケ調整がみられ、外面全体には煤が付着する。40・41は口縁部から胴部にかけての破片で、口縁端部が面をなす。40は内面にハケ、外面にタタキのちハケを施し、外面には煤が付着する。41は内面にハケのちナデ、外面にタタキを施し、口縁端部にはヨコナデ調整がみられる。42・43は胴部破片である。42は内面には上部から中央部にハケのちナデ、下部にナデを施す。外面には胴部上半にタタキ目、下半にタタキ目とハケ調整が認められ、胴上部には煤が付着する。43は内面にはナデ、外面の上半にタタキ、下半にタタキのちハケを施し、外面の胴下部には煤が付着する。44～50は鉢である。44は平底を呈するもので、体部は緩やかに内湾して立ち上がる。口縁端部はヨコナデにより面をなし、内面は口縁部にハケ、体部から底部にかけてナデを施す。外面はナデ調整と指頭圧痕が認められる。45は丸底を呈するもので、体部は緩やかに内湾して立ち上がる。口縁端部内外面にヨコナデ、内面はヘラミガキを施す。外面は体部上半にタタキのちハケを施し、底部のみヘラミガキ調整が認められる。46は尖底を呈するもので、内面にハケのちヘラミガキ、外面にナデのちヘラミガキを施す。47は体部が緩やかに内湾して立ち上がるもので、底部は欠損する。内面にナデ、外面にタタキのちナデを施す。48は体部が斜め上方に直線的に立ち上がるもので、口縁端部内外面にヨコナデ、体部内面にナデ、体部外面に粗いナデを施す。49はコップ状を呈するもので、口縁部は内湾し、内側に絞られる。内面にはナデ、外面にはタタキを施す。50は脚付鉢で口縁部はやや内湾して立ち上がる。内外面にはナデを施し、底部内面に充填された粘土塊が剥離している。

51・52は土製品である。51は中実の支脚で、表面には指頭圧痕とナデ調整が認められる。52は土鉢

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

で、ほぼ完存する。表面にはナデ調整とハケ調整が認められる。

中層出土遺物(図2-13 53
~61)

53~60は弥生土器で、53は壺とみられる底部破片である。内面にハケ、外面にナデを施す。54~57は甕で、54・55は口縁部が斜め上方に直線的に立ち上がるものである。54は口縁部内面にハケ、胴部内面にハケのちナデを施し、口縁部外面にはタタキ目とハケ調整、胴部外面にはタタキ目が認められる。55は口縁部破片で、内外面にヨコナデを施し、外面には煤が付着する。56・57は底部破片で、底部外面にはタタキ目がみられる。ともに内面にナデ

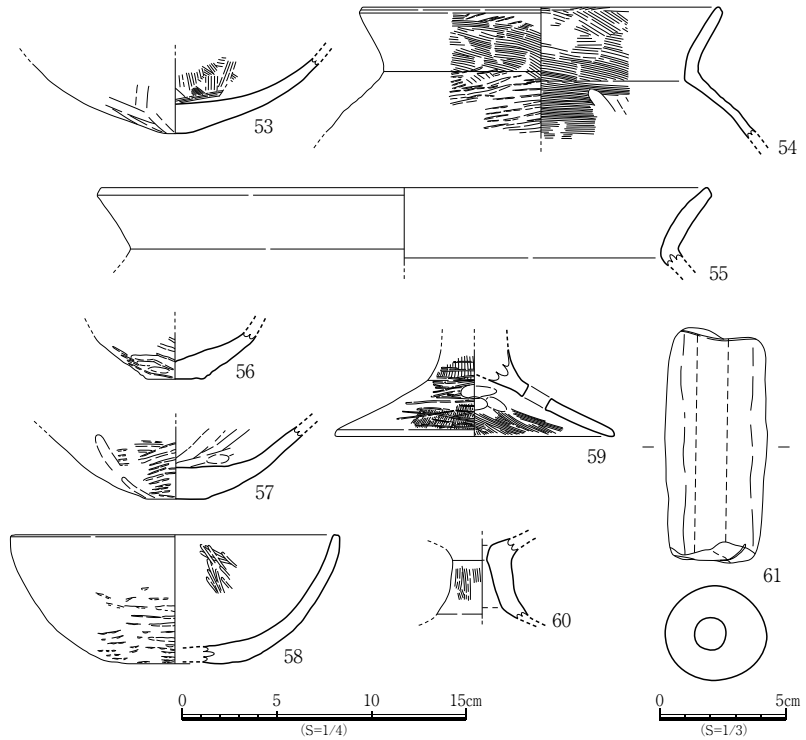


図2-13 ST25中層出土遺物実測図

調整, 外面にタタキ目が認められ, 57のみタタキのあとナデを施す。58は鉢で、平底を呈するものである。口縁部は緩やかに内湾して立ち上がり、口縁端部はヨコナデにより面をなす。内面にはヘラミガキ調整, 外面にはタタキ目がみられ, 体部外面下半にはタタキのあとナデを施す。59は高杯の脚裾部破片で、径1.3cmの孔を穿つ。器面には丁寧な調整を施し、内面にはハケ調整, 外面にハケ調整とヘラミガキ調整が認められる。60は器台と考えられる脚柱部破片で、内面にナデ, 外面にハケを施す。

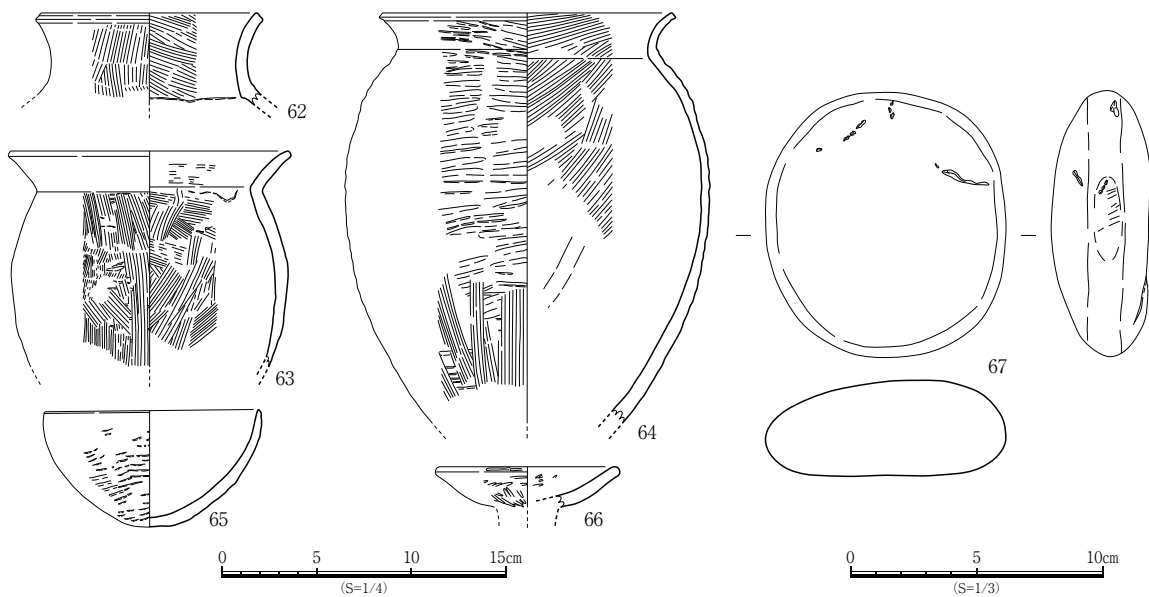


図2-14 ST25下層出土遺物実測図

61は土製品の土錘で、ほぼ完存する。

下層出土遺物(図2-14 62~67)

62~66は弥生土器で、62は壺と考えられる口縁部破片である。口縁部は内湾して立ち上がり、胴部内面上端には強いヨコナデを施し、明瞭な稜を有する。口縁端部は指オサエにより明瞭な面をなし、

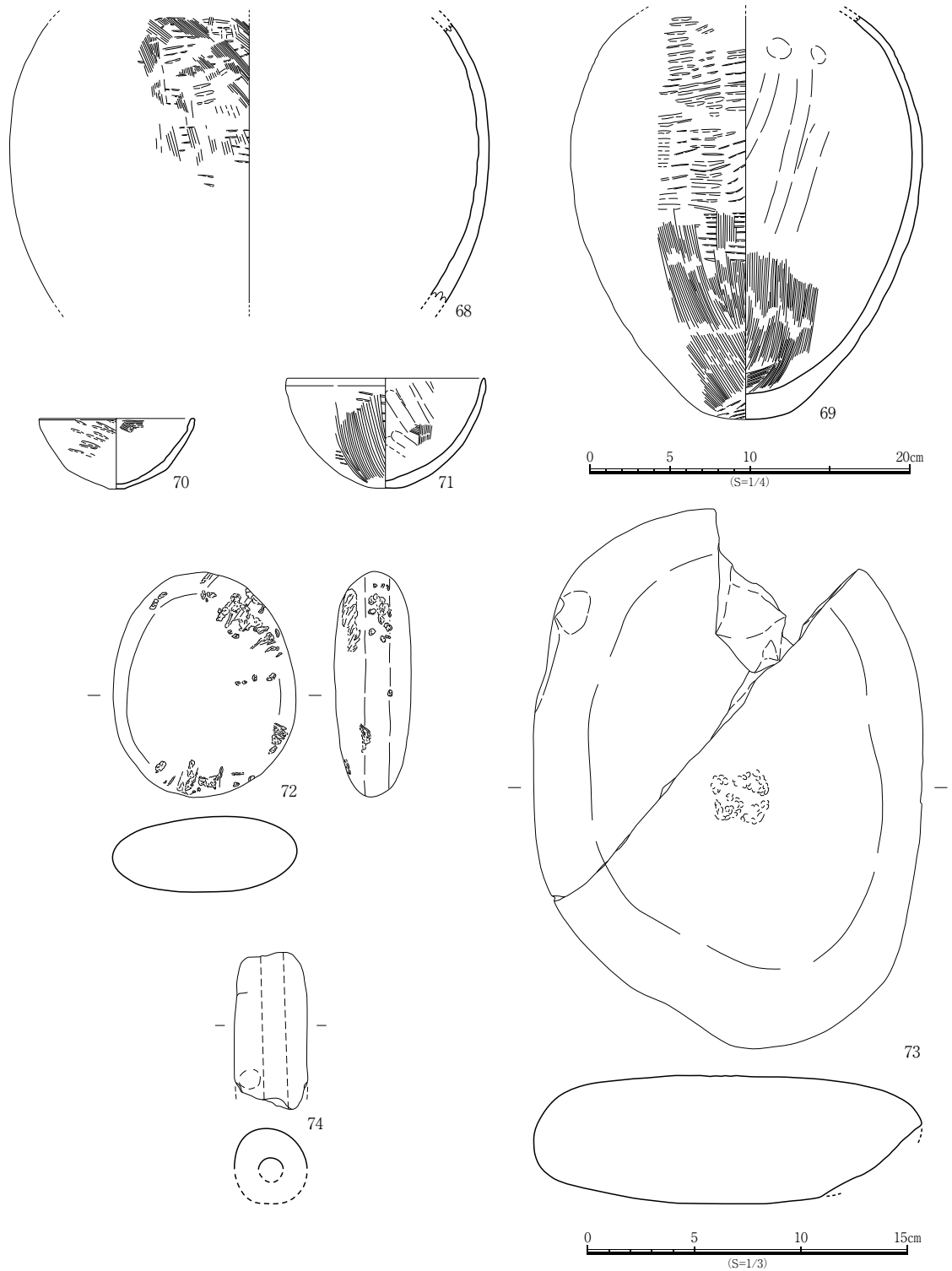


図2-15 ST25床面・中央ピット出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

口縁端部下端をつまみ出す。調整は内外面ともハケを施す。63・64は甕で、底部を欠損する。63は口縁部が斜め上方に直線的に立ち上がるもので、内面にハケ、胴部外面にタタキのちハケを施し、口縁部内外面にはヨコナデ調整が認められる。64は口縁部が外反して立ち上がるものである。口縁端部はヨコナデにより面をなし、内面は口縁部から胴中央部にかけてハケ、胴下部にはナデを施す。外面にはタタキ目がみられ、胴下部外面にはハケ調整を加え、全体に煤が付着する。65は鉢である。平底を呈するもので、体部は内湾して立ち上がる。内面にナデ、外面にタタキのちナデを施し、口縁端部外面にはヨコナデを加える。66は器台の受部破片と考えられるもので、内外面にヘラミガキを施す。

67は石製品の磨石で、片側側面にのみ使用痕が認められる。石材は砂岩である。

床面出土遺物(図2-15 68~73)

68~71は弥生土器で、68は壺と考えられる胴部破片である。全体的に摩耗が著しく調整は不明瞭であるが、外面上半にタタキ目とハケ調整が認められる。69は甕である。口縁部を欠損し、内面は上半にナデ、下半にハケを施す。外面にはタタキ目が認められ、外面下半にはハケ調整を加える。胴中央部外面には煤が付着する。70・71は鉢である。平底を呈し、体部は緩やかに内湾して立ち上がる。70は口縁端部内外面にヨコナデ、口縁部内面にハケ、体部内面にナデを施す。外面にはタタキ目とナデ調整がみられ、手づくね成形による亀裂が認められる。71は内面にハケのちナデ、外面にタタキを施し、口縁部外面にはヨコナデ調整、体部外面にはハケ調整を加える。

72・73は石製品である。72は叩石で、側面の一部に弱い敲打痕がみられる。石材は砂岩である。73は台石で、片面の中央部に敲打痕が認められる。石材は砂岩である。

中央ピット出土遺物(図2-15 74)

74は土製品の土錘で、片側端部を欠損し、全体的に摩耗する。

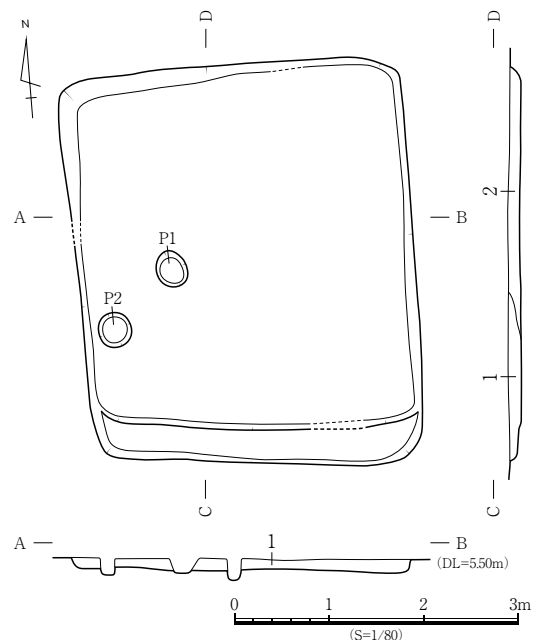
ST26(図2-16)

調査区中央部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡で、SB7に切られる。長軸約4.2m、短軸約3.3mを測り、面積は約13.9㎡である。検出面からの深さは約11cmで、床面の標高は約5.2mを測る。南側には地山削り出しのベッド状遺構が存在し、床面との比高差は3cmである。埋土は1層が土器を含む小礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質中粒~粗粒砂、2層が土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質中粒砂で、床面ではピットを検出した。

出土遺物は埋土から弥生土器1,357点、庄内式土器1点、石製品1点、P1から弥生土器35点、P2から弥生土器6点が出土し、埋土では弥生土器5点(75~79)、石製品1点(80)、P1では弥生土器1点(81)、P2でも弥生土器1点(82)が図示できた。

埋土出土遺物(図2-17 75~80)

75~78は弥生土器で、75・76は壺である。75は広口壺の口縁部破片で、緩やかに外反し口縁端部に刻



遺構埋土

1. 土器を含む小礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質中粒~粗粒砂
2. 土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質中粒砂

図2-16 ST26

目を施す。調整は摩耗のため不明である。76は広口壺の口縁端部破片と考えられるもので、外面に波状文と円形浮文を配する。調整はヨコナデである。77・78は鉢である。77は口縁部破片で、内外面にヨコナデを施す。78は底部破片で、内面にナデ、外面にハケを施し、外底面には明瞭なタタキ目が認められる。

79は土製品の支脚で、中空である。脚部と指を欠損し、表面にはタタキ目と手づくね成形による亀裂が認められる。

80は石製品の砥石で、両面に使用痕が認められる。石材は砂岩である。

ピット出土遺物(図2-17 81・82)

81は弥生土器壺の底部破片と考えられるものである。摩耗が著しいが、外面にハケ調整が認められる。82は甕の口縁部破片で、内面にハケ、外面にタタキを施す。

ST27(図2-18)

調査区中央部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡で、SB7, SK99, SD35に切られる。長軸約4.0m, 短軸約3.3mを測り、面積は約13.2㎡である。検出面からの深さは約23cmで、床面の標高は約5.1mを測る。埋土は1層が土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂、2層が土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、床面では支柱穴と考えられるピット2個を検出した。

出土遺物は上層から弥生土器1,441点、石製品1点、下層から弥生土器498点、土製品1点、床面から弥生土器314点、土製品2点、P1から弥生土器4点、P2から弥生土器36点、土製品1点が出土し、上層では弥生土器12点(83～94)、石製品1点(95)、下層では弥生土器6点(96～100)、土製品1点(101)、床面では弥生土器15点(102～116)、土製品2点(117・118)、P2では土製品1点(119)が図示できた。

上層出土遺物(図2-19 83～95)

83～93は弥生土器で、83～86は壺である。83～85は広口壺とみられる口縁部破片で、83・84は口

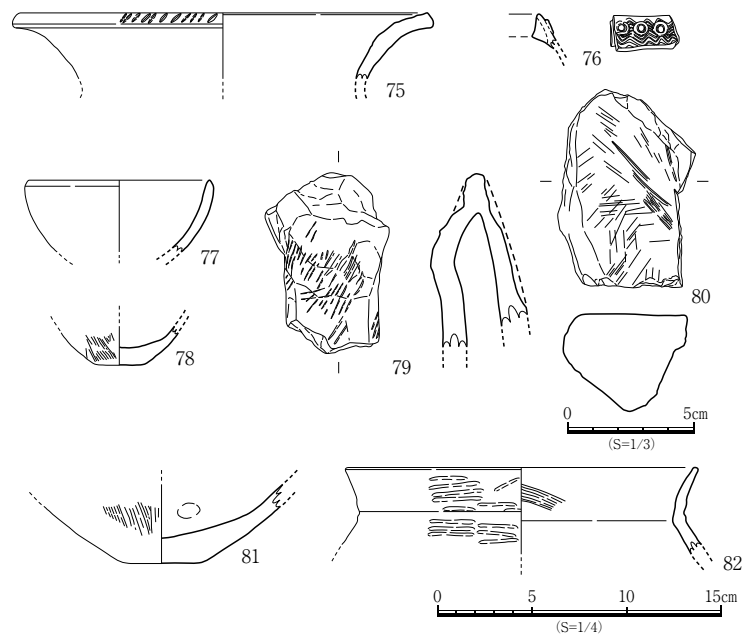
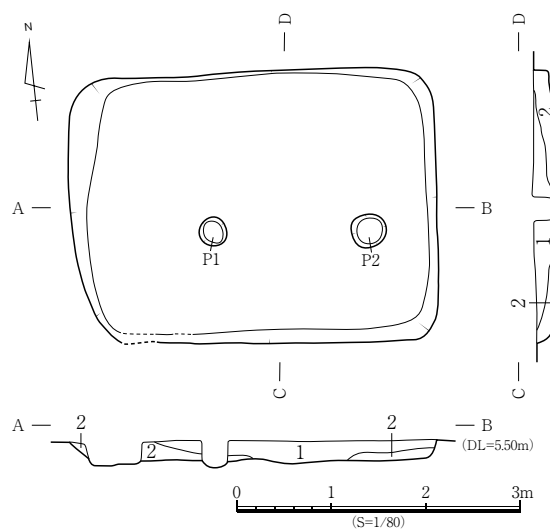


図2-17 ST26埋土・ピット出土遺物実測図



遺構埋土
1. 土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂
2. 土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂

図2-18 ST27

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

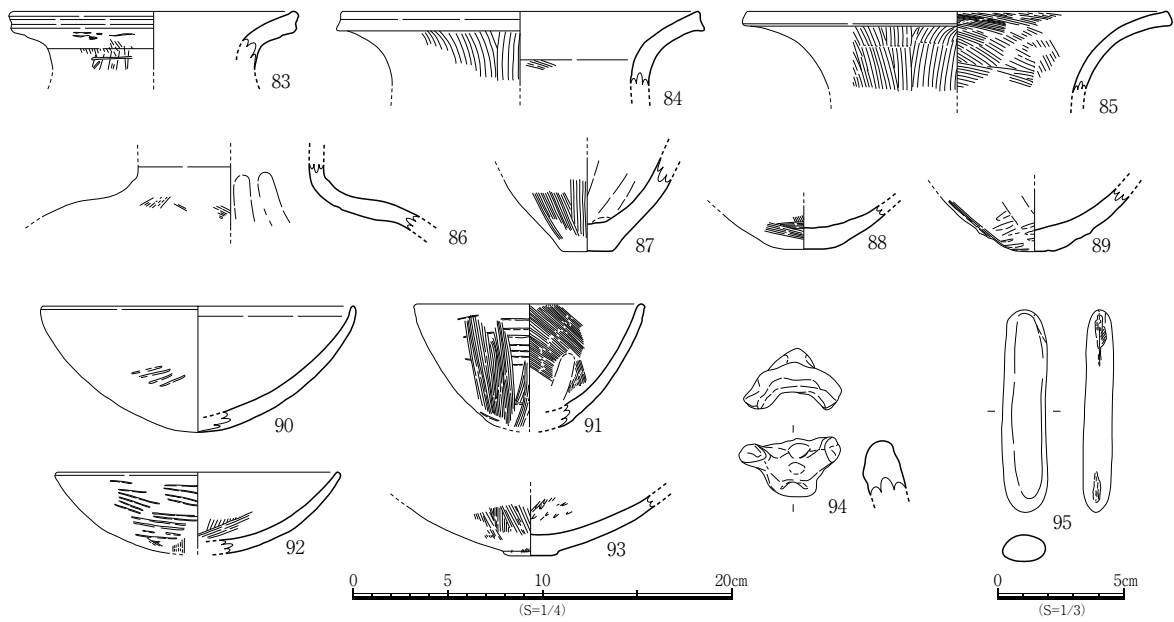


図2-19 ST27上層出土遺物実測図

縁端部の強いヨコナデにより、凹線状を呈する。83は内外面にはヨコナデを施し、外面下端にはハケ調整とヘラミガキ調整が認められる。84は口縁端部内外面にはヨコナデ、口縁部内外面にはハケを施す。85は口縁端部はヨコナデにより面をなし、内外面にはハケを施す。86は肩部破片で、内面にナデ、外面にヨコナデとハケを施す。87~89は甕の底部破片である。87・88は内面にナデ、外面にハケを施し、外底面にはナデ調整が認められる。89は内面にナデ、外面にタタキのちハケとナデを施し、外底面にはナデ調整が認められる。90~93は鉢である。90は丸底を呈するもので、体部は緩やかに内湾して立ち上がる。全体的に摩耗が著しいが、内面にナデ調整、外面にタタキ目とナデ調整の痕跡が残る。91は底部を欠損し、体部は緩やかに内湾して立ち上がる。内面にはハケとナデ、外面にはタタキのちハケを施し、口縁端部にはヨコナデ調整が認められる。92は浅い皿状を呈するもので、体部は緩やかに内湾して立ち上がる。全体的に摩耗が著しいが、内面にハケ、外面にタタキとハケを施す。93は底部破片で、平底を呈する。内面にはヘラミガキ、外面にはハケを施し、外底面にはナデ調整がみられる。

94は土製品の支脚で、中実である。脚部と指先端部を欠損する。

95は石製品の磨石とみられるもので、側面両端に使用痕が認められる。石材は泥岩と考えられる。

下層出土遺物(図2-20 96~101)

96~100は弥生土器で、96~98は甕である。96は口縁部が斜め上方に直線的に立ち上がるものである。口縁部は内面にハケ、外面にタタキのちヨコナデ、胴部は内面にナデ、外面にハケを施す。97・98は平底を呈する底部破片である。97は内面にナ

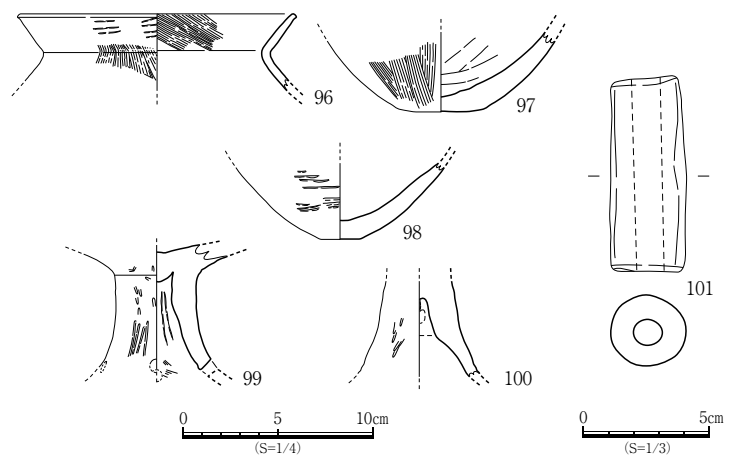


図2-20 ST27下層出土遺物実測図

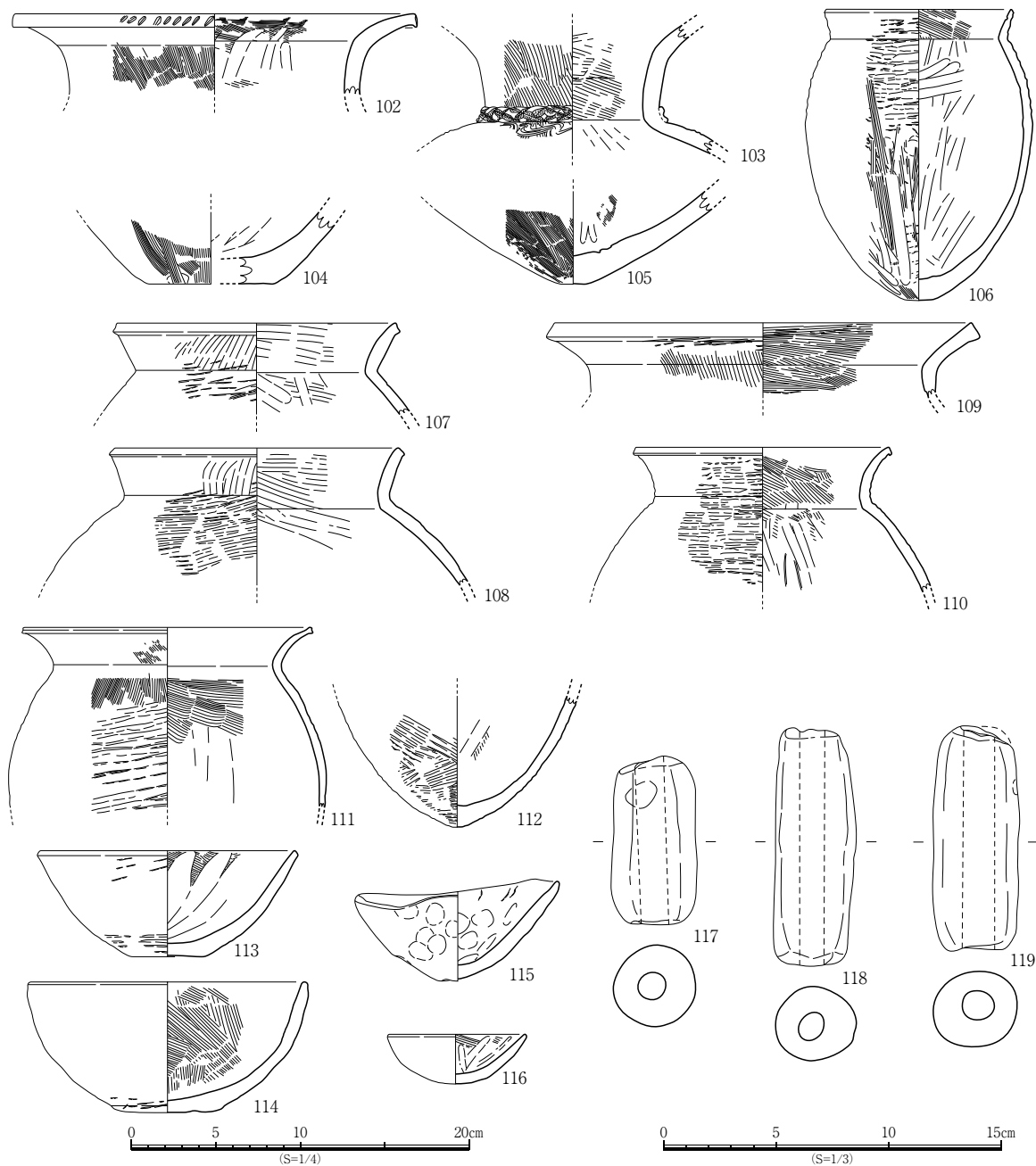


図2-21 ST27床面・ピット出土遺物実測図

デ、外面にハケを施し、外底面にはナデ調整が認められる。98は全体的に摩耗が著しいが、外面にタタキのちナデを施し、外底面にはナデ調整が認められる。99・100は高杯の脚柱部破片である。99は杯部が残存し、内面にヘラミガキを施す。脚部内面には絞り目が認められ、内面にハケ、外面にヘラミガキを施す。100は内面にナデ、外面にヘラミガキを施す。

101は土製品の土錘である。完存し、表面にはナデを施す。

床面出土遺物(図2-21 102~118)

102~116は弥生土器で、102~105は壺である。102は広口壺の口縁部破片で、口縁端部は下方に拡張する。内面にはハケとナデ、外面にはヨコナデとハケを施し、面をなす口縁端部には刻目を配す

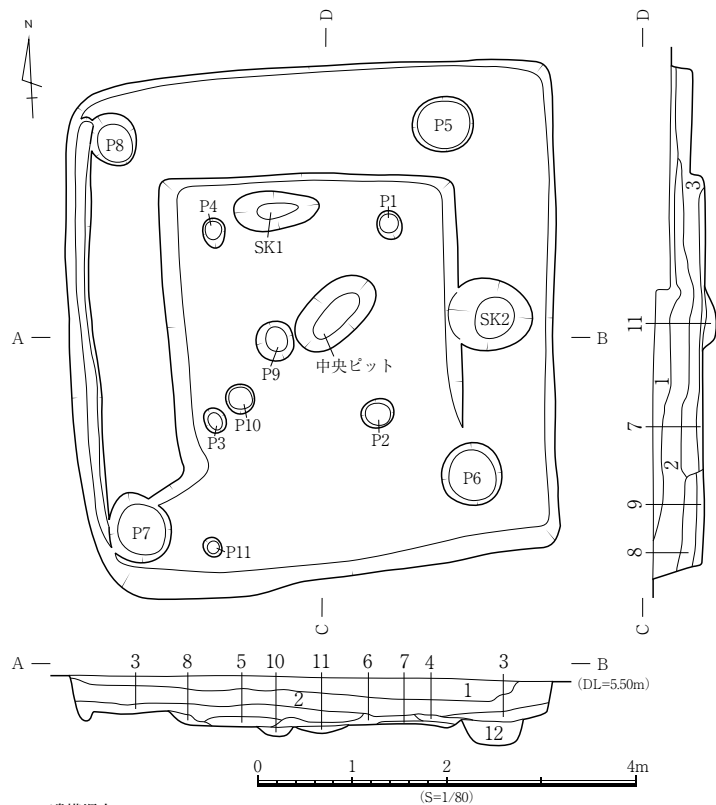
2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

る。103は広口長頸壺の頸部から胴部にかけての破片で、内面は頸部にハケのちナデ、胴部にナデを施し、外面にはハケ調整が認められる。頸部と胴部の境には粘土帯を貼付したのちハケ原体による斜傾する刻みをクロスさせて施し、胴部外面上端には3条単位の波状文を配する。104・105は底部破片である。104は内面にナデ、外面にハケを施し、外底面にはナデ調整が認められる。105は内面にハケのちナデ、外面にハケを施し、外底面にはナデ調整が認められる。106～112は甕である。106は口縁部内面にハケ、胴部から底部の内面にナデを施す。外面は全体にタタキを施し、胴中央部から底部にかけてハケ調整とナデ調整が認められる。胴上部外面には煤が付着する。107は内面に粗いハケを施し、胴部にはナデ調整が認められる。外面は口縁部に粗いハケ、胴部にタタキを施す。108は内面に粗いハケを施し、胴部にはナデ調整が認められる。外面は口縁部に粗いハケ、胴部にタタキを施す。109は内面にハケ、外面にタタキとハケを施す。110・111は口縁部が外反して立ち上がるもので、口縁端部はヨコナデにより面をなす。110は口縁部内面にハケ、胴部内面にハケのちナデを施し、外面にはタタキ目が認められる。111は口縁部内面にヨコナデ、胴部内面にハケとナデを施し、外面は口縁部にハケ調整のちヨコナデ調整、胴部にタタキ目がみられ、胴上部には煤が付着する。112は底部破片で、内面はハケのちナデ、外面はタタキを施す。113～116は鉢である。113・114は平底を呈するもので、体部は緩やかに内湾して立ち上がる。113は口縁端部がヨコナデにより面をなし、内面にはハケのちナデ、外面にはタタキのちナデを施し、外底面にはナデ調整が認められる。114は内面にハケ、外面にタタキのちナデを施す。115は尖底を呈するもので、ほぼ完存する。手づくね成形とみられ、器面には指頭圧痕がみられる。116は皿状を呈するもので、ほぼ完存する。内面にはハケのちナデ、外面にはナデを施す。

117・118は土製品の土錘で、完存する。117は表面は摩耗する。118は表面にナデを施す。

ピット出土遺物(図2-21 119)

119は土錘で、端部が一部欠損する。全体的に摩耗し、調整は不明である。



遺構埋土

1. 土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂
2. 土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂で、にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト質細粒砂をブロック状に含む
3. 土器を含む小礫混じりの灰黄褐色(10YR4/2)シルト質細粒砂
4. 褐色(10YR4/4)シルト質細粒～中粒砂
5. 土器を含む黒褐色(10YR3/1)シルト質中粒～粗粒砂
6. 土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR2/2)シルト質粗粒砂
7. 土器を含む小礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質中粒砂
8. 土器を含む灰黄褐色(10YR4/2)シルト質粗粒砂で、4層を部分的に含む
9. 土器を含む黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒～粗粒砂
10. 黒褐色(10YR2/2)シルト質中粒砂
11. 炭化物を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂(中央ピット)
12. 小礫を含む黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂(SK2)

図2-22 ST28

ST28(図2-22)

調査区北部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡で、ST23, SK72, SD25 に切られる。長軸約5.6m, 短軸約5.3mを測り、面積は約29.7㎡である。検出面からの深さは約50cmで、床面の標高は約4.8mを測る。南側を除き3方には地山削り出しのベッド状遺構が存在し、床面との比高差は4～10cmである。埋土は1層が土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂, 2層が土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂で、にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト質細粒砂をブロック状に含み, 3層が土器を含む小礫混じりの灰黄褐色(10YR4/2)シルト質細粒砂, 4層が褐色(10YR4/4)シルト質細粒～中粒砂, 5層が土器を含む黒褐色(10YR3/1)シルト質中粒～粗粒砂, 6層が土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR2/2)シルト質粗粒砂, 7層が土器を含む小礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質中粒砂, 8層が土器を含む灰黄褐色(10YR4/2)シルト質粗粒砂で、4層を部分的に含み, 9層が土器を含む黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒～粗粒砂で、床面では中央ピット, 土坑, ピット, 壁溝を検出した。中央ピットは床面のほぼ中央に位置し、竪穴建物跡の軸に対して斜傾する。平面形は長楕円形を呈し、長軸約1.0m, 短軸約0.5mを測り、床面からの深さは約15cmで、埋土は炭化物を含む小礫混じりの黒褐色

(10YR3/1)シルト質細粒砂である。検出したピットのうち床面の四隅に存在するP1～4は位置関係から主柱穴とみられ、床面からの深さはP1が36cm, P2が38cm, P3が30cm, P4が43cmを測る。壁際の四隅に存在するP5～8は補助柱の可能性が考えられ、P5が深さ10cm, P6が深さ11cm, P7が深さ12cm, P8が深さ15cmを測る。また、床面の北側と東側のベッド上に貯蔵穴とみられる土坑2基を確認しており、

SK1は平面形が不整楕円形を呈し、長軸約0.9m, 短軸0.4m, 深さ18cm, SK2は平面形が円形を呈し、径約0.8m, 深さ23cmを測り、埋土は小礫を含む黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂である。壁溝は西側のみで確認され、残存長約4.6m, 幅約17cm, 深さ7cmを測る。

出土遺物は上層から弥生土器2,212点, 石製品3点, 中層から弥生土器2,089点, 石製品3点, 下層から弥生土器1,017点, 床面から弥生土器318点, 中央ピットから弥生土器1点, SK1から弥生土器1点, SK2から弥生土器15点, P2から弥生土器1点, P4から弥生土器2点, P6から弥生土器1点, P7から弥生土器14点, P8から弥生土器2点, P10から弥

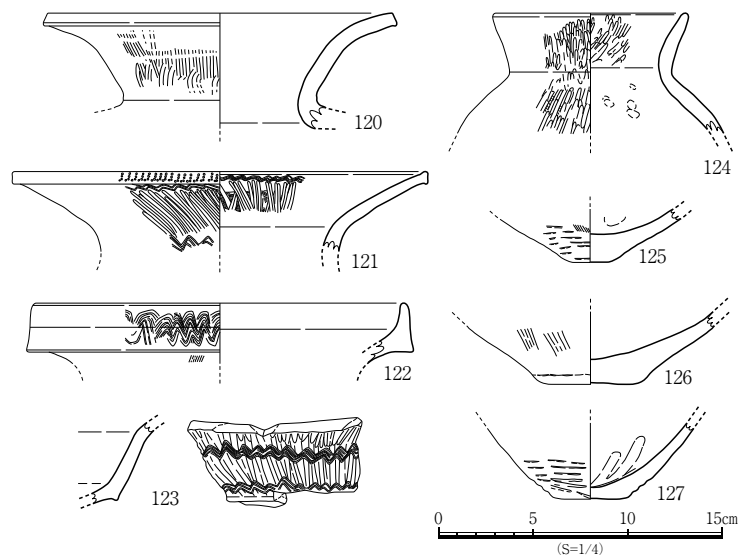


図2-23 ST28上層出土遺物実測図1(壺・甕)

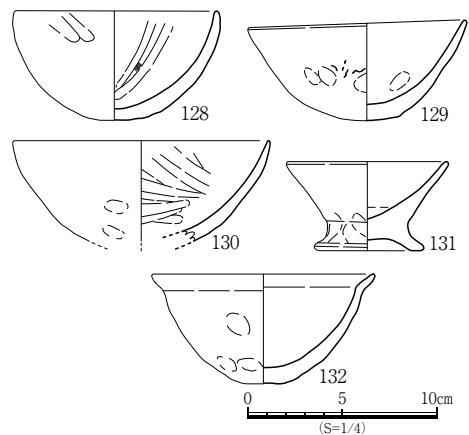


図2-24 ST28上層出土遺物実測図2(鉢)

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

生土器4点が出土し、上層では弥生土器22点(120~141)、石製品3点(142~144)、中層では弥生土器29点(145~173)、石製品3点(174~176)、庄内式土器1点(177)、下層では弥生土器4点(178~181)、床面では弥生土器6点(182~187)が図示できた。

上層出土遺物(図2-23~26 120~144)

120~141は弥生土器である。120~126は壺で、120~122は広口壺である。120は口縁端部が面をなし、内外面にヨコナデ調整がみられる。外面にはヨコナデのあとハケを施し、口縁端部外面には煤が付着する。121は口縁部内面にハケのちヘラミガキ、外面にヘラミガキを施し、口縁端部はヨコナデ調整が認められる。口縁端部に刺突文、口縁端部内外面と頸部外面上端に波状文を配する。122は口縁端部を上方に拡張し、内外面にヨコナデを施す。口縁部外面下方にはハケ調整がみられ、口縁端部には4条単位の波状文を配する。123は二重口縁壺とみられる口縁部破片で、内面にはハケのちヘラミガキ、外面にはヘラミガキを施す。外面段部下端にはヨコナデ調整が認められ、外面には4条単位の波状文を配する。124は直口壺で、口縁端部は丸く収める。口縁部内外面には丁寧なヘラミガキ、胴部外面にはハケのち丁寧なヘラミガキを施し、胴部内面にはヨコナデ調整と指頭圧痕がみられる。125・126は底部破片である。125は内面にナデ、外面にタタキのちナデとハケを施す。126は内面にナデ、外面にハケを施し、外底面にはナデ調整がみられる。

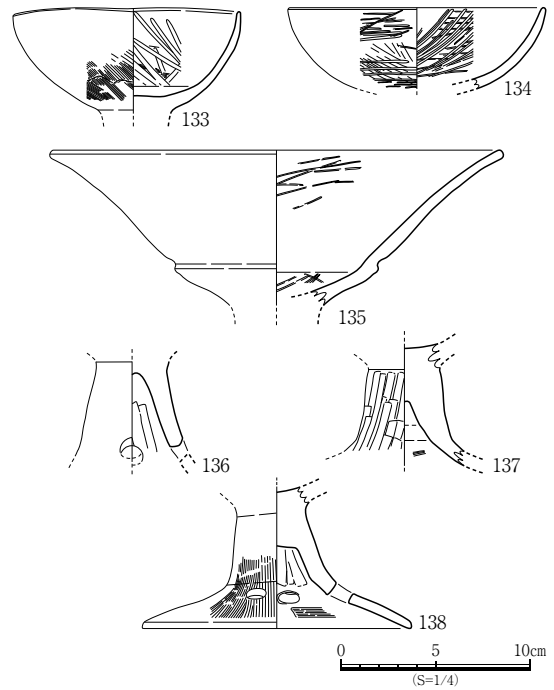


図2-25 ST28上層出土遺物実測図3(高杯)

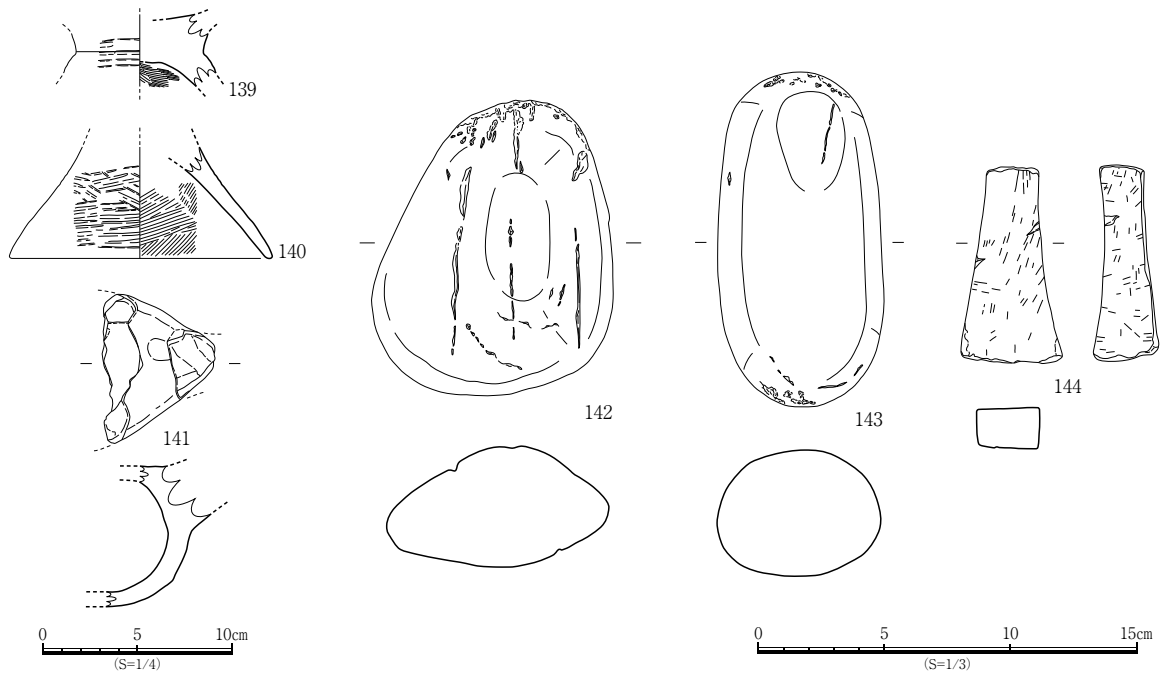


図2-26 ST28上層出土遺物実測図4(器台他)

127は甕とみられる底部破片で、内面にナデ、外面にタタキを施し、外底面にはナデ調整がみられる。128～132は鉢である。128～130は体部が緩やかに内湾して立ち上がるもので、128は平底、129は丸底を呈する。128は内面にハケのちナデ、外面にナデを施す。129は口縁部内外面にヨコナデ、体部内外面にナデを施し、外面には手づくね成形に伴う亀裂が認められる。130は底部が欠損する。内面にナデ、口縁部外面にヨコナデ、体部外面に指オサエのちナデを施し、内面には焼成時の破裂痕が認められる。131は脚付鉢で、体部は斜め上方に直線的に立ち上がる。口縁部内外面と体部外面にはヨコナデ、体部内面にはナデ、脚端部内外面にはヨコナデを施す。脚部の成形はつまみ出しと考えられ、脚部内外面には指頭圧痕が認められる。132は口縁部が屈曲し斜め上方に短く延びるもので、口縁部内外面にはヨコナデ、体部内面にはナデ、体部外面にはナデと指オサエを施す。133～138は高杯である。133・134は杯部が椀状を呈するもので、脚部を欠損する。133は口縁部内外面にヨコナデ、体部外面下半にハケを施し、内面には丁寧なヘラミガキ調整が認められる。134は畿内からの搬入品である。内面にヨコ方向のヘラミガキのあとと放射状のヘラミガキ、口縁部外面にヨコ方向のヘラミガキ、

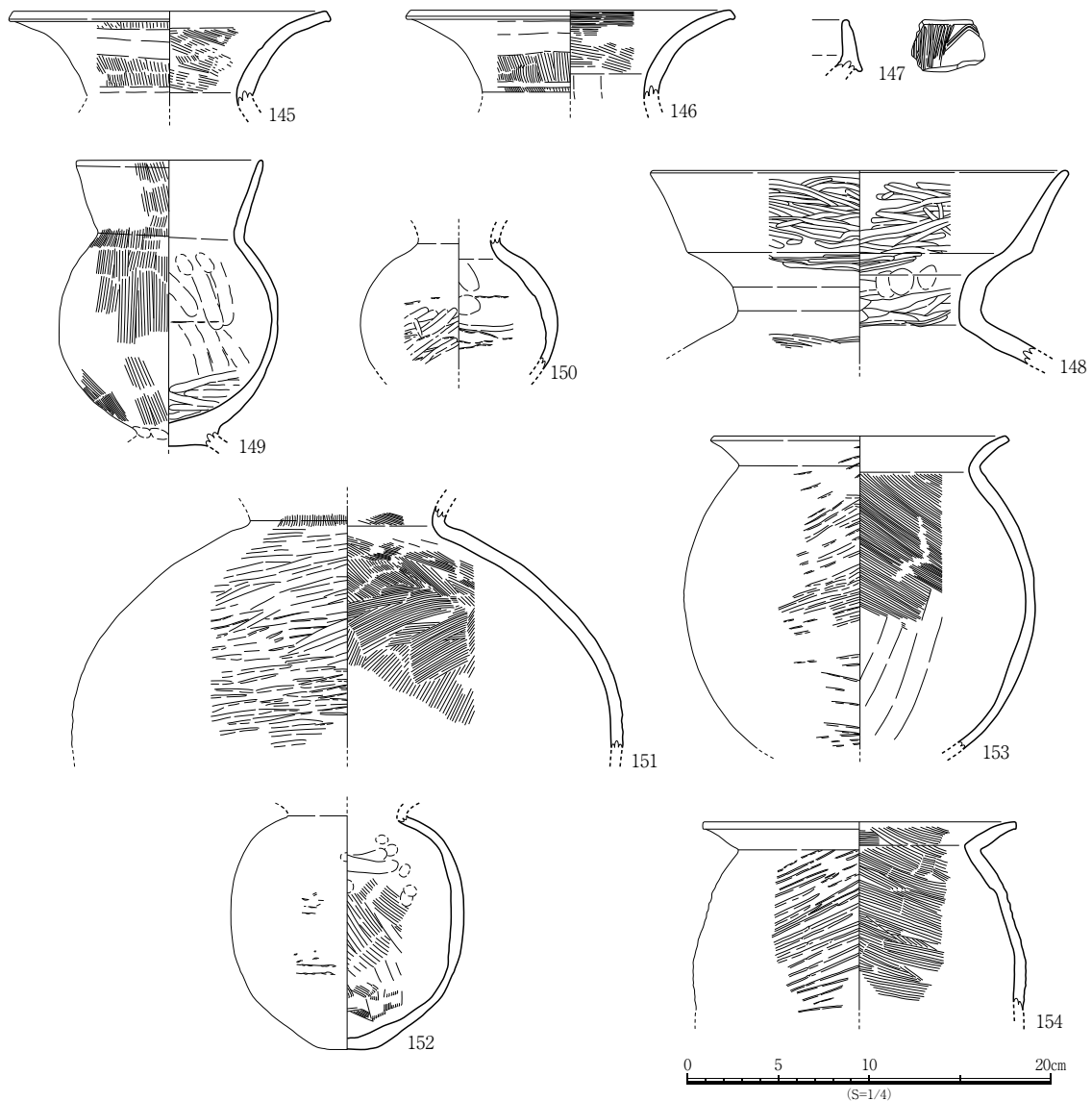


図2-27 ST28中層出土遺物実測図1(壺・甕)

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

体部外面には粗いハケのあとヨコ方向のヘラミガキを施す。135は有稜高杯で、脚部を欠損する。内外面にヨコナデを施し、内面のみ粗いヘラミガキ調整が認められる。136・137は脚柱部破片である。136は穿孔が残り、内面にヘラケズリ、外面にナデを施す。137は杯部内面にヘラミガキ、脚柱部内面にハケのちナデ、脚柱部外面に板ナデを施す。138は脚部破片で、脚裾部に5カ所の穿孔が認められる。杯部内面にナデ、脚部内面上半にヘラケズリ、下半にハケのちナデ、脚部外面にハケを施し、脚端部にはヨコナデ調整がみられる。139・140は器台と考えられるものである。139は受部と脚部を欠損し、内面にハケ、外面にタタキを施す。140は脚部のみ残存し、内面にハケ、外面にタタキを施し、脚端部内外面にはヨコナデ調整が認められる。141は柄杓形土器である。柄部と杓部の約1/2を欠損し、内外面には指頭圧痕とナデ調整が認められる。

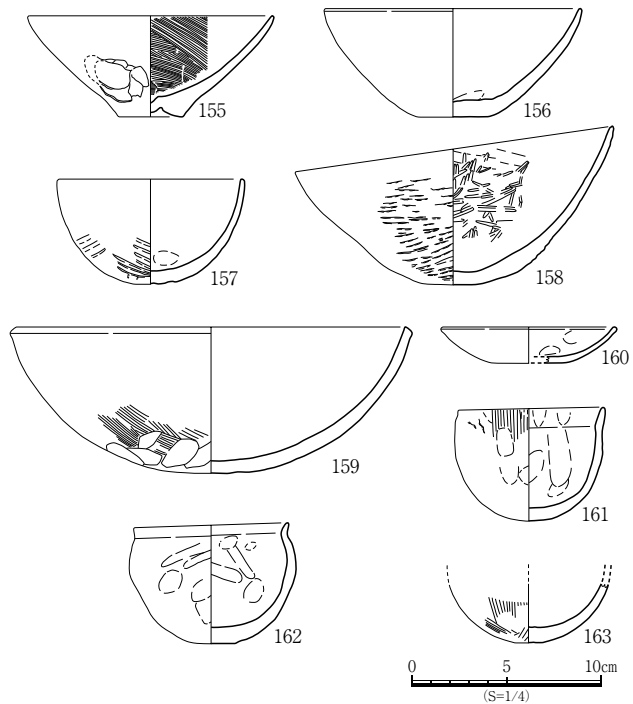


図2-28 ST28中層出土遺物実測図2(鉢)

142～144は石製品である。142は叩石である。片側端部に敲打痕、反対側端部には被熱痕が認められる。石材は砂岩である。143は磨石で、両端に使用痕が残る。石材は砂岩である。144は砥石で、全ての側面に使用痕が認められる。石材は泥岩とみられる。

中層出土遺物(図2-27～30 145～177)

145～172は弥生土器である。145～152は壺で、145～147は広口壺である。145・146はヨコナデにより口縁端部は面をなす。145は内外面にハケのちヨコナデを施す。146は内外面にハケを施し、外面のみヨコナデ調整が認められる。147は口縁端部を上方に拡張するもので、内外面にヨコナデを施す。端部外面には縦方向の沈線と2条単位の山形文を配する。148は二重口縁壺で、口縁部内外面にヨコナデ、胴部内外面にナデを施し、口縁部内外面と胴部外面には粗いヘラミガキ調整が認められる。149は脚付の直口壺と考えられるもので、脚部を欠損する。全体的に摩耗が著しいが、内面にナデ調整、外面にハケ調整が残る。150・151は胴部破片である。150は内面に指オサエとナデ、外面にタタキのちナデを施す。151は内面にハケ、外面にタタキのちナデを施す。152は口縁部を欠損するもので、内面にナデとハケ、外面にタタキを施したあと、タタキ目は丁寧にナデ消される。153・154は甕で、底部を欠損する。153は内面にハケとナデ、外面にタタキを施し、口縁部内外面にはヨコナデ調整が認められる。外面はタタキ目をナデ消しており、胴中央部には煤が付着する。154は内面全体にハケ、胴部外面にタタキを施し、口縁部内外面にはヨコナデ調整が認められる。155～163は鉢である。155・156は平底を呈し、体部が斜め上方に直線的に立ち上がるものである。155は内面にハケ、外面にナデを施し、体中央部に焼成後の意図的な穿孔が認められる。156は内外面にナデを施し、口縁端部内外面にはヨコナデ調整がみられる。157～159は丸底を呈し、体部は内湾して立ち上がるも

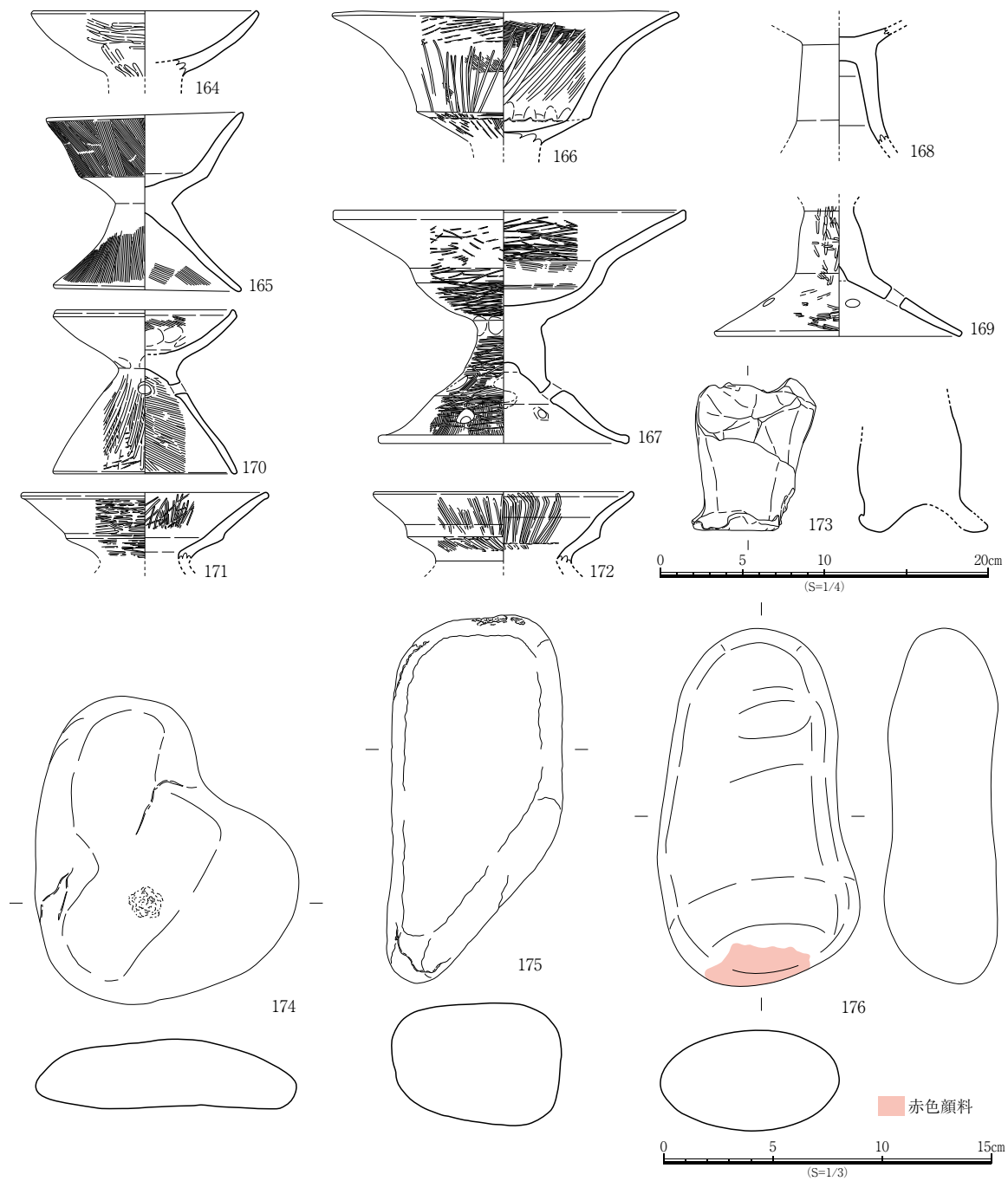


図2-29 ST28中層出土遺物実測図3(高杯他)

のである。157は内面と口縁部外面にナデ、体部下半にタタキのちナデを施す。158はほぼ完存し、内面にナデのちヘラミガキ、外面にタタキを施す。159は口縁端部にヨコナデ、内面にナデ、外面にハケを施し、外面下端には静止ヘラケズリ調整が認められる。160は皿状を呈するもので、内面に指オサエとナデ、外面にナデを施す。161・162は口縁部が屈曲し斜め上方に短く延びるもので、ほぼ完存する。161は内外面にナデを施し、口縁部外面にはハケ調整がみられる。162は体部内外面に指オサエとナデを施し、口縁部内外面にはヨコナデ調整がみられる。163は底部破片で、摩耗が著しく調整は不明であるが、外面にハケ調整が残る。164～169は高杯である。164は皿状の杯部を有するもので、

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

脚部は欠損する。内面に丁寧なナデ、外面にヘラミガキを施し、口縁部外面にはヨコナデ調整が認められる。165・166は有稜高杯である。165はほぼ完存し、杯部内面にヨコナデを施し、その他の部位には丁寧なハケ調整が認められる。166は杯部のみ残存するもので、内面にはヨコナデを施し、上半にはハケのちヘラミガキ、下半にはヘラミガキを施す。外面には口縁部がタタキのちヨコナデ、体部がヨコナデのちハケとヘラミガキを施し、稜下部にはタタキ目とナデ調整がみられる。口縁端部にはヨコナデを施し、口縁部外面には煤が付着する。167は有段高杯で、脚上部に4カ所の穿孔を施し、位置をずらし下部にも4カ所の穿孔がみられる。口縁部内面にヘラミガキ、体部内面にハケのちナデを施し、内底面にはナデ調整が認められる。口縁部内外面にはヨコナデを施し、杯部外面と脚部外面には丁寧なヘラミガキを施す。脚部内面にはヨコナデ調整がみられる。168は脚柱部破片で、杯部内底面にナデを施し、脚部内面にはヘラケズリ調整が認められる。169は杯部を欠損するもので、脚裾部に3カ所の穿孔がみられる。内面にはヨコナデとナデ、外面にはナデのちヘラミガキを施す。170～172は器台である。170は脚部上端に4カ所の穿孔がみられる。受部内面にはハケのちナデ、外面にはヨコナデ、脚部内面にはハケ、外面にはタタキのちハケを施し、脚部外面にはヘラミガキ調整が認められる。171・172は山陰系の鼓形器台と考えられるものである。171は口縁部内面上半にはヨコナデのち不定方向のヘラミガキ、下半にはナデ、外面全体にはヨコ方向のヘラミガキを施す。172は内外面にヨコナデのちタテ方向のヘラミガキを暗文状に施す。

173は土製品の支脚で、中実である。脚部のみ残存する。

174～176は石製品である。174・175は叩石で、174は片面中央部に敲打痕がみられ、石材は砂岩である。175は片側端部に敲打痕がみられ、石材は粗い砂岩である。176は石杵で、片側端部に赤色顔料とみられるものが付着する。石材は砂岩である。

177は庄内式土器の甕で、ほぼ完存する。口縁端部は上方に拡張し、胴部最大径は中程に位置する。口縁部内外面にはヨコナデ、胴部内面にはヘラケズリを施し、胴部外面上半にはタタキ目、下半にはハケ調整が認められる。胎土には角閃石を含み、口縁部外面と胴部外面下半には煤が付着する。

下層出土遺物(図2-31 178～181)

178～181は弥生土器で、178は壺の胴部破片である。外面にはハケ調整とヘラミガキ調整が認められ、多重沈線と円形刺突文を配する。179・180は鉢である。179は丸底を呈する鉢で、口縁端部はヨコナデにより面をなす。内面にはナデを施し、口縁部内面にはヘラミガキ調整がみられる。外面はタタキのちナデを施し、外底面にはナデ調整が認められる。180は皿状を呈するもので、内外面に指頭

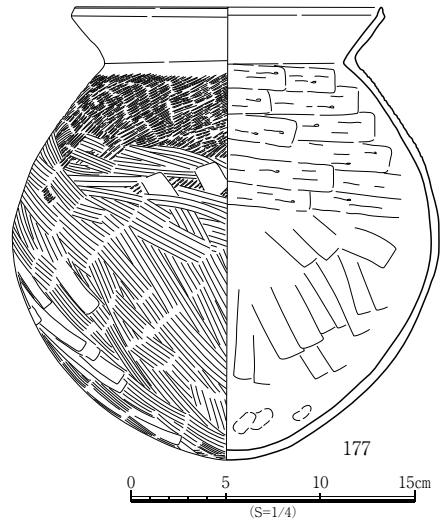


図2-30 ST28中層出土遺物実測図4(庄内式土器)

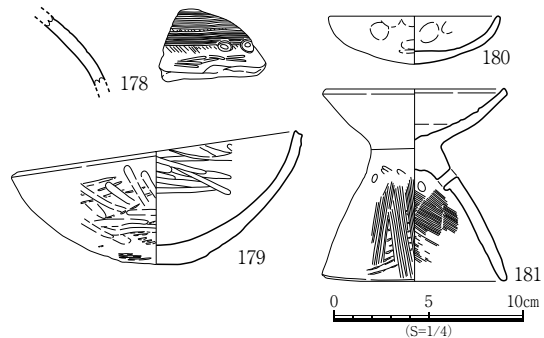


図2-31 ST28下層出土遺物実測図

圧痕が残る。181は器台で、脚部上端には5ヵ所の穿孔がみられる。口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデを施す。脚部内面にはハケ、脚部外面にはタタキのちハケを施し、受部と脚部の境にはヘラミガキ調整が認められる。

床面出土遺物(図2-32 182~187)

182~187は弥生土器で、182~186は鉢である。182・183は平底を呈するものである。182は内面にはナデのちハケ、外面にはナデを施す。183は内面には粗いハケのち粗いナデ、外面には指オサエを施し、外底面にはナデ調整がみられる。184・185は皿状を呈するもので、手づくね成形と考えられる。184は内面に指オサエのちナデ、外面に指オサエを施す。185は内面にナデ、外面に指オサエを施し、口縁端部内面はヨコナデにより凹線状を呈する。186はコップ状を呈するもので、内面にナデ、外面にはタタキのちナデを施し、口縁端部にはヨコナデ調整がみられる。187は有段高杯で、杯部のみ残存する。摩耗が著しく調整は不明で、内外面に焼成時の破裂痕が認められる。

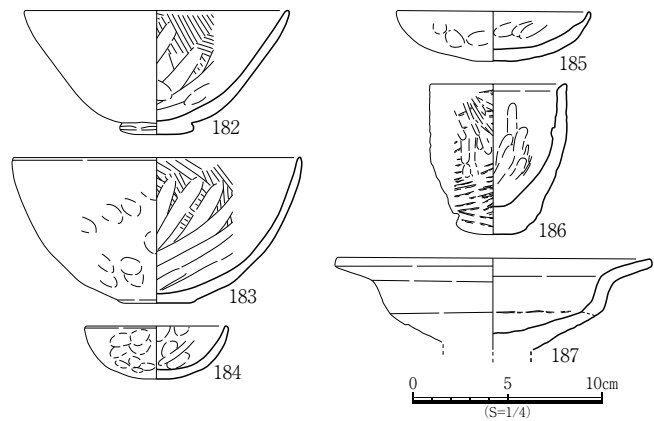
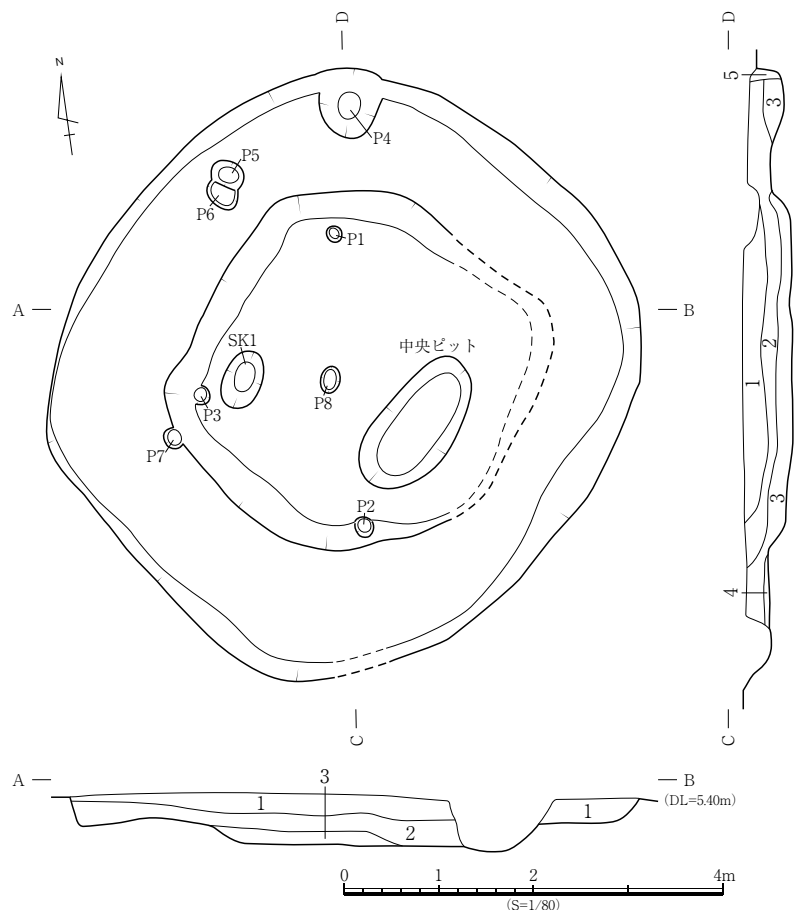


図2-32 ST28床面出土遺物実測図

ST29(図2-33)

調査区北東部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡で、SD13・27・37に切られる。長軸約5.9m、短軸約5.5mを測り、面積は約32.3㎡である。検出面からの深さは約55cmで、床面の標高は約4.7mを測る。周囲には地山削り出しのベッド状遺構が存在し、床面との比高差は11~18cmである。埋土は1層が土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂, 2層が土器を含む小~中礫混じりの黒褐色(10YR3/3)シルト質細粒~中粒砂, 3層が土器を含む小~大礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂, 4層が土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒~中粒砂, 5層が褐色(10YR4/1)シルト質細粒~中粒砂



遺構埋土

1. 土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂
2. 土器を含む小~中礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒~中粒砂
3. 土器を含む小~大礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂
4. 土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒~中粒砂
5. 褐色(10YR4/1)シルト質細粒~中粒砂

図2-33 ST29

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

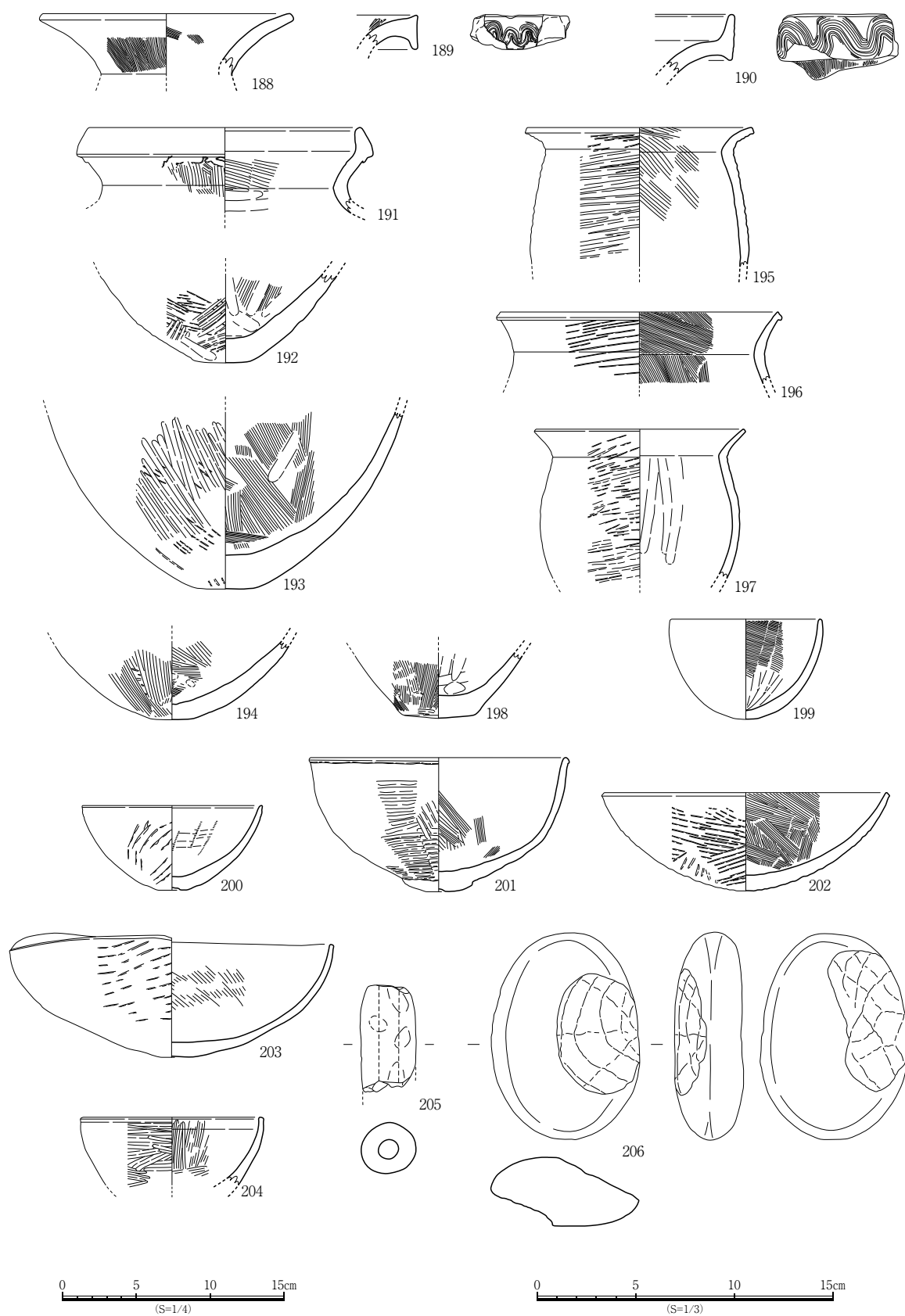


図2-34 ST29上層出土遺物実測図

りの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂, 3層が土器を含む小～大礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂, 4層が土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒～中粒砂, 5層が褐色(10YR4/1)シルト質細粒～中粒砂で, 床面では中央ピット, 土坑, ピットを検出した。中央ピットは床面の南東寄りに位置し, 平面形は長楕円形を呈する。長軸約1.6m, 短軸約0.8mを測り, 床面からの深さは約16cmで, 埋土は土器と炭化物を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR2/1)シルト質中粒砂である。検出したピットのうち東側の支柱穴はSD13に切られていたが, 床面の四隅に存在するP1～3は位置関係から支柱穴とみられ, 床面からの深さはP1が8cm, P2が11cm, P3が30cmを測る。壁際のP4は補助柱の可能性が考えられ, 深さ27cmである。また, 床面の西側で貯蔵穴とみられる土坑1基を確認している。平面形は楕円形を呈し, 長軸約0.6m, 短軸約0.4m, 深さ8cmを測り, 埋土は土器と褐色(7.5YR4/3)シルト質粗粒砂を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR2/1)シルト質中粒砂である。

出土遺物は上層から弥生土器2,638点, 土製品1点, 石製品1点, 中層から弥生土器763点, 土製品1点, 石製品1点, 下層から弥生土器959点, 石製品1点, 床面から弥生土器602点, 石製品2点, 中央ピットから弥生土器134点, SK1から弥生土器75点, P3から弥生土器1点が出土し, 上層では弥生土器17点(188～204), 土製品1点(205), 石製品1点(206), 中層では弥生土器10点(207～216), 土製品1点(217), 石製品1点(218), 下層では弥生土器9点(219～227), 石製品1点(228), 床面では弥生土器15点(229～243), 石製品2点(244・245), 中央ピットから弥生土器1点(246)が図示できた。

上層出土遺物(図2-34 188～206)

188～204は弥生土器である。188～194は壺で, 188～190は広口壺である。188は口縁端部内外面にヨコナデを施し, 内面にハケのちナデ, 外面にハケを施す。189・190は口縁端部破片で, 端部を上下に拡張し, 6条単位の波状文を施す。191は複合口縁壺で, 口縁部内外面にヨコナデ, 頸部内面にハケ, 胴部内面にヨコナデを施す。頸部外面にはハケ調整, 胴部外面にはハケ調整のちヨコナデ調整が認められる。192～194は底部破片である。192は内面にハケのちナデ, 外面にタタキのちナデを施す。193は内面にハケのちナデ, 外面にタタキのちヘラミガキを施す。194は内面にハケ, 外面にタタキのちハケを施す。195～198は甕である。195～197は口縁部から胴部にかけての破片で, 195・196は口縁部が外反して立ち上がり, 口縁端部が面をなすものである。195は口縁部から胴上部内面にハケ, 胴中央部内面にナデ, 外面にタタキを施し, 口縁部外面に煤が付着する。196は内面にハケ, 外面にタタキを施す。197は内面にナデ, 外面にタタキを施し, 口縁部外面にはナデ調整を加え, 胴中央部から下方には被熱痕が認められる。198は底部破片で, 内面にナデ, 外面にタタキのちハケを施す。199～204は鉢である。199～201は平底を呈し, 体部が緩やかに内湾して立ち上がるもので, 199は内面上半にハケ, 下半にナデ, 外面全体にナデを施す。200は内面にハケのちナデ, 外面にタタキのちナデを施し, 内底面にはナデ調整がみられる。201は口縁部内外面にナデ, 体部内面にハケ, 外面にタタキのちナデを施す。内底面には指頭圧痕がみられ, 外面全体には煤が付着する。202・203は丸底を呈するもので, 体部は緩やかに内湾して立ち上がる。202は内面にハケ, 外面にタタキを施す。203はほぼ完存し, 内面にハケ, 外面にタタキのちナデを施す。204は高杯とみられる杯部破片である。内外面には丁寧なヘラミガキを施す。

205は土製品の土錘で, 片側を欠損する。

206は石製品の叩石で, 片側端部と両側面に敲打痕がみられ, 石材は砂岩である。

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

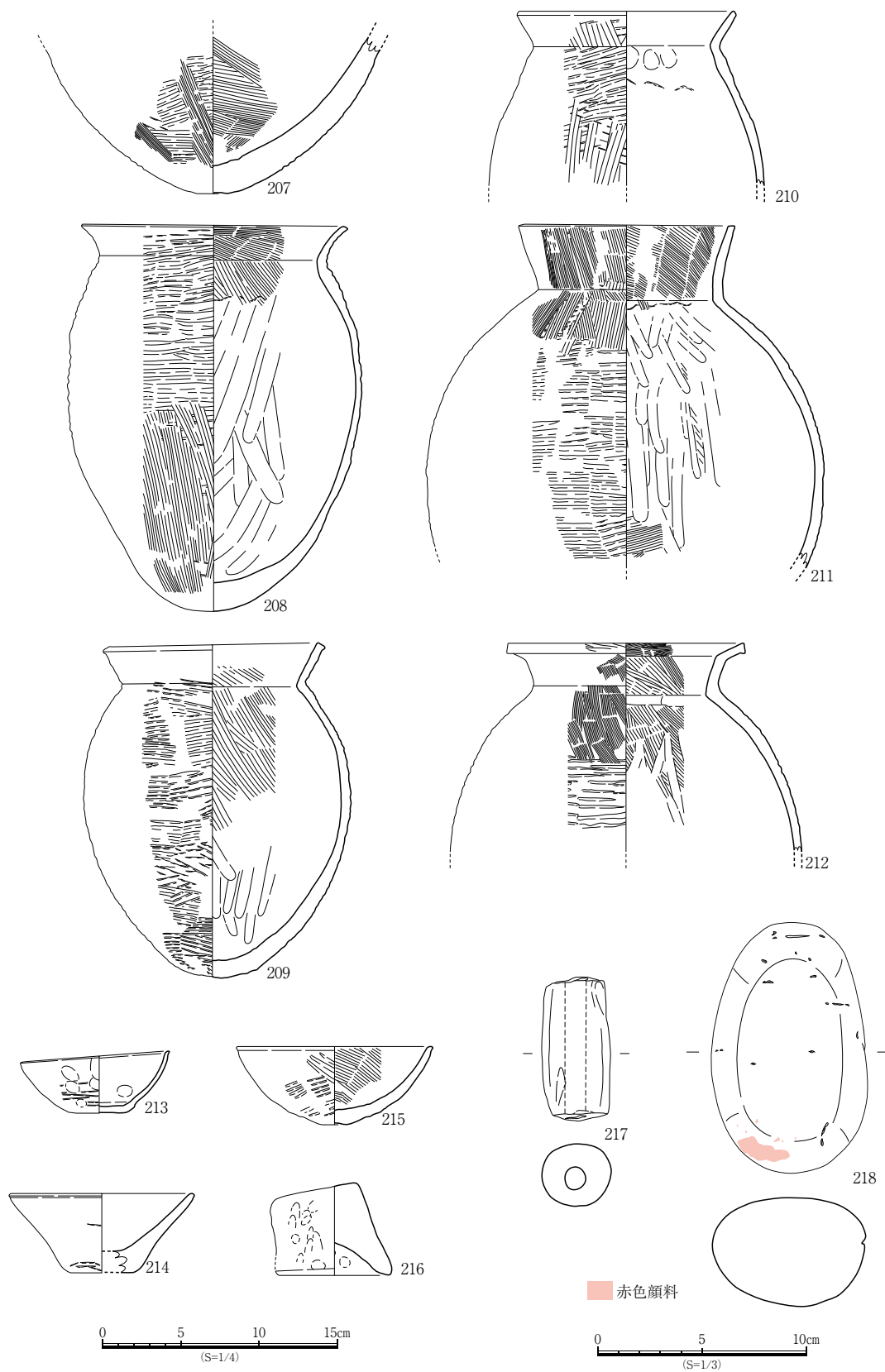


図2-35 ST29中層出土遺物実測図

中層出土遺物(図2-35 207~218)

207~215は弥生土器である。207は壺と考えられる底部破片である。内面にハケ、外面にタタキのちハケを施す。208~212は甕で、208・209は全体の形状が復元できたものである。208は口縁部が外反して立ち上がり、口縁部から胴上部内面にハケ、胴上部から下方にはナデを施す。外面全体にはタタキ目、外面下半にはハケ調整を加え、胴中央部には煤が付着する。209は口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面上半に粗いハケ、下半にナデを施す。外面全体にタタキ目がみられ、口縁部から胴中央部にかけて煤が付着する。210・211は口縁部が斜め上方に直線的に立ち上がるもので、210は胴部内面上端に指オサエ、胴部内面にナデ、外面にタタキのちハケを施し、外面全体に煤が付着する。211はヨコナデにより口縁端部が面をなし、口縁部内面にハケ、胴部内面にハケのちナデ、外面全体にタタキを施す。口縁部から胴上部外面にはハケ調整を加え、胴中央部から下方には煤が付着する。212は口縁部が中程で屈曲し稜を有するもので、口縁端部は面をなす。口縁部と胴上部内外面にはハケ、胴中央部内面にはハケのちナデ、胴中央部外面にはタタキのちハケを施し、胴中央部には煤が付着する。213~215は鉢で、213・214は平底を呈するものである。213はほぼ完存し、体部が内湾して立ち上がる。内面にナデ、外面にタタキのちナデと指オサエを施し、内面には赤色顔料とみられるものが付着

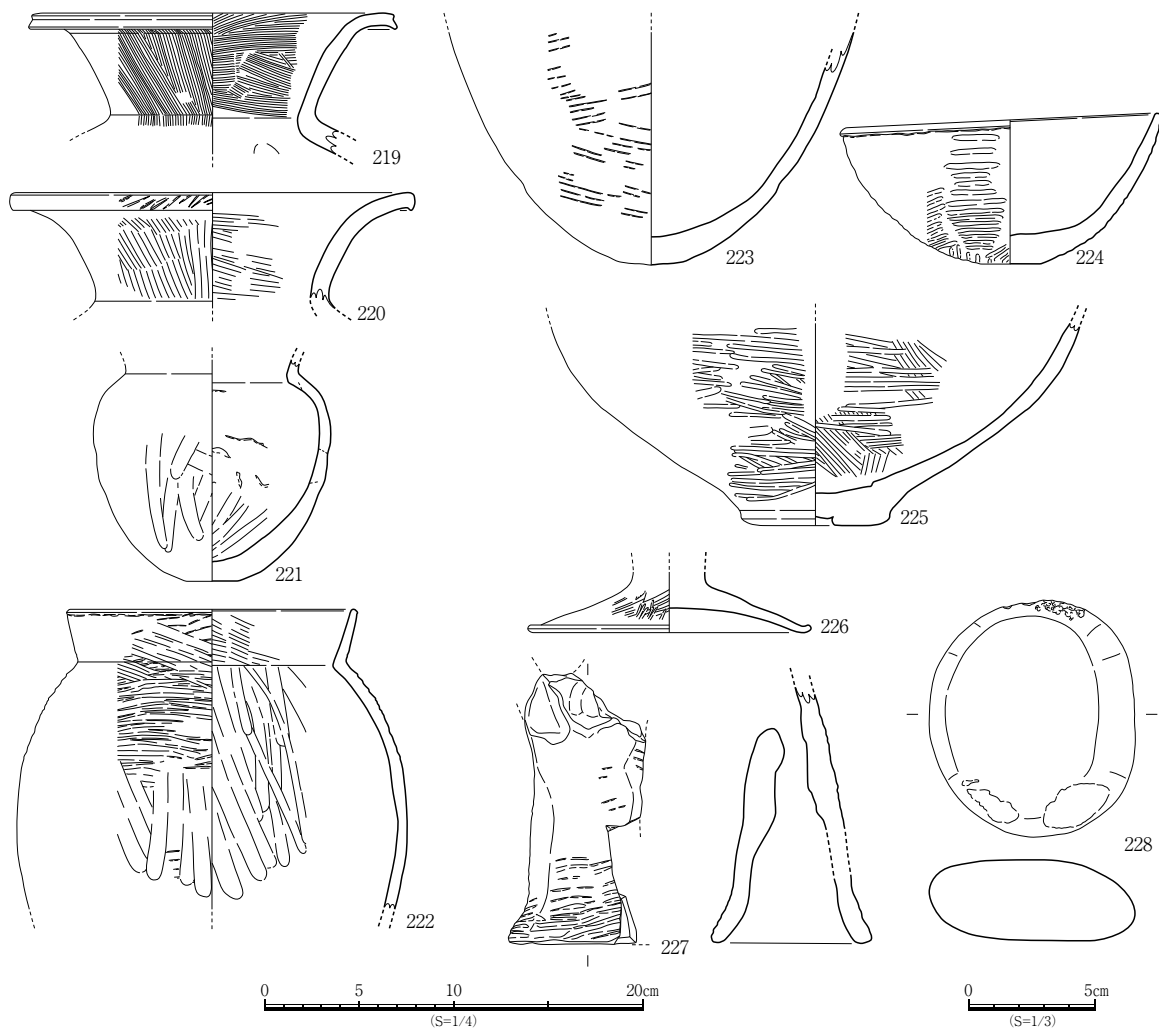


図2-36 ST29下層出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

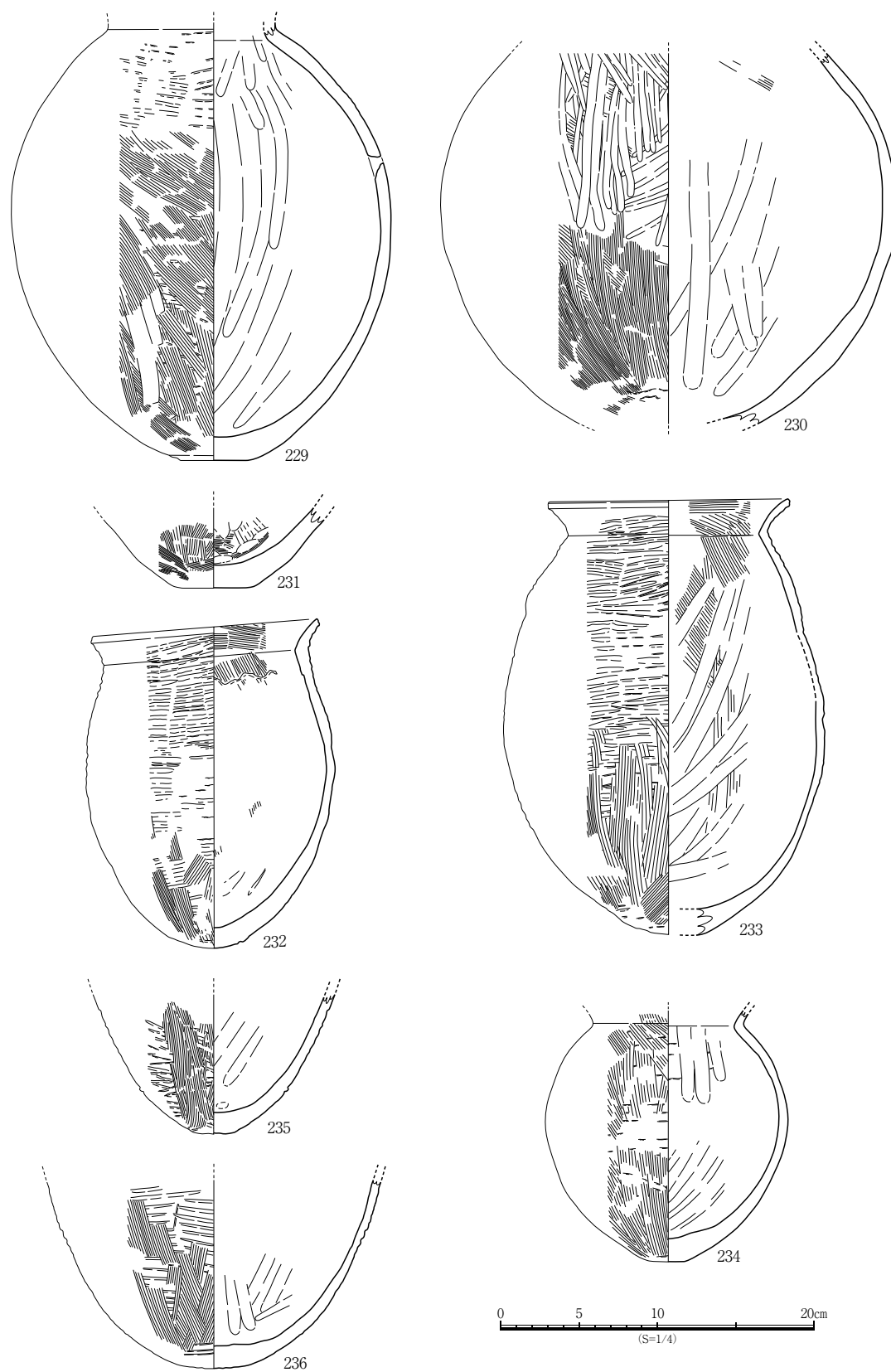


図2-37 ST29床面出土遺物実測図

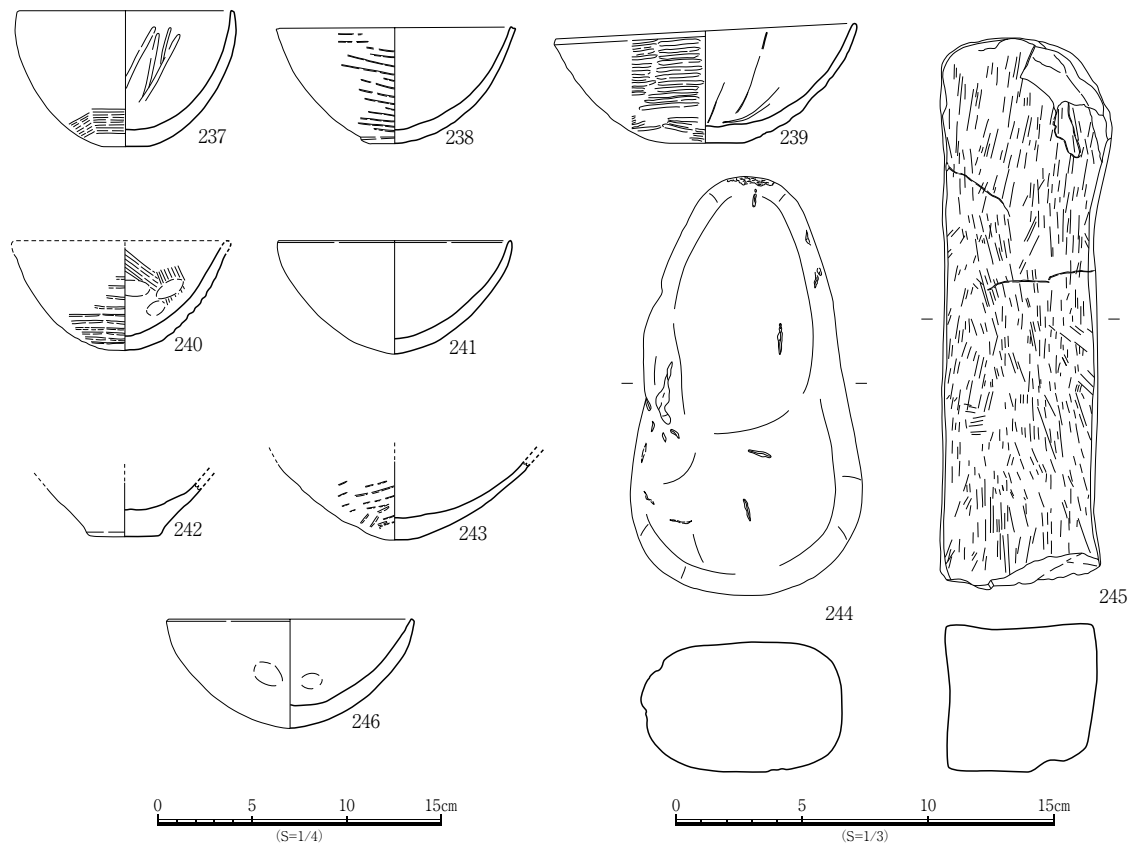


図2-38 ST29床面・中央ピット出土遺物実測図

する。214は口縁部が斜め上方に直線的に立ち上がるもので、内面にナデ、外面にタタキのちナデを施す。215は丸底を呈するもので、内面にハケ、外面にタタキを施す。

216・217は土製品である。216は支脚でほぼ完存し、表面には明瞭な指頭圧痕が残る。217は土錘で、完存する。表面にはナデ調整がみられる。

218は石製品の石杵で、端部に赤色顔料とみられるものが付着する。石材は砂岩である。

下層出土遺物(図2-36 219~228)

219~226は弥生土器で、219~221は壺である。219・220は広口壺で、219はヘラナデにより、口縁端部が凹線状を呈する。口縁端部内外面にヨコナデ、口縁部から頸部内外面にハケ、胴部内面にナデを施す。220は口縁端部に斜傾する刻目を配する。内外面にハケを施し、内面全体と口縁部外面にはヨコナデ調整を加える。221は口縁部を欠損し、内外面にナデを施す。胴部内面上端には強いヨコナデ調整がみられ、頸部と胴部の境は明瞭な稜をなし、頸部内面と外面には赤色顔料とみられるものが付着する。222・223は甕である。222は口縁部が斜め上方に直線的に立ち上がるもので、ヨコナデにより口縁端部は面をなす。口縁部内面にはハケのちナデ、胴部内面に粗いナデ、外面全体にタタキを施す。口縁部外面にはハケ調整、胴部外面下半にはナデ調整を加え、胴上部より下方には煤が付着する。223は底部破片で、内面にナデ、外面にタタキのちナデを施す。224・225は鉢である。224は平底を呈し、体部は緩やかに内湾して立ち上がる。内面にはナデ、外面にはタタキを施し、口縁部外面にはヨコナデ調整、体部外面にナデ調整を加える。225は大型の鉢と考えられ、口縁部を欠損する。内面にハケのち部分的にヘラミガキ、外面全体にヘラミガキを施す。底部外面にはヨコナデ調整、外

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

底面にはナデ調整がみられる。226は高杯の脚裾部破片である。全体的に摩耗が著しいが、外面にハケ調整のちヘラミガキ調整が認められる。

227は土製品の支脚である。中空で、指と脚部の一部を欠損する。内面にはナデ、外面にはタタキのちナデを施す。

228は石製品の叩石で、片側端部に敲打痕がみられ、部分的に被熱する。石材は砂岩である。

床面出土遺物(図2-37・38 229~245)

229~243は弥生土器で、229~231は壺と考えられるものである。229は口縁部を欠損し、内面にナデ、外面にタタキを施し、胴中央部より下方にはハケ調整を加える。胴中央部には焼成後の穿孔が認められる。230は胴部破片で、内面にナデとハケ、外面にハケのち丁寧なヘラミガキを施す。231は底部破片で、内面にハケのち指オサエ、外面にハケを施す。232~236は甕である。232・233は全体の形状が復元できたもので、口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。ともに内面にはハケ、外面にはタタキを施し、胴部内面にはナデ調整、胴部外面下半にはハケ調整を加え、口縁部から胴部上半には煤が付着する。233には口縁部外面にヨコナデ調整が認められる。234は口縁部が欠損するもので、平底を呈する。内面にはナデとヨコナデ、外面にはタタキのちハケを施し、口縁部外面下端にはハケ調整が認められる。胴中央部外面には煤が付着する。235・236は底部破片である。ともに内面にナデ、外面にタタキのちハケを施し、235には内面に煤が付着する。237~243は鉢で、237~239は平底を呈し、体部が緩やかに内湾して立ち上がるものである。237は内面にナデのちヘラミガキ、口縁部外面にナデ、体部外面にハケのちナデを施し、外底面にはナデ調整が認められる。238はほぼ完存し、内面にナデ、外面にタタキのちナデを施す。239もほぼ完存し、口縁部内外面にヨコナデ、内面にナデ、外面にタタキのちナデを施し、内面にはヘラ状工具による暗文状のミガキが認められる。240は丸底を呈するもので、口縁端部を欠損する。体部内面にハケ、底部内面にナデ、外面にタタキを施し、内面には指オサエ、体部外面にはナデ調整を加える。241は尖底を呈するもので、摩耗が著しく調整は不明である。242・243は底部破片で、口縁部を欠損する。242は平底を呈し、内外面にナデを施す。外底面には木葉の押圧痕が認められる。243は丸底を呈するもので、全体的に摩耗が著しく調整は不明瞭であるが、外面にはタタキ目が残る。

244・245は石製品である。244は叩石で、片側端部に敲打痕がみられる。石材は砂岩である。245は砥石で、片側を欠損する。4面とも使用痕が顕著に残り、石材は極細粒砂岩である。

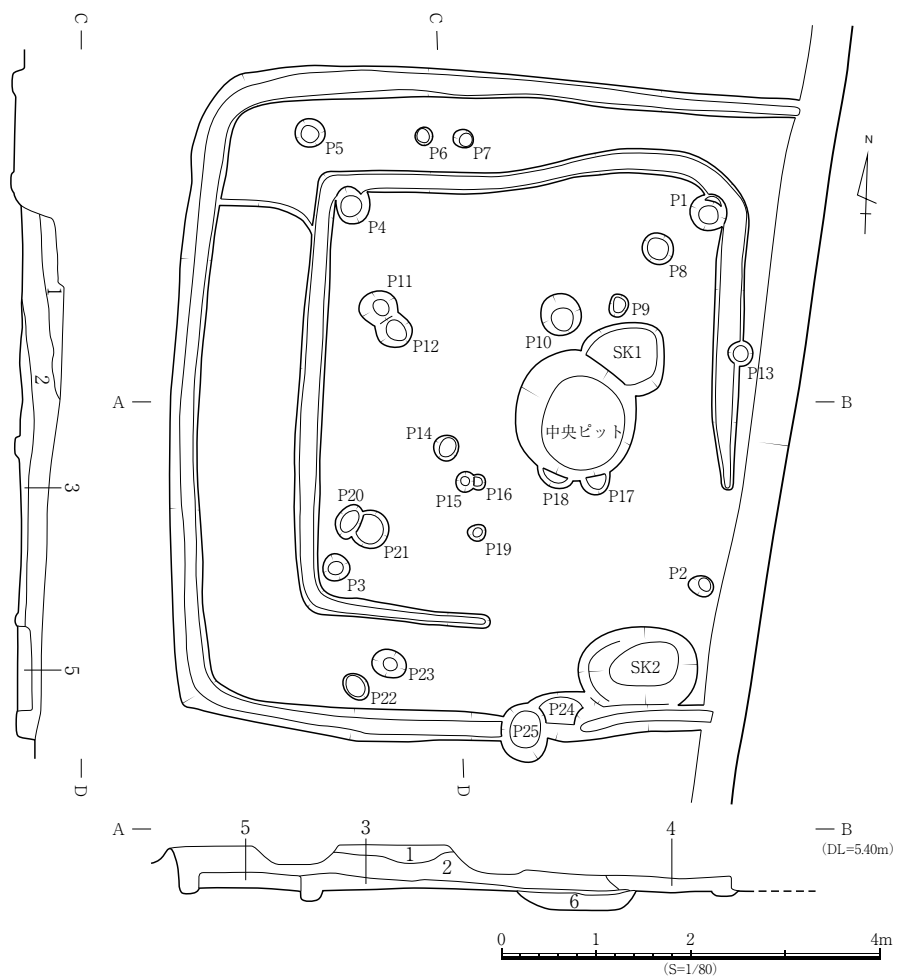
中央ピット出土遺物(図2-38 246)

246は弥生土器鉢で丸底を呈し、内外面には丁寧なナデを施す。

ST30(図2-39)

調査区北東部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡で、ST31を切り、SD38・45に切られる。東側は調査区外へ続き、南北長約7.1mを測る。検出面からの深さは約50cmで、床面の標高は約4.7mである。西側と南側にはにぶい黄褐色(10YR5/3)シルト質細粒砂をブロック状に含む小~中礫混じりの灰黄褐色(10YR4/2)シルト質粗粒砂で構築されたベッド状遺構を確認し、床面との比高差は約15cmである。埋土は1層が土器を含む小~中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒~中粒砂、2層が土器を含む小~中礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質中粒砂、3層が土器を含む小~大礫混じりの黒褐色(2.5Y3/1)シルト質極細粒~中粒砂、4層が土器を含む小~中礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、床面では中央ピット、土坑、ピット、壁溝を検出した。中央ピットは床面中央や

や東寄りに位置し、平面形は円形を呈する。径約1.3mを測り、床面からの深さは約21cmで、埋土は土器と褐色(10YR4/4)シルト質中粒砂の焼土をブロック状に含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒～中粒砂である。検出したピットのうち四隅に存在するP1～4は位置関係から支柱穴とみられ、床面からの深さはP1が37cm、P2が37cm、P3が45cm、P4が38cmを測る。また、中央ピットの北東側と竪穴建物跡の南側で土坑を確認している。SK1は中央ピットに付随するもので、平面形は不整形円形を呈し、径約0.9m、深さ7cmを測



遺構埋土

1. 土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂
2. 土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質中粒砂
3. 土器を含む小～大礫混じりの黒褐色(25Y3/1)シルト質極細粒～中粒砂
4. 土器を含む小～中礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂
5. 土器を含む小～中礫混じりの灰黄褐色(10YR4/2)シルト質粗粒砂で、にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト質細粒砂をブロック状に含む(ベッド状遺構)
6. 土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒～中粒砂で、褐色(10YR4/4)シルト質中粒砂の焼土をブロック状に含む(中央ピット)

図2-39 ST30

る。SK2は貯蔵穴と考えられるもので、平面形は楕円形を呈し、長軸約1.4m、短軸0.9m、深さ36cmを測る。ともに埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒～粗粒砂でにぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒砂をブロック状に含む。壁溝は建物と床面の外周で確認された。床面の外周で確認された壁溝は床面を取り囲むように存在しており、残存長約17.7m、幅約20～32cm、深さ約4～10cmを測る。なお、西側と南側でのみ確認されたベッド状遺構は東側と北側にも存在していた可能性が考えられる。

出土遺物は上層から弥生土器1,734点、土製品4点、中層から弥生土器1,234点、石製品1点、下層から弥生土器1,185点、床面から弥生土器394点、土製品2点、石製品4点、中央ピットから弥生土器73点、石製品1点、SK1から弥生土器10点、SK2から弥生土器70点、石製品1点、P2から弥生土器3点、P3から弥生土器2点、P4から弥生土器2点、P5から弥生土器8点、P10から弥生土器1点、P13から弥生土器4点、P15から弥生土器2点、P17から弥生土器1点、P18から弥生土器1点、P19から弥

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

生土器 2 点, P23 から弥生土器 3 点, P24 から弥生土器 5 点, P25 から弥生土器 13 点, 壁溝から弥生土器 98 点が出土し, 上層では弥生土器 13 点(247~259), 土製品 4 点(260~263), 中層では弥生土器 8 点(264~271), 石製品 1 点(272), 下層から弥生土器 15 点(273~287), 床面から弥生土器 6 点(288~293), 土製品 2 点(294・295), 石製品 4 点(296~299), 中央ピットでは弥生土器 1 点(300), 石製品 1 点(301), SK2 では石製品 1 点(302)が図示できた。

上層出土遺物(図2-40・41 247~263)

247~259 は弥生土器で, 247 は壺である。広口壺で, 口縁端部は上下に拡張し, 5 条単位の波状文を配する。口縁部内外面にはヨコナデ, 頸部内面にはナデ, 頸部内面下端と頸部外面にはハケを施し, 頸部と胴部の境にはヨコナデ調整を加える。248~250 は甕である。248・249 は口縁部が斜め上方に直線的に立ち上がるもので, 胴中央部以下を欠損する。248 は全体的に摩耗が著しく調整は不明瞭であるが, 口縁部内面にハケ調整, 胴部外面にタタキ目が残る。249 はヨコナデにより口縁端部が面をなし, 口縁部から胴中央部内面にハケ, 胴中央部内面にナデ, 外面にタタキを施し, 外面全体に煤が付着する。250 は口縁部を欠損するもので, 器壁が薄く丁寧な調整を施す。内面にハケ調整とナデ調整, 外面にタタキのあとハケ調整を加える。251~257 は鉢で, 251~253 は平底を呈し, 体部が緩やかに内湾して立ち上がるものである。251 は摩耗が著しく調整は不明瞭であるが, 体部下端外面にタタキ目が残る。252 も摩耗が著しく調整は不明瞭であるが, 外面にタタキ目, 外底面にナデ調整が残る。内面には赤色顔料とみられるもの, 外面には煤が付着する。253 は内面にナデ, 外面にタタキを施し, 口縁部外面にはナデ調整を加える。254 は丸底を呈するもので, 内面にナデ, 外面に指オサエ

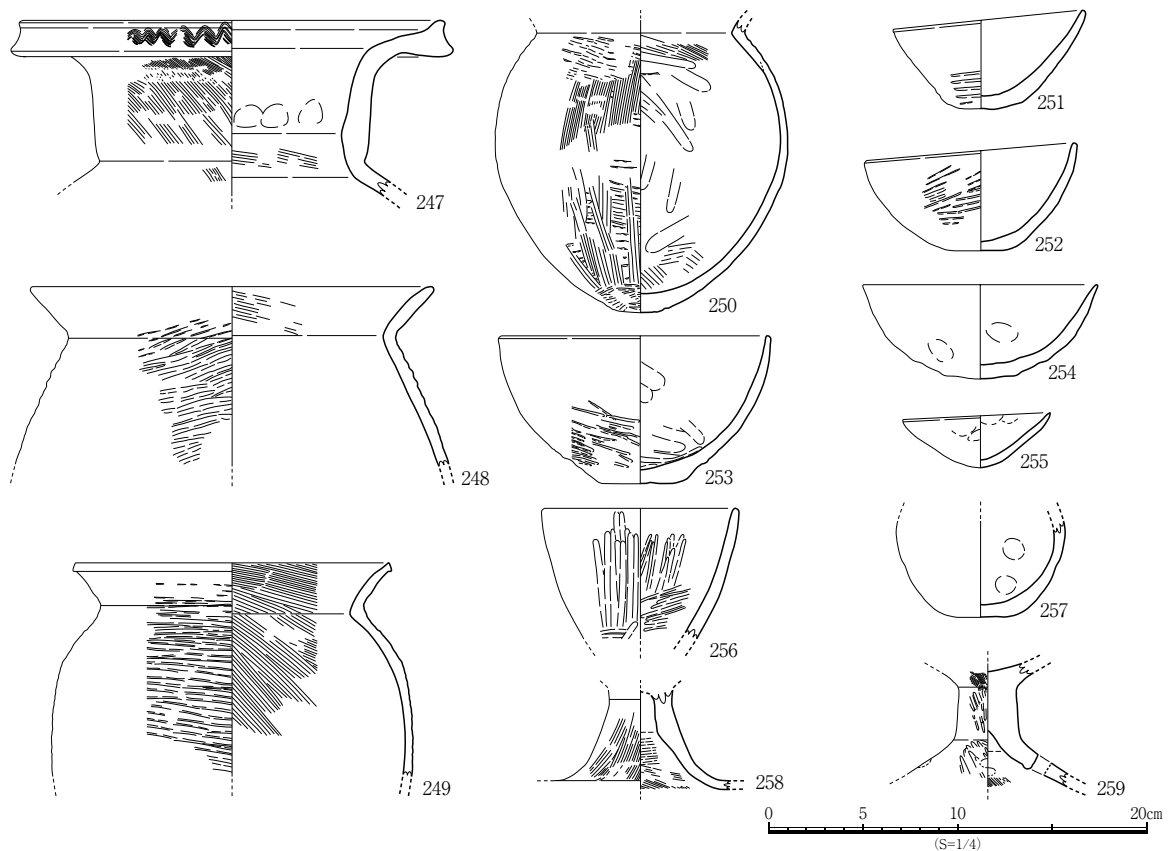


図2-40 ST30上層出土遺物実測図1(壺他)

を施し、外面にはナデ調整を加える。255は尖底を呈するもので、内面に指オサエとナデ、外面に指オサエを施す。256はコップ状を呈するとみられるもので、脚付の可能性が考えられる。底部は欠損し、内外面にヘラミガキを施し、口縁端部内外面にはヨコナデ調整を加える。257は口縁部を欠損し、内面にナデと指オサエ、外面にナデを施す。258・259は高杯の脚柱部破片である。258は内外面にハケを施し、外面上端にはナデ調整を加える。259は杯部内面と脚柱部内面にナデ、脚裾部内面にハケ、外面にヘラミガキを施し、裾部の穿孔は4カ所と考えられる。

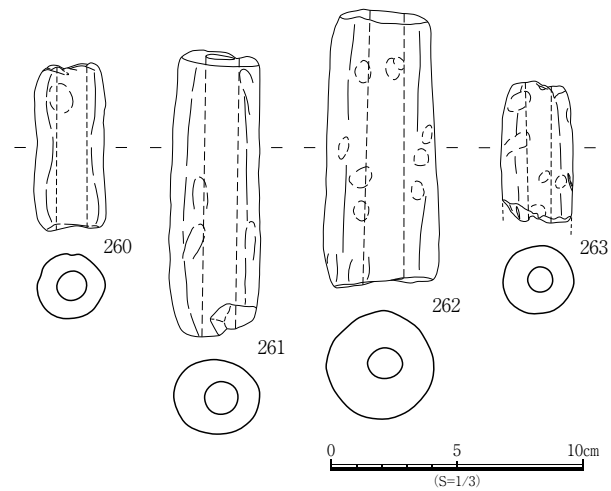


図2-41 ST30上層出土遺物実測図2(土錘)

260～263は土製品の土錘で、260～262はほぼ完存する。ともに表面にはナデ調整と指頭圧痕がみられ、262の片側端部はハケ状原体による面取りが認められる。263は片側を欠損し、残存側には挟りがみられる。

中層出土遺物(図2-42 264～272)

264～271は弥生土器で、264・265は壺である。264は広口壺で、口縁端部は上下に拡張される。

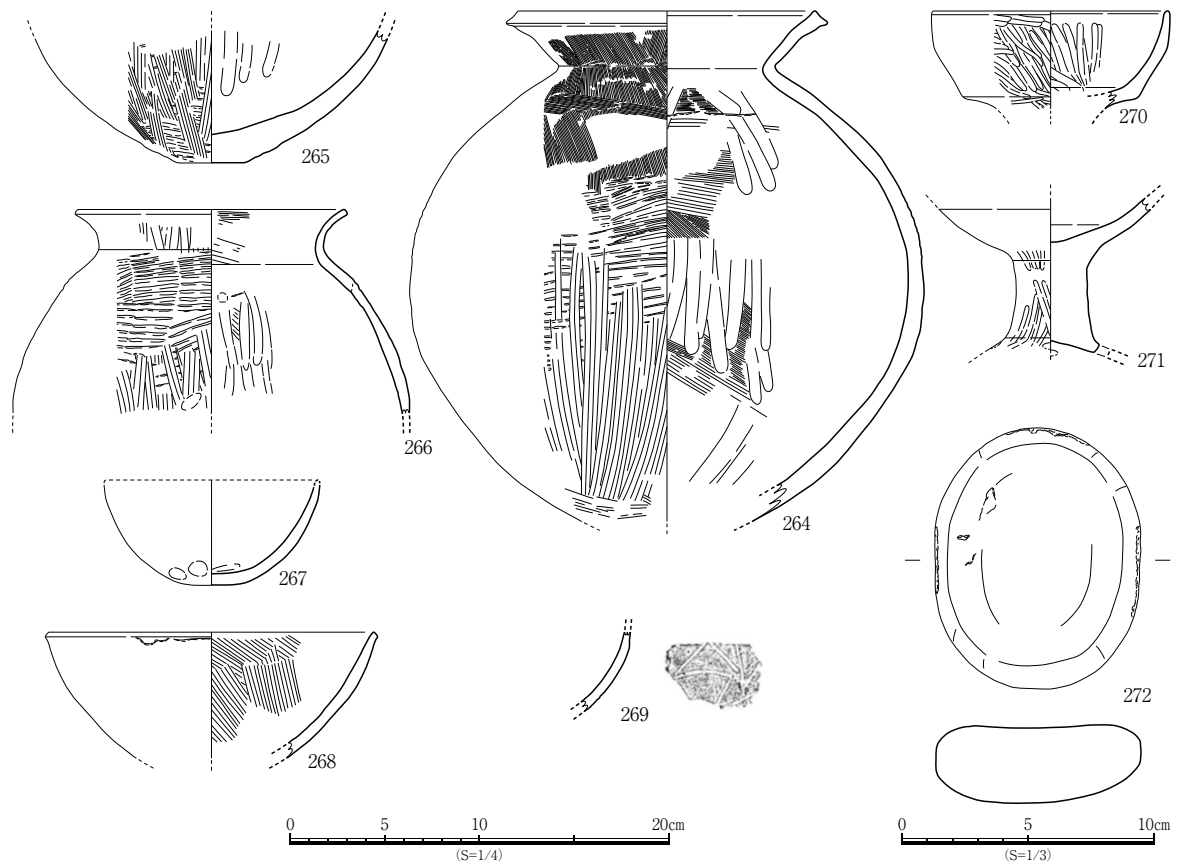


図2-42 ST30中層出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

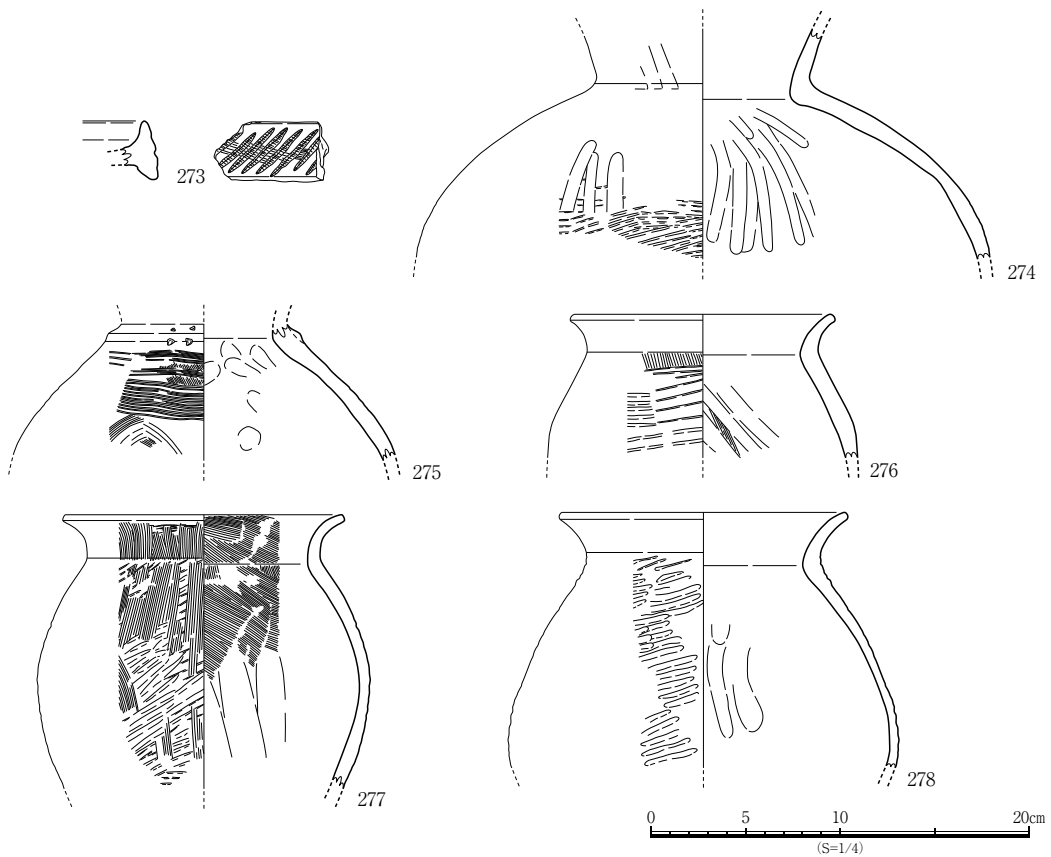


図2-43 ST30下層出土遺物実測図1(壺・甕)

内面にはハケのちナデ、口縁部から胴上部外面にはハケ、胴中央部から下部外面にはタタキのちハケを施す。265は底部破片で、内面にナデ、外面にタタキのちハケを施し、外底面にはナデ調整が認められる。266は甕で、口縁部が外反して立ち上がる。口縁部内外面にハケ、胴部内面にハケのちナデ、胴部外面にタタキを施す。胴中央部にはハケ調整を加え、煤が付着する。267～269は鉢である。267は平底を呈し、体部は内湾して立ち上がる。口縁端部は欠損し、内外面にナデを

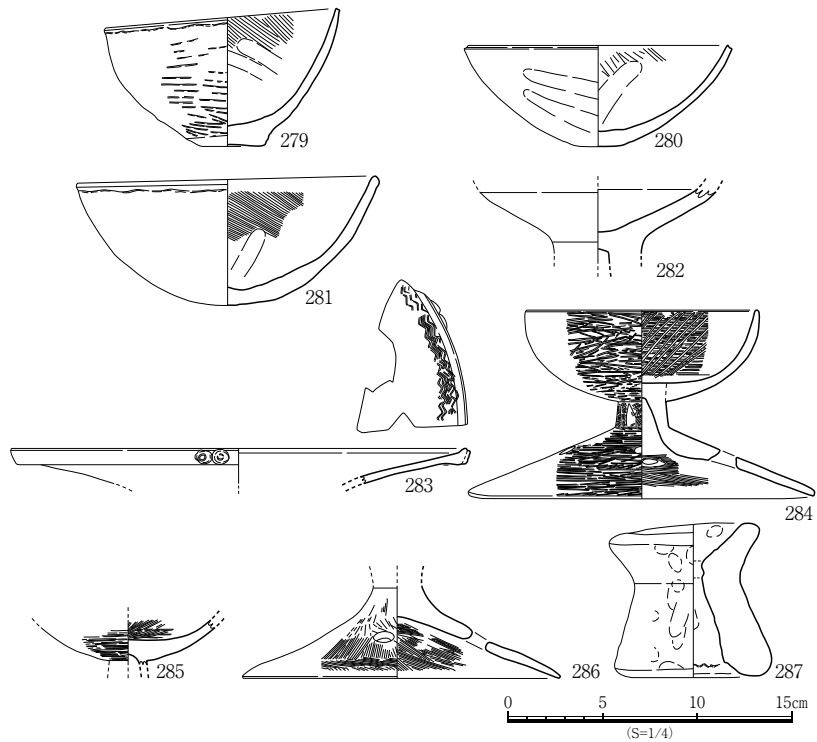


図2-44 ST30下層出土遺物実測図2(鉢他)

施す。268は底部を欠損し、ヨコナデにより口縁端部は面をなす。内面にはハケ、外面にはナデを施す。269は口縁部破片で、内外面にナデを施し、外面にはヘラ描きの文様を配する。270・271は高杯である。270は口縁部破片で、下方で屈曲し明瞭な稜を有し、上方に向けて内湾して立ち上がる。内外面には丁寧なヘラミガキを施し、搬入品の可能性が考えられる。271は有段高杯と考えられるものである。杯部内外面は摩耗のため調整は不明で、脚柱部外面にはヘラミガキ、脚裾部内面にはナデとハケを施し、穿孔が認められる。

272は石製品の叩石で、片側端部と両側面に明瞭な敲打痕が認められる。石材は砂岩である。

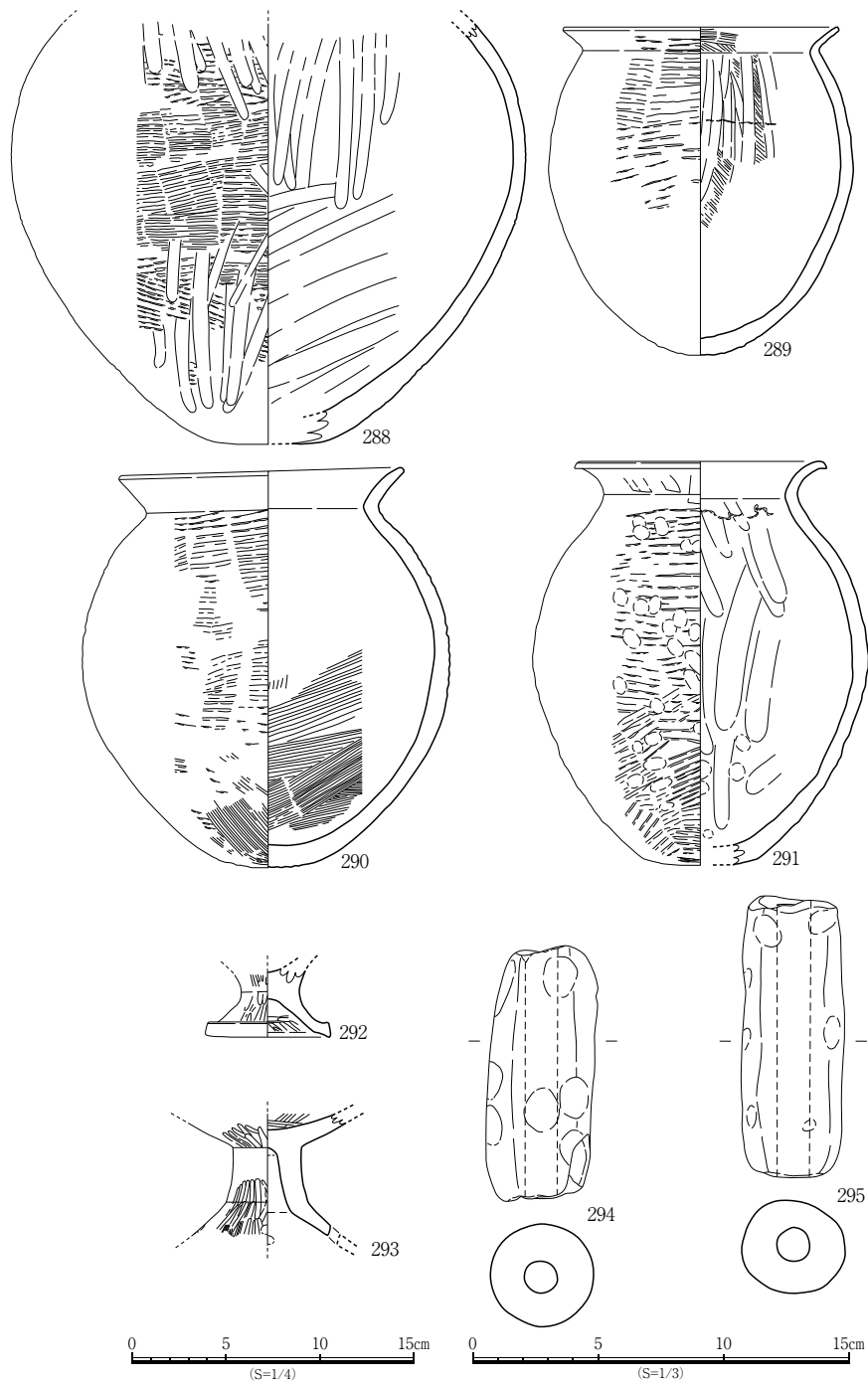


図2-45 ST30床面出土遺物実測図1(壺他)

下層出土遺物

(図2-43・44 273~287)

273~286は弥生土器である。273~275は壺で、273・274は広口壺と考えられるものである。273は端部を上下に拡張し、ハケ状原体による斜傾する刻目、器面にはヨコナデを施す。274は口縁部を欠損し、頸部内面にヨコナデ、胴部内面と頸部から胴上部外面にナデを施し、胴中央部外面にはタタキ目が認められる。275は胴部破片で、内面にナデと指オサエ、外面にナデとハケを施す。頸部と胴部の境には突帯を貼り付け、一部に三日月状の刺突文、胴部外面には多重沈線を配する。276~278は甕で、口縁部が外反して立ち上がるものである。276は口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面に

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

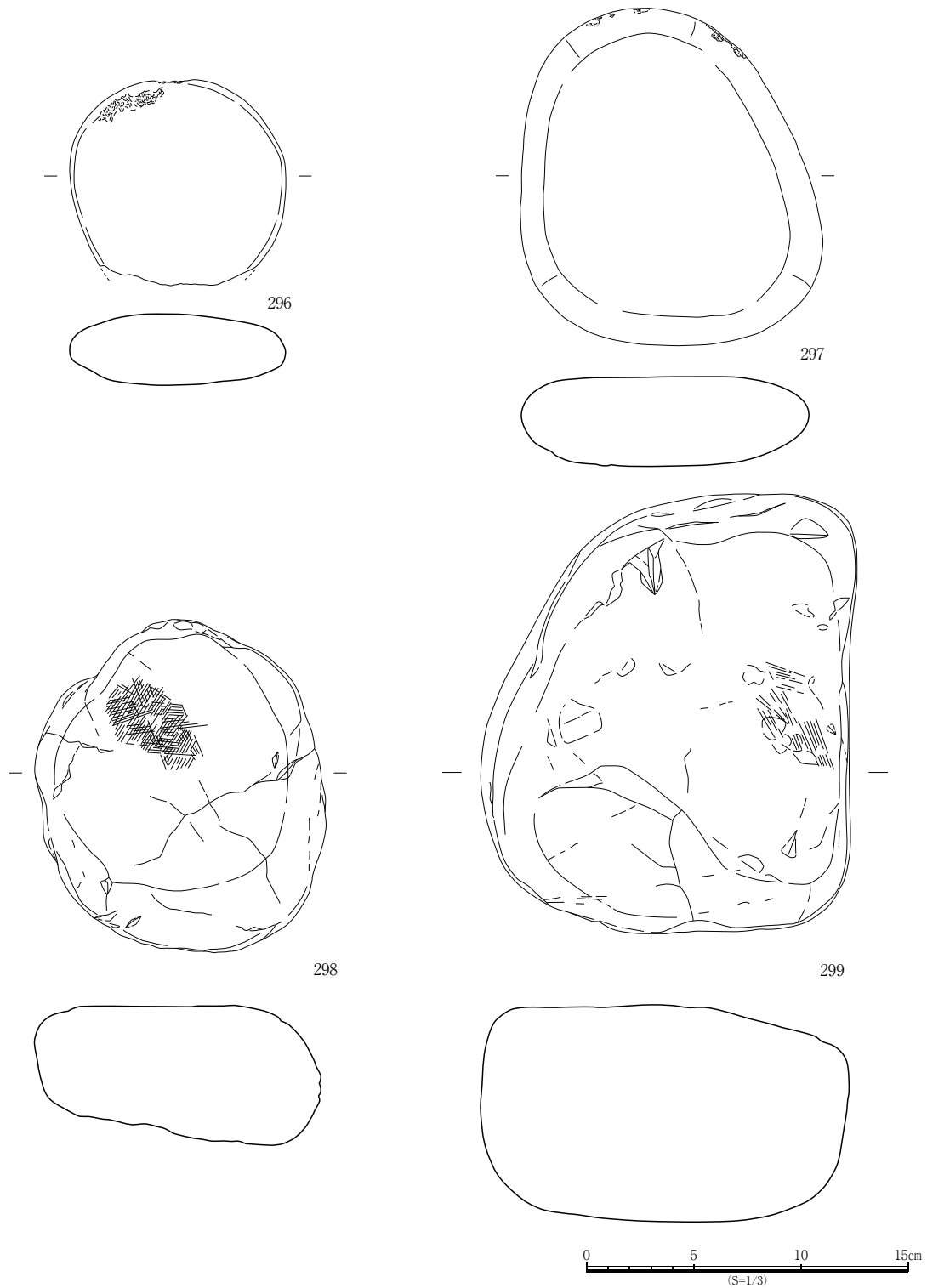


図2-46 ST30床面出土遺物実測図2(叩石他)

ハケのちナデ，胴部外面にタタキを施し，胴部外面上端にはハケ調整が認められる。277は口縁端部がヨコナデにより面をなし，口縁部から胴上部内面にハケ，胴中央部内面にナデを施す。外面にはタタキ目のちハケ調整がみられ，部分的に煤が付着する。278は口縁部内外面にヨコナデ，胴部内面にナデ，胴部外面にタタキを施し，胴中央部外面には煤が付着する。279～281は鉢で，279・280は平

底を呈するものである。279 は口縁部内面にハケ、体部内面にナデ、外面全体にタタキを施し、外底面にはナデ調整が認められる。280 は口縁部内面にハケ、体部内面と外面全体にナデを施す。281 は丸底を呈するもので、口縁端部内外面にヨコナデ、体部内面にハケのちナデを施し、外面は摩耗のため調整は不明である。282 ～ 286 は高杯である。282 は有段高杯と考えられるもので、摩耗のため調整は不明である。283 は口縁端部に円形浮文を配し、端部内面に5条単位の波状文を施す。調整は摩耗のため不明である。284・285 は杯部が碗状を呈するもので、畿内からの搬入品である。284 は杯部内外面に丁寧なヘラミガキ、脚柱部内面にナデ、脚裾部内面にハケを施す。脚部外面にはヘラミガキ調整がみられる。脚裾部には4カ所の穿孔、杯部内面には暗文状を呈する放射状のヘラミガキ調整が認められる。285 は杯部破片で、口縁部と脚部を欠損する。284 と同様内外面に丁寧なヘラミガキを施し、内面には暗文状を呈する放射状のヘラミガキ調整が認められる。286 は脚裾部破片で、脚裾端部にヨコナデ、その他の部位にはハケを施し、4カ所の穿孔がみられる。

287 は土製品の支脚で、内外面に指オサエとナデを施す。

床面出土遺物(図2-45・46 288～299)

288～293 は弥生土器である。288 は壺と考えられるもので、口縁部を欠損する。内面にはナデ、外面にはタタキのちナデを施す。289～291 は甕で、全体の形状が復元できた。289・290 は口縁部が斜め上方に直線的に立ち上がるものである。289 は口縁部内面にハケ、胴部内面にハケのちナデ、外面全体にタタキを施し、口縁部から胴上部外面には煤が付着する。290 は摩耗が著しく調整は不明瞭であるが、内面にハケ調整とナデ調整、外面にタタキ目がみられ、胴中央部より下方の外面には煤が付着する。291 は口縁部が外反して立ち上がるもので、口縁部内面にヨコナデ、胴部内面にナデ、口縁部外面に板ナデ、胴部外面にタタキのちナデを施す。292 は脚付鉢の脚部破片と考えられるもので、脚端部内外面にヨコナデ調整、脚部内外面にヘラミガキ調整が認められ、非常に丁寧な調整を施す。293 は高杯で、杯部内外面にヘラミガキ、脚部内面にナデ、脚部外面にヨコナデとヘラミガキを施し、脚裾部には穿孔がみられる。

294・295 は土製品の土錘でほぼ完存し、表面には指頭圧痕とナデ調整が残る。

296・297 は石製品の叩石で、ともに側面の一部に敲打痕がみられ、石材は砂岩である。298・299 は台石で、片面の一部に使用痕が認められ、石材は砂岩である。

中央ピット出土遺物(図2-47 300・301)

300 は弥生土器の広口壺である。口縁端部は上方に大きく拡張され、端部に8条単位の波状

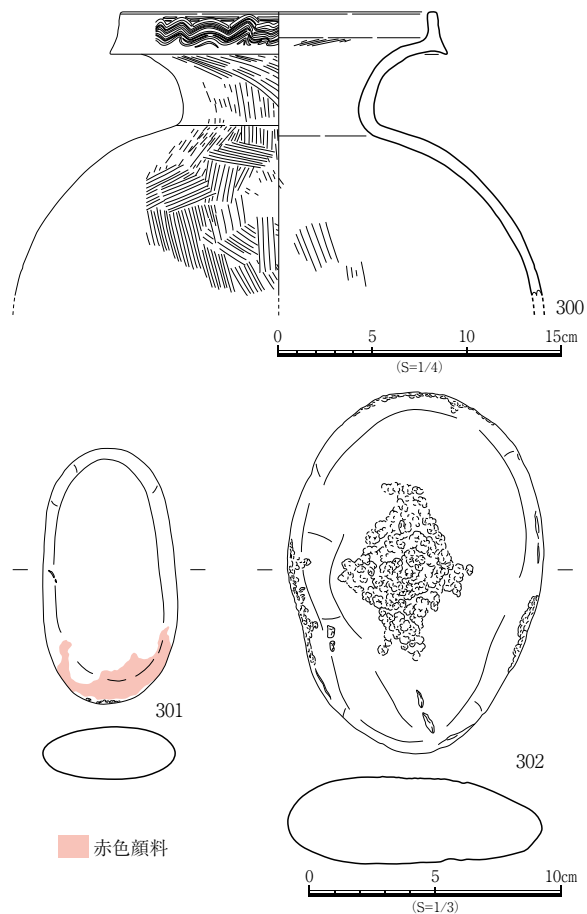


図2-47 ST30中央ピット・SK2出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

文を配する。全体的に摩耗が著しいが、外面と内面の一部にハケ調整が残る。

301は石製品の石杵である。片側端部に敲打痕がみられ、赤色顔料とみられるものが付着する。石材は砂岩である。

SK2出土遺物(図2-47 302)

302は石製品の叩石で、側面3カ所と片面に明瞭な敲打痕がみられる。石材は砂岩である。

ST31

調査区北東部で検出した隅丸方形を呈するとみられる竪穴建物跡で、ST24・30、SD45に切られる。南側をST30、北側をST24に切られ、東側は調査区外へ続くため、規模は不明である。検出面からの深さは約15cmを測り、床面の標高は約4.7mである。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、床面ではピット、壁溝を検出したが、遺存状態が悪く支柱穴は不明である。壁溝は西側で確認されており、残存長1.1m、幅37cm、深さ13cmを測る。

出土遺物は埋土から弥生土器196点、床面から弥生土器97点が出土し、弥生土器2点(303・304)が図示できた。

埋土出土遺物(図2-48 303・304)

303・304は弥生土器である。303は甕で、口縁部は斜め上方に直線的に立ち上がる。全体に摩耗が著しく調整は不明瞭であるが、内面の一部と口縁部外面にハケ調整、胴部外面にタタキ目とハケ調整が認められる。304は有稜高杯で、脚裾部を欠損する。全体的に摩耗が著しく調整は不明であり、脚裾部の穿孔は4カ所と考えられる。

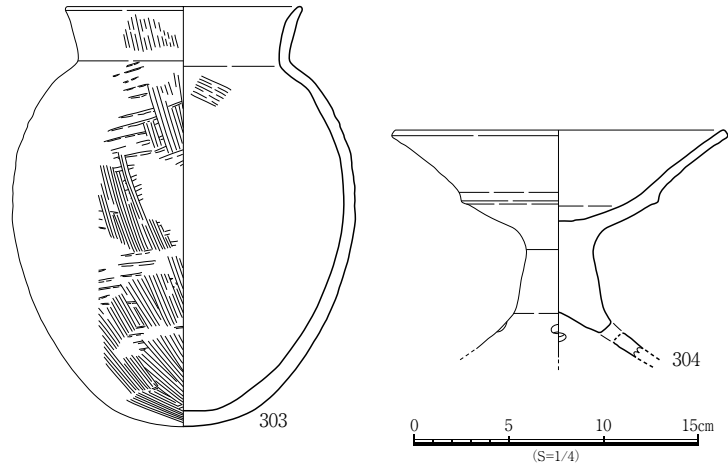
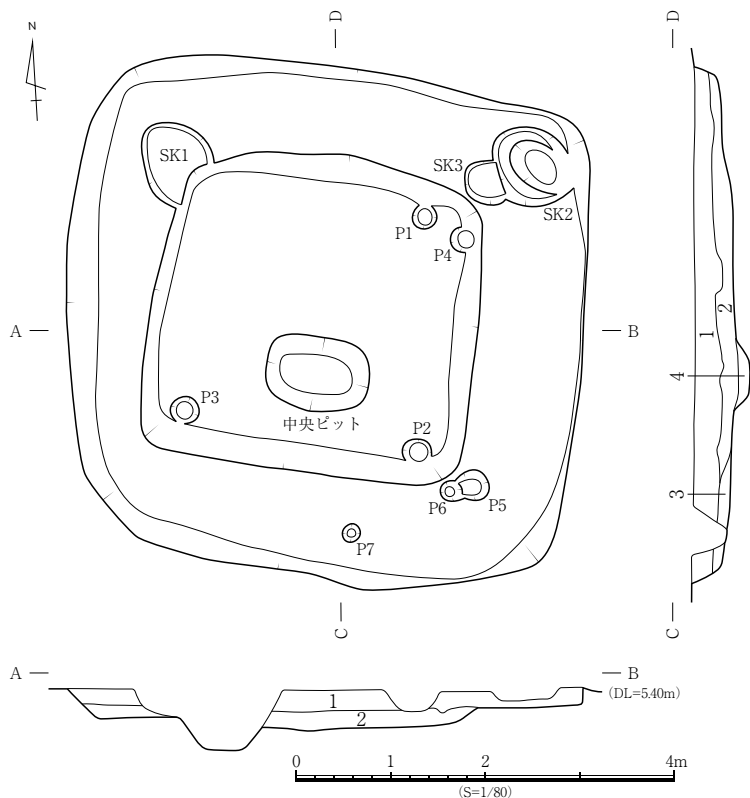


図2-48 ST31埋土出土遺物実測図



遺構埋土

1. 土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質細粒砂をブロック状に含む
2. 土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒～中粒砂
3. 土器を含む小～中礫混じりの褐色(10YR4/4)シルト質中粒～粗粒砂に2層をブロック状に含む(ベッド状遺構)
4. 土器と炭化物を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質中粒砂(中央ピット)

図2-49 ST32

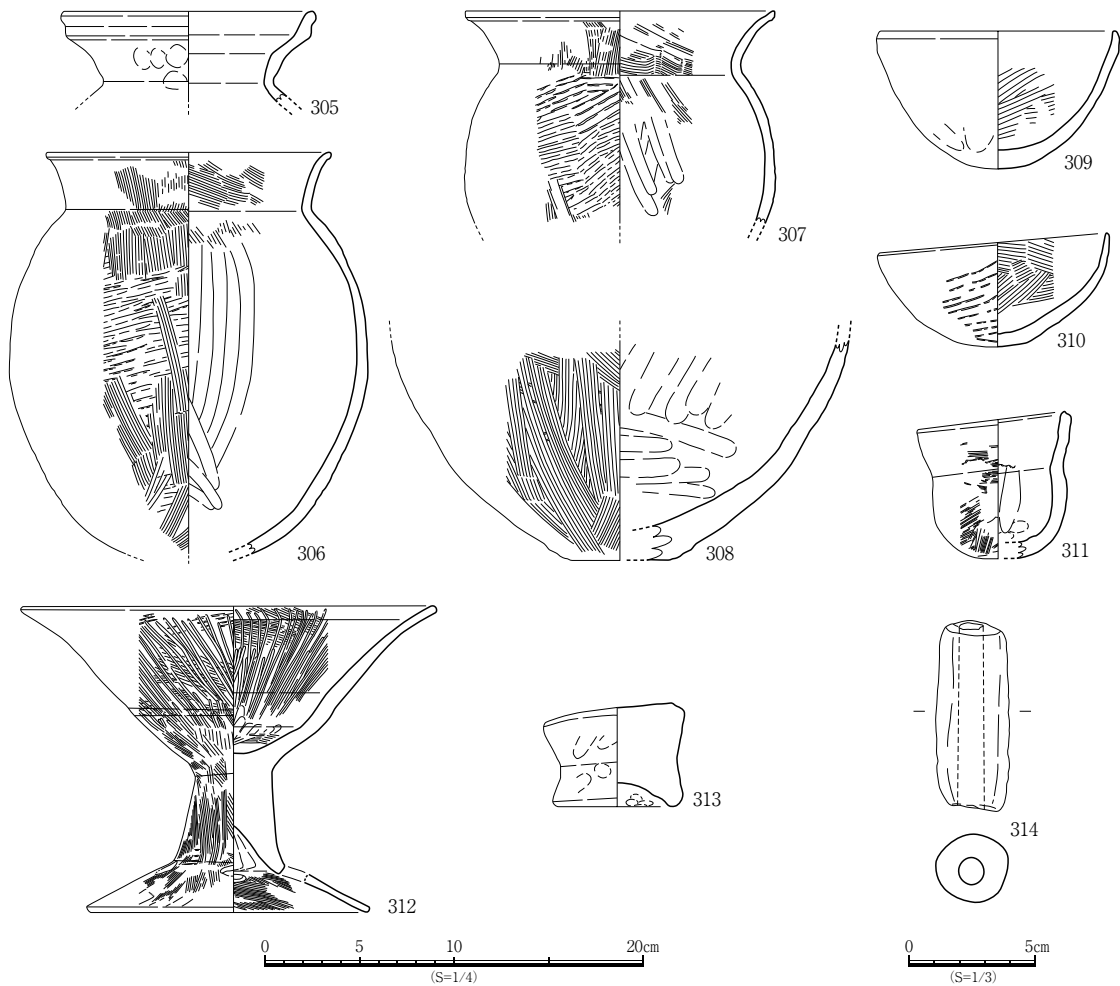


図2-50 ST32上層出土遺物実測図

ST32(図2-49)

調査区東部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡で、SD13・37・38・42に切られる。長軸約5.7m，短軸約5.4mを測り，面積は約30.8㎡である。検出面からの深さは約47cmで，床面の標高は約4.7mを測る。床面の周囲には地山削り出しのベッド状遺構が存在し，床面との比高差は7～15cmである。埋土は1層が土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂で，にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質細粒砂をブロック状に含み，2層が土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒～中粒砂で，床面では中央ピット，土坑，ピットを検出した。中央ピットは床面の南寄りに位置し，平面形は隅丸長方形を呈する。長軸約1.1m，短軸約0.8mを測り，床面からの深さは約17cmで，埋土は土器と炭化物を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質中粒砂である。検出したピットのうち床面隅に存在するP1～3は位置関係から支柱穴とみられ，床面からの深さはP1が29cm，P2が35cm，P3が21cmを測る。また，床面の北西側と北東側のベッド上に貯蔵穴とみられる土坑3基を確認している。SK1は平面形が不整楕円形を呈し，長軸約0.8m，短軸約0.6m，深さ11cmを測り，埋土は土器を含む小～大礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒～中粒砂である。SK2は平面形が楕円形で西側にテラスを有し，長軸約0.9m，短軸約0.8m，深さ28cm，SK3はSK2に切れ，南北長約0.5m，深さ11cmを測り，埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒～

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

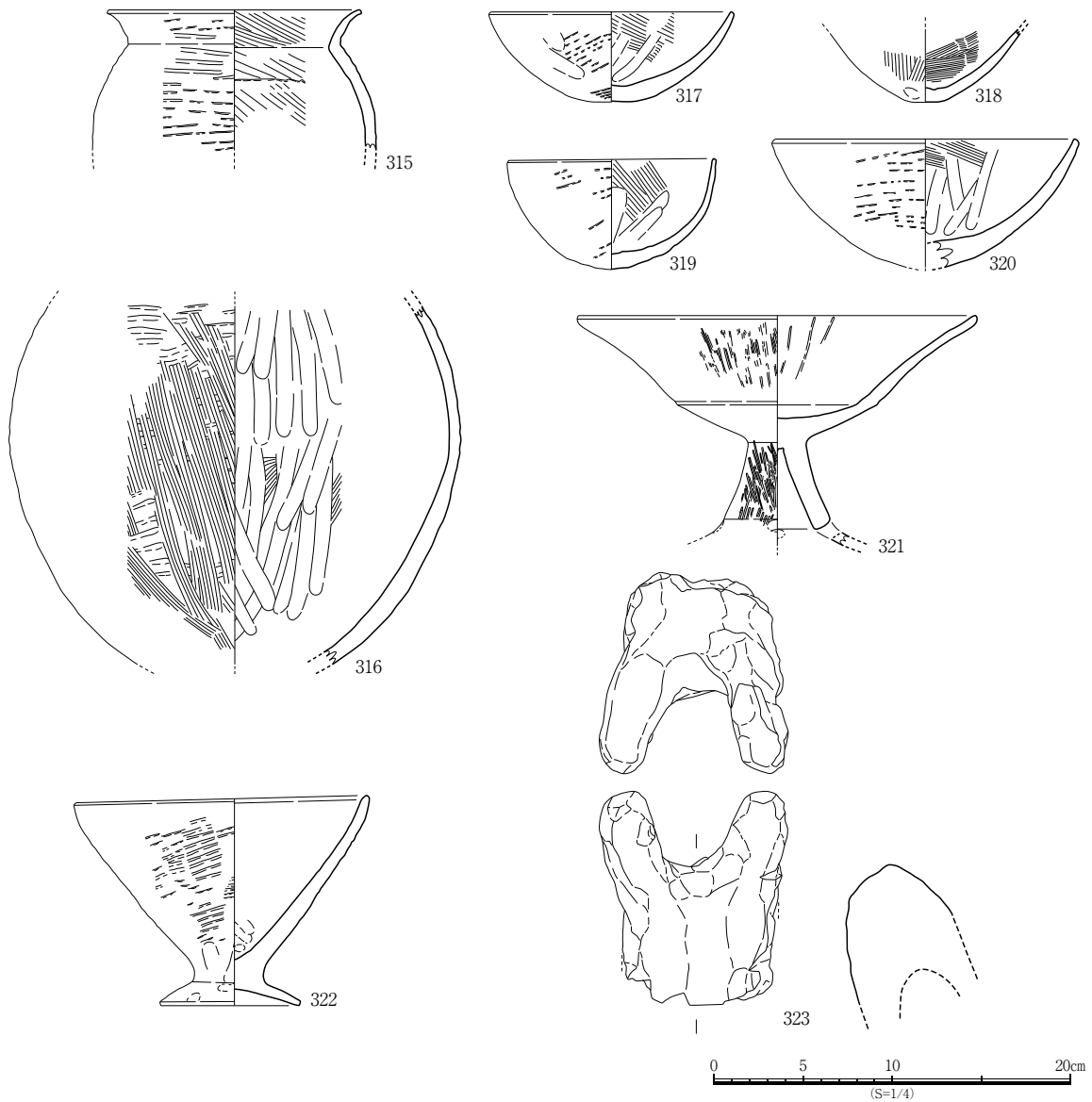


図2-51 ST32下層出土遺物実測図

粗粒砂ににぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒砂をブロック状に含む。

出土遺物は上層から弥生土器 1,375 点, 土製品 1 点, 下層から弥生土器 685 点, 床面から弥生土器 179 点, 中央ピットから弥生土器 12 点, 石製品 1 点, SK1 から弥生土器 4 点, SK2 から弥生土器 22 点, SK3 から弥生土器 9 点, P1 から弥生土器 1 点, P2 から弥生土器 2 点, P4 から弥生土器 2 点が出土し, 上層では弥生土器 9 点(305~313), 土製品 1 点(314), 下層では弥生土器 9 点(315~323), 床面では弥生土器 6 点(324~329), 中央ピットでは石製品 1 点(330)が図示できた。

上層出土遺物(図2-50 305~314)

305~312は弥生土器である。305は二重口縁壺で, 内外面にヨコナデを施す。306~308は甕である。306・307は口縁部が緩やかに外反するもので, 口縁端部内外面にヨコナデ, 口縁部内外面にハケ, 胴部内面にナデ, 胴部外面にタタキのちハケを施し, 胴部外面上半には煤が付着する。307は口縁端部内外面にヨコナデ, 口縁部内外面にハケ, 胴部内面にハケのちナデ, 胴部外面にタタキのちハケを

施し、外面全体には煤が付着する。308は底部破片で、内面にナデ、外面にタタキのちハケを施し、外底面にはナデ調整がみられる。309～311は鉢で、309・310は体部が緩やかに内湾して立ち上がる。309は平底を呈し、体部内面にハケ、口縁部内外面と体部外面にナデを施す。310は丸底を呈し、内面にハケ、外面にタタキのちナデを施す。311は口縁部が屈曲し斜め上方に短く立ち上がるもので、口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデ、体部外面にハケとナデを施す。312は有稜高杯で、杯部は口縁部内面にハケのちヨコナデ、体部内面にナデ、底部内

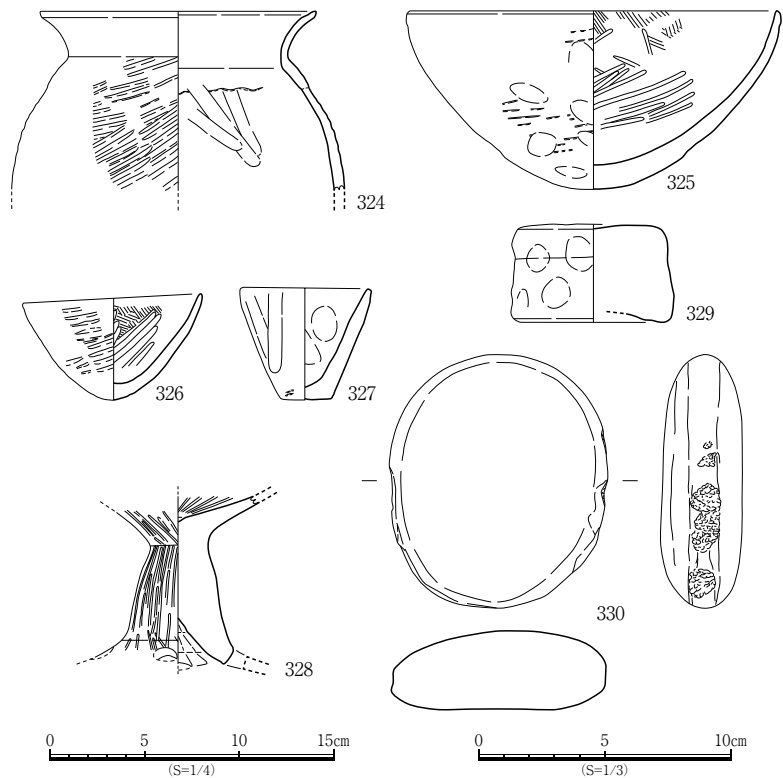


図2-52 ST32床面・中央ピット出土遺物実測図

面にハケ、口縁部外面にタタキのちヨコナデ、体部外面にハケを施す。脚部は内面にハケ、外面にタタキのち細かなハケを施し、脚裾端部にはヨコナデ調整を加える。杯部内外面には丁寧なヘラミガキを施し、内面には暗文状のヘラミガキ調整が認められ、脚裾部の穿孔は4カ所である。

313・314は土製品である。313は円柱状の支脚で外底面を凹ませ、表面には指オサエとナデ調整が認められる。314は土錘で、完存する。粘土板を丸めて成形したと考えられ、端部には接合部が残る。

下層出土遺物(図2-51 315～323)

315～322は弥生土器で、315・316は甕である。315は口縁部が外反して立ち上がり、内面にハケ、外面にタタキを施し、外面全体には煤が付着する。316は胴部破片で、内面にハケのちナデ、外面にタタキのちハケを施す。317～320は鉢である。317・318は平底を呈し、317は内面にハケのちナデ、外面にタタキのちナデを施す。318は口縁端部を欠損し、内外面にはハケを施し、外底面にはナデ調整がみられる。319・320は丸底を呈すると思われるもので、口縁部内面にハケのちナデ、体部内面にナデ、外面全体にタタキのちナデを施す。320は外面に焼成時の破裂痕が認められる。321は有稜高杯で、全体的に摩耗が著しいが、杯部内外面にヘラミガキ調整、脚部内面にヘラケズリ調整、杯部外面にハケ調整のちヘラミガキ調整が認められる。322は製塩土器と考えられるものである。摩耗が著しく調整は不明瞭であるが、底部内面と脚部内外面にナデ調整、外面全体にタタキ目が認められる。

323は土製品の支脚である。中空で脚部を欠損し、表面には指頭圧痕が明瞭に残る。

床面出土遺物(図2-52 324～329)

324～328は弥生土器である。324は甕で、底部を欠損する。全体的に摩耗が著しく調整は不明瞭であるが、胴部内面にナデ調整、胴部外面にタタキ目がみられる。325～327は鉢である。325は丸底を呈し、口縁部内面にハケ、口縁端部外面にヨコナデ、体部外面にタタキのちナデを施し、内面には丁

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

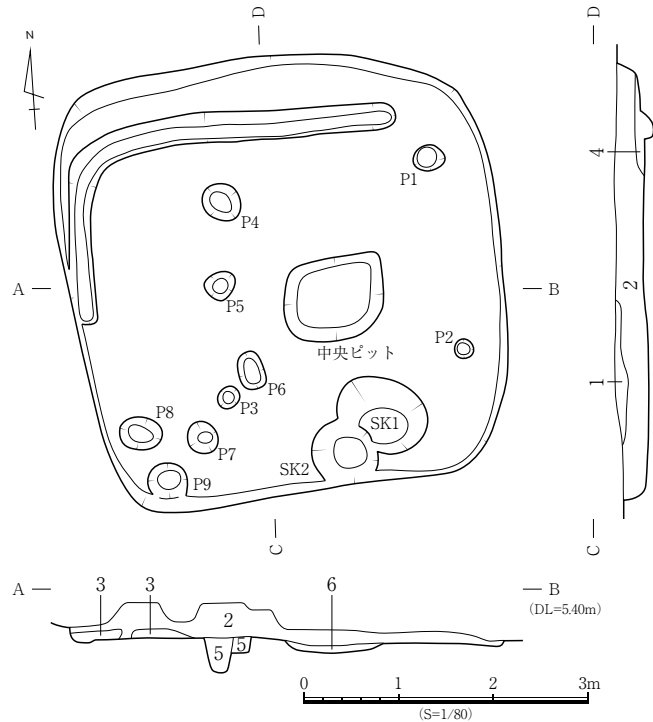
寧なヘラミガキ調整を加える。326は尖底を呈するもので、口縁部内面にハケのちナデ、体部内面にナデ、外面全体にタタキを施す。327はコップ状を呈するもので、内面にナデと指オサエ、外面にタタキのちナデを施し、外面には焼成時の破裂痕が認められる。328は高杯の脚柱部破片で、杯底部内外面と脚部外面にヘラミガキ、脚部内面にヘラケズリを施す。

329は土製品の支脚で、円柱状を呈し外底面を凹ませ、表面には指オサエとナデ調整が認められる。
中央ピット出土遺物(図2-52 330)

330は石製品の叩石で、側面には明瞭な敲打痕がみられ、石材は砂岩である。

ST33(図2-53)

調査区南東部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡で、SD43～45に切られる。長軸約4.7m、短軸約4.6mを測り、面積は約21.6㎡である。検出面からの深さは約38cmで、床面の標高は約4.8mを測る。床面の北側と西側には土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂と土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒～中粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒～粗粒砂をブロック状に含むもので構築されたベッド状遺構を確認し、床面との比高差は約9cmである。埋土は1層が土器を含む小～大礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂、2層が土器を含む小～大礫混じりの黒褐色(10YR2/2)シルト質中粒砂で、床面では中央ピット、土坑、ピット、壁溝を検出した。中央ピットは床面のやや南東寄りに位置し、平面形は隅丸方形を呈する。長軸約1.0m、短軸約0.9mを測り、床面からの深さは約10cmで、埋土は土器と炭化物



遺構埋土

1. 土器を含む小～大礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂
2. 土器を含む小～大礫混じりの黒褐色(10YR2/2)シルト質中粒砂
3. 土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂(ベッド状遺構)
4. 土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒～中粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒～粗粒砂をブロック状に含む(ベッド状遺構)
5. 土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒～粗粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒砂をブロック状に含む(P5)
6. 土器と炭化物を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒～中粒砂(中央ピット)

図2-53 ST33

を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒～中粒砂である。検出したピットのうちやや東寄りであるが、P1～4が主柱穴と想定される。床面からの深さはP1が25cm、P2が15cm、P3が26cm、P4が21cmを測る。また、床面の南側で貯蔵穴とみられる土坑2基を確認している。SK1は平面形が楕円形を呈し、SK2に切られており短軸は不明であるが、長軸約1.0m、深さ16cm、SK2は平面形が円形を呈し、SK1を切り、径約0.7m、深さ21cmで、埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒～粗粒砂ににぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒砂をブロック状に含む。壁溝は床面の北側と北西側で確認しており、残存長約4.9m、幅約0.3m、深さ約18cmを測る。この壁溝は竪穴建物跡の北壁から約40cm離れ、ベッド状遺構の構築土で埋まっていることから、この竪穴建物跡が拡張される前のものと推測される。

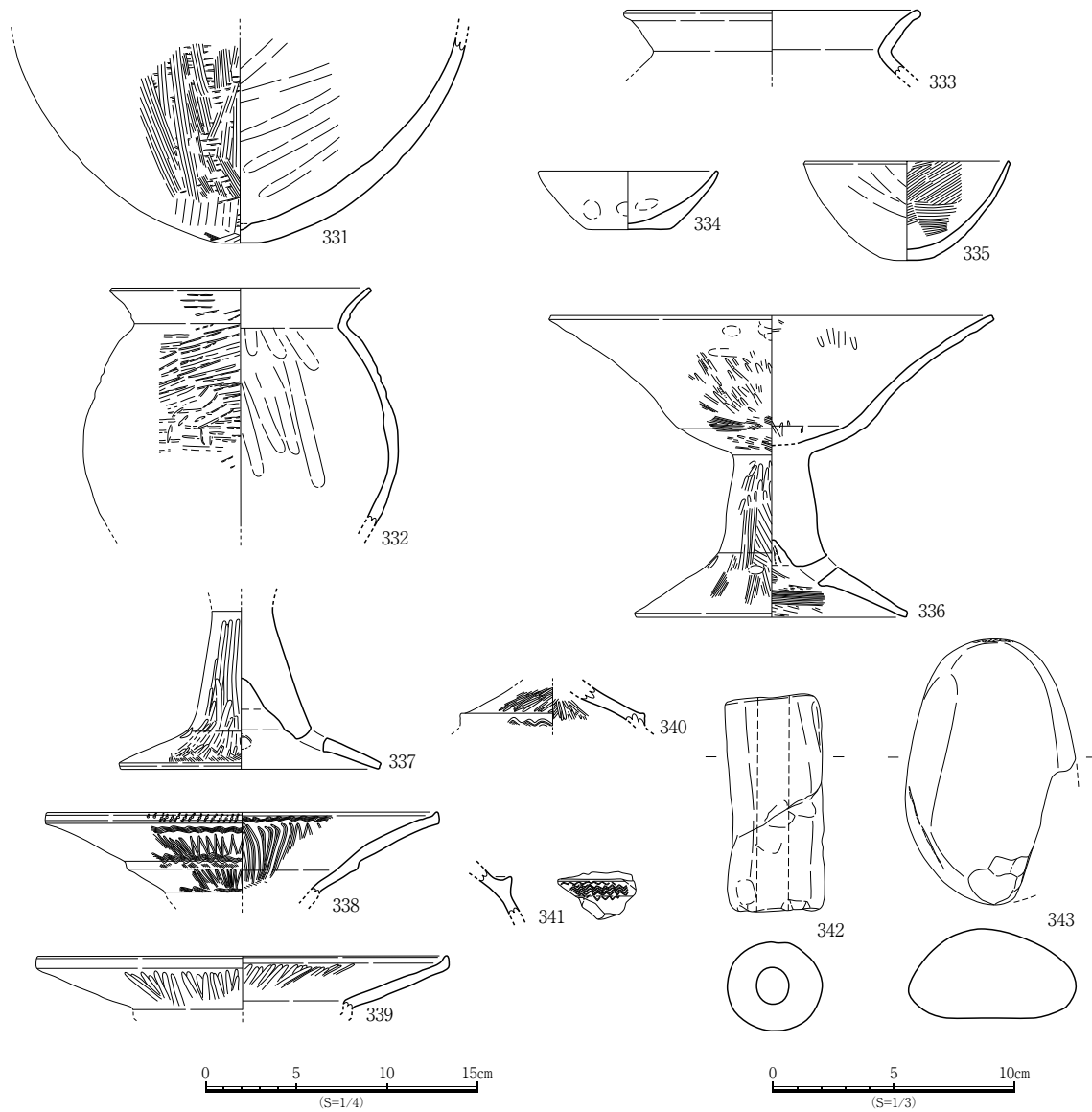


図2-54 ST33上層出土遺物実測図

出土遺物は上層から弥生土器1,510点、土製品1点、石製品1点、庄内式土器8点、下層から弥生土器876点、庄内式土器8点、床面から弥生土器102点、石製品2点、金属製品1点、SK2から弥生土器57点、P4から弥生土器2点、壁溝から弥生土器9点が出土し、上層では弥生土器11点(331~341)、土製品1点(342)、石製品1点(343)、下層では弥生土器18点(344~361)、庄内式土器1点(362)、床面では弥生土器2点(363・364)、石製品2点(365・366)、金属製品1点(367)、SK2では弥生土器4点(368~371)が図示できた。

上層出土遺物(図2-54 331~343)

331~341は弥生土器である。331は壺の底部破片と考えられるもので、内面にナデ、外面にタタキのちハケを施す。332・333は甕である。332は口縁部内面と口縁端部外面にヨコナデ、胴部内面にナデ、口縁部外面と胴部外面上半にタタキのちナデ、胴部外面下半にナデを施し、口縁部外面と胴部上端に煤が付着する。333は口縁部内外面にヨコナデとナデ、胴部内外面にナデを施す。334・335は鉢

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

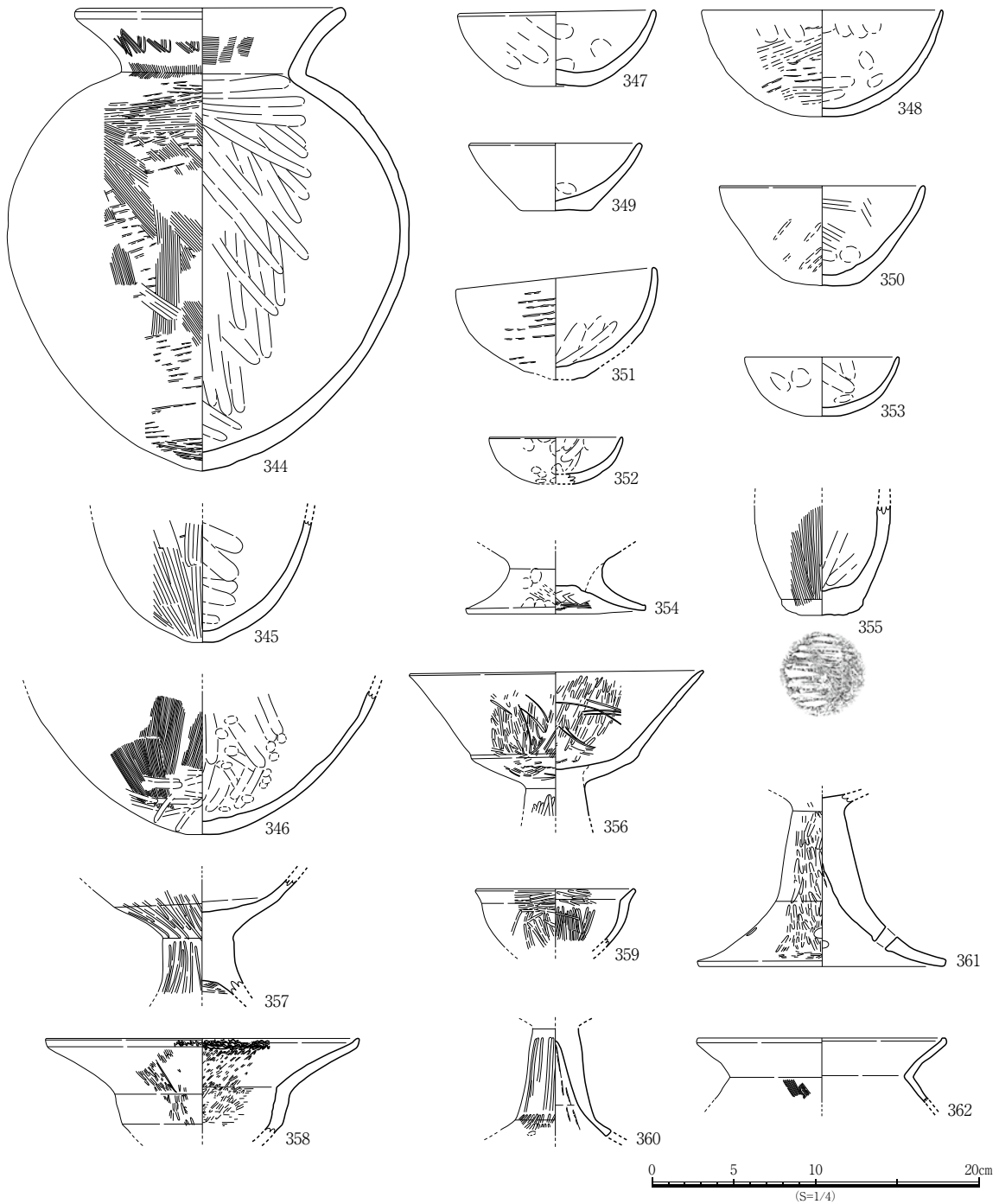


図2-55 ST33下層出土遺物実測図

で、平底を呈する。334は内外面にナデを施す。335は内面にハケ、外面にタタキのちナデを施す。336～341は高杯である。336は有稜高杯で、口縁部内外面にヨコナデ、杯部内面にナデ、杯部外面と脚部内外面にハケを施し、杯部内外面と脚部外面に粗いヘラミガキ調整を加える。337は杯部を欠損するもので、摩耗が著しく調整は不明瞭であるが、外面にハケ調整のちヘラミガキ調整、内面にナデ調整、脚裾端部にヨコナデ調整が認められる。338は有稜高杯と考えられるもので、口縁端部を上方に拡張し、内外面にヨコナデを施す。口縁端部に斜傾する5孔単位の刺突文がみられ、外面には5条単位の

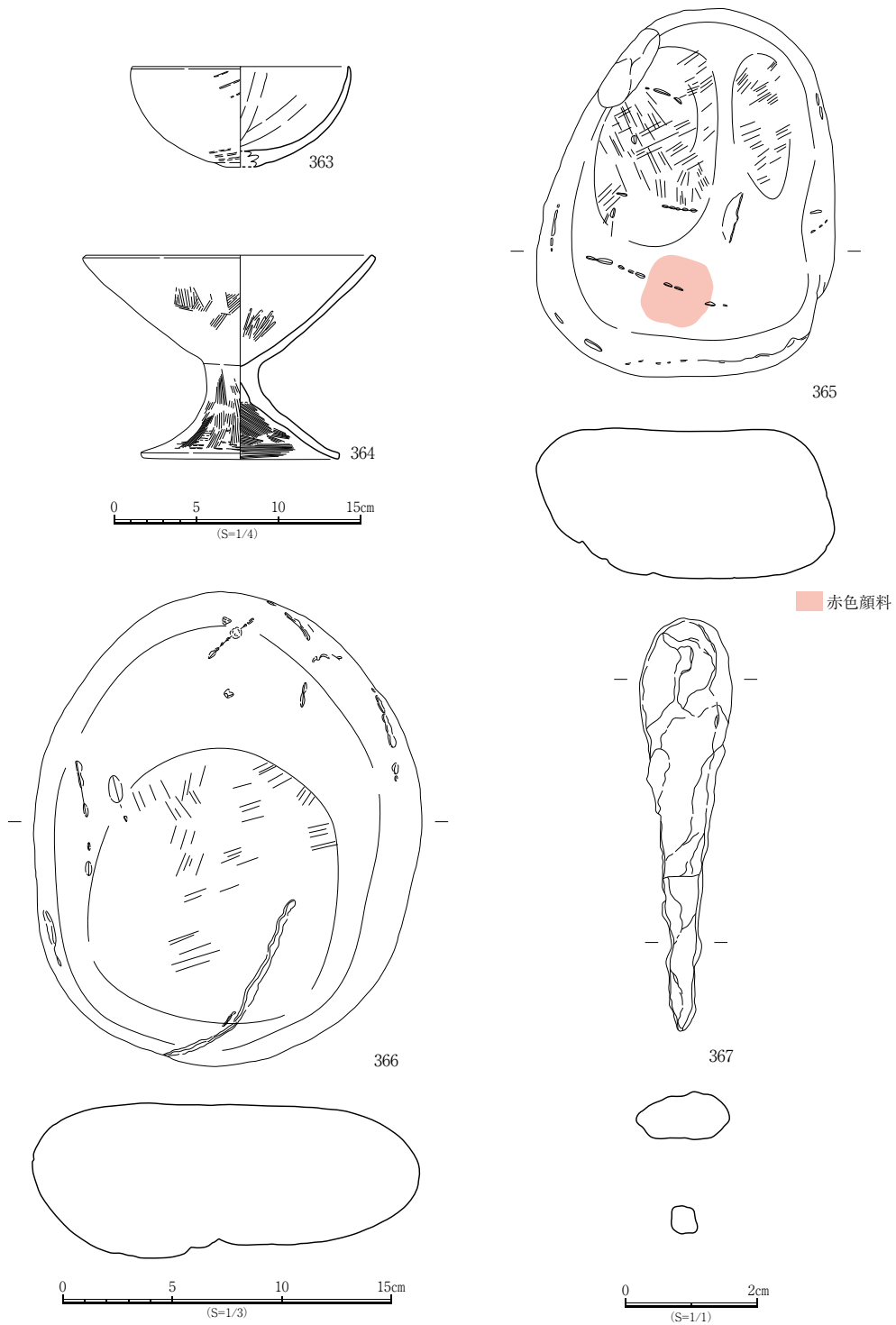


図2-56 ST33床面出土遺物実測図

波状文を配し、その間に山形状のヘラミガキを施す。口縁部内面には5条単位の波状文を配し、杯体部内面には放射状のヘラミガキを施す。339は有段高杯と考えられるもので、口縁端部を上方に拡張する。口縁端部内外面にヨコナデ、体部内外面にヘラミガキを施す。340・341は有段高杯の脚部と考えられるもので、段部外面に波状文を配する。340は畿内からの搬入品で内外面にヘラミガキ、341

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

は内外面にヨコナデを施す。

342は土製品の土錘である。完存し、表面にはナデを施す。

343は石製品の叩石で、一部を欠損する。片側端部に敲打痕がみられ、表面の一部に赤色顔料とみられるものが付着する。石材は砂岩である。

下層出土遺物(図2-55 344~362)

344~361は弥生土器で、344は壺である。口縁部は緩やかに外反して立ち上がり、口縁部内面にハケ、胴部内面にナデ、口縁部外面にヨコナデ、胴部外面にタタキを施し、胴部上半にはハケ調整を加える。口縁部外面には波状文を配し、胴中央部外面には煤が付着する。345・346は甕である。345は内面にナデ、外面にタタキのちハケを施す。346は搬入品の可能性が考えられるもので、内面に指オサエとナデ、外面にハケを施し、胴部外面下端にはナデ調整を加える。胴部外面下半には煤が付着する。347~355は鉢である。347~350は平底を呈し、347・348は体部が内湾して立ち上がり、349・350は体部が斜め上方に直線的に立ち上がるものである。347は内外面には丁寧なナデ調整を施す。348は内面にナデ、外面にタタキのちナデを施し、口縁端部外面には煤が付着する。349は内外面に丁寧なナデを施す。350は内面にハケのちナデ、外面にタタキのちナデを施す。351は丸底を呈するもので、体部は内湾して立ち上がる。内面にはナデ、外面にはタタキのちナデを施す。352・353は皿状を呈するもので、352は内外面に指頭圧痕とナデ調整、353は内外面にナデ調整が認められる。354は脚付鉢の脚部破片と考えられるもので、内面に板ナデとハケ、外面にハケのちナデを施し、脚裾端部にはヨコナデ調整がみられる。355はコップ状を呈するもので、内面にナデ、外面にタタキのちハケ、外底面にはタタキ目が認められる。356~361は高杯である。356・357は有稜高杯で、356は口縁端部内外面にヨコナデ、体部内外面と脚部外面に丁寧なヘラミガキを施す。357は杯口縁部と脚裾部を欠損し、外面にヘラミガキ、脚部内面にハケを施す。358は有段高杯の杯部破片である。口縁端部は屈曲し、上方に短く立ち上がる。体部内面上半にヘラミガキとナデ、下半にハケのちヘラミガキ、外面全体にヘラミガキを施し、口縁端部内外面に波状文を配する。359は口縁端部が屈曲し、斜め上方に短く立ち上がるもので、内外面に丁寧なヘラミガキを施す。360は脚柱部破片で、外面にはナデ調整のちヘラミガキ調整が認められ、裾部の穿孔は1ヵ所のみ残存する。361は脚部破片で、内面上半に板ナデ、下半にヨコナデ、外面に丁寧なヘラミガキを施す。

362は庄内式土器の甕で、口縁端部を上方に拡張する。口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にヘラケズリ、胴部外面にタタキを施す。

床面出土遺物(図2-56 363~367)

363・364は弥生土器である。363は鉢で、平底を呈し、体部は内湾して立ち上がる。内面にナデ、外面にタタキのちナデを施す。364は高杯で、杯体部は斜め上方に直線的に立ち上がる。口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にヘラミガキ、体部外面にハケのちナデ、脚部は内面にハケ、外面にタタキのちハケを施し、脚裾端部はヨコナデにより面をなす。

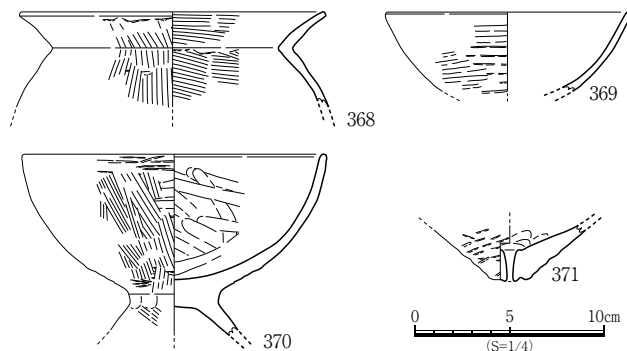


図2-57 ST33(SK2)出土遺物実測図

365・366は石製品の台石で、片面に使用痕が認められ、365には一部に赤色顔料とみられるものが付着する。

367は金属製品である。有茎式と考えられる鉄鎌で、錆膨れにより全体の形状は不明瞭である。

SK2出土遺物(図2-57 368~371)

368~371は弥生土器で、368は甕である。口縁端部にヨコナデ、内面にハケ、口縁部外面にハケ、胴部外面にタタキのちハケを施し、口縁端部外面にはヨコナデ調整を加える。369・370は鉢である。369は底部を欠損し、内面にナデ、外面にタタキを施す。370は脚付鉢で脚裾部を欠損する。鉢部と脚部の内面にナデ、鉢部外面にタタキのちハケ、脚部外面にハケを施す。371は甌で、内面に指頭圧痕、外面にタタキを施す。底部の穿孔は1カ所である。

ST34(図2-58)

調査区南東部で検出した不整形を呈する竪穴建物跡で、SD43~45に切られる。東側と南側が調査区外へ続き、規模は不明である。検出面からの深さは約40cmで、床面の標高は約4.8mを測る。床面の周囲には西側の南部と南側にテラスを有する地山削り出しのベッド状遺構が存在し、床面との比高差は16~18cmである。埋土は土器を含む小~中礫混じりの灰黄褐色(10YR4/2)シルト質中粒~粗粒砂で、床面では中央ピット、土坑、ピット、壁溝を検出した。中央ピットは床面のほぼ中央に位置し、平面形は楕円形を呈する。長軸約0.9m、短軸約0.7mを測り、床面からの深さは約15cmで、埋土は土器を含む黒褐色(10YR3/1)シルト質中粒砂である。検出したピットのうち位置関係からP1・2が支柱穴と考えられ、床面からの深さはP1が37cm、P2が29cmを測る。また、中央ピットの南西側と西側のベッド上で貯蔵穴とみられる土坑3基を確認

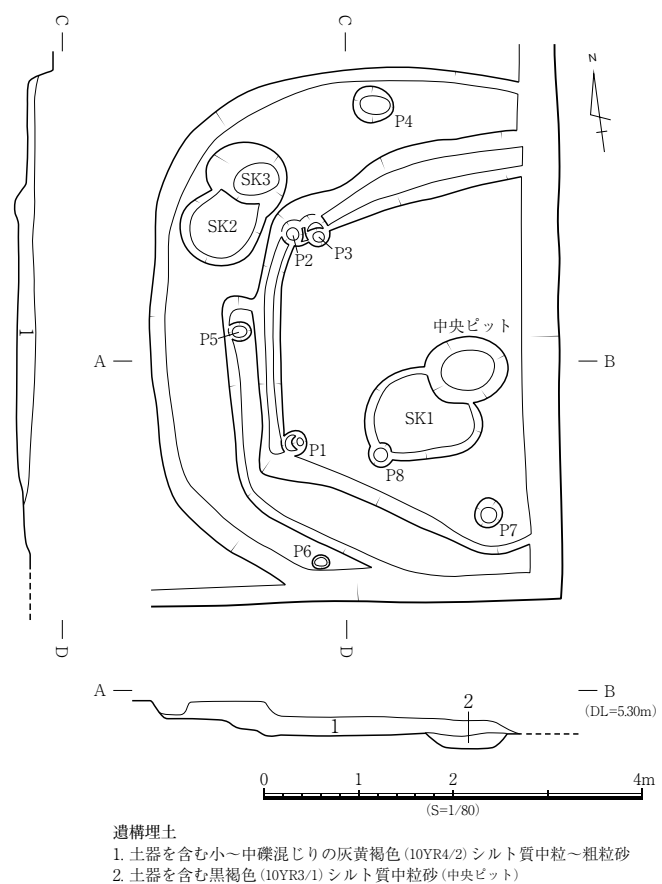


図2-58 ST34

している。SK1は中央ピットに付属するもので平面形は不整形を呈し、径約1.1m、深さ8cmを測る。SK2は平面形が不整形を呈し、SK3に切られ長軸は不明であるが、短軸約0.8m、深さ11cm、SK3は平面形が不整形を呈し、径約0.8m、深さ16cmを測る。埋土はいずれも土器を含む小~中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒~粗粒砂に、黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒砂をブロック状に含む。壁溝は床面の西側と北側で確認しており、残存長約4.8m、幅27~46cm、深さ2~6cmを測る。

出土遺物は上層から弥生土器2,538点、庄内式土器6点、下層から弥生土器582点、庄内式土器1点、

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

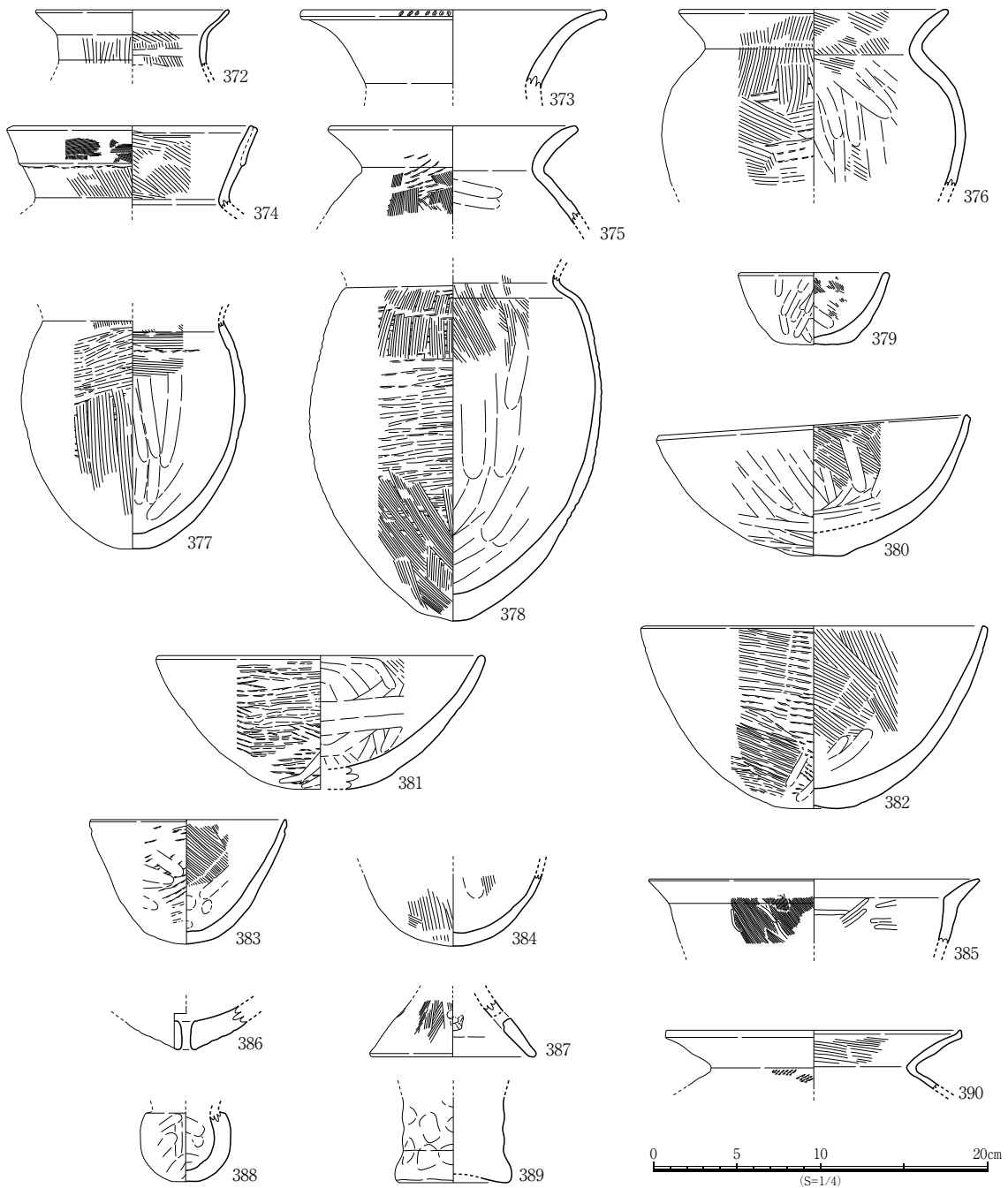


図2-59 ST34上層出土遺物実測図

石製品1点, 床面から弥生土器36点, 庄内式土器1点, 中央ピットから弥生土器8点, SK3から弥生土器8点, P1から弥生土器4点, P2から弥生土器1点, P8から弥生土器3点, 壁溝から弥生土器2点が出土し, 上層では弥生土器18点(372~389), 庄内式土器1点(390), 下層では弥生土器8点(391~398), 石製品1点(399), 床面では弥生土器7点(400~406)が図示できた。

上層出土遺物(図2-59 372~390)

372~388は弥生土器で, 372~374は壺と考えられるものである。372は頸部が垂直に立ち上がり, 口縁部は屈曲し斜め上方に短く延びる。口縁部内外面にはヨコナデ, 頸部内外面にはハケのちナデ

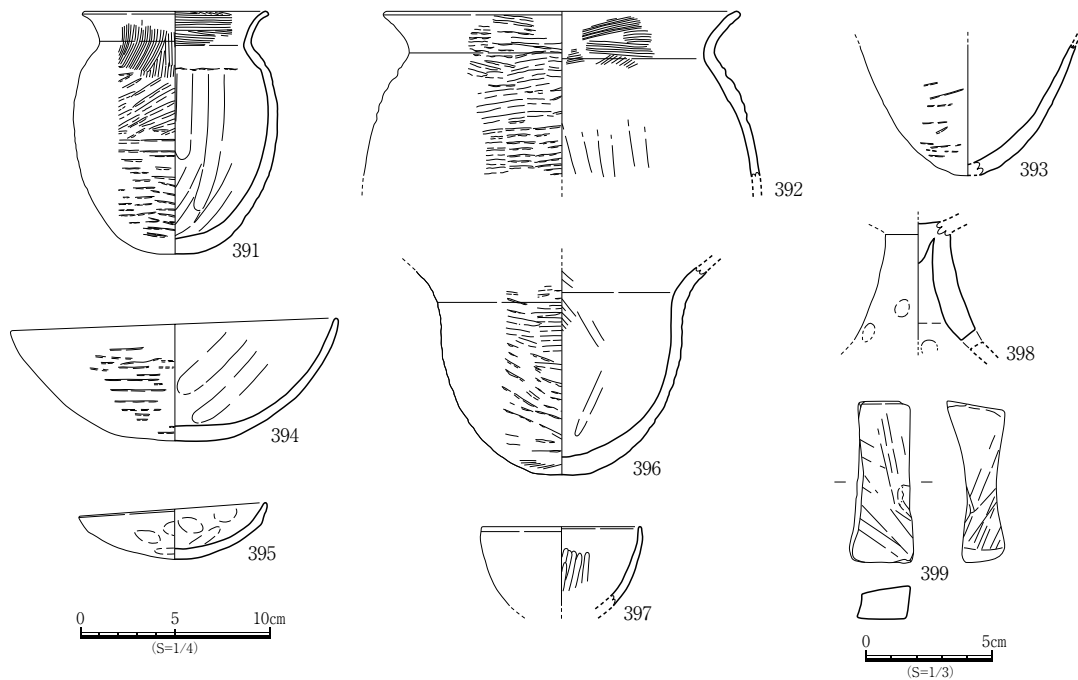


図2-60 ST34下層出土遺物実測図

を施す。373は広口壺で、口縁端部に刻目が認められる。摩耗が著しく調整は不明瞭であるが、口縁部内面にヨコナデ調整が残る。374は口縁部破片で、外面中程に段を有する。口縁端部はヨコナデにより面をなし、内面にハケ、外面にヨコナデのちハケを施す。375～378は甕である。375・376は口縁部から胴部にかけての破片で、口縁部は斜め上方に直線気味に立ち上がる。375は口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にナデ、胴部外面にタタキのちナデとハケを施す。376は口縁部内外面にハケのちヨコナデ、口縁部内面下端から胴部内面にハケのち強いナデ、胴部外面にタタキのちハケを施す。377・378は口縁部を欠損するもので、377は胴部内面上半にハケ、胴部内面下半にナデ、胴部外面にタタキを施し、胴中央部外面にハケ調整、胴下部外面にナデ調整を加える。378は胴部内面上半にハケのちナデ、胴部内面下半にナデ、胴部外面にタタキを施し、胴部外面上端と下半にハケ調整を加え、胴部外面上半には煤が付着する。379～385は鉢である。379～382は平底を呈し、口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。379は内面にハケのちナデ、外面にナデを施し、器面には焼成時の破裂痕がみられる。380は口縁端部にヨコナデ、口縁部内面にハケのちナデ、体部内面に丁寧なナデ、外面全体にナデを施す。381は内面にハケのち丁寧なナデ、外面にタタキを施し、外面下端にはナデ調整を加える。382は内面にハケのち丁寧なナデ、外面にタタキのちナデを施す。383・384は丸底を呈するもので、383は口縁部内面にハケのちナデ、体部内面にナデと指オサエ、外面全体にタタキのちナデを施す。384は口縁部を欠損し、内面にハケのちナデ、外面にハケを施す。385は口縁部が屈曲し、斜め上方に短く立ち上がるもので、口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にヨコナデのちヘラミガキ、体部外面にハケのち部分的にヘラミガキを施す。386は甌の底部破片で、調整は摩耗のため不明である。底部の穿孔は1カ所認められる。387は器台の脚部破片と考えられるものである。内面と脚裾端部内外面にヨコナデ、外面にハケを施し、穿孔は4カ所認められる。388は手づくね土器で、口縁部を欠損し、内外面にはナデと指オサエを施す。

389は土製品の支脚脚部と考えられるもので、中実である。外底面は凹み、表面には指オサエとナ

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

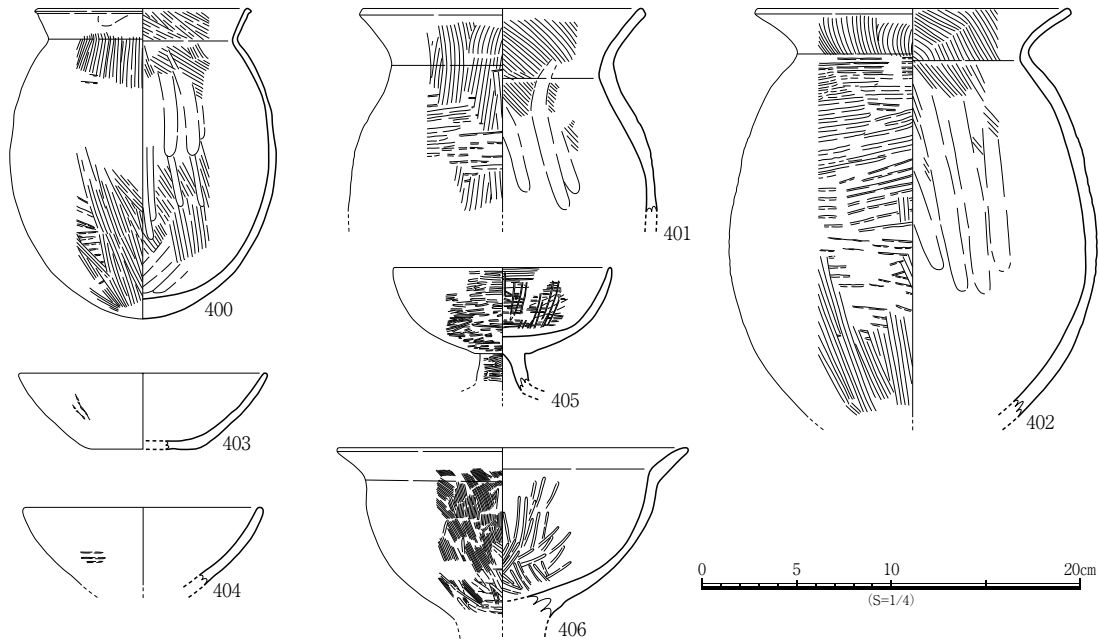


図2-61 ST34床面出土遺物実測図

デを施す。

390は庄内式土器甕の口縁部破片で、口縁端部は上方につまみ上げる。口縁部内面にハケ、口縁部外面にヨコナデ、胴部内面にヘラケズリ、胴部外面にタタキを施し、外面全体には煤が付着する。

下層出土遺物(図2-60 391~399)

391~398は弥生土器で、391~393は甕である。391は小型の甕で、ほぼ完存する。口縁端部にヨコナデ、口縁部内外面にハケ、胴部内面にナデ、胴部外面にタタキを施し、外底面にはナデ調整が認められる。392は口縁部から胴部にかけての破片で、口縁部はやや外反して立ち上がる。口縁部内面にはハケ、胴部内面にはナデ、外面全体にはタタキを施し、口縁部外面のみ煤が付着する。393は底部破片で、摩耗が著しく調整は不明であるが、外面にタタキ目が残る。394~396は鉢である。394は平底を呈し、体部は緩やかに内湾して立ち上がる。口縁端部内外面にヨコナデ、内面に丁寧なナデ、外面にタタキのちナデを施す。395は皿状を呈するものである。手づくね成形で、内外面にナデを施す。396は口縁部が屈曲し、斜め上方に短く立ち上がるもので、口縁端部を欠損する。口縁部と体部内面上半にハケ、体部内面下半にナデ、外面全体にタタキを施す。397・398は高杯である。397は椀状を呈する高杯の杯部破片と考えられるもので、口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にヘラミガキ、体部外面にナデを施す。398は脚柱部破片で、調整は摩耗が著しく不明である。脚部の穿孔は3カ所とみられ、杯部と脚部の接合方法は差し込みとみられる。

399は石製品の砥石で、完存する。3面に使用痕が認められ、一部に赤色顔料とみられるものが付着する。石材は泥岩と考えられる。

床面出土遺物(図2-61 400~406)

400~406は弥生土器である。400~402は甕で、口縁部が斜め上方に直線的に立ち上がるものである。400は全体の形状が復元できたもので、口縁部内面と胴部内面上端にハケ、胴部内面にハケのちナデ、口縁部外面にヨコナデ、胴部外面にタタキを施し、胴部外面上端と下半にハケ調整、中央部にナデ調

整を加える。401は口縁端部にヨコナデ、口縁部内面と胴部内面上半にハケ、口縁部外面にハケ、胴部外面にタタキを施し、胴部内面に強いナデ調整、胴部外面にハケ調整を加える。402は口縁部内外面と胴部内面上半にハケ、胴部内面にナデ、胴部外面にタタキを施し、胴部外面下半にはハケ調整を加える。口縁部から胴中央部外面には煤が付着する。403・404は鉢である。403は平底を呈し、摩耗のため調整は不明である。404は底部を欠損し、口縁端部内外面にはヨコナデ、体部内面にはナデ、体部外面にはタタキのちナデを施す。405・406は高杯である。405は杯部が椀状を呈するもので、内外面ともヨコ方向の密なヘラミガキを施す。内面には放射状のヘラミガキ調整を加え、一部に赤色顔料とみられるものが付着する。406は体部は緩やかに内湾して立ち上がり、口縁部を屈曲させ斜め上方に短く立ち上げる。杯部下端には接合部が剥離した痕跡が認められ、杯底部に脚部を差し込む接合方法であったと考えられる。口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にヨコナデとナデのちヘラミガキ、体部外面にハケとタタキのち部分的にヘラミガキを施す。

(2) 掘立柱建物跡

SB1(図2-62)

調査区北西部で検出した桁行2間(3.5m)、梁行2間(2.8m)の南北棟建物跡で、軸方向はN-6°-Wである。柱間寸法は桁行1.6~1.9m、梁行1.2~1.6mで、面積は9.8㎡を測る。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し、径23~72cm、深さ16~60cmで、埋土は土器を含む小~中礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒~中粒砂である。

出土遺物はP1から弥生土器10点、P3から弥生土器9点、P4から弥生土器21点、P6から弥生土器5点がみられたが、図示できるものはなかった。

SB2(図2-63)

調査区北西部で検出した桁行2間(5.3m)、梁行2間(3.4m)の東西棟建物跡で、軸方向はN-72°-Eである。柱間寸法は桁行2.5~2.8m、梁行1.4~2.0mで、面積は18.0㎡を測る。柱穴の掘方は概ね円形を呈し、径25~47cm、深さ29~50cmである。埋土は土器を含む小~中礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒~中粒砂で、P5~7の柱間には溝状の掘り込みがみられた。

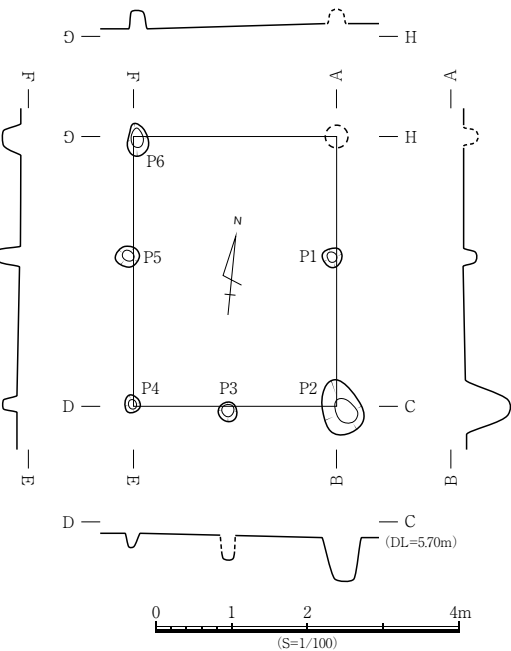


図2-62 SB1

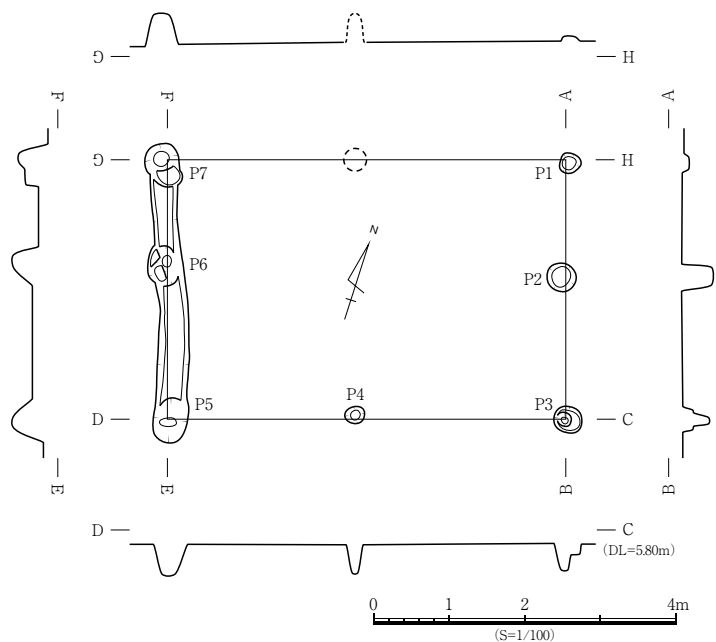


図2-63 SB2

2. 検出遺構と遺物 (2) 掘立柱建物跡

出土遺物はP2から弥生土器10点、P3から弥生土器16点、P4から弥生土器11点、P5から弥生土器9点がみられ、P5の弥生土器1点(407)が図示できた。

P5出土遺物(図2-64 407)

407は弥生土器の甕で、ほぼ完存する。口縁は斜め上方に直線的に立ち上がり、底部は丸底を呈する。口縁部内外面にヨコナデ、内面に指オサエのちナデ、外面にタタキのち丁寧なヘラミガキを施す。

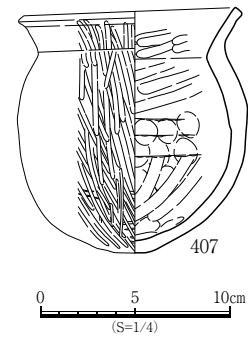
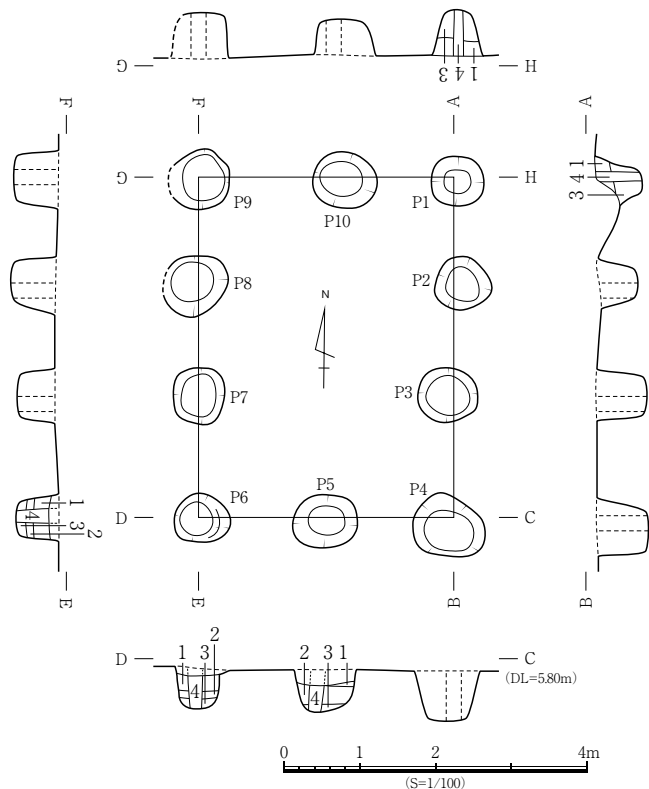


図2-64 SB2(P5)出土遺物実測図

SB3(図2-65)

調査区北西部で検出した桁行3間(4.5m)、梁行2間(3.45m)の南北棟建物跡で、軸方向はN-0.5°-Wである。柱間寸法は桁行1.5m、梁行1.65~1.8mで、面積は15.5㎡を測る。柱穴の掘方は不整隅丸方形を呈し、一辺67~98cm、深さ49~67cmで、埋土は1層が土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質中粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質粗粒砂をブロック状に含み、2層が土器を含む小~中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質粗粒砂をブロック状に含み、3層が土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒砂で、黄褐色(10YR5/6)シルト質中粒砂をブロック状に含み、4層が土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂で、褐色(10YR4/4)シルト質中粒砂をブロック状に含む。



遺構埋土

1. 土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質中粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質粗粒砂をブロック状に含む
2. 土器を含む小~中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質粗粒砂をブロック状に含む
3. 土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒砂で、黄褐色(10YR5/6)シルト質中粒砂をブロック状に含む
4. 土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂で、褐色(10YR4/4)シルト質中粒砂をブロック状に含む

図2-65 SB3

出土遺物はP1から弥生土器128点、須恵器1点、P2から弥生土器5点、P3から弥生土器85点、土師器5点、P4から弥生土器1点、P5から弥生土器18点、P6から弥生土器21点、P7から弥生土器2点、P8から弥生土器2点、P9から弥生土器32点、P10から弥生土器42点がみられたが、図示できるものはなかった。

SB4(図2-66)

調査区西部で検出した桁行3間(4.95m)、梁行3間(3.9m)の南北棟建物跡で、軸方向はN-1°-Wである。柱間寸法は桁行1.65m、梁行1.2~1.35mで、面積は19.3㎡を測る。柱穴の掘方は隅丸方形を呈し、一辺79~103cm、深さ63~92cmで、P2・3をSK38に、P9をSK37に切られている。埋土は1層が

土器を含む小～中礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂をブロック状に含み、2層が土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/4)シルト質細粒砂で、褐色(10YR4/4)シルト質細粒砂をブロック状に含み、3層が土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂で、褐色(10YR4/4)シルト質細粒砂をブロック状に含み、4層が土器を含む小礫混じりの灰黄褐色(10YR4/2)シルト質粗粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトをブロック状に含み、5層が土器を含む黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂である。

出土遺物はP1から弥生土器30点、土師器7点、P1柱痕から弥生土器2点、P2から弥生土器1点、P3から弥生土器10点、P4から弥生土器4点、P5から弥生土器13点、P7から弥生土器9点、土師器2点、P8から弥生土器4点、土師器3点、須恵器2点、P9から弥生土器9点、土師器5点、須恵器2点、P11から弥生土器17点、土師器5点、P12から弥生土器31点、土師器19点、須恵器1点がみられ、P8の須恵器1点(408)が図示できた。

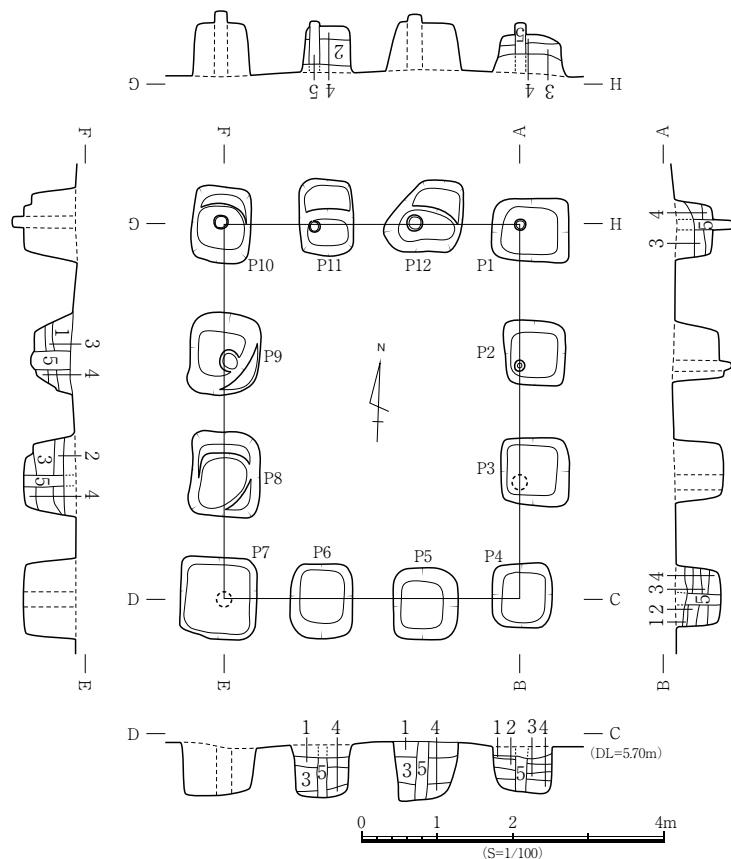
P8出土遺物(図2-67 408)

408は須恵器の器台とみられる受部破片である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部はやや内側に屈曲し面をなす。内外面に回転ナデを施し、外面には2条の沈線を配する。

SB5(図2-68)

調査区南部で検出した東西棟と考えられる建物跡である。東側と南側は調査区外へ続くため規模は不明で、軸方向はN-89.5°-Eとみられる。柱間寸法は桁行1.65m、梁行1.35mで、柱穴の掘方は不整隅丸方形を呈し、一辺83~131cm、深さ41~60cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

出土遺物はP1から弥生土器7点、土師器1点、須恵器2点、P2から弥生土器7点、土師器1点、P3



遺構埋土

1. 土器を含む小～中礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂をブロック状に含む
2. 土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/4)シルト質細粒砂で、褐色(10YR4/4)シルト質細粒砂をブロック状に含む
3. 土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂で、褐色(10YR4/4)シルト質細粒砂をブロック状に含む
4. 土器を含む小礫混じりの灰黄褐色(10YR4/2)シルト質粗粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトをブロック状に含む
5. 土器を含む黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂

図2-66 SB4

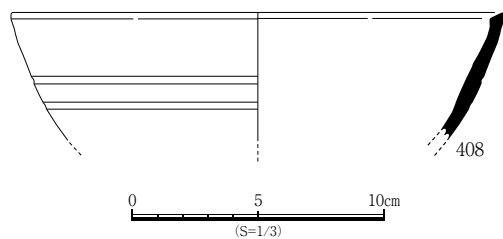


図2-67 SB4(P8)出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (2) 掘立柱建物跡

から弥生土器 8 点, P4 から弥生土器 2 点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SB6(図2-69)

調査区南部で検出した東西棟と考えられる建物跡である。南側は調査区外へ続くため規模は不明で, 軸方向はN-82.5°-Wとみられる。柱間寸法は桁行1.35~1.65m, 梁行1.35mで, 柱穴の掘方は不整隅丸方形を呈し, 一辺69~85cm, 深さ21~40cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

出土遺物はP1から弥生土器176点, P2から弥生土器56点, 土師器3点, 須恵器1点, P3から弥生土器26点, 須恵器2点, P4から弥生土器94点, 土師器1点, P5から弥生土器24点, 須恵器1点, P6から弥生土器511点, 土師器4点, 須恵器4点がみられ, P5の弥生土器1点(409)が図示できた。

P5出土遺物(図2-70 409)

409は弥生土器で, 山陰系の壺とみられる口縁部破片である。外面には段部を有するが, 成形は雑である。内外面にはヨコナデを施し, 外面下部は摩耗のため調整は不明である。

SB7(図2-71)

調査区中央部の南東寄りで検出した桁行3間(4.95m), 梁行2間(4.2m)の南北棟建物跡で, ST26・27を切り, SD35に切られる。軸方向はN-5°-Wで, 柱間寸法は桁行1.65m, 梁行2.1m, 面積は20.8㎡を測る。柱穴の掘方は布掘り状を呈し, 全長5.7~6.6m, 幅41~68cm, 深さ48~58cmを測り, 西側の掘方では全長36~116cm, 幅41~68cmの柱掘方が確認された。埋土は土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

出土遺物は西側の掘方から弥生土器410点, 土師器3点, 東側の掘方から弥生土器1,038点, 土師器11点がみられ, 西側の掘方では弥生土器2点(410・411), 東側の掘方では弥生土器3点(412~414)が図示できた。

西側掘方出土遺物(図2-72 410・411)

410・411は弥生土器の壺である。410は広口壺の口縁部破片で, 緩やかに外反して立ち上がる。内外面にはハケを施し, 口縁部外面にはヨコナデ調整が認められる。411は底部破片で, 総じて丁寧な調整がみられ, 内面にハケのちナデ, 外面にナデを施す。

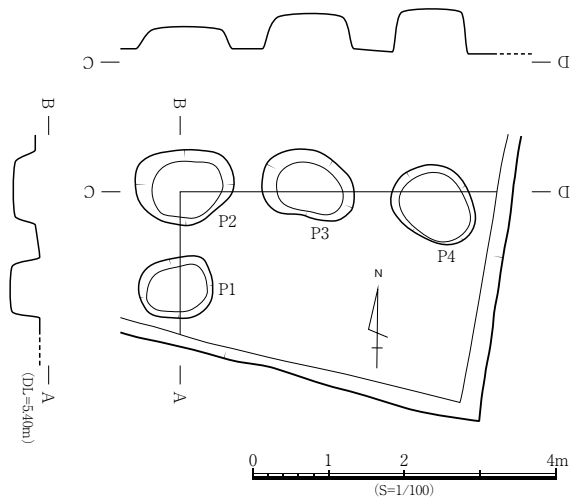


図2-68 SB5

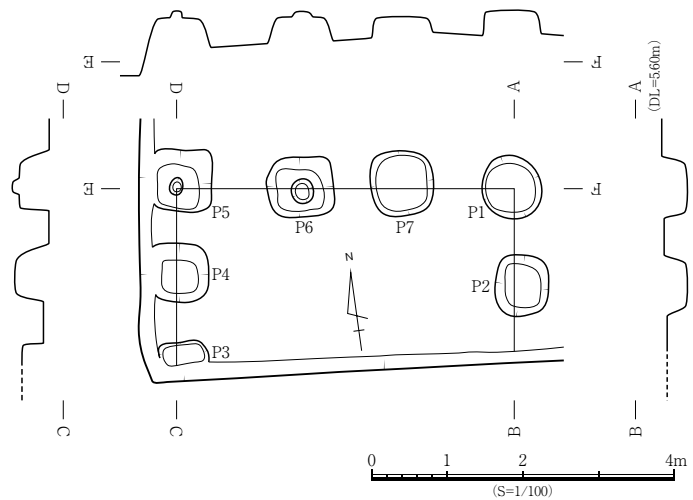


図2-69 SB6

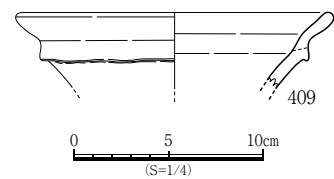


図2-70 SB6(P5)出土遺物実測図

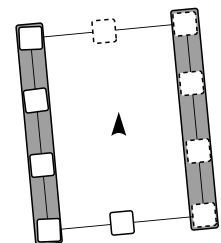


図2-71 SB7

東側掘方出土遺物(図2-72 412~414)

412~414は弥生土器である。412は壺とみられる胴部破片で、内面にナデを施す。外面にはヘラミガキ調整と直線状と波状の櫛描文が認められる。413は甕の底部破片と考えられるもので、内面にナデ、外面にタタキを施し、外底面にはナデ調整が認められる。414は鉢で、平底を呈する。体部は緩やかに内湾して立ち上がり、内面にヘラミガキ、外面にナデを施す。

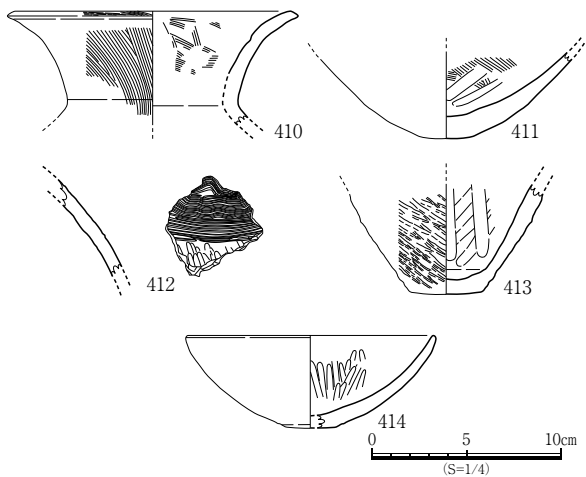


図2-72 SB7出土遺物実測図

SB8(図2-73)

調査区中央部北寄りで検出した桁行4間(5.7m)、梁行2間(4.2m)の南北棟総柱建物跡である。側柱に比べ内側の柱が小規模であることから床東建物跡とみられ、側柱が通し柱、内側の柱が束柱とされていた可能性が考えられる。軸方向はN-4°-Wで、柱間寸法は桁行1.35~1.5m、梁行2.1m、面積は23.9㎡を測る。柱穴の掘方は側柱が楕円形、束柱が円形を呈し、側柱は径49~85cm、深さ67~88cm、束柱は径28~39cm、深さ11~32cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

出土遺物はP1から弥生土器82点、P2から弥生土器29点、P3から弥生土器286点、土師器2点、土師質土器2点、P4から弥生土器194点、土師器1点、P5から弥生土器4点、P7から弥生土器6点、P8から弥生土器48点、庄内式土器1点、土師質土器1点、P9から弥生土器209点、P10から弥生土器130点、P12から弥生土器3点、P13から弥生土器3点がみられ、P2の土製品1点(415)、P3の弥生

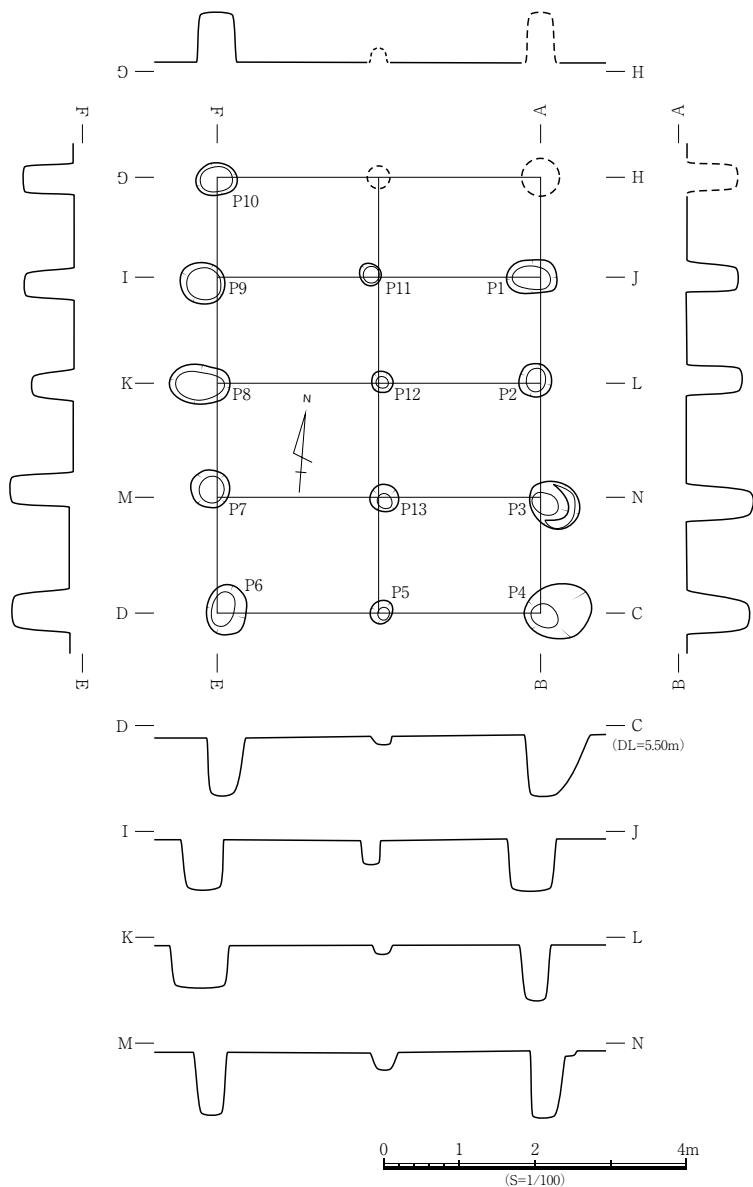


図2-73 SB8

2. 検出遺構と遺物 (2) 掘立柱建物跡

土器 2 点(416・417), P10 の弥生土器 1 点(418)が図示できた。

P2 出土遺物(図2-74 415)

415は土製品の土錘で、片側を欠損する。全体的に摩耗が著しく調整は不明である。

P3 出土遺物(図2-74 416・417)

416・417は弥生土器である。416は広口壺で、口縁部内面にヨコナデとナデ、外面にヨコナデを施す。胴部内面にはハケ調整、胴部外面にはタタキ目のちハケ調整がみられる。417は鉢で、平底を呈する。体部は緩やかに内湾して立ち上がり、内面にハケ、外面にタタキのちナデを施す。

P10 出土遺物(図2-74 418)

418は弥生土器の鉢で、完存する。丸底を呈し、内面にハケのち指オサエ、外面に指オサエを施す。

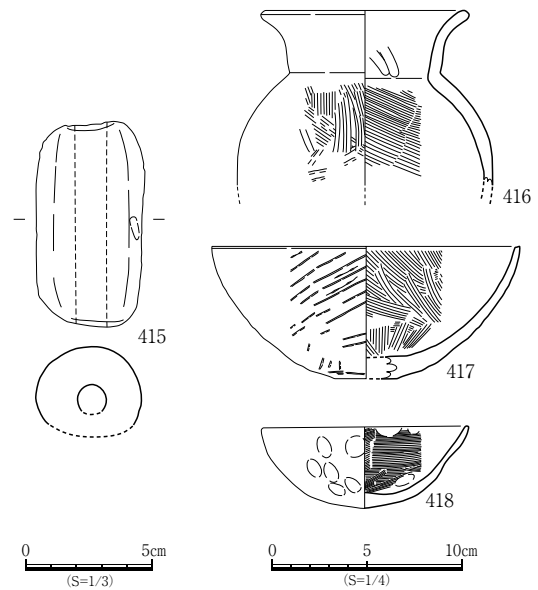


図2-74 SB8出土遺物実測図

SB9(図2-75)

調査区中央部東寄りで検出した桁行 5 間(7.15m)、梁行 2 間(4.4m)の南北棟総柱建物跡とみられるもので、SB8に比べ、側柱と内側の柱に規模の違いが認められない。軸方向はN-2°-Wで、柱間寸法は桁行 1.3~1.5m、梁行 2.1~2.3m、面積は 31.5 m²を測る。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し、径 28~77cm、深さ 6~81cm を測る。埋土は土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

出土遺物はP1から弥生土器 2 点、P6から弥生土器 1 点、須恵器 1 点、土師質土器 1 点、P10から弥生土器 62 点、土師質土器 4 点、瓦質土器 1 点、P11から石製品 1 点、P12から弥生土器 156 点、P15から弥生土器 1 点、土師質土器 1 点がみられ、P11の石製品 1 点(419)が図示できた。

P11 出土遺物(図2-76 419)

419は石製品の石庖丁で、両端に抉りを施し、刃部は押圧剥離で作り出していると考えられる。石材は砂岩である。

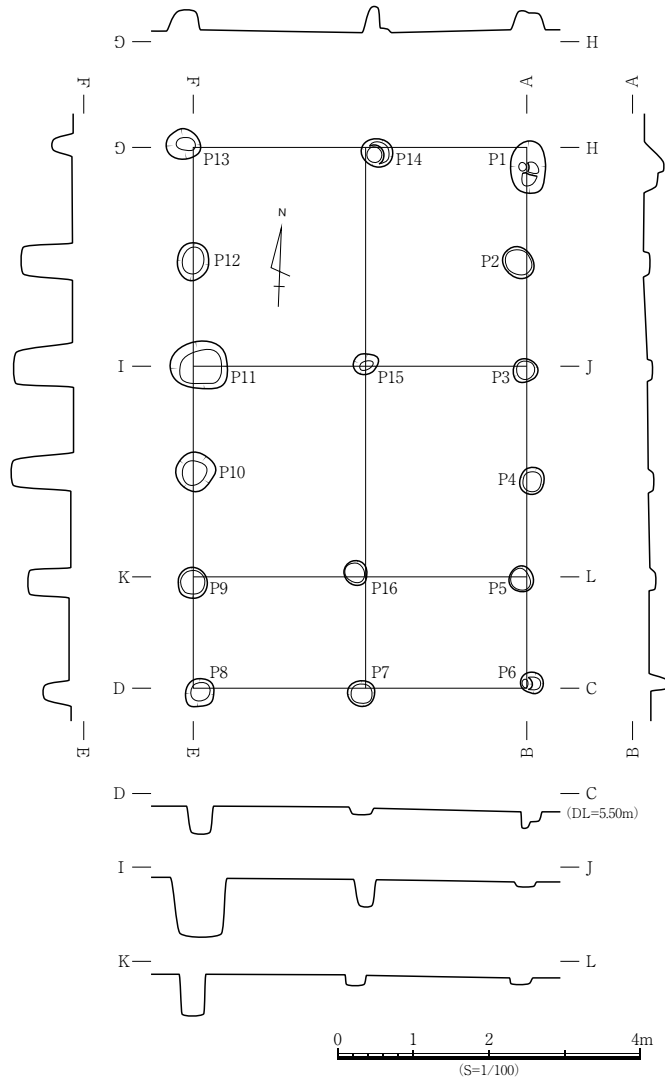


図2-75 SB9

SB10(図2-77)

調査区南部で検出した桁行2間(5.3m), 梁行2間(3.45m)の東西棟建物跡で, 軸方向はN-88.5°-Eである。柱間寸法は桁行2.6~2.7m, 梁行1.25~2.2mで, 面積は18.3㎡を測る。柱穴の掘方は概ね楕円形を呈し, 径32~71cm, 深さ18~54cmで, 埋土は土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

出土遺物はP1から弥生土器6点, 土師質土器7点, 瓦質土器1点, P2から弥生土器23点, P3から弥生土器3点, P4から土師質土器1点, 瓦質土器1点, P5から土師質土器5点, P6から弥生土器4点, P7から弥生土器2点, 須恵器1点, 土師質土器2点, P8から弥生土器1点, 土師器1点, 土師質土器1点がみられ, P1の瓦質土器1点(420), P4の瓦質土器1点(421), P7の土師質土器2点(422・423)が図示できた。

P1出土遺物(図2-78 420)

420は瓦質土器鍋の口縁部破片である。手づくね成形とみられ, 大きく歪む。口縁部内外面にヨコナデ, 胴部内面にナデ, 胴部外面に指オサエを施し, 外面全体に煤が付着する。

P4出土遺物(図2-78 421)

421は瓦質土器鍋の口縁部破片で, 口縁端部下端に断面三角形の顎を貼り付ける。摩耗が著しく調整は不明瞭であるが, 口縁端部外面にヨコナデ調整が残る。

P7出土遺物(図2-78 422・423)

422・423は土師質土器で, 422は小皿である。器面には回転ナデを施し, 底部内面にはナデ調整を加える。底部切り離しは回転糸切りで, 板状圧痕が残る。423は杯である。器面には回転ナデを施し, 底部切り離しは回転糸切りである。

SB11(図2-79)

調査区南部で検出した桁行2間(5.7m), 梁行2間(3.1m)の東西棟建物跡で, 軸方向はN-88°

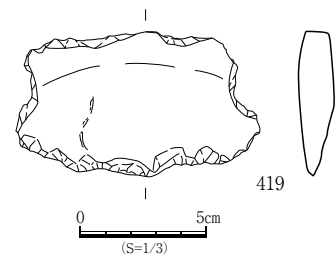


図2-76 SB9(P11)出土遺物実測図

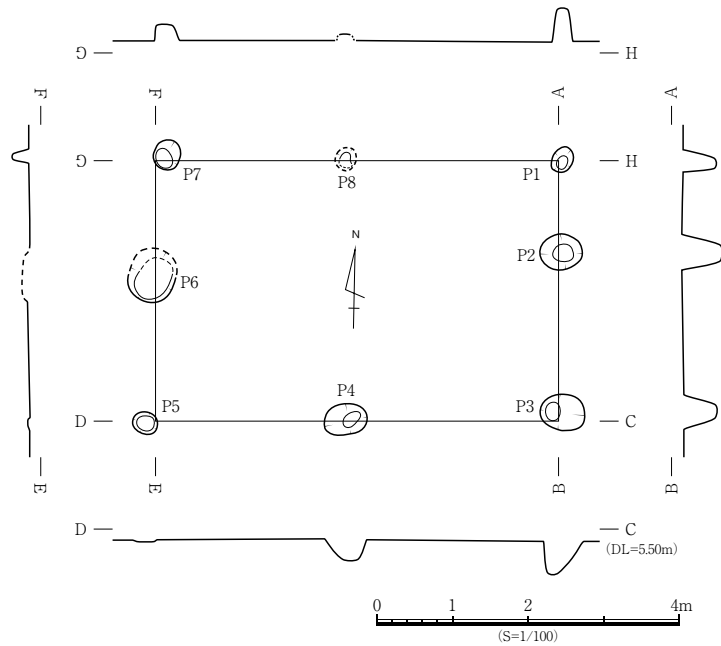


図2-77 SB10

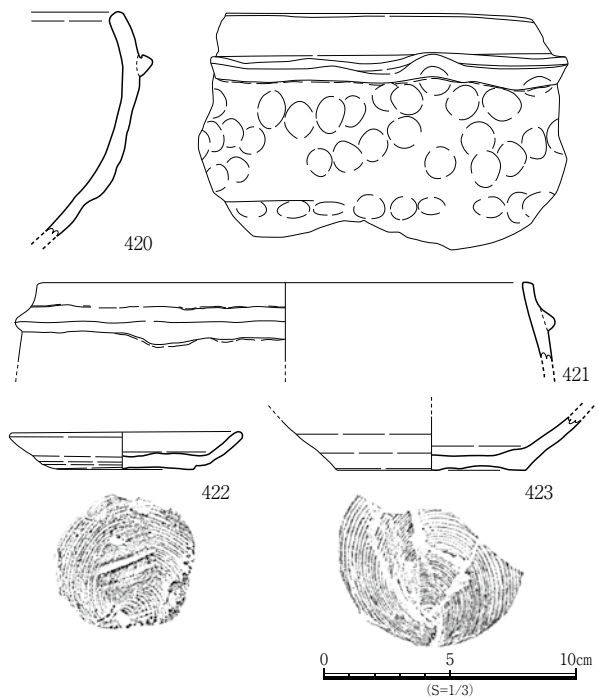


図2-78 SB10出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (2) 掘立柱建物跡

- Eである。柱間寸法は桁行2.3～3.4m, 梁行1.4～1.7mで, 面積は17.7㎡を測る。柱穴の掘方は概ね楕円形を呈し, 径26～87cm, 深さ17～47cmで, 埋土は土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

出土遺物はP1から弥生土器16点, 土師器1点, 土師質土器6点, P2から弥生土器13点, P6から土師質土器1点, P8から弥生土器5点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SB12(図2-80)

調査区北西部で検出した桁行2

間以上, 梁行2間(4.5m)の東西棟建物跡とみられるもので, 西側は調査区外へ続く。軸方向はN-83°-Wと考えられ, 柱間寸法は桁行2.75m, 梁行1.7～2.8mである。柱穴の掘方は不整楕円形を呈し, 径29～66cm, 深さ21～47cmで, 埋土は土器を含む小混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂である。

出土遺物はP1から弥生土器1点, P2から弥生土器18点, P4から弥生土器3点, P5から弥生土器2点, P6から土師質土器1点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SB13(図2-81)

調査区北西部で検出した桁行2間(5.0m), 梁行2間(3.9m)の東西棟建物跡で, 軸方向はN-12°-Eである。柱間寸法は桁行2.3～2.7m, 梁行1.9～2.0mで, 面積は19.5㎡を測る。柱穴の掘方は概ね円形を呈し, 径23～45cm, 深さ13～38cmで, 埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂である。

出土遺物はP1から弥生土器5点, 土師質土器3点, P2から土師質土器10点, P3から弥生土器4点, 土師質土器8点, P4から弥生土器1点, 土師質土器17点, P5から弥生土器3点, 土師質土器1点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SB14(図2-82)

調査区北西部で検出したほぼ正方形を呈する桁行2間(4.4m), 梁行2間(4.4m)の建物跡で,

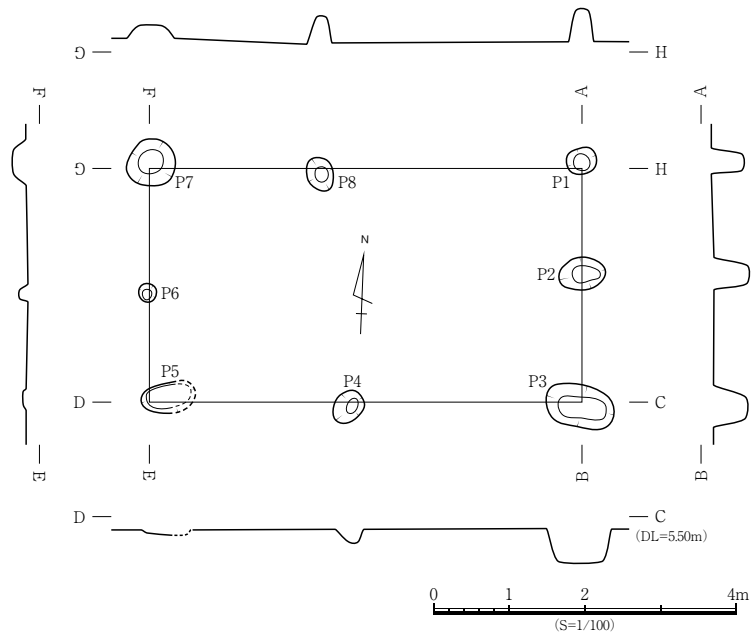


図2-79 SB11

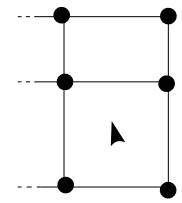


図2-80 SB12

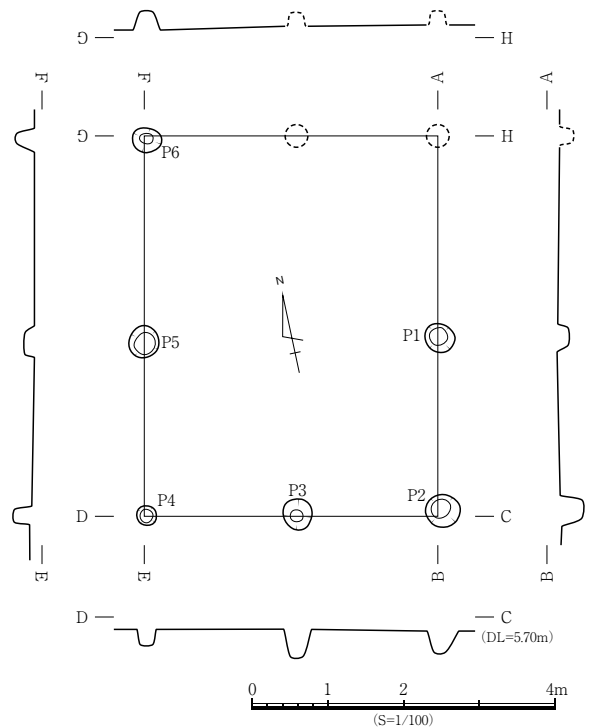


図2-81 SB13

物見櫓の可能性が考えられる。柱間寸法は桁行2.0～2.4m、梁行1.8～2.6mで、面積は19.4㎡を測る。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し、径29～41cm、深さ16～46cmで、埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂である。

出土遺物はP3から弥生土器1点、土師器1点、土師質土器14点、P5から弥生土器1点、P7から須恵器1点、土師質土器4点、P8から弥生土器4点、土師器2点、土師質土器26点、瓦質土器1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SB15(図2-83)

調査区西部で検出した桁行3間(4.8m)、梁行2間(3.2m)の東西棟建物跡で、軸方向はN-80°-Wである。柱間寸法は桁行1.5～1.8m、梁行1.5～1.7mで、面積は15.4㎡を測る。柱穴の掘方は概ね円形を呈し、径24～53cm、深さ14～30cmで、埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂である。

出土遺物はP1から土師質土器3点、P2から弥生土器6点、土師質土器7点、瓦質土器1点、P3から弥生土器2点、須恵器1点、土師質土器11点、P4から土師質土器4点、P7から弥生土器1点、土師質土器12点、瓦質土器1点がみられ、P3の土師質土器1点(424)が図示できた。

P3出土遺物(図2-84)

424は土師質土器の小皿で、内外面に回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。

SB16(図2-85)

調査区西部で検出した桁行2間(5.65m)、梁行2間(4.4m)の東西棟建物跡で、軸方向はN-77°-Wである。P3は東柱の可能性が考えられ、柱間寸法は桁行2.5～3.15m、梁行2.0～2.4m、面積は24.9㎡を測る。柱穴の掘方は概ね円形を呈し、径27～48cm、深さ13～48cmで、埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色

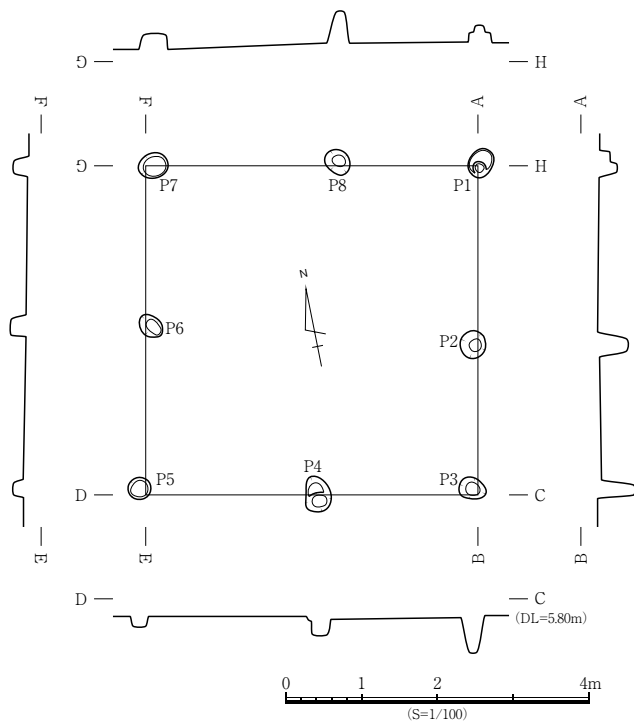


図2-82 SB14

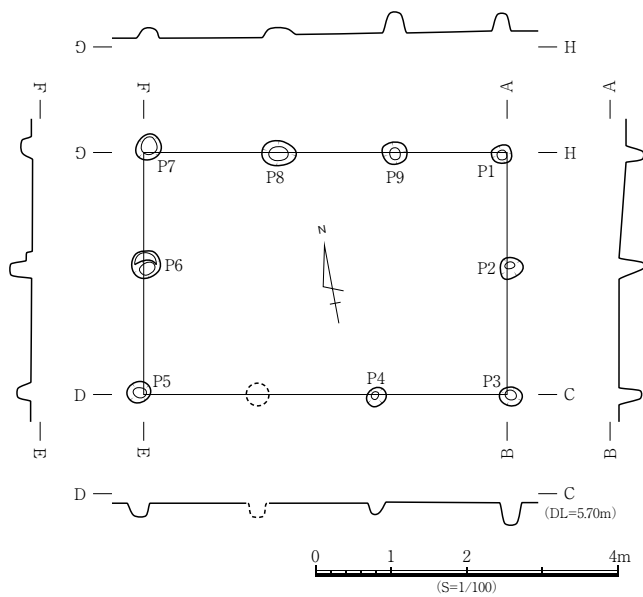


図2-83 SB15

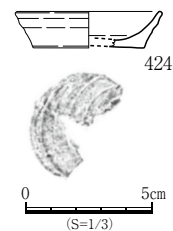


図2-84 SB15(P3)出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (2) 掘立柱建物跡

(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂である。

出土遺物はP1から土師質土器4点, 瓦質土器1点, P2から土師質土器6点, P3から土師質土器2点, P4から土師質土器11点, 瓦質土器2点, P5から土師器1点, 須恵器1点, 土師質土器1点, 青磁1点, P6から土師器1点, 土師質土器10点, 瓦質土器1点, P8から土師質土器9点, P9から土師質土器6点がみられたが, 図示できるものはなかった。

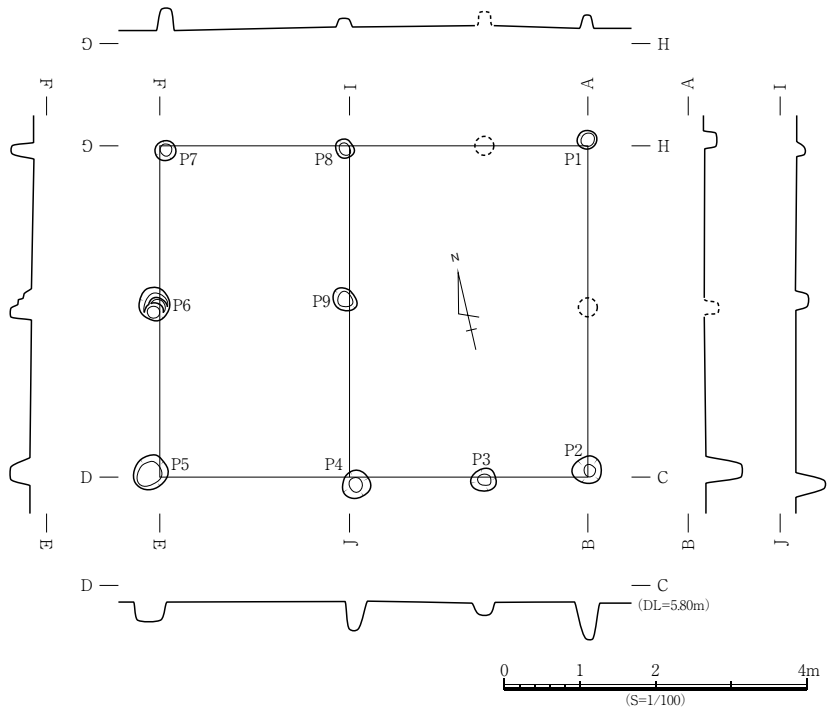


図2-85 SB16

SB17(図2-86)

調査区西部で検出した桁

行4間(11.3m), 梁行2間(3.3m)の東西棟建物跡で, 軸方向はN-79°-Wである。柱間寸法は桁行2.1~3.4m, 梁行1.6~1.7mで, 面積は37.3㎡を測る。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し, 径22~45cm, 深さ13~43cmで, 埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂である。

出土遺物はP3から土師器1点, 土師質土器3点, P4から弥生土器3点, 土師器3点, 土師質土器2点, 瓦質土器1点, P5から弥生土器1点, 土師質土器5点, P10から土師質土器5点, P11から須恵器1点, 土師質土器1点, P12から弥生土器1点, 土師器1点, 土師質土器8点がみられたが図示できるものは

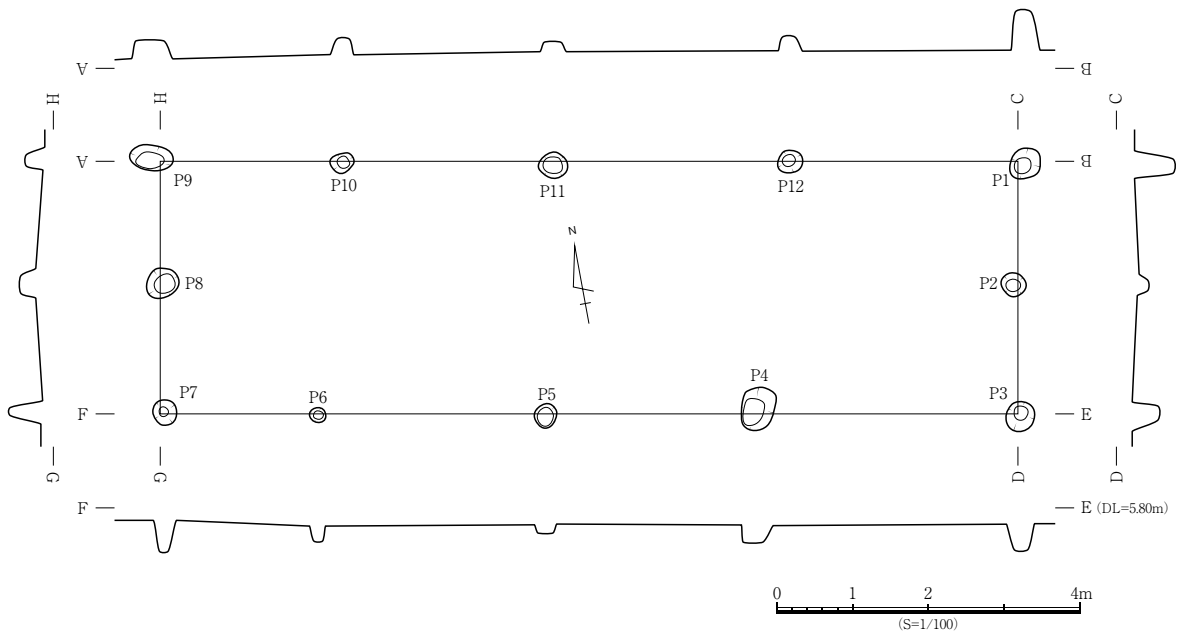


図2-86 SB17

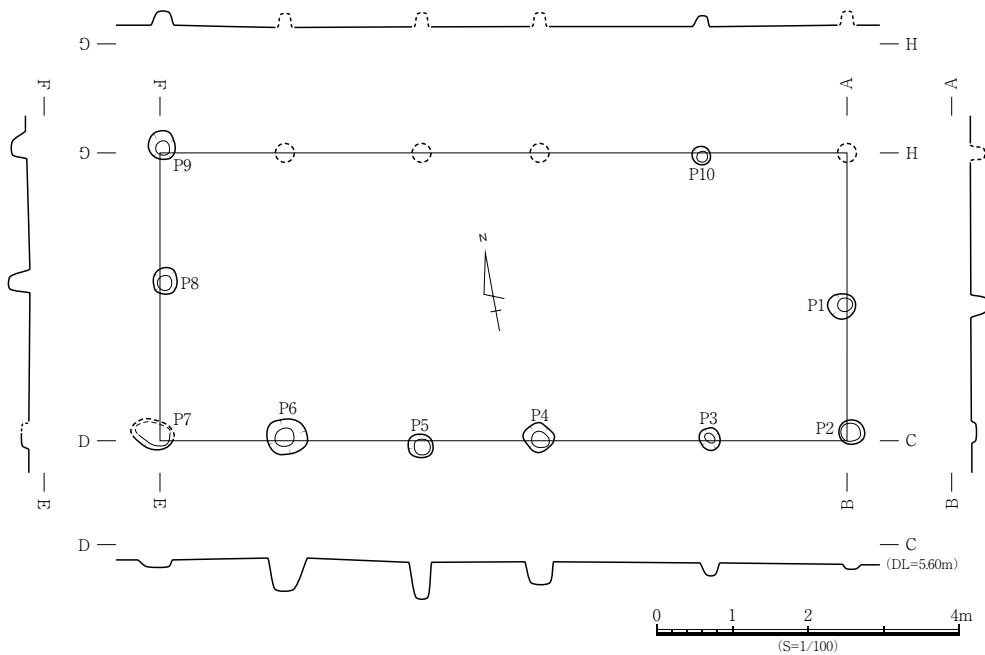


図2-87 SB18

なかった。

SB18(図2-87)

調査区中央部で検出した桁行5間(9.1m), 梁行2間(3.8m)の東西棟建物跡で, 軸方向はN-80°-Wである。柱間寸法は桁行1.6~2.3m, 梁行1.8~2.0mで, 面積は34.6㎡を測る。柱穴の掘方は概ね円形を呈し, 径27~52cm, 深さ9~49cmで, 埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒~中粒砂である。

出土遺物はP1から弥生土器1点, 土師質土器3点, P4から弥生土器3点, 土師質土器14点, P5から弥生土器1点, P6から弥生土器2点, 土師質土器1点, 土製品1点, P8から土師質土器3点, 土製品1点, P9から弥生土器2点, 土師器1点, 土師質土器2点, P10から弥生土器1点, 土師質土器4点がみられ, P8の土製品1点(425)が図示できた。

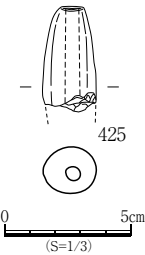


図2-88 SB18(P8)出土遺物実測図

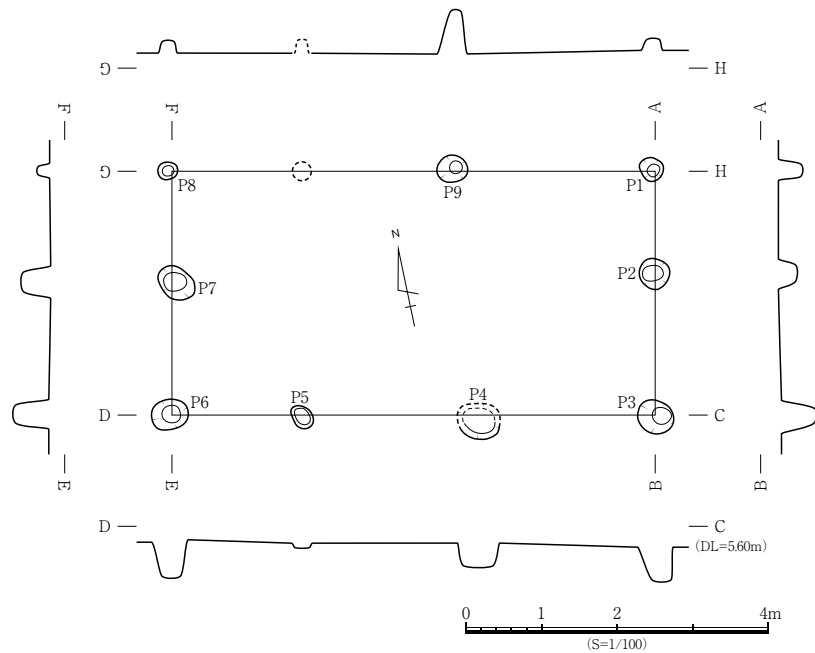


図2-89 SB19

2. 検出遺構と遺物 (3) 柵列・堀跡

P8出土遺物

(図2-88 425)

425は土製品の土錘で、片側を欠損する。摩耗が著しく調整は不明である。

SB19(図2-89)

調査区中央部で検出した桁行3間(6.4m)、梁行2間(3.2m)の東西棟建物跡で、軸方向はN-78°-Wである。柱間寸法は桁行1.7~2.6m、梁行1.3~1.9mで、面積は20.5㎡を測る。柱穴の掘方は円形及び楕円形を呈し、径26~47cm、深さ8~46cmで、埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒~中粒砂である。

出土遺物はP1から弥生土器2点、P2から弥生土器3点、土師質土器6点、P3から弥生土器11点、P4から弥生土器6点、土師器1点、土師質土器1点、P5から弥生土器2点、P8から土師質土器2点、P9から弥生土器11点、須恵器1点がみられたが、図示できるものはなかった。

(3) 柵列・堀跡

SA1(図2-90)

調査区西部に位置し、SB13・14の南側、SB16の北側で検出した東西堀跡(N-79°-W)である。4間を検出し、柱間寸法は2.0~3.9mで、柱穴は径18~47cmの円形及び楕円形である。埋土は土器を含む小~中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質極細粒~中粒砂で、出土遺物には弥生土器7点、須恵器1点、土師質土器16点、瓦質土器2点、備前焼1点、石製品1点がみられ、石製品1点(426)が図示できた。

出土遺物(図2-91 426)

426は石製品の砥石で、片面と両端部、一側面に使用痕が認められる。石材は砂岩である。

SA2(図2-92)

調査区南西部に位置し、SD17の北側で検出した東西堀跡(N-81.5°-W)である。4間を検出し、柱間寸法は1.8~2.3mで、柱穴は径37~59cmの円形である。埋土は土器を含む小~中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質極細粒~中粒砂で、出土遺物には弥生土器7点、土師器2点、須恵器1点、土師質土器18点、瓦質土器1点がみられ、土師質土器1点(427)が図示できた。

出土遺物(図2-93 427)

427は土師質土器の小皿である。内外面に回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。

SA3(図2-94)

調査区南部に位置し、SD13の南側で検出した東西堀跡(N-81°-W)である。14間を検出し、柱間寸法は0.7~1.5mで、柱穴は長軸55~69cmの楕円形である。埋土は土器を含む小~中礫混じりの黒

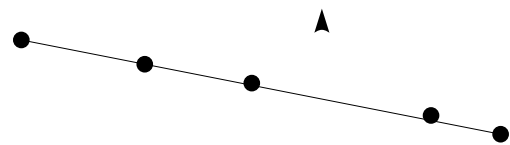


図2-90 SA1

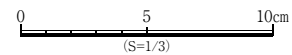
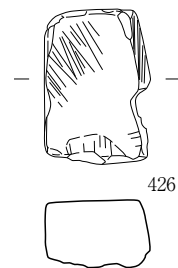


図2-91 SA1出土遺物実測図

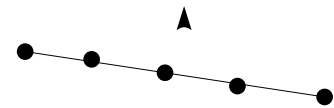


図2-92 SA2

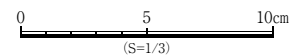
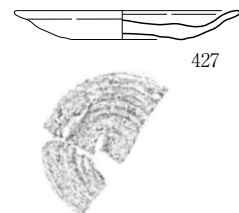


図2-93 SA2出土遺物実測図

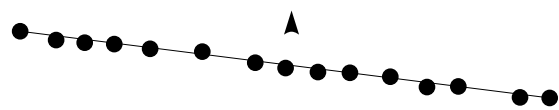


図2-94 SA3

褐色(10YR3/2)シルト質極細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器4点、土師質土器2点がみられたが、図示できるものはなかった。

(4) 土坑

SK1

調査区北西部で検出した土坑で、平面形は隅丸長方形を呈すると考えられ、長軸3.1m、深さ17～26cmを測る。北側は調査区外へ続き、短軸は不明で、埋土は土器を含む小礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質極細粒砂である。出土遺物には弥生土器57点がみられ、1点(428)が図示できた。

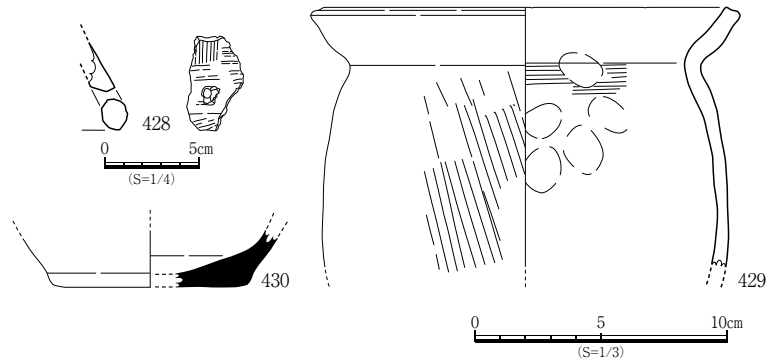


図2-95 SK1・2・5出土遺物実測図

出土遺物(図2-95 428)

428は土製品の支脚と考えられる脚端部破片である。内面にナデ、外面にハケとタタキのちナデを施し、穿孔が認められる。

SK2

調査区北西部で検出した土坑で、平面形は不整隅丸長方形を呈し、長軸1.7m、短軸0.8m、深さ36cmを測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒砂で、出土遺物には弥生土器56点、土師器2点、須恵器1点、土師質土器2点がみられ、弥生土器1点(429)が図示できた。

出土遺物(図2-95 429)

429は土師器の甕で、口縁部はやや内湾して立ち上がり、端部はヨコナデにより面をなす。胴部は長胴形を呈し、口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にハケのち指オサエとナデ、胴部外面にハケを施す。

SK3

調査区北西部で検出した土坑で、SK4に切られる。平面形は不整楕円形を呈し、長軸0.9m、短軸0.8m、深さ7cmを測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質極細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器1点、土師質土器24点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK4

調査区北西部で検出した土坑で、SK3を切る。平面形は不整隅丸方形を呈し、一辺1.0m、深さ8cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質極細粒砂で、出土遺物には弥生土器1点、土師器1点、須恵器2点、土師質土器104点、瓦質土器1点、青磁1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK5

調査区北西部で検出した土坑で、SK6を切る。平面形は隅丸方形を呈し、長軸1.0m、短軸0.8m、深さ11～12cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質極細粒砂で、出土遺物には弥生土器1点、土師器8点、須恵器1点、土師質土器96点、瓦質土器2点がみられ、須恵器1

2. 検出遺構と遺物 (4) 土坑

点(430)が図示できた。

出土遺物(図2-95 430)

430は須恵器の杯底部破片で、器面には回転ナデを施す。底部切り離しは回転ヘラ切りで、切り離し痕は丁寧にナデ消す。

SK6

調査区北西部で検出した土坑で、SK5に切られる。平面形は隅丸方形を呈し、一辺1.1m、深さ24cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器7点、土師器6点、須恵器1点、土師質土器112点、瓦質土器3点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK7

調査区北西部で検出した土坑で、SK8を切る。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸2.0m、短軸0.8m、深さ8cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器3点、土師器1点、土師質土器4点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK8

調査区北西部で検出した土坑で、SK7に切られる。平面形は不整楕円形を呈し、長軸1.4m、短軸1.0m、深さ9～12cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には土師質土器9点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK9

調査区北西部で検出した土坑で、平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.1m、短軸0.8m、深さ11～17cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒砂で、出土遺物には弥生土器1点、土師質土器3点、瓦質土器1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK10

調査区北西部で検出した土坑で、北側は調査区外へ続き、東側はSD2に切られるため規模は不明で、深さは4cmを測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器7点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK11

調査区北西部で検出した土坑で、SD2を切り、P4に切られる。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.5m、短軸0.4m、深さ42cmを測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器5点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK12

調査区北西部で検出した土坑で、SK13を切る。平面形は不整楕円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.5m、深さ14～16cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器3点、土師質土器10点、瓦質土器1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK13

調査区北西部で検出した土坑で、SK12に切られる。平面形は不整楕円形を呈し、長軸1.3m、短軸0.9m、深さ16cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器3点、須恵器4点、土師質土器698点、瓦質土器9点がみられ、土師質土器6点(431～436)が図示できた。

出土遺物(図2-96 431~436)

431~436は土師質土器である。431は皿で、口縁部は屈曲し斜め上方に短く立ち上がる。成形は手づくねにより、口縁部内外面にヨコナデ、体部外面に指オサエ、底部内外面にナデを施す。432~436は小皿である。432~434は体部が斜め上方に直線的に立ち上がるもので、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。435・436は体部が内湾して立ち上がるものである。手づくね成形で、内面にはナデ、外面には指オサエを施し、436はヨコナデにより口縁端部が面をなす。

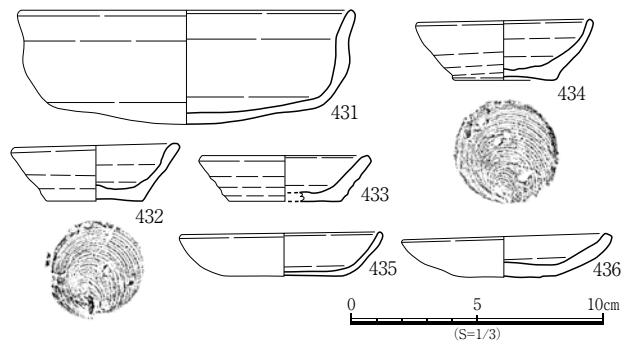


図2-96 SK13出土遺物実測図

SK14

調査区北西部で検出した土坑で、SK15を切る。平面形は不整隅丸方形を呈すると考えられ、一辺0.8m、深さ14cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器17点、土師器1点、須恵器3点、土師質土器73点、瓦質土器4点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK15

調査区北西部で検出した土坑で、SK16・18を切り、SK14・17に切られる。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸2.4m、短軸0.9m、深さ45~48cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器15点、土師器3点、須恵器3点、土師質土器91点、瓦質土器3点、瓦器1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK16

調査区北西部で検出した土坑で、SK15・17に切られる。平面形は不整隅丸方形を呈し、一辺0.7m、深さは11cmを測る。埋土は土器を含む小~中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒~中粒砂で、出土遺物には弥生土器3点、土師器1点、土師質土器8点、瓦質土器1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK17

調査区北西部で検出した土坑で、SK15・16を切る。平面形は不整形を呈し、長軸1.0m、短軸0.8m、深さ15cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器6点、土師器4点、須恵器1点、土師質土器51点、瓦質土器1点、青磁1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK18

調査区北西部で検出した土坑で、SK15に切られる。平面形は楕円形を呈し、長軸0.9m、短軸0.7m、深さ9~11cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器3点、土師質土器33点、瓦器1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK19

調査区北西部で検出した土坑で、平面形は楕円形を呈し、長軸1.2m、短軸0.9m、深さ15cmを測る。埋土は土器を含む小~中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒~中粒砂で、出土遺物には弥生

2. 検出遺構と遺物 (4) 土坑

土器121点, 庄内式土器1点, 須恵器3点, 土師質土器43点, 瓦質土器2点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK20

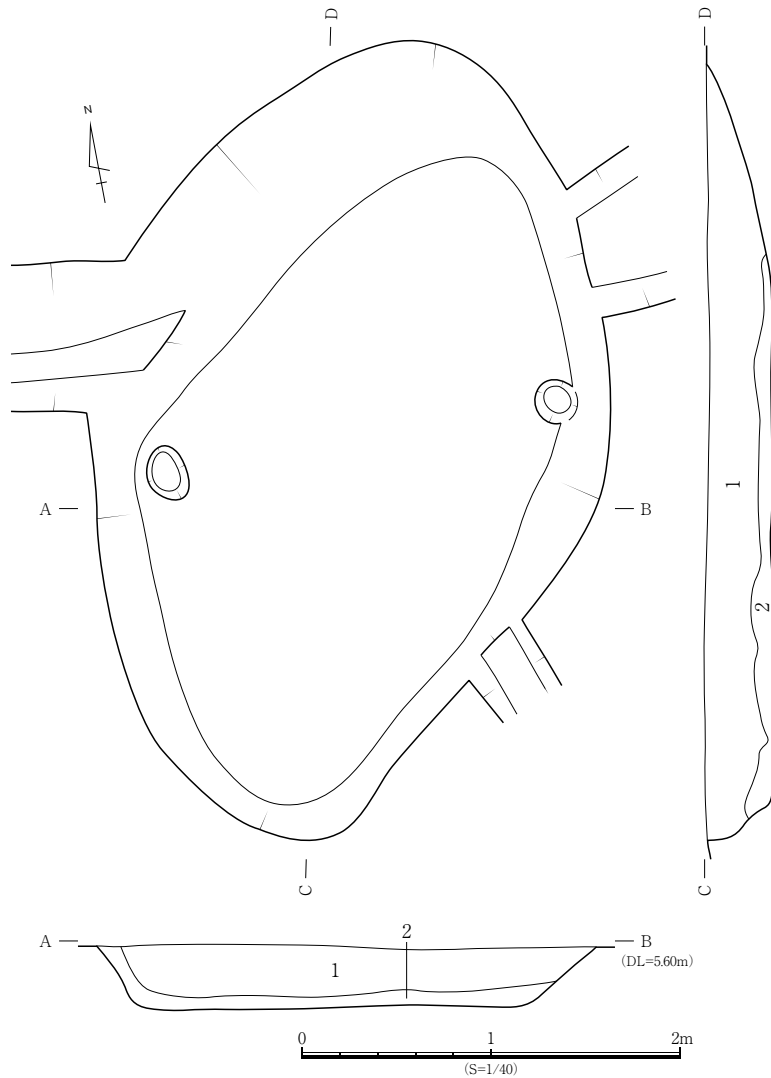
調査区北西部で検出した土坑で, 平面形は隅丸長方形を呈し, 長軸0.9m, 短軸0.6m, 深さ18cmを測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で, 出土遺物には弥生土器14点, 須恵器2点, 土師質土器43点, 瓦質土器3点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK21

調査区北西部で検出した土坑で, 平面形は不整形を呈し, 長軸0.9m, 短軸0.7m, 深さ14cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で, 出土遺物には弥生土器3点, 土師質土器21点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK22(図2-97)

調査区北西部で検出した土坑で, SD2を切り, SK23に切られる。平面形は不整楕円形を呈し, 長軸4.3m, 短軸2.7m, 深さ26～36cmを測る。埋土は1層が土器を含む小～中礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質中粒砂, 2層が土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒～粗粒砂で, 1層をブロック状に含み, 出土遺物には弥生土器2,322点, 土師器1点, 須恵器20点, 土師質土器18点, 瓦質土器1点がみられ, 弥生土器2点(437・438), 土師質土器1点(439)が図示できた。なお, 土師器, 須恵器, 土師質土器は遺構の切り合いが判別できなかったピット等の遺物と考えられる。



遺構埋土
 1. 土器を含む小～中礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質中粒砂
 2. 土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒～粗粒砂で, 1層をブロック状に含む

図2-97 SK22

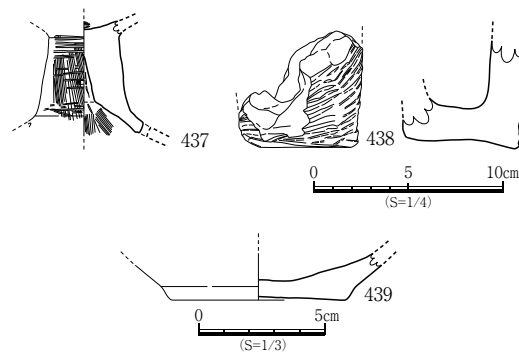


図2-98 SK22出土遺物実測図

出土遺物(図2-98 437~439)

437は弥生土器で、高杯の脚柱部破片である。外面にはハケのちヘラミガキ、内面にはハケを施す。

438は土製品の支脚で、脚部破片である。中空で、外面には明瞭なタタキ目が残る。

439は土師質土器の杯底部破片で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。

SK23

調査区北西部で検出した土坑で、SK22を切る。平面形は隅丸方形を呈し、一辺0.8m、深さ5cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器8点、土師質土器6点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK24

調査区北西部南寄りで検出した土坑で、平面形は円形を呈し、径1.1m、深さ11cmを測る。埋土は土器を含む小~中礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器2点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK25

調査区北西部で検出した土坑で、P8に切られる。平面形は不整楕円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.7m、深さ31cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器26点、土師器3点、須恵器2点、土師質土器435点、瓦質土器5点がみられ、土師質土器10点(440~449)が図示できた。

出土遺物

(図2-99 440~449)

440~442は土師質土器である。440~442は杯で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。

443は手づくね成形の皿で、口縁部内外面にハケ、底部内面にナデ、体部と底部外面に指オサエを施す。444~449は小皿である。444~447は

ロクロ成形で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。448・449は手づくね成形で、内面にはナデとヨコナデ、外面には指オサエを施す。

SK26

調査区北西部南寄りで検出した土坑で、SK27に切られる。平面形は不整隅丸方形を呈し、一辺1.5m、深さ20~25cmを測る。埋土は土器を含む小~中礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質中粒砂で、出土遺物には

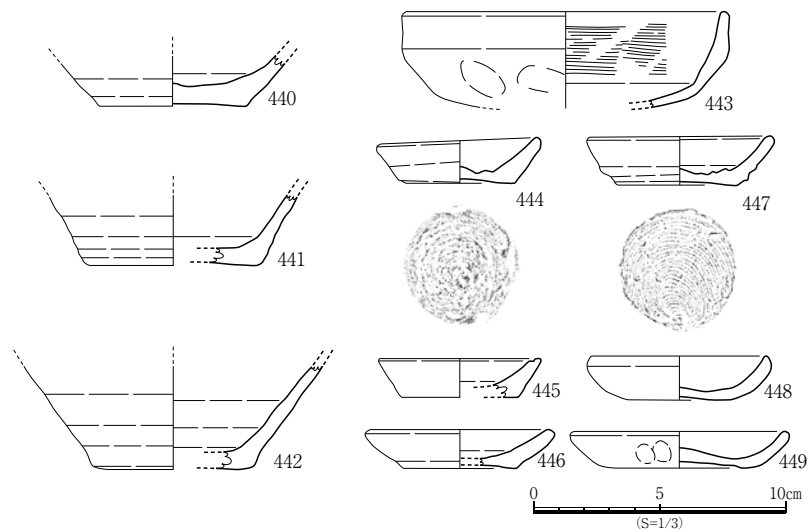


図2-99 SK25出土遺物実測図

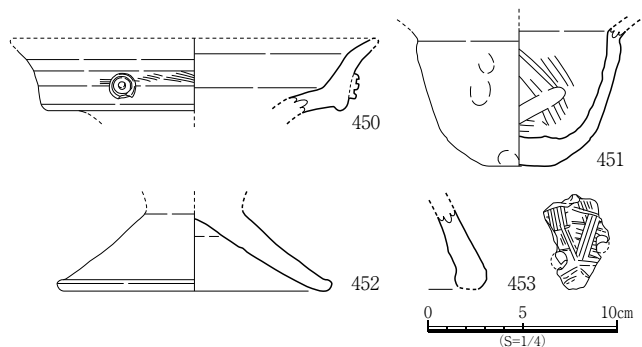


図2-100 SK26出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (4) 土坑

弥生土器355点, 庄内式土器1点がみられ, 弥生土器4点(450~453)が図示できた。

出土遺物(図2-100 450~453)

450~452は弥生土器である。450は搬入品とみられる二重口縁壺で, 口縁部は屈曲して斜め上方に立ち上がる。内面にヨコナデを施し, 外面にはハケ調整のちヨコナデ調整が認められ, 竹管状の刺突を施した円形浮文を配する。451・452は鉢と考えられるものである。451は口縁部が屈曲して斜め上方に短く立ち上がるもので, 内面にハケのちナデ, 外面にナデを施す。452は脚付鉢の脚部破片と考えられるもので, 脚端部内外面にヨコナデ, 脚部内外面にナデを施す。

453は土製品の支脚と考えられる脚端部破片で, 内面にナデ, 外面にタタキのちハケを施し, 2カ所の穿孔が認められる。

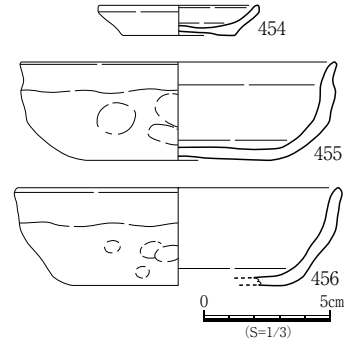


図2-101 SK28・30出土遺物実測図

SK27

調査区北西部南寄りで検出した土坑で, SK26を切る。平面形は不整隅丸長方形を呈し, 長軸1.0m, 短軸0.7m, 深さ15cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で, 出土遺物には弥生土器1点, 土師質土器12点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK28

調査区北西部南寄りで検出した土坑で, 平面形は不整形を呈し, 長軸1.2m, 短軸1.0m, 深さ19~24cmを測る。埋土は土器を含む小~中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒砂で, 出土遺物には弥生土器18点, 土師器1点, 須恵器1点, 土師質土器123点, 瓦質土器1点がみられ, 土師質土器1点(454)が図示できた。

出土遺物(図2-101 454)

454は土師質土器の小皿である。ロクロ成形で, 器面には回転ナデを施し, 底部切り離しは回転糸切りである。

SK29

調査区北西部南寄りで検出した土坑で, SB13のP4を切る。平面形は不整形を呈し, 長軸1.3m, 短軸0.8m, 深さ10~14cmを測る。埋土は土器を含む小~中礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で, 出土遺物には土師質土器26点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK30

調査区北西部南寄りで検出した土坑で, 平面形は楕円形を呈し, 長軸1.1m, 短軸1.0m, 深さ53cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中



遺構埋土

1. 土器を含む小礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂で, におい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒砂をブロック状に含む

図2-102 SK33

粒砂で、出土遺物には弥生土器5点、土師器1点、須恵器1点、土師質土器95点、瓦質土器1点がみられ、土師質土器2点(455・456)が図示できた。

出土遺物(図2-101 455・456)

455・456は土師質土器の皿である。手づくね成形で、口縁部は屈曲し斜め上方に短く立ち上がる。口縁部内外面にヨコナデ、体部と底部内面にナデ、体部と底部外面に指オサエのちナデを施し、455の外面には煤が付着する。

SK31

調査区北西部南寄りで検出した土坑で、SD6に切られる。平面形は円形を呈し、径0.9m、深さ22～47cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器2点、土師質土器16点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK32

調査区北西部東寄りで検出した土坑で、SK33を切る。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.2m、短軸1.0m、深さ14～16cmを測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器12点、土師質土器69点、瓦質土器3点、備前焼1点がみられたが、図示できるものはなかった。

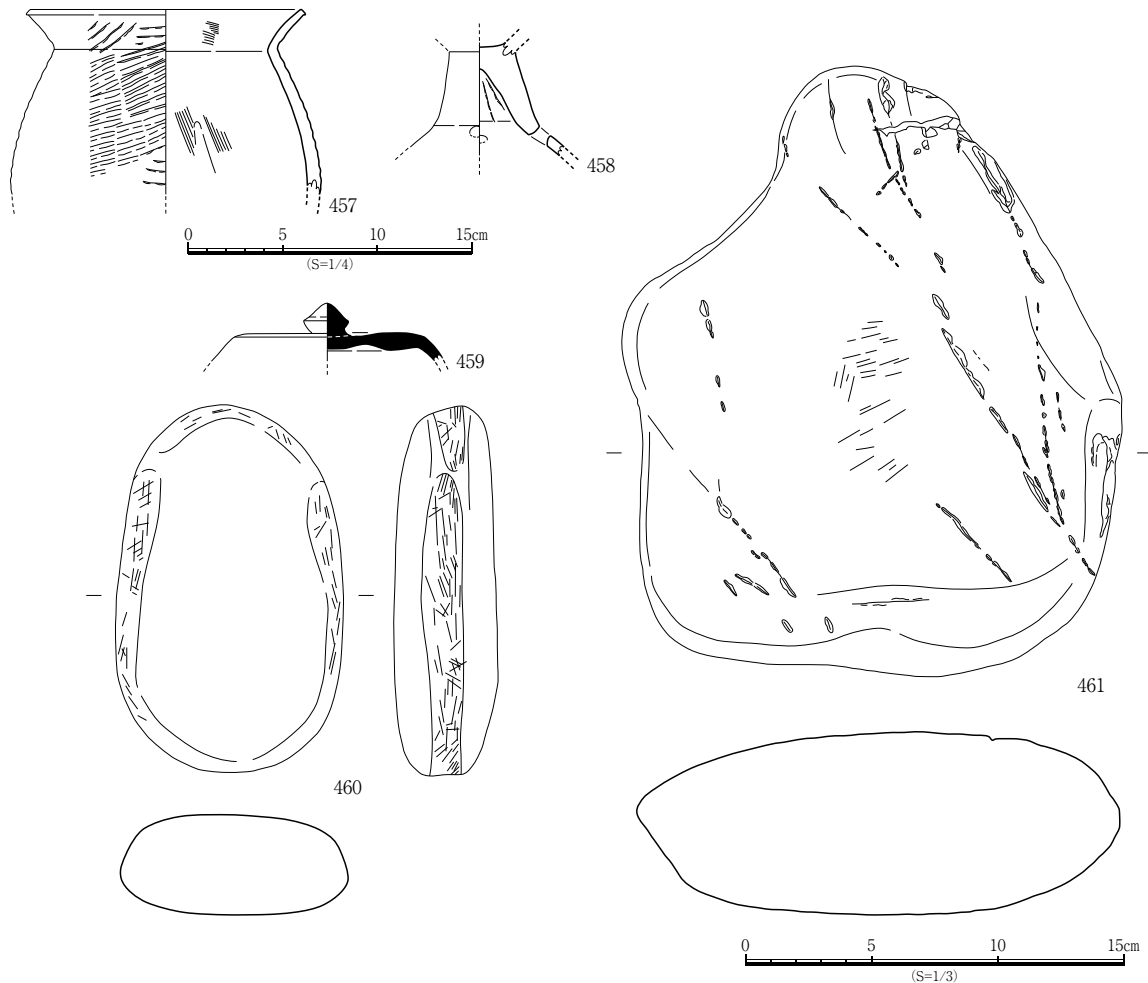


図2-103 SK32出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (4) 土坑

SK33(図2-102)

調査区北西部東寄りで見出した土坑で、SB13、SK32、P13に切られる。平面形は不整隅丸長方形を呈し、長軸4.5m、短軸1.7m、深さ29～36cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒砂をブロック状に含み、出土遺物には弥生土器1,539点、土師器2点、須恵器10点、土師質土器52点、瓦質土器8点、白磁1点、石製品2点がみられ、弥生土器2点(457・458)、須恵器1点(459)、石製品2点(460・461)が図示できた。なお、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、白磁は遺構の切り合いが判別できなかったピット等の遺物と考えられる。

出土遺物(図2-103 457～461)

457・458は弥生土器である。457は甕で、口縁部は斜め上方に直線的に立ち上がる。口縁部内面にハケ、胴部内面にハケのちナデを施し、外面全体にはタタキ目が認められる。458は高杯の脚柱部破片である。摩耗のため調整は不明であるが、脚裾部の穿孔は4カ所とみられる。

459は須恵器の杯蓋で、端部を欠損する。天井部外面には宝珠形のつまみが付き、天井部外面に回転ヘラケズリを施し、他の部位には回転ナデ調整が認められる。

460・461は石製品である。460は磨石で、側面全体に使用痕がみられ、石材は砂岩である。461は台石で、片面中央部に使用痕が認められ、石材は砂岩である。

SK34

調査区西部で見出した土坑で、平面形は隅丸方形を呈し、一辺0.9m、深さ12cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒砂をブロック状に含み、出土遺物には弥生土器55点、庄内式土器1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK35

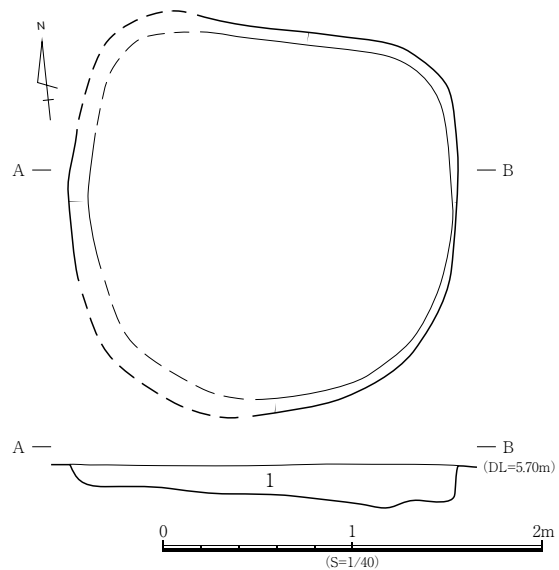
調査区西部で見出した土坑で、西側は調査区外へ続く。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸は不明で、短軸0.7m、深さ8cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂で、出土遺物には弥生土器17点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK36

調査区西部で見出した土坑で、平面形は隅丸方形を呈し、一辺0.7m、深さ6cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器9点、土師器1点、須恵器2点、土師質土器3点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK37

調査区西部で見出した土坑で、SB4のP9を切る。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.1m、短軸0.7m、深さ6cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には土師質土器7点がみられたが、図示できるもの



遺構埋土
1. 土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒～中粒砂で、
にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト質中粒砂をブロック状に含む

図2-104 SK38

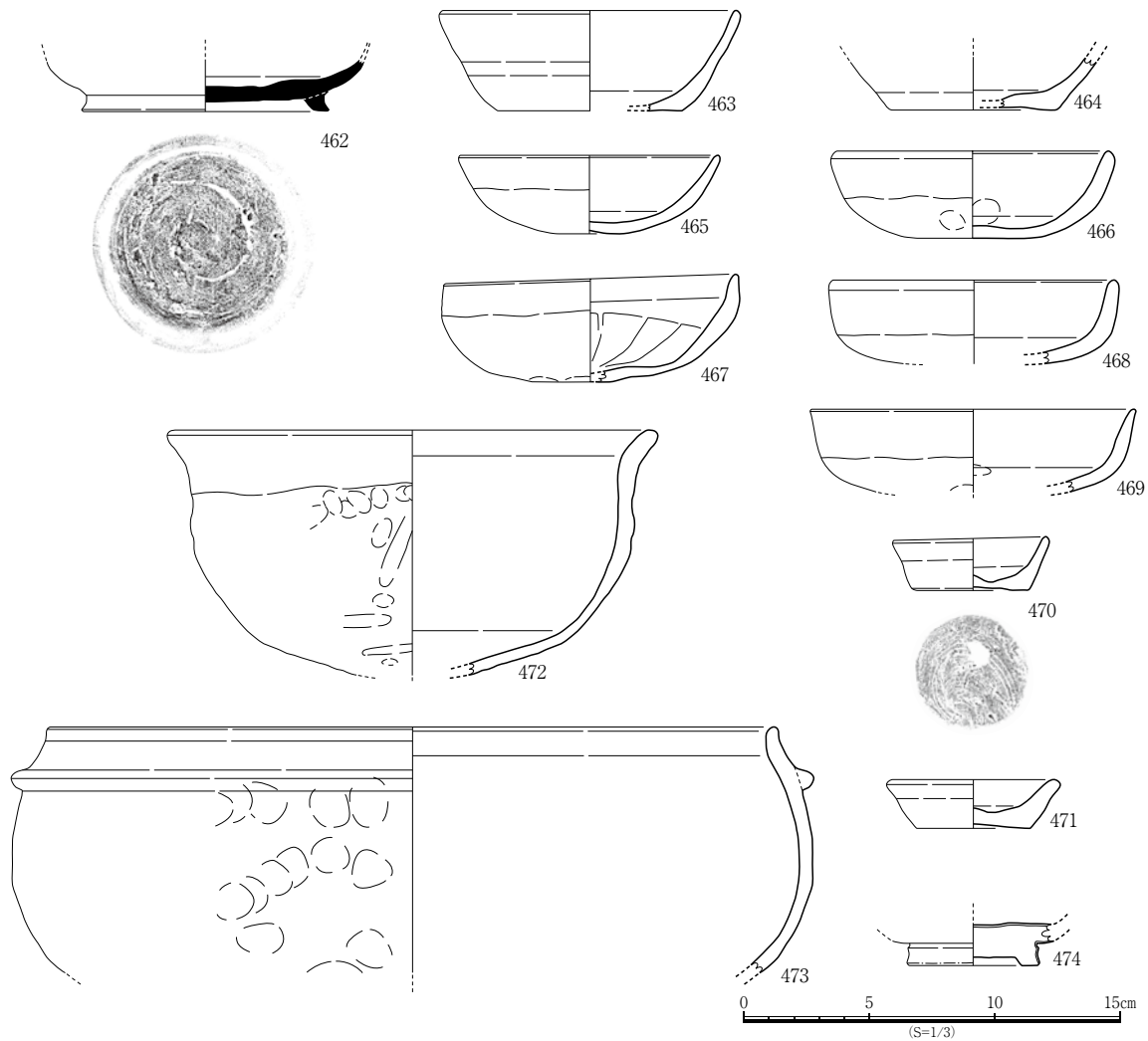


図2-105 SK38出土遺物実測図

はなかった。

SK38(図2-104)

調査区中央部西寄りで検出した土坑で、SB4のP2・3とSA1を切る。平面形は不整隅丸方形を呈し、長軸2.7m、短軸2.2m、深さ10～28cmを測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒～中粒砂で、にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト質中粒砂をブロック状に含み、出土遺物には弥生土器14点、土師器3点、須恵器6点、土師質土器250点、瓦質土器10点、青磁1点がみられ、須恵器1点(462)、土師質土器9点(463～471)、瓦質土器2点(472・473)、青磁1点(474)が図示できた。

出土遺物(図2-105 462～474)

462は須恵器の杯底部破片で、断面台形状の高台が付く。内面にはナデ、外面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転ヘラ切りで、切り離し痕はナデ消される。

463～471は土師質土器である。463・464は杯で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。465～469は皿である。手づくね成形で、口縁部内外面にヨコナデ、底部内面に指オサエとナデ、底部外面に指オサエとナデを施すが、467のみ底部内面に板ナデ調整が認められる。470・471は小皿で、口縁部は斜め上方に直線的に立ち上がる。ロクロ成形で、内底面中央部は凸状に残る。

2. 検出遺構と遺物 (4) 土坑

器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。

472・473は瓦質土器の鍋である。472は顎を持たないもので、口縁部は緩やかに外反し、斜め上方に短く立ち上がる。口縁部内外面と胴部内面にヨコナデ、底部内面にナデ、胴部と底部外面に指オサエとナデを施し、体部外面には煤が付着する。473は顎を持つもので、口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にナデ、胴部外面に指オサエを施し、顎以下には煤が付着する。

474は青磁の碗で、底部のみ残存する。削り出し高台で、高台内は釉剥ぎを行う。

SK39

調査区中央部西寄りで検出した土坑で、SD18に切られる。平面形は円形を呈し、径1.5m、深さ30cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器7点、土師器3点、須恵器2点、土師質土器59点、瓦質土器1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK40

調査区中央部西寄りで検出した土坑で、東側は調査区外へ続く。平面形は楕円形を呈し、長軸3.9m、深さ23～38cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器25点、土師器18点、須恵器4点、土師質土器611点、瓦質土器22点、備前焼1点、瓦1点、石製品1点がみられ、須恵器1点(475)、土師質土器2点(476・477)、瓦質土器1点(478)、平瓦1点(479)、石製品1点(480)が図示できた。

出土遺物(図2-106 475～480)

475は須恵器の壺と考えられる底部破片で、内面に指オサエのち回転ナデ、外面にタタキと指オサエのちナデを施す。

476・477は土師質土器である。476は杯の底部破片で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。477は皿である。手づくね成形で、口縁部内外面にヨコナデ、体部内外面にナデを施す。

478は瓦質土器の鍋で、口縁部はややきつく内湾し、口縁端部は面をなす。摩耗のため調整は不明

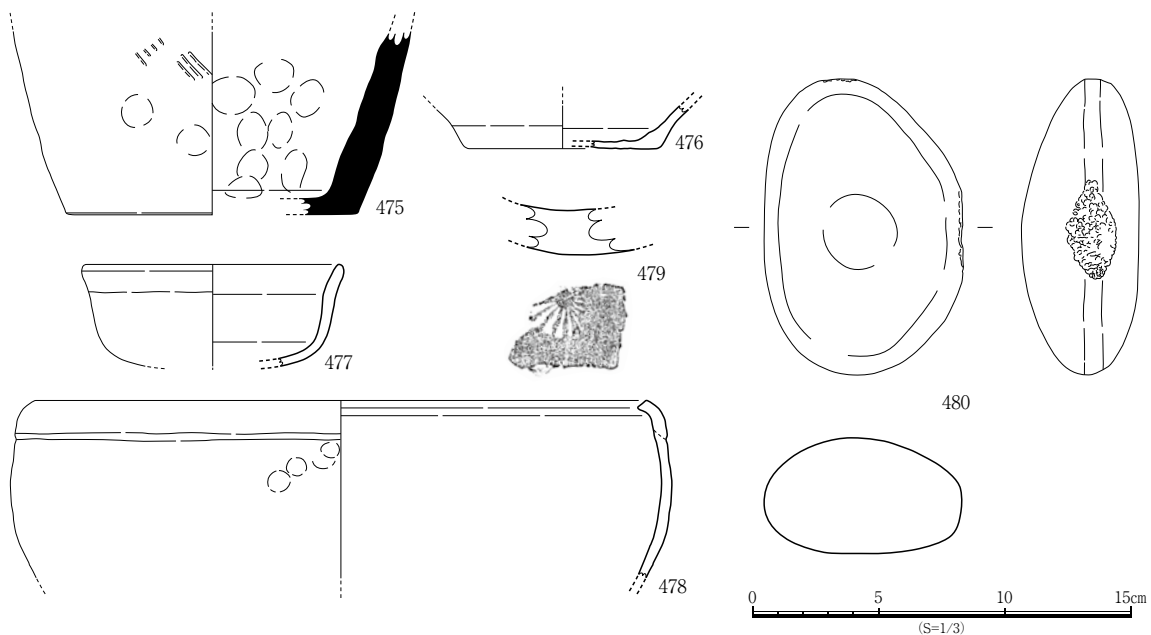


図2-106 SK40出土遺物実測図

である。

479は平瓦とみられる破片で、凸面には菊花状の陰刻が認められる。

480は石製品の叩石で、端部と側面の片側に明瞭な敲打痕が認められ、石材は砂岩である。

SK41

調査区西部で検出した土坑で、西側は調査区外へ続く。平面形は楕円形を呈し、長軸1.0m、深さ13cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器1点、土師器2点、土師質土器10点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK42

調査区西部で検出した土坑で、SD10を切る。平面形は楕円形を呈し、長軸1.0m、短軸0.6m、深さ17cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器1点、土師質土器5点、瓦器1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK43

調査区西部で検出した土坑で、平面形は隅丸方形を呈し、一辺0.9m、深さ12cmを測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器2点、土師器4点、須恵器2点、土師質土器24点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK44

調査区西部東寄り検出した土坑で、平面形は隅丸方形を呈し、一辺1.2m、深さ27cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器18点、土師器2点、須恵器2点、土師質土器65点、瓦質土器7点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK45

調査区西部で検出した土坑で、ST19を切る。平面形は不整楕円形を呈し、長軸1.2m、短軸0.8m、深さ39cmを測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器2点、土師質土器13点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK46

調査区西部で検出した土坑で、SD11を切る。平面形は楕円形を呈し、長軸2.0m、短軸1.3m、深さ35cmを測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器22点、土師器5点、須恵器7点、土師質土器181点、東播系須恵器1点、瓦質土器8点、瓦器2点、備前焼1点がみられ、弥生土器1点(481)、土師質土器1点(482)が図示できた。

出土遺物(図2-107 481・482)

481は弥生土器の甕である。口縁部は緩やかに外反して立ち上がり、口縁端部は丸く収める。内面全体にハケ、外面全体にタタキを施し、口縁部外面には指頭圧痕、胴部外面下

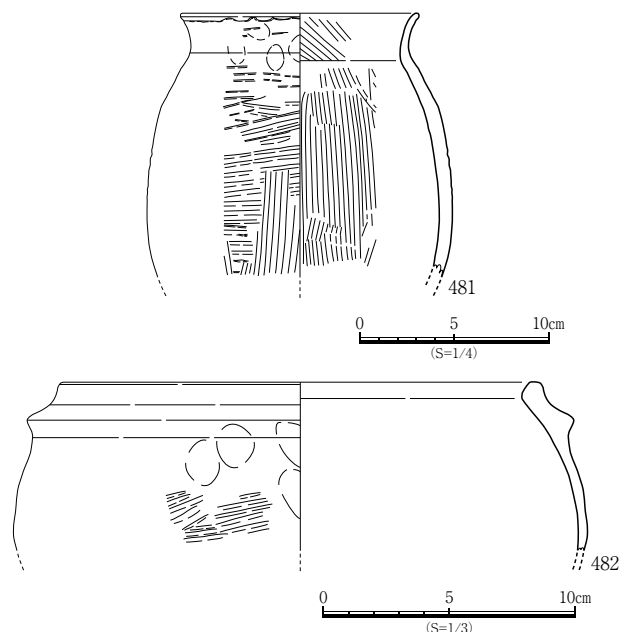


図2-107 SK46出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (4) 土坑

半にはハケ調整を加える。

482は土師質土器の鍋で、口縁部外面下端には断面三角形の顎が認められる。口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にナデ、胴部外面にタタキを施し、顎の直下にはヨコナデ調整を加える。

SK47(図2-108)

調査区西部で検出した土坑で、平面形は円形を呈し、径1.5m、深さ58cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質極細粒砂で、出土遺物には弥生土器527点、庄内式土器15点がみられ、弥生土器7点(483~489)が図示できた。

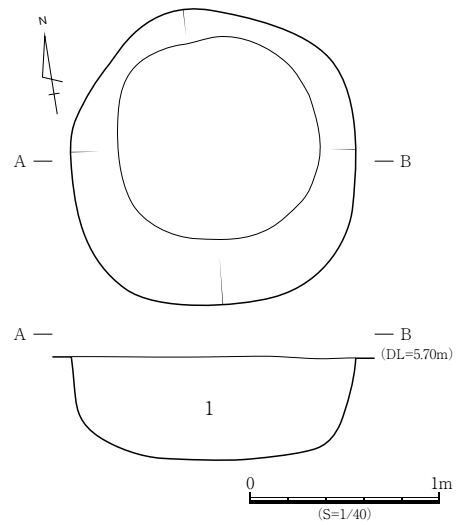
出土遺物(図2-109 483~489)

483は壺の口縁部破片と考えられるもので、摩耗のため調整は不明であるが、外面に崩れた波状文を配する。484~

487は甕である。484はほぼ完存し、口縁部は斜め上方に直線的に立ち上がる。口縁端部はヨコナデにより面をなし、口縁部内面にハケ、胴部内面に粗いハケ、底部内面にナデ、口縁部から胴部外面にタタキ、底部外面にハケを施し、胴部外面下端にはハケ調整を加える。485は口縁部の屈曲が緩いもので、内面にハケ、外面にタタキを施し、口縁部内外面にヨコナデ調整を加える。486・487は口縁部が緩やかに外反して立ち上がるもので、486は口縁部内面にハケ、胴部内面に板ナデ、外面全体にタタキを施す。口縁部内外面にヨコナデ調整、胴部外面下端にハケ調整を加え、胴部外面上半には煤が付着する。487は口縁部内面にハケ、胴部内面にナデ、外面全体にタタキを施す。口縁端部内外面にヨコナデ調整、胴部外面上半にハケ調整を加え、外面全体に煤が付着する。488は鉢で、内面にナデ、外面にタタキのちナデを施す。489は有段高杯とみられる脚段部破片で、段部外面下端に竹管状の刺突文を施す。

SK48

調査区南西部北寄りで検出した土坑で、平面形は楕円形を呈し、長軸1.0m、短軸0.8m、深さ14cm



遺構埋土
1. 土器を含む小礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質極細粒砂

図2-108 SK47

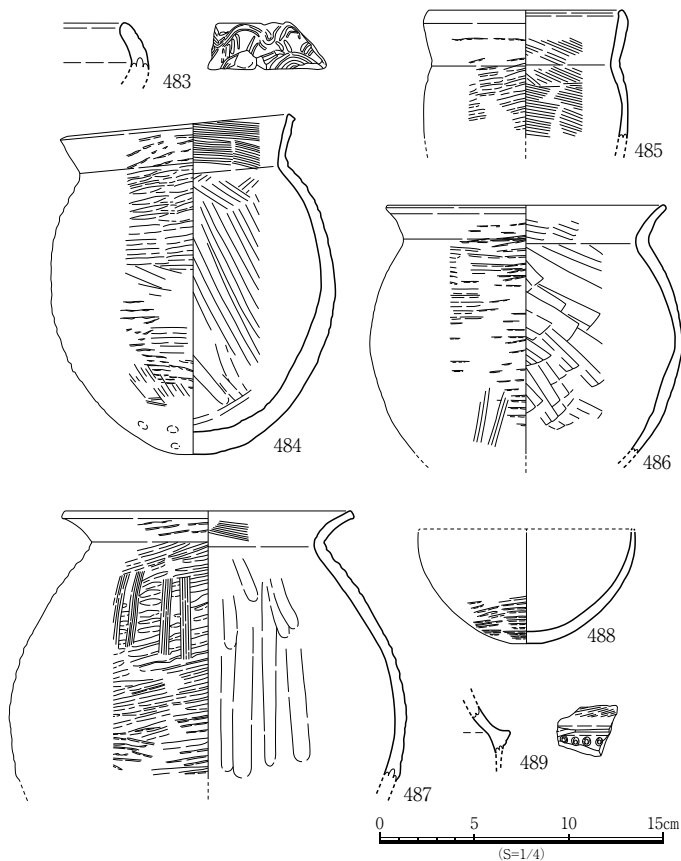


図2-109 SK47出土遺物実測図

を測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器2点、須恵器1点、土師質土器22点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK49

調査区南西部北寄りで検出した土坑で、平面形は楕円形を呈し、長軸1.0m、短軸0.6m、深さ6cmを測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には土師質土器9点、瓦質土器1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK50

調査区南西部北寄りで検出した土坑で、平面形は隅丸長方形を呈し、長軸0.7m、短軸0.6m、深さ8cmを測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には土師質土器19点がみられ、土師質土器1点(490)が図示できた。

出土遺物(図2-110 490)

490は小皿で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。

SK51

調査区南西部北寄りで検出した土坑で、SD11を切る。平面形は隅丸方形を呈し、一辺0.7m、深さ11cmを測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には土師器1点、須恵器1点、土師質土器5点、瓦質土器1点がみられたが、図示できるものはなかった。

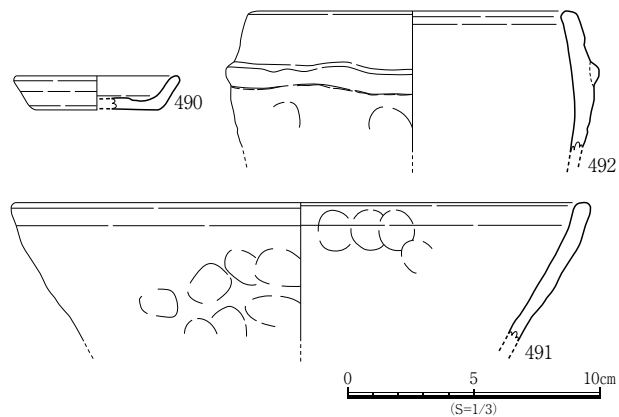


図2-110 SK50・55出土遺物実測図

SK52

調査区南西部北寄りで検出した土坑で、平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.0m、短軸0.7m、深さ11cmを測る。埋土は土器と黄褐色(10YR5/6)小礫を含む暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には土師器5点、須恵器1点、土師質土器29点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK53

調査区南西部北寄りで検出した土坑である。平面形は楕円形と考えられ、SD11を切り、SK54に切られる。長軸は不明で、短軸0.7m、深さ7cmを測る。埋土は土器と黄褐色(10YR5/6)小礫を含む暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物は皆無であった。

SK54

調査区南西部北寄りで検出した土坑で、SK53を切り、SK55に切られる。平面形は長楕円形を呈し、長軸4.0m、短軸0.8m、深さ22～38cmを測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器17点、土師器9点、須恵器5点、土師質土器152点、瓦質土器4点、白磁1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK55

調査区南西部北寄りで検出した土坑で、SK54を切る。平面形は長楕円形を呈し、長軸3.0m、短軸0.8m、深さ47～55cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器34点、土師器19点、須恵器8点、土師質土器448点、瓦質土器21点、備前焼1点、

2. 検出遺構と遺物 (4) 土坑

瀬戸焼1点, 古代瓦片1点がみられ, 瓦質土器2点(491・492)が図示できた。

出土遺物(図2-110 491・492)

491は捏鉢と考えられる破片で, 摩耗のため調整は不明瞭であるが, 器面には指頭圧痕が残る。492は鍋で, 口縁部下端に断面台形状の顎が付く。摩耗のため調整は不明瞭であるが, 器面には指頭圧痕が残る。

SK56

調査区南西部東寄りで検出した土坑で, SD18に切られる。平面形は不整形を呈し, 長軸と短軸は不明で, 深さは18~27cmを測る。埋土は土器と黄褐色(10YR5/6)小礫を含む暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒~中粒砂で, 出土遺物には弥生土器1点, 須恵器2点, 土師質土器7点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK57

調査区南西部で検出した土坑で, 平面形は不整隅丸長方形を呈し, 長軸1.9m, 短軸1.2m, 深さ8~10cmを測る。埋土は土器と黄褐色(10YR5/6)小礫を含む暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒~中粒砂で, 出土遺物には弥生土器1点, 土師器2点, 須恵器1点, 土師質土器41点, 瓦質土器2点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK58

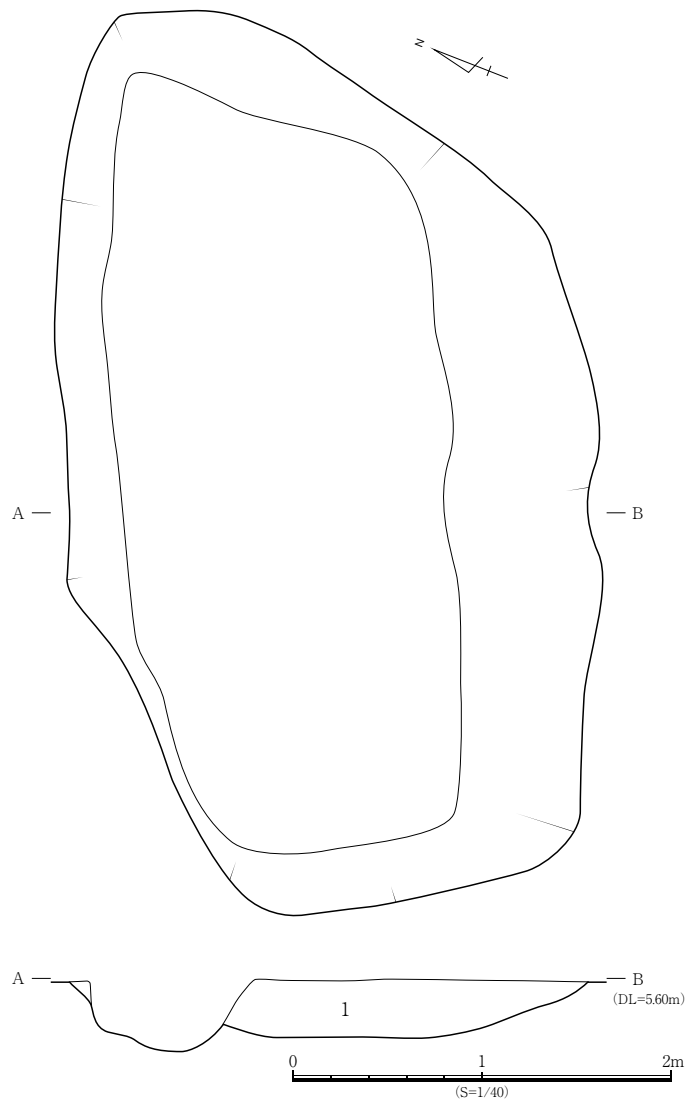
調査区南西部で検出した土坑で, SD14を切る。平面形は隅丸長方形を呈し, 長軸1.0m, 短軸0.7m, 深さ5~6cmを測る。埋土は土器を含む小~中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒~中粒砂で, 出土遺物には弥生土器1点, 須恵器3点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK59

調査区南西部北寄りで検出した土坑で, SD12を切る。平面形は隅丸方形を呈し, 一辺1.0m, 深さ18cmを測る。埋土は土器を含む小~中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒~中粒砂で, 出土遺物には土師器2点, 須恵器1点, 土師質土器34点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK60

調査区南西部北寄りで検出した土坑



遺構埋土
1. 土器を含む小~中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質極細粒~中粒砂

図2-111 SK61

で、平面形は不整形を呈し、長軸1.1m、短軸0.5～0.9m、深さ6～7cmを測る。埋土は土器と黄褐色(10YR5/6)小礫を含む暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器1点、土師器1点、土師質土器9点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK61(図2-111)

調査区南西部で検出した土坑で、SD13・15に切られる。平面形は不整形を呈し、長軸4.8m、短軸2.9m、深さ32～36cmを測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質極細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器168点、土師器185点、須恵器30点、黒色土器1点、瓦1点、石製品1点がみられ、須恵器5点(493～497)、土師器2点(498・499)、瓦1点(500)、石製品1点(501)が図示できた。

出土遺物(図2-112 493～501)

493～497は須恵器で、493・494は杯蓋である。493は口縁端部を丸く収め、天井部外面にナデ、そ

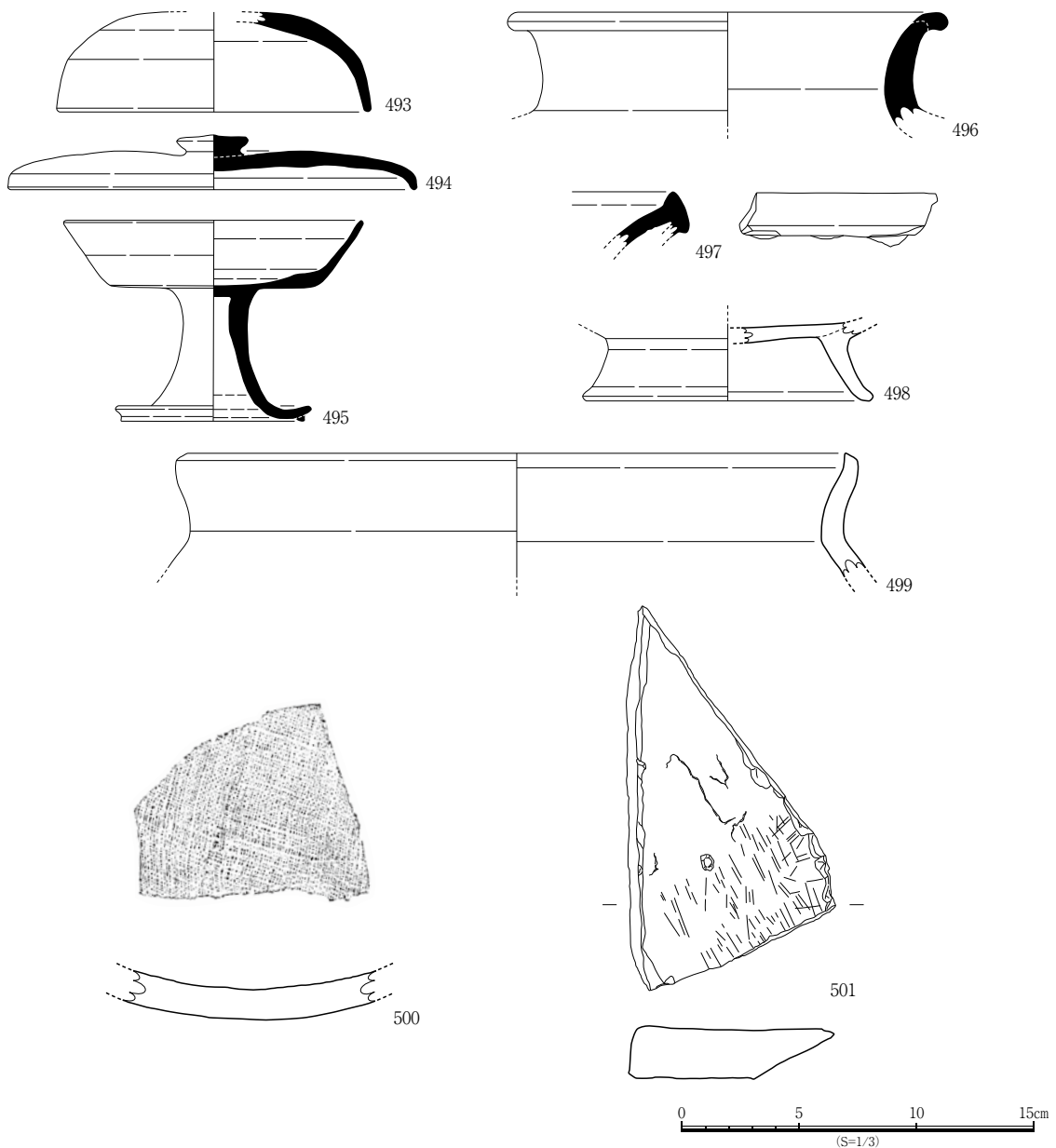


図2-112 SK61出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (4) 土坑

他の部位に回転ナデを施す。494は擬宝珠形つまみが付き、口縁端部は屈曲して垂直に短く落ちる。天井部外面に回転ヘラケズリ、その他の部位に回転ナデを施し、天井部内面にはナデ調整を加える。495は高杯である。脚裾部は反り、脚裾端部内面には断面三角状の突帯を巡らす。器面には回転ナデを施すが、杯部内面は摩耗のため調整は不明瞭である。杯部内面と脚部内外面には自然釉が認められる。496・497は甕と考えられるものである。496は口縁部が大きく屈曲して立ち上がり、内外面に回転ナデを施す。497は口縁端部を上下に拡張し、端部下端から帯状の下垂部が認められる。摩耗のため、調整は不明瞭であるが、外面に櫛描波状文と沈線を配する。

498・499は土師器である。498は盤とみられるもので、「ハ」の字状に開く高台を有する。摩耗のため調整は不明瞭であるが、皿部内面にナデ調整が認められる。499は甕で、口縁部は「S」字状に屈曲し、口縁端部をつまみ上げる。摩耗のため調整は不明瞭であるが、外面にヨコナデ調整が認められる。

500は平瓦で、凹面に明瞭な布目圧痕、凸面にナデ調整が残る。

501は砥石で、片面の一部と側面に使用痕が認められ、石材は細粒砂岩と考えられる。

SK62

調査区南西部で検出した土坑で、平面形は不整隅丸長方形を呈し、長軸 1.6m、短軸 1.4m、深さ 9～12 cmを測る。埋土は土器と黄褐色(10YR5/6)小礫を含む暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器7点、土師器1点、須恵器2点、土師質土器115点、瓦質土器3点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK63

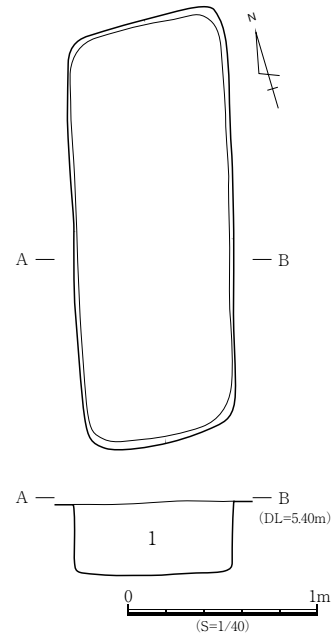
調査区北部で検出した土坑で、SD23を切る。平面形は長楕円形を呈し、長軸は不明で、短軸 0.8m、深さ 6 cmを測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器7点、土師質土器8点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK64

調査区北部で検出した土坑で、SK65に切られる。平面形は不整隅丸長方形を呈し、長軸は不明で、短軸 0.5m、深さ 5 cmを測る。埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物は皆無であった。

SK65(図2-113)

調査区北部で検出した土坑で、ST22とSK64を切る。土坑墓とみられるもので、平面形は隅丸長方形を呈し、長軸 2.3m、短軸 1.0m、深さ 33～36 cmを測る。埋土は土器を含む小礫・炭化物混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質極細粒砂をブロック状に含み、出土遺物には弥生土器534点、土師器1点、須恵器4点、土師質土器62点、瓦質土器2点、備



遺構埋土
1. 土器を含む小礫・炭化物混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質極細粒砂をブロック状に含む

図2-113 SK65

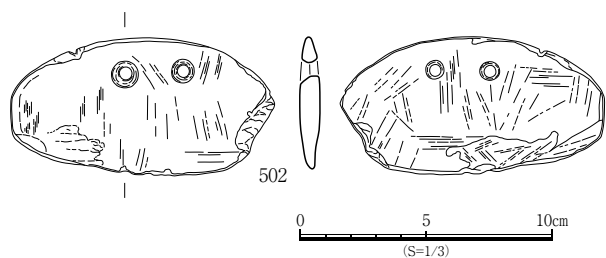


図2-114 SK65出土遺物実測図

前焼1点, 石製品1点がみられ, 石製品1点(502)が図示できた。

出土遺物(図2-114 502)

502は石庖丁で, 一部を欠損する。径5mmの孔を2カ所穿孔し, 刃部は摩耗する。表面には調整痕がみられ, 石材は粘板岩と考えられる。

SK66(図2-115)

調査区北部南寄りで検出した土坑である。土坑墓とみられるもので, 平面形は不整隅丸長方形を呈し, 長軸2.8m, 短軸1.0m, 深さ62~64cmを測る。埋土は土器を含む小~大礫混じりの灰黄褐色(10YR4/2)シルト質細粒~中粒砂で, 地山礫をブロック状に含み, 出土遺物には弥生土器14点, 土師器8点, 須恵器5点, 土師質土器78点, 瓦質土器5点, 備前焼2点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK67

調査区北部南寄りで検出した土坑で, 平面形は楕円形を呈し, 長軸1.3m, 短軸0.7m, 深さ16~21cmを測る。埋土は土器を含む小礫・炭化物混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で, 出土遺物には弥生土器11点, 土師質土器31点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK68(図2-116)

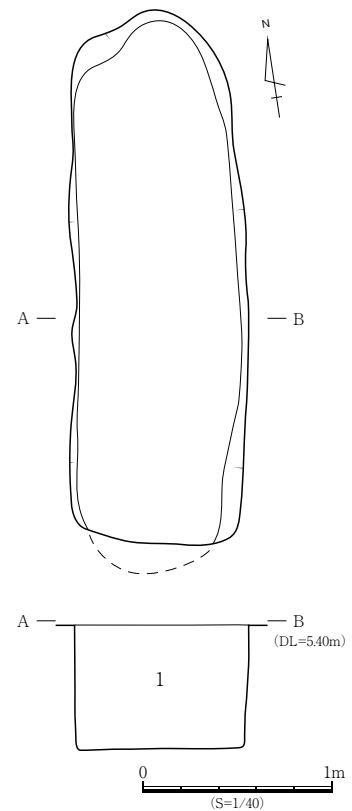
調査区北部南寄りで検出した土坑で, SB8のP10を切り, SK69に切られる。平面形は不整楕円形を呈し, 長軸2.5m, 短軸2.3m, 深さ13~19cmを測る。埋土は小~大礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質細粒砂で, にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質細粒砂のブロックを多く含み, 出土遺物には弥生土器23点, 土師器4点, 須恵器4点, 土師質土器145点, 瓦質土器1点, 備前焼1点, 白磁1点, 石製品1点がみられ, 石製品1点(503)が図示できた。

出土遺物(図2-117 503)

503は砥石で, 2面に使用痕が認められる。石材は砂岩である。

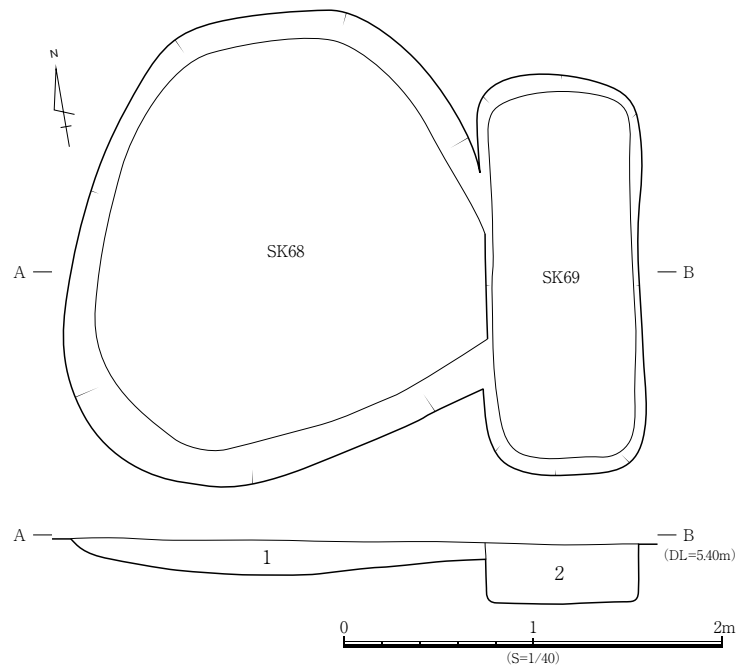
SK69(図2-116)

調査区北部南寄りで検出した土坑で, SK68を切る。土坑墓とみられるもので, 平面形は隅丸長方形を呈し, 長軸2.1m, 短軸0.8m, 深さ29cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂で, 出土遺物には弥生土器16点,



遺構埋土
1. 土器を含む小~大礫混じりの灰黄褐色(10YR4/2)シルト質細粒~中粒砂で, 地山礫をブロック状に含む

図2-115 SK66



遺構埋土
1. 小~大礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質細粒砂で, にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質細粒砂のブロックを多く含む(SK68)
2. 小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂(SK69)

図2-116 SK68・69

2. 検出遺構と遺物 (4) 土坑

土師器1点, 土師質土器34点, 備前焼1点, 土製品2点がみられ, 土製品1点(504)が図示できた。

出土遺物(図2-117 504)

504は土錘で, 片側を欠損し, 摩耗のため調整は不明である。

SK70

調査区北部で検出した土坑で, SB8のP1を切る。平面形は不整円形を呈し, 径1.0m, 深さ14cmを測る。埋土は小～大礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質細粒砂で, におい黄褐色(10YR4/3)シルト質細粒砂のブロックを多く含み, 出土遺物には弥生土器9点, 土師器1点, 土師質土器30点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK71

調査区北部で検出した土坑で, SK72に切られる。平面形は不整楕円形を呈し, 長軸1.6m, 短軸1.0m, 深さ10cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂で, 出土遺物には弥生土器33点, 土師器3点, 須恵器3点, 土師質土器115点, 瓦質土器1点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK72(図2-118)

調査区北部で検出した土坑で, ST28, SK71, SD33を切る。遺構検出時には平面形が円形を呈する集石が確認されており, 径1.7m, 深さ8cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂で, 出土遺物には弥生土器7点, 須恵器1点, 土師質土器25点, 瓦質土器1点, 石製品1点がみられ, 須恵器1点(505), 石製品1点(506)が図示できた。

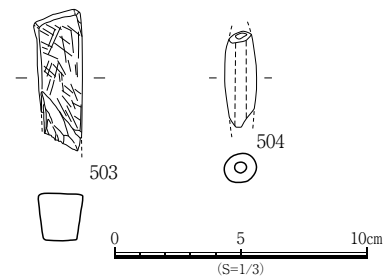


図2-117 SK68・69出土遺物実測図

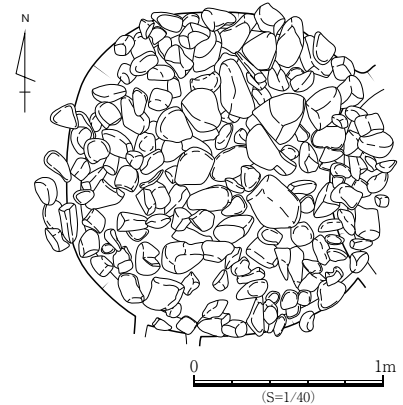


図2-118 SK72

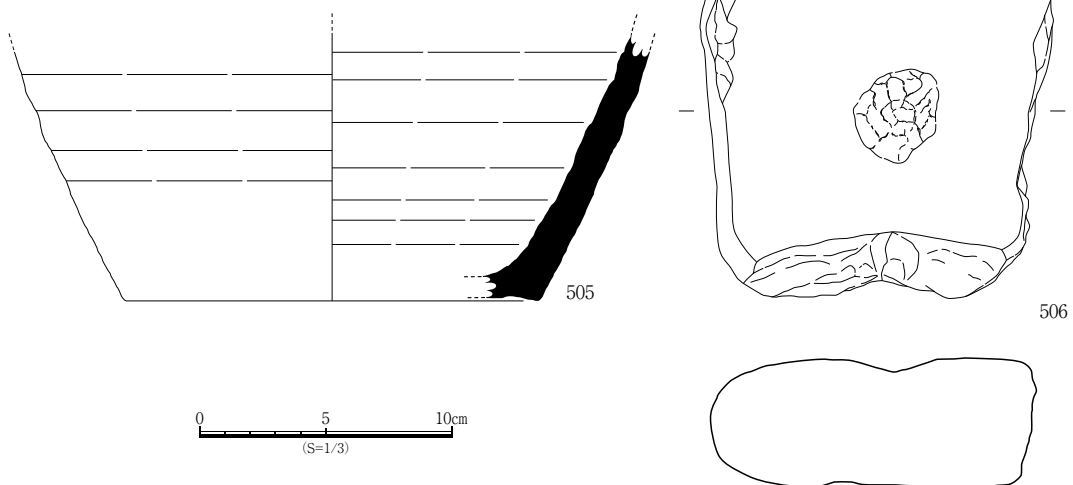


図2-119 SK72出土遺物実測図

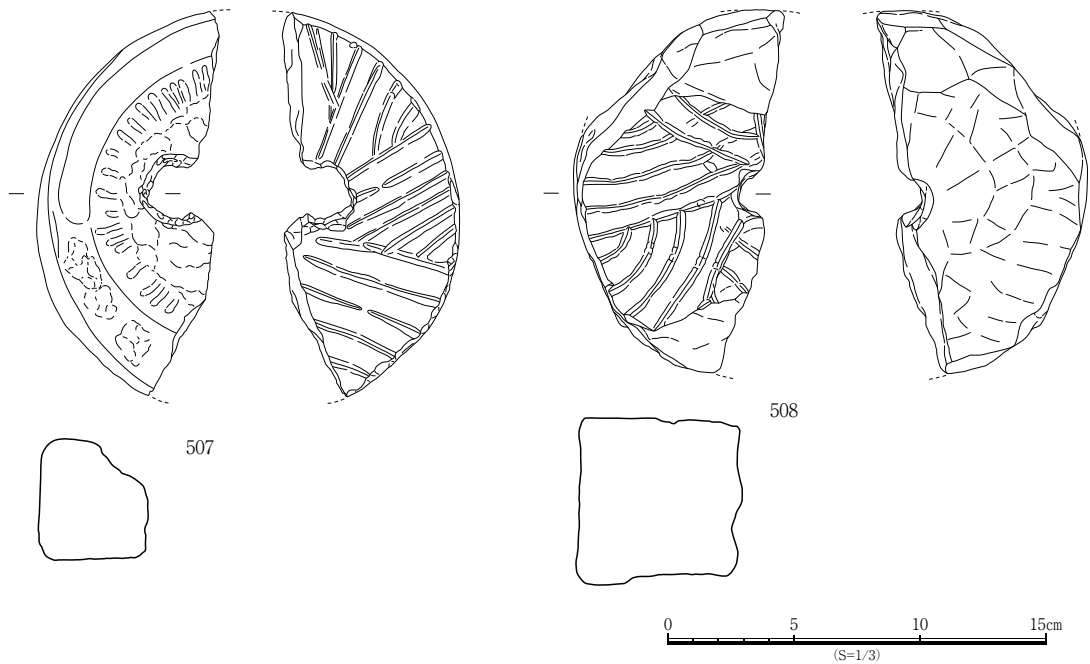


図2-120 SK73出土遺物実測図

出土遺物(図2-119 505・506)

505は須恵器の甕と考えられる底部破片で、器面に回転ナデを施し、底部外面にはナデ調整が認められる。

506は台石で、片面に明瞭な使用痕が認められ、石材は砂岩である。

SK73

調査区中央部北寄りで検出した土坑で、SK74とSD23を切る。平面形は不整隅丸方形を呈し、一辺0.7m、深さ8cmを測る。埋土は小～大礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質細粒砂で、出土遺物には弥生土器7点、土師質土器9点、石製品2点がみられ、石製品2点(507・508)が図示できた。

出土遺物(図2-120 507・508)

507・508は石臼である。507は上臼で、使用面に5～6条の条痕が認められる。側面と上端部は丁寧に磨き、加工痕を消す。石材は砂岩である。508は下臼で、使用面には5条単位の条痕がみられ、側辺部は摩耗する。外面には粗い加工痕が認められ、石材は砂岩である。

SK74

調査区中央部北寄りで検出した土坑で、SD23を切り、SK73に切られる。平面形は不整隅丸方形を呈し、一辺0.9m、深さ15cmを測る。埋土は小～大礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質細粒砂で、出土遺物には弥生土器8点、土師質土器15点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK75

調査区中央部で検出した土坑で、西側は調査区外へ続く。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸と短軸は不明で、深さは39～55cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器12点、土師器7点、

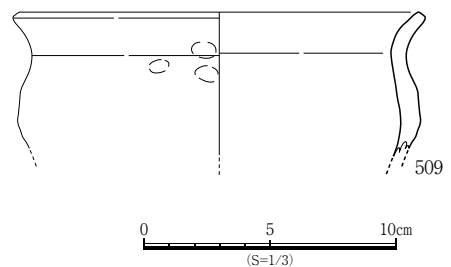


図2-121 SK75出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (4) 土坑

須恵器2点, 土師質土器87点, 瓦質土器2点がみられ, 瓦質土器1点(509)が図示できた。

出土遺物(図2-121 509)

509は鍋である。口縁部は緩やかに外反して立ち上がり, 口縁端部内外面にヨコナデ, 外面に指オサエのちナデを施す。内面は摩耗し, 外面全体に煤が付着する。

SK76

調査区中央部で検出した土坑で, 平面形は隅丸長方形を呈し, 長軸0.9m, 短軸0.8m, 深さ16cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂で, 出土遺物には弥生土器1点, 須恵器1点, 土師質土器6点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK77

調査区中央部で検出した土坑で, SD30を切る。平面形は楕円形を呈し, 長軸1.3m, 短軸0.9m, 深さ17cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒~中粒砂で, 出土遺物には弥生土器1点, 土師質土器1点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK78

調査区中央部で検出した土坑で, 平面形は楕円形を呈し, 長軸1.4m, 短軸1.2m, 深さ25cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂で, 出土遺物には弥生土器16点, 土師器1点, 須恵器3点, 土師質土器67点, 瓦器1点がみられ, 土師質土器1点(510)が図示できた。

出土遺物(図2-122 510)

510は小皿である。手づくね成形で, 内外面に指オサエのちナデを施し, 口縁端部内面にヨコナデ調整を加える。

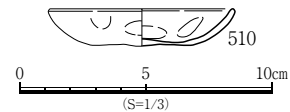


図2-122 SK78出土遺物実測図

SK79

調査区中央部で検出した土坑で, 平面形は楕円形を呈し, 長軸1.0m, 短軸0.9m, 深さ27cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂で, 出土遺物には弥生土器14点, 土師器3点, 土師質土器12点がみられ, 土師質土器2点(511・512)が図示できた。

出土遺物(図2-123 511・512)

511・512は椀で, 外底面に断面台形状の高台を貼付する。内面に回転ナデのちナデ, 外面に回転ヘラケズリを施し, 底部切り離し痕はナデ消す。

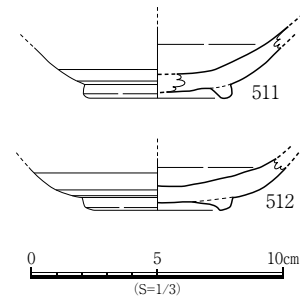


図2-123 SK79出土遺物実測図

SK80

調査区中央部北東寄り検出した土坑で, SD28・33に切られる。平面形は楕円形を呈し, 長軸2.7m, 短軸1.8m, 深さ7cmを測る。埋土は小~大礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質細粒砂で, 出土遺物には弥生土器86点, 土師質土器3点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK81

調査区中央部北東寄り検出した土坑で, SD39を切り, SK82に切られる。平面形は楕円形を呈し, 長軸1.3m, 短軸1.1m, 深さ78cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)

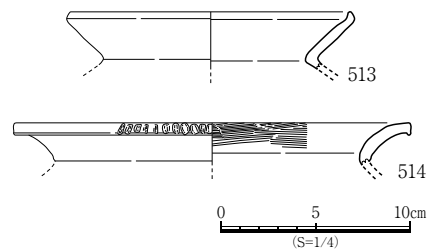


図2-124 SK81・84出土遺物実測図

シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器13点、庄内式土器1点、土師器8点、須恵器4点、土師質土器39点がみられ、庄内式土器1点(513)が図示できた。

出土遺物(図2-124 513)

513は甕である。口縁端部は上方につまみ上げ、口縁部内外面にヨコナデを施す。胴部内面にはヘラケズリ調整が認められ、口縁部外面には煤が付着する。

SK82

調査区中央部北東寄りで検出した土坑で、SK81とSD39を切る。平面形は楕円形を呈し、長軸1.5m、短軸1.3m、深さ76cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器4点、土師器1点、須恵器5点、土師質土器38点、瓦質土器2点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK83

調査区中央部で検出した土坑で、平面形は楕円形を呈し、長軸0.9m、短軸0.6m、深さ13cmを測る。埋土は小～大礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質細粒砂で、出土遺物には弥生土器2点、土師質土器14点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK84(図2-125)

調査区中央部で検出した土坑で、ST25を切る。平面形は隅丸方形を呈し、一辺1.0m、深さ41～44cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器79点、須恵器1点、土師質土器86点、瓦質土器1点がみられ、弥生土器1点(514)が図示できた。

出土遺物(図2-124 514)

514は甕で、口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。摩耗のため調整は不明瞭であるが、内面にハケ調整がみられ、口縁端部には幅広の刻みを施す。

SK85

調査区中央部で検出した土坑で、平面形は隅丸方形を呈し、一辺1.1m、深さ19cmを測る。埋土は土器を含む小礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質極細粒砂で、出土遺物には弥生土器354点、土師器39点、金属製品2点がみられ、弥生土器2点(515・516)、土師器2点(517・518)、金属製品2点(519・520)が図示できた。

出土遺物(図2-126 515～520)

515・516は弥生土器で、甕の底部破片である。515は内面にナデ、外面にタタキのちハケを施し、外底面にはタタキ目がみられる。516は内面にハケのちナデ、外面にタタキを施し、外底面にはタタキ目のちナデ調整がみられる。

517・518は土師器の甕である。517は口縁端部を水平方向に拡張し、胴部は球形を呈する。口縁端部にヨコナデ、胴部内面上半に強いナデ、胴部内面下半にヘラケズリ、胴部外面全体に指オサエのちナデを施し、外面全体に煤が付着する。518は長胴甕と考えられるもので、口縁端部は面をなし、内外面にハケを施す。

519・520は鉄鏝である。519は鏝膨れのため鏝身の外形は不明であるが、無頸有茎鏝と考えられる

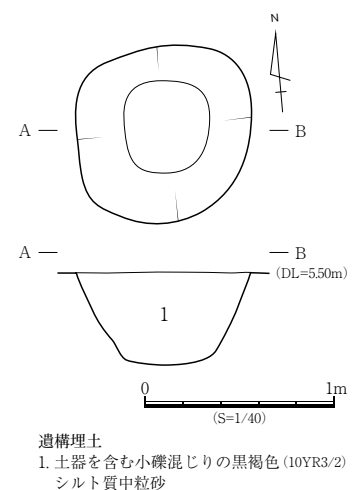


図2-125 SK84

2. 検出遺構と遺物 (4) 土坑

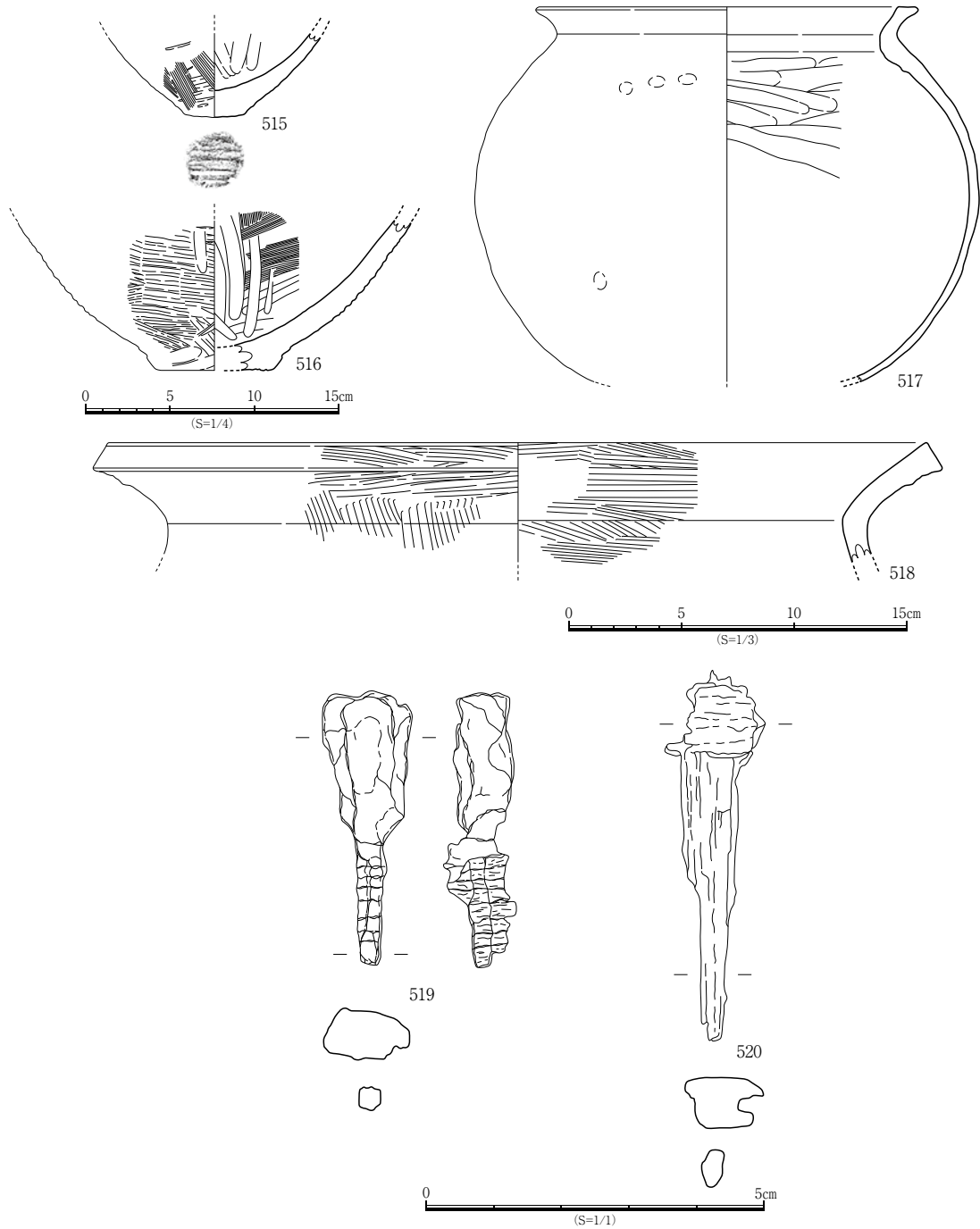


図2-126 SK85出土遺物実測図

もので、茎部には木質が残る。520は有茎式鍬と考えられるもので、鍬身の大部分は欠損し、茎部に木質が残る。

SK86

調査区中央部で検出した土坑で、ST26を切る。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸0.9m、短軸0.8m、深さ42cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器5点、土師質土器13点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK87

調査区中央部東寄りで検出した土坑で、平面形は隅丸長方形を呈し、長軸 1.8m、短軸 1.5m、深さ 10～28 cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器28点、土師器6点、須恵器4点、土師質土器29点、瓦質土器1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK88

調査区中央部東寄りで検出した土坑で、SB9のP15に切られる。平面形は不整長楕円形を呈し、長軸 2.5m、短軸 0.9m、深さ 8～10 cmを測る。埋土は小～大礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質細粒砂で、出土遺物には土師質土器9点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK89

調査区中央部東寄りで検出した土坑で、SB9のP16に切られる。平面形は長楕円形を呈し、長軸 1.7m、短軸 0.8m、深さ 9～11 cmを測る。埋土は小礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質極細粒砂で、出土遺物には弥生土器2点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK90

調査区中央部で検出した土坑で、ST25を切り、SB18のP4とSB19のP4に切られる。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸 1.3m、短軸 1.0m、深さ 8～12 cmを測る。埋土は小～大礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質細粒砂で、出土遺物には弥生土器4点、土師器3点、土師質土器26点、瓦質土器1点がみられ、弥生土器1点(521)が図示できた。

出土遺物(図2-127 521)

521は甕で、口縁部は緩やかに外反して立ち上がり、口縁端部は下方に拡張する。口縁部内面にハケのちヨコナデ、胴部内面にナデとハケ、口縁部外面にハケ、胴部外面にタタキのちハケを施し、外面には煤が付着する。

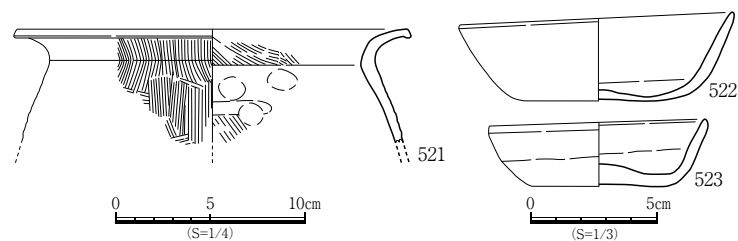


図2-127 SK90・93・95出土遺物実測図

SK91

調査区南部北寄りで検出した土坑で、SD13に切られる。平面形は長楕円形を呈し、長軸は不明で、短軸 0.4m、深さ 7 cmを測る。埋土は小～大礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質細粒砂で、出土遺物には土師質土器3点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK92

調査区南部北寄りで検出した土坑で、P43を切る。平面形は不整楕円形を呈し、長軸 0.8m、短軸 0.5m、深さ 24～28 cmを測る。埋土は小～大礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質細粒砂で、出土遺物には土師質土器4点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK93

調査区南部北寄りで検出した土坑で、SD13・23を切る。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸 2.4m、短軸 2.2m、深さ 11～21 cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器49点、庄内式土器1点、土師器11点、須恵器6点、土師質土器125点、瓦質土器

2. 検出遺構と遺物 (4) 土坑

2点, 備前焼2点, 白磁1点, 青花1点がみられ, 土師質土器1点(522)が図示できた。

出土遺物(図2-127 522)

522は皿である。手づくね成形で, 口縁部内外面と体部内面にヨコナデ, 体部外面に指オサエのちナデを施す。底部内外面にはナデ調整が認められ, 外面の一部にタールが付着する。

SK94

調査区南部北寄りで検出した土坑で, SD23を切る。平面形は不整楕円形を呈し, 長軸0.8m, 短軸0.7m, 深さ11cmを測る。埋土は小～大礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質細粒砂で, 出土遺物には弥生土器2点, 土師質土器14点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK95

調査区南部北寄りで検出した土坑で, SK97とSD13を切り, SK96に切られる。平面形は不整楕円形を呈し, 長軸3.2m, 短軸2.2m, 深さ12～47cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で, 出土遺物には弥生土器23点, 土師器5点, 須恵器10点, 土師質土器175点, 瓦質土器5点, 備前焼4点, 青磁1点, 白磁1点がみられ, 土師質土器1点(523)が図示できた。

出土遺物(図2-127 523)

523は小皿である。手づくね成形で, 摩耗のため調整は不明である。

SK96

調査区南部北寄りで検出した土坑で, SK95, SD37を切る。平面形は不整隅丸長方形を呈し, 短軸は不明で, 長軸2.5m, 深さ8～13cmを測る。埋土は小～大礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質細粒砂で, 出土遺物には弥生土器6点, 土師質土器24点, 瓦質土器2点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SK97

調査区南部で検出した土坑で, SD13を切り, SK95に切られる。平面形は不整楕円形を呈し, 長軸1.8m, 短軸1.2m, 深さ38cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で, 出土遺物には弥生土器36点, 土師器9点, 須恵器5点, 土師質土器123点, 瓦質土器5点, 備前焼1点, 瀬戸焼1点, 青磁1点, 白磁2点, 金属製品1点がみられ, 瀬戸焼1点(524), 白磁1点(525), 金属製品1点(526)が図示できた。

出土遺物(図2-128 524～526)

524は天目茶碗である。削り出し高台で, 器面には回転ヘラケズリを施し, 内面には黒色鉄釉を施釉する。

525は端反の皿で, 体部内面に一条の沈線を施し, 器面には灰白色釉を施す。

526は鉈と考えられるもので, 錆膨れのため全体の形状は不明であるが, 基部には木質が残る。

SK98

調査区南部北寄りで検出した土坑で, SD37を切る。平面形は楕円形を呈し, 長軸2.0m, 短軸1.6m, 深さ6cmを測る。埋土は小～大礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質細粒砂で, 出土遺物には弥生土器5点, 須恵器1点, 土師質土器28点, 備前焼1点がみられ, 土師質土器1点(527)が図示できた。

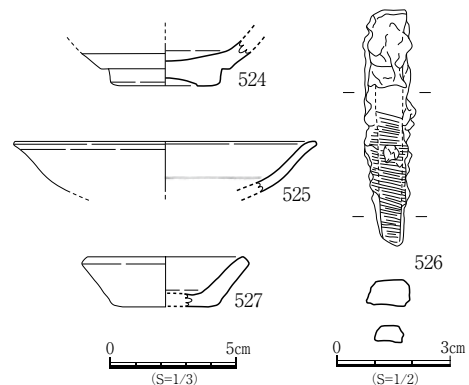


図2-128 SK97・98出土遺物実測図

出土遺物(図2-129 527)

527は小皿で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。

SK99

調査区南部北寄りで検出した土坑で、SD13を切る。平面形は楕円形を呈し、長軸2.4m、短軸2.1m、深さ30cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器13点、須恵器1点、土師質土器20点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK100

調査区南部で検出した土坑で、SK101に切られる。平面形は楕円形を呈し、長軸は不明で、短軸0.9m、深さ9cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器23点、土師質土器47点、瓦質土器2点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK101

調査区南部で検出した土坑で、SK100を切り、SK102に切られる。平面形は不整楕円形を呈し、長軸は不明で、短軸1.2m、深さ11cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には須恵器1点、土師質土器11点、瓦質土器1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SK102

調査区南部で検出した土坑で、SK101を切り、SA3に切られる。平面形は不整隅丸長方形を呈し、長軸3.6m、短軸2.1m、深さ20cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器15点、土師器4点、土師質土器36点、備前焼3点、青花1点がみられ、備前焼1点(528)、青花1点(529)が図示できた。

出土遺物(図2-129 528・529)

528は播鉢の底部破片で、内外面に回転ナデを施し、体部と底部内面に条痕が認められる。

529は皿で、口縁部は外反して立ち上がる。体部外面に牡丹唐草文、見込に十字花文を配し、畳付は露胎である。

SK103(図2-130)

調査区南部で検出した土坑で、SB11のP5を切る。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.8m、短軸1.6m、深さ113～121cmを測る。埋土は1層が小礫混じりのにぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒～粗粒砂、2層が小～中礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質中粒砂、3層が小～大礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質粗粒砂で、出土遺物には弥

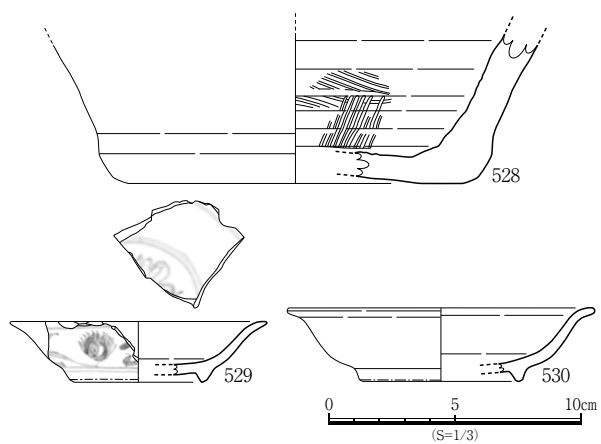
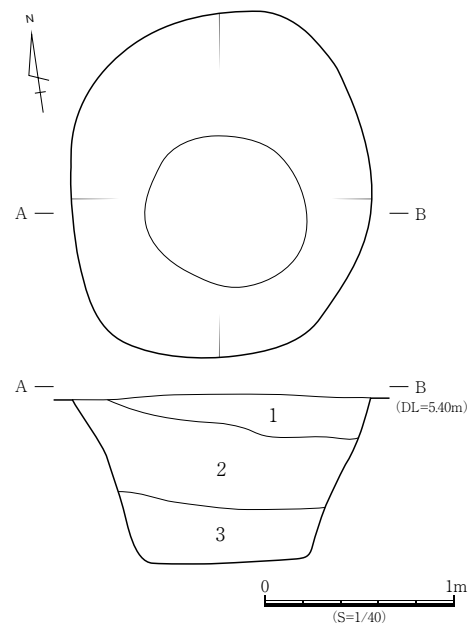


図2-129 SK102・103出土遺物実測図



- 遺構埋土
1. 小礫混じりのにぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質中粒～粗粒砂
 2. 小～中礫混じりの褐灰色(10YR4/1)シルト質中粒砂
 3. 小～大礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質粗粒砂

図2-130 SK103

2. 検出遺構と遺物 (5) 溝跡

生土器9点, 土師器5点, 須恵器1点, 土師質土器57点, 瓦質土器4点, 備前焼1点, 青磁3点, 白磁2点, 青花2点がみられ, 白磁1点(530)が図示できた。

出土遺物(図2-129 530)

530は端反の皿である。壘付は露胎で, 砂が付着する。

SK104

調査区東部で検出した土坑で, SD45に大部分を切られる。平面形と長軸, 短軸は不明で, 深さ25cmを測る。埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で, 出土遺物には弥生土器21点, 須恵器1点がみられたが, 図示できるものはなかった。

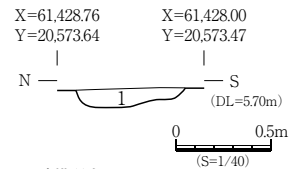
(5) 溝跡

SD1

調査区北西部で検出した南北溝で, 確認延長1.0m, 幅0.4m, 深さ10cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒～中粒砂で, 出土遺物には弥生土器7点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SD2(図2-131)

調査区北西部で検出した逆「L」字状の溝で, SK10を切り, SB12, SK11・22に切られる。確認延長19.1m, 幅0.4～0.9m, 深さ9～35cmを測り, 埋土は小～中礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒～中粒砂である。出土遺物には弥生土器538点, 土師器4点, 須恵器10点, 土師質土器12点, 瓦質土器3点, 備前焼1点, 青磁1点がみられ, 弥生土器2点(531・532), 瓦質土器1点(533)が図示できた。なお, 土師器, 須恵器, 土師質土器, 瓦質土器, 備前焼, 青磁は遺構の切り合いが判別できなかったピット等の遺物と考えられる。

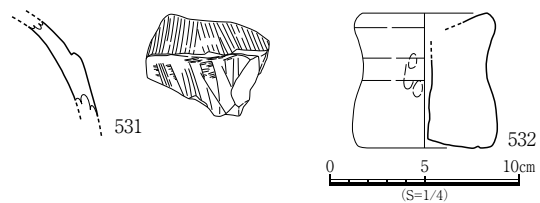


遺構埋土
1. 土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質細粒～中粒砂

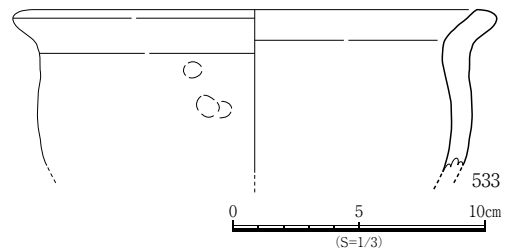
図2-131 SD2

出土遺物(図2-132 531～533)

531は弥生土器で, 壺と考えられる胴部破片である。外面には明瞭な段部が認められ, 内面にナデ, 外面上半にハケ, 外面下半にタタキのちハケを施す。



532は土製品の支脚で, 上下面と体部中位が凹む。中央部には径約0.8cmの穿孔がみられ, 表面には指オサエとナデを施す。



533は瓦質土器の鍋で, 口縁部は屈曲し, 斜め上方に短く立ち上がる。摩耗のため調整は不明であるが, 胴部外面下端には煤が付着する。

SD3

調査区西部で検出した南北溝で, 確認延長1.3m, 幅0.3m, 深さ11cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒～中粒砂で, 出土遺物には弥生土器3点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SD4

調査区北西部南寄りで検出した南北溝で, 確認延長1.2m, 幅0.2m, 深さ17cmを測る。埋土は黄褐

図2-132 SD2出土遺物実測図

色(10YR5/6)小礫を多く含む暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器1点、土師質土器2点がみられたが、図示できるものはなかった。

SD5

調査区北西部南寄りで検出した南北溝で、確認延長2.2m、幅0.2m、深さ9cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には土師質土器1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SD6

調査区北西部南寄りで検出した南北溝で、SK31を切り、確認延長2.3m、幅0.2～0.3m、深さ3～10cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器18点、須恵器1点、土師質土器11点がみられたが、図示できるものはなかった。

SD7

調査区西部東寄りで検出した東西溝である。SD18に切られ、確認延長2.1m、幅0.4m、深さ3～7cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫を多く含む暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器21点、土師質土器2点がみられたが、図示できるものはなかった。

SD8

調査区西部東寄りで検出した東西溝である。SB4のP1を切り、SD18に切られ、確認延長3.3m、幅0.3～0.4m、深さ8～13cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器12点がみられたが、図示できるものはなかった。

SD9

調査区西部で検出した東西溝である。SB4のP8を切り、確認延長2.6m、幅0.3m、深さ4～10cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物は皆無であった。

SD10

調査区西部で検出した東西溝である。SB7のP7を切り、SK42に切られ、確認延長5.6m、幅0.3～0.4m、深さ9～11cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器6点、須恵器1点、土師質土器14点、瓦質土器2点がみられたが、図示できるものはなかった。

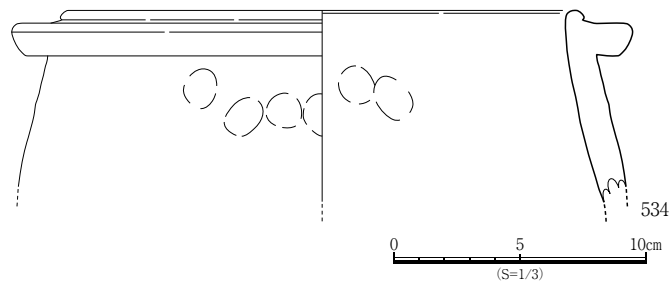


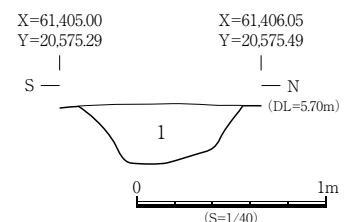
図2-133 SD11出土遺物実測図

SD11

調査区西部南寄りで検出した東西溝で、SK46・51・53、P27に切られる。確認延長4.5m、幅0.3～0.4m、深さ4～7cmを測り、埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂である。出土遺物には弥生土器11点、土師器2点、須恵器3点、土師質土器31点、瓦質土器2点、青磁1点がみられ、土師器1点(534)が図示できた。

出土遺物(図2-133 534)

534は羽釜で、口縁端部外面直下に顎が付く。胴部内外面にナデ、



遺構埋土
1. 土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂

図2-134 SD13

2. 検出遺構と遺物 (5) 溝跡

顎周辺にヨコナデを施し、胴部外面には指頭圧痕が残る。

SD12

調査区南西部北寄りで検出した東西溝で、SK59に切られ、確認延長7.0m、幅0.2～0.4m、深さ3～6cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器2点、土師質土器3点がみられたが、図示できるものはなかった。

SD13(図2-134)

調査区南部で検出した東西溝で、SK61、SD23・39を切り、SK93・95・97・99、SD18・19に切ら

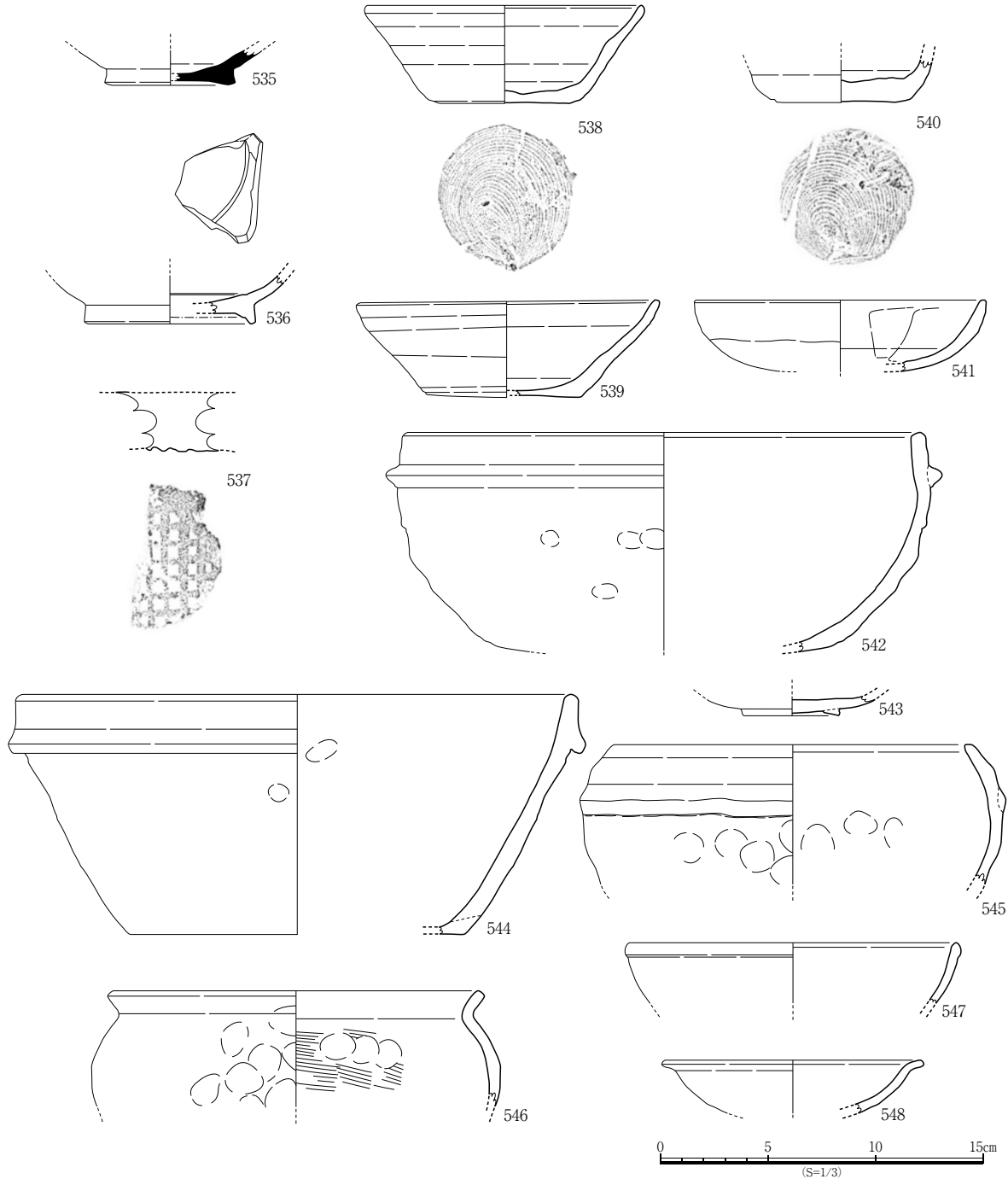


図2-135 SD13出土遺物実測図

れ、SD14・15・21・22・37に繋がる。区画溝とみられ、西側では幅2.5mを測る途切れた箇所が存在する。確認延長42.3m、幅0.8～1.6m、深さ33～46cmを測り、埋土は土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器134点、土師器47点、須恵器43点、緑釉陶器1点、瓦1点、土師質土器852点、瓦器4点、瓦質土器38点、備前焼4点、白磁4点、青花1点がみられ、須恵器1点(535)、緑釉陶器1点(536)、瓦1点(537)、土師質土器5点(538～542)、瓦器1点(543)、瓦質土器3点(544～546)、白磁2点(547・548)が図示できた。

出土遺物(図2-135 535～548)

535は須恵器の杯で、口縁部を欠損する。器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。

536は緑釉陶器の椀と考えられるもので、底部切り離しは回転糸切りである。削り出し高台で、釉は全面施釉後高台内を掻き取る。底部内面には凹線による圏線が認められ、釉調は非常に発色が良く、濃緑を呈する。

537は平瓦と考えられるもので、凸面には格子状のタタキ目が認められる。

538～542は土師質土器で、538～540は杯である。538・539は全体の形状が復元できたもので、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。540は底部破片で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。541は皿である。手づくね成形で、内面にヘラナデ、外面に指オサエのちナデを施し、口縁端部内外面にはヨコナデ調整が認められる。542は鍋で、口縁端部外面1.5cm下に顎が付く。摩耗のため調整は不明であるが、胴部外面には煤が付着する。

543は瓦器の椀で、底部外面に断面三角形の高台が付く。器面にはナデを施し、底部内面にはジグザグ状の暗文が認められる。

544～546は瓦質土器で、544は捏鉢である。口縁部外面には下垂する突帯が付き、調整は摩耗のため不明である。545・546は鍋である。545は胴部上端に低い突帯を貼り付け、調整は摩耗のため不明瞭であるが、口縁部外面にヨコナデ調整が残る。546は口縁部が屈曲し、斜め上方に短く立ち上がるもので、口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にハケのち指オサエ、胴部外面に指オサエを施し、胴部外面下半には煤が付着する。

547・548は白磁で、547は碗である。玉縁状を呈し、器面には灰白色の釉を施す。548は端反の皿で、非常に焼成が悪く施釉するも発色せず、内外面に割れも認められる。

SD14

調査区南西部で検出した東西溝で、SK58に切られ、SD13に繋がる。SD13の途切れた箇所に位置し、確認延長2.1m、幅0.4m、深さ4～6cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器2点、土師質土器5点がみられたが、図示できるものはなかった。

SD15

調査区南西部で検出した東西溝で、SK61を切り、SD13・16に繋がる。確認延長11.0m、幅0.2～1.0m、深さ4～33cmを測り、埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器71点、土師器3点、須恵器11点、土師質土器79点、瓦質土器4点が

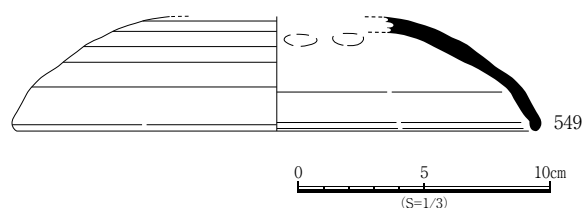


図2-136 SD15出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (5) 溝跡

みられ、須恵器1点(549)が図示できた。

出土遺物(図2-136 549)

549は杯蓋と考えられるもので、天井部内面にナデ、天井部外面に回転ヘラケズリ、口縁部内外面に回転ナデを施す。

SD16

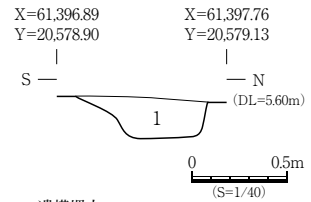
調査区南西部で検出した南北溝で、SD15に繋がる。確認延長3.6m、幅0.5～0.7m、深さ2～9cmを測り、埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器2点、土師器3点、土師質土器15点がみられたが、図示できるものはなかった。

SD17(図2-137)

調査区南西部で検出した東西溝で、SD18に繋がる。確認延長11.9m、幅0.5～1.1m、深さ5～24cmを測り、埋土は土器とにぶい黄褐色(10YR5/3)シルト質中粒砂をブロック状に含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器36点、土師器25点、須恵器9点、土師質土器449点、瓦質土器4点、青磁1点がみられ、土師質土器1点(550)が図示できた。

出土遺物(図2-138 550)

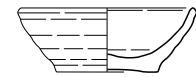
550は小杯で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。



遺構埋土

1. 土器とにぶい黄褐色(10YR5/3)シルト質中粒砂をブロック状に含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂

図2-137 SD17



550

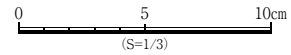
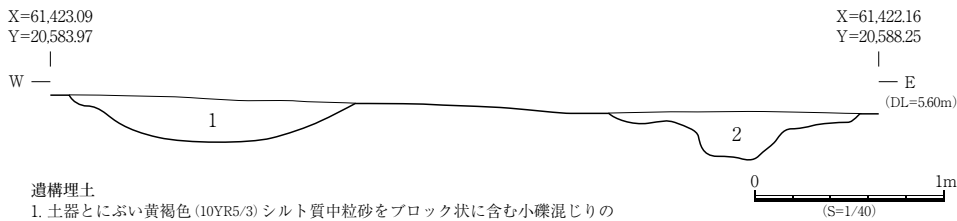


図2-138 SD17出土遺物実測図



遺構埋土

1. 土器とにぶい黄褐色(10YR5/3)シルト質中粒砂をブロック状に含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂(SD18)
2. 土器を含む小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂(SD19)

図2-139 SD18・19

SD18(図2-139)

調査区西部で検出した南北溝で、南側とも調査区外へ続く。SB5のP1・2、SK39・56、SD7・8・13、SE1を切り、SD17と繋がる。区画溝と考えられ、確認延長36.2m、幅0.8～1.8m、深さ9～29cmを測る。埋土は土器とにぶい黄褐色(10YR5/3)シルト質中粒砂をブロック状に含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器353点、土師器31点、須恵器36点、土師質土器903点、瓦質土器42点、備前焼15点、常滑焼2点、瀬戸焼2点、青磁9点、

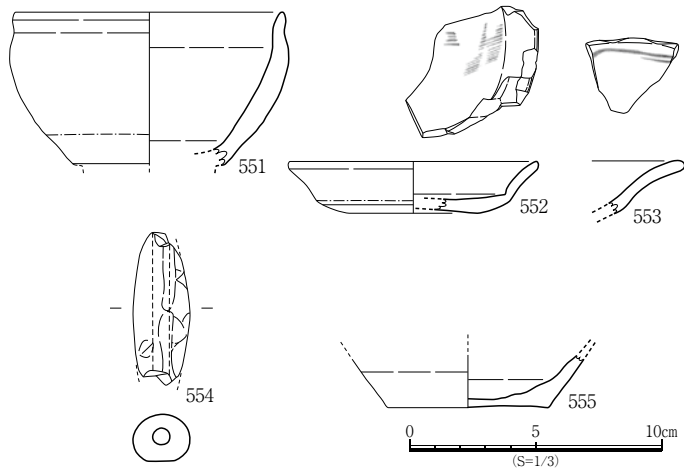


図2-140 SD18・19出土遺物実測図

白磁5点, 土製品2点がみられ, 瀬戸焼1点(551), 青磁2点(552・553), 土製品1点(554)が図示できた。

出土遺物(図2-140 551~554)

551は瀬戸焼の天目茶碗で, 底部を欠損する。口縁部は「S」字状に屈曲して立ち上がり, 被熱のため釉調は赤褐色を呈する。

552・553は青磁の皿である。552は底部外面に回転ヘラケズリを施し, 見込には割花文を配する。553は稜花皿の口縁部破片で, 口縁端部内面に2条の沈線文を施す。

554は土錘で, 両端の一部を欠損する。表面には指オサエとナデを施すが, 一部にヘラナデ調整を加える。

SD19(図2-139)

調査区西部で検出した南北溝で, 南北側とも調査区外へ続き, SD13, SE1, P23を切り, P30に切られる。区画溝と考えられ, 確認延長28.8m, 幅0.6~1.7m, 深さ18~42cmを測る。埋土は土器を含む小~中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒~中粒砂で, 出土遺物には弥生土器130点, 土師器7点, 須恵器11点, 東播系須恵器1点, 土師質土器382点, 瓦器1点, 瓦質土器30点, 青磁1点がみられ, 土師質土器1点(555)が図示できた。

出土遺物(図2-140 555)

555は土師質土器の杯で, 器面には回転ナデを施し, 底部切り離しは回転糸切りである。

SD20

調査区北部で検出した東西溝で, 東側は調査区外へ続き, ST22・23を切る。確認延長18.5m, 幅0.3~0.4m, 深さ11~27cmを測り, 埋土は小礫混じりの黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトで, 出土遺物には弥生土器88点, 土師器3点, 須恵器7点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SD21

調査区南部で検出した南北溝で, SD13に繋がる。確認延長6.0m, 幅0.5~0.6m, 深さ7~20cmを測り, 埋土は土器とにぶい黄褐色(10YR5/3)シルト質中粒砂をブロック状に含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒~中粒砂である。出土遺物には弥生土器174点, 東阿波型土器1点, 土師器7点, 須恵器8点, 土師質土器109点, 瓦質土器7点, 備前焼6点, 青磁2点, 白磁2点, 土製品1点がみられ, 土師質土器2点(556・557)が図示できた。

出土遺物(図2-141 556・557)

556・557は土師質土器の杯で, ほぼ完存する。器面には回転ナデを施し, 底部内面にはナデ調整を加える。底部切り離しは回転糸切りで, 557の体部外面には煤が付着する。

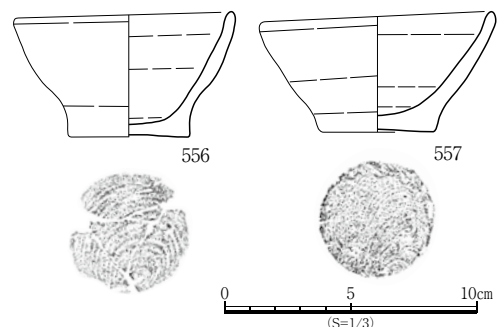


図2-141 SD21出土遺物実測図

SD22

調査区南部で検出した南北溝で, SD13に繋がる。確認延長2.6m, 幅0.4m, 深さ3cmを測り, 埋土は小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒~中粒砂で, 出土遺物には弥生土器6点, 土師器1点, 須恵器1点, 土師質土器8点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SD23

調査区中央部で検出した南北溝で, ST25, SB6のP1を切り, SB19のP7・8, SK63・73・74・94,

2. 検出遺構と遺物 (5) 溝跡

SD13・35・37に切られる。確認延長31.2m, 幅0.3～0.6m, 深さ5～11cmを測り, 埋土は小礫混じりの黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトで, 出土遺物には弥生土器156点, 土師器1点, 須恵器1点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SD24

調査区北部で検出した南北溝で, 北側は調査区外へ続き, SD20に繋がる。確認延長1.4m, 幅0.2～0.3m, 深さ3cmを測り, 埋土は小礫混じりの黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトで, 出土遺物には弥生土器1点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SD25

調査区北部で検出した東西溝で, ST28・29を切り, SD37・39, P32に切られる。確認延長19.6m, 幅0.2～0.4m, 深さ6～15cmを測り, 埋土は小～中礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒～中粒砂で, 出土遺物には弥生土器55点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SD26

調査区北部で検出した東西溝で, ST29を切り, SD37に切られる。確認延長4.8m, 幅0.4m, 深さ8cmを測り, 埋土は小礫混じりの黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトで, 出土遺物には弥生土器34点, 須恵器3点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SD27

調査区北部で検出した東西溝で, ST29, SD33を切り, SD39に切られる。確認延長4.8m, 幅0.4m, 深さ26～30cmを測り, 埋土は小礫混じりの黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトで, 出土遺物には弥生土器107点, 須恵器1点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SD28

調査区中央部北寄りで検出した東西溝で, SK80を切り, SB8のP4に切れ, SD33に繋がる。確認延長3.8m, 幅0.3m, 深さ3～6cmを測り, 埋土は小～中礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒～中粒砂で, 出土遺物には弥生土器22点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SD29

調査区東部西寄りで検出した東西溝で, SD39, P34に切られる。確認延長2.6m, 幅0.4m, 深さ3～4cmを測り, 埋土は小礫混じりの黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトで, 出土遺物には弥生土器6点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SD30

調査区中央部で検出した南北溝で, SK77に切られる。確認延長9.8m, 幅0.2～0.3m, 深さ3～10cmを測り, 埋土は小礫混じりの黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。出土遺物には弥生土器158点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SD31

調査区中央部で検出した南北溝で, 確認延長2.4m, 幅0.3m, 深さ3～10cmを測り, 埋土は小礫混じりの黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトで, 出土遺物には弥生土器5点がみられたが, 図示できるものはなかった。

SD32

調査区中央部で検出した南北溝で, 確認延長2.7m, 幅0.4m, 深さ6cmを測り, 埋土は小礫混じりの黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトで, 出土遺物には弥生土器4点がみられたが, 図示できるものはな

かった。

SD33

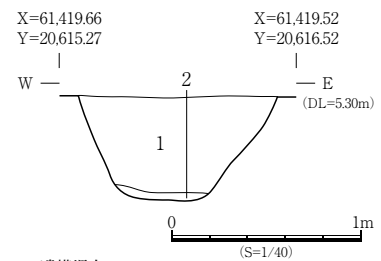
調査区中央部で検出した南北溝で、SK80、SD27を切り、SK72に切られ、SD28に繋がる。確認延長8.4m、幅0.2～0.4m、深さ3～7cmを測り、埋土は小礫混じりの黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。出土遺物には弥生土器31点がみられたが、図示できるものはなかった。

SD34

調査区東部西寄りで検出した東西溝で、SD39を切る。確認延長1.3m、幅0.3m、深さ7～14cmを測り、埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器2点がみられたが、図示できるものはなかった。

SD35

調査区中央部で検出した東西溝で、ST25・27、SB7、SB9のP9・SB19のP7、SD23・39、P37を切る。確認延長20.7m、幅0.3～0.4m、深さ4～9cmを測り、埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器94点、土師器1点、須恵器1点、土師質土器1点がみられたが、図示できるものはなかった。



- 遺構埋土
1. 小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、褐色(10YR4/4)粗粒砂を多量に含む
 2. 小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)粘土質シルトで、褐色(10YR4/4)粗粒砂を多量に含む

SD36

調査区中央部南寄りで検出した東西溝で、ST27、SB7を切り、SD37に繋がる。確認延長14.4m、幅0.3～0.4m、深さ3～9cmを測り、

図2-142 SD37

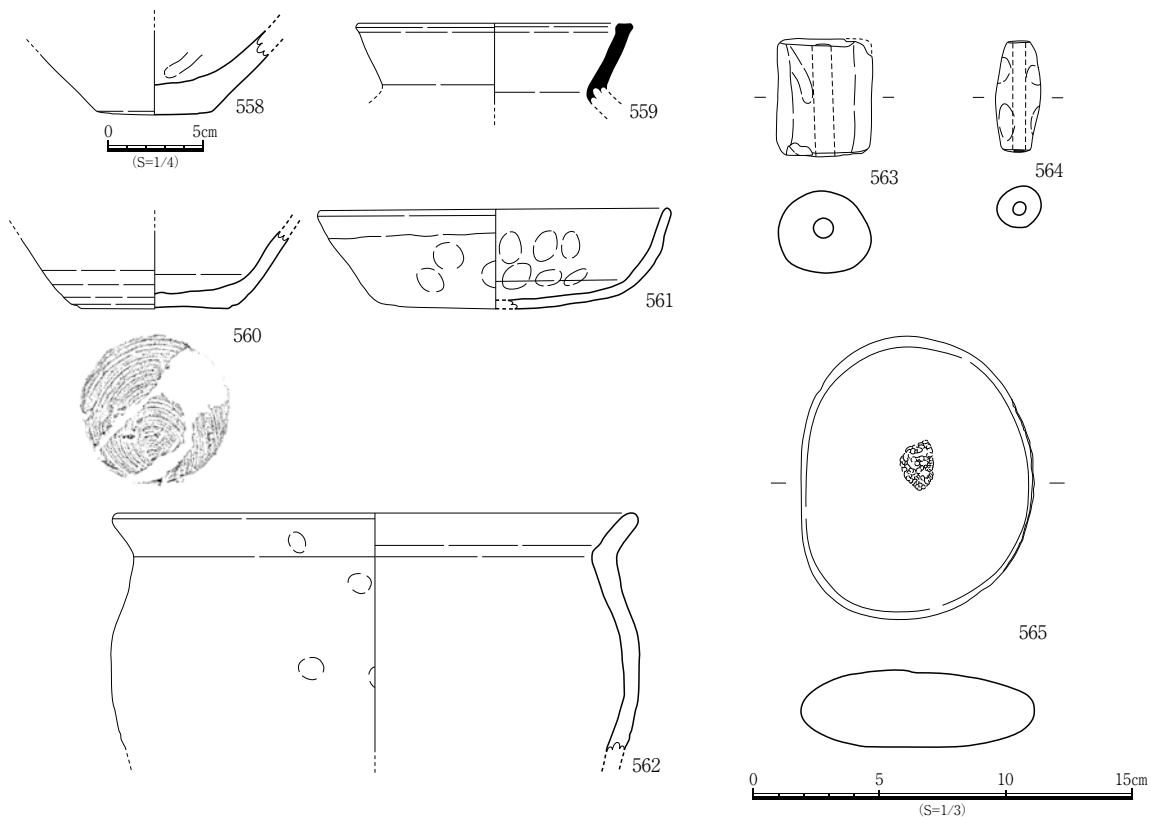


図2-143 SD37出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (5) 溝跡

埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器73点、須恵器2点、土師質土器4点がみられたが、図示できるものはなかった。

SD37(図2-142)

調査区東部及び南部北寄りで検出した区画溝で、ST29・32, SB7, SD23・25・26・39, P42・45を切り、SK96・98, SD38・40・42に切られ、SD13に繋がる。南北側とも調査区外へ続き、確認延長58.4m、幅0.9～1.7m、深さ33～53cmを測る。埋土は1層が小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、褐色(10YR4/4)粗粒砂を多量に含み、2層が小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)粘土質シルトで、褐色(10YR4/4)粗粒砂を多量に含み、出土遺物には弥生土器579点、土師器39点、須恵器39点、土師質土器532点、瓦器1点、瓦質土器15点、備前焼2点、常滑焼1点、青花1点、土製品2点、石製品1点がみられ、弥生土器1点(558)、須恵器1点(559)、土師質土器2点(560・561)、瓦質土器1点(562)、土製品2点(563・564)、石製品1点(565)が図示できた。

出土遺物(図2-143 558～565)

558は弥生土器の壺と考えられる底部破片で、摩耗のため調整は不明瞭であるが、内面にナデ調整が残る。

559は須恵器の壺と考えられる口縁部破片で、口縁部は斜め上方に直線的に立ち上がる。口縁端部は水平方向に拡張し、平坦面をなす。器面には回転ナデを施す。

560・561は土師質土器で、560は杯である。器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。561は皿である。手づくね成形で、口縁部内外面にヨコナデ、体部から底部内外面に指オサエのちナデとヨコナデを施す。

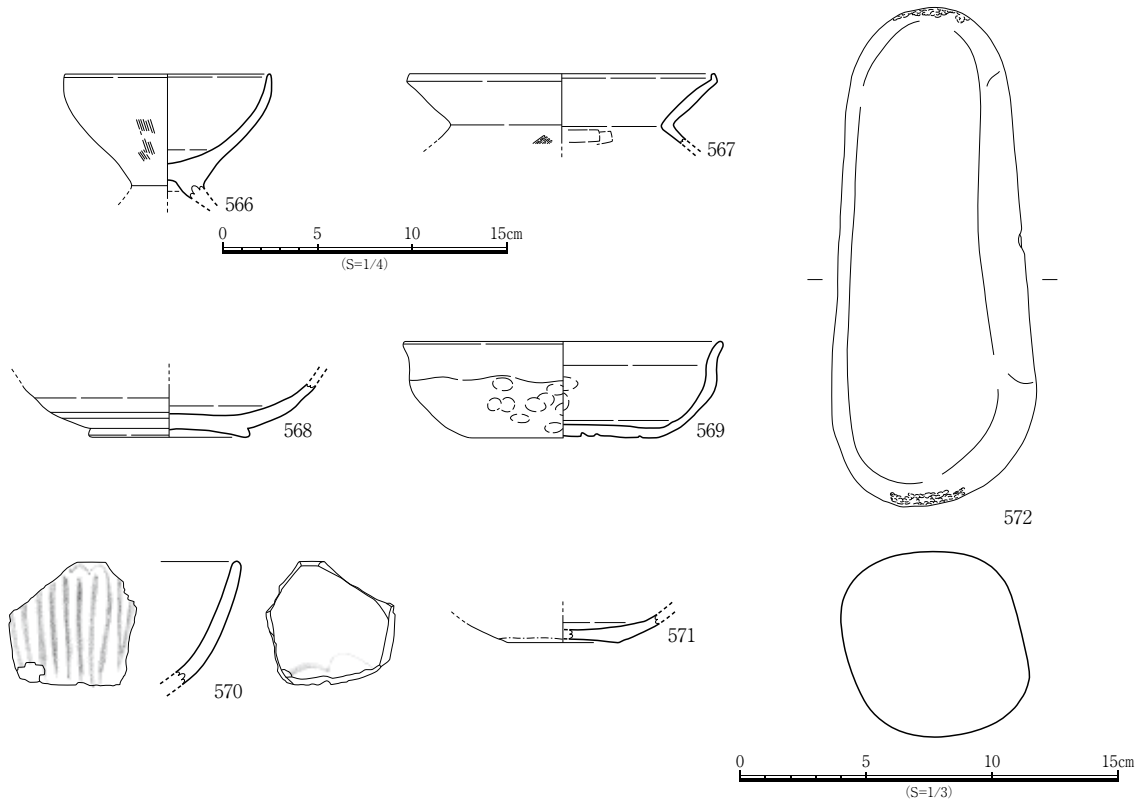


図2-144 SD38出土遺物実測図

562は瓦質土器の鍋で、口縁部が斜め上方に短く立ち上がる。摩耗のため調整は不明瞭であるが、口縁部内面にヨコナデ調整が残り、内面の屈曲部分にタールが付着する。

563・564は土錘である。563は円柱状を呈し、一部を欠損する。表面にはナデが丁寧に施される。564は完存し、表面には指頭圧痕とナデ調整が認められる。

565は叩石で、片面に弱い敲打痕、側面に強い敲打痕がみられ、石材は砂岩である。

SD38

調査区東部で検出した逆「L」字状を呈する溝で、ST30～33、SD37・39を切り、SD43に繋がる。南北側とも調査区外へ続き、確認延長36.9m、幅0.5～0.9m、深さ8～23cmを測る。埋土は小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器346点、庄内式土器3点、土師器31点、須恵器13点、土師質土器274点、瓦質土器9点、備前焼7点、青磁2点、白磁1点、石製品1点がみられ、弥生土器1点(566)、庄内式土器1点(567)、土師質土器2点(568・569)、青磁1点(570)、白磁1点(571)、石製品1点(572)が図示できた。

出土遺物(図2-144 566～572)

566は弥生土器の脚付鉢と考えられるもので、脚部を欠損する。摩耗のため調整は不明瞭であるが、外面の一部にハケ調整が残る。

567は庄内式土器の甕で、口縁端部を上方に拡張する。口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にヘラケズリ、胴部外面にタタキを施し、口縁部外面には煤が付着する。

568・569は土師質土器で、568は杯である。内面と体部外面に回転ナデ、体部外面下端に回転ヘラケズリを施し、内面には丁寧なナデ調整を加える。底部切り離しは回転糸切りである。569は皿である。手づくね成形で、口縁部内外面にヨコナデ、体部と底部内外面に指オサエとナデを施す。

570は青磁の碗である。外面にヘラ描きの細蓮弁文、見込にヘラ描き花卉文を施す。

571は白磁の皿で、底部外面には回転ヘラケズリ調整が認められ、釉の発色は悪い。

572は石杵で、両端部に明瞭な敲打痕が認められ、石材は砂岩である。

SD39(図2-145)

調査区東部西寄りで検出した逆「L」字状を呈する溝で、SD25・27・29を切り、SK81・82、SD13・34・35・37・38・40に切られる。確認延長45.4m、幅0.7～1.2m、深さ36～76cmを測り、埋土は1層が土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/1)シルト質極細粒砂、2層が土器を含む小礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質中粒砂で、出土遺物には弥生土器1,092点、土師器27点、須恵器77点、石製品2点がみられ、弥生土器2点(573・574)、須恵器3点(575～577)、石製品2点(578・579)が図示できた。

出土遺物(図2-146 573～579)

573・574は弥生土器で、573は甕の底部破片である。内面にハケ、外面にタタキを施し、底部外面にはナデ調整が認められる。574は高杯の脚部破片で、内面にヘラナデ、外面にヘラミガキを施し、脚部穿孔は4カ所と考えられる。

575～579は須恵器で、575は杯蓋である。口縁部は欠損し、天井部外面に回転ヘラケズリ、他の部位に回転ナデを施す。576は高杯の杯部破片で、口縁端部は水平方向に拡張される。器面には回転ナ

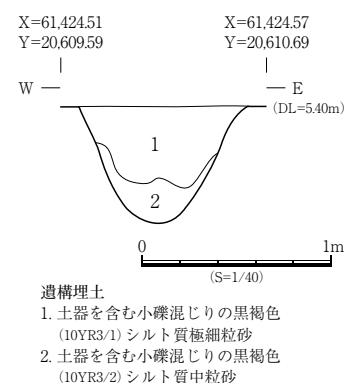


図2-145 SD39

2. 検出遺構と遺物 (5) 溝跡

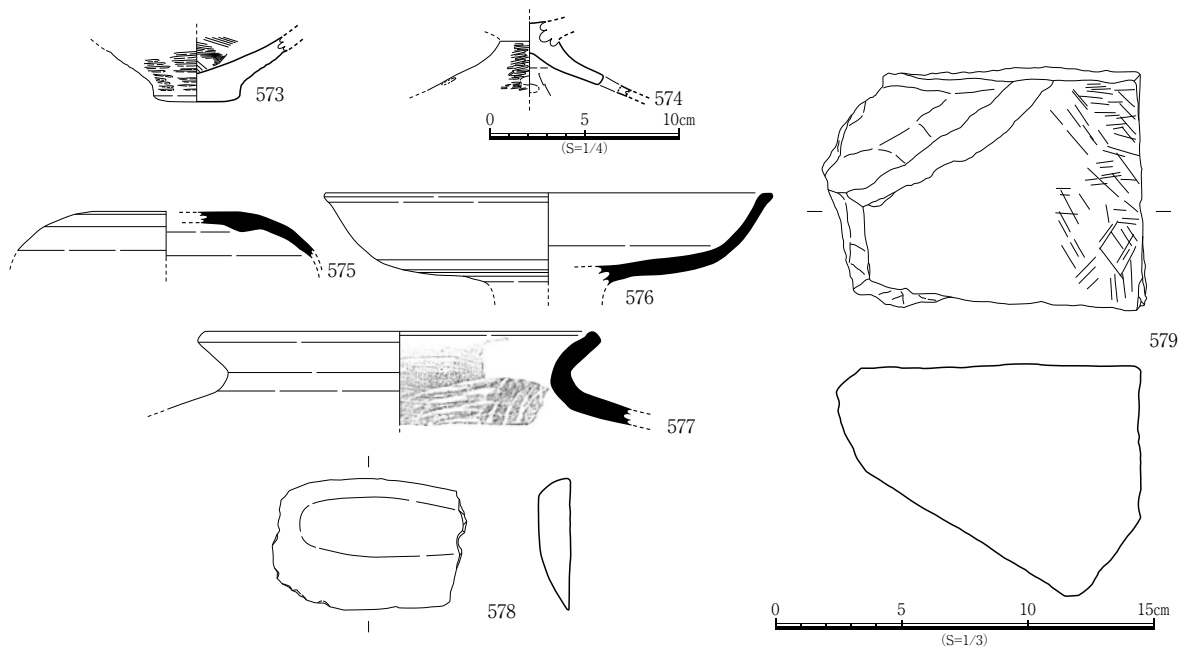


図2-146 SD39出土遺物実測図

デを施し、杯部内底面にはナデ調整、杯部外底面には回転ヘラケズリ調整を加える。577は甕で、口縁部内外面に回転ナデ、胴部内外面にタタキのち回転ナデを施し、口縁部内外面に自然釉が認められる。

578・579は石製品で、578は石庖丁である。両端に抉りを施し、石材は細粒砂岩である。579は砥石で、片面の一部に使用痕が認められ、石材は砂岩である。

SD40

調査区南東部で検出した東西溝で、SD37・39を切る。確認延長3.3m、幅0.4m、深さ9cmを測り、埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器3点、土師質土器1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SD41

調査区南部で検出した南北溝で、確認延長1.2m、幅0.3m、深さ2cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物は皆無であった。

SD42

調査区東部で検出した南北溝で、ST30・32、SD37を切り、SD38に切られる。確認延長25.4m、幅0.4～0.7m、深さ17～22cmを測り、埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器63点、土師器3点、須恵器8点、土師質土器81点、瓦質土器1点がみられ、土師質土器1点(580)が図示できた。

出土遺物(図2-147 580)

580は皿である。手づくね成形で、口縁部内外面にヨコナデ、体部内外面に指オサエとナデを施す。

SD43

調査区東部で検出した南北溝で、ST32～34を切り、SD38に繋がる。確認延長22.4m、幅0.4～0.6m、深さ8～12cmを測り、埋土

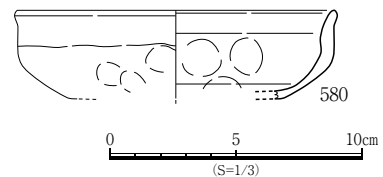


図2-147 SD42出土遺物実測図

は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物は皆無であった。

SD44

調査区東部で検出した南北溝で、ST33を切る。確認延長4.6m、幅0.4～0.6m、深さ11～17cmを測り、埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器64点、須恵器2点、土師質土器23点、瓦1点がみられたが、図示できるものはなかった。

SD45(図2-148)

調査区東部で検出した南北溝で、ST24・30・31・33・34、SK104を切る。東側の肩は調査区外へ続き、幅は不明である。区画溝と考えられ、南北側とも調査区外へ続き、確認延長32.8m、深さ17～34cmを測る。埋土は土器を含む小～大礫混じりの黒褐色(10YR3/2)細粒～中粒砂質シル

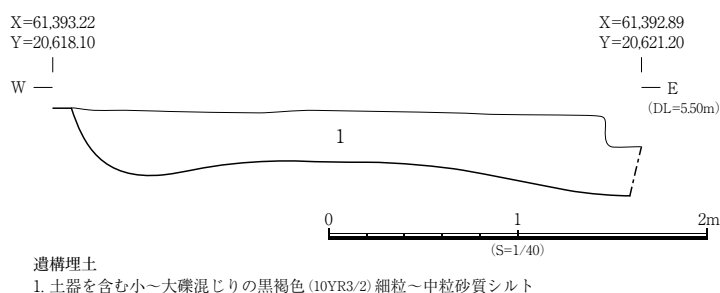


図2-148 SD45

トで、出土遺物には弥生土器957点、庄内式土器3点、土師器19点、須恵器145点、瓦1点、東播系須恵器2点、土師質土器300点、瓦器1点、瓦質土器11点、備前焼17点、常滑焼1点、瀬戸焼2点、青磁2点、白磁3点、青花7点、石製品1点がみられ、須恵器5点(581～585)、瓦3点(586～588)、土師質土器1点(589)、瓦器1点(590)、瓦質土器1点(591)、備前焼2点(592・593)、常滑焼1点(594)、青磁2点(595・596)、白磁1点(597)、石製品1点(598)が図示できた。

出土遺物(図2-149 581～598)

581～585は須恵器である。581は杯で、底部外面の端に高台が付く。器面には回転ナデを施し、内面にはナデ調整を加える。582は高杯で、外面には回転ナデ、脚部内面にはナデを施す。583は壺と考えられるもので、口縁端部は断面長方形を呈し、器面に回転ナデを施す。外面には幅広の沈線とその上下に櫛描波状文を配する。584は甕で、器面には回転ナデを施す。585は鉢と考えられる底部破片で、器面には回転ナデを施し、底部外面にはナデ調整が認められる。

586～588は平瓦で、586・587は端部が残存する。586は側面と端部の面取りを行い、ナデを施す。凹面には布目圧痕が残る。587は端部の面取りを行い、凹面の角をヘラで削る。凹面にハケ調整、凸面に格子状のタタキ目が認められる。588は凹面の布目圧痕と凸面の縄目状タタキ目を丁寧にナデ消す。

589は土師質土器の椀で、底部外面に断面台形状の高台を貼付する。摩耗のため調整は不明瞭であるが、内面に幅広のヘラナデ調整の丁寧なナデ調整、外面に回転ナデ調整がみられ、体部外面下端には回転ヘラケズリ調整を加える。底部切り離しは回転糸切りで、切り離し痕はナデ消される。

590は瓦器の椀である。摩耗のため調整は不明瞭であるが、内面にヘラミガキ調整、口縁部外面にヨコナデ調整、体部外面に指頭圧痕とヘラミガキ調整がみられる。

591は瓦質土器の三足鍋である。脚部のみ残存し、摩耗のため調整は不明である。

592・593は備前焼の播鉢である。ともに底部破片で、器面には回転ナデを施し、内面には10条単位の条痕が認められる。

594は常滑焼の甕で、胴部破片である。内外面にヨコナデを施し、外面には巴の押型文を配する。

2. 検出遺構と遺物 (5) 溝跡

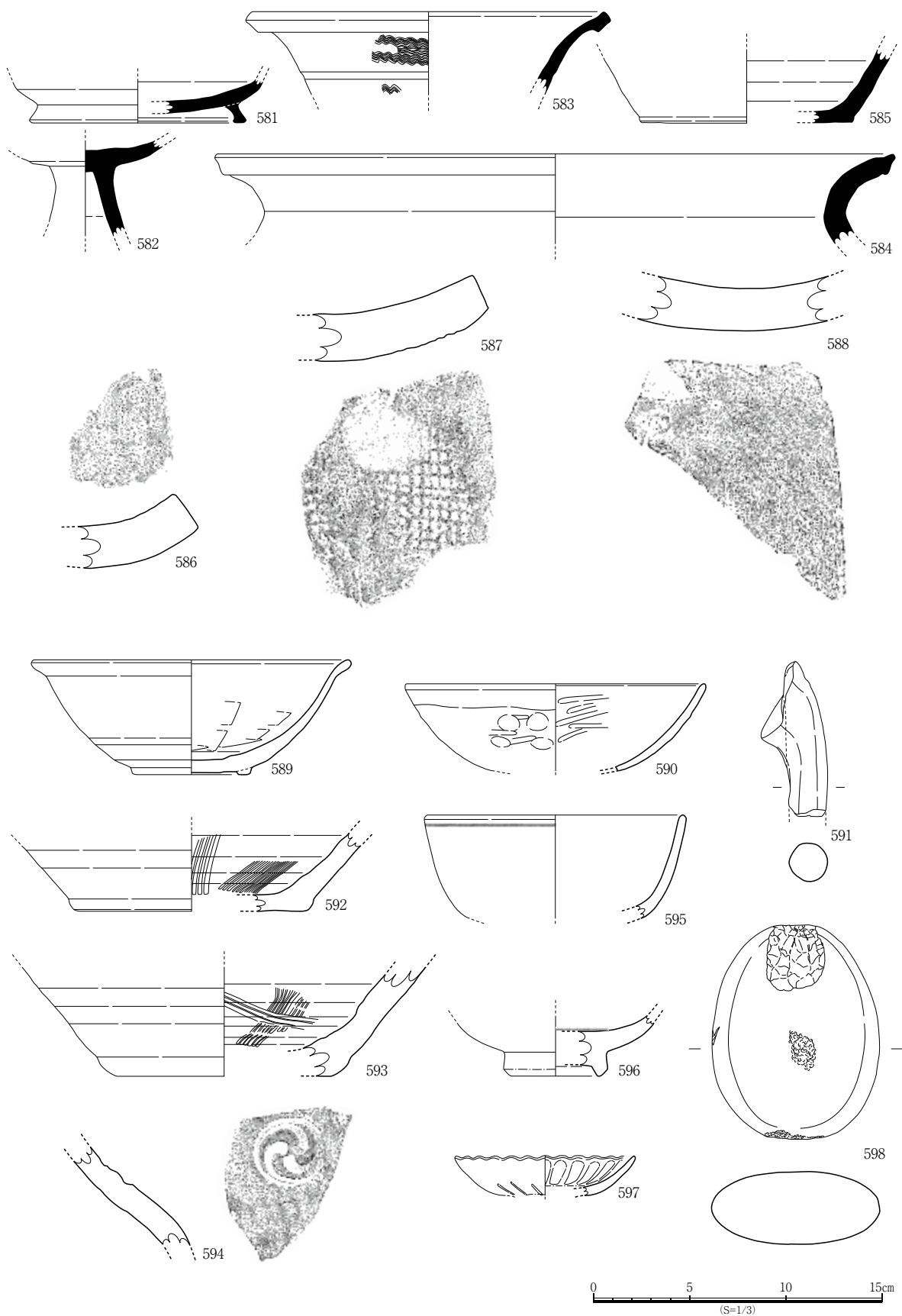


図2-149 SD45出土遺物実測図

595・596は青磁の碗である。595は口縁部破片で、口縁部外面にヘラ描き沈線を配する。596は底部破片で、見込にヘラ描き沈線を配する。

597は白磁の菊皿である。口縁部破片で、器面には灰白色の釉を施す。

598は叩石で、両端部に強い敲打痕、両面に弱い敲打痕が認められ、石材は砂岩である。

(6) 井戸

SE1

調査区中央部西寄りで検出した素掘りの井戸で、SD18・19に切られる。平面形は楕円形を呈し、長軸5.2m、短軸3.7mを測り、深さ1.1mまで調査を行った。埋土は1層が小～大礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質中粒～粗粒砂、2層が小～中礫混じりの灰黄褐色(10YR4/2)シルト質粗粒砂で、出土遺物には弥生土器39点、

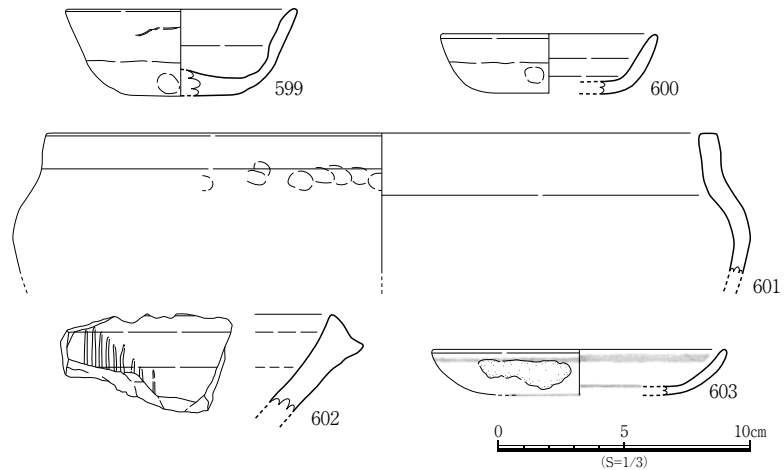


図2-150 SE1出土遺物実測図

土師器38点、須恵器25点、瓦1点、土師質土器318点、瓦質土器22点、備前焼16点、瀬戸焼2点、青磁4点、白磁7点、青花3点がみられ、土師質土器2点(599・600)、瓦質土器1点(601)、備前焼1点(602)、青花1点(603)が図示できた。

出土遺物(図2-150 599～603)

599・600は土師質土器の皿である。ともに手づくね成形で、口縁部内外面にヨコナデ、他の部位に指オサエとナデを施し、599の外面には接合痕が明瞭に残る。

601は瓦質土器の鍋で、口縁部はやや内傾して立ち上がる。口縁部内外面にヨコナデ、胴部外面に指オサエのちナデを施し、胴部外面には煤が付着する。

602は備前焼の播鉢で、口縁端部を上下に拡張する。器面には回転ナデを施し、内面には9条の条痕が認められる。

603は青花の皿で、口縁部内外面と見込、体部外面下端に界線を1条施し、外面には焼成時の砂目が大量に付着する。

(7) ピット

P1

調査区北西部で検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.3m、短軸0.2m、深さ5cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には土師質土器4点、瓦質土器1点がみられ、瓦質土器1点(604)が図示できた。

出土遺物(図2-151 604)

604は鍋である。口縁部直下に顎が巡り、調整は摩耗のため不明である。

P2

調査区北西部で検出したピットで、平面形は楕円形を呈する。隣接するピットに切られ長軸は不

2. 検出遺構と遺物 (7) ピット

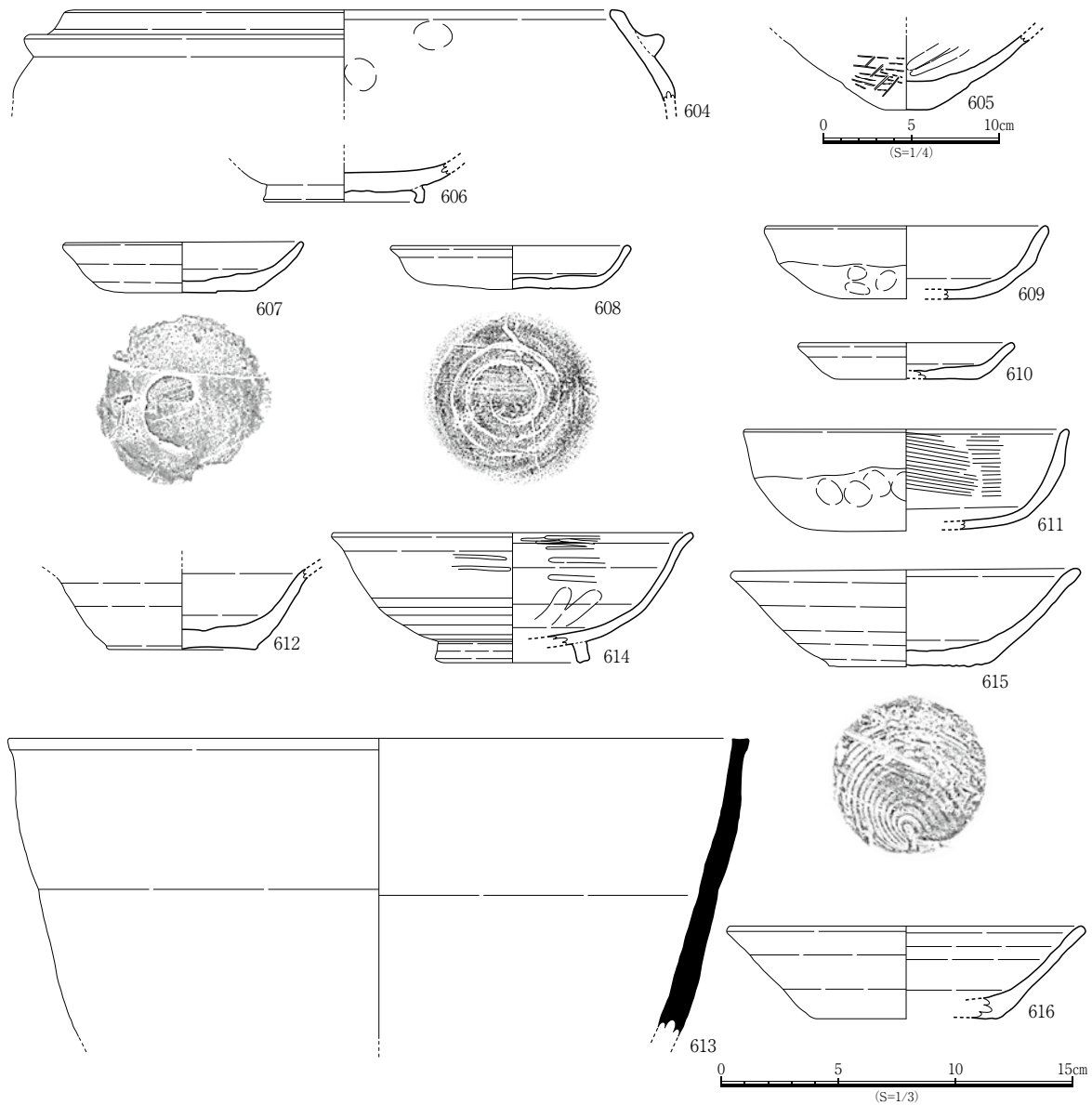


図2-151 P1~10出土遺物実測図

明で、短軸は0.4m、深さは17cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒色(10YR2/1)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器53点がみられ、1点(605)が図示できた。

出土遺物(図2-151 605)

605は壺と考えられる底部破片で、内面にナデ、外面にタタキを施し、外面にはナデ調整を加える。

P3

調査区北西部で検出したピットで、平面形は楕円形を呈する。隣接するピットに切られ長軸は不明で、短軸は0.4m、深さは34cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には土師器9点、須恵器4点、土師質土器45点がみられ、土師質土器1点(606)が図示できた。

出土遺物(図2-151 606)

606は碗の底部破片で、底部外面外端に高台が付く。調整は摩耗のため不明であるが、底部外面の

高台内には回転糸切り痕が残る。

P4

調査区北西部で検出したピットで、SK11を切る。平面形は楕円形を呈し、長軸0.3m、短軸0.2m、深さ33cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器3点、土師質土器16点がみられ、土師質土器1点(607)が図示できた。

出土遺物(図2-151 607)

607は皿で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転ヘラ切りである。

P5

調査区北西部で検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.4m、短軸0.3m、深さ40cmを測る。埋土は小礫混じりの黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師器7点、須恵器1点、土師質土器5点がみられ、土師質土器1点(608)が図示できた。

出土遺物(図2-151 608)

608は皿である。器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転ヘラ切りで、底部外面には板状圧痕が残る。

P6

調査区北西部で検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.5m、短軸0.4m、深さ41cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器1点、須恵器2点、土師質土器16点がみられ、土師質土器1点(609)が図示できた。

出土遺物(図2-151 609)

609は皿である。手づくね成形で、口縁部内外面にヨコナデ、底部内面にナデ、胴部から底部外面に指オサエとナデを施す。

P7

調査区北西部で検出したピットで、SB3のP2を切る。平面形は円形を呈し、径0.4m、深さ25cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器14点、土師器7点、土師質土器42点がみられ、土師質土器1点(610)が図示できた。

出土遺物(図2-151 610)

610は小皿で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。

P8

調査区北西部で検出したピットで、SK25を切る。平面形は円形を呈し、径0.3m、深さ28cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には土師質土器8点がみられ、土師質土器1点(611)が図示できた。

出土遺物(図2-151 611)

611は皿である。手づくね成形で、大きく歪む。口縁部外面にヨコナデ、口縁部から体部内面にハケ、底部内面にナデ、体部から底部外面に指オサエとナデを施す。

P9

調査区北西部で検出したピットで、平面形は楕円形を呈する。隣接するピットに切られ長軸は不明で、短軸は0.3m、深さは17cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器2点、土師器4点、土師質土器55点、瓦質土器1点がみら

2. 検出遺構と遺物 (7) ピット

れ、土師質土器1点(612)が図示できた。

出土遺物(図2-151 612)

612は杯の底部破片で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。

P10

調査区北西部で検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.4m、短軸0.2m、深さ52cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器12点、土師器1点、須恵器1点、土師質土器57点、瓦質土器3点がみられ、須恵器1点(613)、土師質土器3点(614～616)が図示できた。

出土遺物(図2-151 613～616)

613は須恵器の鉢と考えられるもので、口縁端部は水平な面をなし、器面には回転ナデを施す。

614～616は土師質土器である。614は椀で、底部外面には断面長方形を呈する高台が付く。体部は緩やかに内湾して立ち上がり、口縁端部は外反する。器面には回転ナデを施し、口縁部内外面にはヘラミガキ調整、体部内面にはナデ調整、体部外面には回転ヘラケズリ調整を加える。615・616は杯で、615はほぼ完存する。器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りで、底部外面には板状圧痕が認められる。616は器面に回転ナデを施し、底部外面には板状圧痕が残る。

P11

調査区北西部東寄りで検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.4m、短軸0.3m、深さ37cm

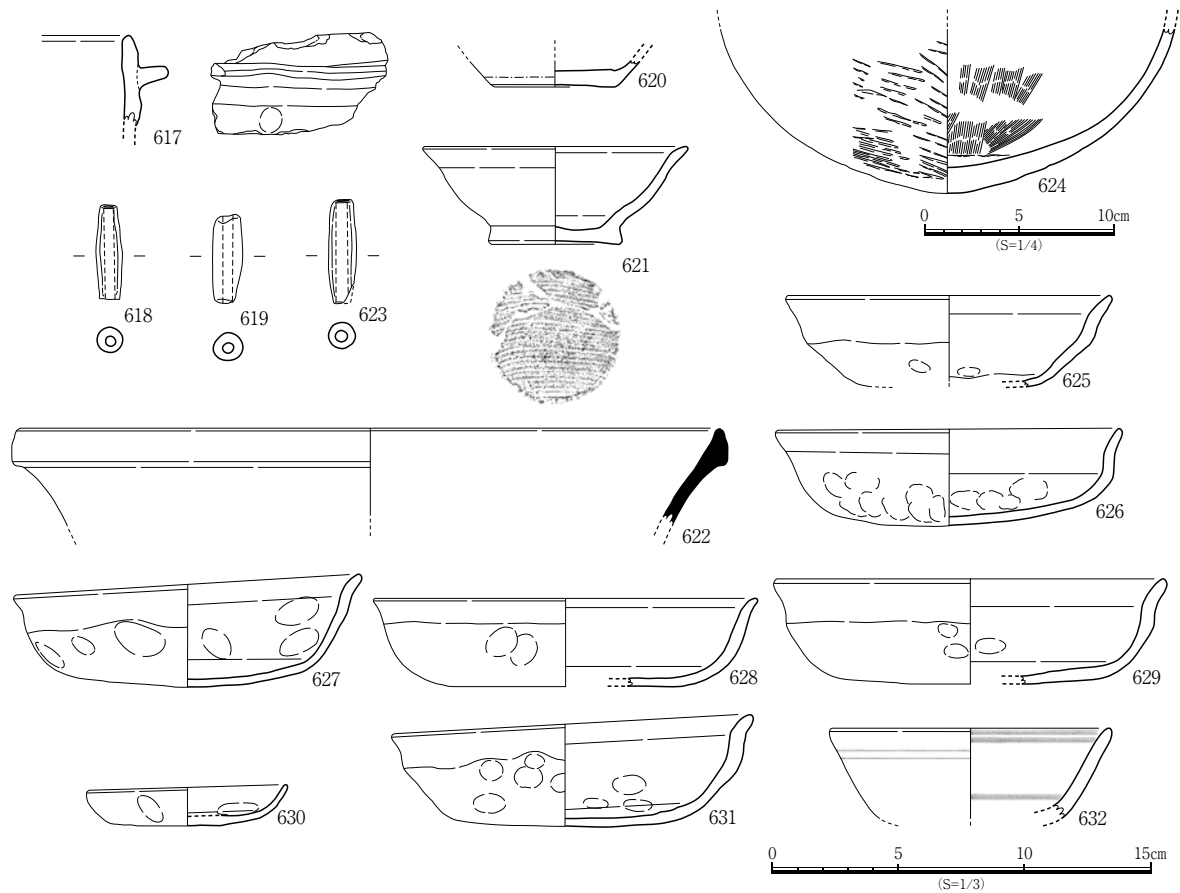


図2-152 P11～20出土遺物実測図

を測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器84点、須恵器1点、土師質土器8点、瓦質土器1点がみられ、瓦質土器1点(617)が図示できた。

出土遺物(図2-152 617)

617は鍋の口縁部破片で、器面にはヨコナデを施し、顎以下には煤が付着する。

P12

調査区北西部東寄りで検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.5m、短軸0.4m、深さ25cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器1点、土師器1点、土師質土器12点、土製品2点がみられ、土製品2点(618・619)が図示できた。

出土遺物(図2-152 618・619)

618・619は土錘で、ほぼ完存する。摩耗が著しく調整は不明である。

P13

調査区北西部東寄りで検出したピットである。SK33を切り、平面形は円形を呈し、径0.2m、深さ37cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器9点、土師質土器38点、白磁1点がみられ、白磁1点(620)が図示できた。

出土遺物(図2-152 620)

620は皿で、底部外面には回転ヘラケズリ調整が認められ、体部外面下端と底部外面は露胎である。

P14

調査区北西部南寄りで検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.4m、短軸0.3m、深さ30cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には須恵器1点、土師質土器28点がみられ、土師質土器1点(621)が図示できた。

出土遺物(図2-152 621)

621は杯で、器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデ調整を加える。底部切り離しは静止糸切りである。

P15

調査区北西部南寄りで検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.4m、短軸0.3m、深さ24cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器1点、東播系須恵器1点、土師質土器10点がみられ、東播系須恵器1点(622)が図示できた。

出土遺物(図2-152 622)

622は片口鉢と考えられるもので、口縁端部は肥厚し、上下に拡張する。器面には回転ナデを施す。

P16

調査区北西部南寄りで検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.7m、短軸0.5m、深さ62cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器2点、土師器1点、土師質土器10点、瓦質土器3点、土製品1点がみられ、土製品1点(623)が図示できた。

出土遺物(図2-152 623)

623は土錘で、ほぼ完存する。全体的に摩耗が著しく、調整は不明である。

P17

調査区西部で検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.3m、短軸0.2m、深さ29cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器4点、土

2. 検出遺構と遺物 (7) ピット

師質土器4点がみられ、弥生土器1点(624)が図示できた。

出土遺物(図2-152 624)

624は壺と考えられる底部破片で、丸底を呈する。調整は内面にハケ、外面にタタキを施す。

P18

調査区西部で検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.4m、短軸0.3m、深さ34cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には土師器1点、土師質土器10点、瓦質土器1点がみられ、土師質土器1点(625)が図示できた。

出土遺物(図2-152 625)

625は皿である。手づくね成形で、口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデ、体部外面に指オサエのちナデを施す。

P19

調査区西部東寄りで検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.3m、短軸0.2m、深さ30cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器10点、土師質土器5点がみられ、土師質土器5点(626～630)が図示できた。

出土遺物(図2-152 626～630)

626～630は土師質土器で、626～629は皿である。全て手づくね成形で、口縁部内外面にヨコナデ、体部と底部内外面にナデと指オサエを施し、626の内面には煤が付着する。630は小皿である。手づくね成形で、口縁部内面にヨコナデ、他の部位に指オサエとナデを施す。

P20

調査区西部東寄りで検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.4m、短軸0.3m、深さ46cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には土師質土器40点、瓦質土器3点、青磁1点がみられ、土師質土器1点(631)、青磁1点(632)が図示できた。

出土遺物(図2-152 631・632)

631は土師質土器の皿である。完存し、口縁部内外面にヨコナデ、その他の部位に指オサエとナデを施す。

632は青磁の碗で、口縁部内外面と体部内面下端に圏線を施す。

P21

調査区西部で検出したピットで、平面形は円形を呈し、径0.2m、深さ7cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物は図示した土師質土器1点(633)のみであった。

出土遺物(図2-153 633)

633は杯で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。

P22

調査区西部で検出したピットで、ST19を切る。平面形は円形を呈し、径0.3m、深さ32cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器1点、須恵器1点、土師質土器13点がみられ、土師質土器1点(634)が図示できた。

出土遺物(図2-153 634)

634は皿である。手づくね成形で、口縁部内外面にヨコナデ、その他の部位に指オサエとナデを施す。

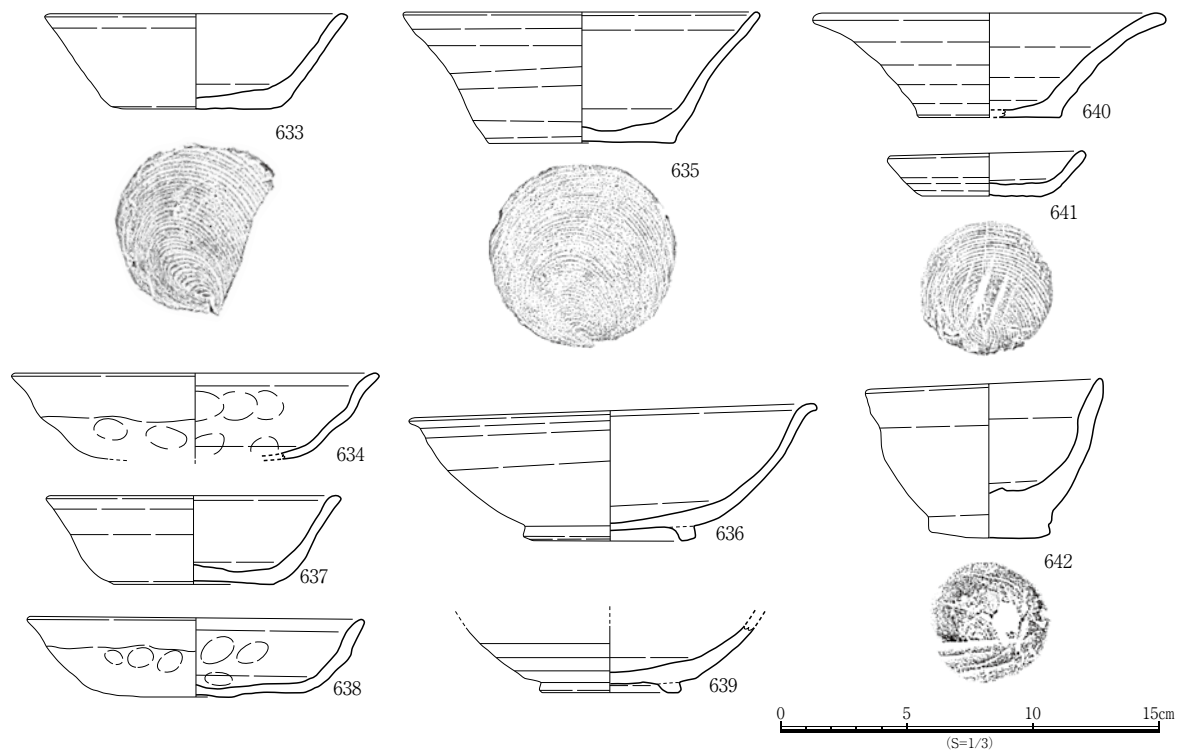


図2-153 P21～30出土遺物実測図

P23

調査区中央部西寄りで検出したピットで、SD19に切られる。平面形は円形を呈し、径0.2m、深さ34cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物は図示した土師質土器1点(635)のみであった。

出土遺物(図2-153 635)

635は杯で、ほぼ完存する。器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。

P24

調査区中央部西寄りで検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.4m、短軸0.3m、深さ29cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器1点、土師質土器4点がみられ、土師質土器1点(636)が図示できた。

出土遺物(図2-153 636)

636は椀で、口縁端部は外側に屈曲し、底部外面には断面四角形の高台が付く。摩耗のため調整は不明瞭であるが、器面には回転ナデ調整が残り、底部切り離しは回転糸切りである。

P25

調査区南西部北寄りで検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.5m、短軸0.4m、深さ12cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には土師質土器2点がみられ、1点(637)が図示できた。

出土遺物(図2-153 637)

637は杯で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。

2. 検出遺構と遺物 (7) ピット

P26

調査区南西部で検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.4m、短軸0.3m、深さ23cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器2点、土師質土器3点がみられ、土師質土器1点(638)が図示できた。

出土遺物(図2-153 638)

638は皿である。手づくね成形で、口縁部内外面にヨコナデ、その他の部位に指オサエとナデを施す。

P27

調査区南西部北寄りで検出したピットで、SD11を切る。平面形は円形を呈し、径0.2m、深さ23cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器1点、土師質土器8点、青磁1点がみられ、土師質土器1点(639)が図示できた。

出土遺物(図2-153 639)

639は椀で、器面には回転ナデを施し、内面に丁寧なナデ調整、外面に回転ヘラケズリ調整を加える。底部切り離し痕は丁寧にナデ消される。

P28

調査区南西部で検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.4m、短軸0.3m、深さ12cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物は図示した土師質土器1点(640)のみであった。

出土遺物(図2-153 640)

640は杯で、体部は緩やかに外反して立ち上がる。器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。

P29

調査区南西部で検出したピットで、平面形は円形を呈し、径0.2m、深さ30cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には土師器2点、土師質土器10点がみられ、土師質土器1点(641)が図示できた。

出土遺物(図2-153 641)

641は小皿で、ほぼ完存する。器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りで、底部外面には板状圧痕が残る。

P30

調査区南部西寄りで検出したピットである。SD19を切る。平面形は隅丸方形を呈し、一辺0.9m、深さ38cmを測る。埋土は小礫混じりの黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には土師質土器2点がみられ、土師質土器1点(642)が図示できた。

出土遺物(図2-153 642)

642は杯で、ほぼ完存する。器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りで、底部外面には板状圧痕が残る。

P31

調査区北部で検出したピットで、ST23を切る。平面形は楕円形を呈し、長軸0.4m、短軸0.3m、深さ22cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物は図示

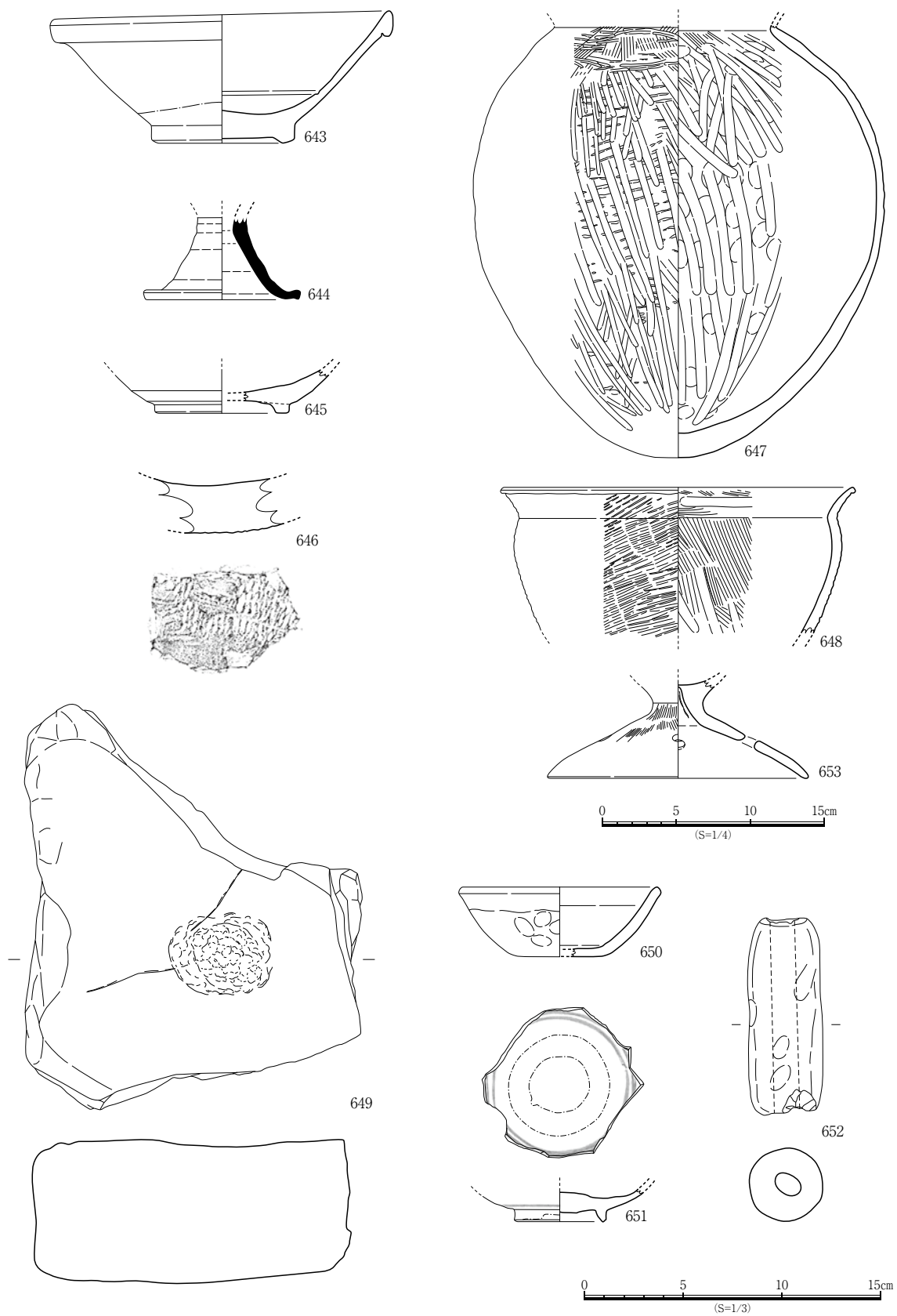


图2-154 P31~40出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (7) ピット

した白磁1点(643)のみであった。

出土遺物(図2-154 643)

643は碗で、ほぼ完存する。玉縁状の口縁を有し、体部外面下半と底部外面は露胎である。

P32

調査区北部東寄りで検出したピットで、SD25を切る。平面形は楕円形を呈し、長軸0.6m、短軸0.5m、深さ18cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器10点、須恵器4点、土師質土器9点がみられ、須恵器1点(644)が図示できた。

出土遺物(図2-154 644)

644は高杯の脚部破片で、器面には回転ナデを施す。

P33

調査区中央部北寄りで検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.3m、短軸0.2m、深さ28cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には土師質土器6点がみられ、1点(645)が図示できた。

出土遺物(図2-154 645)

645は椀で、底部外面に断面台形状の高台が付く。摩耗のため調整は不明瞭であるが、体部外面下端に回転ヘラケズリ調整が残り、底部切り離しは回転糸切りである。

P34

調査区東部北寄りで検出したピットで、SD29を切る。平面形は楕円形を呈し、長軸0.6m、短軸0.5m、深さ53cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には土師質土器1点、瓦1点がみられ、瓦1点(646)が図示できた。

出土遺物(図2-154 646)

646は平瓦で、凹面に丁寧なナデ調整、凸面に縄目状のタタキ目が認められる。

P35

調査区中央部で検出したピットで、平面形は円形を呈し、径0.6m、深さ23cmを測る。埋土は小礫混じりの黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトで、出土遺物は図示した弥生土器2点(647・648)のみであった。

出土遺物(図2-154 647・648)

647は壺と考えられるもので、口縁部を欠損する。内面に指オサエのちナデ、外面にタタキのち丁寧なハケとヘラミガキを施す。648は鉢で、口縁端部はヨコナデにより面をなす。口縁部内面にハケのちヨコナデ、胴部内面にハケのちナデ、外面全体にタタキを施す。

P36

調査区中央部で検出したピットで、ST25を切る。平面形は円形を呈し、径0.3m、深さ30cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器13点、須恵器1点、土師質土器10点、瓦質土器1点、石製品1点がみられ、石製品1点(649)が図示できた。

出土遺物(図2-154 649)

649は台石と考えられるもので、礎盤として利用したとみられる。片面に使用痕が残り、端部には明瞭な被熱痕が認められる。石材は砂岩である。

P37

調査区中央部で検出したピットで、ST25、SD35を切る。平面形は円形を呈し、径0.3m、深さ31

cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器3点、土師質土器4点がみられ、土師質土器1点(650)が図示できた。

出土遺物(図2-154 650)

650は皿である。手づくね成形で、口縁部内外面にヨコナデ、他の部位に指オサエとナデを施す。

P38

調査区中央部で検出したピットで、ST25を切る。平面形は円形を呈し、径0.2m、深さ28cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器4点、土師器1点、土師質土器1点、瀬戸焼1点、近世磁器1点がみられ、近世磁器1点(651)が図示できた。

出土遺物(図2-154 651)

651は皿と考えられるもので、見込に蛇ノ目釉剥ぎがみられ、高台と体部外面下端は露胎である。見込に二重の圈線、体部外面下端に1条の圈線を施す。

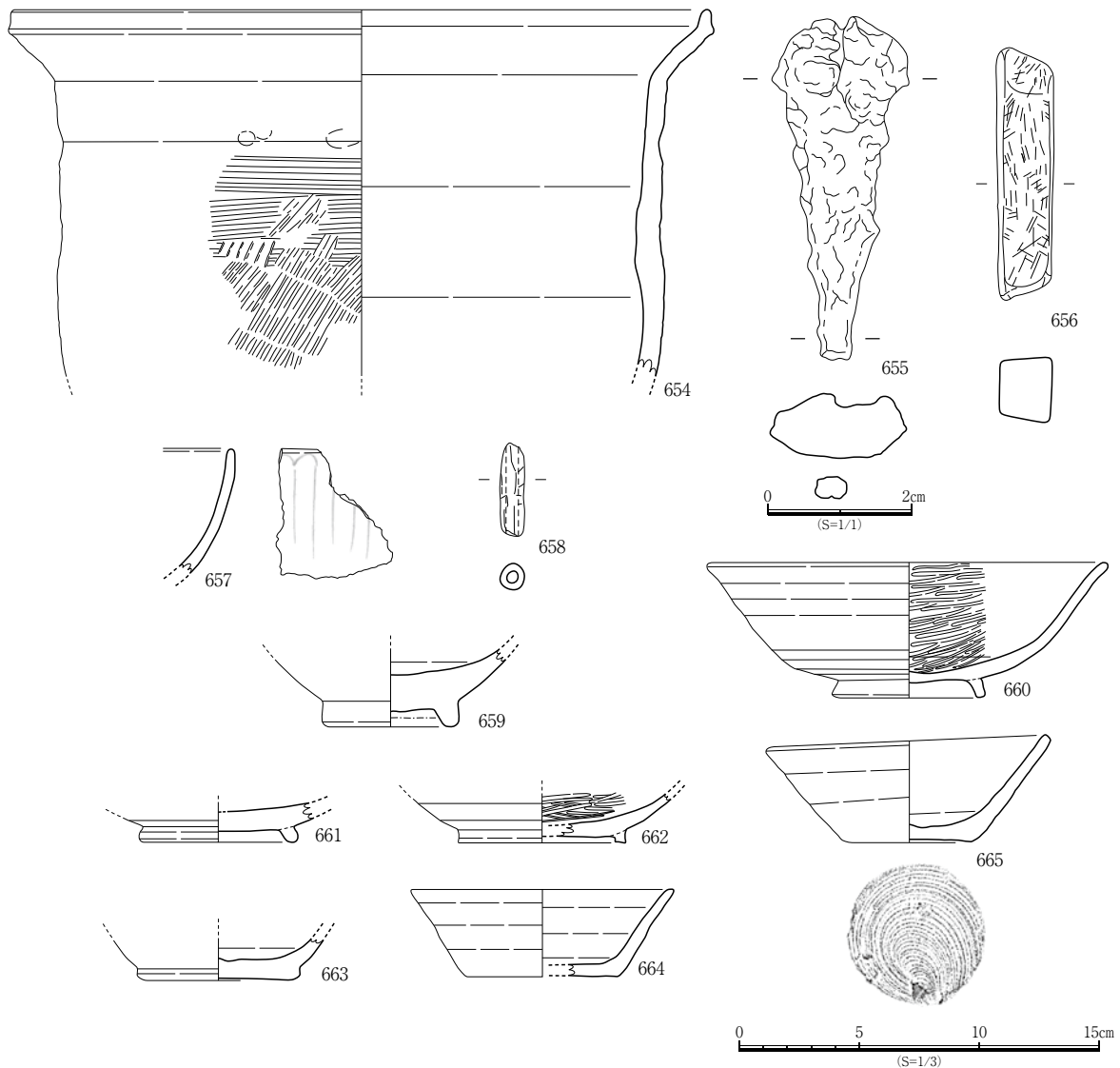


図2-155 P41～49出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (7) ピット

P39

調査区中央部で検出したピットで、ST25を切る。平面形は円形を呈し、径0.3m、深さ37cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器26点、土製品1点がみられ、土製品1点(652)が図示できた。

出土遺物(図2-154 652)

652は土錘である。ほぼ完存し、表面には指オサエとナデを施す。

P40

調査区中央部で検出したピットで、ST25を切る。平面形は楕円形を呈し、長軸0.4m、短軸0.3m、深さ51cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器25点がみられ、1点(653)が図示できた。

出土遺物(図2-154 653)

653は高杯の脚部破片である。摩耗のため調整は不明瞭であるが、外面の一部にハケ調整が残る。

P41

調査区中央部で検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.6m、短軸0.4m、深さ67cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器6点、土師器1点、土師質土器8点がみられ、土師器1点(654)が図示できた。

出土遺物(図2-155 654)

654は甕である。口縁端部は上方に拡張し、長胴を呈する。内面全体と口縁部、胴部上端の外面にはヨコナデ、胴中央部にハケのちタタキ、胴部下方にはタタキを施し、外面全体には煤が付着する。

P42

調査区中央部南寄りで検出したピットで、SD37に切られる。平面形は円形を呈し、径0.4m、深さ43cmを測る。埋土は小礫混じりの黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には弥生土器55点、金属製品1点がみられ、金属製品1点(655)が図示できた。

出土遺物(図2-155 655)

655は鉄鏃と考えられるもので、錆膨れのため鏃身の外形は不明である。

P43

調査区中央部南寄りで検出したピットで、SK92に切られる。平面形は円形を呈し、径0.3m、深さ18cmを測る。埋土は小礫混じりの黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトで、出土遺物には弥生土器7点、石製品1点がみられ、石製品1点(656)が図示できた。

出土遺物(図2-155 656)

656は砥石で、3面に使用痕が認められ、石材は砂岩である。

P44

調査区中央部南寄りで検出したピットで、P45を切り、平面形は楕円形を呈し、長軸0.3m、短軸0.2m、深さ12cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には土師質土器3点、青磁1点がみられ、青磁1点(657)が図示できた。

出土遺物(図2-155 657)

657は碗の口縁部破片である。外面には剣頭を意識したヘラ描き蓮弁文を施す。

P45

調査区中央部南寄りで検出したピットで、SD37とP44に切られ、規模は不明である。深さは10cmを測り、埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器1点、土製品1点がみられ、土製品1点(658)が図示できた。

出土遺物(図2-155 658)

658は土錘で、ほぼ完存する。摩耗のため調整は不明瞭であるが、表面にはナデ調整が残る。

P46

調査区中央部南寄りで検出したピットで、平面形は円形を呈し、径0.2m、深さ12cmを測る。埋土は黄褐色(10YR5/6)小礫混じりの暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物は図示した青磁1点(659)のみであった。

出土遺物(図2-155 659)

659は碗の底部破片で、高台内は露胎である。

P47

調査区南部で検出したピットで、平面形は円形を呈し、径0.5m、深さ21cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器1点、土師器1点、土師質土器17点がみられ、土師質土器3点(660～662)が図示できた。

出土遺物(図2-155 660～662)

660～662は椀である。660は全体の形状が復元できたもので、底部外面には「ハ」の字状に開く高台が付く。器面には回転ナデを施し、内面にヘラミガキ調整、外面下端に回転ヘラケズリ調整を加える。661は底部破片で、底部外面には「ハ」の字状に開く高台が付く。内面にヘラミガキとナデ、外面に回転ヘラケズリを施す。662は底部外面に断面台形状の高台が付く。内面に丁寧なヘラミガキ、外面に回転ヘラケズリを施し、底部切り離しは回転糸切りである。

P48

調査区南部で検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.6m、短軸0.5m、深さ30cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には土師質土器8点がみられ、1点(663)が図示できた。

出土遺物(図2-155 663)

663は杯で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。

P49

調査区南部で検出したピットで、平面形は楕円形を呈し、長軸0.4m、短軸0.3m、深さ49cmを測る。埋土は小～中礫混じりの黒褐色(10YR3/2)シルト質細粒～中粒砂で、出土遺物には弥生土器20点、土師質土器6点がみられ、土師質土器2点(664・665)が図示できた。

出土遺物(図2-155 664・665)

664・665は杯である。ともに器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。

(8) 遺物包含層

本調査区の地勢は西から東に向けて緩やかに傾斜しており、第Ⅲ・Ⅳ層は調査区全域に広がるが、第Ⅴ層は調査区東部でのみ確認した。

① 第Ⅲ層出土遺物

弥生土器(図2-156 666~671)

666・667は壺の口縁部破片である。666は複合口縁壺と考えられるもので、端部はヨコナデにより面をなす。内外面にハケを施し、ヨコナデ調整を加える。667は端部を丸く収め、内外面にヨコナデを施し、ヘラミガキを加える。668・669は甕と考えられる底部破片である。668は内面にヘラナデ、外面にタタキを施す。669は内面にナデを施し、外面にはタタキのちハケを施す。670は鉢である。口縁部は屈曲し、斜め上方に短く立ち上がる。摩耗の

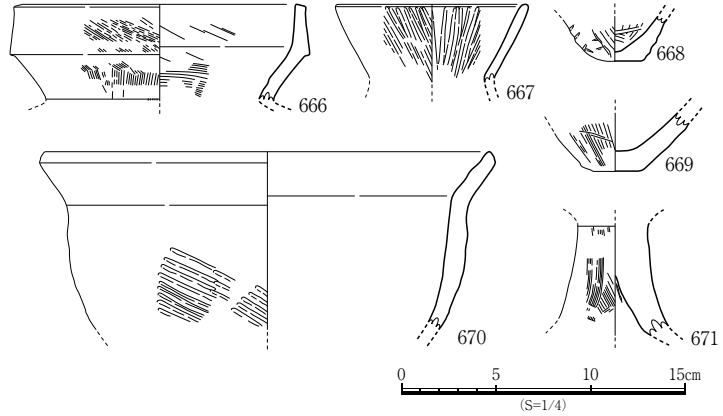


図2-156 第Ⅲ層出土遺物実測図1(弥生土器)

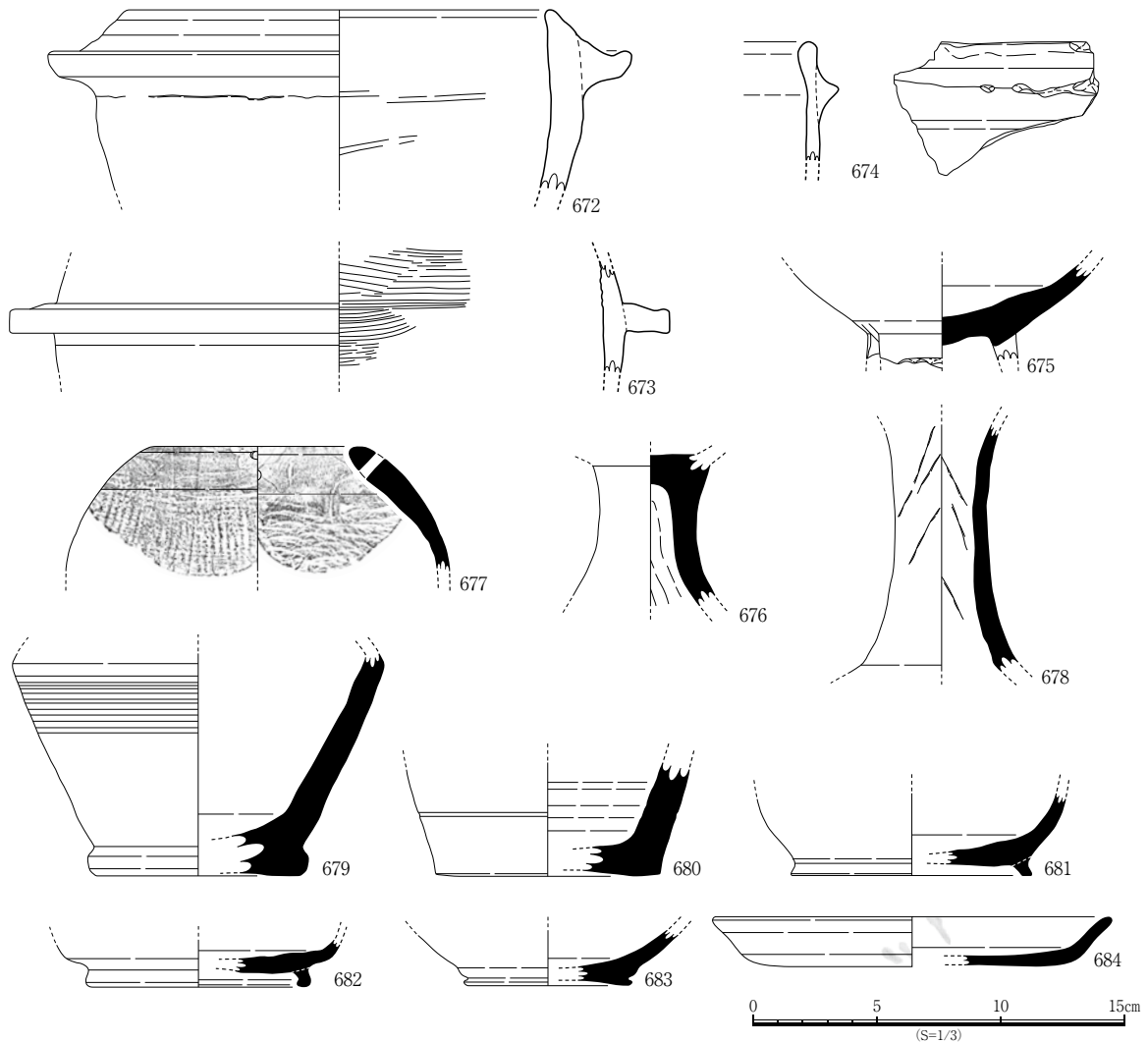


図2-157 第Ⅲ層出土遺物実測図2(土師器・須恵器)

ため調整は不明瞭であるが、口縁部外面にヨコナデ調整、胴部外面にタタキ目が認められる。671は高杯の脚柱部破片で、内面にナデ、外面にハケを施す。

土師器(図2-157 672~674)

672~674は羽釜である。672は口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にヘラナデ、胴部外面にナデを施し、顎下部に煤が付着する。673は口縁端部を欠損し、断面長方形の顎を有する。内面にハケ、口縁部外面にヘラケズリ、顎と胴部外面にヨコナデを施し、顎下部には煤が付着する。674は断面三角形の顎を有する。口縁部内外面にヨコナデ、胴部内外面にナデを施し、顎下部には煤が付着する。

須恵器(図2-157 675~684)

675・676は高杯である。675は脚柱部に3カ所の透かしを有し、器面には回転ナデを施す。676は脚柱部破片で、摩耗のため調整は不明瞭であるが、器面には回転ナデ調整がみられ、内面にはナデ調整を加える。677~680は壺である。677は無頸壺と考えられるもので、口縁部内外面に回転ナデ、

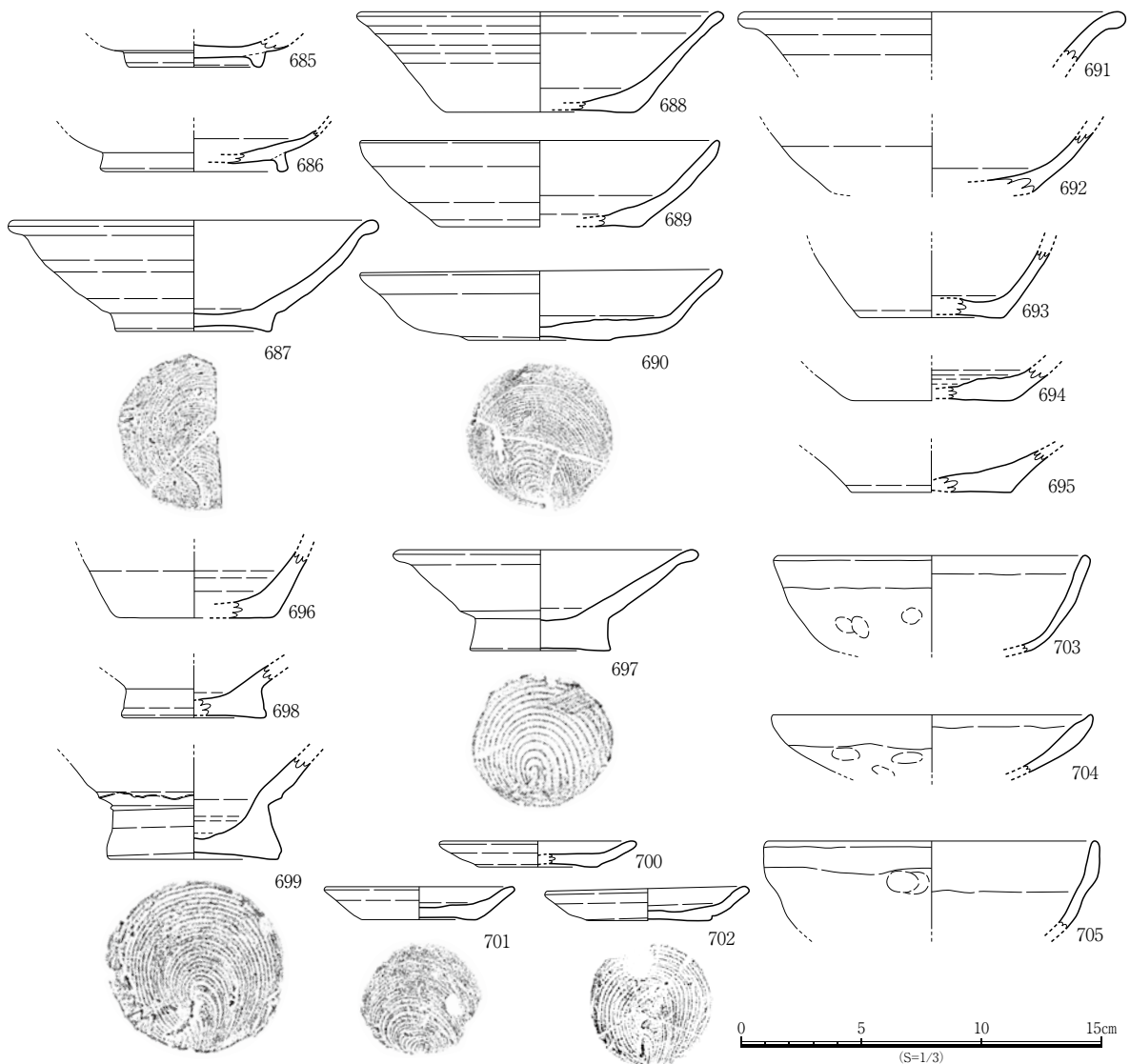


図2-158 第三層出土遺物実測図3(土師質土器)

2. 検出遺構と遺物 (8) 遺物包含層

胴部内面に同心円状のタタキ、胴部外面に格子状のタタキを施し、口縁端部には穿孔が認められる。678は長頸壺の頸部破片と考えられるもので、器面には回転ナデを施し、内面上半にはナデ調整を加える。内外面に成形時の絞り目がみられ、外面の一部には自然釉が認められる。679・680は胴部から底部にかけての破片である。679は摩耗のため調整は不明瞭であるが、胴部外面上部には回転カキ目が残る。680は器面に回転ナデを施し、内面には自然釉が認められる。681～683は杯である。681・682は高台を有するもので、器面に回転ナデを施し、682の底部内面にはナデ調整を加える。683は無高台の杯で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。684は皿で、口縁部内外面に回転ナデ、底部内面にナデを施す。底部切り離しは回転ヘラ切りで、内外面に火襷がみられる。

土師質土器(図2-158 685～705)

685・686は椀と考えられる底部破片である。685は内面にナデ、外面に回転ヘラケズリを施す。686は断面長方形の高台を有し、調整は摩耗のため不明である。687～699は杯である。687は全体の形状が復元できたもので、口縁端部は玉縁状を呈する。器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。688・689は摩耗のため調整は不明瞭であるが、器面には回転ナデ調整が認められ、底部切り離しは回転糸切りである。689は底部外面に板状圧痕が残る。690は成形時に形崩れを起こしたと考えられるもので、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。691は口縁部破片で、器面には回転ナデ調整が認められる。692は体部破片で、底部は欠落し、器面には回転ナデを施す。693～696は底部破片で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。697～699は柱状高台を有するものである。697は全体の形状が復元できたもので、器面には回転ナデを施し、体部外面下端に回転ヘラケズリ調整を加える。底部切り離しは回転糸切りである。698・699は底部破片で、器面に回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。700～702は小皿である。700は摩耗のため調整は不明で、底部切り離しは回転糸切りである。701・702は器面に回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。703～705は手づくね成形の皿である。全て口縁部内外面に

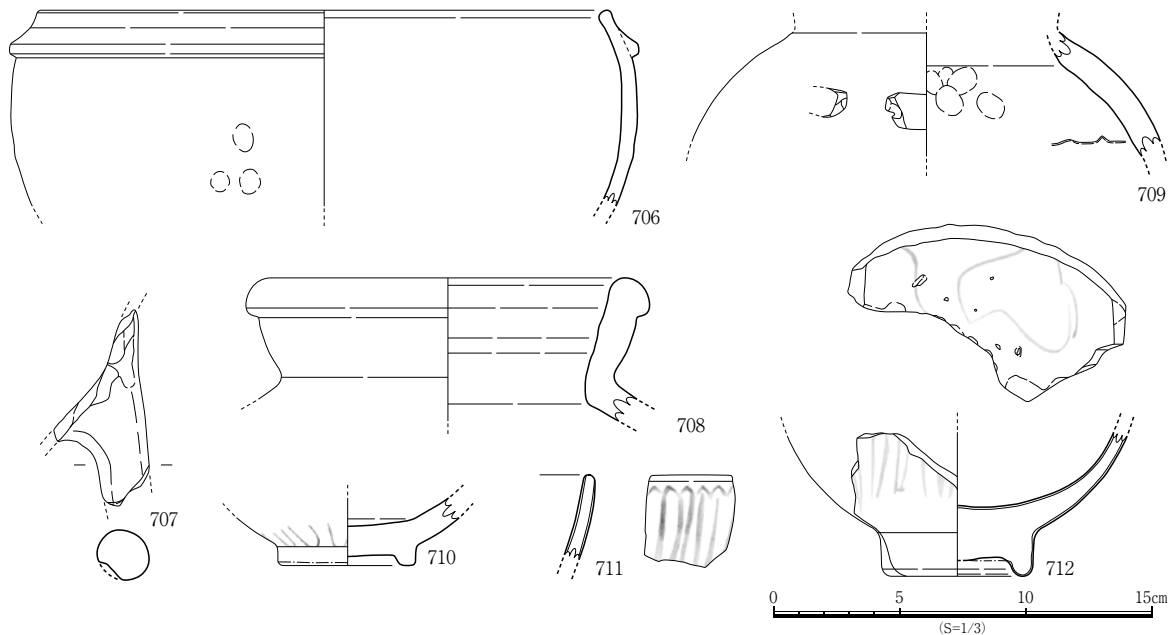


図2-159 第三層出土遺物実測図4(瓦質土器他)

ヨコナデ, 体部内面にナデ, 体部外面に指オサエを施す。

瓦質土器(図2-159 706・707)

706は鍋である。口縁端部外面直下に顎を有し, 口縁部内外面に回転ナデ, 胴部内面にナデ, 胴部外面に指オサエを施し, 顎より下方には煤が付着する。707は三足鍋の脚部破片で, 摩耗のため調整は不明である。

備前焼(図2-159 708)

708は壺と考えられる口縁部破片で, 器面には回転ナデを施し, 外面の一部には自然釉が認められる。

瀬戸焼(図2-159 709)

709は耳付壺と考えられる肩部破片で, 器面には回転ナデを施し, 内面上部には指オサエを加える。耳部は欠損し, 内面は露胎である。

青磁(図2-159 710~712)

710は蓮弁文碗と考えられる底部破片で, 高台内には回転ヘラケズリ調整が認められる。711・712は細蓮弁文碗である。711は口縁部破片で, 細蓮弁文がやや崩れている。712は底部破片で, 内面にはヘラ描きによる文様が認められる。

土製品(図2-160 713~715)

713~715は土錘である。713は両端の一部を欠損し, 表面には指頭圧痕が認められる。714・715は比較的大型のものである。714は片側の一部を欠損し, 表面は摩耗が著しい。715は片側を欠損し, 表面には指頭圧痕が認められる。

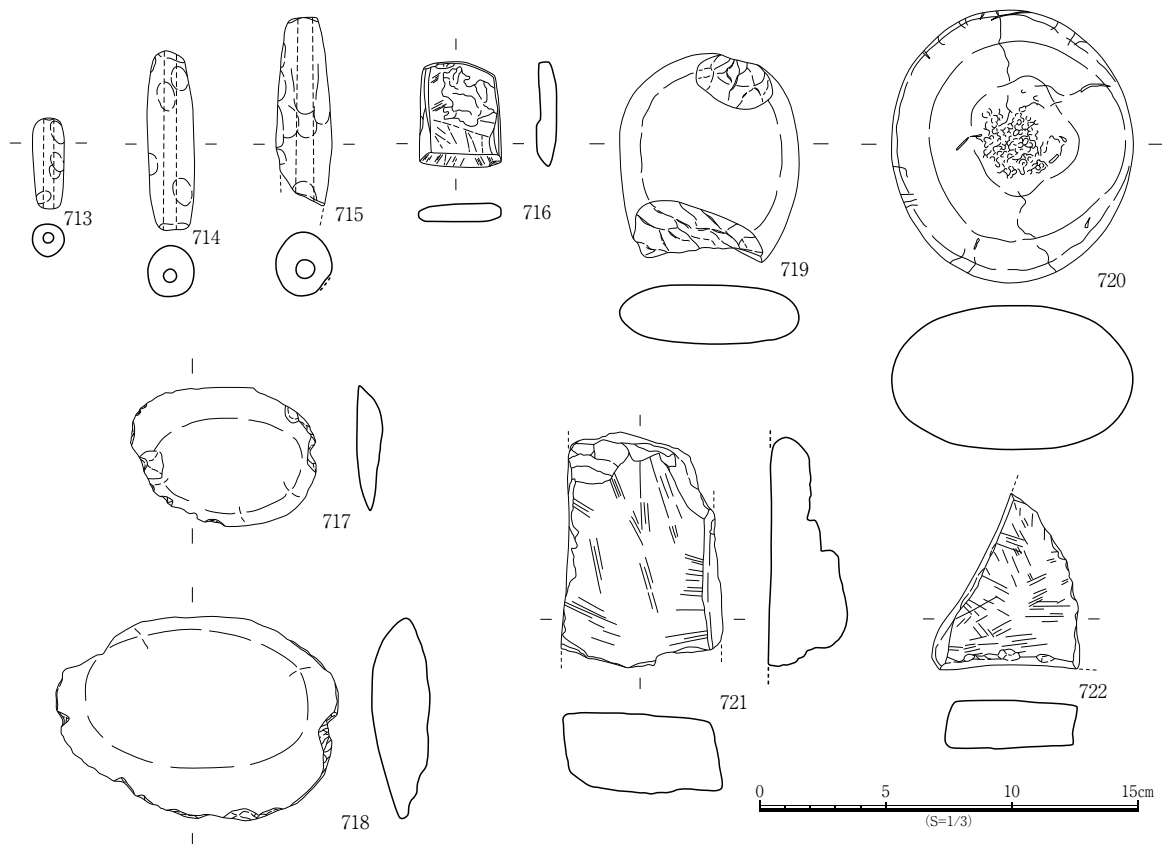


図2-160 第三層出土遺物実測図5(土製品他)

2. 検出遺構と遺物 (8) 遺物包含層

石製品(図2-160 716~722)

716は扁平片刃石斧で、ほぼ完存する。使用により刃部の一部が欠損し、石材は粘板岩とみられる。717・718は打製石庖丁と考えられるものである。両端に抉りを施し、石材は砂岩である。719は石錘と考えられるもので、両端に抉りを施し、石材は砂岩である。720は叩石で、片面に弱い敲打痕がみられ、石材は砂岩である。721・722は砥石である。721は片面と両側面に使用痕が認められ、石材は砂岩である。722は3面に使用痕が認められ、石材は砂岩である。

② 第IV層出土遺物

弥生土器(図2-161 723・724)

723は甕の底部破片と考えられるもので、内面にナデ、外面にハケを施す。724は高杯である。杯部内面に丁寧なヘラミガキ、脚柱部内面にハケ、脚柱部外面にハケのちヘラミガキを施す。

土師器(図2-161 725)

725は羽釜と考えられるもので、口縁端部直下約1cmに頸を有する。器面にヨコナデ調整を施し、

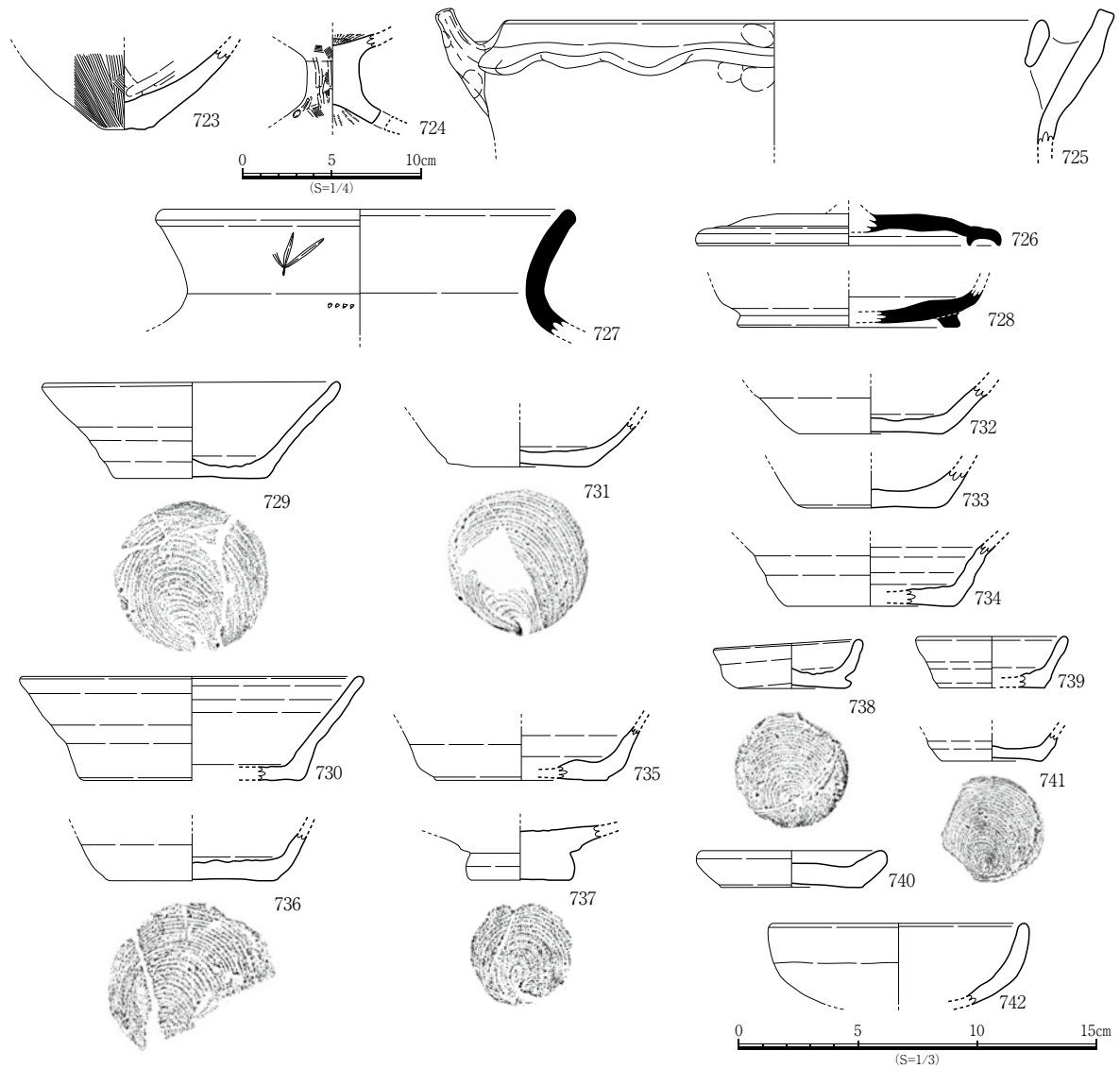


図2-161 第IV層出土遺物実測図1(弥生土器他)

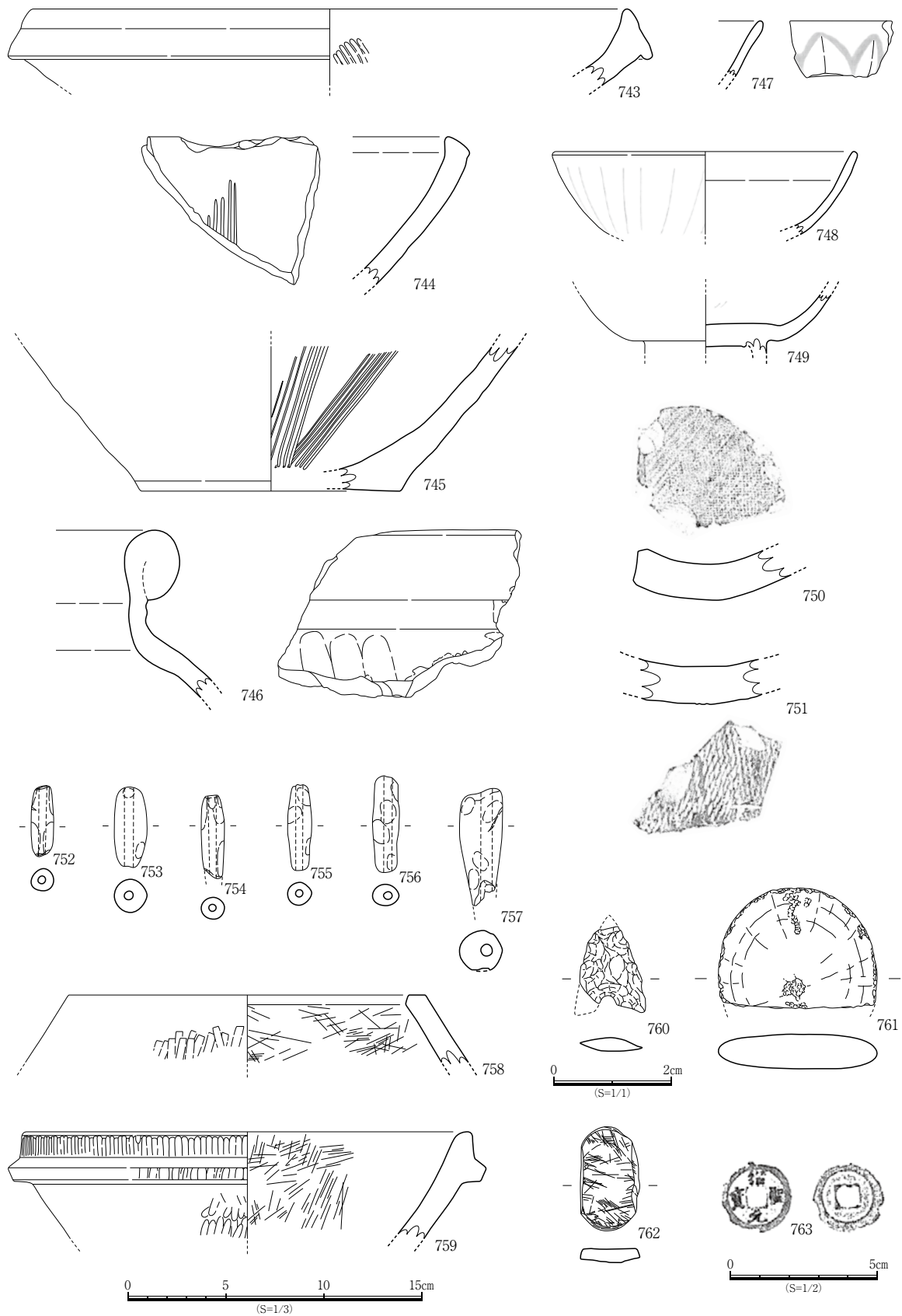


图2-162 第IV層出土遺物実測图2(備前焼他)

2. 検出遺構と遺物 (8) 遺物包含層

把手には貼り付け時の指頭圧痕が残る。胴部と把手の接合部には径約1cmの孔を穿ち、把手外面には煤が付着する。

須恵器(図2-161 726~728)

726は杯蓋である。天井部を欠損し、器面には回転ナデを施す。727は甕である。口縁部破片で、器面には回転ナデを施す。外面にはヘラ描きの文様が認められ、肩部外面には刺突文を配する。728は杯の底部破片で、器面には回転ナデを施し、底部切り離し痕はナデ消される。

土師質土器(図2-161 729~742)

729~737は杯である。729は全体の形状が復元できたもので、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。730は器面に回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りで、体部外面下半にはタールが付着する。731~736は底部破片である。全て器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。737は柱状高台を有するもので、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。738~741は小皿で、全て器面に回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。738は全体の形状が復元できたもので、底部内面中央部が盛り上がる。739は底部を欠損する。740は器壁が厚く、底部外面には板状圧痕が残る。741は口縁部を欠損するものである。742は手づくね成形の皿で、口縁部内外面にヨコナデ、体部内外面にナデを施す。

備前焼(図2-162 743~746)

743~745は播鉢で、743・744は口縁部破片である。743は口縁端部を上下に拡張し、器面には回転ナデを施す。内面には6条単位の条痕が認められる。744は口縁部がやや内湾して立ち上がり、口縁端部は上方に拡張される。器面には回転ナデを施し、内面には5条の条痕が認められる。745は底部破片で、器面には回転ナデを施す。内面に6条単位の条痕がみられ、底部内面には爪形状圧痕が残る。746は甕の口縁部破片で、口縁部を折り曲げ玉縁状を呈する。口縁部内外面に回転ナデ、胴部内外面にナデを施す。

青磁(図2-162 747~749)

747~749は碗で、747・748は口縁部破片である。747は外面に蓮弁文、748は外面に剣頭を省略した細蓮弁文が認められる。749は体部破片で、口縁部と高台を欠損し、内面の一部に文様が残る。

瓦(図2-162 750・751)

750・751は平瓦で、ともに凹面には布目圧痕が認められ、側面は丁寧に面取りを行う。750の凸面にはヘラケズリを施し、751の凸面には縄目状のタタキ目が認められる。

土製品(図2-162 752~757)

752~757は土錘である。752~756はほぼ完存し、摩耗のため調整は不明瞭であるが、表面には指頭圧痕が残る。757は片側を欠損し、表面には指頭圧痕が残る。

石製品(図2-162 758~763)

758・759は石鍋と考えられるものである。口縁部は内傾して立ち上がり、口縁端部は水平な面をなす。内外面とも丁寧に調整を施し、外面には煤が付着する。石材は滑石である。759は断面台形状の顎を有し、口縁部と胴部外面には細かな成形痕が残る。内面は使用に伴い摩耗し、石材は滑石である。760は石鏃である。凹基式で、先端部と基部の片側を欠損する。石材はサヌカイトとみられる。761は叩石で、片側を欠損する。両面と側面に敲打痕がみられ、石材は砂岩である。762は砥石で、全面に使用痕がみられ、石材は粘板岩と考えられる。763は銭貨である。錆膨れのため判別しづらいが、

「紹聖元寶」とみられる。

③ 第Ⅴ層出土遺物

弥生土器(図2-163 764~777)

764~767は壺である。764は複合口縁壺で、口縁部内外面にヨコナデ、口縁部内外面下端にハケを施し、屈曲部上方の外面には波状文を配する。765は口縁端部破片で、端部を上下に拡張する。器面にはヨコナデを施し、櫛描波状文と円形浮文を配する。766は頸部から胴部にかけての破片で、摩耗のため調整は不明であるが、肩部外面に波状文が残る。767は底部破片で、胴部内面にナデ、底部内面にナデのち指オサエ、外面にタタキのちハケを施す。768・769は甕である。768は尖底を呈し、口縁部は斜め上方に短く立ち上がる。口縁部から胴部の内面にハケ、底部内面にナデ、口縁部外面にヨコナデ、胴部外面にタタキを施す。口縁部内面にはヨコナデ調整を加え、底部外面以外には煤が付着する。769は底部破片で、内面にナデ、外面にタタキのちナデを施し、外底面にはナデ調整が認められる。770・771は脚付鉢と考えられるものである。ともに脚柱部のみ残存し、外面にはヨコナデを施し、770には鉢底部内面にハケ調整が残る。772~774は高杯である。772は杯口縁部破片で、口縁端部内外面にヨコナデ、口縁部内外面にヘラミガキを施し、口縁端部に細かな刺突文、口縁部内外面に波状文を配する。773・774は脚柱部破片である。773は杯底部と脚柱部内面にナデ、脚柱部外面にヘラミガキを施す。774は摩耗のため調整は不明瞭であるが、脚柱部内面にはナデ調整が残る。775はミニチュア土器の底部と考えられるもので、内外面にナデを施し、胴部外面下端には指頭圧痕が残る。

776・777は土製品の支脚である。776は断面が「ハ」の字状を呈し、中央部は孔が開く。表面には指

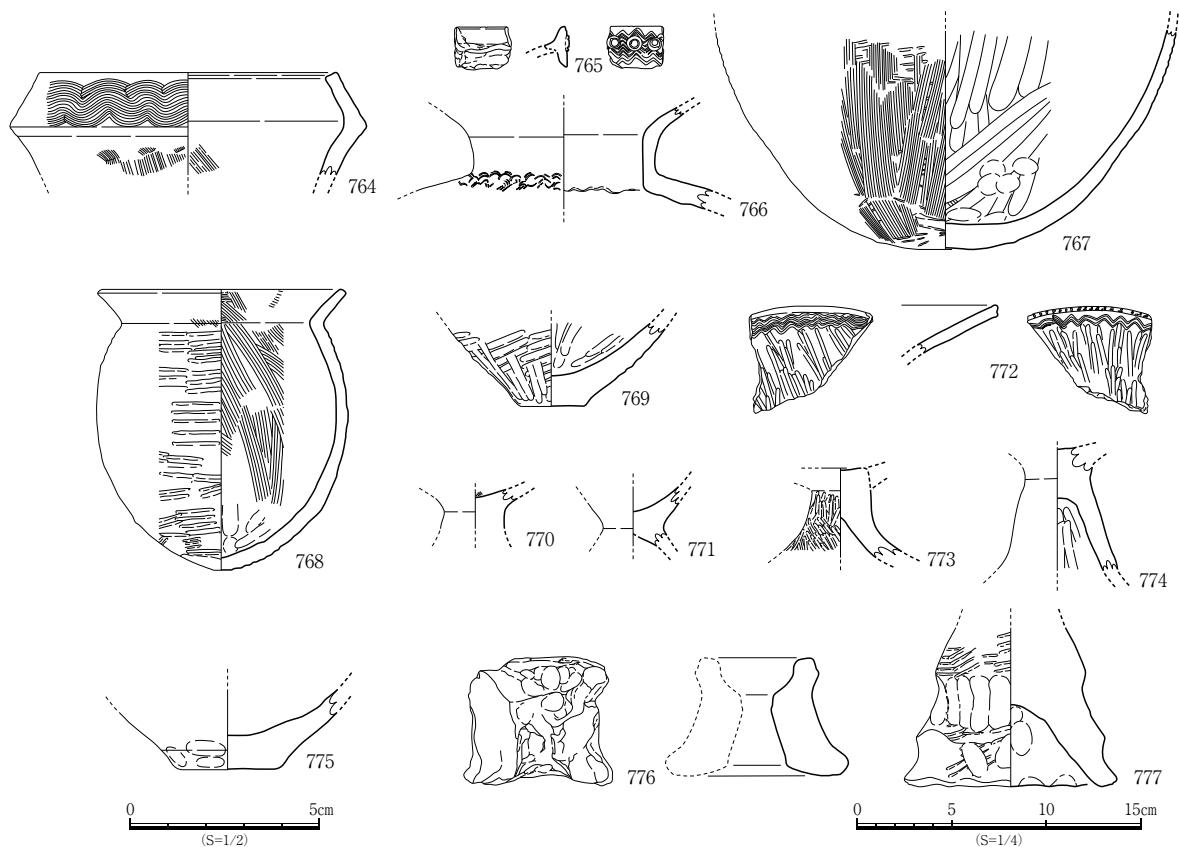


図2-163 第Ⅴ層出土遺物実測図1(弥生土器)

2. 検出遺構と遺物 (8) 遺物包含層

頭圧痕が残る。777は脚部破片で、底部外面は大きく凹む。内面に指オサエ、外面にタタキを施し、外面の一部には指頭圧痕が残る。

土師器(図2-164 778・779)

778・779は羽釜の口縁部破片である。778は口縁部外面上端に顎が巡り、器面にはヨコナデを施す。779は口縁端部外面の約0.5cm下に顎が巡り、内面と顎部にヨコナデ、胴部外面にナデを施し、顎下部には煤が付着する。

須恵器(図2-164 780~792)

780~783は杯蓋である。780は天井部外面に回転ヘラケズリを施し、他の部位には回転ナデを施す。781は天井部のみ残存し、ボタン状のつまみが残存する。器面にはナデを施し、つまみは粘土塊を貼り付け、上部を撫でる。782・783は天井部が欠損するものである。782は天井部と口縁部の境には明瞭な屈曲がみられ、器面に回転ナデを施す。783は天井部外面に回転ヘラケズリを施し、他の部位に

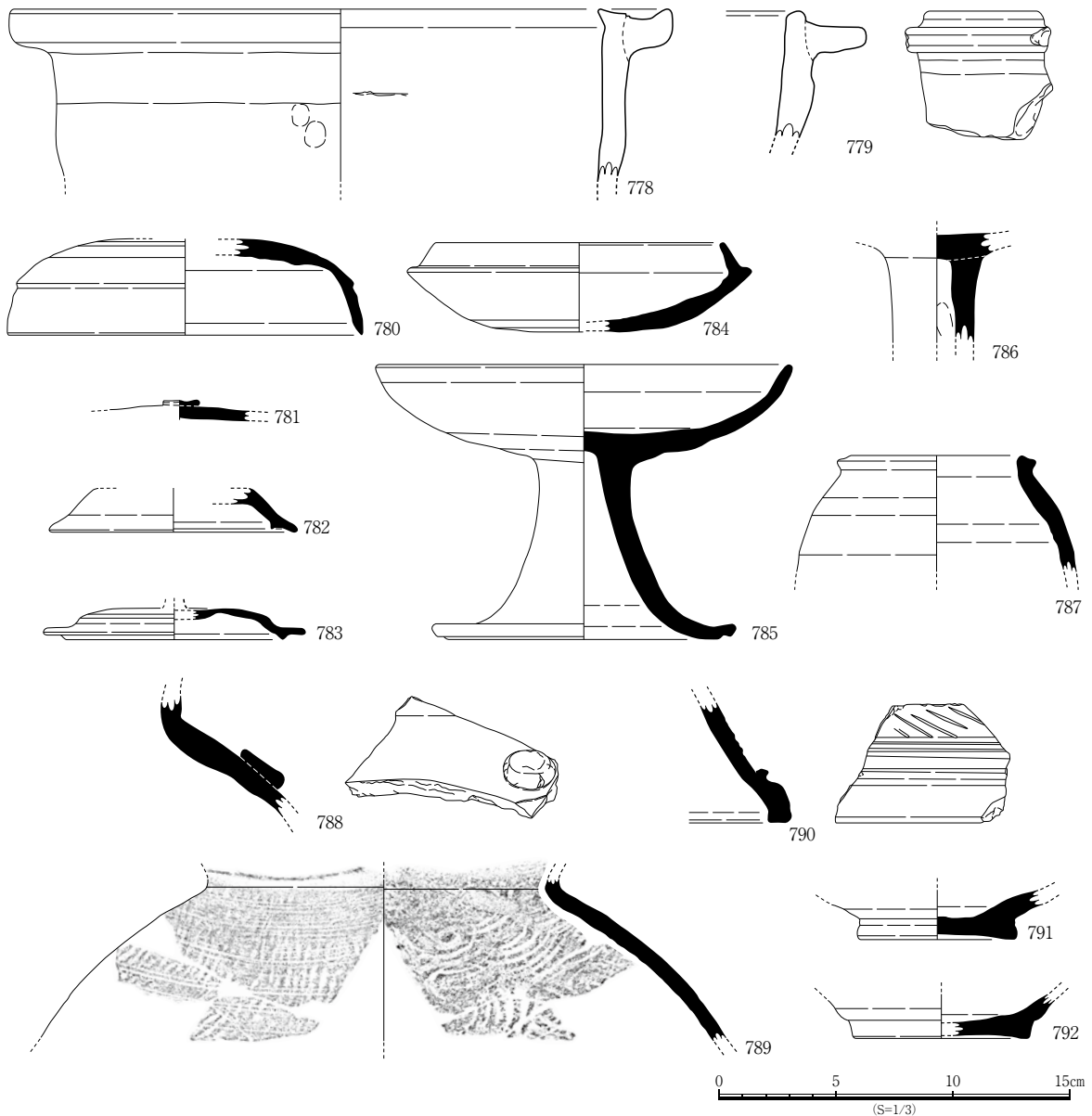


図2-164 第V層出土遺物実測図2(土師器・須恵器)

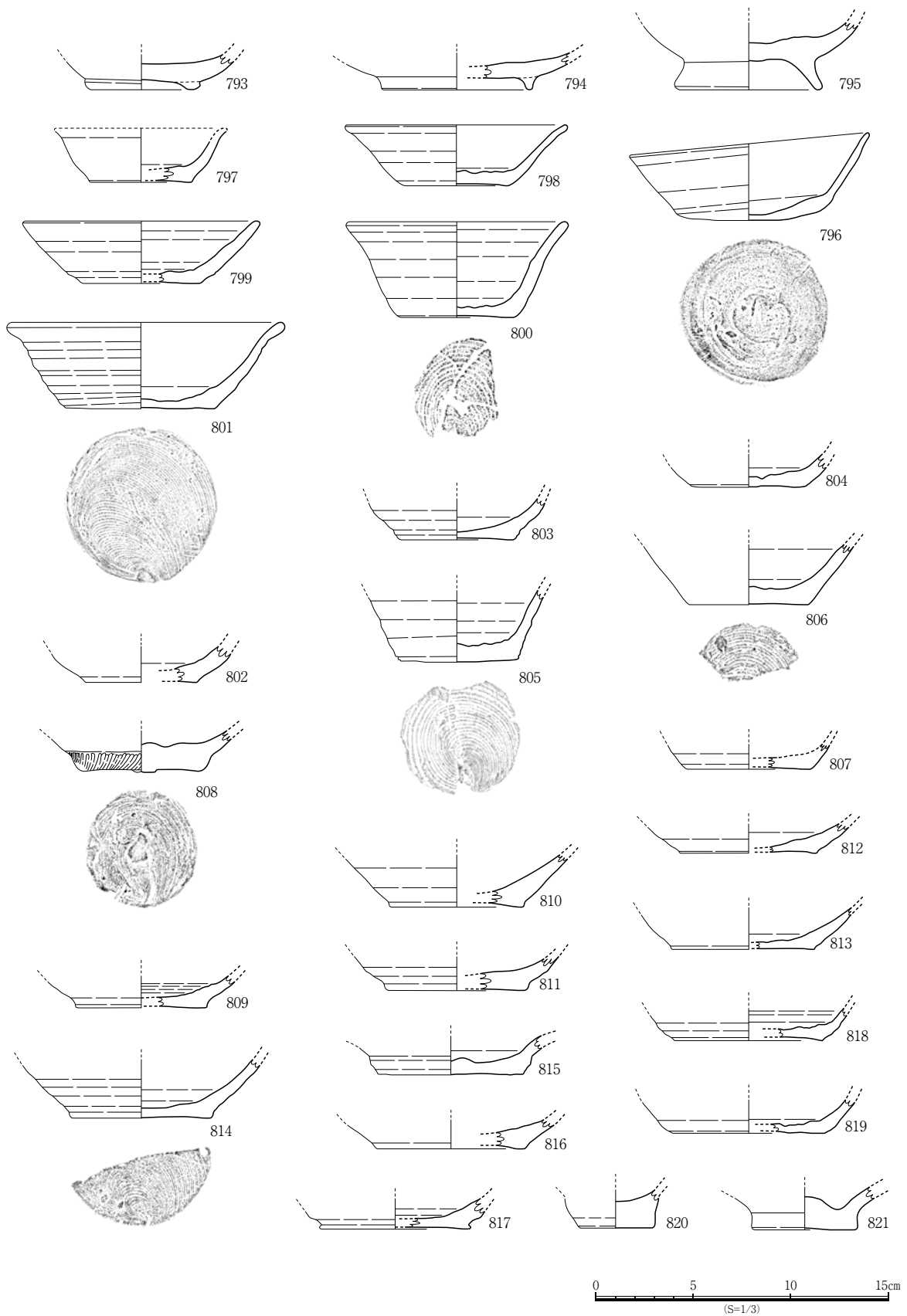


图2-165 第V層出土遺物実測图3(土師質土器)

2. 検出遺構と遺物 (8) 遺物包含層

は回転ナデ調整が認められる。784は杯身である。底部外面に回転ヘラケズリ、他の部位には回転ナデを施す。785・786は高杯である。785は全体の形状が復元できたものである。摩耗のため調整は不明瞭であるが、器面には回転ナデ調整が残る。786は脚柱部破片で、摩耗のため調整は不明である。787・788は壺と考えられるものである。787は短頸壺と考えられるもので、器面には回転ナデを施し、外面の一部に自然釉が認められる。788は胴部破片で、内面上半に回転ナデ、内面下半に同心円状のタタキ、外面に回転ナデを施し、外面にはボタン状の浮文を配する。789は甕と考えられる胴部破片で、内面に同心円状のタタキ、外面に並行タタキのち粗い回転ナデを施す。790は器台と考えられるもので、器面には回転ナデを施す。外面には3条の沈線と斜行するヘラ描き沈線文を配する。791・792は杯である。ともに器面には回転ナデを施し、底部切り離しは791が静止糸切り、792が回転糸切りで、792の底部外面には板状圧痕が残る。

土師質土器(図2-165~167 793~844)

793~795は碗の底部破片である。793・794は摩耗のため調整は不明で、793には断面台形状の高台、794には断面三角形の高台が付く。795は比較的高い高台を有し、器面には回転ナデを施す。調整が非常に丁寧で、胎土からみて搬入品の可能性が考えられる。796~821は杯である。796はほぼ完存するもので、器面には回転ナデを施す。底部切り離しは回転ヘラ切りで、切り離し痕はナデ消される。797~801はほぼ全体の形状が復元できたもので、器面に回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。802~819は体部から底部にかけての破片で、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。805は底部切り離しをやり直した痕跡が、808は底部切り離し時に体部外面下端に糸が当たった痕跡が残る。810は体部内面にタールが付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。820・821は柱状高台を有するもので、820は摩耗のため調整と底部切り離しは不明である。821は器面に回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。822~833は小皿である。822~824は器

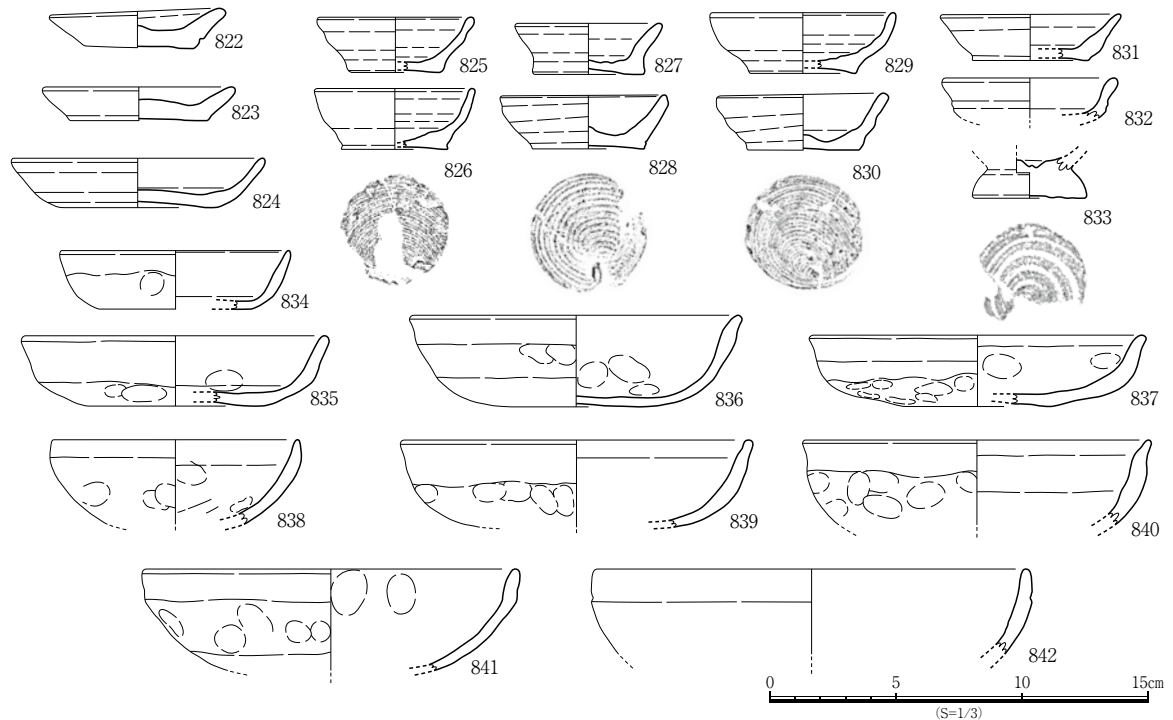


図2-166 第V層出土遺物実測図4(土師質土器)

高指数が25.0以下のものである。822・823は器面に回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。822は口縁部外面に煤が付着し、823は底部外面に板状圧痕が残る。824は摩耗のため調整は不明

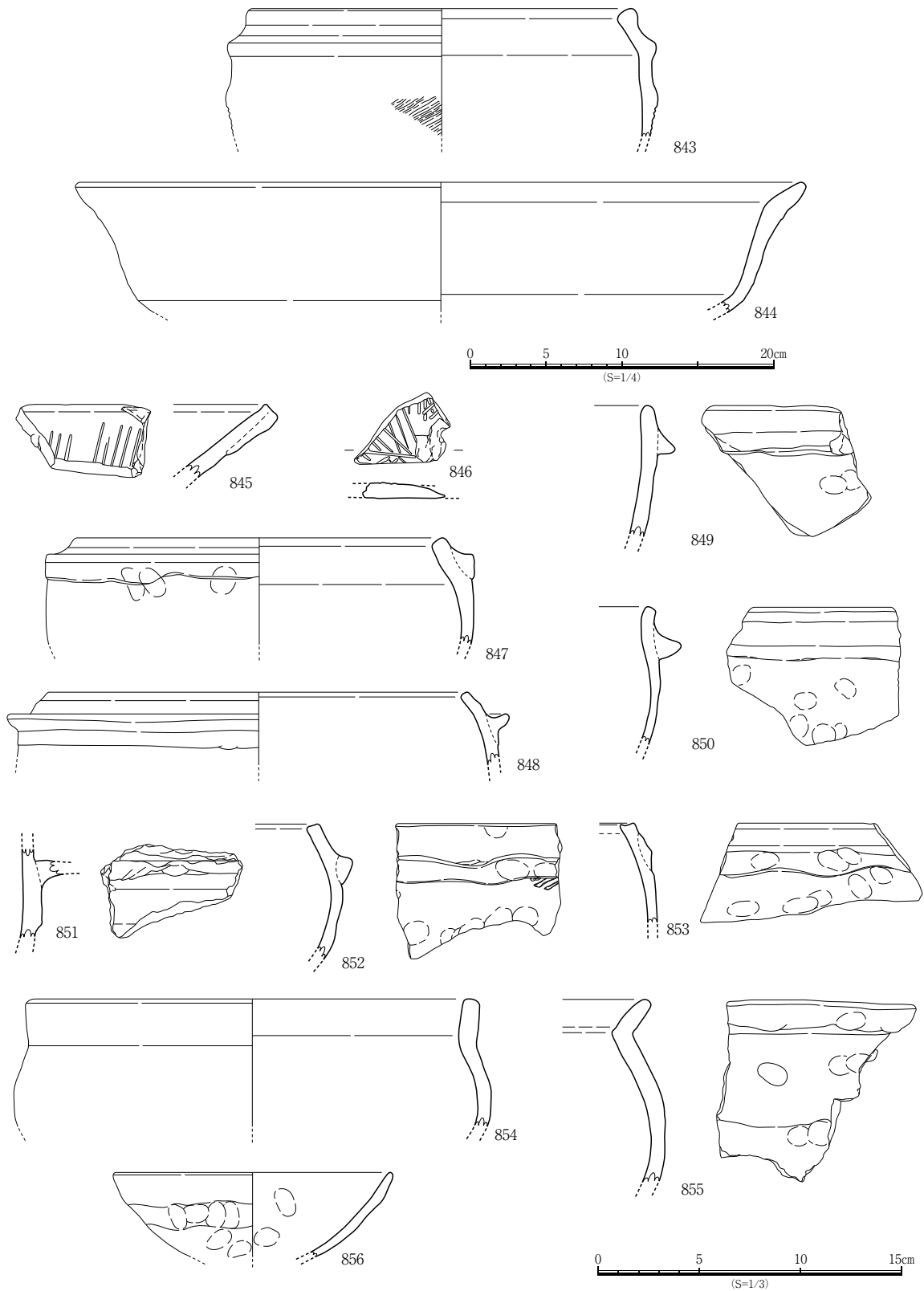


図2-167 第V層出土遺物実測図5(土師質土器他)

2. 検出遺構と遺物 (8) 遺物包含層

であるが、底部外面には回転糸切り痕が残る。825～831は器高指数が25.0以上のものである。全て器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。828・830は底部内面中央部が山状に盛り上がる。832は口縁部破片で、器面には回転ナデを施す。833は柱状高台を有するもので、器面には回転ナデを施し、底部切り離しは回転糸切りである。底部内面には凹みがみられ、燭台の可能性が考えられる。834～842は手づくね成形の皿で、834～837は器高が3.0cm以下のものである。834は摩耗のため調整は不明瞭であるが、口縁部内外面にはヨコナデ調整、体部から底部外面には指頭圧痕とナデ調整が認められる。835も摩耗のため調整は不明瞭であるが、口縁部内外面にはヨコナデ調整、底部内面にはナデ調整、底部外面には指頭圧痕が認められる。836は口縁部内外面にヨコナデ、体部から底部内面に指オサエとナデ、体部外面に指オサエ、底部外面にナデを施す。837は摩耗のため調整は不明瞭であるが、口縁部内外面にはヨコナデ調整、体部から底部外面には指頭圧痕が認められる。838～842は器高が3.0cm以上のものである。838は摩耗のため調整は不明瞭であるが、体部内外面には指頭圧痕が残る。839は口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデ、体部外面に指オサエを施し、口縁部内面にはナデ調整を加える。840～842は口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデ、体部外面に指オサエを施す。843・844は鍋である。843は口縁端部外面約2.8cm下に顎が巡り、口縁部内外

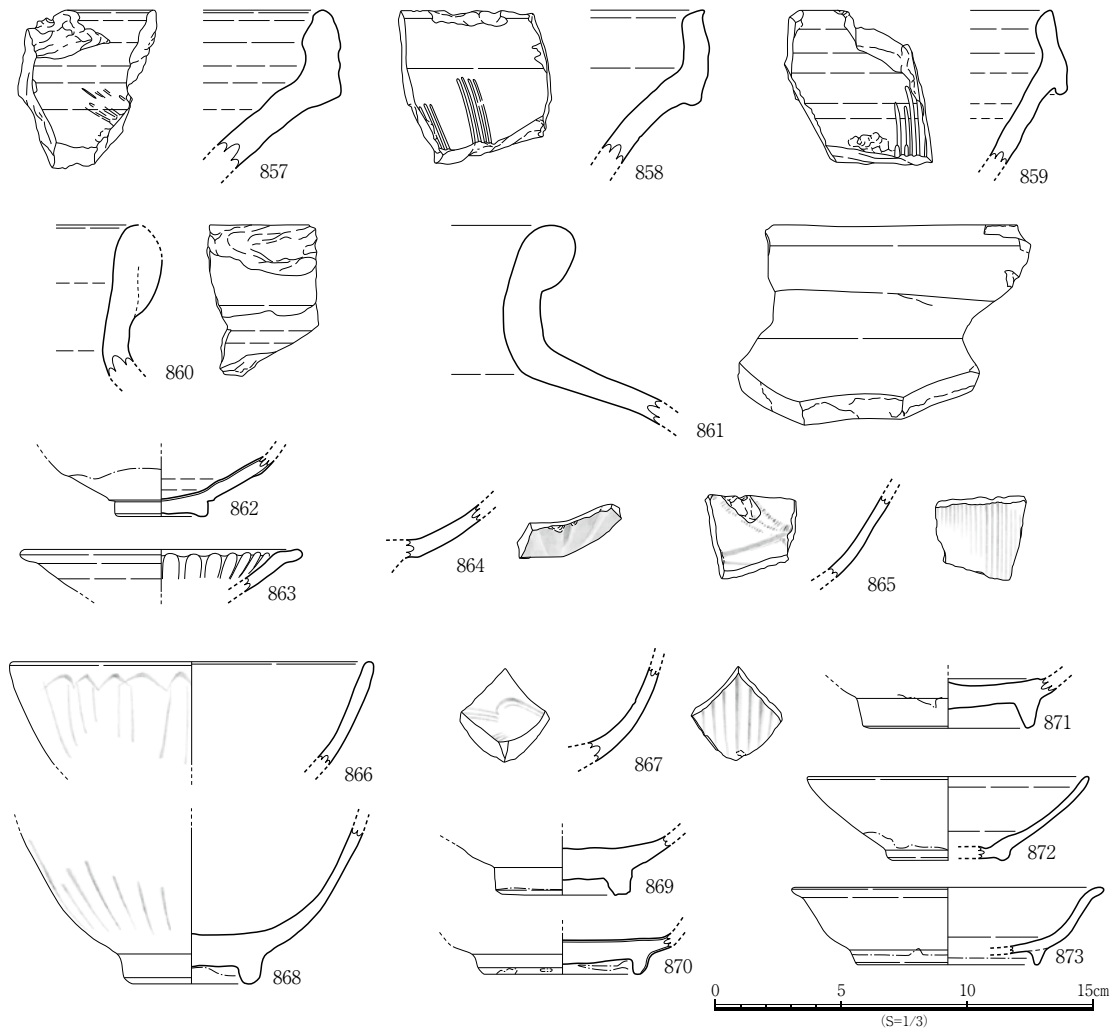


図2-168 第V層出土遺物実測図6(備前焼他)

面にヨコナデ、胴部内面にナデ、胴部外面にタタキを施す。胴部外面には煤が付着する。844は口縁部が屈曲して短く立ち上がり、端部を丸く収める。摩耗のため調整は不明瞭であるが、体部外面にナデ調整とヘラケズリ調整が残る。

瓦質土器(図2-167 845~855)

845・846は播鉢である。845は口縁部破片で、口縁部を粘土帯で拡張し、口縁端部はヨコナデにより面をなす。内面にナデ、外面に指オサエを施し、内面には条痕が認められる。846は底部破片である。摩耗のため調整は不明で、内面には放射状の条痕が認められる。847~855は鍋で、847~853は断面三角形の顎を有するものである。847・848は口縁部が内湾して立ち上がり、口径が復元できたもので、847は口縁部内外面と胴部内面にヨコナデ、胴部外面に指頭圧痕が残る。848は摩耗のため調整は不明瞭であるが、顎周辺にヨコナデ調整が残る。顎下部には煤が付着する。849~853は口縁部破片で、849~851は口縁部が直線的に立ち上がるものである。849・850は摩耗のため調整は不明で、851は器面に回転ナデを施す。852・853は口縁部が内湾して立ち上がるもので、852は口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にナデ、胴部外面に指オサエを施し、顎下方には煤が付着する。853は摩耗のため調整は不明であるが、口縁部内外面にはヨコナデ調整、胴部外面には指頭圧痕がみられ、顎下方には煤が付着する。854・855は口縁部が屈曲し斜め上方に短く立ち上がるもので、854は摩耗のため調整は不明である。855も摩耗のため調整は不明瞭であるが、口縁部外面にはヨコナデ調整が残る。胴中央部より下方には煤が付着する。

瓦器(図2-167 856)

856は椀で、底部を欠損する。摩耗のため調整は不明瞭であるが、口縁部内外面にヨコナデ調整、体部外面に指頭圧痕が残る。

備前焼(図2-168 857~861)

857~859は播鉢の口縁部破片である。857は口縁端部を上方に拡張し、器面に回転ナデを施す。858・859は口縁端部を上下に拡張し、器面に回転ナデを施す。858は4条単位の条痕が認められる。860・861は甕の口縁部破片で、端部は玉縁状を呈する。ともに口縁部内外面に回転ナデを施し、861の胴部内外面にはヨコナデ調整がみられる。

瀬戸焼(図2-168 862・863)

862は天目茶碗の底部破片である。削り出し高台で、底部外面には回転ヘラケズリ調整が認められる。内面全体と体部外面には黒褐色釉を厚く施す。863は菊皿と考えられるもので、口縁部は屈曲し水平な面をなす。

青磁(図2-168 864~870)

864~869は碗である。864は体部破片で、外面には蓮弁文が認められる。865も体部破片で、内面にはヘラによる片彫りと櫛によるジクザグ文様、外面には細かな櫛目がみられる。866は口縁部から体部にかけての破片で、外面にヘラ描き細蓮弁文がみられる。867は体部破片で、内面にヘラによる片彫り、外面にヘラ描き細蓮弁文がみられる。868・869は底部破片である。868は外面にヘラ描き細蓮弁文が認められ、高台内は釉剥ぎを行う。869は削り出し高台である。870は皿と考えられるものである。削り出し高台で、高台内は釉剥ぎを行う。

白磁(図2-168 871~873)

871は碗の底部破片である。削り出し高台で、見込に沈線を有する。872・873は皿である。872は低

2. 検出遺構と遺物 (8) 遺物包含層

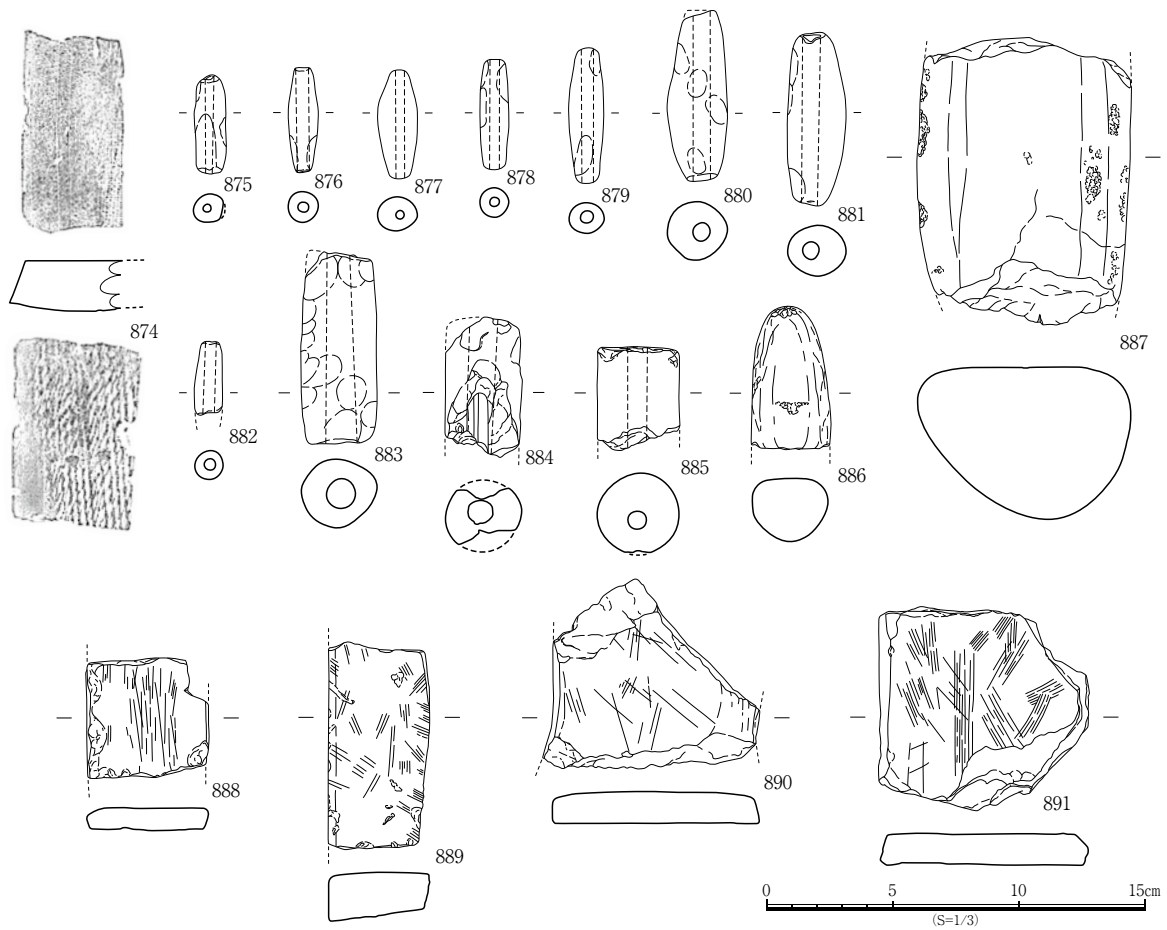


図2-169 第V層出土遺物実測図7(瓦他)

い高台を有し、口縁端部は丸く収める。見込には沈線がみられる。873は断面三角形状の高台を有し、口縁部は外反して立ち上がる。畳付は露胎で、内外面には被熱痕がみられ、二次焼成を受けたと考えられる。

瓦(図2-169 874)

874は平瓦である。側面と凹面の一部は丁寧なヘラケズリを施し、凹面には布目圧痕、凸面には縄目状のタタキ目が認められる。

土製品(図2-169 875~885)

875~885は土錘で、875~882は中央部が膨らむものである。875~879は完存、880~882は一部を欠損し、表面には指頭圧痕がみられる。883~885は円柱状を呈するもので、883は一部を欠損、884・885は大部分を欠損し、表面には指頭圧痕とナデ調整がみられる。884には孔内部に芯材を抜いた痕跡が残る。

石製品(図2-169 886~891)

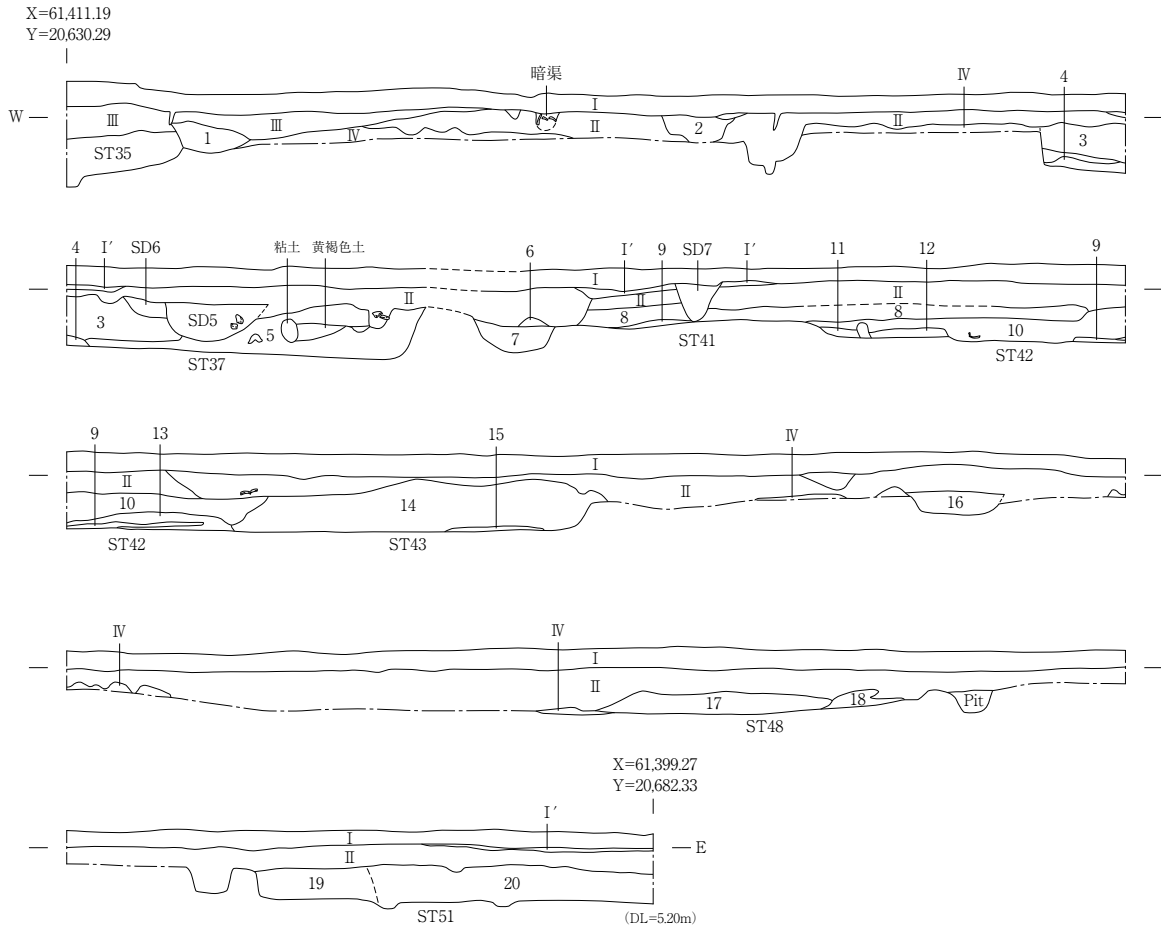
886・887は叩石で、石材は砂岩である。886は一部が残存し、端部と片面に敲打痕が認められる。887は両端を欠損する。断面三角形状を呈し、角2カ所に弱い敲打痕がみられる。888~891は砥石である。888~890は一部が残存し、石材は砂岩である。888は片面と両側面、889は片面と側面、890は片面と両側面に使用痕がみられる。891も一部が残存し、片面と側面に使用痕がみられ、石材は泥岩と考えられる。

第三章 IV B-1区

1. 調査の概要と基本層序

(1) 調査の概要

IV B-1区はIV A区の東側に位置する調査区である。東西90m, 南北19m, 面積は1,734㎡である。調査区はほぼ中央を境に西側をIV B-1-1, 東側をIV B-1-2として調査を実施した。東側は既



層位

- 第I層 褐灰色(10YR6/1)シルト層(耕作土)
- 第I'層 黒褐色(10YR2/2)シルト層
- 第II層 土器片及び0.5~3cm大の小礫が混じる黒褐色(7.5YR3/1)シルト層
- 第III層 土器片が混じる黒褐色(10YR3/2)細砂混じりシルト層(遺物包含層)
- 第IV層 褐色(7.5YR4/3)シルト層(地山)

遺構埋土

- 1. 黒褐色(10YR2/3)シルト(SD1)
- 2. 暗褐色(7.5YR3/3)シルト(Pit)
- 3. 土器片及び小礫が混じる黒褐色(7.5YR3/2)シルト(ST37)
- 4. 地山礫及び黒褐色土が混じる黄褐色土(ST37 ベッド)
- 5. 土器片が混じる黒色(7.5YR2/1)シルト(ST37)
- 6. 明褐色土が粒状に混じる黒褐色土
- 7. 0.5~1cm大の小礫が混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルト(SD7)
- 8. 黄褐色ブロックが混じる黒色(10YR2/1)シルト(ST41)
- 9. 暗褐色(10YR3/3)シルト
- 10. 黄褐色土が粒状に混じり, 黒色シルトが混じる黒褐色(10YR2/2)シルト(ST42)
- 11. 黒色(10YR2/1)シルト(ST42)
- 12. 地山礫ブロックが混じる暗褐色(10YR3/3)シルト(ST42)
- 13. 黄褐色土が混じる黒色(10YR2/1)シルト(ST42)
- 14. 土器片及び1cm大の小礫が混じり, 黄褐色ブロックが混じる黒色(7.5YR2/1)細砂混じりシルト(ST43)
- 15. 黄褐色ブロックが混じる黒褐色(10YR2/3)シルト(ST43)
- 16. 黒褐色(7.5YR2/2)シルト(SD8)
- 17. 土器片が多く混じり, 黄褐色ブロックが粒状に混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルト(ST48)
- 18. 明褐色土が粒状に混じる黒褐色(10YR2/2)シルト(ST48 ベッド)
- 19. 0.5~1cm大の小礫が多く混じる暗褐色(7.5YR3/4)シルト(ST51)
- 20. 0.5~1cm大の小礫が多く混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルト(ST51)

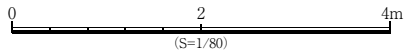


図3-1 調査区北壁セクション図1

1. 調査の概要と基本層序 (2) 基本層序

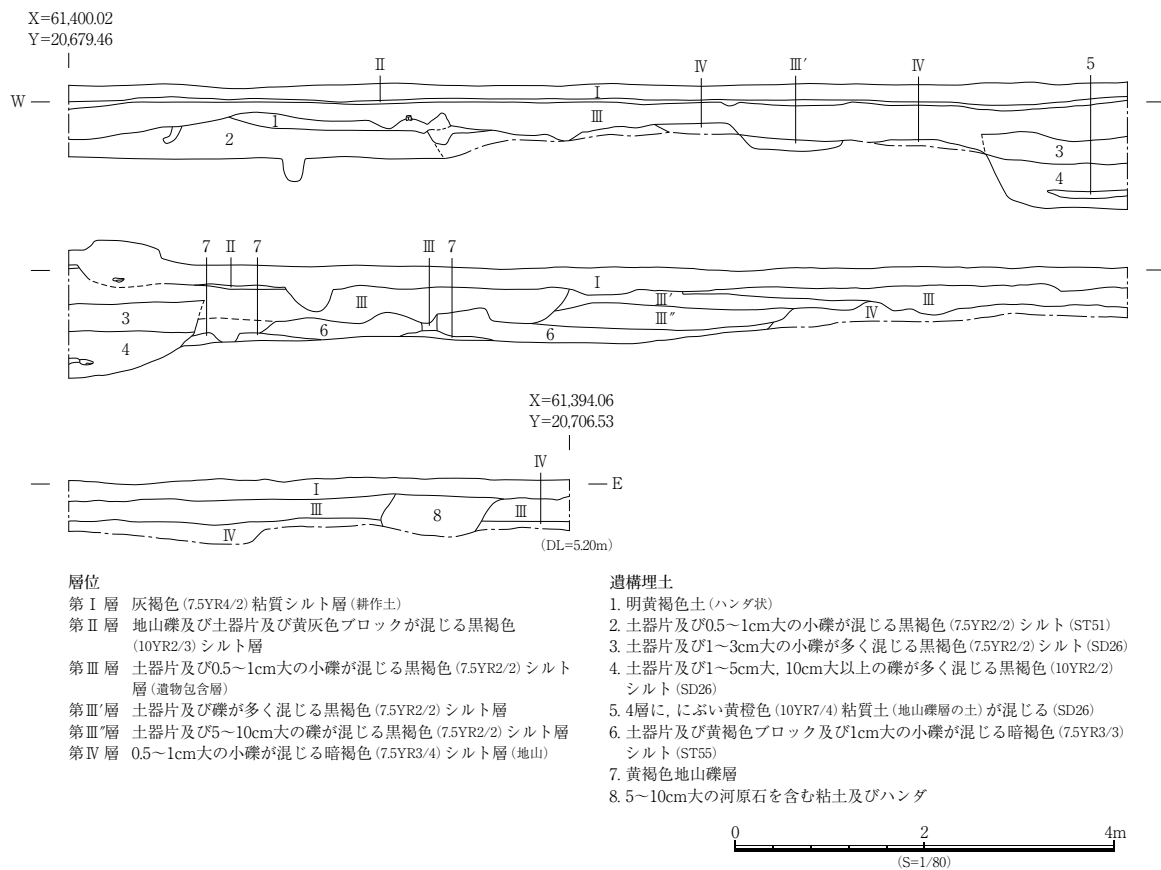


図3-2 調査区北壁セクション図2

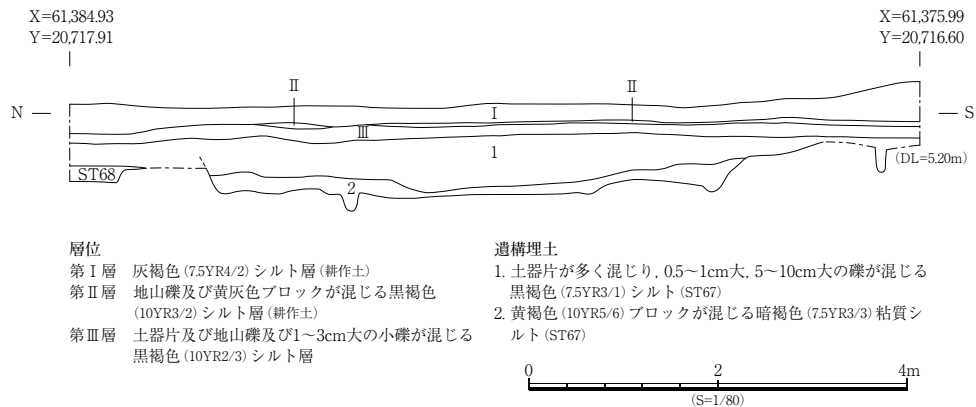


図3-3 調査区東壁セクション図

存の用水路を隔ててIV B-2区が位置する。調査区では弥生時代後期終末~古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、中世を中心とする遺構が確認されており、竪穴建物跡36軒、掘立柱建物跡17棟、土坑38基、溝跡24条、ピット450個以上を検出している。

(2) 基本層序

基本層序は調査区の北壁と東壁、南壁の一部において土層観察をおこなった。調査区の北壁(W-E)、東壁(N-S)、南壁(E-W)の土層は以下のとおりである。

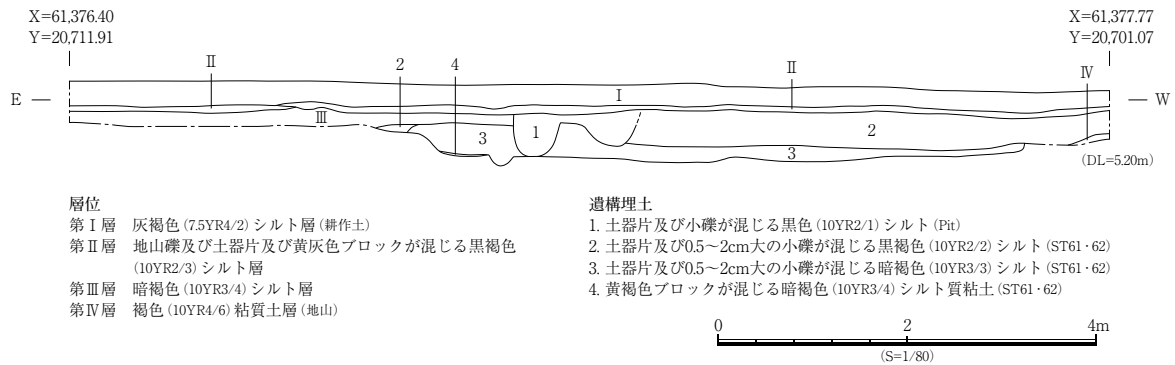


図3-4 調査区南壁セクション図

北壁

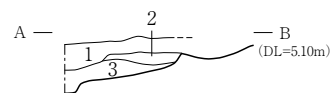
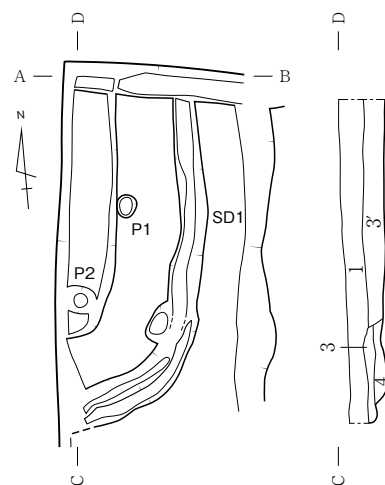
- 第I層 褐灰色(10YR6/1)シルト層(耕作土)
- 第I'層 黒褐色(10YR2/2)シルト層
- 第II層 土器片及び小礫が混じる黒褐色(7.5YR3/1)シルト層
- 第III層 土器片及び細砂が混じる黒褐色(10YR3/2)シルト層
- 第IV層 褐色(7.5YR4/3)シルト層(地山)

東壁

- 第I層 灰褐色(7.5YR4/2)粘質シルト層(耕作土)
- 第II層 地山礫片及び黄灰色土ブロックが混じる黒褐色(10YR3/2)シルト層
- 第III層 土器片及び小礫が混じる黒褐色(10YR2/3)シルト層

南壁

- 第I層 灰褐色(7.5YR4/2)シルト層(耕作土)
- 第II層 土器片及び黄灰色土ブロックが混じる黒褐色(10YR2/3)シルト層
- 第III層 暗褐色(10YR3/4)シルト層
- 第IV層 褐色(10YR4/6)粘質土層(地山)



遺構埋土

- 1. 土器片及び0.5~1cm大の小礫が混じる黒褐色(7.5YR3/2)シルト
- 2. 黄褐色土ブロックが混じる黒色(10YR2/1)シルト
- 3. 黄褐色土ブロックが混じる黒褐色(10YR2/2)シルト(ベッド埋土)
- 3. 土器片及び1~3cm大の小礫が混じり、明黄褐色土ブロックが混じる黒褐色(10YR2/2)シルト
- 4. 黒褐色(10YR2/2)シルト

図3-5 ST35

2. 検出遺構と遺物

(1) 竪穴建物跡

ST35(図3-5)

調査区の北西隅に位置する。調査区の北西壁にあたり、遺構の南東隅部のみの検出であった。確認長は南北約3.5m、東西は約1.3mで、平面形からは隅丸形状を呈していたと推定される。検出面から床面までの深さは南側が約32cm、北側で48cmを測る。南側にはベッド状遺構と考えられる段部が確認できた。埋土は1層：黒褐色(7.5YR3/2)シルト(土器片及び小礫が混じる)、2層：黄褐色シルトがブロック状に混じる黒色(10YR2/1)シルト、

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

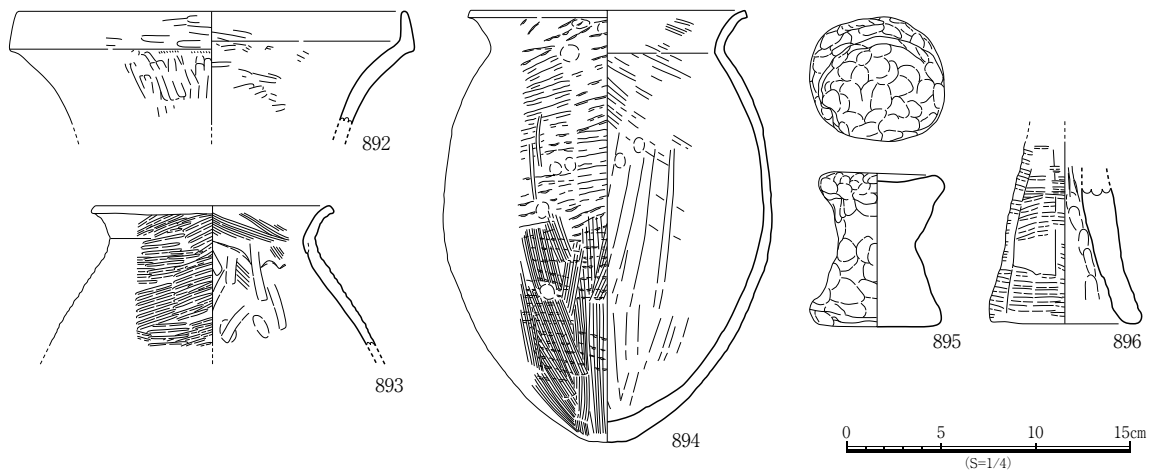


図3-6 ST35出土遺物実測図

黄褐色土がブロック状に混じる黒褐色(10YR2/2)シルトである。床面からは2個のピットが検出された。P1は床面からの深さは約10cm, P2は約15cmを測る。出土遺物では弥生土器壺・甕, 支脚が図示できた。

埋土出土遺物(図3-6 892~896)

892は複合口縁壺で, 内外面はヘラミガキ調整が施される。893・894は甕で, 894は口縁部は「く」の字状を呈し, 体部中央部に最大径をもつ。外面は口縁部までタタキ目がみられ, 体部下半部はタタキ後ハケ調整を施す。内面は口縁部から頸部にかけてハケ調整, 体部から底部にかけてナデ調整を施す。口縁部から体部外面には煤の付着がみられる。895・896は支脚で, 895は中実で円柱状を呈し, 側面中央部は凹む。上部はやや傾斜をもつ。外面は指頭圧痕が顕著である。896は中空で, 外面にタタキ目がみられ, 工具によるナデ調整を施す。

ST36(図3-7)

調査区の北西部に位置する。北側は調査区北壁になり, 遺構の南側のみの検出であった。確認長は南北約1.2m, 東西約3.2mで平面形からは隅丸形状を呈していたと推定される。検出面からの深さは約9cmで非常に浅い。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルトである。床面からは1個のピットを確認したが, 上面の遺構の可能性がある。床面からの深さは約40cmを測る。出土遺物では弥生土器甕・鉢・高杯, ミニチュア土器と移動式カマドの一部が図示できた。

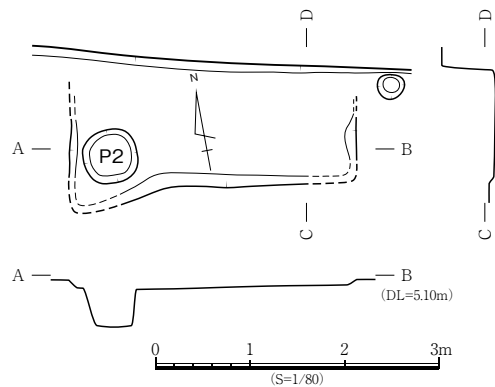


図3-7 ST36

埋土出土遺物(図3-8 897~902)

897は甕であり口縁部は外反し, 体部上部と口縁部に最大径をもつ。外面は頸部までタタキ目が施され, 口縁部外面と内面にはナデ調整と体部内面は強いナデ調整を施す。898は鉢で外面はハケ調整後ナデ調整, 内面にもナデ調整を施す。899は高杯の脚部である。穿孔を施し, 外面はハケ調整とミガキ調整, 内面はナデ調整と一部ヘラミガキによる調整がみられる。900はミニチュア土器で手づくね成形でつくられている。内面外面ともに指頭圧痕とナデ調整を施す。901は内面と外面にハケ調整,

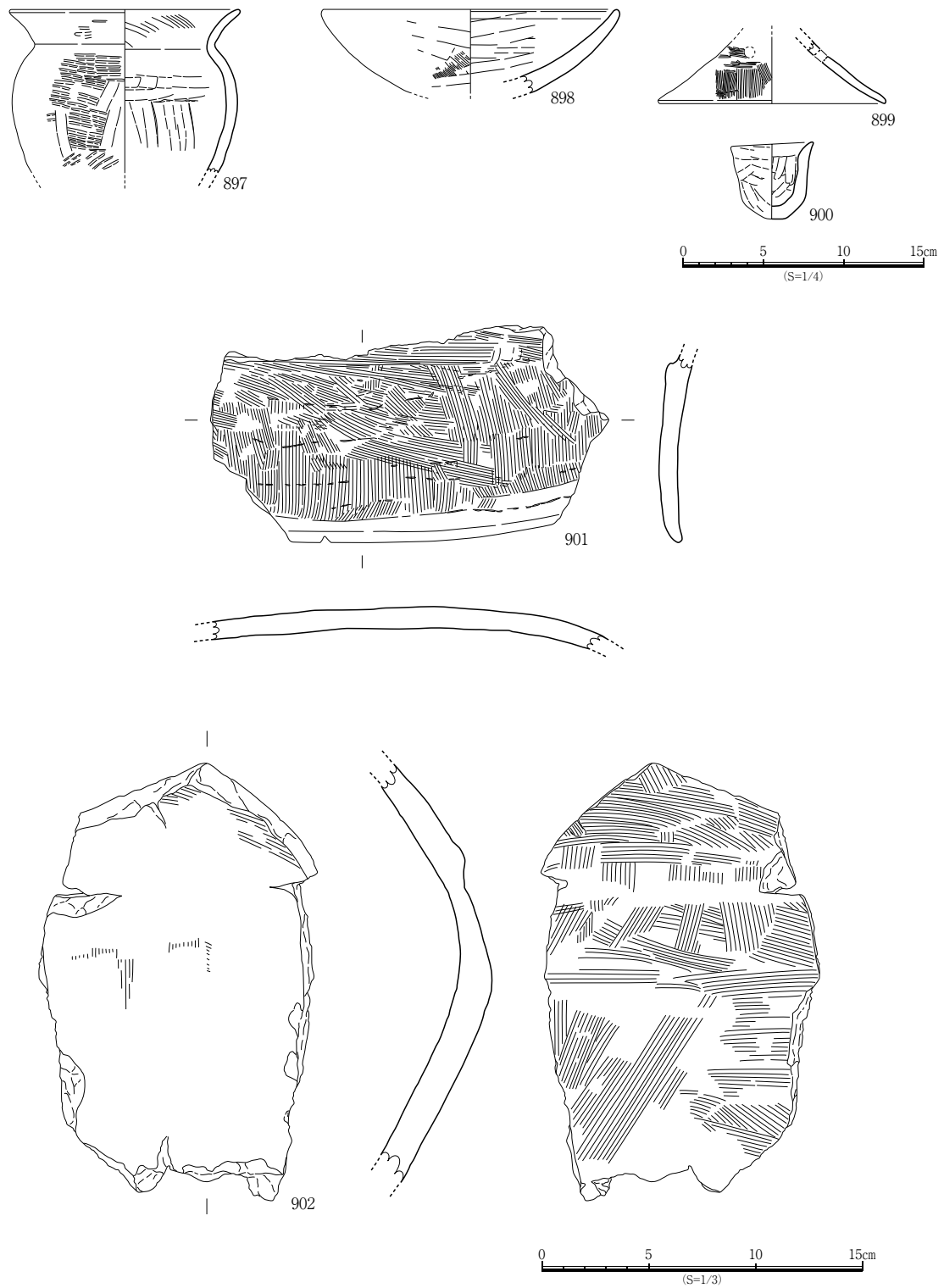


図3-8 ST36出土遺物実測図

周縁部にはナデ調整を施す。移動式カマドの一部と考えられる。902は外面にハケ調整とナデ調整、内面はナデ調整を施す。901・902は混入と考えられる。

ST37(図3-7)

調査区の北西部に位置する。北側は調査区北壁に接するため遺構の南側のみの検出であった。遺

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

構の中央部は調査区を南北に走るSD5によって切られる。確認長は南北2.65m, 東西約4.9mで平面形からは隅丸方形を呈していたと推定される。遺構の西側と南側にかけてL字状にベッド状遺構が確認され, 壁溝が巡っていた。検出面からの深さはベッド状遺構までは約33cm, 低床面までは約52cmを測る。埋土は1層: 黒褐色(7.5YR3/2)シルトで土器片及び小礫を含む。2層: 黒色(7.5YR2/1)シルトで土器片を含む。ベッド状遺構は黒褐色シルトに黄褐色シルト及び地山礫が混じる。ベッド状遺構上面からピットを2個(P5・6), 低床面からはピットを3個(P1~3)と中央ピットが検出された。P2は深さ16cmを測り, 埋土は黒褐色シルトである。中央ピットは調査区北壁側に位置しており, 深さは約20cmを測り, 埋土は黒褐色シルトである。周辺部からは粘土を検出した。出土遺物では弥生土器壺・甕・鉢・高杯, ミニチュア土器, 支脚, 石製品, 金属製品が図示できた。

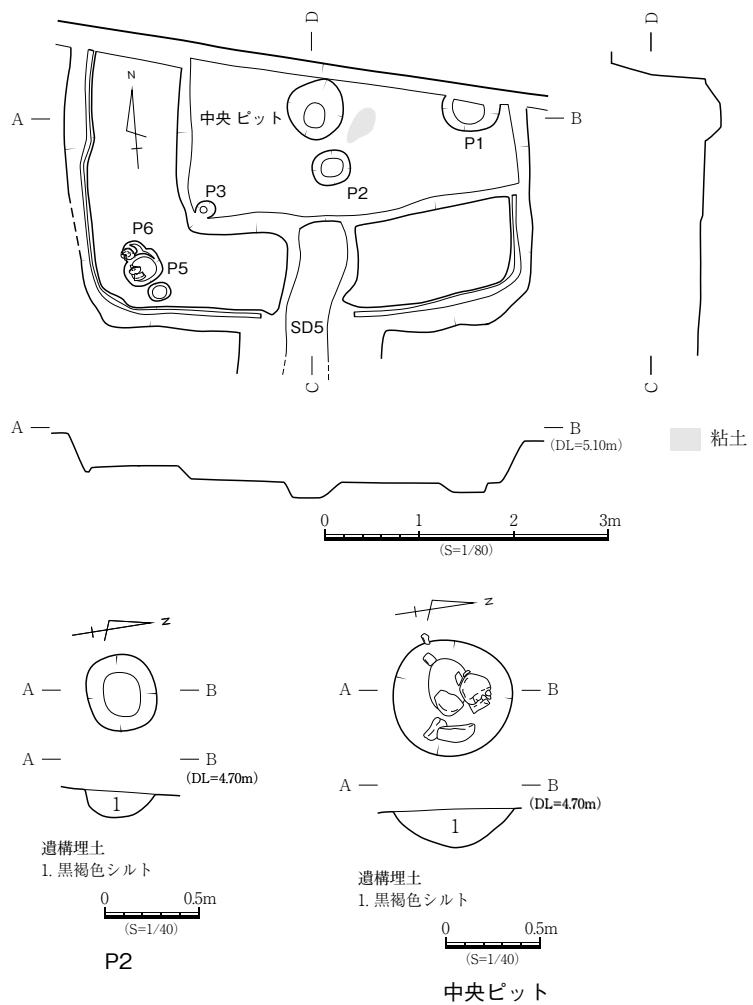


図3-9 ST37

埋土出土遺物(図3-10・11 903~927)

903~907は壺である。903は直立気味の頸部から口縁部は緩やかに外反する。904は二重口縁壺で, 二次口縁が外方にのびる。外面内面ともにナデ調整である。905は口唇部を拡張させる。906は口縁部が直立気味にのび端部はやや外反する。外面は縦方向のミガキ調整, 内面はナデ調整を施す。907は壺の底部と考えられる。外面はタタキ後ハケ調整を施す。908~914は甕である。908は口縁部が「く」の字状で, 外面は口縁部までタタキ目が認められる。内面は口縁部から体部下半部までハケ調整後ナデ調整を施す。外面は煤が付着する。909は口縁部が「く」の字状を呈し, 口縁部に最大径をもつ。外面は口縁部までタタキ後ナデ調整を施す。内面は口縁部からナデ調整を施し, 体部下半部までハケ調整, 底部はナデ調整を施す。910は口縁部が「く」の字状を呈し, 体部中央部に最大径をもつ。外面は口縁部までタタキ後, 体部下半部はハケ調整を施す。内面は体部下半部までハケ調整, 底部はナデ調整である。911は口縁部が外反し, 体部中央部に最大径をもつ。外面は口縁部までタタキ後, 口縁部はハケ調整を施し, 内面はナデ調整である。体部下半部には煤がみられる。912は甕あるいは壺で, 口縁部は二重口縁状を呈する。外面はナデ調整, 内面は口縁部にナデ調整, 頸部から体部はケズリを施す。913は頸部下に波状文を施す。外面は口縁部から頸部にナデ調整, 体部はハケ調整であ

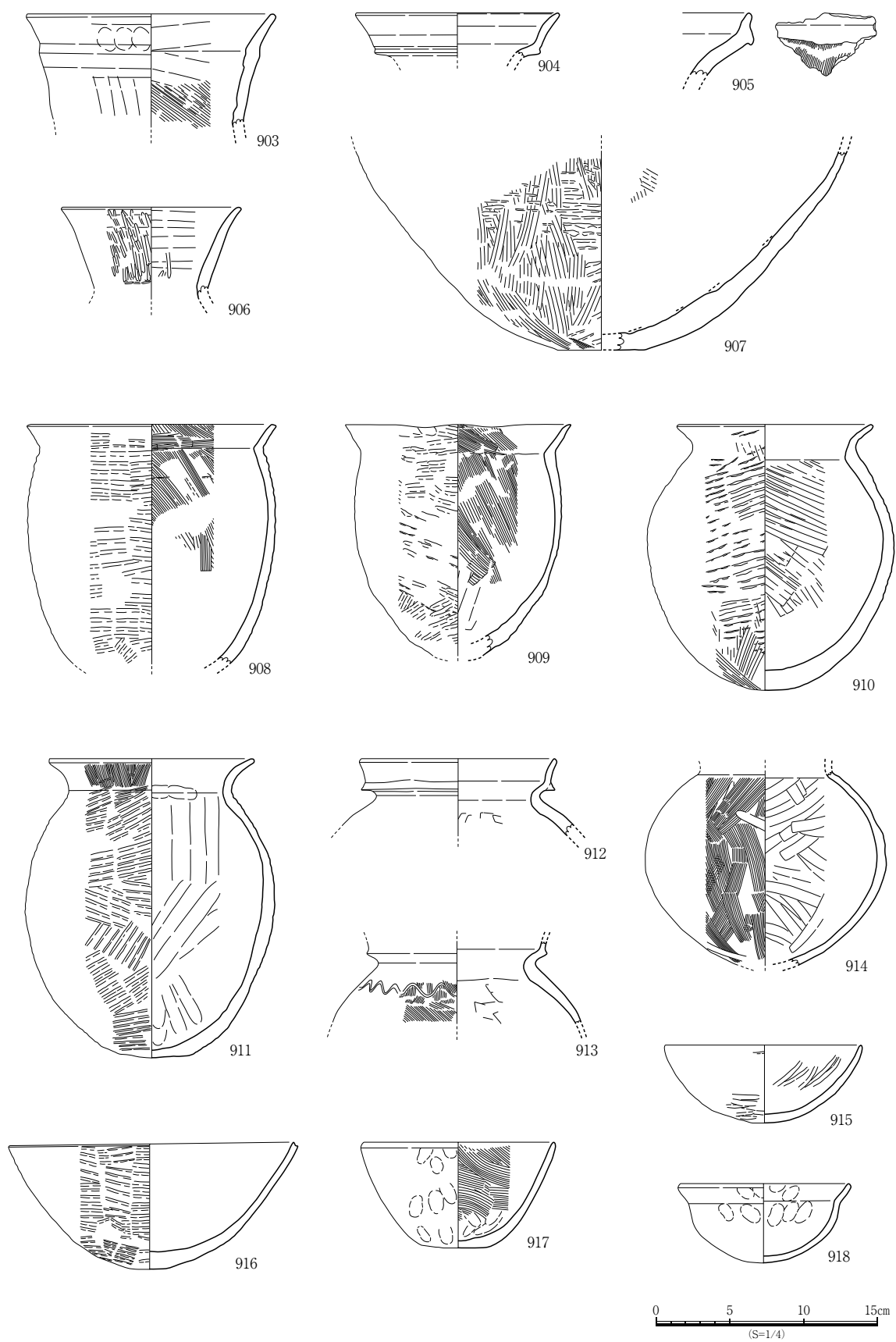


图3-10 ST37出土遗物实测图1

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

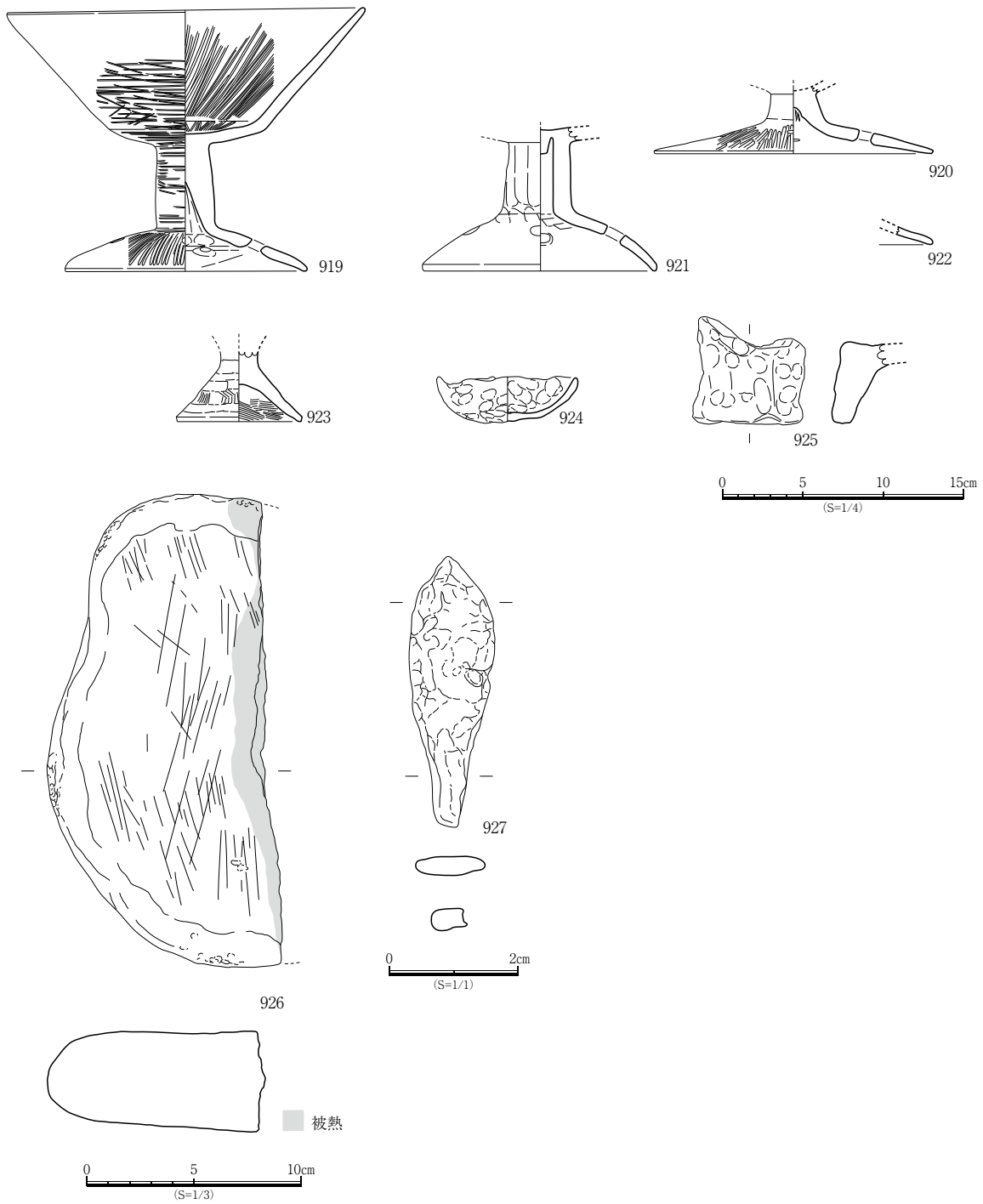


図3-11 ST37出土遺物実測図2

る。内面は口縁部から頸部にナデ調整，体部はケズリによる調整を施している。914は胴部は球形を呈する。外面はハケ調整，内面はケズリ調整とナデ調整を施す。915～918は鉢である。915は外面がナデ調整で，底部は強いナデ調整を施す。内面はナデ調整とミガキ調整である。916は大型の鉢で，底部は丸底を呈する。外面は口縁部までタタキ後ナデ調整，内面はナデ調整を施す。917は底部が平底状を呈し，口縁端部は丸くおさめる。外面は指頭圧痕とナデ調整，内面は口縁部から体部下半部までハケ調整，底部はナデ調整を施す。918は口縁部が外反する。外面はナデ調整，内面もナデ調整を

施す。919～922は高杯である。919の杯部は深く口縁部は外上方にのびてひろく。外面内面ともに丁寧なミガキ調整で、内面は放射状のミガキ調整である。脚部は中空の脚柱部から裾部が広がる。円孔が4カ所に認められる。脚柱部の外面は横方向の丁寧なミガキ調整、裾部は縦方向の丁寧なミガキ調整で、内面はナデ調整を施す。920は脚部で短い柱部から裾部の外面はナデ調整と丁寧なミガキ調整である。円孔が4カ所に認められる。921は脚部で中空の柱部から裾部にかけてやや内湾する。外面は指頭圧痕とナデ調整、内面はナデ調整を施す。円孔が4カ所に認められる。922は脚裾部片である。923・924はミニチュア土器で、923は外面内面ともにハケ調整とナデ調整である。924は手づくね成形で外面内面ともに指頭圧痕が顕著である。925は支脚である。外面は指頭圧痕とナデ調整で内面はナデ調整である。

926は台石であり欠損部は被熱を受ける。

927は有茎式鉄鏃である。

ST38・39(図3-12・13・16)

調査区西部に位置する2軒の竪穴建物跡である。調査時には複数の遺構が重複している可能性を考慮していたが、埋土は類似し明確に区分することはできなかったため、1つの遺構として掘削した。ST38の検出長は長軸6.2m、短軸は5.4mを測り、平面形は隅丸方形を呈する。検出面からの床面までの深さは28cmで、埋土は小礫が混じる黒色(10YR2/1)シルトである。ST39の床面においてST38の柱穴等を確認するに至った。ST38ではその規模と配置からP1～3・5が支柱穴と考えられる。竪穴建物跡の北壁側には黄橙色土が粒状に混じる褐灰色シルト質粘土を検出した。南北1.2m、東西約2.0mの範囲に及び、カマドが設置されていたものと考えられる。このカマドと考えられる範囲からは土師器甕(953)が出土している。

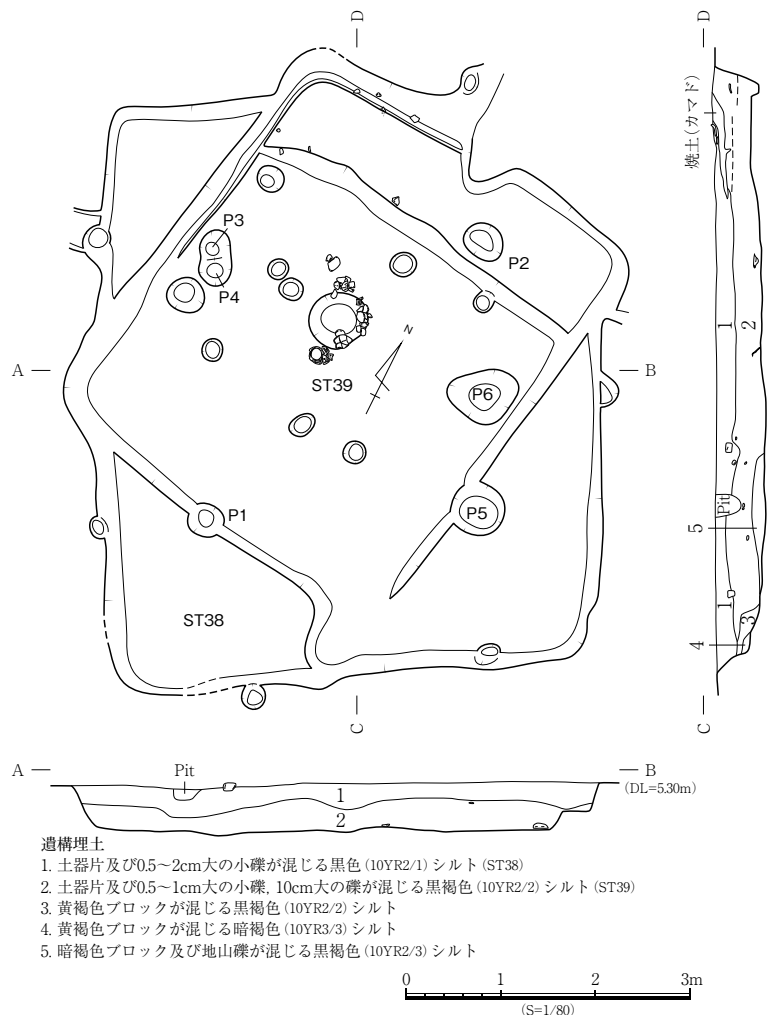


図3-12 ST38・39

ST39の検出長は長軸5.0m、短軸4.2mを測り、平面形は隅丸方形を呈し、竪穴建物跡の北辺側にはベッド状遺構を設ける。検出面からベッド状遺構上面までの深さは16cmであり、検出面から低床部

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

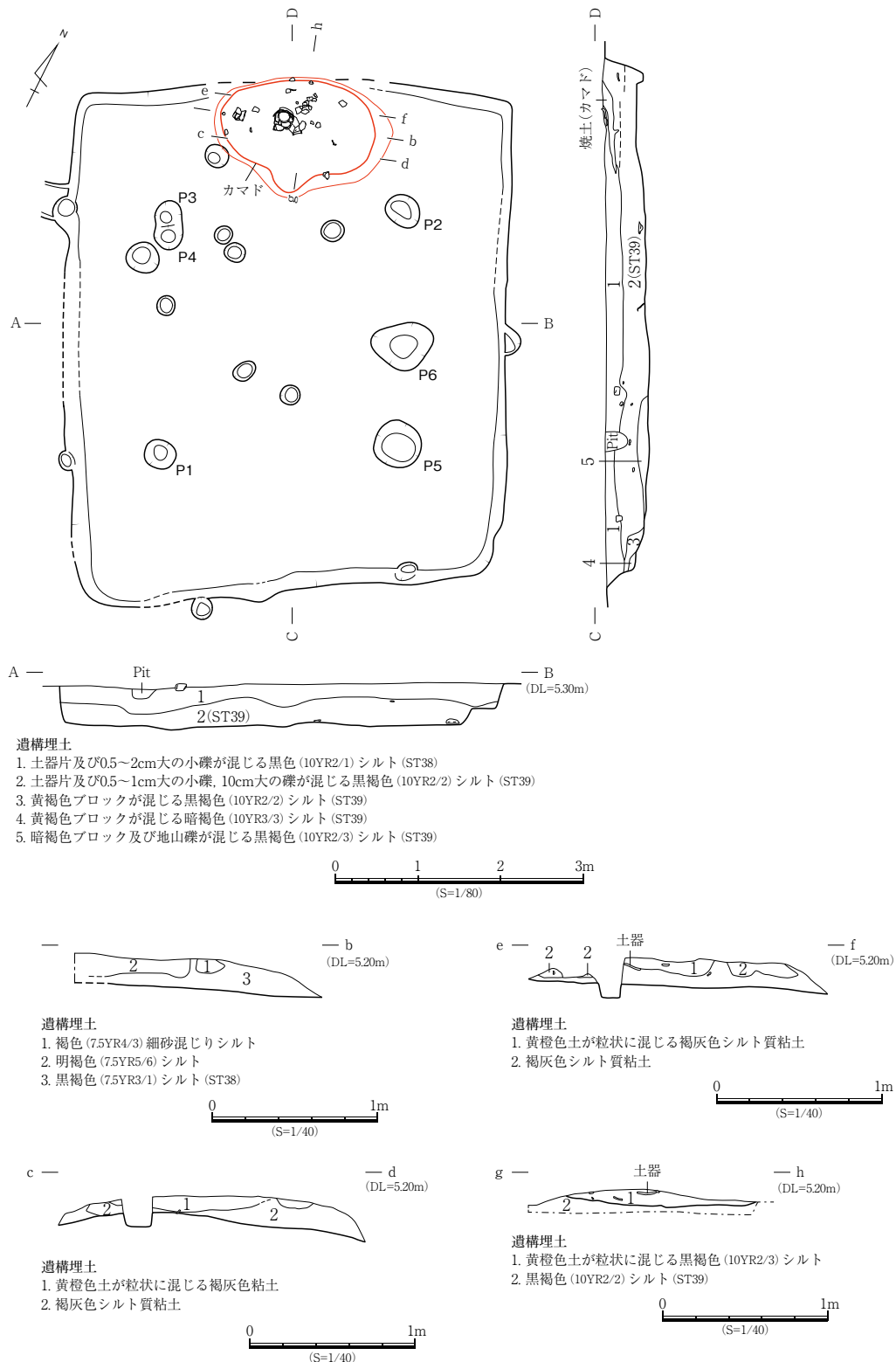


図3-13 ST38・カマド断面図

までの深さは24cmである。埋土は小礫が混じる黒褐色(10YR2/2)シルトである。中央ピットは低床部の中央やや北寄りに位置する。平面形は円形状を呈し、径は0.6m, 低床部面からの深さは8cmである。埋土は黄褐色土がブロック状に混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルトで、中央ピットの周囲からは遺物が

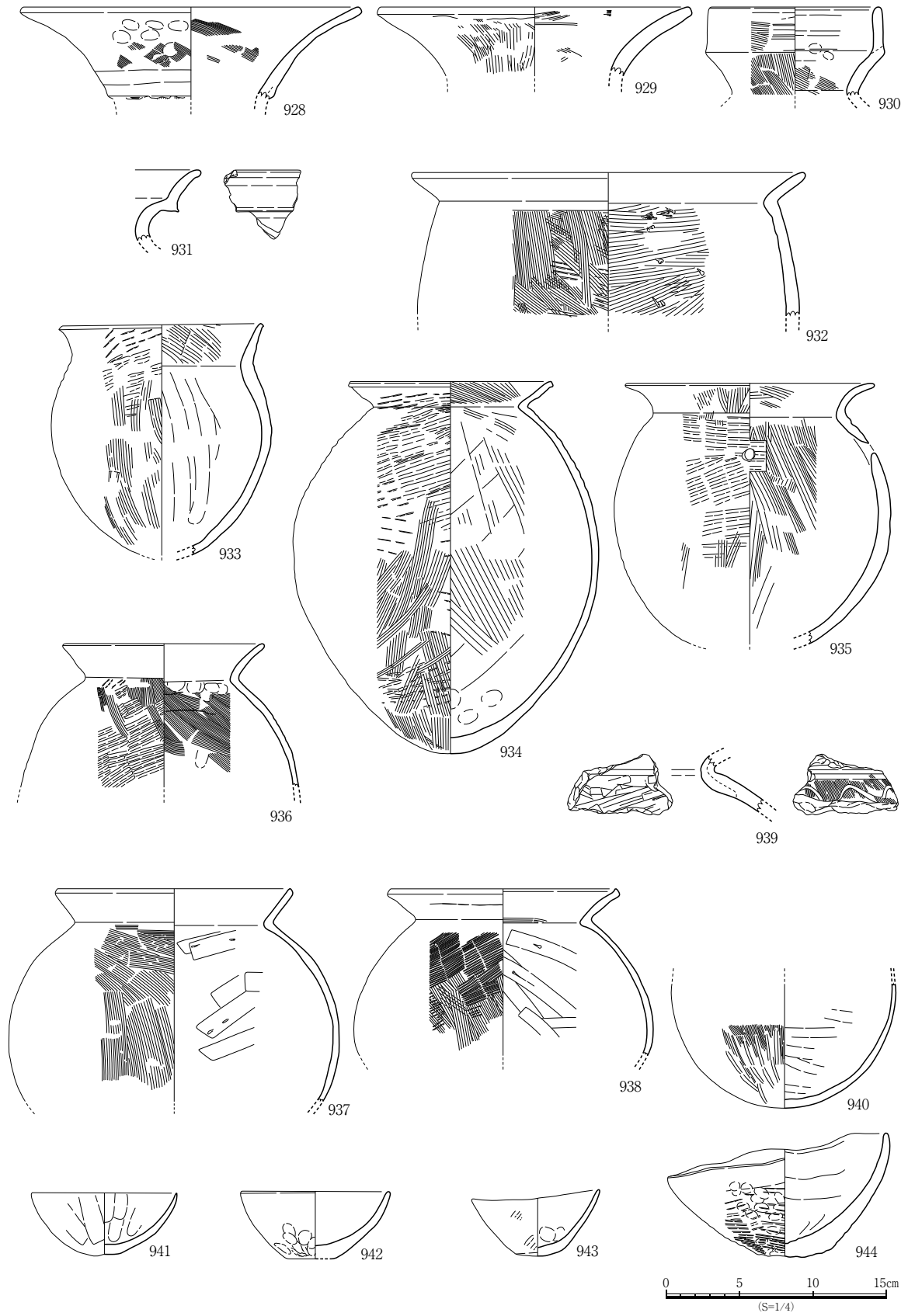


图3-14 ST38·39出土遗物实测图1

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

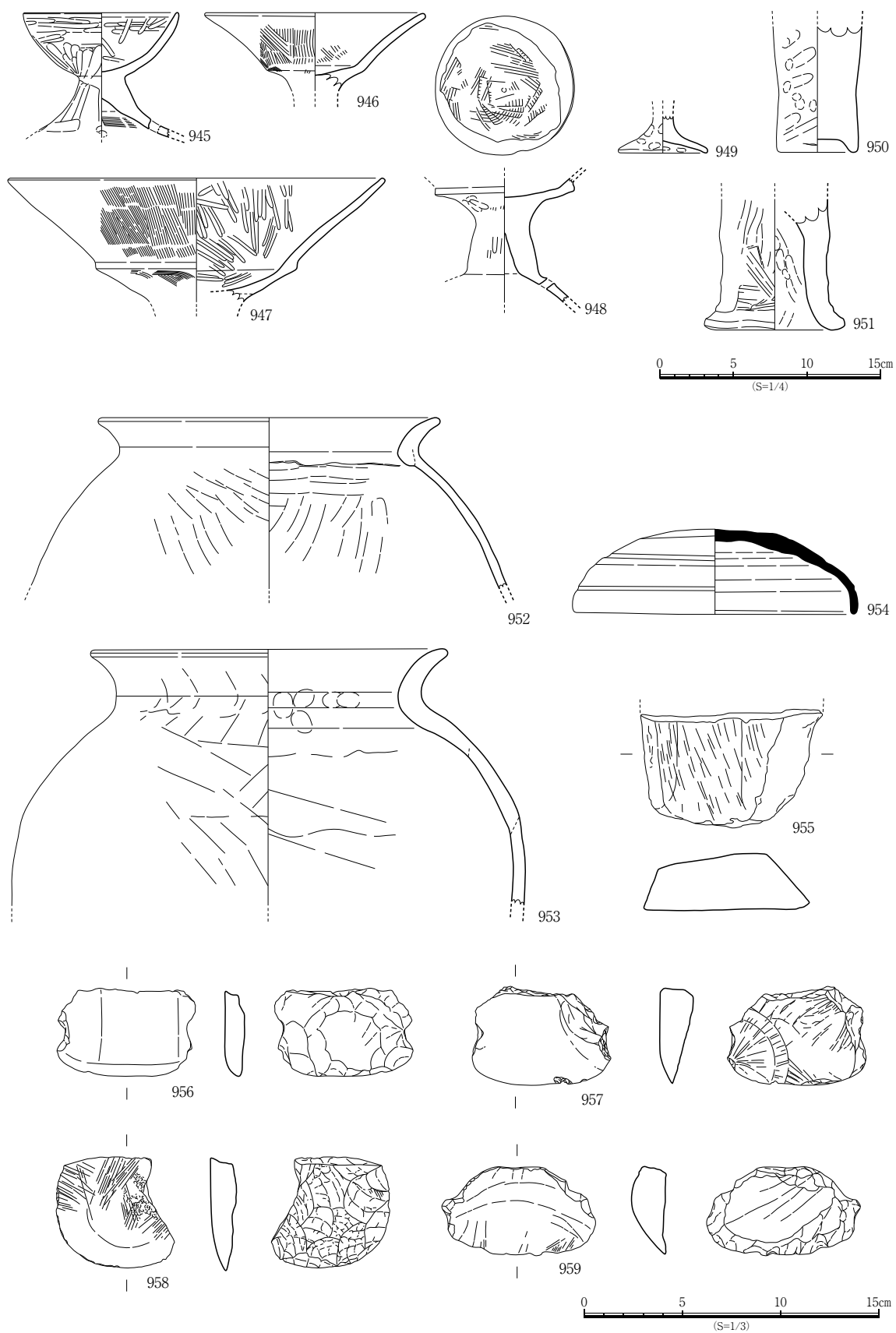


図3-15 ST38・39出土遺物実測図2

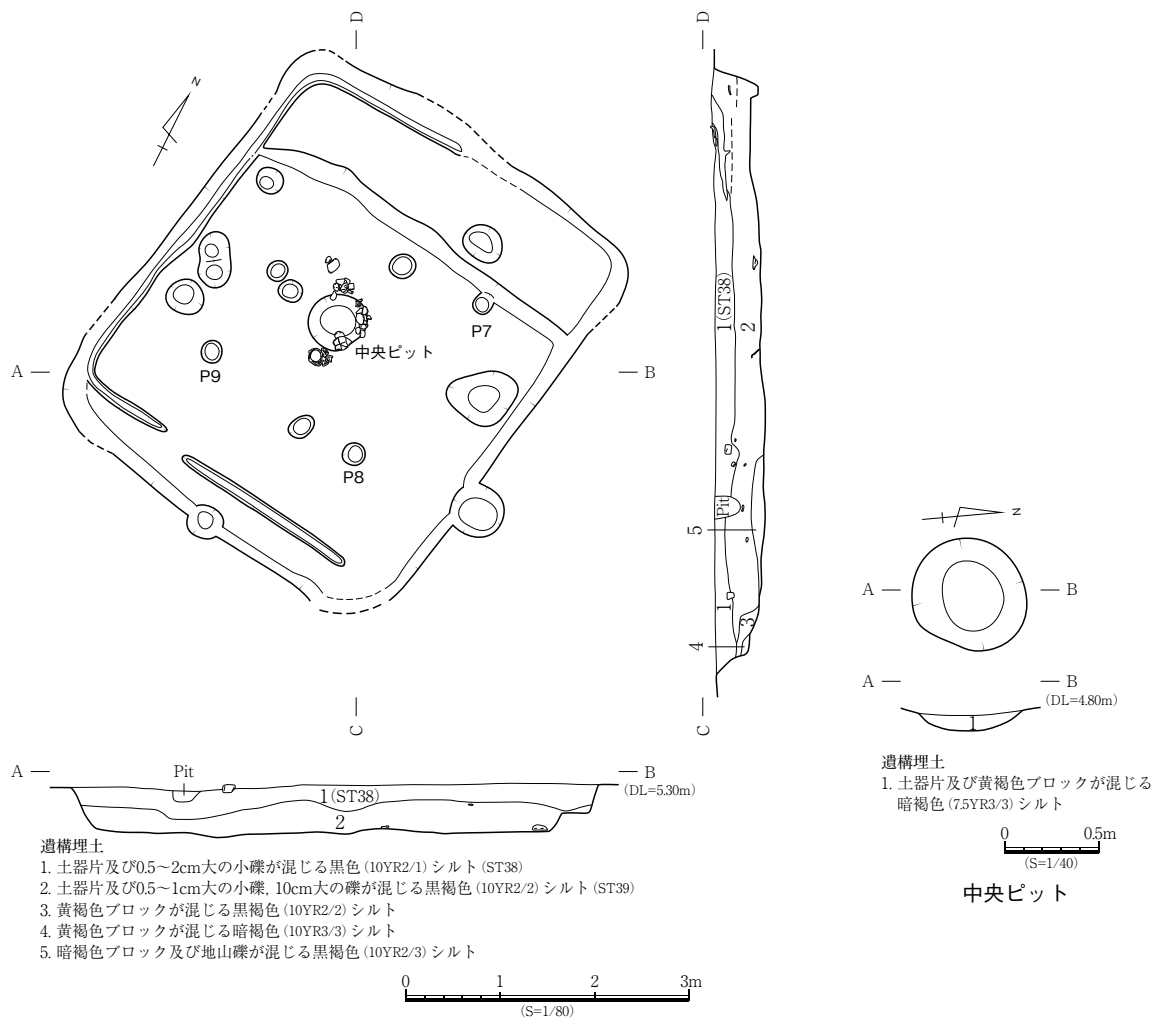


図3-16 ST39

出土している。また低床面からは8個のピットが検出されており、そのうちP7~9はその規模と配置から支柱穴と考えられる。出土遺物では弥生土器壺・甕・鉢・高杯, ミニチュア土器, 支脚, 土師器甕, 須恵器杯蓋, 石製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-14・15・17 928~964)

928~931は壺である。928は口縁部で外方にひらく。外面内面ともにハケ調整とナデ調整を施す。929の口唇部はナデ調整で外面はハケ調整, 内面はハケ調整とナデ調整を施す。930は複合口縁部を有する。二次口縁部はやや直立する。外面はハケ調整とナデ調整で内面の二次口縁部はナデ調整, 二次口縁部下はハケ調整とナデ調整を施す。931は複合口縁を有する。外面は丁寧なナデ調整で, 二次口縁部との接合部は強いナデ調整を施し, 突出している。内面も丁寧なナデ調整を施す。932は甕で口縁部は「く」の字状を呈する。外面は頸部から体部にタタキ後ハケ調整を施し, 口縁部はナデ調整を施す。内面は頸部から体部にかけては強いハケ調整を施す。933は小型の甕で, 口縁部は上方にひらき, 口唇部はナデ調整により平坦面を呈する。外面は頸部までタタキ目が認められ, 口縁部はハケ調整後ナデ調整, 内面は口縁部がハケ調整とナデ調整で頸部から体部下半部までナデ調整を施す。934は口縁部が「く」の字状を呈する甕で, 体部中央部に最大径をもつ。外面は口縁部まで

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

タタキ目が認められ、体部下半部にかけてはハケ調整である。内面は口縁部がハケ調整、頸部から体部下半部にかけてハケ調整とナデ調整を施す。体部外面には煤がつく。935は甕で口縁部は「く」の字状で体部は球形を呈する。外面は口縁部まで

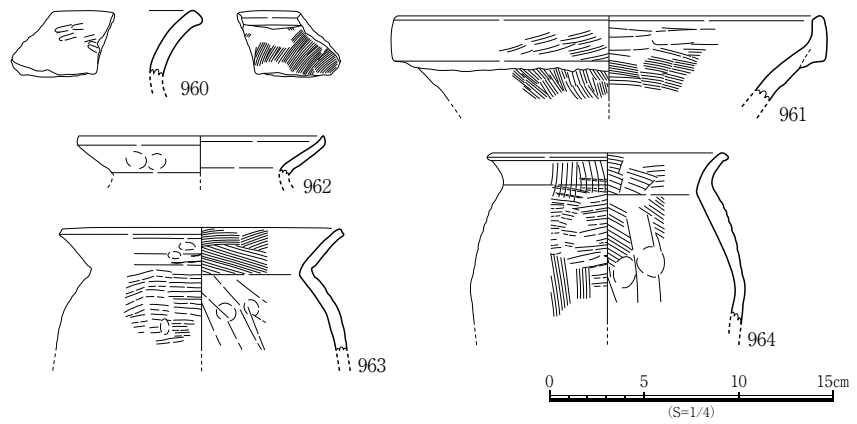


図3-17 ST39出土遺物実測図

体部下半部にハケ調整、内面はハケ調整で体部下半部はナデ調整を施す。体部上半部には焼成後に径0.7cmの円孔が穿たれている。936は甕で口縁部は「く」の字状を呈する。外面は口縁部までタタキ目が認められ、口縁部はナデ調整、頸部から体部はハケ調整である。内面の頸部は指頭圧痕が顕著で、体部にかけてはハケ調整を施す。937は体部が球形を呈する甕である。外面は口縁部がナデ調整で体部はハケ調整を施す。内面は口縁部がナデ調整、体部はケズリ調整、頸部には指頭圧痕がみられる。体部外面には煤がつく。938は庄内式土器甕である。口縁端部を上方に摘み上げる。外面は口縁部から頸部に丁寧なナデ調整、体部はタタキ後ハケ調整、内面はケズリ調整を施す。体部外面には煤が付く。939は甕の頸部から体部の破片である。外面はナデ調整とハケ調整に1条の波状文を施す。内面は頸部がナデ調整で体部にはケズリ調整がみられる。940は丸底を呈し、器壁は薄い。外面

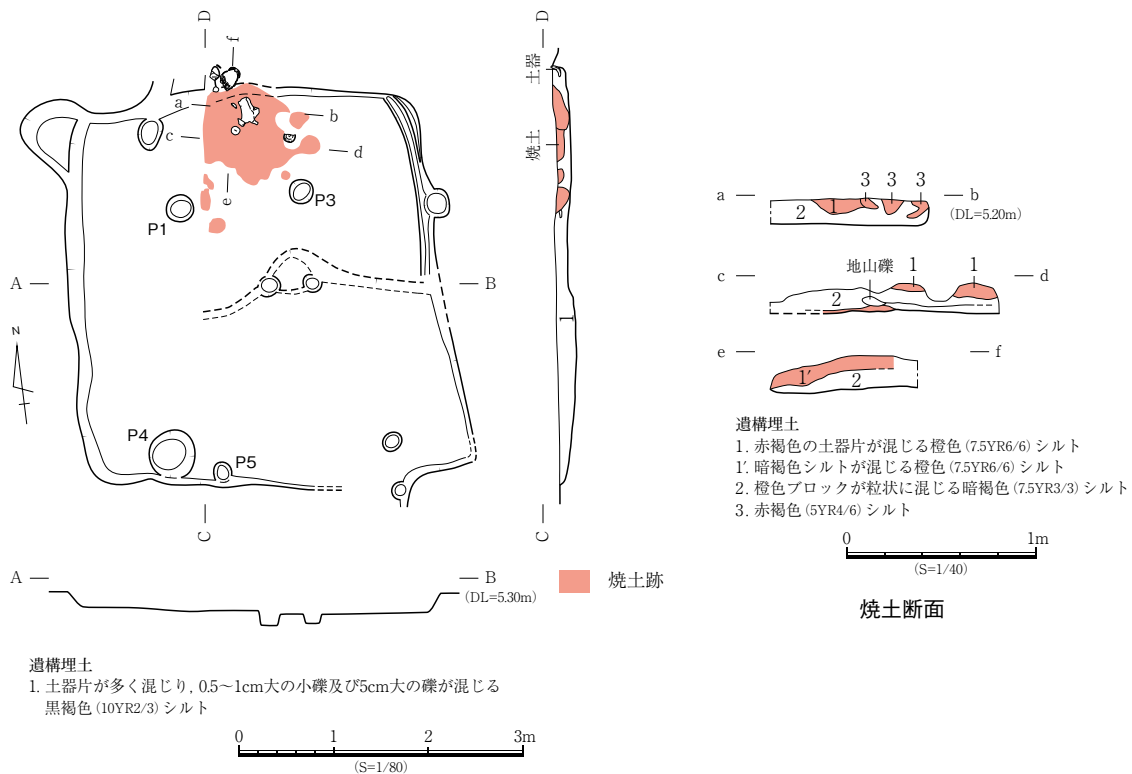


図3-18 ST40

は縦方向のハケ調整とミガキ調整で、内面はナデ調整を施す。941～944は鉢である。941～943は小型の鉢で、941・942は外面と内面にナデ調整、943は外面がナデ調整で内面は指頭圧痕とナデ調整である。944は口縁部にかけてやや内湾する。外面はタタキ目が認められ、口縁部はナデ調整と指頭圧痕を施す。内面はナデ調整である。945～948は高杯である。945の杯部は椀状を呈する。杯部は外面内面ともにミガキ調整で口縁端部はナデ調整である。柱部の外面は縦方向のナデ調整、内面は横方向のハケ調整とナデ調整で4ヵ所に円孔が施される。946は杯部である。外面はハケ調整で口縁端部はナデ調整、内面はハケ調整とナデ調整を施す。947は杯部で口縁部は外方にひらく。外面はハケ調整で稜部は強いナデ調整を施す。内面は口縁端部がナデ調整で底部にかけてはミガキ調整を施す。948は杯部の内面がハケ調整、柱部はハケ調整とナデ調整で一部ミガキ調整がみられる。内面はナデ調整である。裾部には径0.6cmの円孔が2ヵ所に施される。949はミニチュア土器である。外面と内面は指頭圧痕とナデ調整を施す。950は支脚で中実を呈する。外面は指頭圧痕とナデ調整で底面は浅い凹状になる。951は支脚で中空である。外面はタタキ目がみられ、指頭圧痕、ハケ調整、ユビナデによる調整を施す。内面はユビナデである。952と953は土師器甕である。952は口縁部が外反する。外面はナデ調整、内面もナデ調整で頸部下には粘土紐接合痕がみられる。953は口唇部は丸くおさめる。外面と内面はナデ調整で、頸部内面には指頭圧痕がみられる。954は須恵器杯蓋である。口縁部外面は稜をなす。外面の天井部は回転ケズリ調整で口縁部までは回転ナデ調整、内面は回転ナデ調整を施す。

955は砂岩製の砥石で二面に使用痕がみられる。956・957は打製石包丁と考えられる。砂岩製で一面は自然面で片面は剥離面、両側は抉り状を呈する。958・959は砂岩製の打製石包丁あるいは未製品と考えられる。958は一面は自然面、片面は剥離面を呈し、一部に敲打痕がみられる。

960～964はST39の床面近くより出土した遺物である。960は壺の口縁部と考えられる。口唇部は平坦面を呈し、外面はハケ調整で内面はナデ調整に一部ミガキ調整がみられる。961は壺の口縁部で複合口縁を有し、二次口縁端部は直立する。外面はハケ調整後ナデ調整、二次口縁部との接合部はナデ調整を施す。内面は二次口縁部はナデ調整、一次口縁部はハケ調整である。962は甕の口縁部で外面は指頭圧痕がみられ、内面は摩耗する。963は甕で口縁部は「く」の字状を呈する。外面は口縁部までタタキ目とナデ調整が認められ、内面は口縁部がハケ調整、頸部から体部はナデ調整である。964は甕である。外面はタタキ調整とハケ調整で、内面は口縁部にハケ調整、頸部から体部はハケ調整とナデ調整である。

ST40(図3-18)

調査区南西部に位置する。検出長は長軸4.24m、短軸は3.92mを測る。平面形は方形状を呈する。遺構の中央部は調査区をL字状に走るSD7とSD11によって切られる。また竪穴建物跡の北西部ではSX9を切る。検出面から床面までの深さは北部が14cm、南部は22cmを測る。埋土は土器片及び小礫が混じる黒褐色(10YR2/3)シルトである。遺構の北壁側にはカマドと思われる焼土を確認した。南北約1m、東西約0.8mの範囲に広がっており、焼土の西側はSD7に切られている。床面からはピットが7個検出されたが、上面からの掘込みを考えられるものも含まれており主柱穴等は判然としない。出土遺物では弥生土器壺・甕・鉢・高杯、支脚、土師器甕、須恵器杯蓋が図示できた。

埋土出土遺物(図3-19 965～973)

965は複合口縁壺と考えられる。外面には波状文がみられる。966は壺で、外面はハケ調整とナデ

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

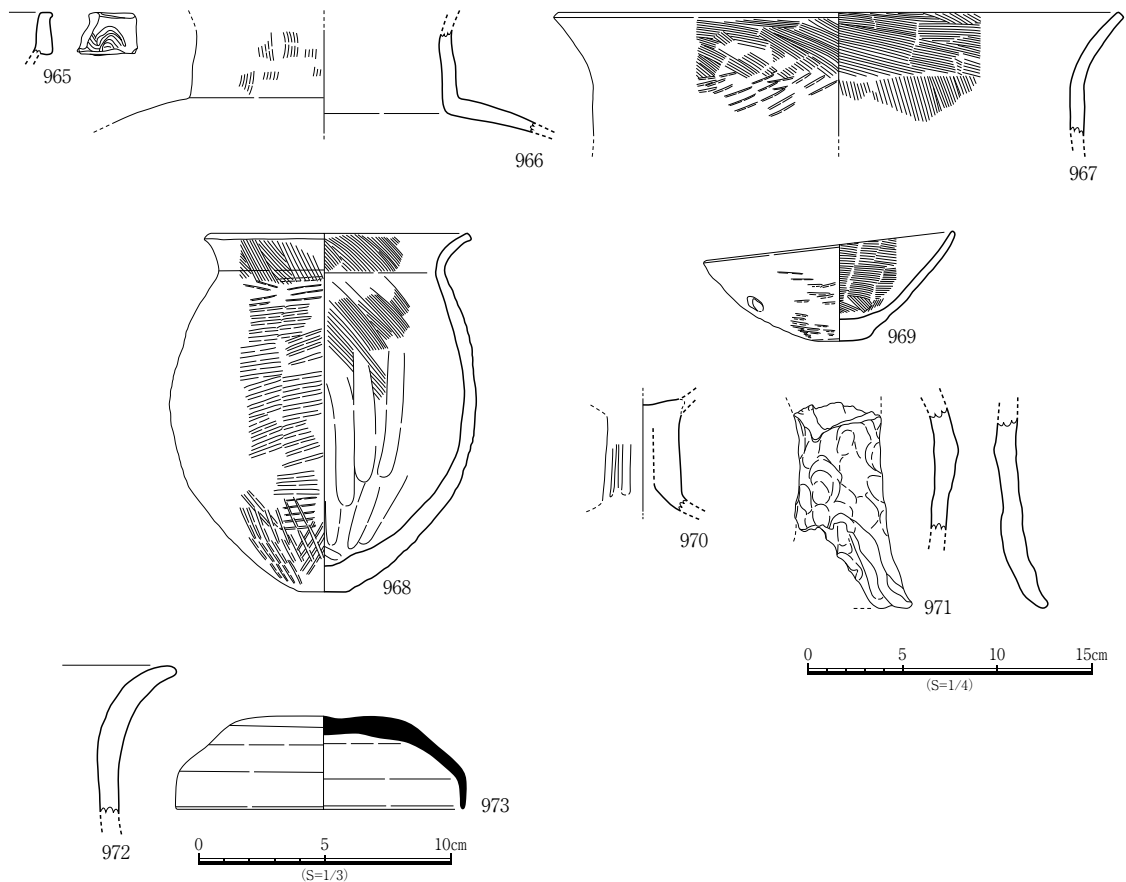


図3-19 ST40出土遺物実測図

調整, 内面はナデ調整である。967 は甕で口縁部は外反する。外面はタタキ後口縁部はハケ調整を施す。内面もハケ調整である。968 は甕で口縁部が「く」の字状を呈する。外面はタタキ後口縁部はハケ調整, 口唇部はナデ調整を施す。内面は口縁部から体部上半部までハケ調整で体部下半部はナデ調整を施す。969 は鉢である。外面は口縁部までタタキ後ナデ調整を施し, 内面はハケ調整を施す。口縁部下には1ヵ所の円孔が認められる。970 は高杯脚部の一部で, 外面はミガキ調整, 内面はナデ調整である。971 は支脚である。中空で外面は指頭圧痕が顕著である。972 は土師器甕の口縁部で外反する。外面はナデ調整を施す。973 は須恵器杯蓋である。天井部は回転ケズリ, 内面は回転ナデ調整である。967～969はSX9の遺物の可能性が考えられる。

ST41 (図3-20)

調査区北西部に位置する。北側は調査区北壁になり, 遺構の西壁側はSD7とSD12によって切られている。南北3.28m, 東西約5.0mを測り, 平面形からは隅丸方形状を呈していたと考えられる。検出面からの深さは約24cmで, 埋土は土器片及び小礫が混じる黒褐色(7.5YR3/1)シルトで, 南壁側には焼土を検出した。遺物は竪穴建物跡の南壁側において出土しており, その内弥生土器鉢, ミニチュア土器, 土師器甕・甌, 須恵器杯身・杯蓋・高杯・甕, 石製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-21 974～984)

974 は鉢で外面はタタキ後口縁端部はナデ調整, 内面はハケ調整後底部にかけてはナデ調整を施す。975 はミニチュア土器の脚部で外面内面ともに指頭圧痕及びナデ調整である。976 は土師器甕で

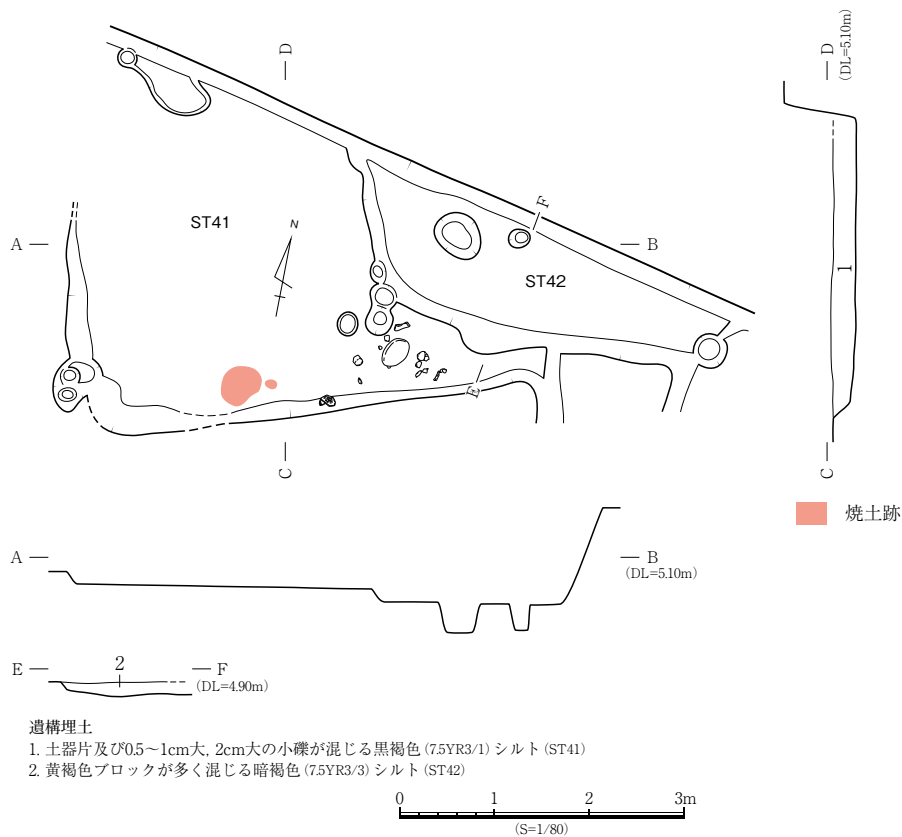


図3-20 ST41・42

口縁部は外反する。外面内面ともにナデ調整である。977は甑の口縁部と考えられる。外面は摩耗するが内面はナデ調整である。978・979は須恵器の杯身である。979は底部回転ケズリ調整, 内面は回転ナデ調整を施す。980は杯蓋である。981は高杯で稜部下に櫛目状の刺突を施す。外面内面ともに回転ナデ調整である。982は甕の体部である。外面は平行のタタキ, 内面には同心円文がみられる。

983は砂岩で, 用途は不明である。984は台石である。砂岩製で中央部に敲打痕が認められる。

ST42(図3-20)

調査区北西部に位置する。北側は調査区北壁にあたり, 検出長は南北1.2m, 東西3.98mを測る。ST41の埋土掘削時に検出したもので, 平面形からは隅丸方形状を呈していたと考えられる。検出面からの深さは約16cmで, 埋土は黄褐色ブロックが多く混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物は弥生土器甕と鉢が図示できた。

埋土出土遺物(図3-22 985・986)

985は甕の頸部で外面はタタキ後ナデ調整, 内面はケズリ調整とナデ調整を施す。986は鉢で底部は平底状を呈する。外面は指頭圧痕とナデ調整, 内面はハケ調整とナデ調整を施す。

ST43(図3-23)

調査区北西部に位置する。北側は調査区北壁にあたり, 検出長は南北4.8m, 東西6.24mを測る。平面形からは円形を呈していたと考えられる。遺構の北西部にはベッド状遺構と考えられる段部が確認された。検出面からの深さは約40cmを測る。埋土は1層: 土器片及び黄褐色土のブロックが混じる

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

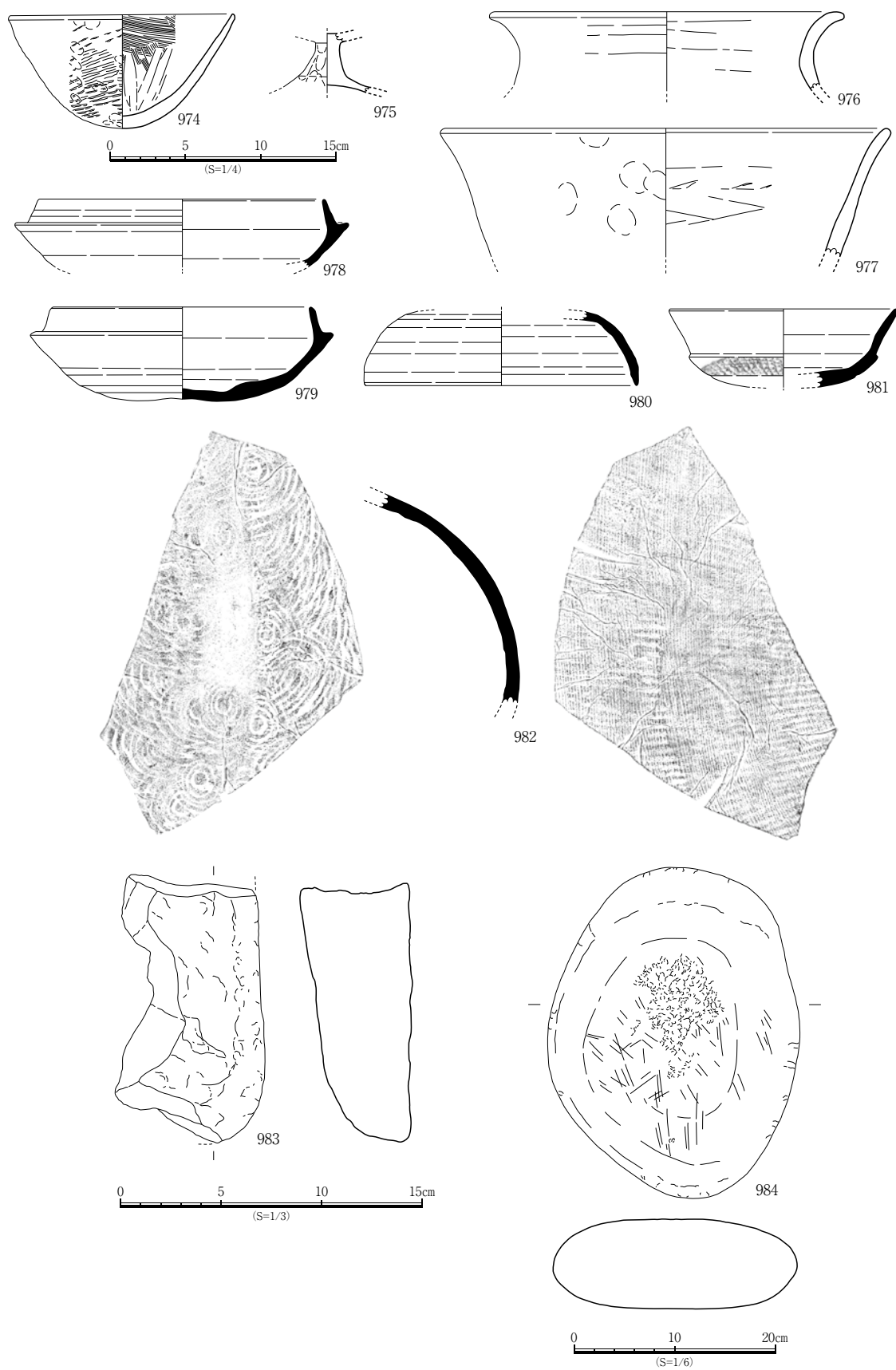


図3-21 ST41出土遺物実測図

黒褐色(7.5YR2/2)シルト, 2層:黄褐色土が粒状に混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルト, 3層:黄褐色土が粒状に混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルト, 4層:黄褐色ブロックが混じる黒褐色(10YR2/2)粘質シルトである。中央ピットは中央部からやや

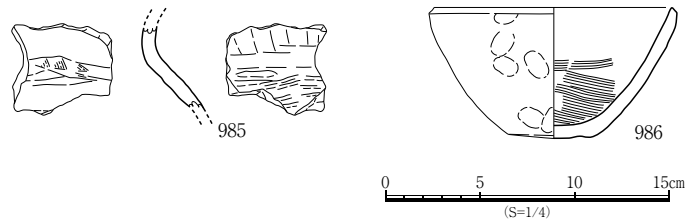
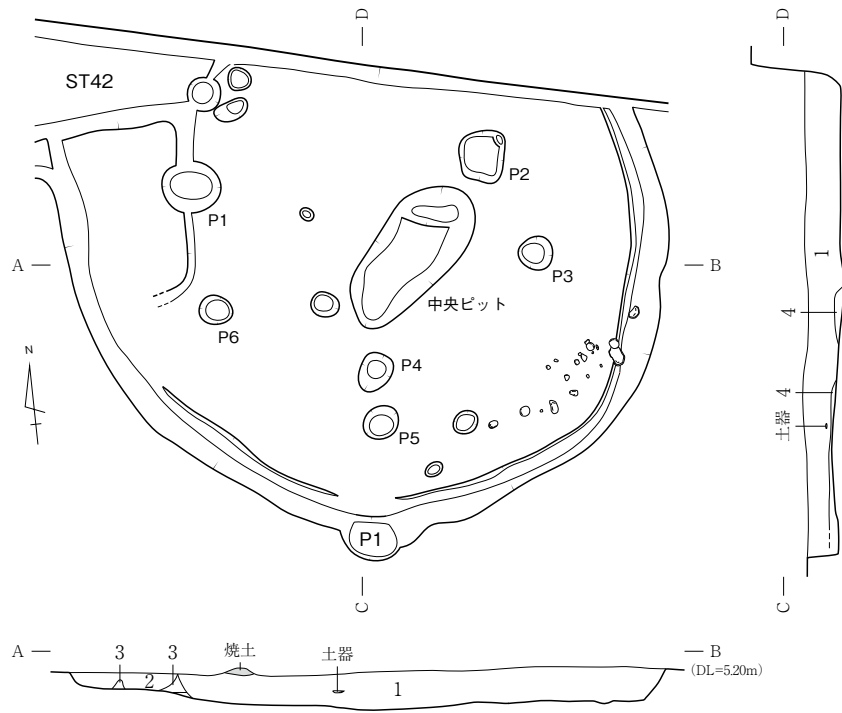


図3-22 ST42出土遺物実測図

南東側に位置しており, 平面形は楕円形状を呈する。規模は長軸約 1.76m, 短軸 0.8m, 検出面からの深さは 12 ~ 16 cm を測る。埋土は竪穴建物跡の埋土と同一である。床面からはピット 8 個が検出され, P3・5・6 はその規模や配置から主柱穴であると考えられる。竪穴建物跡の南側には壁溝が検出されたが浅く, 全周しているかは判然としない。出土遺物は弥生土器壺・甕・鉢・高杯, 土製品, 石製品, 金属製品が図示できた。



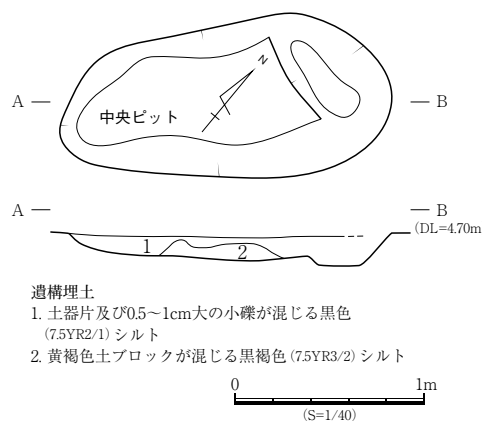
遺構埋土

1. 土器片及び0.5~1cm大の小礫が混じり, 黄褐色ブロックが混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルト
2. 黄褐色土が粒状・ブロック状に混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルト
3. 黄褐色土が粒状に混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルト
4. 黄褐色土ブロックが混じる黒褐色(10YR2/2)粘質シルト

埋土出土遺物

(図3-24・25 987~1007)

987 は壺の底部から体部下半部で底部は平底状を呈する。外面はタタキを施し, 底部はナデ調整である。底部外面には圧痕がみられる。内面はナデ調整である。988 は甕でやや外反する口縁部をもつ。外面はタタキ後口縁端部にはナデ調整, 内面はハケ調整とナデ調整を



遺構埋土

1. 土器片及び0.5~1cm大の小礫が混じる黒色(7.5YR2/1)シルト
2. 黄褐色土ブロックが混じる黒褐色(7.5YR3/2)シルト

図3-23 ST43

989 と 990 は壺である。989 は底部外面までタタキ後ハケ調整を施す。内面はナデ調整である。990 は底部で平底状を呈する。外面はタタキ後ナデ調整, 内面はハケ調整である。991 ~ 995 は鉢であ

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

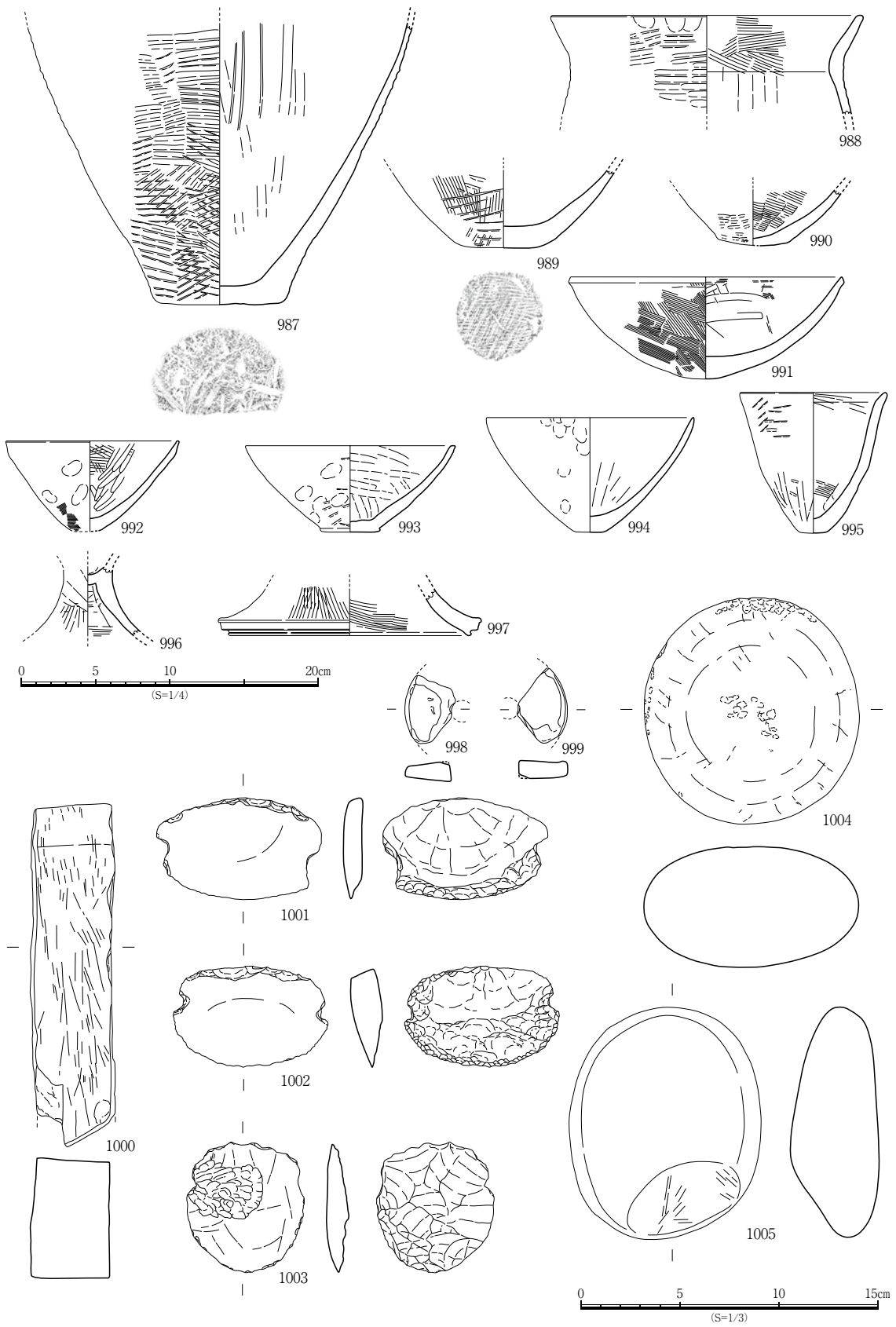


図3-24 ST43出土遺物実測図1

る。991の口縁部はやや内湾してのび、口唇部はナデ調整で外面は細かいハケ調整、内面はハケ調整と一部ミガキ調整を施す。992は外面がハケ調整とナデ調整、内面はハケ調整後ミガキ調整を施す。993は底部が扁平な平底状を呈する。外面はタタキ後ナデ調整、内面もナデ調整である。994は底部径は小さい。外面内面ともにナデ調整である。995は底部から口縁部にかけて斜め上方に直線的にのびる。外面はタタキ後ナデ調整、内面はハケ後ナデ調整を施す。完形である。996と997は高杯の脚部である。996は外面にミガキ調整とナデ調整、内面はハケ調整を施す。997の裾部端部は2条の凹線状を呈する。外面内面ともハケ調整である。

998・999は土製紡錘車である。

1000は砂岩製の砥石で、二面を使用している。1001・1002は打製石包丁である。表面は自然面で両側には抉りをもうけている。1003は打製石包丁あるいは石錘と考えられる。両側は抉り状を呈する。1004は砂岩製の磨石である。中央部と側縁部に敲打痕がみられる。1005は砂岩製の磨石である。

1006は有茎式鉄鎌, 1007は鉈と考えられる。

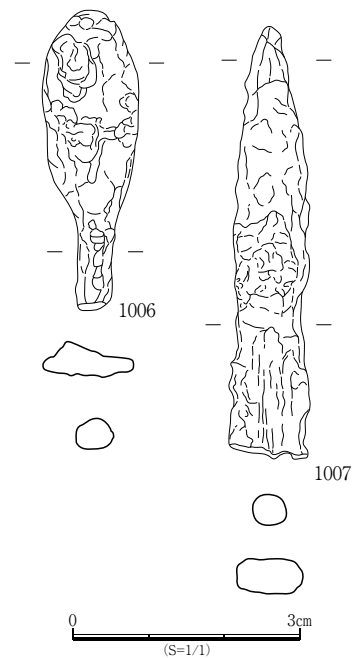


図3-25 ST43出土遺物実測図2

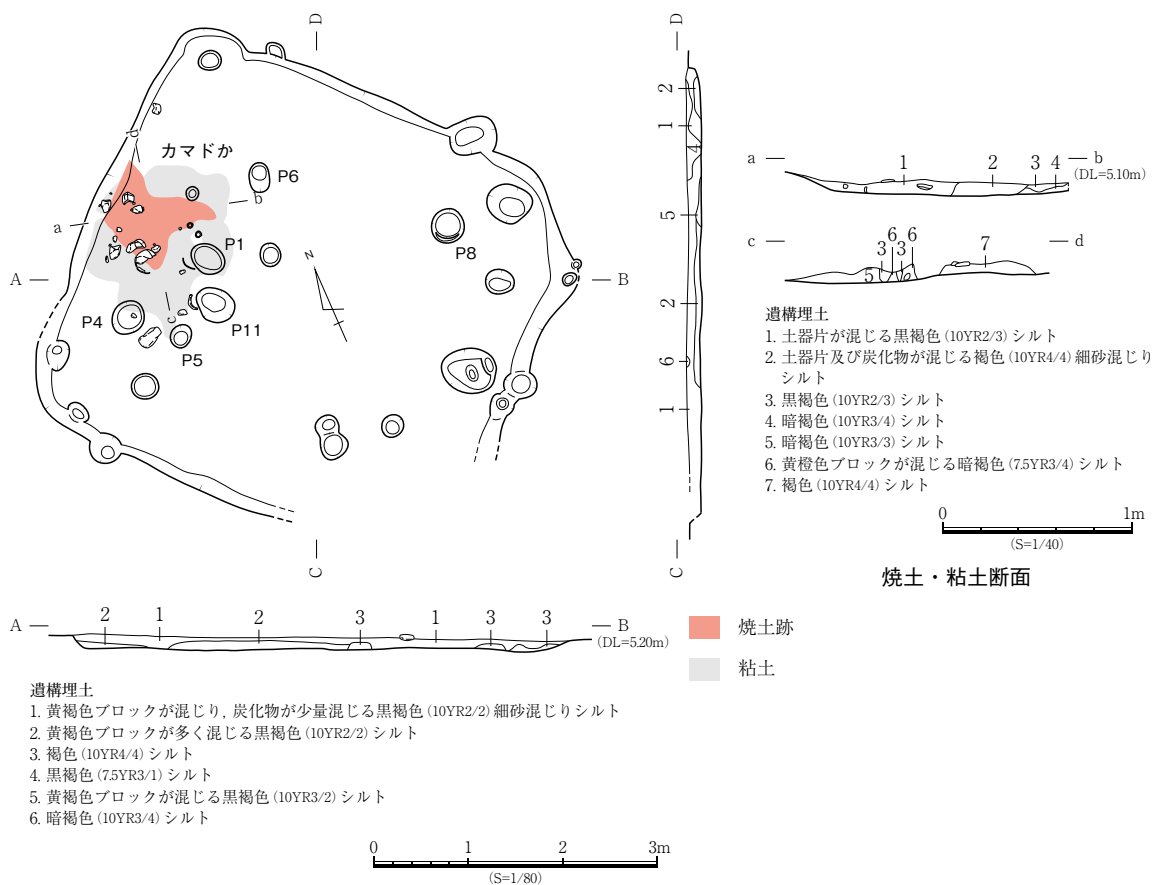


図3-26 ST44・カマド断面図

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

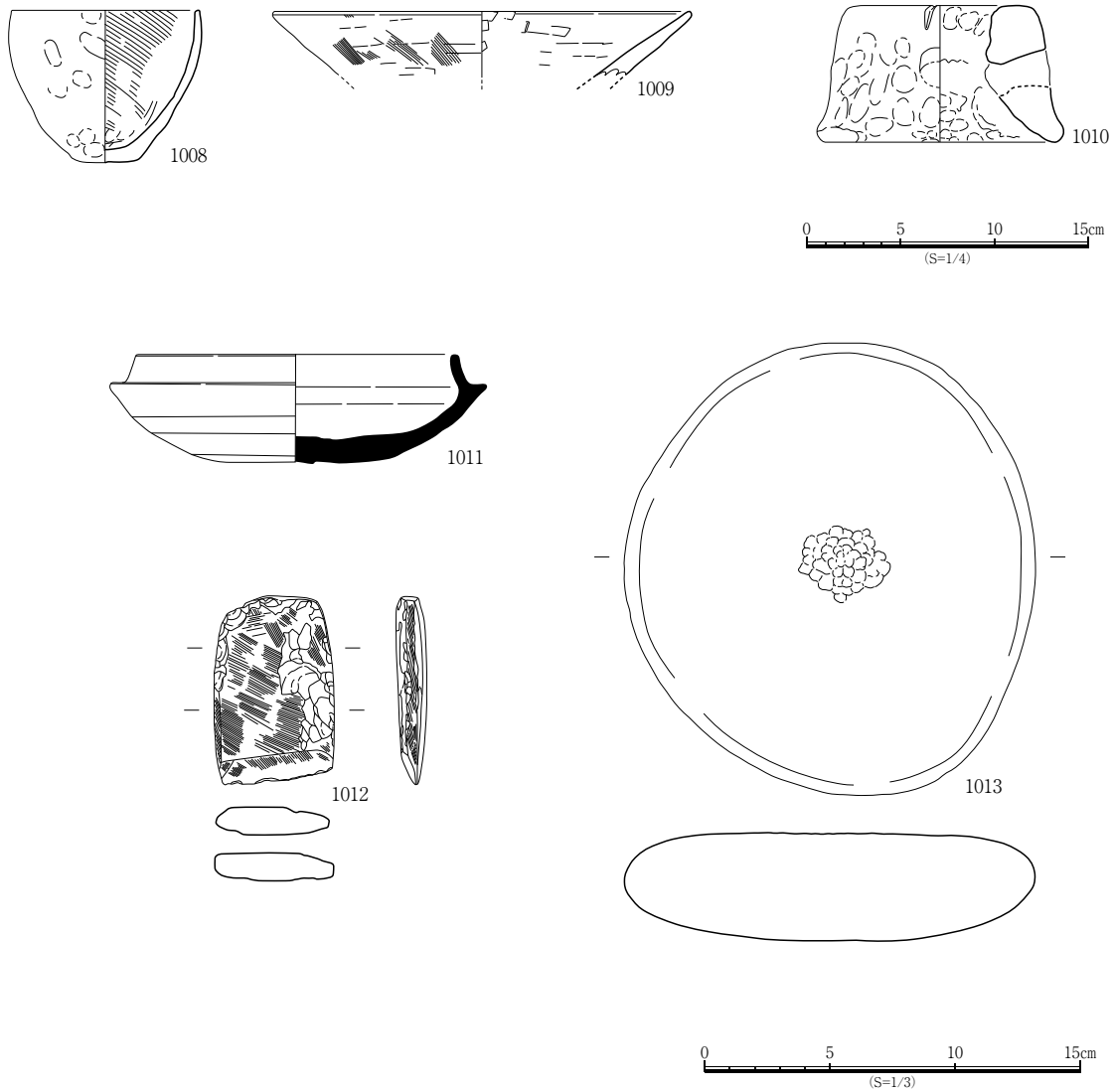


図3-27 ST44出土遺物実測図

ST44(図3-26)

調査区北西部中央に位置する。上面中央部は中世の区画溝跡と考えられるSD12に切られ、遺構の南側は同じく中世の区画溝跡と考えられるSD11によって切られている。検出長は長軸4.88m、短軸4.48mで平面形は隅丸方形状を呈する。検出面からの深さは約16cmを測り、竪穴建物跡の北西壁側には焼土を伴う粘質土を検出した。検出範囲は南北約1.6m、東西1.36mを測り、褐色(10YR4/4)シルトと黄橙色ブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/4)シルトに土器片が含まれていた。カマドの可能性も考えられる。床面からはピットが11個検出されているが、上面遺構も含まれている。その内P5・6・8はその規模や配置から支柱穴の可能性が考えられる。出土遺物は弥生土器鉢・高杯、支脚、須恵器杯身、石製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-27 1008~1013)

1008は鉢で底部は平底状を呈する。口縁部にかけて内湾する。外面は指頭圧痕とナデ調整、内面はハケ調整後底部はナデ調整を施す。1009は高杯の杯部である。1010は支脚である。円柱状を呈し、底

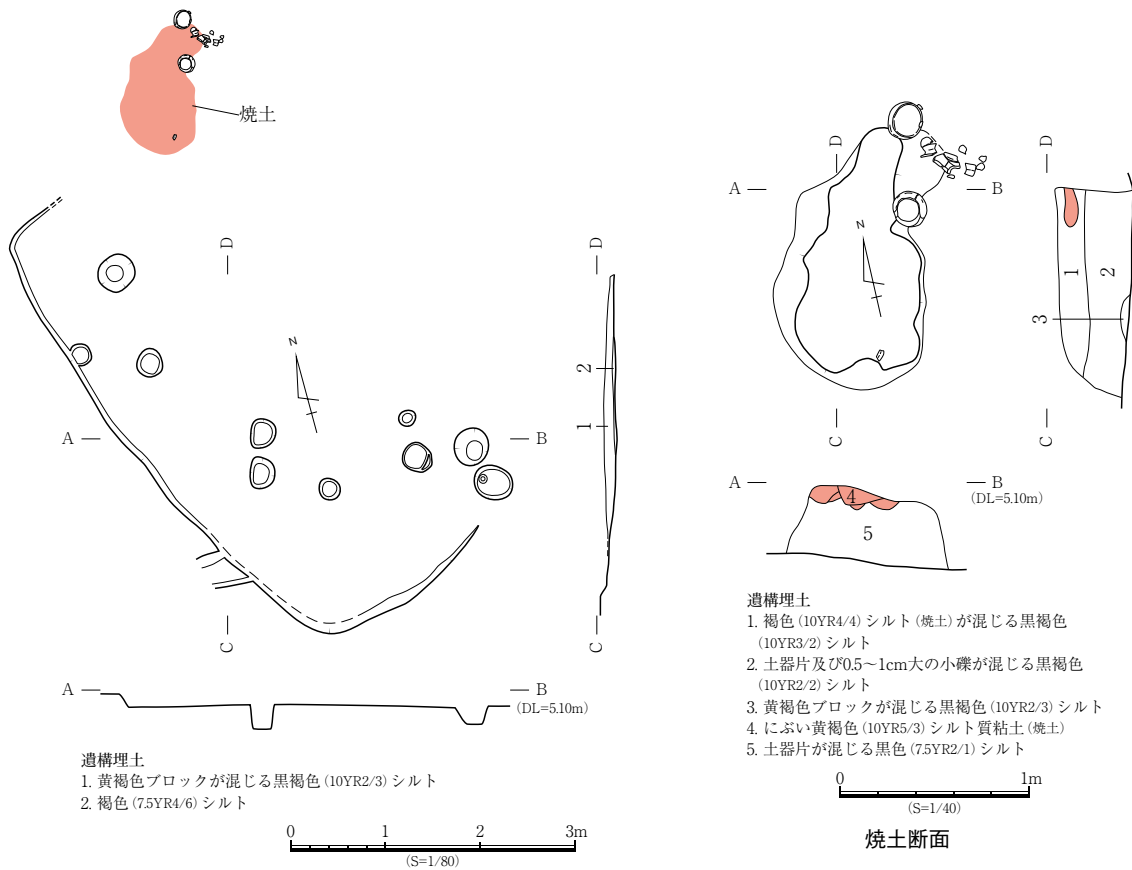


図3-28 ST45

部は外方に広がる。中空で側面には穿孔を施す。外面内面ともに指頭圧痕とナデ調整である。1011は須恵器の杯身で、底部は回転ケズリ調整、内面は回転ナデ調整である。

1012は扁平片刃石斧, 1013は台石と考えられる。1013は砂岩製で中央部に敲打痕がみられる。

ST45(図3-28)

調査区北西部中央に位置する。遺構の上面は中世の区画溝跡と考えられるSD10によって切られる。遺構の北西部はST43と重複し, ST43を切ると考えられる。検出長は南北推定5.3m, 東西は3.5mで、平面形は隅丸形状を呈すると考えられる。検出面からの深さは約12cmを測り、埋土は黄褐色土ブロックが混じる黒褐色(10YR2/3)である。床面からは10個のピットが検出されたが、支柱穴かどうかは判然としない。また、ST43の掘削時に焼土と土器を伴うにぶい黄褐色粘質土が検出されており、位置関係等によりST45に伴ったカマドと考えられる。出土遺物は主にこのにぶい黄褐色土周辺から出土している。図示できたものは土師器甕と須恵器甕である。

埋土出土遺物(図3-29 1014~1018)

1014~1017は土師器甕で1014は口縁部が外反する。外面はナデ調整、内面は口縁部がナデ調整で体部はケズリ調整を施す。1015も同じく口縁部は外反し、胴部に最大径をもつ甕である。外面はナデ調整、内面は口縁部がナデ調整で体部はケズリ調整である。1016も同じく口縁部は外反し、胴部に最大径をもつ。外面内面ともにナデ調整で、頸部内面は指頭圧痕がみられる。1017は口縁部がゆるやかに外反し、体部中央部に最大径をもつ。外面内面ともにナデ調整を施す。ほぼ完形である。1018は須

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

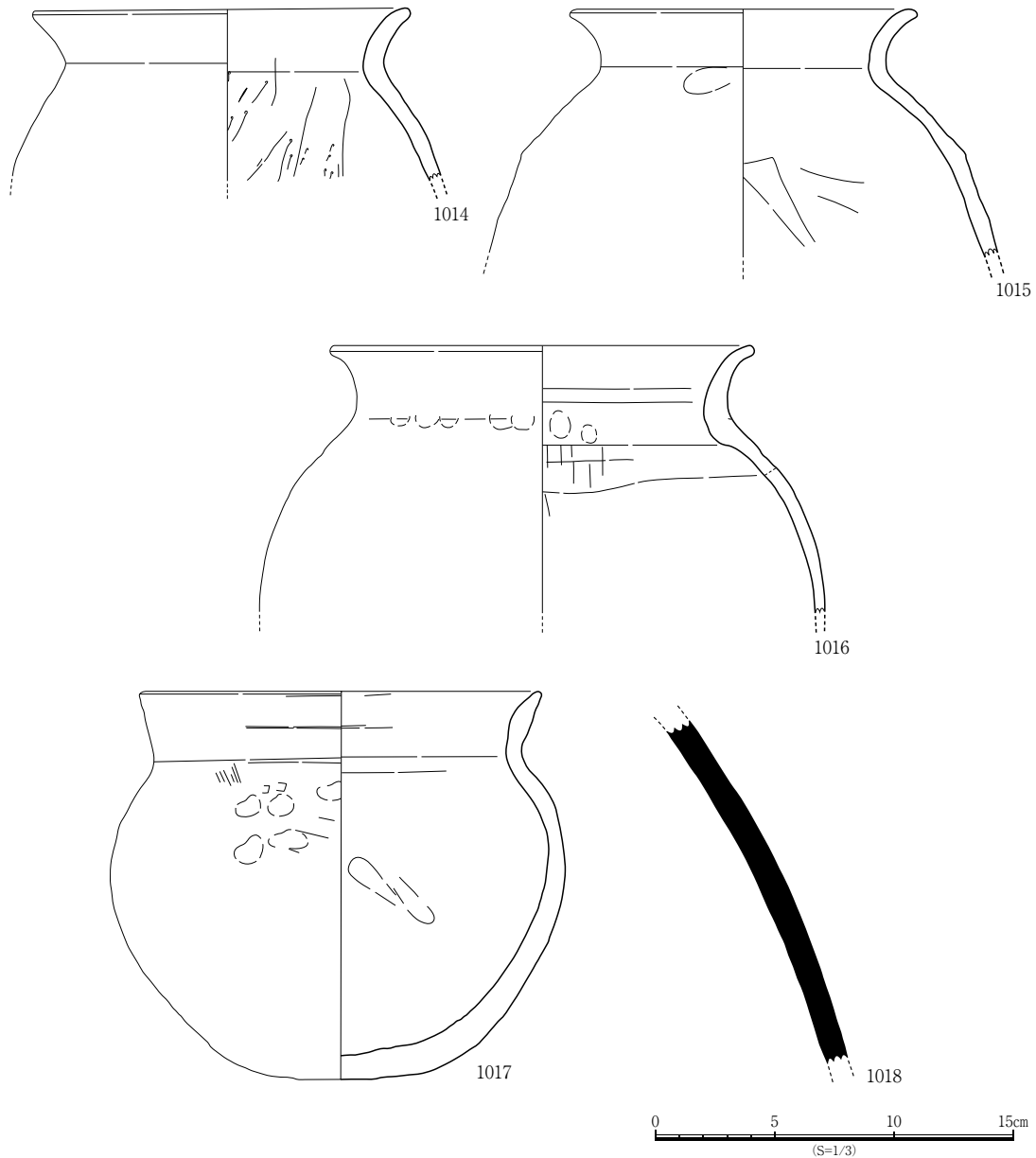


図3-29 ST45出土遺物実測図

恵器甕の体部片である。焼成不良で外面内面ともに摩耗している。

ST46(図3-30)

調査区の北西中央部に位置する。遺構の上面は中世の溝跡SD8と掘立柱建物跡SB4によって切られる。また南部はST47と重複し、ST47を切る。検出長は長軸5.12m、短軸推定4.8mで平面形は隅丸方形を呈する。検出面からの深さは約25cmを測り、埋土は黒褐色(10YR2/3)シルトと炭化物を含む黒褐色(10YR3/2)シルトである。検出面下約16cm地点からは炭化物と土器がまとまって出土した。中央ピットは中央よりやや南側に位置し、規模は長軸1.36m、短軸1.04mで平面形は楕円形状を呈し、検出面からの深さは20cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトと黄色ブロックが粒状に混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルトで、埋土には炭化物を含む。床面からは8個のピットが検出され、その内P1～4はその規模及び配置から支柱穴であると考えられる。また、浅い壁溝が北壁・東壁・南壁で検出さ

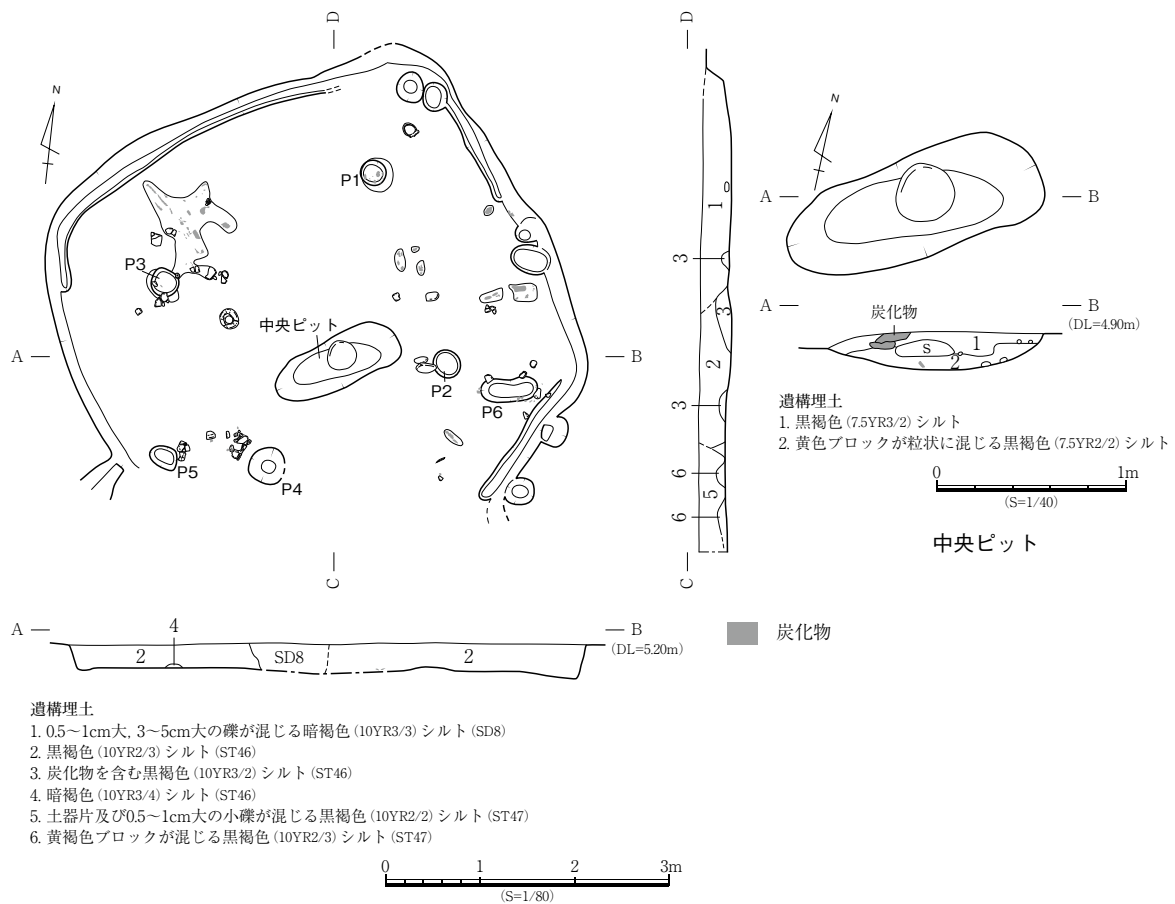


図3-30 ST46

れた。出土遺物では弥生土器壺・鉢, ミニチュア土器, 支脚, 須恵器杯蓋, 石製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-31・32 1019~1037)

1019~1024は壺である。1019は口縁部は外反し大きくひらく。外面は頸部までタタキ目が認められ, 口縁部はハケ調整とナデ調整, 頸部は縦方向のナデ調整が施される。内面は口縁部から頸部はナデ調整である。1020は底部である。平底を呈し, 外面はタタキ目が認められ, 底部近くはミガキ調整とナデ調整を施す。内面はナデ調整である。1021は口縁部である。外反して大きくひらき, 口唇部は平坦面を呈する。外面は頸部までタタキ目が認められ, 口縁部から頸部はナデ調整, 内面は口縁部にナデ調整, 頸部は強いユビナデがみられる。1022は口縁部で, 外方に大きくひらき口唇部は肥厚させる。外面は口唇部にナデ調整, 口唇部より下方はハケ調整, 内面はハケ調整とナデ調整を施す。1023は口縁部で複合口縁を有する。外面は櫛描状の波状文を施し, 内面はハケ調整とナデ調整である。1024は小型の壺と考えられる。底部は平底状を呈し, 外面は口縁部にナデ調整, 体部から底部はミガキ調整を施す。内面は指頭圧痕とナデ調整がみられる。1025~1029は鉢である。1025は口縁部までタタキ目が認められ, 体部はミガキ調整で底部は指頭圧痕とナデ調整を施す。内面はハケ調整とミガキ調整, 底部はナデ調整を施す。1026の底部は平底状で口縁部にかけて外方にひらく。外面はナデ調整, 内面は口縁部から底部近くまでハケ調整, 底部はナデ調整を施す。1027も底部は平底状を呈し, 口縁部は外方にひらき口唇部は平坦面を呈する。外面は丁寧なミガキ調整, 内面も同様にミガキ調整を施す。1028は体部から口縁部である。外面と内面はナデ調整である。1029は底部である。外面と

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

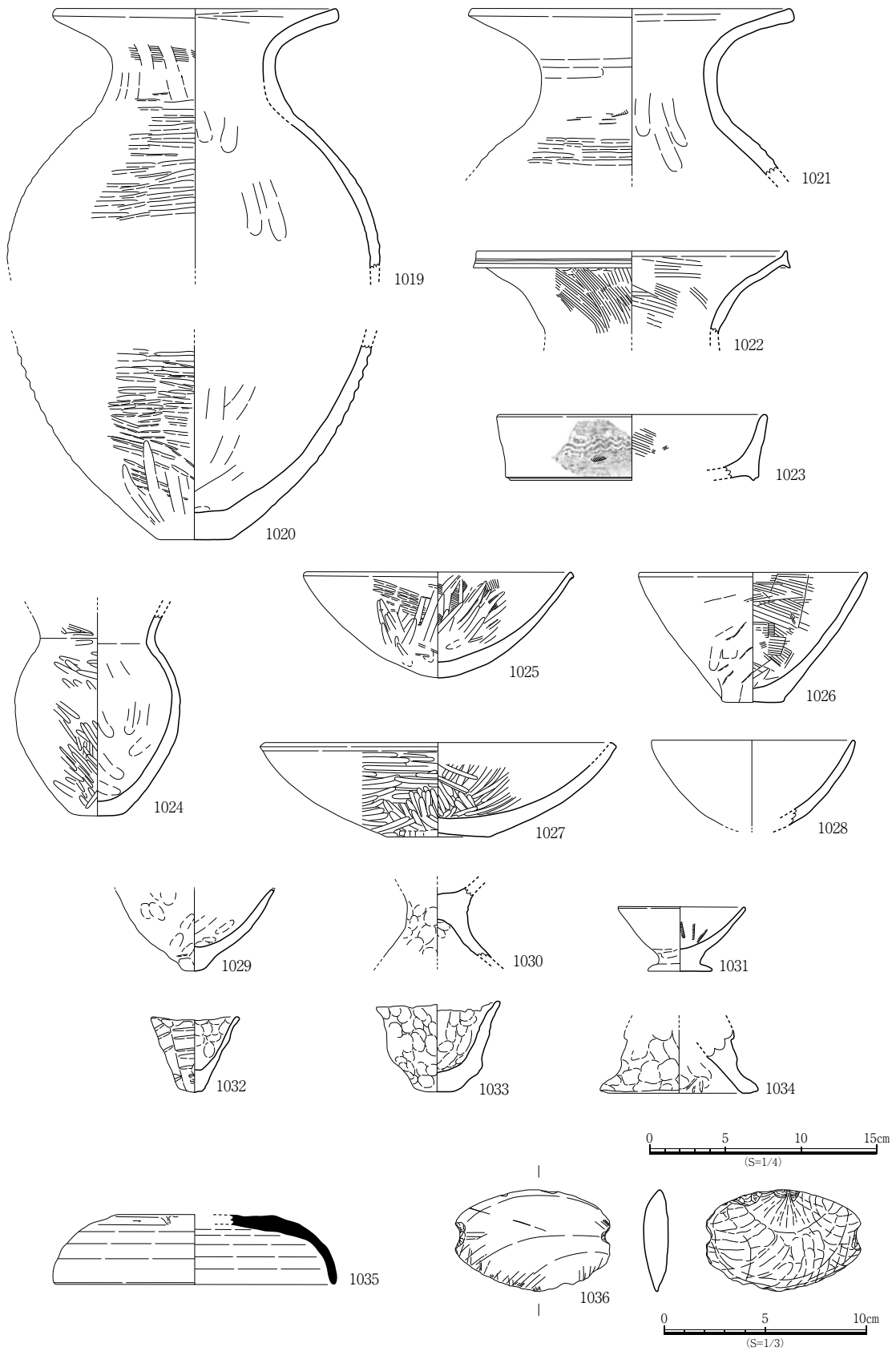


図3-31 ST46出土遺物実測図1

内面は指頭圧痕とナデ調整である。1030は脚付き鉢と考えられる。外面は指頭圧痕が顕著で内面は指頭圧痕とナデ調整である。1031～1033はミニチュア土器である。1031は杯部分の外面はナデ調整、内面はハケ調整とナデ調整で脚部分は指頭圧痕がみられる。1032は外面はタタキ目と指頭圧痕が顕著で、口縁端部は指頭圧痕により外反させる。1033は手づくね成形で口縁部は外側に摘み出す。

1034は支脚である。外面は指頭圧痕が顕著である。

1035は須恵器杯蓋である。竪穴建物跡の上層より出土している。混入と考えられる。外面は天井部は回転ケズリ調整、口縁部にかけて回転ナデ調整である。内面は回転ナデ調整を施す。

1036は砂岩製の打製石包丁である。一面は自然面、片面は剥離面で両側には抉りを施す。1037は砂岩製の台石である。竪穴建物跡の中央ピットより出土している。周縁部に敲打痕がみられる。

ST47(図3-33)

調査区西部中央に位置する。遺構の上面は中世の溝跡SD8、北壁側は重複するST46に切られる。平面形は多角形状を呈する竪穴建物跡である。直径は約7.6mを測る。検出面からの深さは約25cmを測り、埋土は小礫が混じる黒褐色(7.5YR3/2)シルトと黄褐色土と小礫混じりの黒褐色(7.5YR3/2)シルトが主体である。遺構の北東部にはベッド状遺構と考えられる高まりをもつ。中央ピットは竪穴建物跡の中央部より南側に位置し、規模は長軸1.68m、短軸0.7mで平面形は楕円形状を呈し、検出面からの深さは8cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR3/2)シルトである。周辺に焼土が確認された。さらに床面からは20個のピットと壁溝が検出され、その内P1～6はその規模および配置から支柱穴であると考えられる。壁溝は北側部分は検出することができなかったが、全周していたものと考えられる。出土遺物では弥生土器壺・甕・鉢、ミニチュア土器、土製品、土師器、石製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-34・35 1038～1058)

1038・1039は壺である。1038は口縁部で外反し大きくひらく。口唇部は平坦面を呈する。外面は摩耗しているが、内面はハケ調整がみられる。床面からの出土である。1039は口唇部を肥厚させ、外面には櫛描の波状文を施す。口縁部外面はハケ調整とナデ調整、内面はナデ調整及びミガキ調整がみられる。1040～1043は甕である。1040は口縁部は外反し口唇部は丸くおさめる。体部中央部に最大径をもつ。外面はタタキ後口縁部はハケ調整で内面は口縁部がハケ調整、体部はハケ調整後ナデ調整を施す。1041は「く」の字状に外反する口縁部をもつ。外面はナデ調整で内面は口縁部がナデ調整、頸部にはケズリ調整を施す。外面には煤がみられる。1042は口縁部までタタキ後ナデ調整及びケズリ調整を施す。内面は口縁部はナデ調整、頸部から体部にかけて指頭圧痕がみられる。1043は体部から底部である。外面はタタキ後体部下半部はハケ調整、内面はハケ調整で体部下半部から底部にか

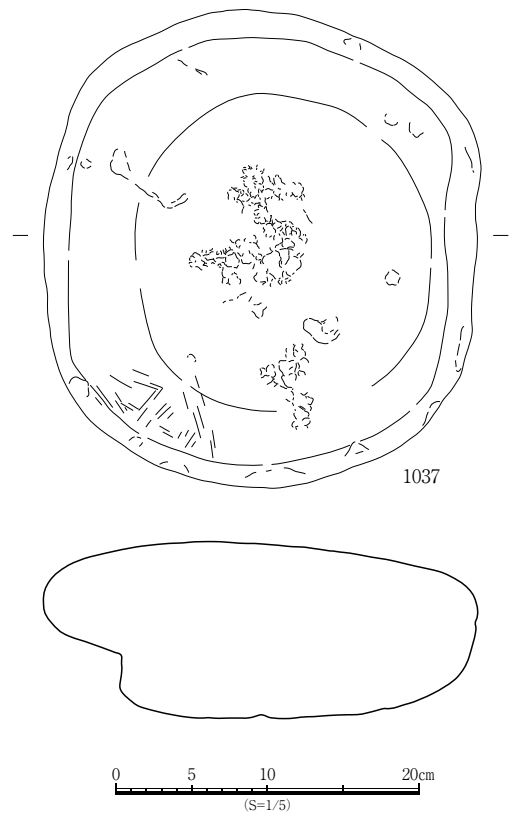


図3-32 ST46出土遺物実測図2

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

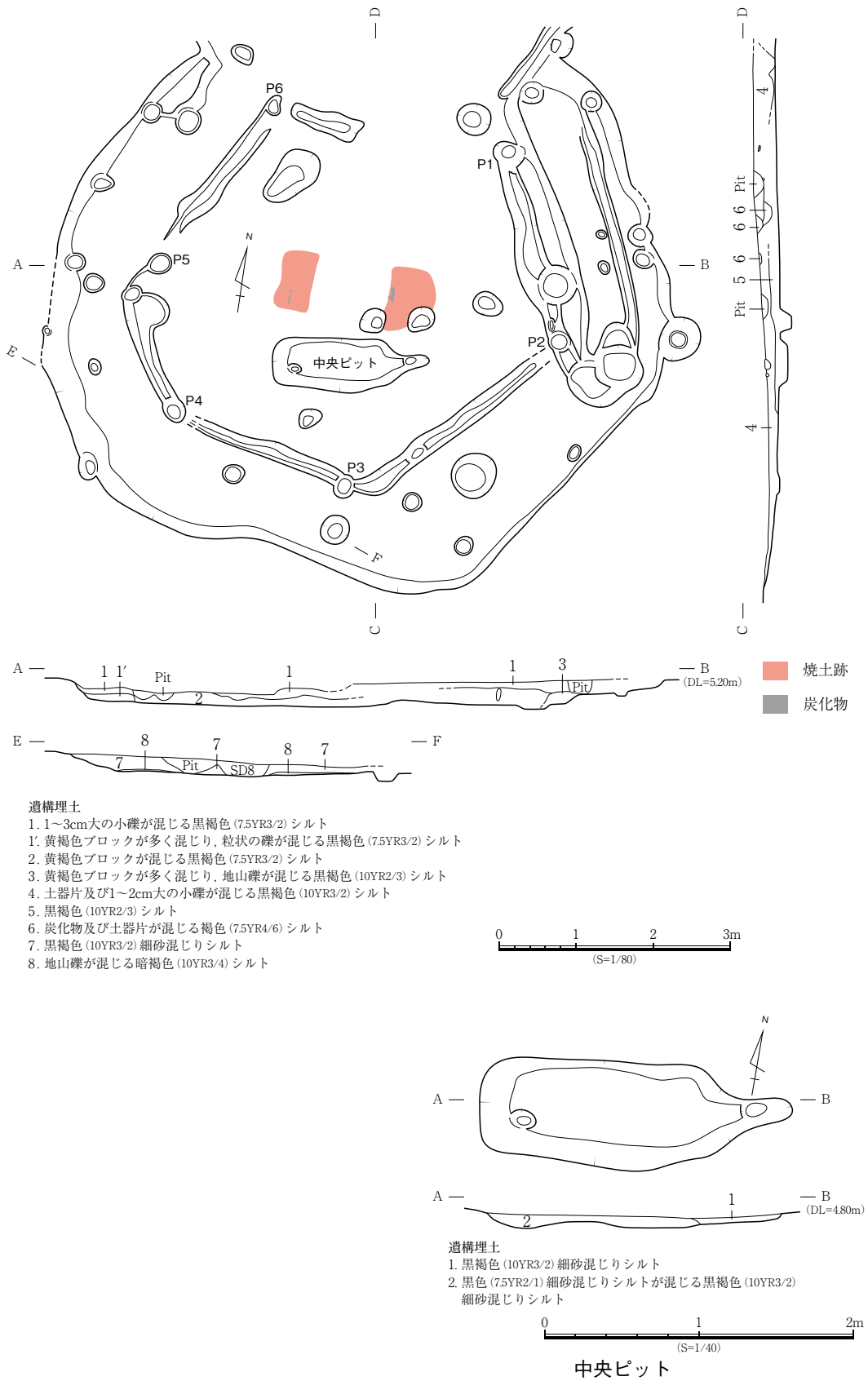


図3-33 ST47

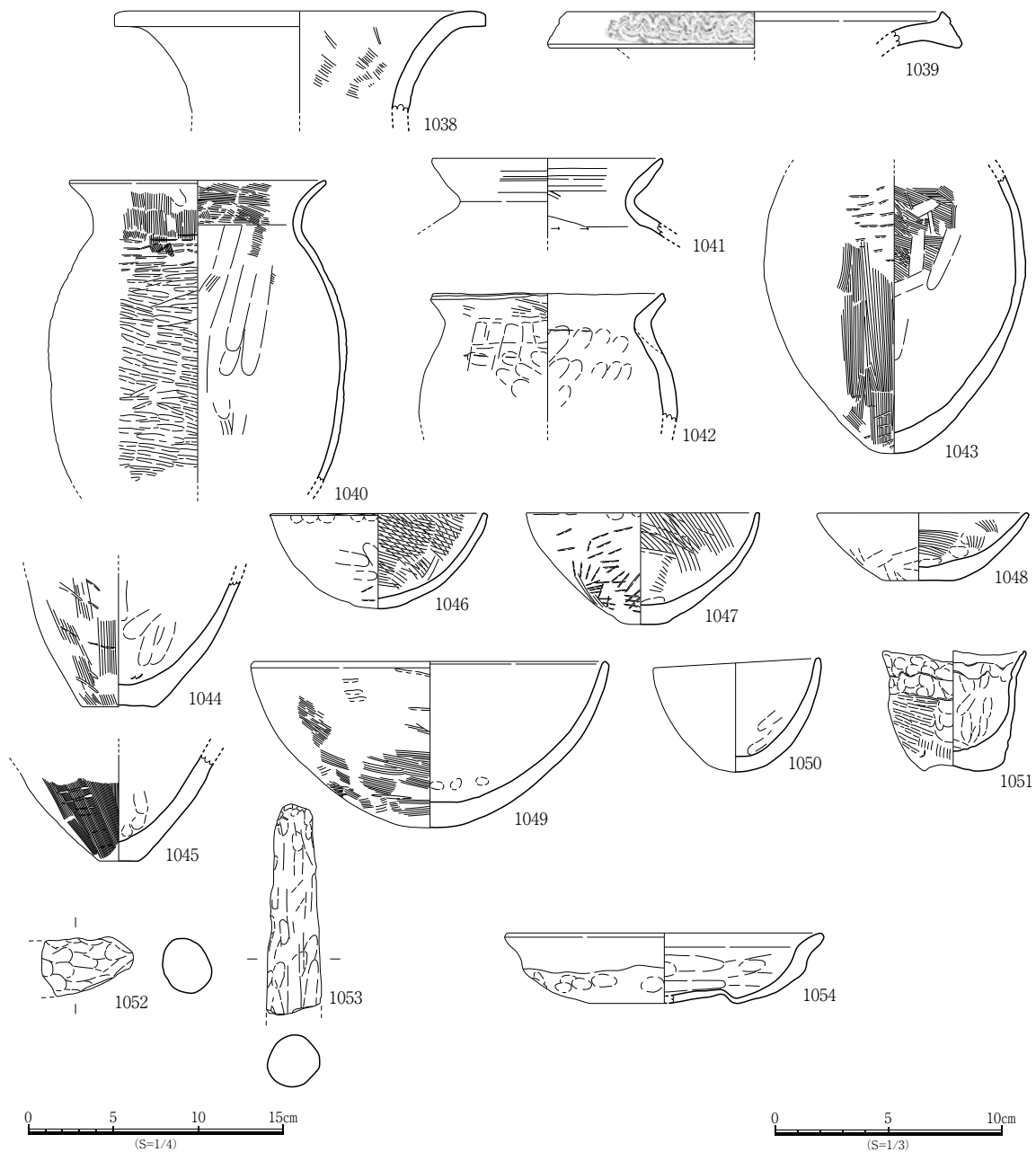


図3-34 ST47出土遺物実測図1

けてナデ調整である。1044は壺の底部で平底状を呈する。外面はタタキ後丁寧なハケ調整で内面はナデ調整を施す。1045は甕の底部と考えられる。外面はタタキ後丁寧なハケ調整を施し、内面はナデ調整を施す。1046～1050は鉢である。1046の底部は丸底状で口縁部にかけてやや内湾する。外面は指頭圧痕及びナデ調整、内面はハケ調整とナデ調整である。1047の外面はタタキ後ハケ調整及びナデ調整を施す。内面は口縁部ハケ調整、底部はナデ調整である。1048は皿状の浅い鉢である。平底状を呈し外面はナデ調整、内面はハケ調整及び指頭圧痕がみられる。1049は大型の鉢で外面にはハケ調整及びナデ調整、内面はナデ調整を施す。1050は小型の鉢で底部は丸底状を呈し、口縁部にかけて内湾する。内面はナデ調整で外面にはキレツがみられる。1051はミニチュア土器で口縁部は粘土紐接合痕による段部がみられる。外面はタタキ後指頭圧痕及びナデ調整、内面は指頭圧痕とナデ調整を

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

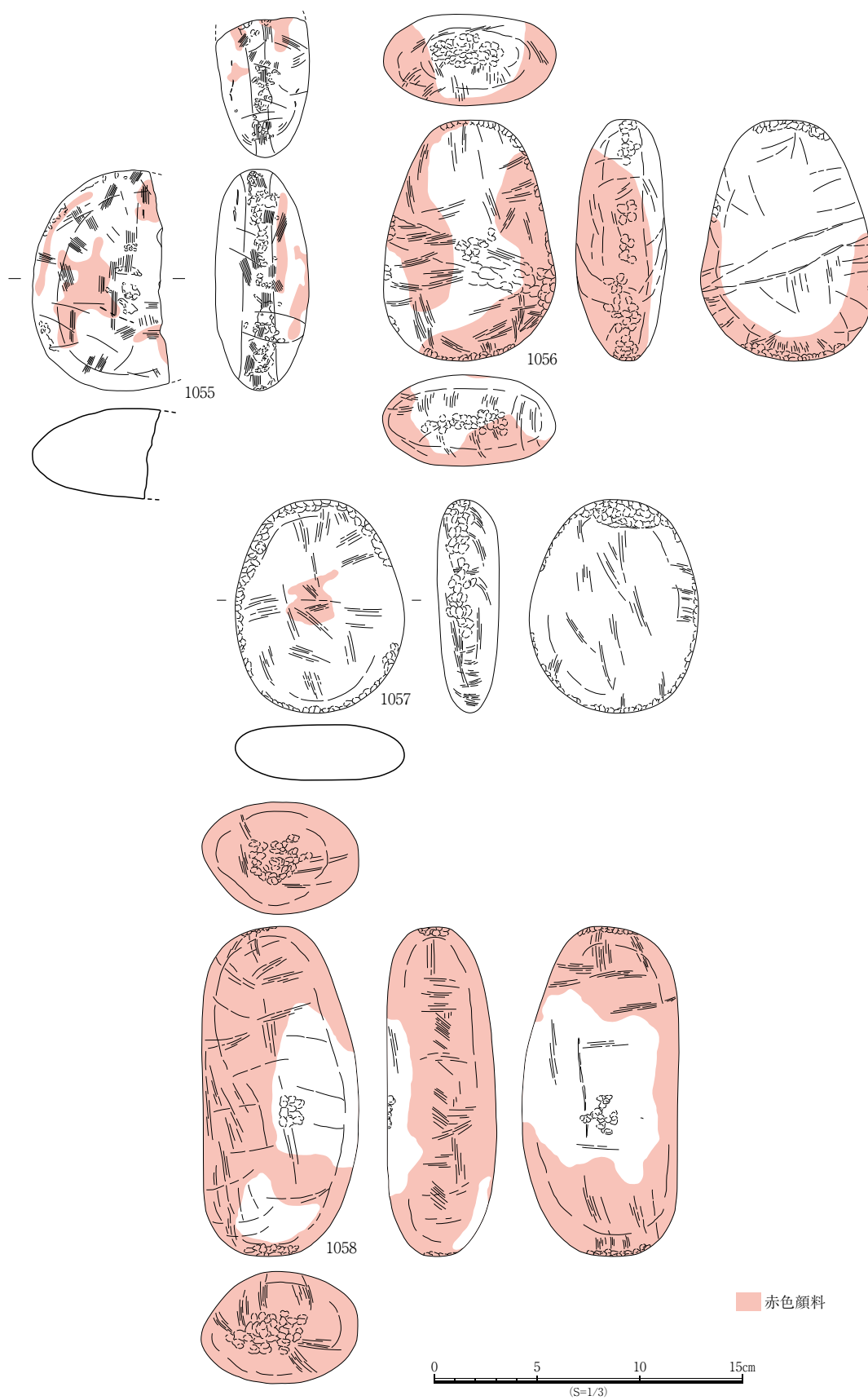


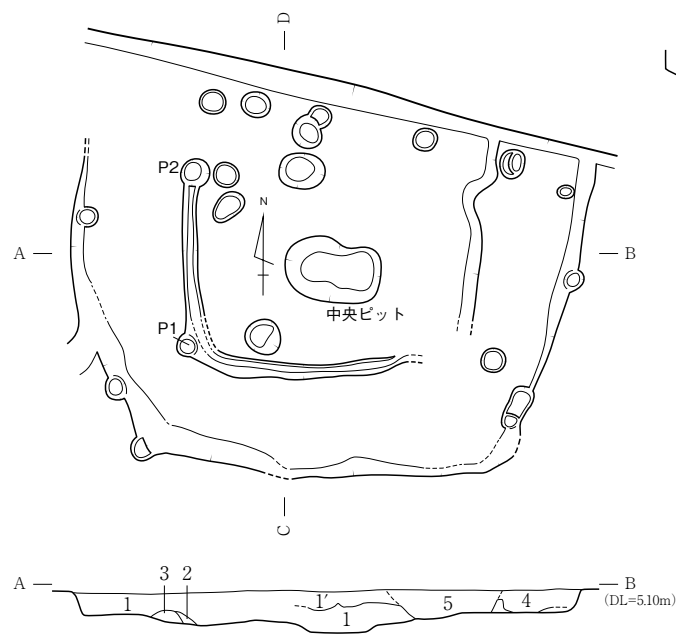
図3-35 ST47出土遺物実測図2

施す。1052と1053は支脚の一部である。外面は指頭圧痕が顕著である。1054は土師器の皿である。手づくね成形で外面は口縁部が強い横方向のナデ調整により外反する。外面内面ともに指頭圧痕とナデ調整を施す。上面遺構からの混入と考えられる。

1055～1058は磨石である。1055は側縁部に敲打痕があり、赤色顔料が付着する。1056は砂岩製で側縁部と中央部に使用痕がみられ、赤色顔料が付着する。1057は砂岩製で側縁部に敲打痕がみられ、中央部にうっすらと赤色顔料が付着する。1058は砂岩製で中央部と側縁部に敲打痕がみられ、全体に薄く赤色顔料が付着している。

ST48(図3-36)

調査区の中央部北側に位置する。北側は調査区北壁に接し、南側は重複するST49に切られる。検出長は南北3.92m、東西5.28mで平面形は隅丸形状を呈し、東西にはベッド状遺構と考えられる高まりが確認された。検出面からの深さはベッド状遺構までは約24cm、低床面までは32cmを測る。埋土は土器片と小礫が混じる黒褐色(10YR2/3)シルトと黄褐色土がブロック状に混じる黒褐色(10YR2/2)シルトである。中央ピットはほぼ中央部に位置すると推定され、規模は長軸1.04m、短軸0.64mを測り、平面形は楕円形状を呈する。検出面からの深さは約10cmで埋土は竪穴建物跡の埋土と同一である。床面の西側から南側にかけて壁溝を確認したが、全周しているかは不明である。P1・2はその規模及び配置から支柱穴と考えられる。出土遺物では弥生土器壺・甕・鉢、土師器甕、土製品、石製品が図示できた。



遺構埋土

1. 土器片が多く混じり、1～3cm大の小礫が混じる黒褐色(10YR2/3)シルト
1. 黒色(10YR2/1)シルト
2. 褐色(10YR4/6)シルトが混じる暗褐色(10YR3/4)シルト
3. 礫が混じる黒褐色(10YR2/2)シルト
4. 黄褐色ブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルト
5. 小礫が多く混じる黒褐色(10YR2/3)シルト(SD埋土)
6. 褐色(7.5YR4/6)シルトが多く混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルト
7. 地山礫が混じる暗褐色(7.5YR3/4)シルト

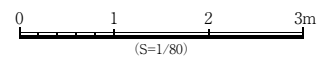


図3-36 ST48

埋土出土遺物(図3-37 1059～1075)

1059～1061は壺である。1059は複合口縁壺と考えられ、外面は櫛描の波状文を施す。内面はハケ調整及びナデ調整である。1060は口縁部が外反し口唇部は丸くおさめる。口縁部外面はミガキ調整、ハケ調整で頸部から体部はミガキ調整を施す。内面は口縁部がミガキ調整、頸部から体部はナデ調整を施す。1061は底部にタタキ後ハケ及びナデ調整、内面はハケ調整及びナデ調整を施す。1062は甕で口縁部は外反し、口唇部は平坦面でハケ調整がみられる。外面はタタキ後にハケ調整、内面はハ

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

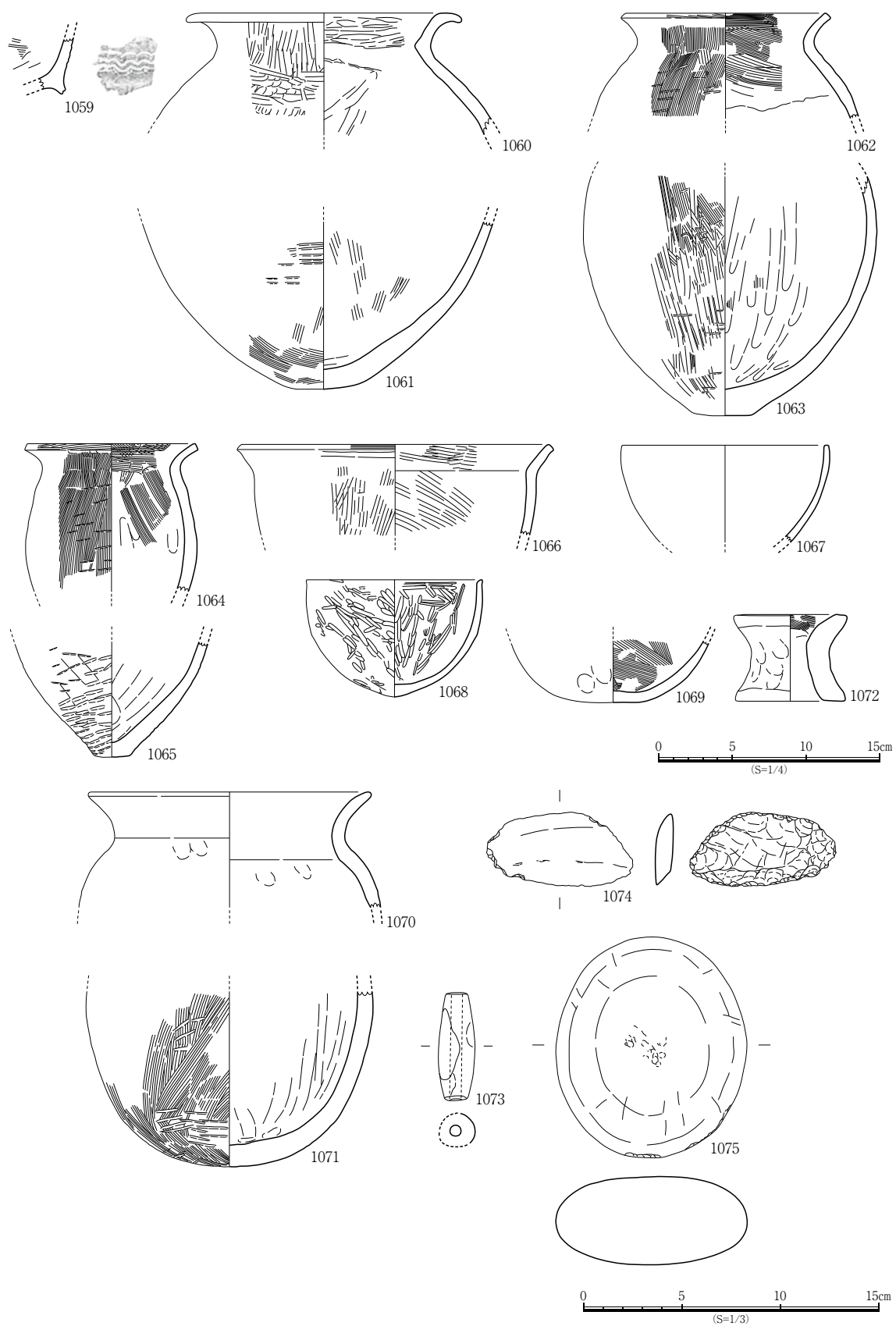


图3-37 ST48出土遺物実測図

ケ調整及びナデ調整を施す。体部には粘土紐接合痕がみられる。1063は甕あるいは壺の体部から底部と考えられる。外面はタタキ後ハケ調整及びナデ調整で、内面は指頭圧痕及びナデ調整を施す。外面には煤がみられる。1064は甕の口縁部から体部で口縁部は外反し口唇部は平坦面を呈する。外面はタタキ後丁寧なハケ調整、内面の口縁部は丁寧なハケ調整で、頸部から体部はハケ調整及びナデ調整である。1065は甕の底部である。外面はタタキ後ナデ調整、内面はナデ調整を施す。1066～1069は鉢である。1066の口縁端部は外反する。外面と内面はハケ調整及びナデ調整を施す。1067は外面内面ともに摩耗する。1068の口縁部はやや内湾する。外面はタタキ後ミガキ調整、底部はケズリ調整を施す。内面はミガキ調整及び

ナデ調整を施す。1069は外面には薄いタタキ目が認められる。外面はナデ調整で内面はハケ調整及びナデ調整である。1070は土師器の甕で口縁部は外反する。外面内面ともに摩耗する。上面遺構からの混入と考えられる。1071は甕の体部から底部で丸底を呈する。外面にはタタキ目が認められ、丁寧なハケ調整を施す。内面は指頭圧痕とナデ調整がみられる。1072は支脚である。中空で外面は指頭圧痕とナデ調整、内面はハケ調整とナデ調整である。1073は管状の土錘である。

1074は砂岩の剥片で石包丁の未製品の可能性が考えられる。1075は砂岩製の叩石で中央部と周縁部に敲打痕がみられる。

ST49(図3-38)

調査区中央部北側に位置する。ST48を切る。長軸は5.04m, 短軸約4.8mで、平面形は方形状を呈する。検出面からの深さは12cmで、埋土は細砂混じりの黒褐色

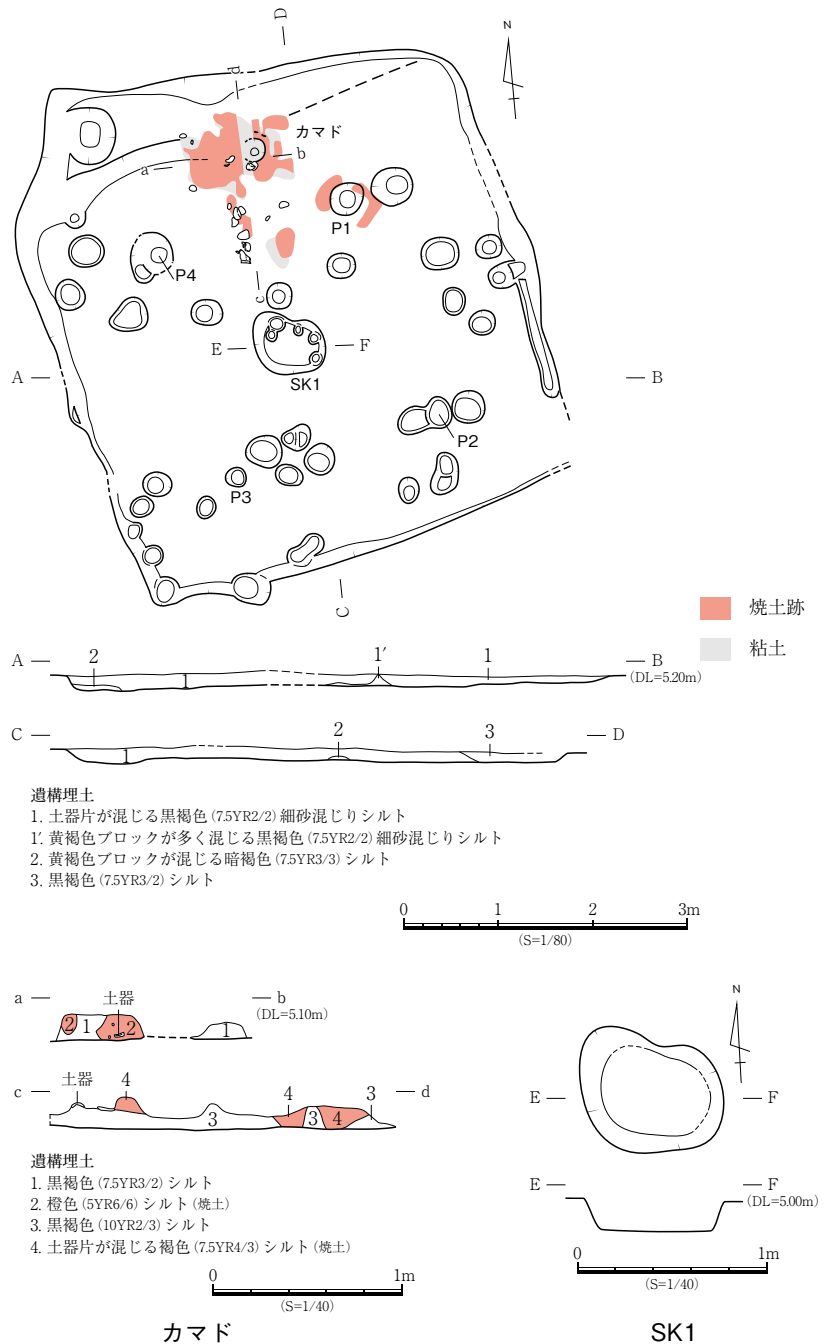


図3-38 ST49

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

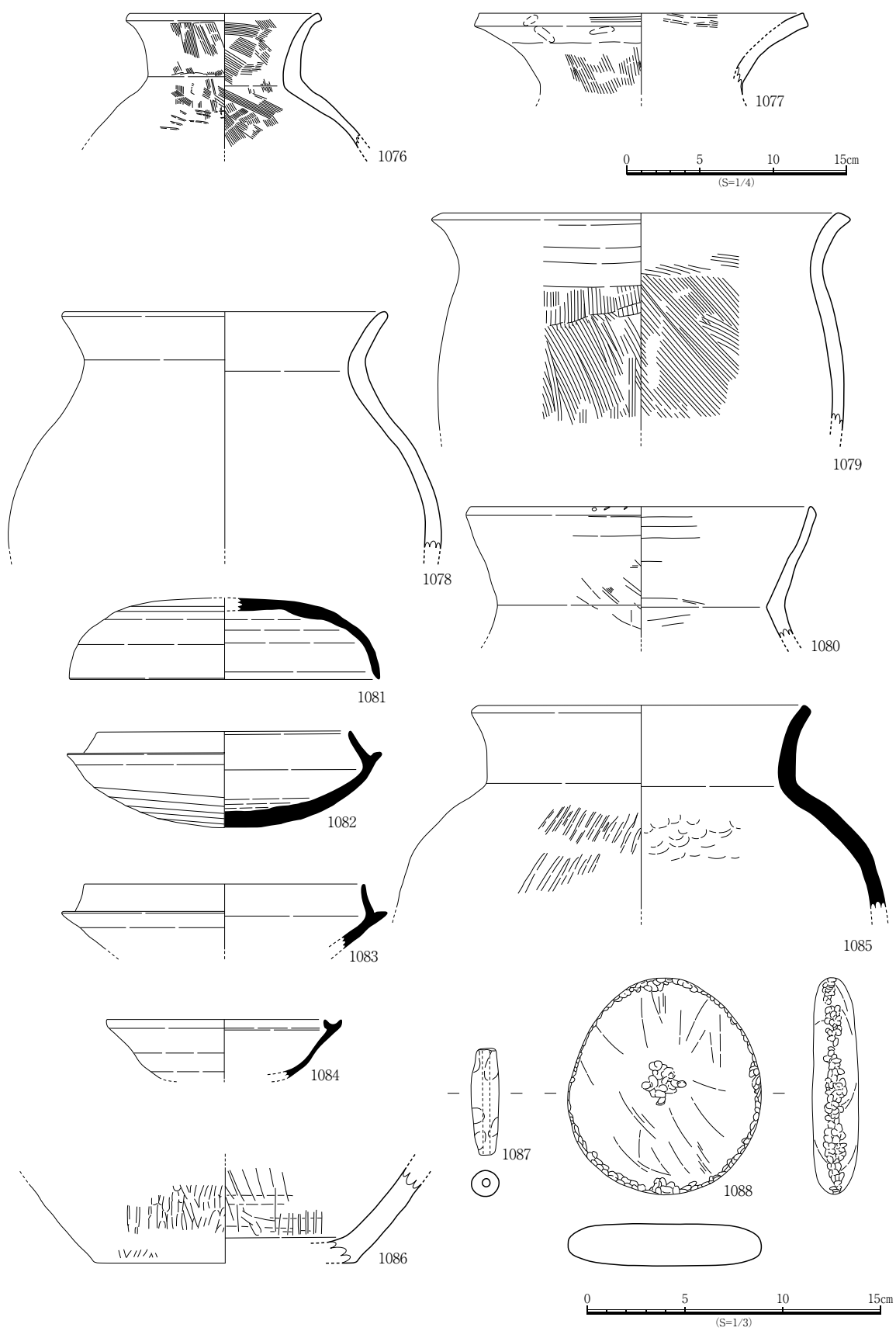


図3-39 ST49出土遺物実測図

(7.5YR2/2)シルトである。竪穴建物跡の北壁周辺からは焼土を伴う黒褐色(10YR2/3)シルトを南北0.88m, 東西1.00mの範囲で検出しており, カマドを伴う竪穴建物跡と考えられる。床面からはピットを多数と土坑が1基確認された。柱穴の大半は上面の中世に属するものとみられ, その内P1~4はその規模及び配置から支柱穴であると考えられる。また, 中央部において検出された土坑(SK1)は長軸0.84m, 短軸0.64mで, 検出面からの深さは16cmを測る。埋土は黒褐色シルトである。出土遺物では弥生土器壺, 土師器甕, 須恵器杯蓋・杯身・甕, 石鍋, 土製品, 石製品が図示できた。

埋土出土遺物

(図3-39 1076~1088)

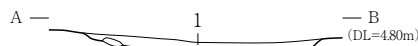
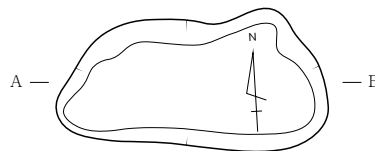
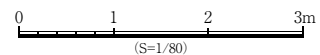
1076・1077は弥生土器壺で, 1076は口縁部はやや外反し, 口唇部は平坦面を呈する。外面は頸部までタタキ目が認められ, 口縁部から頸部はハケ調整及びナデ調整を施す。内面はハケ調整及びナデ調整である。1077は口縁部で口唇部はやや肥厚し, ナデ調整を施す。外面内面ともにハケ調整及びナデ調整がみられる。1078は土師器甕でカマド上面の埋土除去時に出土した。口縁部は緩やかに外反し, 体部中央部に最大径をもつ。外面内面ともに摩耗する。1079は甕の口縁部で緩やかに外反し, 口唇部は平坦面を呈する。外面は口縁部がハケ調整及びナデ調整,



遺構埋土

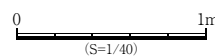
- 1. 褐色(7.5YR4/3)細砂混じりシルト
- 2. 黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト (Pit)
- 3. 褐灰色(7.5YR4/1)細砂混じりシルト
- 4. 黒褐色(7.5YR3/1)細砂混じりシルト
- 5. 橙色(7.5YR7/6)焼土
- 6. 黒褐色(10YR3/1)細砂混じりシルト (別遺構)
- 7. にぶい黄褐色(10YR5/4)細砂混じりシルト

焼土跡



遺構埋土

- 1. 炭化物が少量混じる赤黒色(2.5YR2/1)細砂混じりシルト



中央ピット

図3-40 ST50

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

体部は内外面ともにハケ調整を施す。1080は甕の口縁部で斜め上方にのび、口唇部はヘラ状の圧痕がみられる。外面内面ともにナデ調整で、頸部内面には一部ハケ調整がみられる。1081は須恵器杯蓋である。外面は天井部が回転ケズリ調整、その他は回転ナデ調整、内面も回転ナデ調整である。1082～1084は須恵器杯身である。1082は立ち上がりは内傾してのび、受部は断面三角形を呈する。底部は回転ケズリ調整、内面及びその他は回転ナデ調整を施す。1083は立ち上がりは内傾してのび、受部は断面三角形を呈する。外面内面ともに回転ナデ調整である。1084は立ち上がりが内傾して短くのびる。1085は須恵器の甕である。外面は体部にはタタキ目が認められ、口縁部はナデ調整を施す。内面は口縁部はナデ調整で、頸部から体部は指頭圧痕及びナデ調整である。

1086は石鍋の底部である。外面内面ともにケズリ調整で外面には煤がみられる。割れた部分を平坦にしており、二次使用の可能性が考えられる。混入である。

1087は土錘で管状を呈する。

1088は砂岩製の叩石で中央部と側縁部に敲打痕がみられる。

ST50(図3-40)

調査区中央部で検出した多角形の竪穴建物跡である。重複が激しく明瞭にプランは検出できなかったが、五角形もしくは六角形を呈していたと推測される。幅約1.0mのベッド状遺構が全周していたとすると直径約8.0mとなる。検出面からベッド状遺構上面までの深さは14cmであり、検出面から低床部までの深さは31cmである。埋土は褐色(7.5YR4/3)細粒砂混じりシルトである。低床部の各頂点に支柱穴を配置していたと考えられる。中央ピットは低床部の中央やや南寄りに位置する。不整の長楕円形を呈する。長軸約1.3m、短軸約0.6m、低床部面からの深さは11cmである。埋土は炭化物を少量含んだ赤黒色(2.5YR2/1)細粒砂混じりシルトである。また、中央ピットの北側で焼土跡を検出しており、複合型の燃焼施設である。図示した出土遺物は弥生土器壺・甕・鉢、ミニチュア土器、石製品、鉄鏃、角錐状石器である。

埋土出土遺物(図3-41 1089～1102)

1089は複合口縁壺である。一次口縁端部上面の外端部に粘土紐を貼付し二次口縁部とする。貼付痕跡は明瞭である。口唇部は面取りされ、外面には櫛描波状文を2段に配置する。外面はハケ調整であり、粘土紐接合痕跡が残る。内面は傾斜変換点で調整が変わる。頸部から外反する部分までは横方向のハケ調整であり、水平近くに大きく外反する。水平部分には縦方向のハケ調整を施す。1090は壺である。口縁部は大きく外反し、口唇部には面取りを施し上方へわずかに拡張させる。頸部外面は粗い縦方向のハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。口縁部は斜め方向の粗いハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。内面はヨコナデ調整後、ミガキ調整を疎らに施す。口唇部には粗い櫛描直線文を施す。1091は壺である。口縁部は大きく外反させる。口唇部には面取りを行い、下方に粘土が垂れる。外面は縦方向のハケ調整を上下2段に分割して施す。内面は横方向から斜め方向のハケ調整後ミガキ調整を疎らに施す。1092は壺である。頸部は短く直立し、口縁部は短く外反する。外反度合いは弱い。口唇部には面取りを施す。外面は縦方向のハケ調整を密に施す。内面は横方向のナデ調整である。1093は甕である。直立気味の体部から口縁部は外反する。口唇部はハケ状原体により面取りを施す。外面は体部がやや右上がりのタタキ調整を施す。口縁部は体部からの一連のタタキ調整後、縦方向のハケ調整を密に施す。口縁部内面は斜め方向のハケ調整後、頸部付近に横方向の1ストロークの短いハケ調整を施す。上胴部内面は斜め方向のハケ調整後、縦方向のナデ調整を施す。1094は中央ピットから出

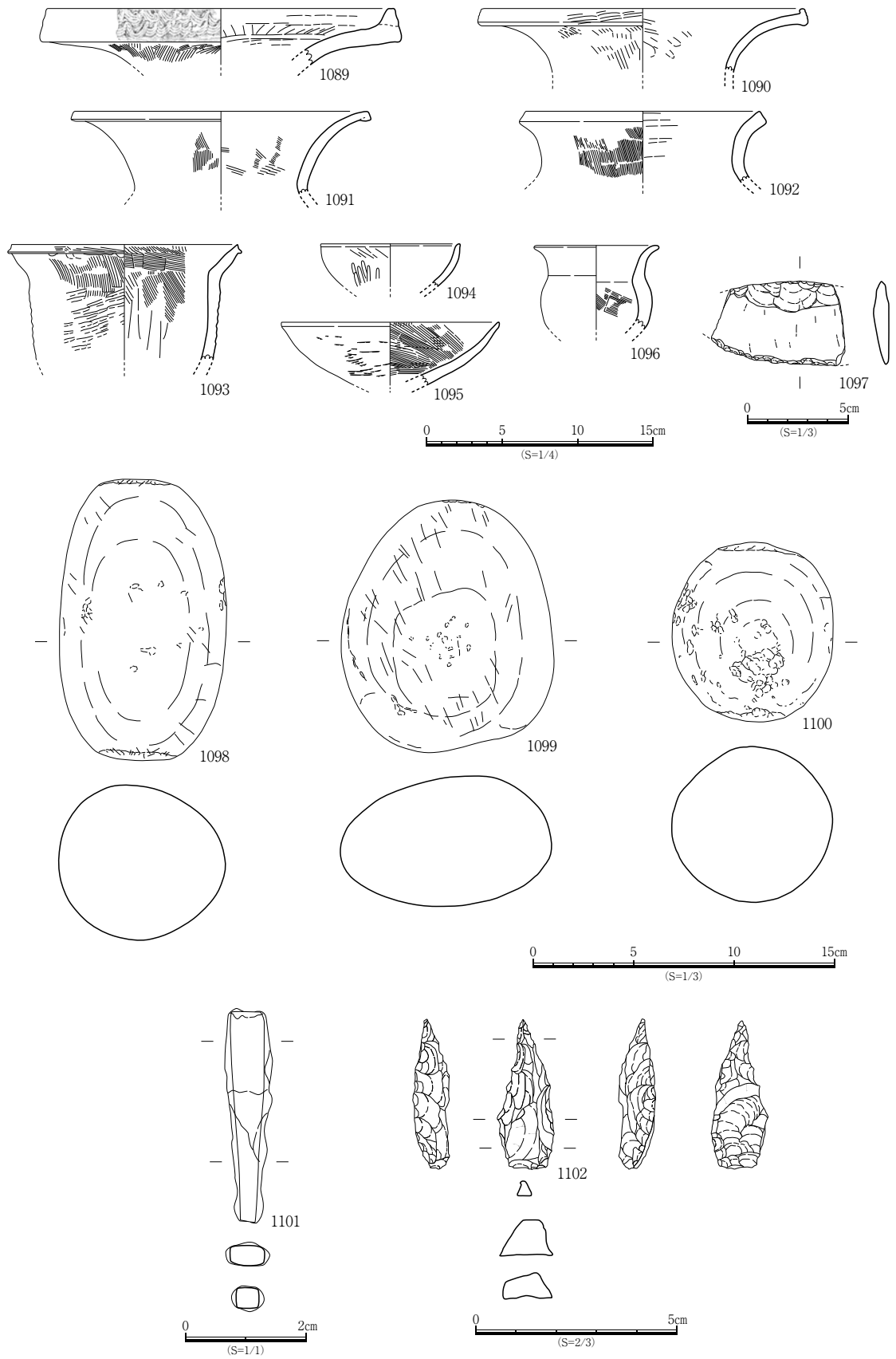


图3-41 ST50出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

土した鉢である。口縁部は丸みを持って立ち上がり、口唇部は尖らせる。外面はミガキ調整である。1095はやや浅めの鉢である。口唇部は内外面の調整により尖らせる。外面はタタキ調整後ナデ調整を施し、タタキ目の多くを消す。底部内面付近は横方向のハケ調整、口縁部まで傾きの違う斜め方向のハケ調整を重ねる。1096は壺形のミニチュア土器である。丸みを持った体部から口縁部を外反させる。外面及び口縁部内面はナデ調整、体部内面はハケ調整である。

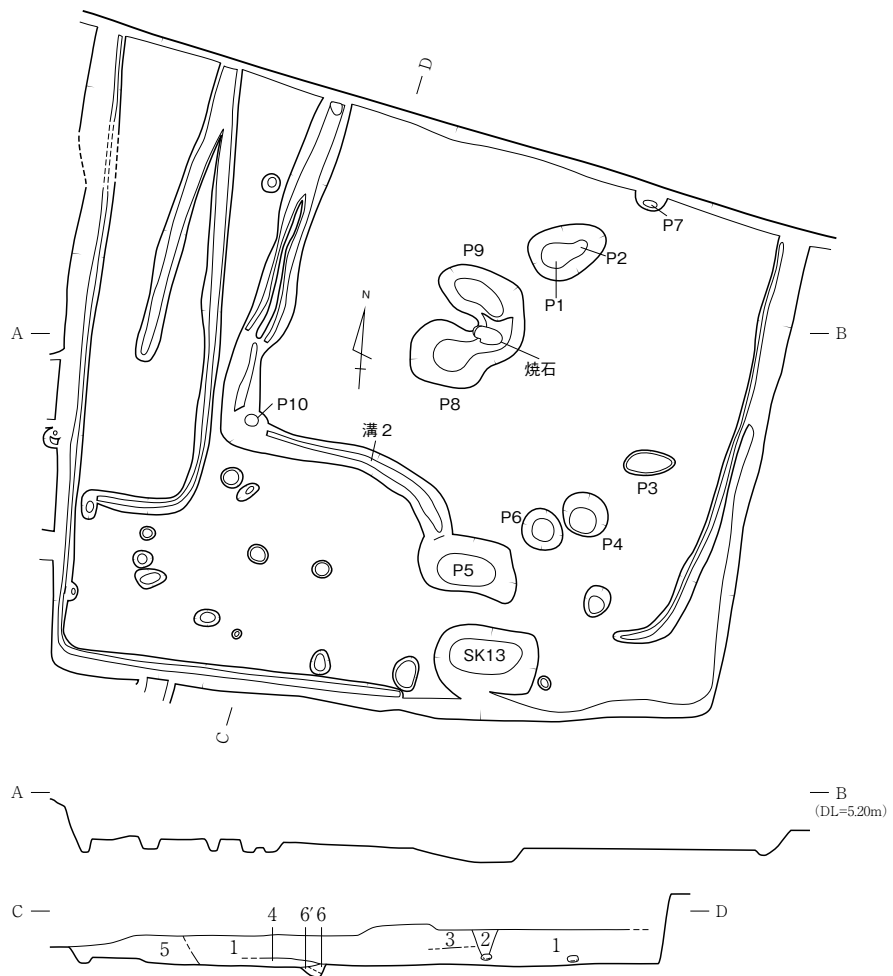
1097はサヌカイト製の刃器である。両面とも主要な剥離面を残す。両端は欠損する。背部から刃部にむかって厚みは減じている。刃部には細かな調整剥離を施す。背部は強い打撃により尖る。1098は砂岩製の磨石である。濃淡はあるものの側面のほぼ全面に赤色顔料が付着する。両端は使用により平坦面をなすが、この部位には赤色顔料の付着は認められない。1099は砂岩製の磨石である。先端部に敲打痕跡が認められる。全体的に平滑であるとともに赤色顔料の付着が認められることから、全体を使っていたと考えられる。1100は砂岩製の叩石である。両端及び側面に敲打痕跡が認められる。被熱により変色する。

1101は鉄鏝の茎部である。両端は欠損する。鏝身側の断面形は長方形を呈し、基部は断面方形を呈する。

1102はチャート製の角錐状石器で、完存する。厚い剥片を素材とする。腹面から両側面に急角度剥離を連続的に施し、鋭利な先端部を作り出す。長さ3.77cm、幅1.35cm、厚さ0.95cm、重量4.27gである。混入品である。

ST51 (図3-42)

調査区中央部北側で検出した竪穴建物跡である。北側は調査区外へのびる。



- 遺構埋土
1. 灰褐色 (7.5YR4/2) 細砂混じりシルト
 2. 黒褐色 (7.5YR3/1) 細砂混じりシルト (Pit)
 3. 黒色 (7.5YR2/1) 細砂混じりシルト
 4. 褐色 (7.5YR4/3) 細砂混じりシルト
 5. 褐色 (7.5YR4/4) 細砂混じり粘土 (SX埋土)
 6. にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂混じり粘土
 - 6'. 明黄褐色 (10YR6/6) 細砂混じり粘土

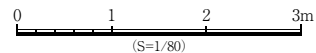


図3-42 ST51

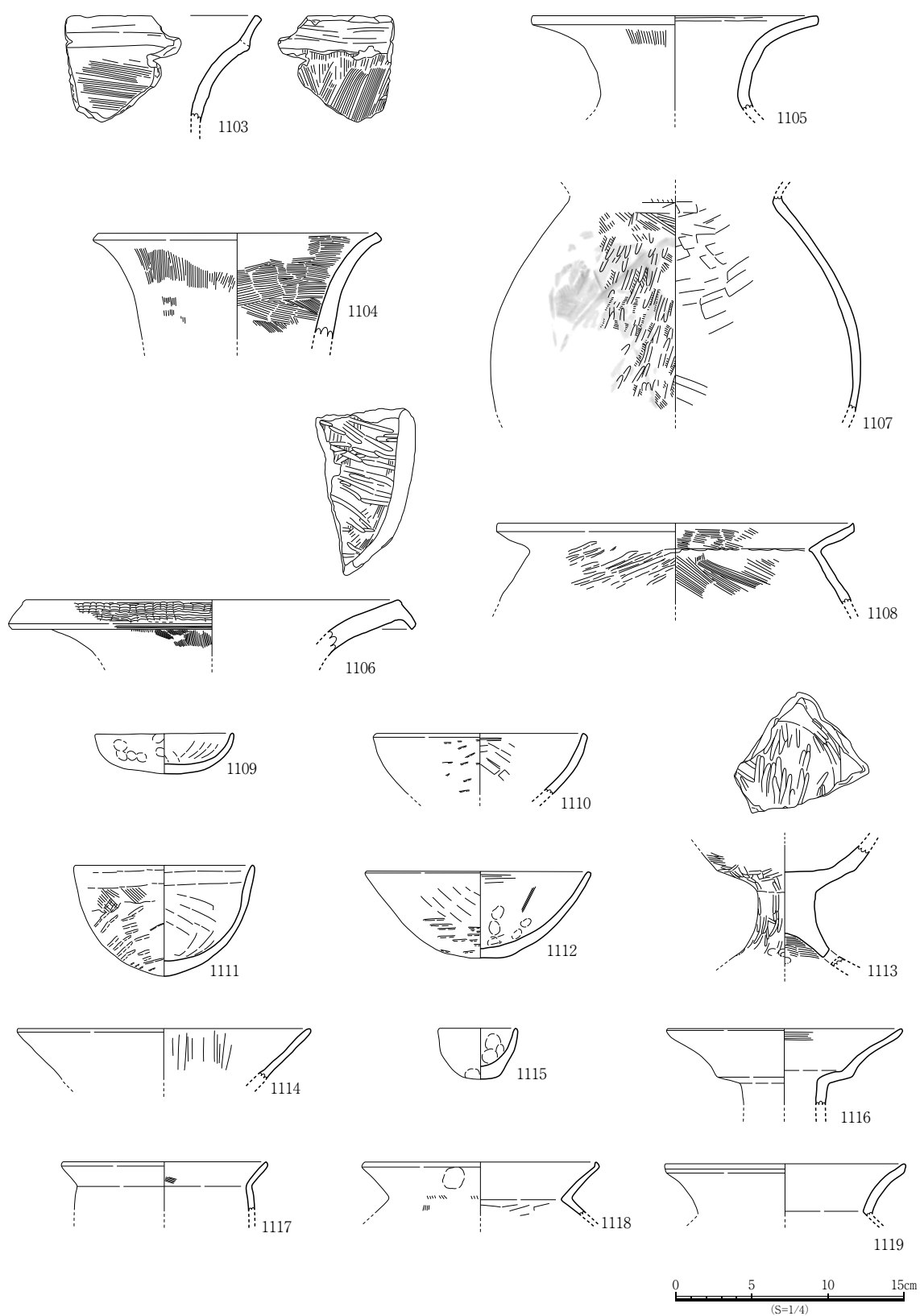


图3-43 ST51出土遺物実測図1

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

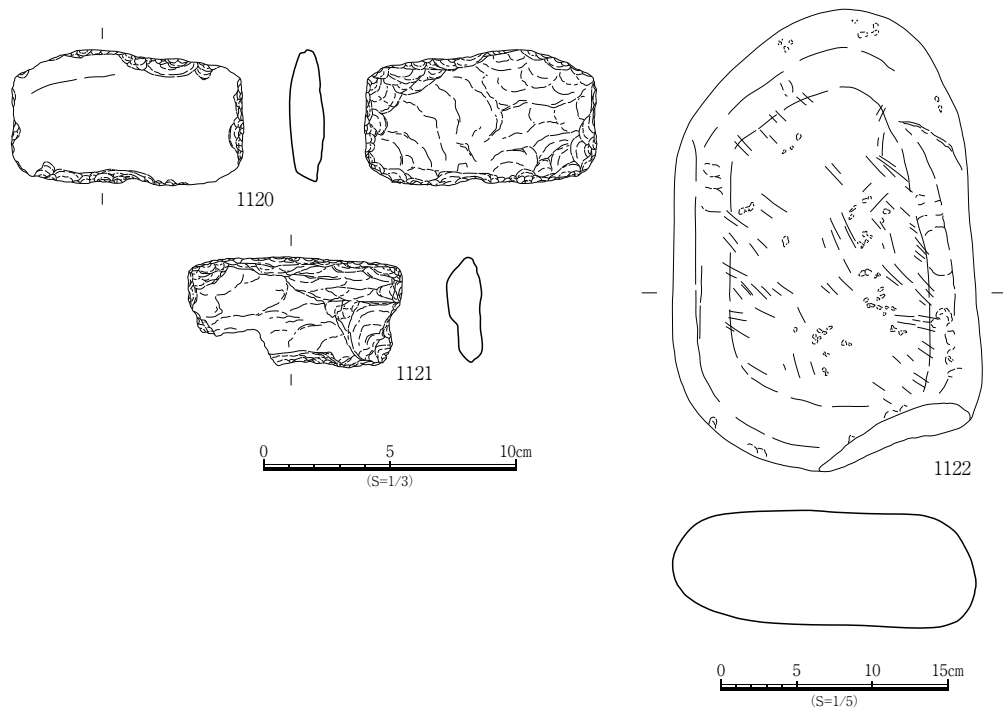


図3-44 ST51出土遺物実測図2

壁及び小溝の方向は概ね2方向あることから2軒の竪穴建物跡が重複していたと考えられる。調査時には複数の遺構が重複している可能性を考慮していたが、埋土は類似し明確に区分することはできなかつたため、1つの遺構として掘削した。ST51_AはP4・5・8～10、溝2などが該当し、P5を床面の東西方向の中心とすれば一辺約8.0mの隅丸方形の竪穴建物跡に復元できる。P8あるいはP9が中央ピットと考えられる。P8とP9の間では焼け石が検出され、P9では焼土が確認された。P8は楕円形を呈する。長軸約1.0m、短軸約0.5m、床面からの深さは20cmである。P9は不整形を呈する。長軸約0.8m、短軸約0.7m、床面からの深さは14cmである。P5から小溝(溝2)がのびる。P5は長軸約1.0m、短軸約0.7m、床面からの深さは23cmである。溝2は幅約20cm、床面からの深さは14cmである。検出長は約6.4mであり、さらに調査区外へのびる。同様のものが田村西遺跡ST4でも検出されている。主柱穴は位置と規模からP4、P10と考えられる。

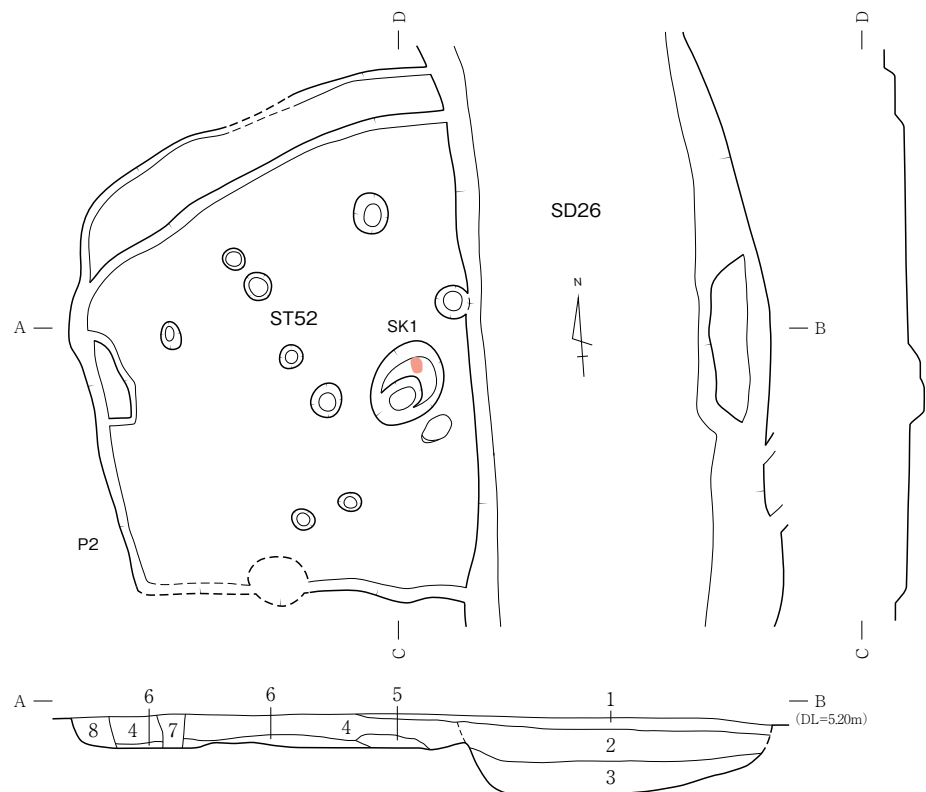
ST51_Bは一辺6.7m以上の方形の竪穴建物跡に復元できる。西壁から南壁にかけて壁溝が巡る。幅約0.3m、床面からの深さは4cmである。また、西壁から東へ約1.2mの位置に西壁に平行し、壁溝に接続する逆「L」字状を呈した小溝も掘削されている。この溝は幅約0.2m、床面からの深さは4cmである。図示した出土遺物は弥生土器壺・甕・鉢・高杯・器台、ミニチュア土器、庄内式土器甕、石製品である。

埋土出土遺物(図3-43・44 1103～1122)

1103は二重口縁壺である。二次口縁部は短く外反する。一次口縁部の外面は縦方向のハケ調整、内面は横方向のハケ調整である。二次口縁部は内外面とも横方向のナデ調整である。1104は壺である。口縁部はあまりひらかない。口唇部には面取りを施す。外面は縦方向のハケ調整後、ヨコナデ調整を施す。内面は横方向のハケ調整(幅約2.5cm)である。1105は壺である。直立気味の頸部から口縁部は大きく外反させ、口唇部は面取りにより平坦面をなす。摩滅しており調整等の観察は困難であるが口

縁部外面には縦方向のハケメが認められる。1106は壺である。口縁端部を下方へ拡張させる。その時の指頭圧痕が裏側に認められる。口唇部には櫛描文を2段配置する。上段は3条1単位で短く止めながら押し引き風に描く。下段は5条1単位の上下の振幅の小さい櫛描波状文である。外面はハケ調整である。内面は横方向のハケ調整後、ミガキ調整を施す。1107は壺である。体部は球形を呈する。外面は斜め方向から横方向のハケ調整後、縦方向のミガキ調整を施す。内面は斜め方向のケズリ調整を施す。外面には斜格子状に籠の痕跡が認められる。1108は甕である。口縁部は体部からの一連のタタキ調整後、「く」の字状に折り曲げ口唇部をヨコナデし端部を摘み上げる。内面は斜め方向のハケ調整であり、体部に施した後口縁部に施す。1109は皿状の鉢である。内外面ともナデ調整であり、外面には指頭圧痕が顕著に認められる。1110は鉢である。口唇部は丸くおさめる。外面はタタキ調整後丁寧なナデ調整を施す。内面はナデ調整を施し、かなり平滑(ミガキ状)に仕上がっている部分がある。外面には煤が付着し、内面には赤色顔料が付着する。1111は深いタイプの鉢である。丸底である。外面は右上がりのタタキ調整後、縦方向のナデ調整を施すが比較的タタキ目は残存している。内面は横方向のナデ調整であり、工具の静止痕跡が認められる。口縁部は内外面ともヨコナデ調整である。1112は鉢である。体部は丸みを持って立ち上がり、口唇部は丸くおさめる。内外面とも底部付近に指頭圧痕がみられる

ことから内底面から押し出し、丸底としたと考えられる。外面はタタキ調整後、ナデ調整を施す。上半部は丁寧にタタキ目をナデ消している。内面はヨコナデ調整後、底部から口縁部へナデ調整を施す。1113は高杯である。脚部は中実で短く、裾部は大きくひらき、円孔を穿つ。4カ所か。円形の穿孔を試みた痕跡が認められる。杯部内面は黒斑化する。脚部から裾部の外面は縦方向のミガキ調整を施す。杯部内面の外縁部は



遺構埋土

1. こぶし大の河原礫が多く混じる黒褐色(7.5YR3/1)シルト(SD26)
2. 土器片及び1~5cm大、10cm大の礫が多く混じる黒褐色(10YR3/2)シルト(SD26)
3. 土器片及び人頭大の礫が混じる黒褐色(10YR2/2)シルト(SD26)
4. 土器片及び0.5~1cm大の小礫が混じる黒褐色(10YR3/1)シルト(ST52)
5. 明褐色粘土ブロックが混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルト(ST52)
6. 黄褐色ブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルト(ST52)
7. 3cm大の礫が混じる黒褐色(7.5YR3/1)シルト
8. 黄褐色ブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルト(ST52)

焼土跡

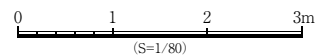


図3-45 ST52

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

円を描くようにミガキ調整を施し、中央部は直線的にミガキ調整を施す。脚部内面は円を描くようにハケ調整を施す。1114は高杯である。口縁部は直線的にのび、口唇部は丸くおさめる。内外面ともヨコナデ調整であり、内面には縦方向の調整の痕跡が一部に集中してみられる。1115は手づくね成形のミニチュア土器である。粘土塊に両親指を入れ、押しひろげ成形する。内面には指頭圧痕が多くみられる。1116は鼓形器台である。脚柱部から水平に短くのび、口縁部は長く大きく外反する。摩耗のため、調整等の観察は困難である。1117は鉢である。口縁部は外反し、口唇部は尖らせる。内外面ともヨコナデ調整である。1118は甕

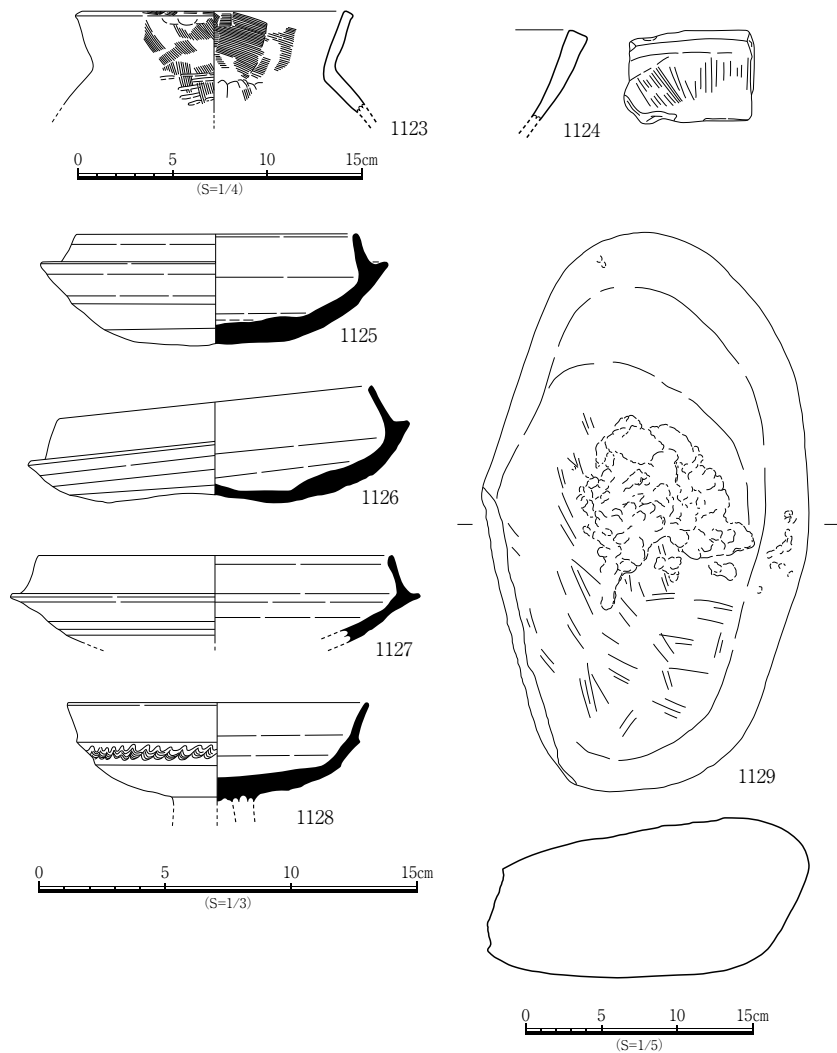


図3-46 ST52出土遺物実測図

である。口縁部は「く」の字状を呈し端部を摘み上げる。口縁部外面には指頭圧痕が連続的に認められる。体部内面は頸部直下までケズリ調整を施す。外面及び口縁部内面はヨコナデ調整である。胎土は河内産のものとは異なり、庄内式土器甕を模倣して作られたものである。1119は庄内式土器の甕か。口縁部は「く」の字状に外反する。端部をつまみ上げるが弱く、口唇部に沈線が1条巡る。内外面ともヨコナデ調整である。

1120は砂岩製の打製石包丁か。一面は主要な剥離面を残し、他面は自然面である。四周は敲打により長方形に形を整える。長辺の1辺は刃部となる。短辺は挟りがほとんどない。未成品の可能性があり。1121は頁岩製の打製石包丁である。両面とも主要な剥離面を残す。端部は調整剥離により刃部を作り出す。また、両端に紐掛け用の挟りを入れる。1122は砂岩製の台石である。両面とも使用により平滑になっている。また、一部は被熱変色し、欠損する。

ST52(図3-45)

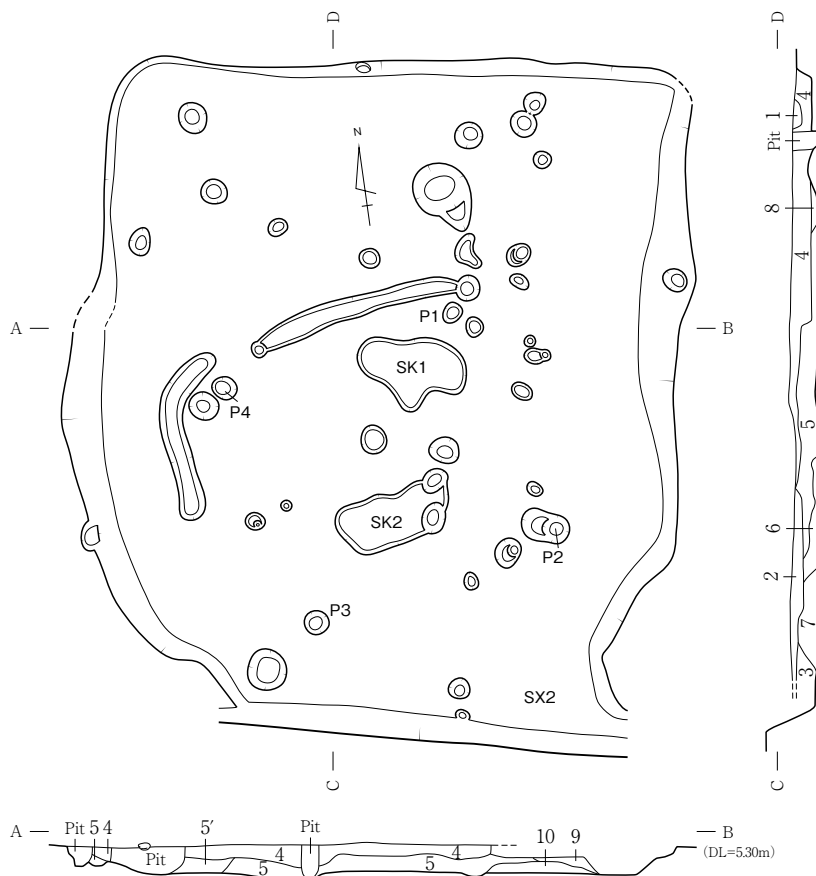
調査区中央部に位置する。竪穴建物跡の中央部はSD19、東部は調査区を南北に縦断するSD26に切られる。検出長は南北5.3m以上、東西4.0m以上を測り、平面形からは隅丸形状を呈していたと考えられる。検出面からの深さは約36cmを測り、埋土は土器片及び小礫が混じる黒褐色(10YR3/1)

シルトと黄褐色土ブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。遺構の北壁側では段部を確認した。床面からは1基の土坑と9個のピットを検出した。ピットは上面の中世のものも含まれており、支柱穴等は判然としない。土坑(SK1)は竪穴建物跡のやや南東部に位置しており、長軸は0.96m、短軸0.72m、検出面からの深さは16cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトである。SK1の周辺からは台石(1129)が出土している。出土遺物は弥生土器甕、土師器、須恵器杯身・高杯、石製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-46 1123~1129)

1123は壺または甕の口縁部で、口縁部は直立気味にのび口唇部は平坦面を呈する。外面はタタキ後ハケ調整で、口縁部はハケ調整及びナデ調整を施す。内面はハケ調整及びナデ調整である。1124は口縁部で外面は縦方向のハケ調整、内面はナデ調整を施す。1125~1127は須恵器の杯身である。1125は立ち上がりは内傾して斜め上方にのび、受部は断面三角形状を呈する。底部外面は回転ヘラケズリ調整、内面は回転ナデ調整を施す。1126は立ち上がりは内傾してのびる。底部外面は回転ヘラケズリ調整、内面は回転ナデ調整を施す。1127は立ち上がりは内傾して斜め上方にのび、受部は断面三角形状を呈する。外面内面ともに回転ナデ調整で、底部外面は回転ヘラケズリ調整である。1128は須恵器高杯で、脚部は三方に透孔が施されるとおもわれる。杯部外面には櫛描波状文を施し、底部は回転ヘラケズリ調整、口縁部外面及び内面は回転ナデ調整である。

1129は砂岩製の台石である。側縁部の一部は被熱する。中央部と周縁部には敲打痕がみられる。



遺構埋土

1. にぶい橙色(7.5YR6/4)粘質土
2. 褐灰色(7.5YR5/1)シルト
3. 黒色(7.5YR2/1)シルト
4. 土器片及び2~3cm大の円礫が混じる黒褐色(7.5YR3/2)シルト
5. 褐色(7.5YR4/4)粘質土
5. 黒褐色(7.5YR2/2)細粒砂
6. 黒褐色(7.5YR2/2)シルト
7. 2~3cm大の円礫が混じる極暗褐色(7.5YR2/3)シルト
8. 灰褐色(7.5YR4/2)粘質土
9. 黒褐色(7.5YR3/1)シルト
10. 暗褐色(7.5YR3/3)細粒砂

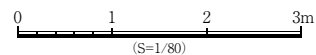


図3-47 ST53

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

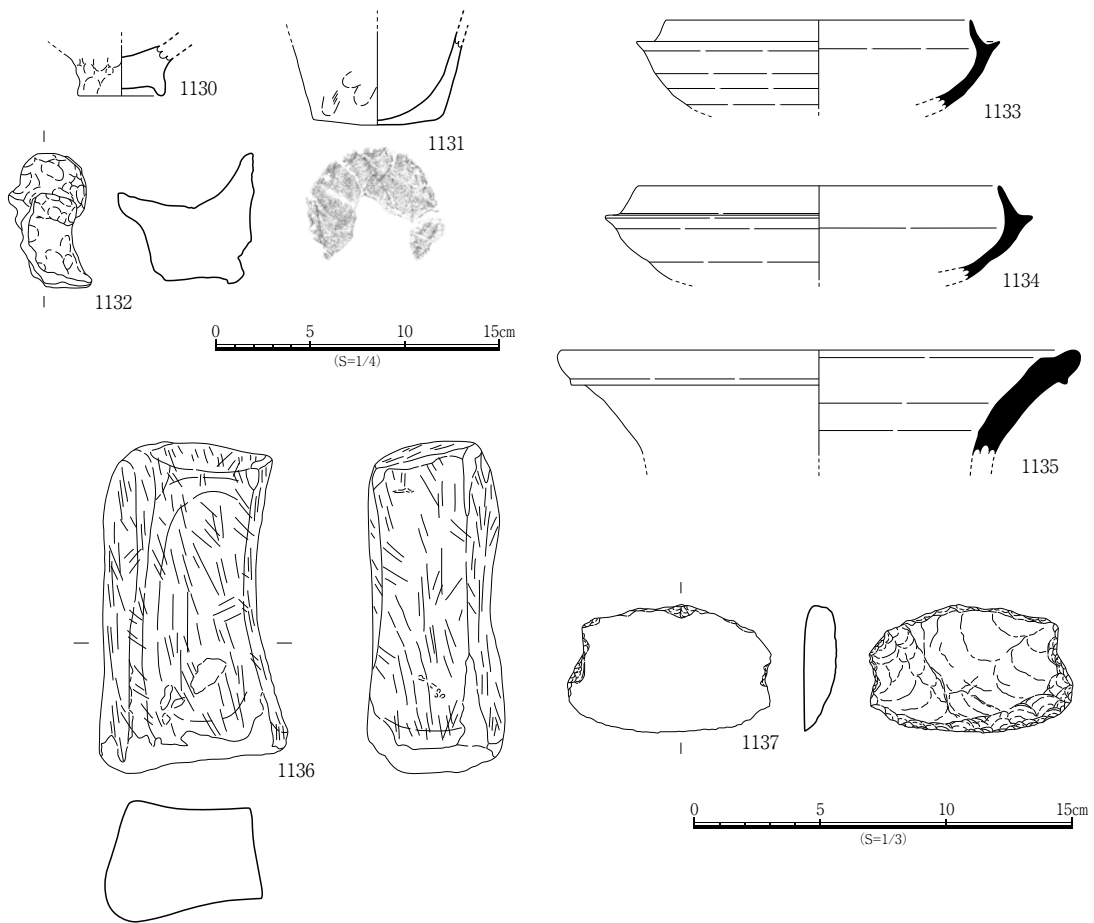


図3-48 ST53・54出土遺物実測図

ST53 (図3-47)

調査区中央南部に位置する。竪穴建物跡の南東部はSX2と上面のピットによって切られる。調査時には複数の遺構が重複している可能性を考慮していたが、埋土は類似し明確に区分することはできなかつたため、1つの遺構として掘削した。検出長は南北6.24m、東西6.4mを測り、平面形からは隅丸形状を呈していたと推定される。検出面から床面までの深さは概ね28cmを測り、埋土は褐色(7.5YR4/4)粘質土と黒褐色(7.5YR2/2)シルトである。中央ピットと考えられる土坑(SK1・2)が2基検出された。SK1は平面形が楕円形状を呈し、長軸1.12m、短軸0.48mで床面からの深さは約7cmを測る。SK2は楕円形状を呈し、長軸1.2m、短軸1.52mで床面からの深さは約5cmを測る。また床面からは数個のピットと壁溝が検出されており、その配置等から、SK1はST53_A、SK2と壁溝、P1~4はST53_Bのものと考えられる。出土遺物では弥生土器壺、支脚、須恵器杯身・甕、石製品が図示できた。

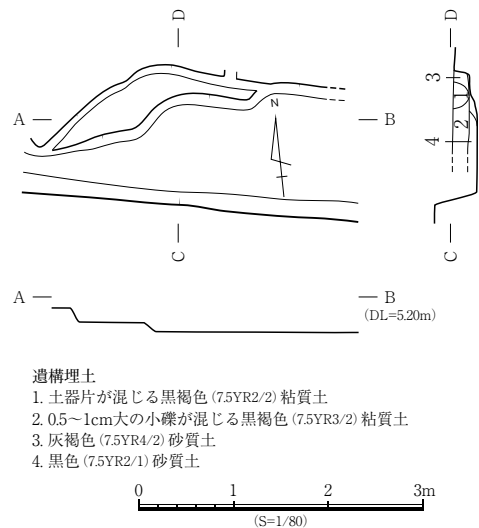


図3-49 ST54

埋土出土遺物(図3-48 1130~1136)

1130は壺の底部と考えられる。底部は脚状をしており、外面は指頭圧痕が顕著である。内面はナデ調整である。1131は壺底部である。平底で外面と内面は摩耗しているが、外面の一部に指頭圧痕がみられる。1132は支脚の上部と考えられる。外面は指頭圧痕が顕著である。1133・1134は須恵器杯身である。立ち上がりは内傾してのび、受部は断面三角形状を呈する。外面と内面は回転ナデ調整を施す。1135は須恵器甕の口縁部である。口縁端部はやや肥厚する。外面内面はナデ調整を施す。

1136は砥石である。五面に使用痕がみられる。

ST54(図3-49)

調査区中央南端に位置する。遺構の南側は調査区南壁に接し、東部はSD26によって切られる。検出長は南北0.9m、東西2.88mである。南西隅にはベッド状遺構と考えられる段部が確認できた。検出面からの深さは約24cmを測り、埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトと黒色(7.5YR2/1)シルトである。

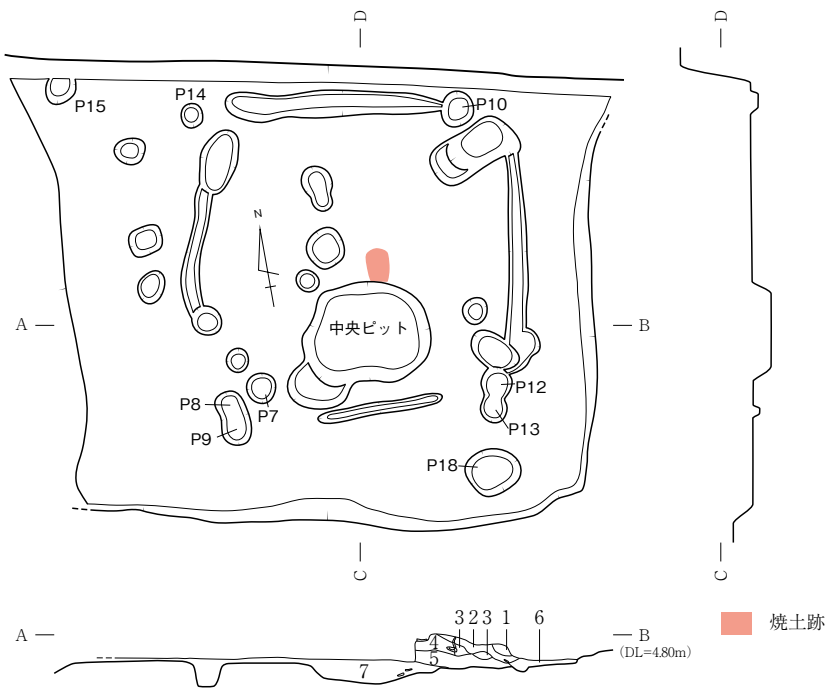
埋土出土遺物(図3-48 1137)

1137は打製石包丁である。砂岩製で一面は自然面、片面は剥離面で両側には抉りを施す。

ST55(図3-50)

調査区東部北側に位置する。遺構の西部はSD26に切れ、北部は調査区壁面に接する。検出長は南北4.64m、東西4.96mで平面形は方形状を呈する。検出面からの深さは約15cmで、埋土は暗褐色(10YR3/3)シルトと炭化物と小礫が混じる黒褐色(10YR2/2)シルトである。

堅穴建物跡の掘削段階で須恵器が集中している箇所があり、土器集中として取り上げた。ST55の上面に別の堅穴建物跡が存在していた可能性が考えられる。床面からは中央ピットと多数のピットが検出された。中央ピットはやや南側に位置し、規模は長軸1.44m、短軸1.04mで、平面形は楕円形状を呈する。中央ピットの北側には焼土が確認された。床面からの深さは約20cmである。床面からは切合いがみられるピットと壁溝が検出された。それらのピットの内、P8・10・12・14はその規模



遺構埋土

1. 黒褐色土が混じる褐色(7.5YR4/6)シルト(焼土)
2. 土器片及び0.5cm大の小礫が混じる暗褐色(10YR3/3)シルト(土器集中土)
3. 黄褐色ブロックが混じる暗褐色(10YR3/4)シルト(土器集中土)
4. 褐色(7.5YR4/6)シルト(焼土)が混じる黒褐色(10YR2/2)シルト(土器集中土)
5. 暗褐色(10YR3/3)シルト(ST55)
6. 土器片及び0.5cm大の小礫が混じる黒褐色(10YR2/2)シルト(ST55)
7. 下層に黒色土(炭化物)があり、土器片及び0.5~1cm大の小礫が混じる黒褐色(10YR2/2)シルト(ST55)

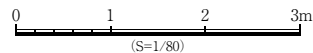


図3-50 ST55

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

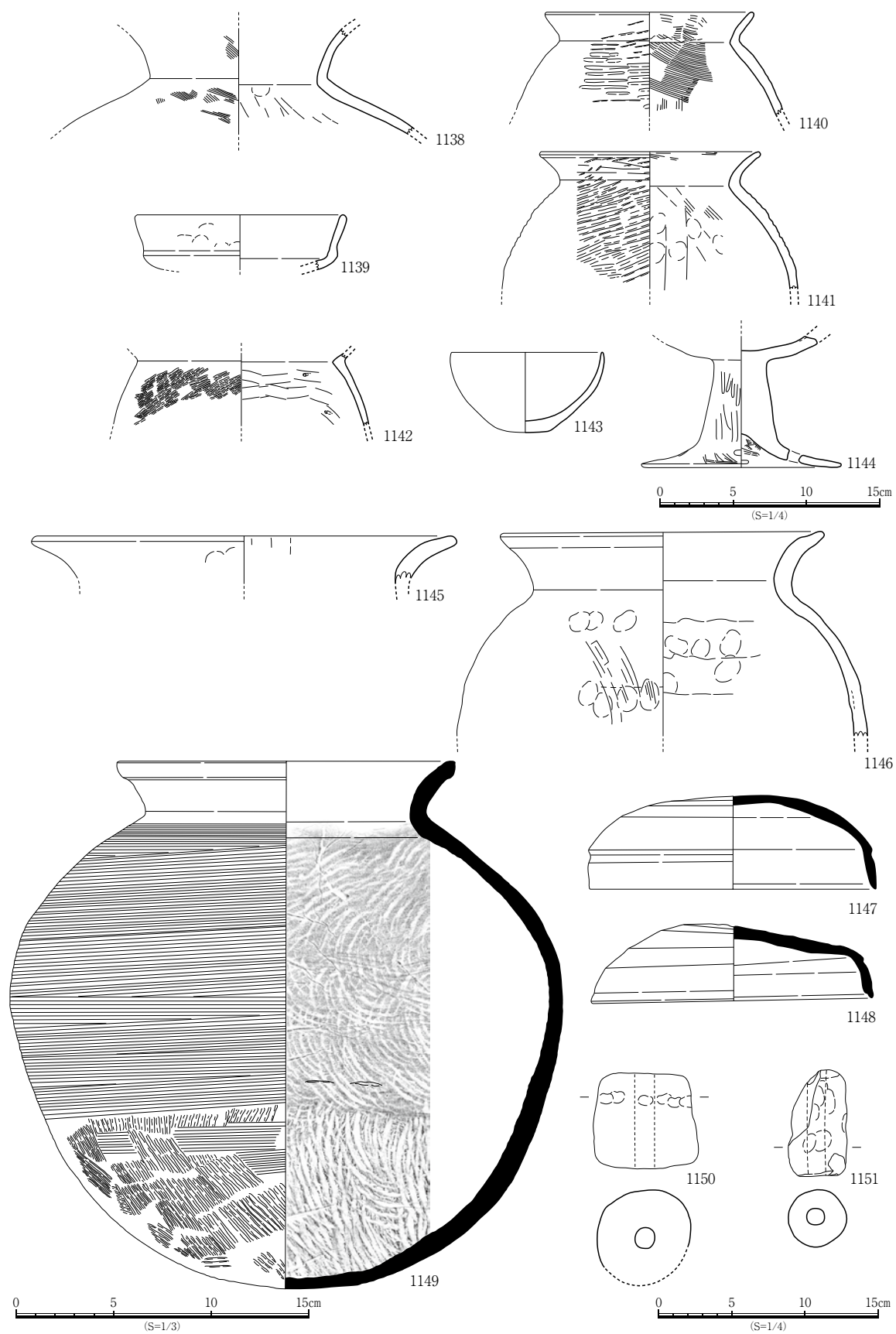


図3-51 ST55出土遺物実測図

と配置から支柱穴と考えられる。出土遺物では弥生土器壺・甕・鉢・高杯, 土師器甕, 須恵器杯蓋・甕, 土製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-51 1138~1151)

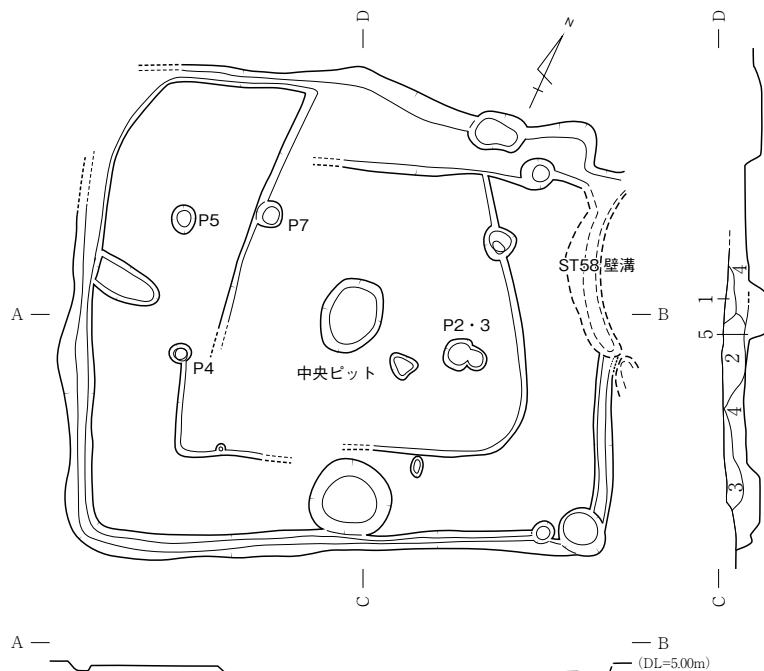
1138は壺である。外面にタタキ目がみられ, ハケ調整とナデ調整を施し, 内面は頸部から体部は指頭圧痕とナデ調整である。1139の器形は不明であるが, 口縁部片である。外面内面は摩耗する。1140は甕で口縁部は「く」の字状を呈し, 外面は口縁部までタタキ目が認められる。内面は口縁部がハケ調整とナデ調整で, 頸部から体部は丁寧なハケ調整を施す。1141は口縁部が「く」の字状を呈する甕である。外面は口縁部までタタキ目が認められ, 口縁部はナデ調整を施す。内面はハケ調整とナデ調整である。1142は庄内式土器甕である。頸部から体部上半部まで残存している。外面はタタキ目と頸部はナデ調整, 内面は口縁部がハケ調整で頸部から体部はケズリ調整を施す。1143は鉢である。口縁部にかけてやや内湾する。外面内面は摩耗する。1144は高杯である。柱部は中実で外面は縦方向のミガキ調整, 裾部は粗いミガキ調整が施される。内面はハケ調整, ナデ調整である。裾部には4カ所から5カ所の円孔が施される。

1145~1149は土器集中として取り上げたものである。1145・1146は土師器甕である。1146は口縁部が外反し, 頸部にかけて器壁は薄くなる。外面は指頭圧痕とナデ調整, 内面は指頭圧痕とナデ調整を施し, 体部には粘土紐接合痕がみられる。1147・1148は須恵器杯蓋である。1147は外面天井部に回転ヘラケズリ調整, 口縁部にかけては回転ナデ調整, 内面は回転ナデ調整を施す。焼成は不良である。1148は外面の天井部は回転

ケズリ調整で口縁部にかけて回転ナデ調整, 内面も回転ナデ調整を施す。天井部は強いナデ調整である。全体に歪む。1149は須恵器甕である。口唇部は肥厚し, 体部は球形を呈する。外面は口縁部は回転ナデ調整, 頸部から体部は平行タタキ後回転ハケ調整, 内面は口縁部が回転ナデ調整, 頸部から底部にかけて同心円文がみられる。1150は支脚と考えられる。中空で円柱状を呈する。外面は指頭圧痕, ナデ調整を施す。一部は被熱している。1151は土錘である。厚い器壁をもち外面は指頭圧痕が残る。

ST57(図3-52)

調査区東部中央に位置する。
 竪穴建物跡の北西隅は中世の溝跡SD20によって切られる。また



遺構埋土

1. 黒色 (7.5YR2/1) シルト
2. 黄褐色ブロック及び1cm大の小礫が混じる黒褐色 (10YR2/2) シルト
3. 土器片及び1cm大の小礫が混じる暗褐色 (7.5YR3/3) シルト
4. 土器片及び0.5cm大, 3cm大の小礫が混じる暗褐色 (10YR3/3) シルト
5. 黒褐色 (10YR2/2) シルト

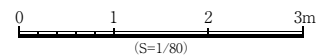


図3-52 ST57

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

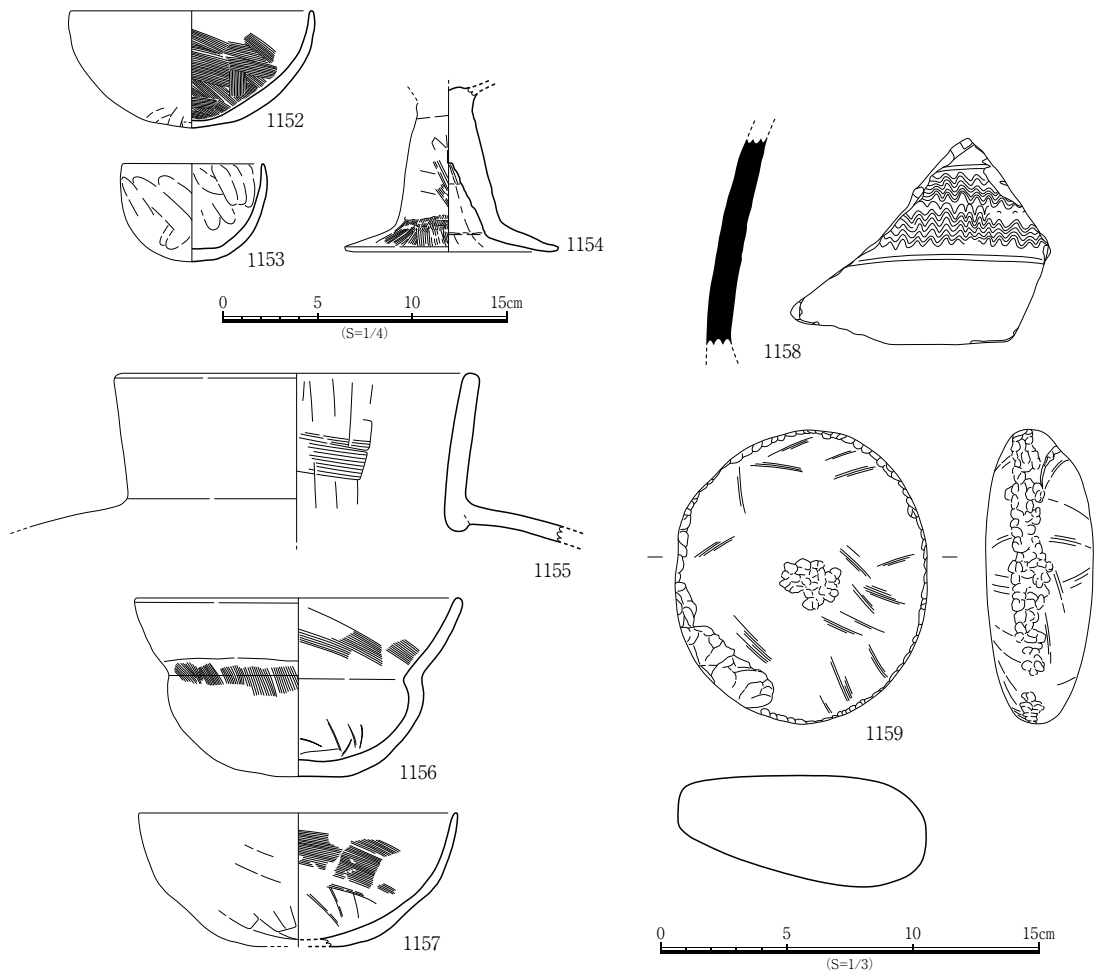


図3-53 ST57出土遺物実測図

北東部は竪穴建物跡ST58_Bに切られる。規模は長軸 5.84m，短軸 5.12mを測り，平面形は方形状を呈する。竪穴建物跡の北西部から南東部にかけてベッド状遺構が確認された。検出面からの深さはベッド状遺構上面までが約 20 cm，低床面が約 30 cmを測る。埋土は小礫が混じる暗褐色(10YR3/3)シルトである。床面からは中央ピット，土坑1基，ピット5個が検出された。中央ピットはほぼ中央部に位置し，規模は長軸0.8m，短軸0.64mで，検出面からの深さは約20cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。また竪穴建物跡の南壁側において土坑1基が検出された。規模は長軸 1.76m，短軸 1.60mで，検出面からの深さは約 18 cmを測る。埋土は竪穴建物跡の埋土と同一である。ピットは5個検出されたが，支柱穴かどうかは判然としない。壁溝は東側，南側，西側において検出された。出土遺物では弥生土器鉢・高杯，ミニチュア土器，土師器壺，小型丸底鉢，須恵器甕，石製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-53 1152~1159)

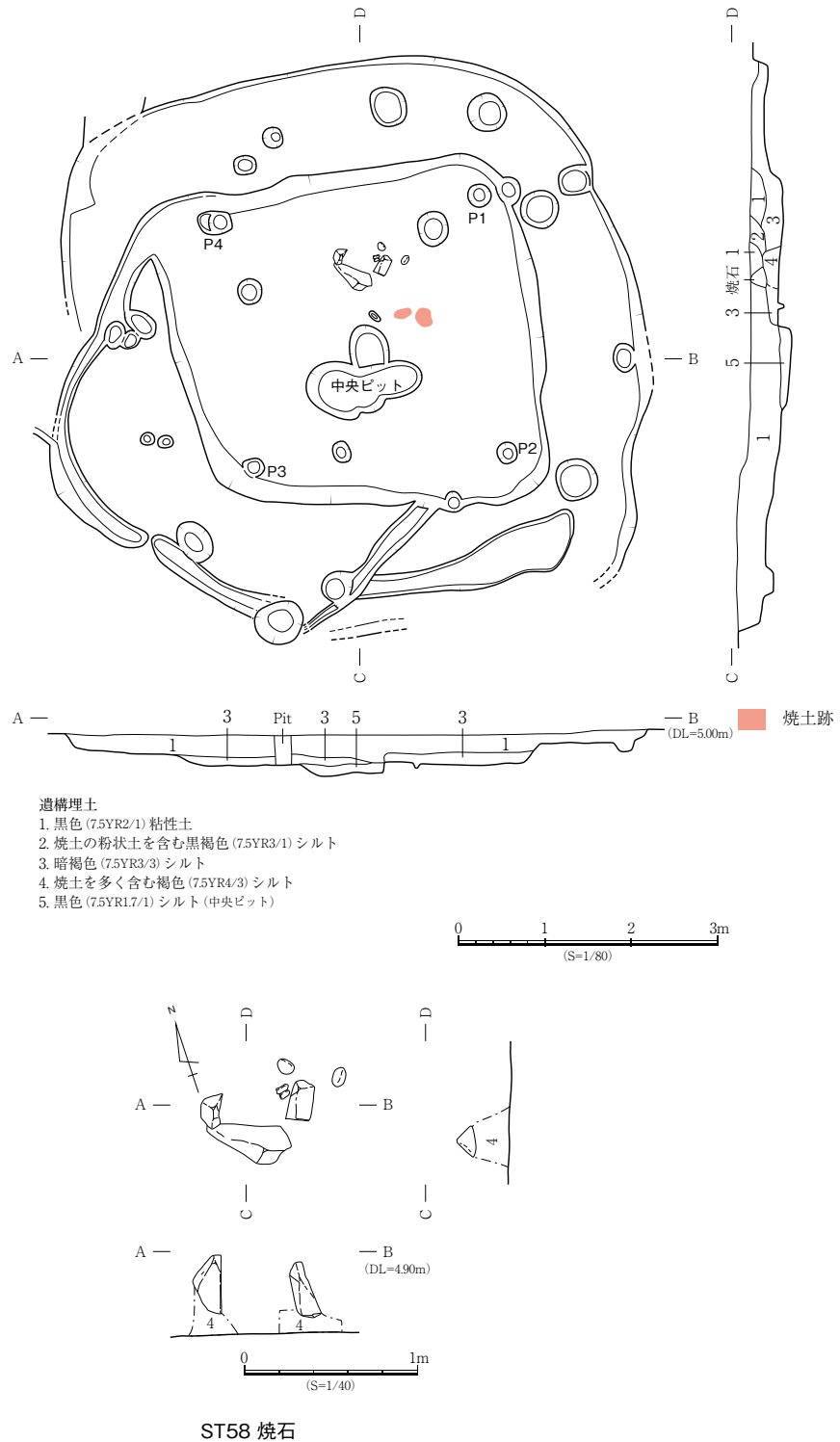
1152は底部丸底を呈する鉢である。外面は底部はケズリ調整，口縁部はナデ調整である。内面は丁寧なハケ調整を施す。1153はミニチュア土器で鉢形を呈し，外面内面ともに指頭圧痕及びナデ調整である。1154は高杯の脚部である。柱部の外面はハケ調整がみられ，裾部はハケ調整で内面はナデ調整を施す。1155は壺で，口縁部は直立してのびる。外面はナデ調整，内面はハケ調整及びナデ調整を施す。1156は口縁部は外方にひらき，口唇部は丸くおさめる。外面は口縁部がハケ調整で体部はナデ

調整, 内面は口縁部がハケ調整及びナデ調整, 底部はナデ調整と工具状の圧痕がみられる。1157は鉢である。外面は底部がケズリ調整とナデ調整, 口縁部はナデ調整である。内面はハケ調整及びナデ調整を施す。1158は須恵器甕の口縁部と考えられる。外面には沈線間に2段にわたり波状文を施す。外面内面ともに回転ナデ調整である。

1159は砂岩製の叩石で, 表面中央部と周縁部に敲打痕がみられる。

ST58(図3-54)

調査区北東部に位置する。竪穴建物跡の西側は中世の溝跡SD21によって切られる。検出時は1軒の竪穴建物跡として調査を実施したが, 西部床面において壁溝を確認したため, 2軒の竪穴建物跡が重複していたことが判明した。出土遺物等からは弥生時代終末(ST58_A)と古墳時代後期(ST58_B)の竪穴建物跡に復元することができた。ST58_Aは検出長が南北6.4m, 東西6.64mを測り, 平面形は隅丸形状を呈する。ベッド状遺構は幅約1.2mを測り全周しているものと推測される。検出面からの深さはベッド状遺構までは16cm, 低床面は約40cmで, 埋土は黒色(7.5YR2/1)粘質土と暗褐色(7.5YR3/3)シルトを主体とする。低床面からは中央ピット, ピット7個が検出された。中央ピットは低床面



ST58 焼石

図3-54 ST58

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

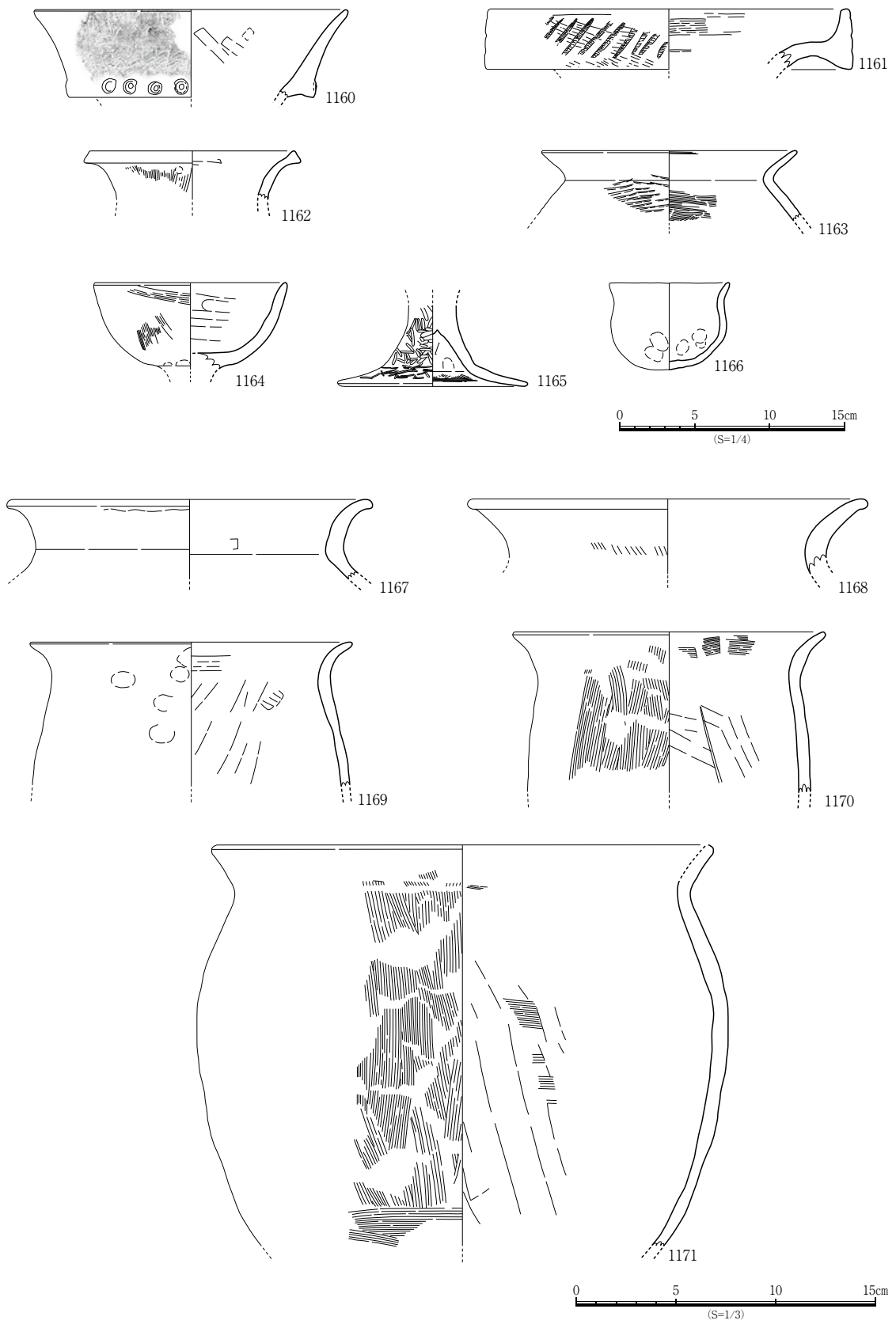


図3-55 ST58出土遺物実測図1

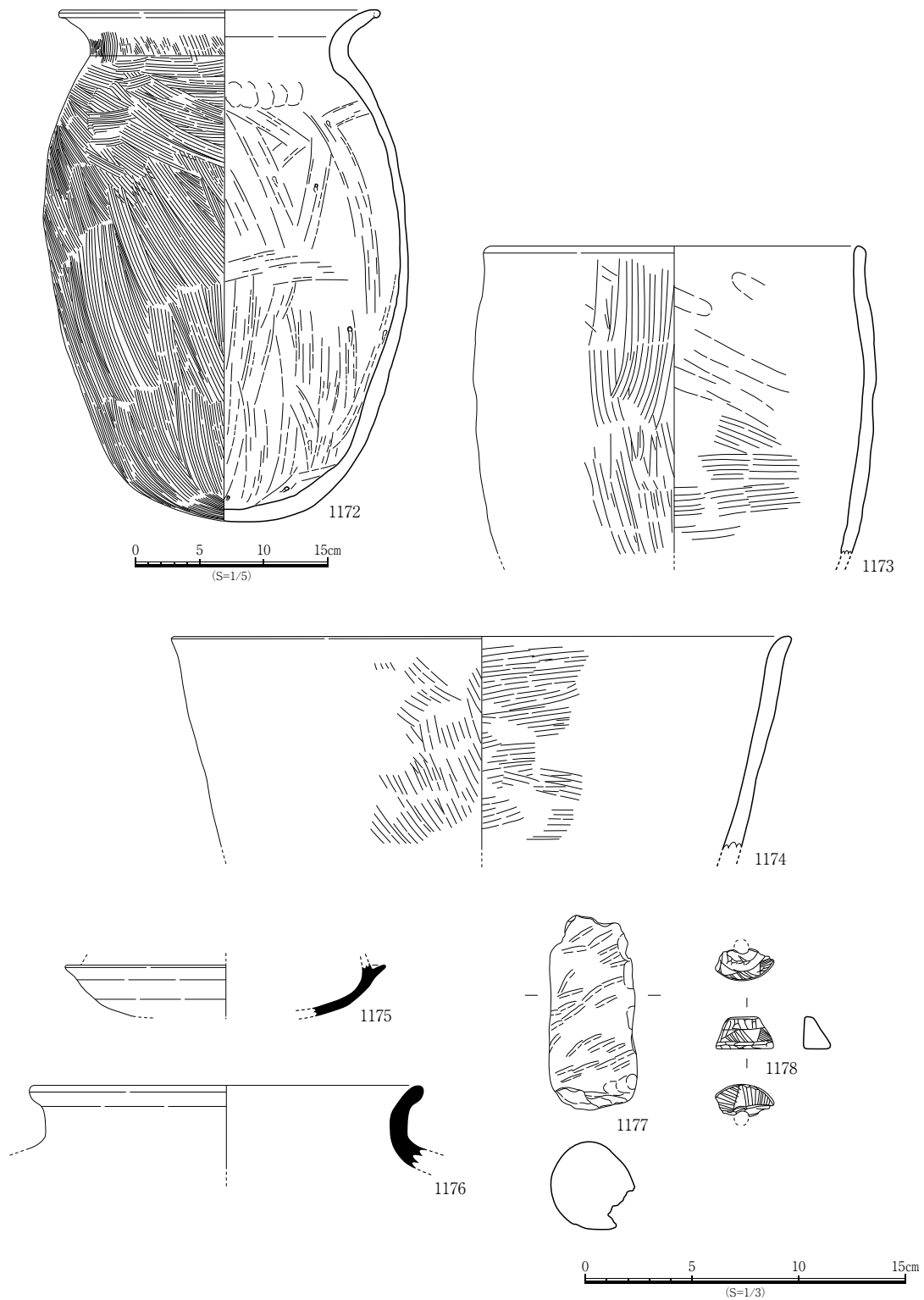


図3-56 ST58出土遺物実測図2

の中央よりやや南側に位置し、規模は長軸1.36m、短軸0.56mで検出面からの深さは約10cmである。埋土は黒色(7.5YR1.7/1)シルトである。検出されたピットの内P1~4はその規模と配置から支柱穴と考えられる。ST58_BはST58_Aの調査時に床面において検出した竪穴建物跡である。竪穴建物跡

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

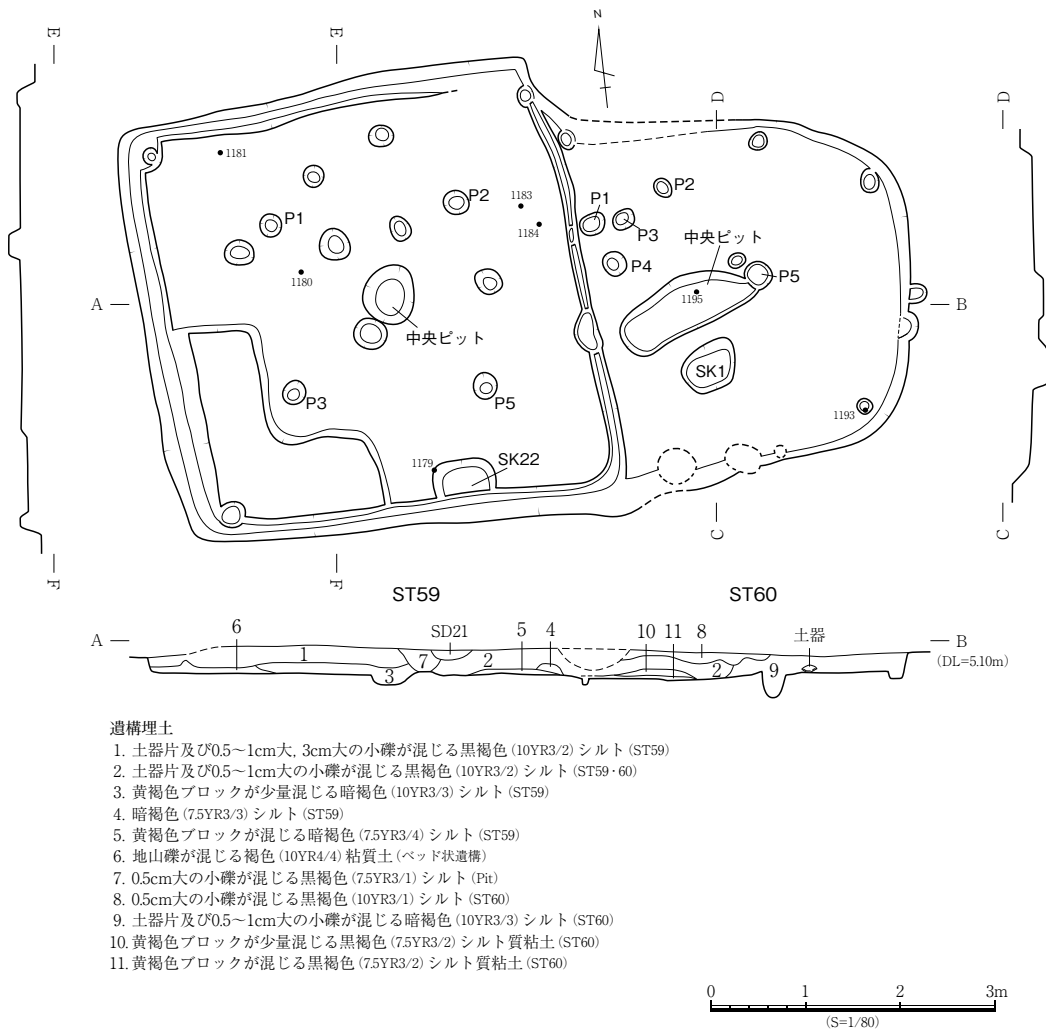


図3-57 ST59・60

の壁溝が検出されており、検出長(推定)は長軸4.56m、短軸4.4mを測る。壁溝の配置から隅丸方形状を呈していたと考えられる。検出面からの深さは約32cmを測る。埋土は黒色(7.5YR2/1)粘質土を主体とする。床面からはピット2個が検出されたが主柱穴かどうかは判然としない。ST58_Bの北部、検出面より深さ約5cm地点において30~50cm大の角礫(焼石)が出土した。南側に50cm大、その両脇に30cm大の角礫が配置された状態であり、位置関係等からカマドの可能性が考えられる。出土遺物では弥生土器壺・甕・高杯、ミニチュア土器、土師器甕・甌、須恵器杯身・甕、支脚、石製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-55・56 1160~1178)

1160~1166・1177はST58_A、1167~1176・1178はST58_Bの出土遺物と考えられる。1160は二重口縁壺で、二次口縁部外面に径1cmの浮文を貼付して竹管文を施す。外面と内面は摩耗する。1161は複合口縁壺である。二次口縁部は直立し、口唇部は平坦面を呈する。外面にはハケ状工具による刻目を施す。内面はハケ調整とナデ調整で二次口縁部の接合部は強くなる。1162は壺の口縁部である。口唇部端部は肥厚する。外面はハケ調整で内面は摩耗する。1163は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し、外面は頸部までタタキ目が認められる。外面はナデ調整、内面は口縁部はナデ調整で頸部から体部はハケ調整とナデ調整である。1164は鉢あるいは高杯の杯部である。器壁は厚い。外面はハ

ケ調整とナデ調整で内面はナデ調整を施す。1165は高杯の脚部である。外面は丁寧なミガキ調整とナデ調整、内面はナデ調整で裾部はハケ調整を施す。1166はミニチュア土器と考えられる。手づくね成形で口縁部はナデ調整、体部の内面と外面は指頭圧痕を施す。1167は土師器甕の口縁部で、外反する。外面と内面はナデ調整である。1168は甕の口縁部で外反する。外面はナデ調整で頸部近くはハケ調整、内面はナデ調整である。1169は甕で口縁部はゆるやかに外反する。外面はナデ調整、内面は口縁部がハケ調整とナデ調整、頸部から体部はケズリ調整を施す。1170は甕で口縁部はゆるやかに外反する。外面は口縁部がナデ調整と丁寧なハケ調整、内面は口縁部はハケ調整と頸部から体部はナデ調整を施す。1171は口縁部が外反し、体部中央部に最大径をもつ甕である。外面は口縁部がナデ調整で、頸部から体部は丁寧なハケ調整、内面は頸部がナデ調整、体部はケズリ調整で一部にハケ調整がみられる。口縁部外面には煤がつく。1172は土師器甕である。頸部から口縁部はゆるやかに外反し、口唇部は外側に折り返し、丸くおさめる。長胴状を呈する。外面は丁寧なハケ調整で口縁部はナデ調整を施す。内面は頸部には指頭圧痕とナデ調整、体部から底部はケズリ調整と工具によるナデ調整がみられる。底部と体部外面の一部に煤がつく。1173は甗である。口縁部はやや内傾してのびる。外面は粗い縦方向のハケ調整、ナデ調整で、内面は口縁部がナデ調整、体部はハケ調整を施す。1174は甗である。口縁部は外上方にひらく。外面はハケ調整で口縁部はナデ調整を施す。内面は横方向のハケ調整である。1175は須恵器杯身である。受部は断面三角形状を呈する。外面と内面は回転ナデ調整である。1176は須恵器甕である。口縁部は外反し、口唇部はやや肥厚する。外面内面ともに回転ナデ調整である。1177は支脚の一部と考えられる。外面はタタキ目がみられ、指頭圧痕とナデ調整である。

1178は石製紡錘車である。滑石製と考えられる。側面と底部外面には鋸歯文がみられる。

ST59(図3-57)

調査区東部南に位置する。竪穴建物跡の東部は重複する竪穴建物跡ST60に切られ、上面はSD21によって切られている。規模は長軸は4.72m、短軸4.64mを測り平面形は隅丸方形形状を呈する。竪穴建物跡の西南隅にはL字状のベッド状遺構が検出された。検出面からの深さはベッド状遺構までは約15cm、低床面は約20cmを測り、埋土は土器片及び小礫が混じる黒褐色(10YR3/2)シルトと黄褐色シルトブロックが混じる暗褐色(10YR3/3)シルトが主体である。低床面においては中央ピットと13個のピットが検出された。中央ピットはほぼ中央部に位置しており、規模は径0.46mを測る円形状を呈する。埋土は黄褐色土ブロックが少量混じる暗褐色(10YR3/3)シルトである。床面で検出されたピットの内P1～4はその規模と配置から主柱穴と考えられる。壁溝は浅いが全周していたものと考えられる。出土遺物では弥生土器壺・鉢、土製品、石製品、金属製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-58 1179~1189)

1179は壺あるいは甕で口縁部は残存していない。体部は球形状を呈し、器面の一部は剥離している。外面は底部までタタキ目が認められる。内面はハケ調整、ナデ調整である。1180は壺と考えられる。体部は球形状である。外面は丁寧なナデ調整で、内面は体部上半部は横方向のナデ調整、体部下半部は縦方向のナデ調整を施す。1181は鉢である。底部は丸底状を呈し、外面は丁寧なナデ調整で一部にハケ調整がみられる。内面は指頭圧痕、ナデ調整を施す。1182は皿状の鉢である。外面内面ともに指頭圧痕、ナデ調整を施す。1183は底部が平底状を呈し、口縁部にかけて外上方にのびる。外面はナデ調整、内面はハケ調整で口縁端部と底部はナデ調整である。1184は鉢である。口縁部にかけて内湾する。外面はナデ調整、内面はハケ調整で底部はナデ調整を施す。

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

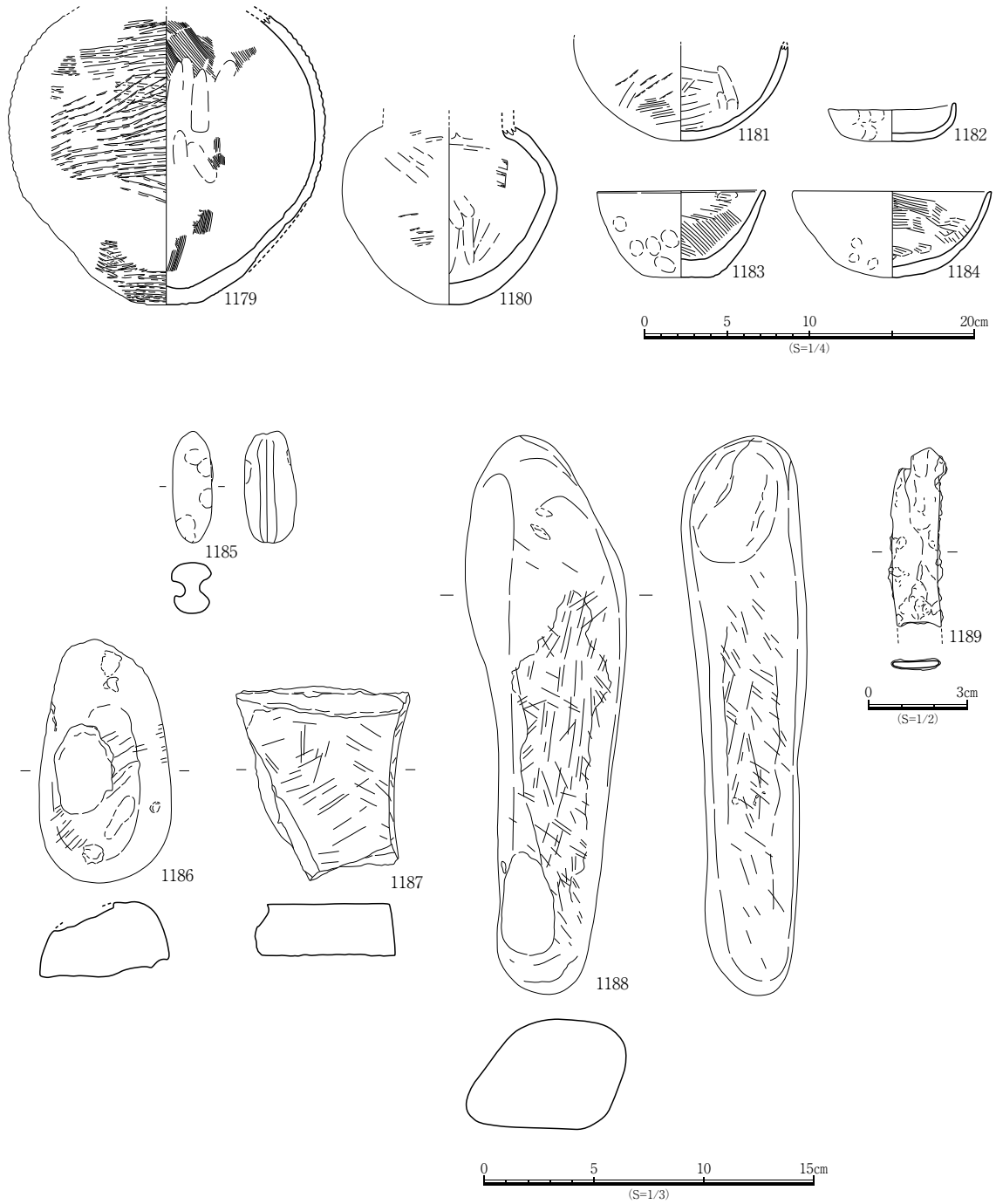


図3-58 ST59出土遺物実測図

1185は土錘と考えられる。両側面は凹状で断面形は分銅形を呈する。外面は指頭圧痕、ナデ調整である。

1186は叩石と考えられる。一部は剥離している。使用痕跡と思われる凹みがみられる。1187は砂岩製の砥石である。三面に使用痕がみられる。1188は砂岩製の砥石で二面に使用痕が認められる。

1189は金属製品である。器形は不明である。

ST60(図3-57)

調査区東部南に位置する。竪穴建物跡の西部に重複する竪穴建物跡ST59を切る。検出面では切合

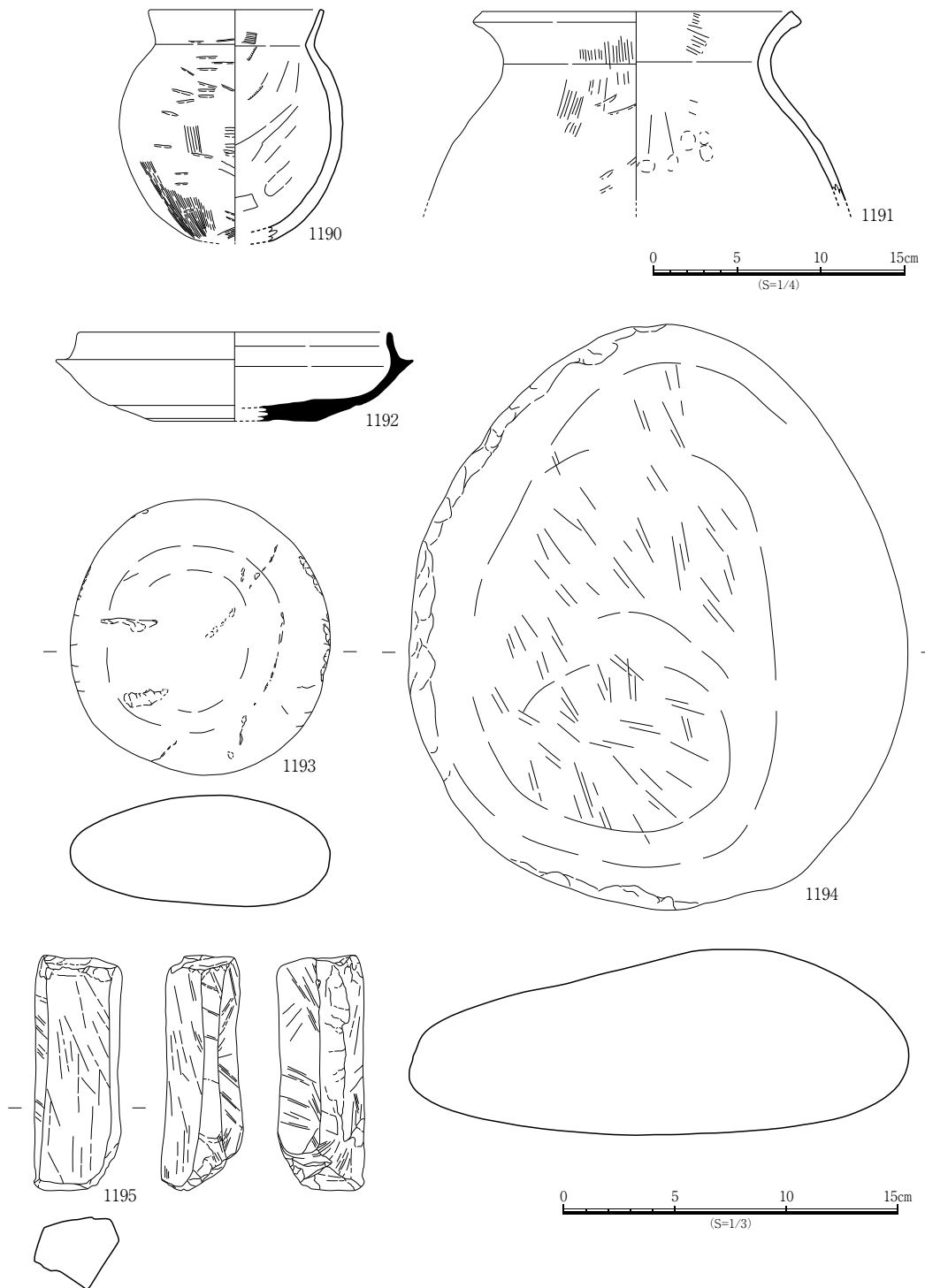


図3-59 ST60出土遺物実測図

い関係は不明であったため、掘り下げながらの確認であった。検出長は南北3.8m以上、東西3.28m以上を測り平面形は隅丸形状を呈すると考えられる。検出面からの深さは24cmを測り、埋土は土器片及び小礫が混じる黒褐色(10YR2/3)シルトと暗褐色(10YR3/3)シルトが主体である。中央ピットはほぼ中央に位置すると考えられ、規模は長軸1.52m、短軸0.6mを測り、平面形は楕円形状を呈する。検出面からの深さは約10cmを測り、埋土は暗褐色(10YR3/3)シルトに炭化物が混じる。また床面か

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

らは土坑1基とピットが検出された。土坑(SK1)は中央ピットの約20cm南に位置しており、径56cmを測り、平面形は円形状を呈する。検出面からの深さは約14cmを測り、埋土は炭化物を含む暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。ピットは7個検出されたが、主柱穴であるかどうかは判然としない。出土遺物は弥生土器甕、須恵器杯身、石製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-59 1190~1195)

1190は体部中央部に最大径をもつ甕である。外面は頸部までタタキ目が認められ、体部下半部はハケ調整である。内面はナデ調整を施す。1191は甕の口縁部から体部である。口縁部は外反し、口唇部はやや肥厚する。外面はタタキ目が一部認められ、口縁部から頸部にかけてはハケ調整を施す。内面はハケ及びナデ調整を施す。1192は須恵器杯身である。立ち上がりは内傾してのび、受部は断面三角形形状を呈する。底部外面は回転ケズリ調整、内面は回転ナデ調整を施す。1193は砂岩製の叩石である。側縁部には敲打痕がみられる。1194は砂岩製の台石である。一面の約2/3に使用痕がみられる。1195は砥石である。断面は多角形状を呈し、四面に使用痕がみられる。

ST61・62(図3-60)

調査区の南東部に位置する。竪穴建物跡の南側は調査区南壁に接し、上面は中世の溝跡SD25によって切られる。検出時は1軒の竪穴建物跡として認識したが、掘削を進めて行くと2軒の竪穴建物跡であったことが判明した。出土遺物等からは弥生時代終末(ST61)と古墳時代後期(ST62)が考えられる。検出長は南北3.68m、東西7.0m以上と推定される。東西の検出長は2軒分である。竪穴建物跡の北西部にはベッド状遺構と考えられる段部が検出された。検出面からの深さはベッド状遺構までは約26cm、低床面は約34cm前後を測る。埋土は土器片を多く含む黒褐色(7.5YR3/2)シルトと暗褐色(7.5YR3/4)シルトを主体に褐色(7.5YR4/4)シルトが混じる。

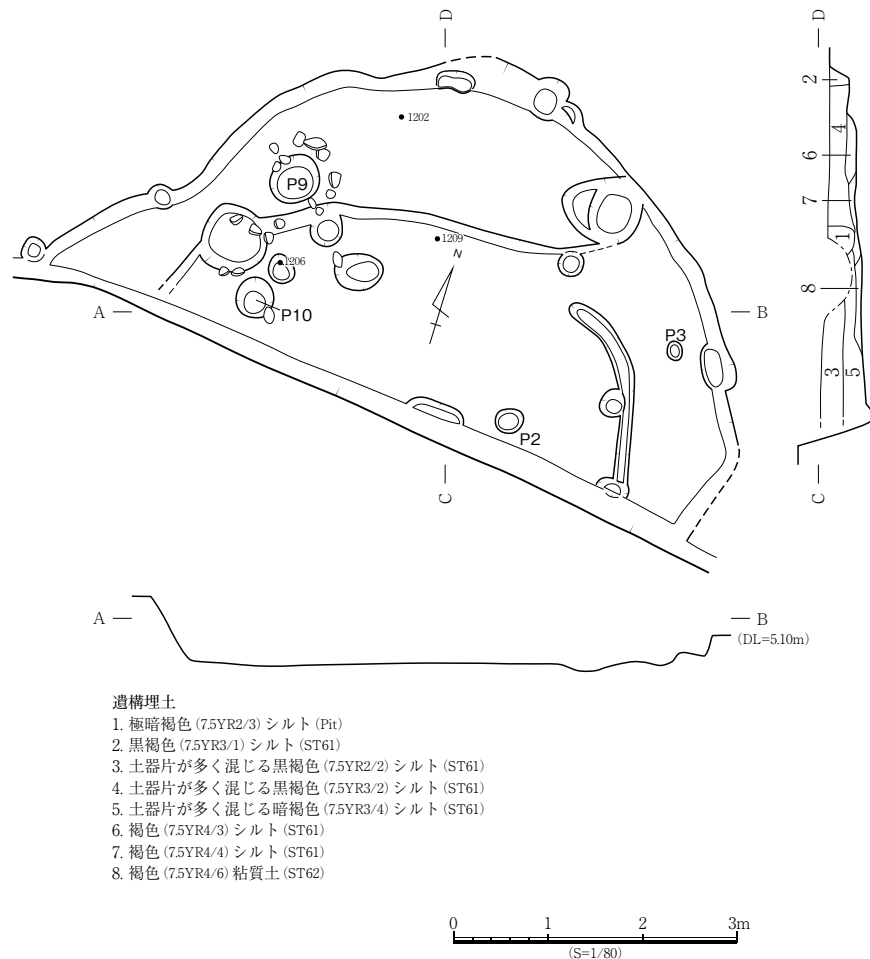


図3-60 ST61・62

床面からはピットが検出された。ピットは上面の中世遺構も含まれており、主柱穴かどうかは判

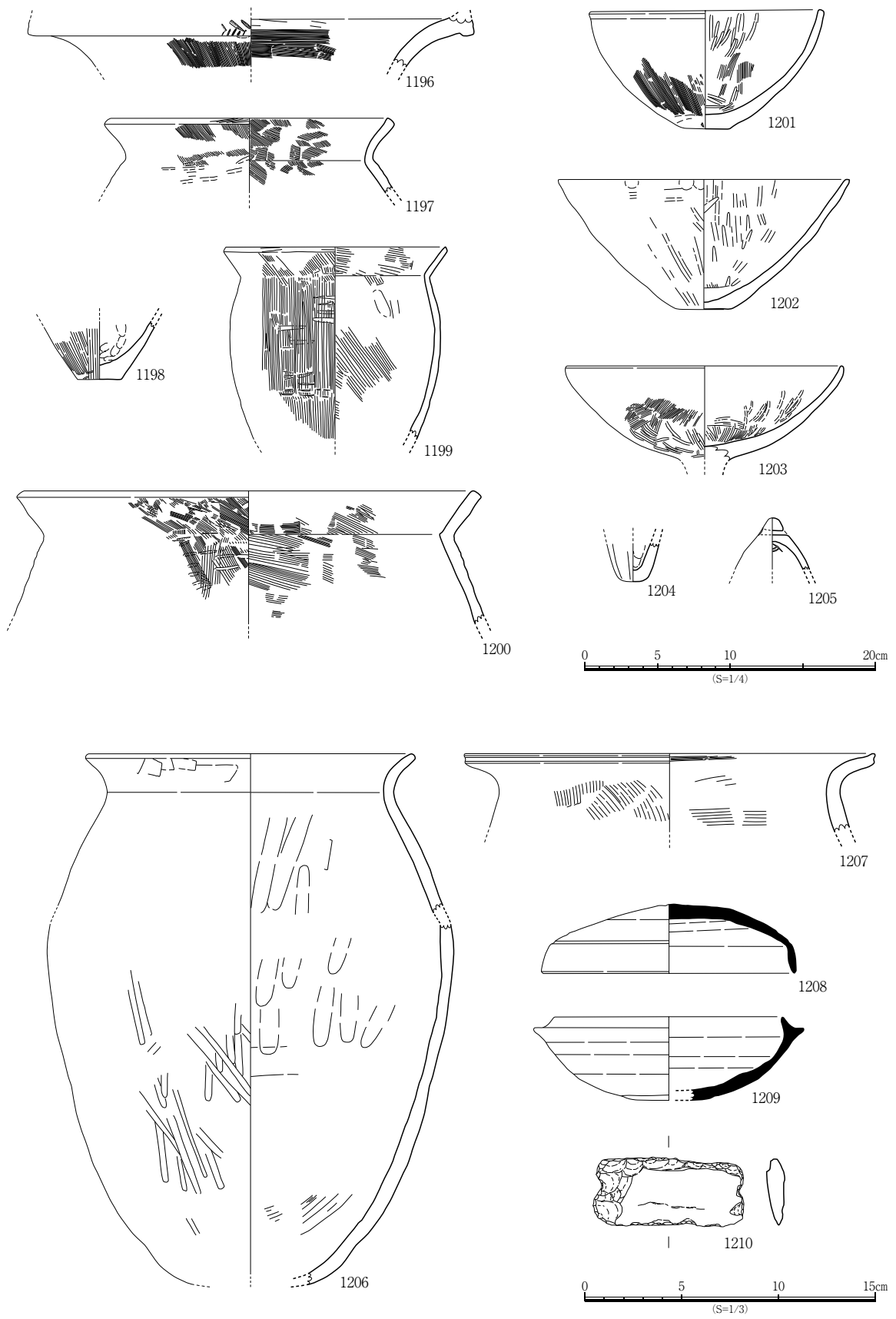


图3-61 ST61·62出土遗物实测图

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

然としないが, その内P9からは土器片が出土している。また床面からは壁溝を検出した。調査区南壁側から北東部にかけて曲がるもので, ST62に伴うものと考えられる。出土遺物では弥生土器壺・甕・鉢・高杯, ミニチュア土器, 土製品, 土師器甕, 須恵器杯蓋・杯身, 石製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-61 1196~1210)

1196~1205・1210はST62, 1206・1208・1209はST61の出土遺物と考えられる。1196は広口壺の口縁部と考えられる。口縁端部は欠損する。口唇部外面は刻目を施し, 口縁部はハケ調整である。内面はハケ調整を施す。1197は甕の口縁部で外反し, 口唇部はナデ調整を施す。外面は頸部にタタキ目痕が認められ, 口縁部はハケ調整を施す。内面はハケ調整である。外面には煤がみられる。1198は壺の底部と考えられる。底部は平底状を呈し, 外面はタタキ後ハケ調整, 内面はナデ調整及び指頭圧痕がみられる。1199は甕で口縁部は「く」の字状を呈する。外面は頸部近くまでタタキ後ハケ調整を施す。内面はハケ調整及びナデ調整である。1200は大型の甕で口縁部は「く」の字状を呈する。外面は頸部までタタキ後口縁部はハケ調整, 口唇部はナデ調整を施す。内面はハケ調整及びナデ調整がみられる。1201・1202は鉢である。1201の底部は平底状を呈し, 口縁部にかけやや内湾気味にのびる。外面は口縁部にナデ調整, 底部にかけてはハケ調整である。内面はハケ調整及びナデ調整とミガキ調整を施す。1202も底部は平底状を呈し, 口縁部は斜め上方にひらく。外面はタタキ後ハケ調整とミガキ調整, 内面は口縁部にハケ調整, 体部にかけてはミガキ調整を施す。1203は高杯の杯部で, 浅い鉢状を呈する。外面は口縁部がハケ調整及びナデ調整で下半部はミガキ調整を施す。内面はナデ調整と丁寧なミガキ調整を施す。1204はミニチュア土器の一部で外面内面ともに指頭圧痕とナデ調整を施す。1205は器種が不明である。径0.4cmを測る円孔が施され, 内面は工具による圧痕がみられる。1206は土師器の甕で, 口縁部は外反し, 口唇部は平坦面を呈する。体部上半部に最大径をもつ。外面

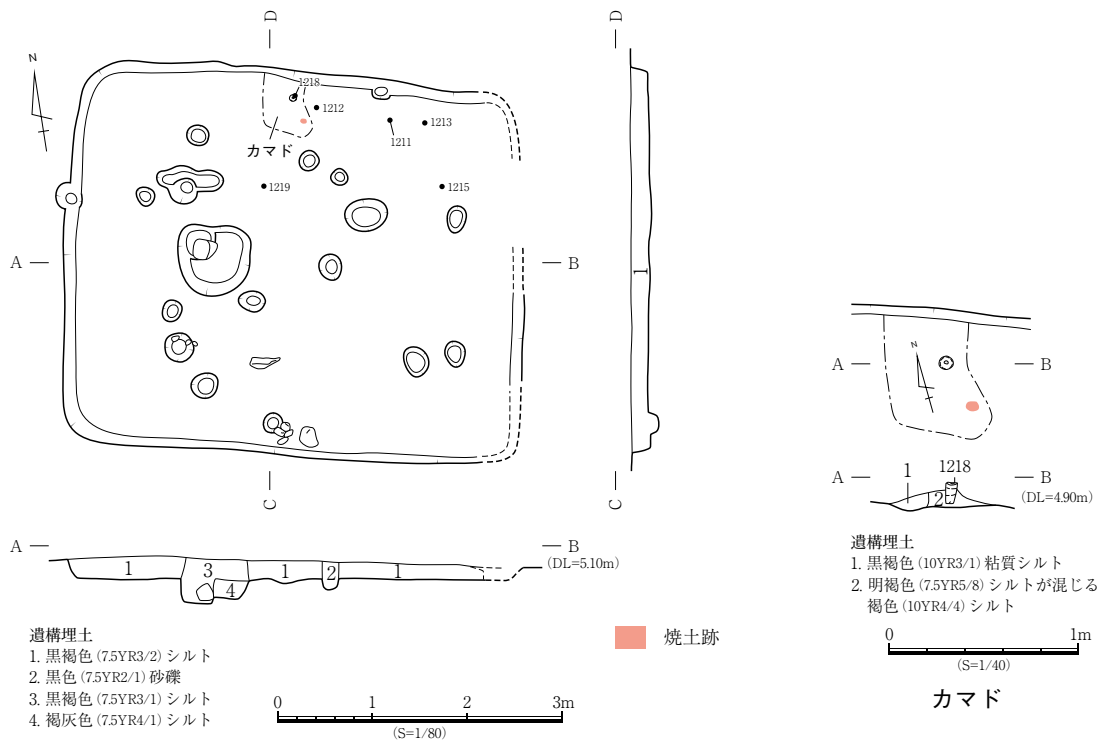


図3-62 ST63

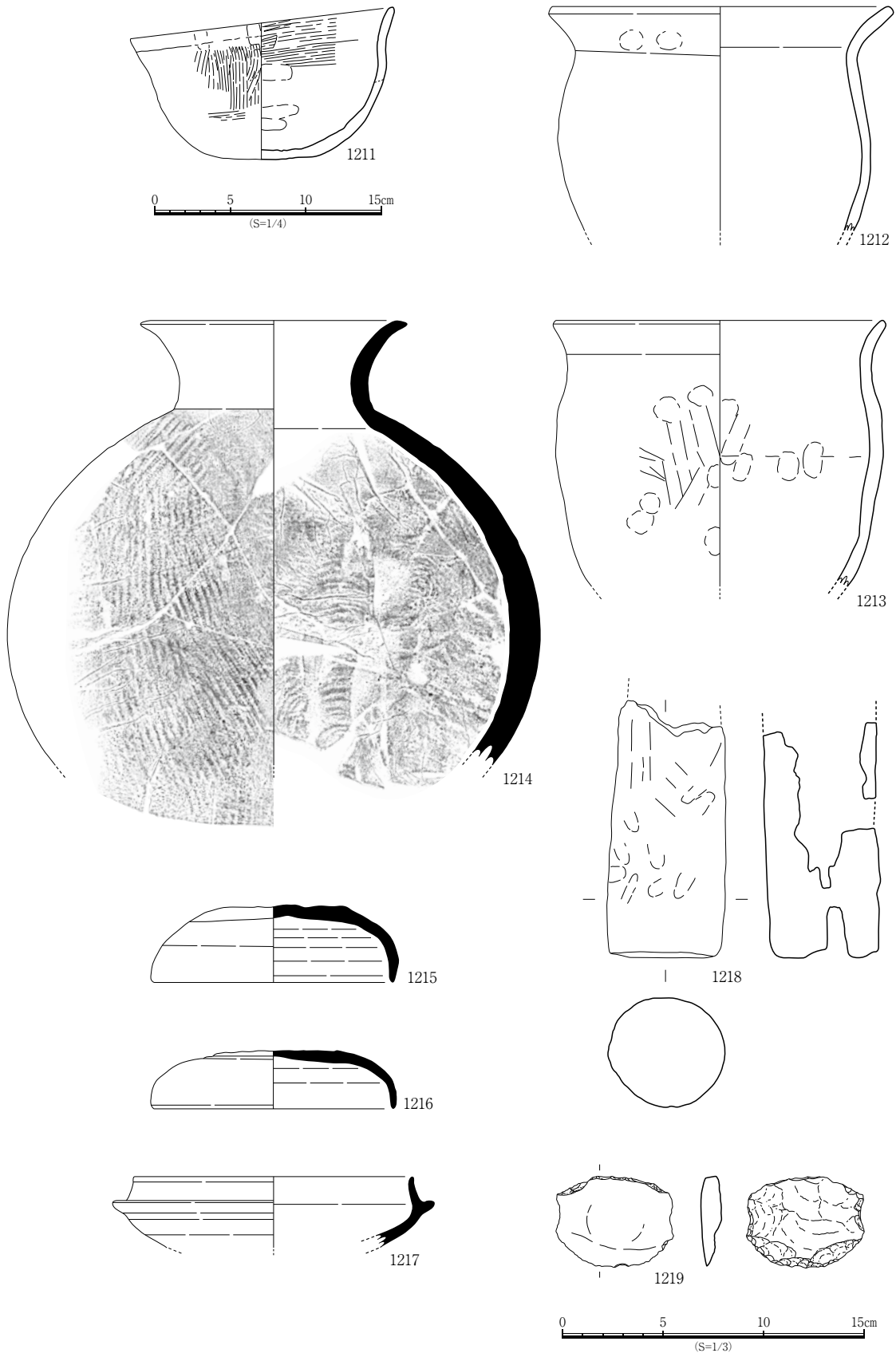


图3-63 ST63出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

は口縁部にナデ調整, 体部下半部から底部にかけてミガキ調整及びナデ調整を施す。内面は口縁部にナデ調整, 頸部から体部下半部にかけて指頭圧痕とナデ調整, また底部にかけてはハケ調整がみられる。外面の一部には煤がつく。1207は甕で口縁部は強く外反し, 口唇部には1条の凹線が巡る。外面内面ともにナデ調整及びハケ調整を施す。上面遺構からの混入と考えられる。1208・1209は須恵器杯蓋と杯身である。1208は天井部を回転ケズリ調整, その他は回転ナデ調整, 内面は回転ナデ調整を施す。天井部には歪みがみられる。1209は立ち上がりは内傾し短くのび, 受部は扁平な三角形状を呈する。外面は底部回転ケズリ調整, その他は回転ナデ調整を施す。

1210は結晶片岩製の打製石包丁である。両側は抉りを施す。

ST63(図3-62)

調査区東部中央に位置する。竪穴建物跡の東側は掘立柱建物跡SB8によって切られる。規模は長軸4.88m, 短軸4.16mを測り, 平面形は隅丸方形を呈する。検出面からの深さは16~24cmを測り, 埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトである。遺構の北壁中央部では焼土を伴う黒褐色(10YR3/1)粘質シルトを検出した。これには1218が伴っており, カマドがあった可能性も考えられる。床面からは12個のピットを検出したが, 主柱穴かどうかは判然としない。出土遺物では弥生土器鉢, 土師器甕, 須恵器甕・杯蓋・杯身, 支脚, 石製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-63 1211~1219)

1211は弥生土器鉢である。口縁部はやや外反する。外面はハケ調整及びナデ調整, 内面は口縁部がハケ調整で, 体部から底部は指頭圧痕及びナデ調整である。1212・1213は土師器甕で1212の口縁部は外反する。外面口縁部はナデ調整でその他は外面内面ともに摩耗する。1213は口縁部はゆるやかに外反する。外面は指頭圧痕及びナデ調整, 内面はナデ調整で粘土紐接合痕がみられる。1214は須恵器の壺である。口縁部は外反する。体部外面は頸部までタタキ目が認められ, 内面には同心円文がみられる。1215・1216は須恵器杯蓋である。1215は天井部が回転ヘラケズリ調整でその他は回転ナデ調整, 内面は回転ナデ調整である。1216は天井部が回転ヘラケズリ調整と回転ナデ調整で, 内面は回転ナデ調整を施す。1217は立ち上がりは内傾してのびる。外面内面ともに回転ナデ調整である。1218は支脚と考えられる。円柱状を呈し, 途中は中空である。外面は指頭圧痕及びナデ調整で一部剥離している。焼成不良である。

1219は砂岩製の打製石包丁である。一面は自然面, 片面は剥離面で両側は抉り状を

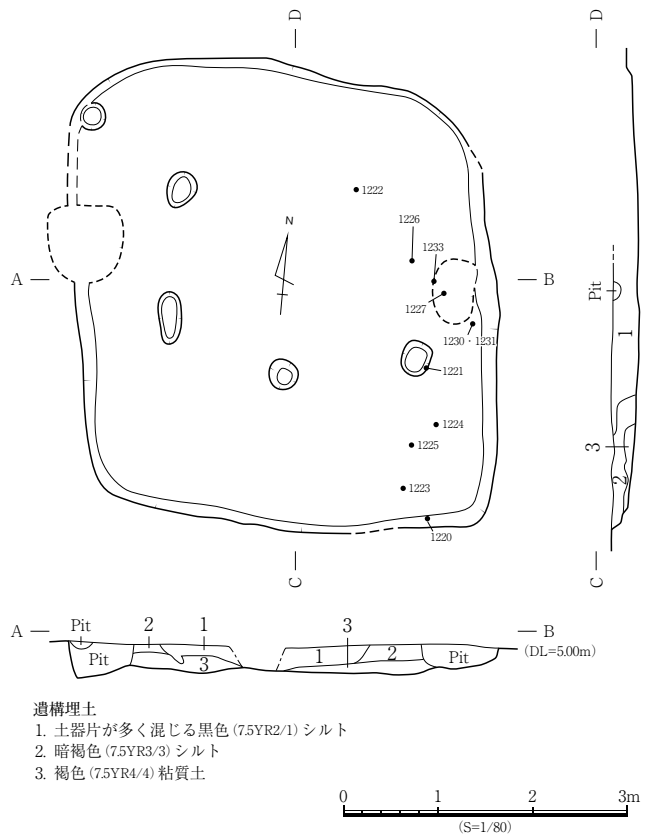


図3-64 ST64

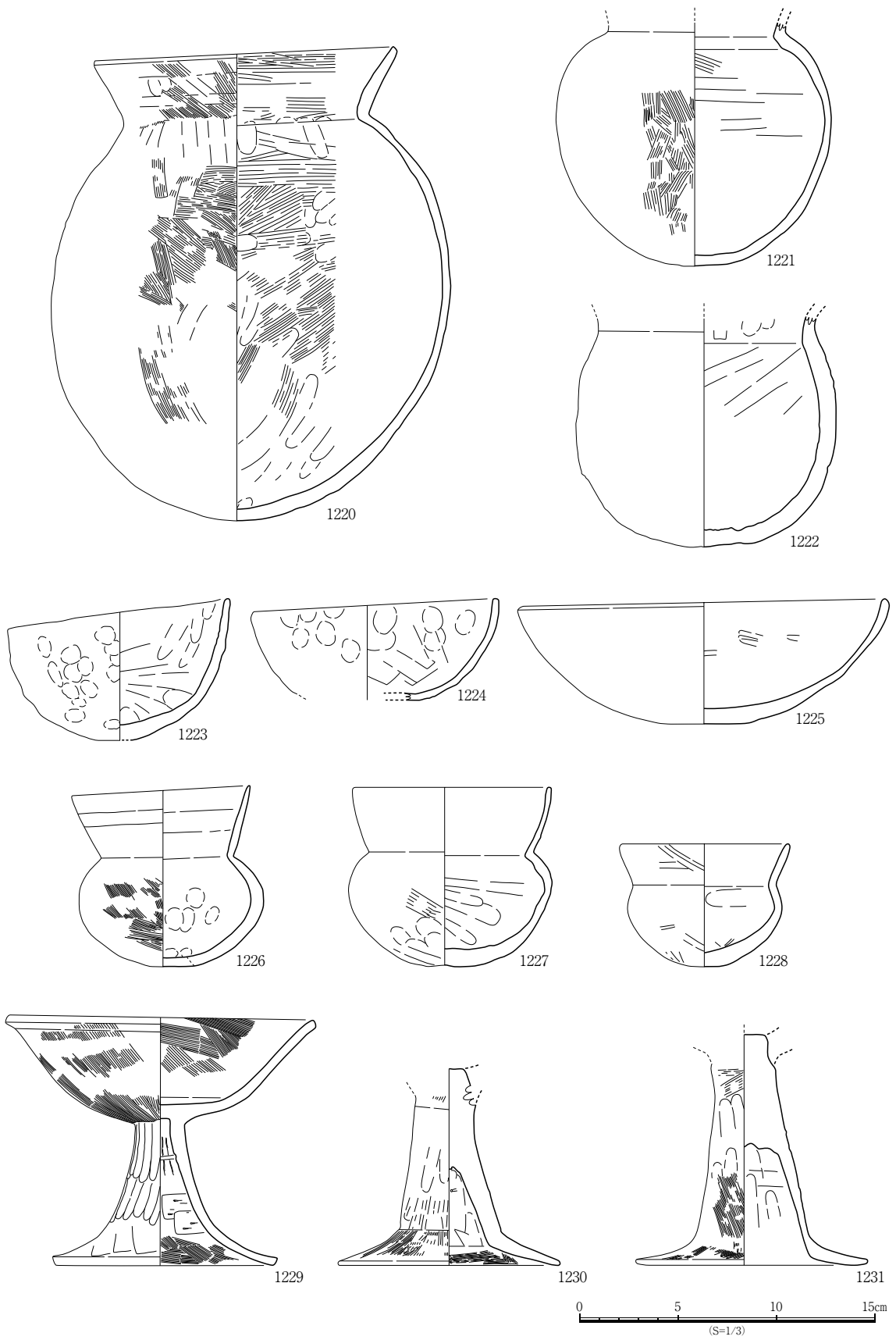


图3-65 ST64出土遺物実測図1

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

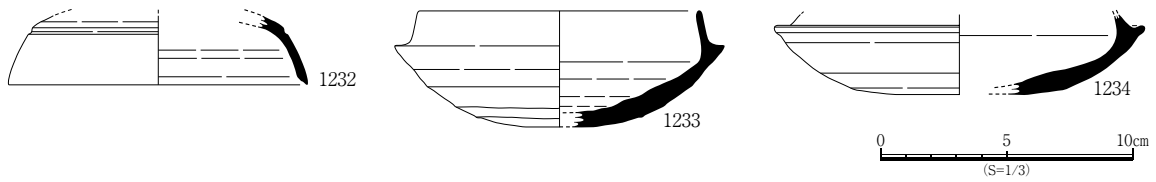


図3-66 ST64出土遺物実測図2

呈する。

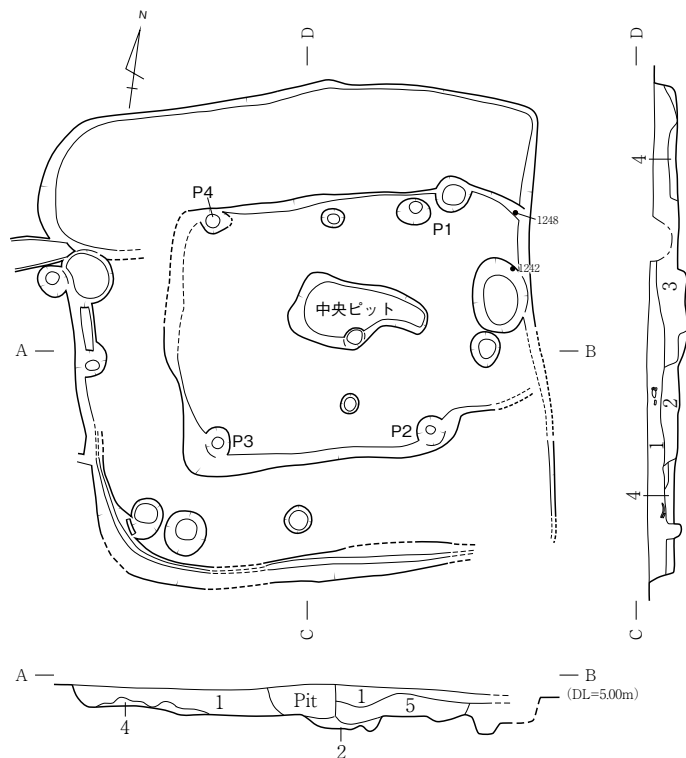
ST64(図3-64)

調査区の南東部に位置する。竪穴建物跡の中央部上面は中世の区画溝SD25と掘立柱建物跡SB8によって切られている。規模は長軸4.96m、短軸4.48mを測り、平面形は隅丸形状を呈する。検出面からの深さは28cmを測り、埋土は土器片を含む黒色(7.5YR2/1)と暗褐色(7.5YR3/3)シルトを主体とする。床面からはピットを4個確認したが、支柱穴かどうかは判然としない。出土遺物では土師器甕・椀、小型丸底鉢、土師器高杯、須恵器杯蓋・杯身が図示できた。

埋土出土遺物(図3-65・66 1220~1234)

1220は甕である。底部は丸底で、口縁部は外方にのび、体部中央部に最大径をもつ。歪みがみられる。外面は丁寧なハケ調整とナデ調整、

内面は口縁部から体部下半部までハケ調整及びナデ調整、底部は指頭圧痕とナデ調整がみられる。外面体部中央部から底部外面には煤がつく。1221は小型の甕で、口縁部は欠損している。底部は丸底で体部は球形を呈する。外面はハケ調整及びナデ調整で内面は体部上半部がケズリ調整、体部下半部から底部はナデ調整を施す。1222も小型甕で、口縁部は欠損している。器壁は厚い。外面は摩耗しており、内面はナデ調整がみられる。1223~1225は椀である。1223は口縁部が内湾する椀で、外面内面ともに指頭圧痕及びナデ調整で、とくに外面は指頭圧痕が顕著である。1224は外面内面ともに指頭圧痕及びナデ調整で底部内面には工具状の圧痕がみられる。1225は大振りの椀で口縁部に向け内湾する。外面内面ともに丁寧なナデ調整を施す。1226~1228は小型丸底鉢である。1226の外面はハケ調整及び丁寧なナデ調整を施す。内面も同



遺構埋土

1. 土器片及び0.5~1cm大の小礫、5cm大の礫が混じる黒褐色(10YR2/3)粘質土
2. 土器片及び0.5~1cm大の小礫が混じる黒褐色(10YR2/2)粘質土
3. 土器片及び1~2cm大の小礫が混じる暗褐色(10YR3/3)粘質土
4. 褐色(10YR4/4)粘質土
5. 土器片及び0.5~1cm大の小礫が混じる黒色(10YR2/1)粘質土

図3-67 ST65

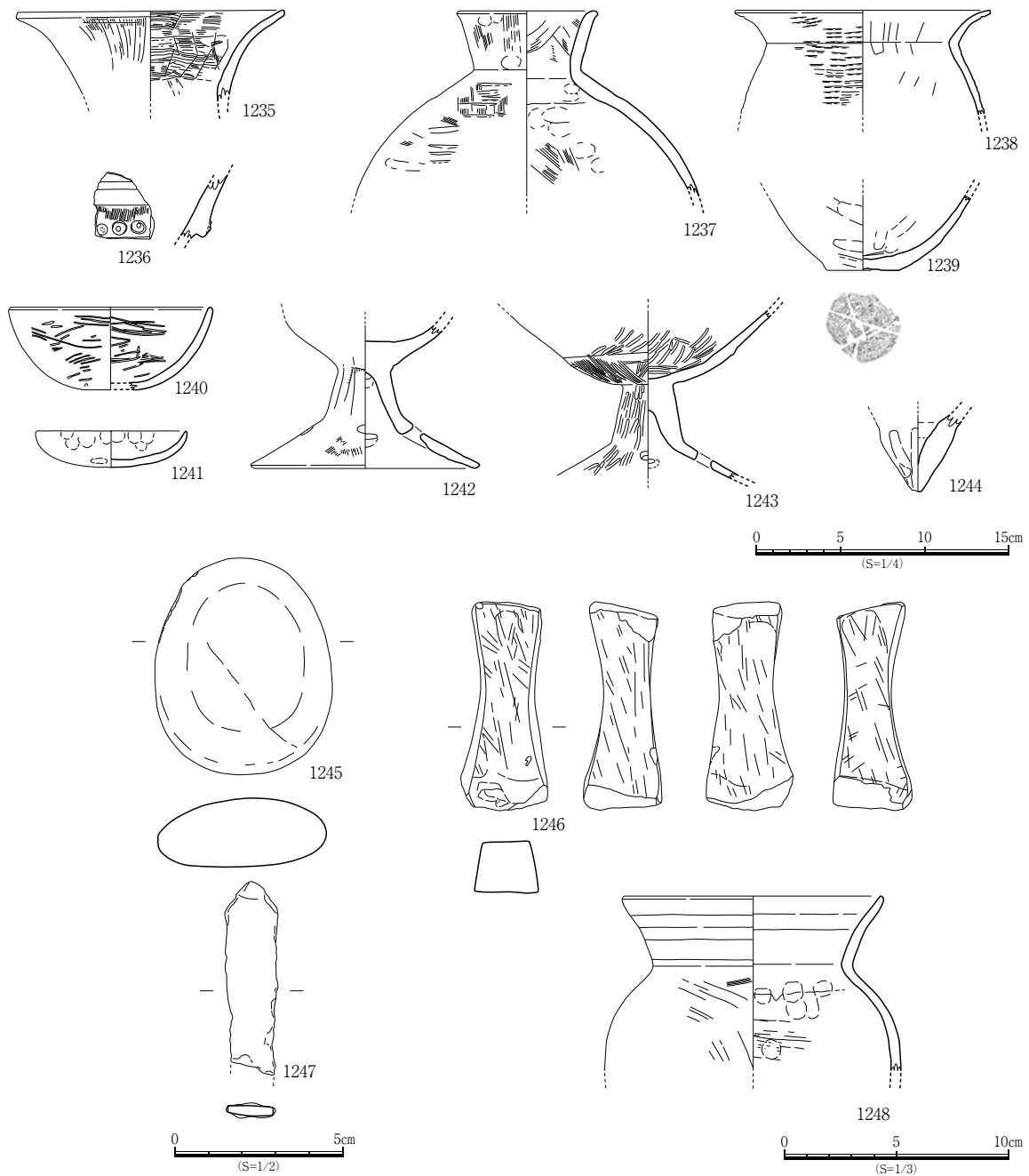


図3-68 ST65出土遺物実測図

じくナデ調整である。1227の外面は体部がハケ調整後ナデ調整、底部はケズリ調整及びナデ調整を施す。内面はナデ調整である。1228は外面内面ともに丁寧なナデ調整である。底部内面には工具による圧痕がみられる。1229～1231は高杯である。1229の口縁部は外上方にひらき、脚部は中空である。外面は杯部が丁寧なハケ調整及びナデ調整、脚部は柱部外面がミガキ調整、裾部にかけてはナデ調整である。内面は杯部がハケ調整及びナデ調整、脚部がヘラケズリ調整とハケ調整がみられる。1230は脚部で中空を呈する。分割成形で、外面は柱部がケズリ調整とナデ調整、裾部にはハケ調整がみられる。内面は柱部がケズリ調整で、裾部にはハケ調整を施す。1231も脚部で、外面内面ともに摩耗する。外面にはハケ調整、内面にはナデ調整がみられる。1232は須恵器杯蓋である。1233・1234は須恵

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

器杯身である。底部外面は回転ケズリ調整で、その他及び内面は回転ナデ調整を施す。1234は焼成不良である。1232～1234は混入と考えられる。

ST65(図3-67)

調査区の北東部に位置する。竪穴建物跡の上面は掘立柱建物跡SB8とSD25によって切られている。規模は長軸5.28m、短軸4.88mを測り、平面形は方形状を呈していたと考えられる。竪穴建物跡の北壁から西壁、南壁側にかけベッド状遺構が巡っている。検出面からの深さは、ベッド状遺構までは約15cm前後、床面まで22cmを測る。埋土は小礫が混じる黒褐色粘質土と暗褐色粘質土が主体である。床面からは7個のピットが検出されたが、その内P1～4は規模及び配置から主柱穴の可能性が考えられる。床面からは中央ピットと考えられる土坑1基が検出された。竪穴建物跡の中央よりやや北側に位置しており、規模は長軸約1m、短軸0.64m、検出面からの深さは約16cmを測る。遺構の東側には深さ5cm前後を測る溝状の遺構が接続している。出土遺物では弥生土器壺・甕・鉢・高杯、ミニチュア土器、石製品、金属製品、土師器甕が図示できた。

埋土出土遺物(図3-68 1235～1248)

1235は壺の口縁部で外方に大きくひらく。外面はハケ調整及びナデ調整、内面は横方向のハケ調整とナデ調整を施す。1236は二重口縁壺の口縁部片と考えられる。外面には浮文を貼付する。外面はハケ調整とナデ調整、内面はナデ調整である。1237は壺で口縁部は直立して外方にのびる。外面は頸部までタタキ目が認められる。口縁部から体部にかけてハケ調整及びナデ調整である。内面は口縁部はナデ調整、頸部から体部はハケ調整とナデ調整、頸部には接合痕がみられる。周辺は指頭圧痕を施す。1238は甕で口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部までタタキ目が認められ、内面はナデ調整である。1239は鉢の底部と考えられる。平底状を呈し、外面内面ともにナデ調整を施す。1240は鉢と考えられる。口縁部にかけて内湾する。口縁部は外面内面ともに丁寧なミガキ調整を施し、底部内面はナデ調整がみられる。1241は皿状を呈する。外面は指頭圧痕及びナデ調整、内面はナデ調整である。1242・1243は高杯である。1242の杯部は外面内面ともに摩耗する。脚部は中空を呈し、円孔を4ヵ所に施す。脚部外面内面ともに摩耗する。1243の杯部は有稜を呈し、脚部には円孔を施す。杯部外面はミガキ調整とハケ調整、内面はミガキ調整を施す。脚部外面はミガキ調整、内面はナデ調整である。1244は外面には一部タタキ目が認められ、丁寧なナデ調整を施す。

1245は砂岩製の叩石と考えられる。1246は砥石で、四面を使用している。1247は鉢と考えられる。

1248は土師器甕で口縁部は外上方にひらく。外面はナデ調整、内面はナデ調整で頸部内面には接合痕がみられる。混入である。

ST66(図3-69)

調査区北東隅に位置する。遺構は調査区北壁と東壁に接する。検出長は南北4.36m以上、東西0.84m以上で、検出面から床面までの深さは40cm前後を測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。縁辺部のみの検出であるため、溝跡等の遺構の可能性も考えられる。

出土遺物では底部外面に高台をもつ須恵器杯が出土している。混入と考えられる。

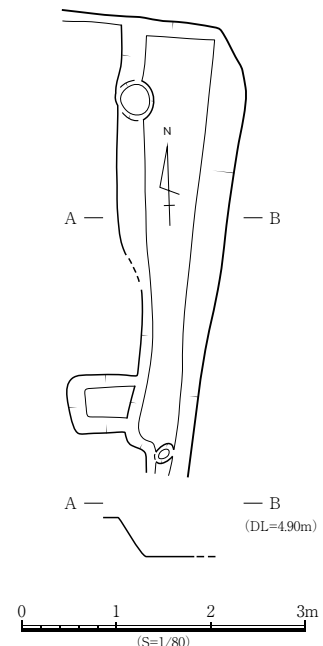


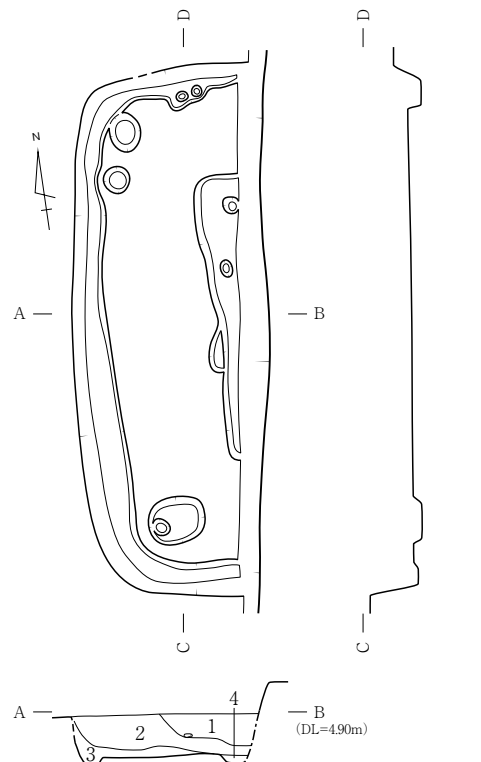
図3-69 ST66

ST67(図3-70)

調査区東南隅に位置する。竪穴建物跡の東部は調査区東壁に接する。検出長は南北5.6m, 東西1.76m以上で、幅約1.1mのベッド状遺構が全周していたと推測される。検出面からベッド上面までの深さは42cmであり、検出面から低床部までの深さは約50cmである。埋土は1層:土器片及び礫混じりの黒褐色シルト, 2層:小礫混じりの黒褐色シルト質粘土, 3層:黄褐色土がブロック状に混じる暗褐色シルト質粘土である。1層と2層からは多量の土器片が出土している。壁溝は全周していたと考えられる。ベッド状遺構上からピットを3個確認したが、支柱穴かどうかは判然としない。出土遺物では弥生土器壺・甕・鉢・高杯, 支脚, 石製品, 金属製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-71~75 1249~1328)

1249は壺で口縁部は外方にひらき, 口唇部は丸くおさめる。外面は摩耗する。内面はハケ調整がみられる。1250は口縁部は外上方にひらき, 口唇部は平坦面を有する。外面は口縁部がナデ調整で頸部は縦方向のハケ調整, 内面は口縁部にナデ調整, 頸部はハケ調整を施す。1251は壺の口縁部で外方にひらく。外面と内面はハケ調整とナデ調整である。1252は壺の口縁部で口唇部は肥厚し端部は上方に摘み出す。外面と内面は摩耗しているが, 一部にハケ調整がみられる。1253は壺の口縁部で, 口唇部はやや肥厚する。外面は縦方向のハケ調整で一部にミガキ調整がみられる。内面は口縁部上半部にナデ調整, 下半部はハケ調整である。1254は脚付き壺である。口縁部は上方に直線的にのび, 体部は球形状を呈し, 脚部は「ハ」の字状にひらく。口縁部外面はハケ調整及びナデ調整で, 頸部から体部は指頭圧痕とナデ調整, 脚部との接合部は指頭圧痕とナデ調整である。脚部外面はハケ調整と指頭圧痕がみられる。内面は口縁部にハケ調整とナデ調整, 脚部内面はハケ調整とナデ調整である。1255は複合口縁の壺で, 二次口縁部は直立する。外面と内面は摩耗している。1256は壺の頸部である。外面には粘土帯を貼付し, ヘラ状の工具で押圧する。外面と内面は丁寧なハケ調整を施す。1257は口縁部は外方にひらき, 口唇部は平坦面を呈する。外面は頸部近くまでタタキ目が認められ, 口縁部から頸部にかけてハケ調整で下半部はナデ調整を施す。内面は口縁部にハケ調整, 頸部から体部はハケ調整とナデ調整が施される。1258は口縁部が直立して外方にひらく。外面は摩耗し, 口縁部内面はハケ調整がみられる。1259は壺の頸部から体部である。外面は丁寧なハケ調整とナデ調整を施し, 内面の頸部近くにはユビナデが施される。1260は複合口縁壺である。二次口縁部は直立してのび, 口唇部は平坦面を呈する。外面は口縁部がナデ調整で, 頸部から体部は丁寧なナデ調整を施す。体部上半部までタタキ目が認められる。内面は口縁部にナデ調整, 体部もナデ調整である。1261



- 遺構埋土
1. 5~10cm大, 20cm大の礫が混じり, 土器片が多く混じる黒褐色(10YR2/2)シルト
 2. 2~5cm大の小礫及び土器片が混じる黒褐色(10YR2/3)シルト質粘土
 3. 黄褐色ブロック及び土器片が混じる暗褐色(10YR3/3)シルト質粘土
 4. 黄褐色ブロック及び土器片が混じる暗褐色(10YR3/3)シルト質粘土

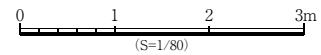


図3-70 ST67

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

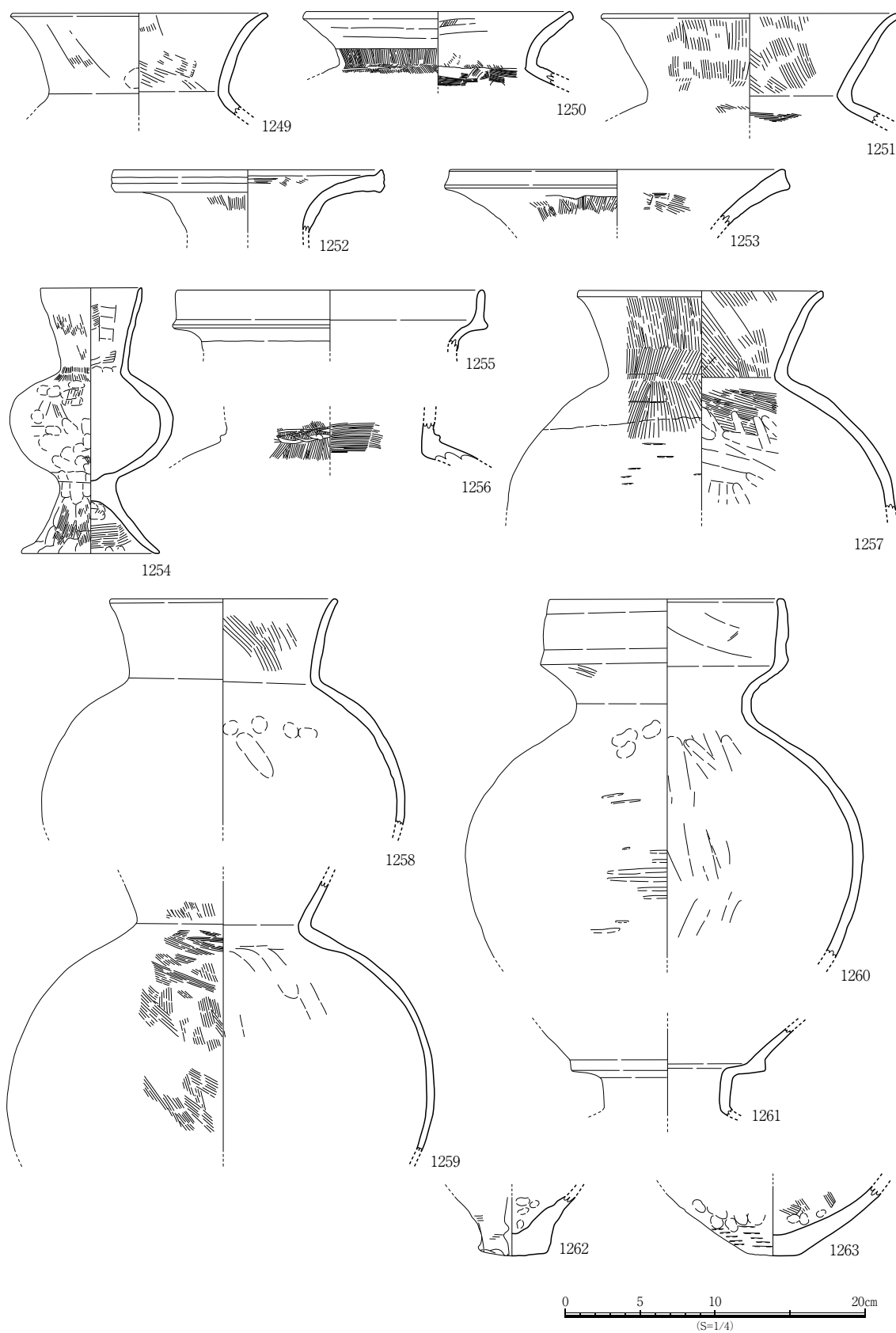


図3-71 ST67出土遺物実測図1



图3-72 ST67出土遺物実測图2

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

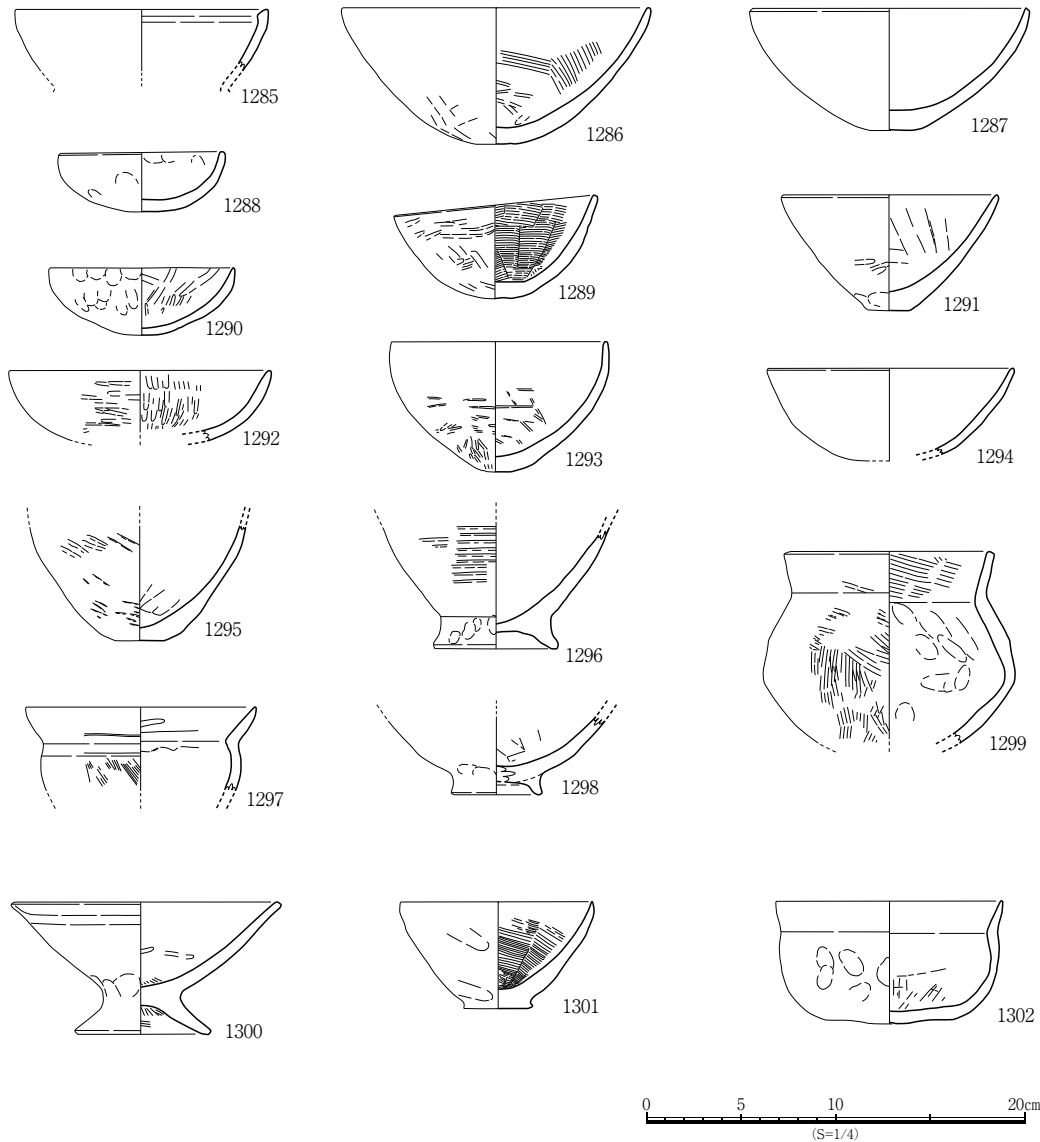


図3-73 ST67出土遺物実測図3

は二重口縁壺である。外面と内面は摩耗している。1262は壺の底部である。外面は面取り状を呈する。一部にタタキ目がみられる。1263は壺の底部と考えられる。平底状を呈し、外面はタタキ目が認められ、内面はハケ調整と指頭圧痕及びナデ調整が施される。1264は小型甕である。口縁部は「く」の字状に外方にひらく。外面は口縁部が丁寧なナデ調整で頸部から底部にかけては丁寧なミガキ調整が施される。内面は口縁部にミガキ調整をし、体部から底部はナデ調整である。1265は小型丸底壺か。外面と内面はナデ調整で、一部に指頭圧痕がみられる。1266は甕の口縁部で、口唇部は平坦面を呈する。外面にはタタキ目が認められ、縦方向のハケ調整を施す。内面はハケ調整とナデ調整で頸部には粘土紐接合痕がみられる。1267は口縁部が外反し、口唇部は平坦面を呈する。外面は口縁部までタタキ目がみられ、ハケ調整とナデ調整を施す。内面は口縁部から頸部にかけてハケ調整で体部は指頭圧痕とナデ調整である。1268は口縁部が「く」の字状を呈する。口縁部外面はナデ調整、頸部はハケ調整、内面はハケ調整である。1269は口縁部が強く外反する。外面は縦方向のハケ調整、内面は口縁部から頸部がハケ調整、体部はナデ調整である。1270は甕で外面は口縁部までタタキ目が認められる。

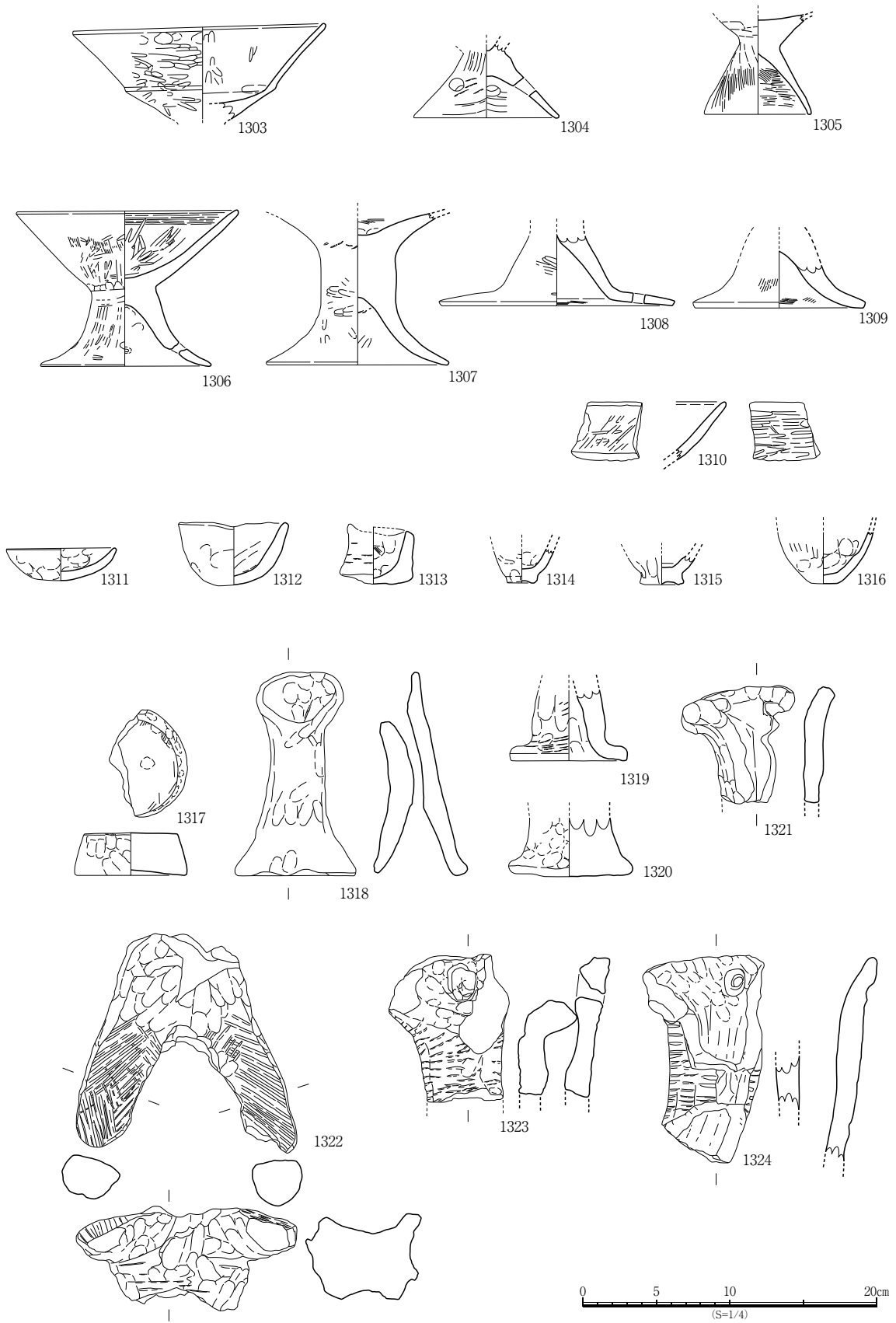


图3-74 ST67出土遗物实测图4

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

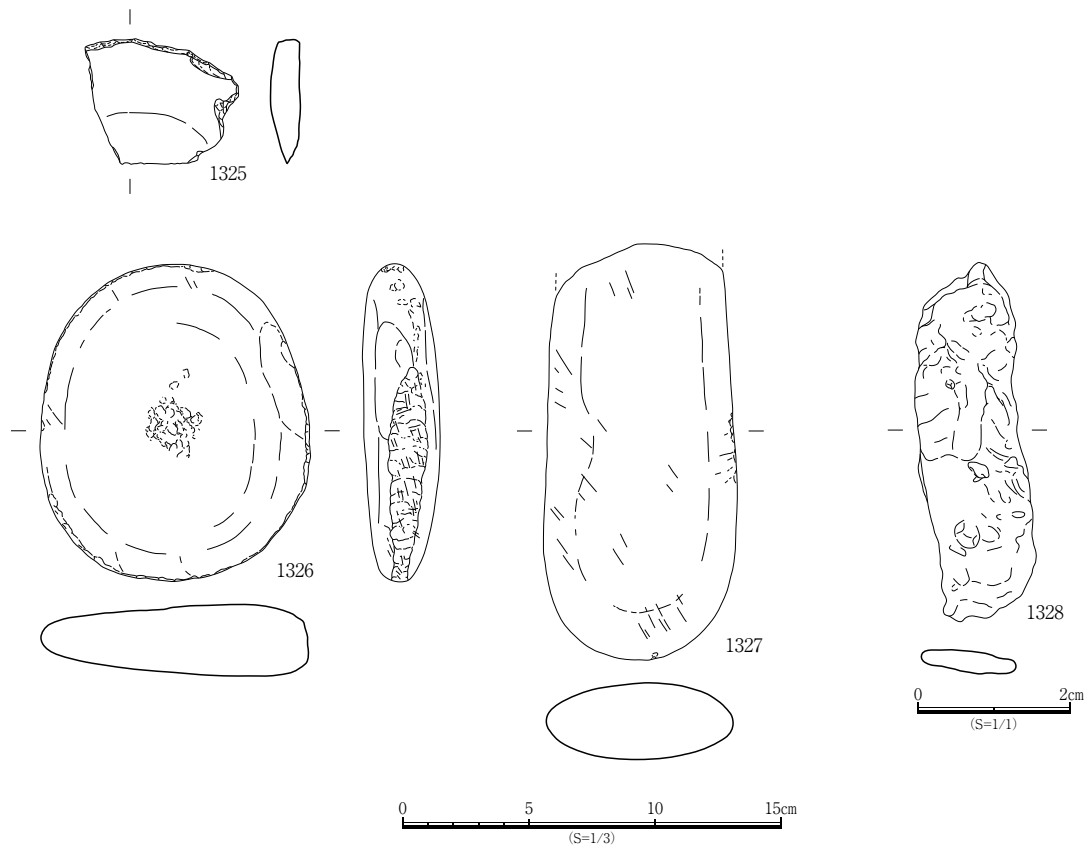


図3-75 ST67出土遺物実測図5

口縁部はナデ調整, 内面はナデ調整で接合痕がみられる。1271は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。頸部までタタキ目が認められ, 口縁部はナデ調整を施す。内面は口縁部から体部上半部にハケ調整とナデ調整を施し, 頸部下には粘土紐接合痕がみられる。1273は甕の口縁部と考えられる。器壁は薄い。外面と内面はナデ調整を施す。1274は外面にはミガキ調整と櫛描波状文を施す。内面はハケ調整である。1275は甕と考えられる。底部は丸底状を呈する。外面はタタキ目が認められ, 底部はナデ調整を施す。内面はケズリ調整とナデ調整である。1272・1276は甕あるいは壺の底部で, 1276は外面は縦方向のハケ調整を施す。内面は指頭圧痕とユビナデがみられる。1277は甕で口縁部は直立気味にのびる。外面は頸部までタタキ目が認められ, ナデ調整を施す。内面は口縁部がナデ調整で頸部下には粘土紐接合痕がみられる。1278は口縁部は外反し, 体部は球形を呈する。外面は口縁部から体部上半部はナデ調整, 下半部はハケ調整がみられる。内面はハケ調整とナデ調整を施す。1279は東阿波型土器の甕と考えられる。口縁部は外反し, 口唇部は上方にやや拡張する。外面は口縁部がナデ調整で, 体部は丁寧なハケ調整を施す。内面は口縁部にナデ調整, 頸部から体部は指頭圧痕とナデ調整を施す。器壁は薄い。1280は東阿波型土器の甕の口縁部と考えられる。口縁部は外反し, 口唇部は上方にやや拡張する。外面と内面は丁寧なナデ調整を施す。1281は庄内式土器甕の口縁部である。口唇部は上方に摘み出す。内面はハケ調整が施され, 外面には煤がつく。1282は庄内式土器甕の口縁部と考えられる。口唇部は上方に摘み出す。外面と内面は摩耗する。1283は甕の底部である。薄い器壁をもち外面にはミガキ調整がみられる。搬入品と考えられる。1284は甕の口縁部で口唇部は肥厚する。外面と内面はナデ調整である。胎土等からは搬入品と考えられる。1285は甕の口縁部と考えられる。

口唇部はやや内傾する。内面はハケ状工具によるナデ調整である。搬入品と考えられる。1286は鉢である。口縁部は内湾し、外面は口縁部がナデ調整で体部下半部はケズリ調整を施す。内面は口縁部がナデ調整で体部下半部はハケ調整である。1287は口縁部にかけて内湾する鉢である。外面と内面は丁寧なナデ調整である。1288・1290は小型の鉢あるいはミニチュア土器である。1288は手づくね成形で指頭圧痕と丁寧なナデ調整が施される。1289は小型の鉢で外面は口縁部までタタキ目が認められ、体部から底部には丁寧なナデ調整で一部にミガキ調整がみられる。内面は横方向の丁寧なハケ調整である。1290は手づくね成形で、内面はナデ調整で一部ミガキ調整がみられる。1291は平底状を呈する鉢で、外面は丁寧なナデ調整で内面は工具によるナデ調整が施される。1292は皿状の鉢あるいは高杯の杯部である。口縁部は内湾する。外面と内面はミガキ調整が施される。1293は鉢である。口縁部はやや内湾する。口縁部の外面と内面はナデ調整で下半部から底部にかけてミガキ調整を施す。1294は鉢である。外面と内面は摩耗する。1295は鉢と考えられる。平底状を呈し、外面はタタキ目が認められる。内面はナデ調整と一部にハケ調整がみられる。1296は脚付き鉢と考えられる。外面はタタキ目が認められ、脚部との接合部は指頭圧痕がみられ、内面は摩耗する。1297は小型丸底鉢と考えられる。外面は口縁部がナデ調整で体部はハケ調整、内面はナデ調整である。1298は脚付き鉢である。脚部との接合部は指頭圧痕が顕著である。内面はナデ調整を施す。1299は小型の甕又は鉢である。口縁部は直立してのびる。外面は頸部までタタキ目が認められ、口縁部にナデ調整、体部はハケ調整である。内面は口縁部にハケ調整、頸部から体部は指頭圧痕とナデ調整である。1300は脚付き鉢である。外面はナデ調整で内面は一部ミガキ調整とハケ調整を施す。脚部接合部は外面は指頭圧痕、内面はハケ調整とナデ調整である。1301は小型の鉢で平底状を呈する。外面は指頭圧痕とナデ調整、内面はハケ調整、口縁端部はハケ調整を施す。1302は鉢である。外面は口縁部に横方向のナデ調整、体部から底部は指頭圧痕が施される。内面はナデ調整を施す。1303は高杯の杯部で、外面と内面はミガキ調整で口縁端部はナデ調整を施す。1304は高杯あるいは器台の脚部である。外面と内面はハケ状原体によるナデ調整で、径1.1~1.3cmの円孔が3カ所に認められる。1305は高杯あるいは器台の脚部である。外面と内面はハケ調整である。1306は高杯である。杯部は外方にひらき、口

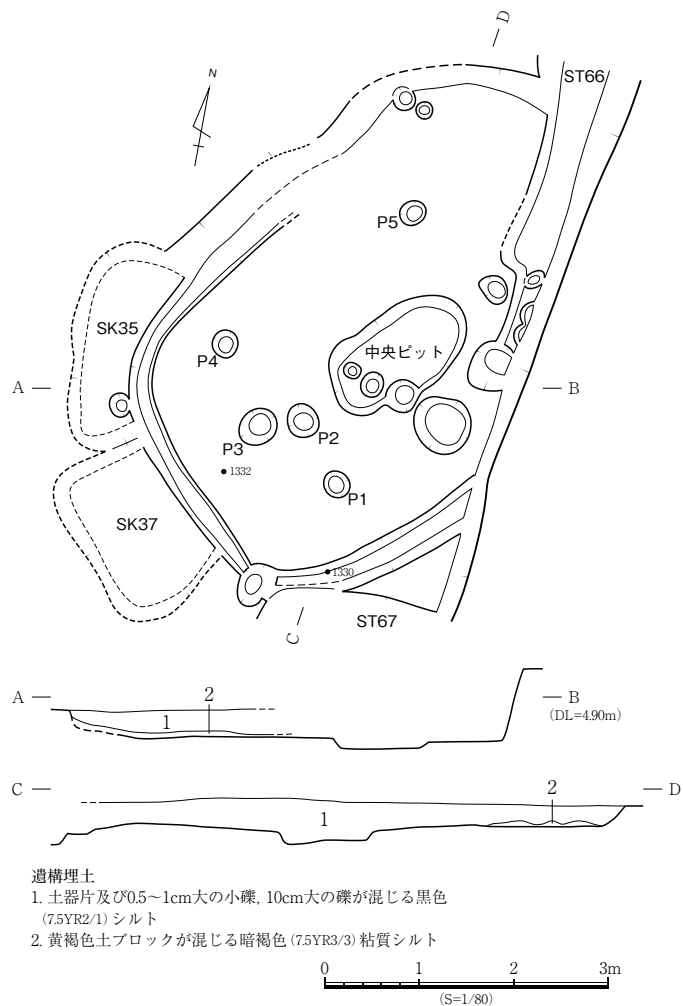


図3-76 ST68

2. 検出遺構と遺物 (1) 竪穴建物跡

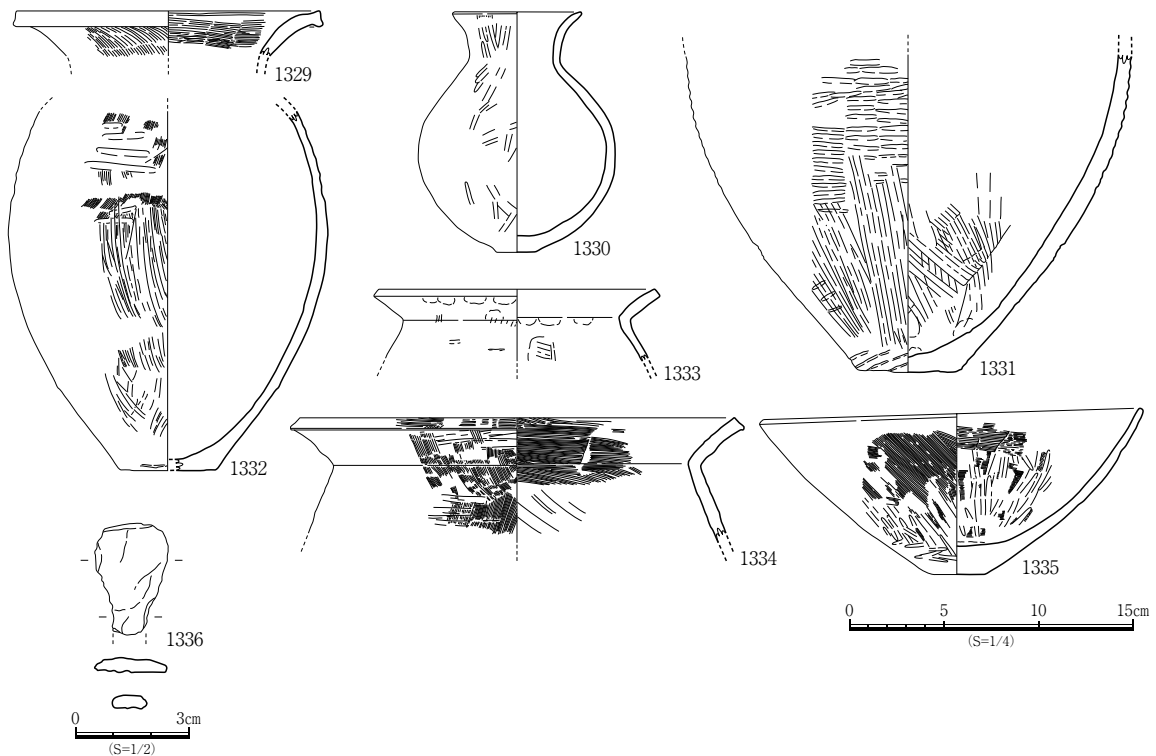


図3-77 ST68出土遺物実測図

唇部は丸くおさめる。外面はハケ調整とミガキ調整，口縁部はナデ調整を施す。杯部内面はハケ調整とミガキ調整，脚部内面は摩耗する。脚部には3カ所の円孔が認められる。1307は高杯の脚部である。外面はミガキ調整とナデ調整，内面はケズリ調整とナデ調整を施す。1308は高杯の脚部である。裾部には径0.8cmの円孔を施す。外面はナデ調整，内面はハケ調整とナデ調整である。1309は高杯の脚部である。摩耗しているが，外面内面の一部にはハケ調整がみられる。1310は鉢あるいは高杯の口縁部である。外面と内面は丁寧なミガキ調整が施される。1311～1316はミニチュア土器である。1311は手づくね成形で皿状を呈する。1312は手づくね成形でナデ調整を施す。1313は外面にタタキ目が認められる。内面は指頭圧痕とナデ調整である。1314は外面にタタキ目が認められ，内面は指頭圧痕が施される。1315は外面内面ともに指頭圧痕が顕著である。1316は外面にナデ調整，内面は指頭圧痕が認められる。1317～1324は支脚である。1317は円柱状を呈し，外面は指頭圧痕とナデ調整である。一部に被熱をうける。1318は中空を呈し，外面は指頭圧痕が顕著である。ほぼ完形である。1319は外面にタタキ目がみられ，外面と内面は指頭圧痕が顕著である。1320は中実を呈し，外面と内面は指頭圧痕とナデ調整を施す。1321は中空を呈し，端部は外側にひねり出している。外面と内面は指頭圧痕とナデ調整で，穿孔を施す。1322は大型の支脚である。外面はタタキ目と指頭圧痕を施す。背面には把手状のつまみがつく。1323は中空を呈する。外面はタタキ目を施し，上部は外方にひらき，指頭圧痕が顕著である。径1.6cmの穿孔がみられる。1324は中空を呈する。外面はタタキ目が認められ，上部は外側にひねり出し，指頭圧痕とナデ調整を施す。上部には1カ所の円孔が施される。

1325は砂岩製の打製石包丁片である。一面は自然面，片面は剥離面で側縁部は抉り状を呈する。1326は砂岩製の叩石である。中央部と周縁部の一部に敲打痕がみられる。1327は叩石と考えられる。周縁部の一部に使用痕がみられる。1328は鉈と考えられる。

ST68(図3-76)

調整区東端中央部に位置する。竪穴建物跡の東部は調査区東壁に接するため、確認できていない。遺構の南東部隅はST67に切られ、上面も中世の溝跡であるSD24によって切られている。検出長は長軸 5.6m 以上、短軸 4.16m 以上を測り、平面形は隅丸楕円形状を呈していたと考えられる。検出面からの深さは約 30cm を測り、埋土は土器片及び礫が混じる黒色(7.5YR2/1)シルトと黄褐色土のブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘質シルトである。床面からは中央ピット 1 基とピット 7 個が検出された。中央ピットは竪穴建物跡の中央部よりやや南東寄りに位置しており、長軸は 1.6m、短軸 0.96m を測り平面形は楕円形状を呈する。検出面からの深さは約 12cm を測り、埋土は黒色(7.5YR2/1)シルトである。P1・4・5はその規模と配置から支柱穴の可能性が考えられる。また、遺構の南西部から南東部の壁側からは壁溝が検出されている。出土遺物では弥生土器壺・甕・鉢、金属製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-77 1329~1336)

1329 は壺の口縁部で外反し、口唇部は肥厚させる。口唇部外面はナデ調整、口縁部はハケ調整とナデ調整である。内面は丁寧なハケ調整とナデ調整を施す。1330 は小型の壺でほぼ完形である。口縁部は直立してのび、口縁端部は外反する。外面はミガキ調整とナデ調整、内面はナデ調整で一部にハケ調整がみられる。1331 は体部から底部で平底状を呈する。外面はタタキ後ハケ調整、内面はハケ調整とナデ調整を施す。底部内面には指頭圧痕がみられる。1332 は壺あるいは甕の体部から底部である。平底状を呈し、外面はタタキ後ハケ調整、内面はナデ調整を施す。1333・1334 は甕の口縁部である。1333 は口縁部が「く」の字状で、口唇部は平坦面を呈する。外面はタタキ目が認められ口縁部はハケ調整後ナデ調整、内面はナデ調整で、一部ハケ調整がみられる。1334 は口縁部が「く」の字状で口唇部は平坦面を呈する。外面は口縁部までタタキ後丁寧なハケ調整を施す。内面は丁寧なハケ調整とナデ調整を施す。1335 は鉢である。底部は平底状を呈し、口縁部は外上方に広がる。外面はハケ調整とミガキ調整で口縁端部はナデ調整を施す。内面はハケ調整後ミガキ調整を施す。1336 は鉄片で、鉄鏃の可能性も考えられる。

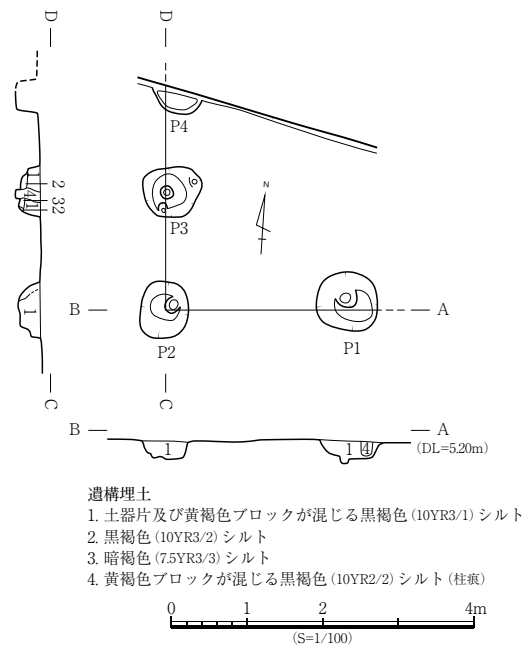


図3-78 SB1

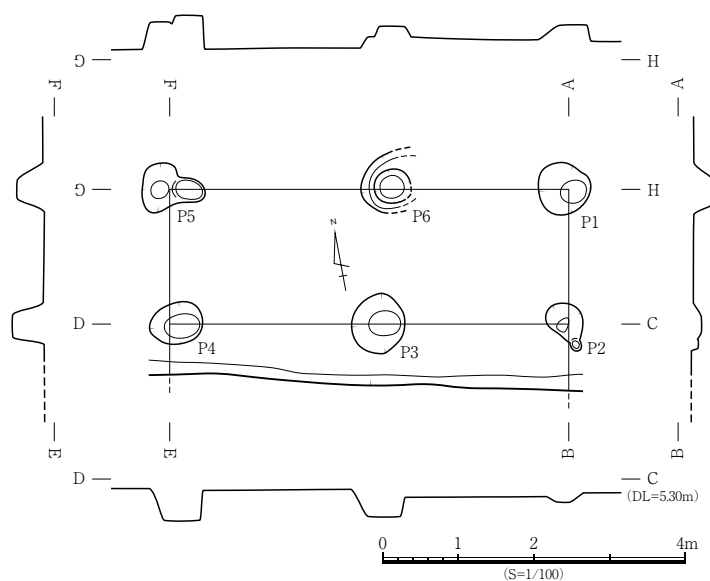


図3-79 SB2

2. 検出遺構と遺物 (2) 掘立柱建物跡

(2) 掘立柱建物跡

SB1(図3-78)

調査区の北西部において検出した。南北2間(2.9m)以上, 東西1間(2.5m)以上を測り, 調査区外に続くと考えられる。柱穴の掘方は概ね円形状を呈し, 径はP1で80cm, P2・3は70cmで検出面からの深さはP1で20cm, P2は25cm, P3は30cmを測る。柱間寸法は南北が1.4~1.5m, 東西が2.4mである。柱穴の埋土は黄褐色土がブロックで混じる黒褐色(10YR3/1)シルトと黒褐色(10YR3/2)シルトである。

SB2(図3-79)

調査区の西南部に位置する。梁間1間(1.75m)以上, 桁行2間(2.90m)の東西棟と考えられる。柱穴の掘方は円形から楕円形を呈し, 径は50~70cm前後を測る。検出面からの深さはP2は10cmと最も浅く, その他は25~30cmである。P6は一部攪乱を受けていた。柱間寸法は梁間1.75m, 桁行2.35~2.90mで, 柱穴の埋土は黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。P4からは土師器碗(1341・1342), 土師質土器皿(1337)・杯(1338~1340)が出土している。

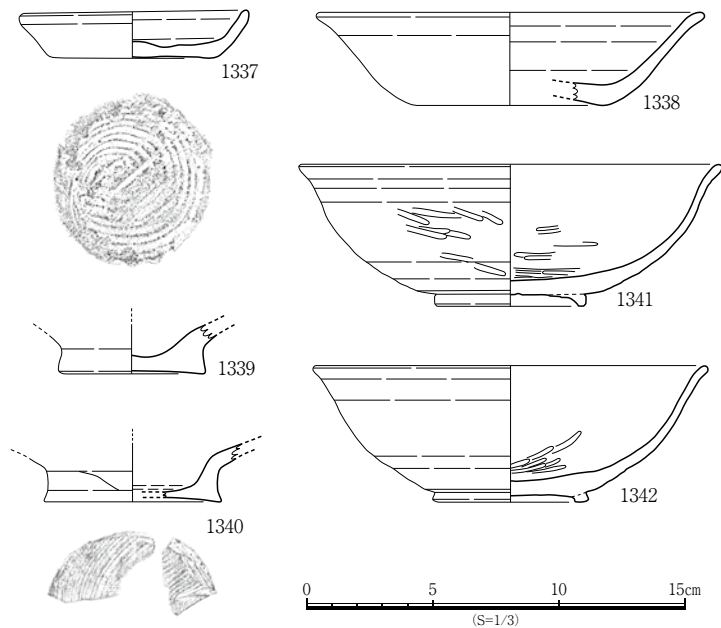


図3-80 SB2出土遺物実測図

埋土出土遺物(図3-80 1337~1342)

1337は土師質土器皿である。底部外面は回転糸切り痕がみられる。外面内面は回転ナデ調整である。1338は杯で口縁端部がやや外反する。外面内面は回転ナデ調整である。1339は杯の底部である。底部外面には糸切り痕がみられる。外面と内面は摩耗する。1340は杯の底部である。底部外面には回転糸切り痕がみられ, 底部側面は工具状のナデ調整が施される。1341・1342は碗で底部外面には回転糸切り痕がみられ, 台形状の高台がつく。口縁端部は外反する。1341は外面は回転ナデ調整とヘラミガキ調整, 内面の口縁部は回転ナデ調整, 体部下半部から底部にかけてはヘラミガキ調整がみられる。

SB3(図3-81)

調査区の北西部に位置し, ST41・43, SD9を切る。梁間2間(4.1m), 桁行2間(4.2m)

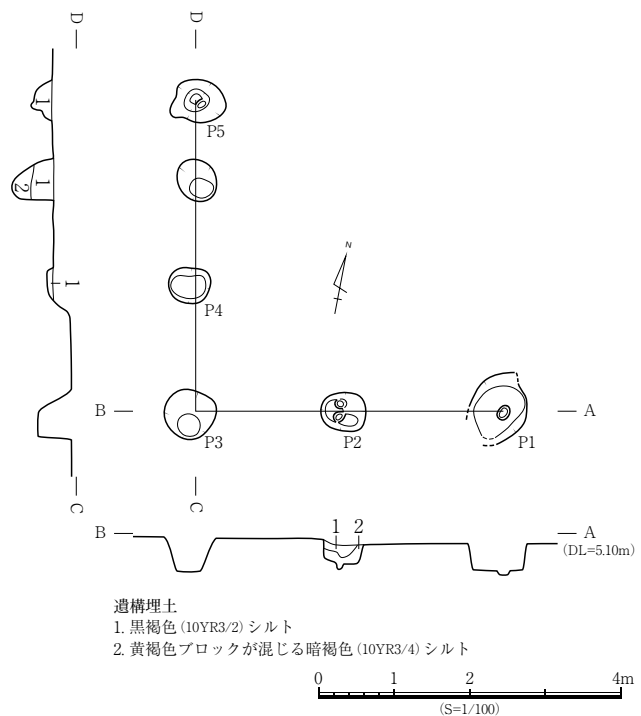


図3-81 SB3

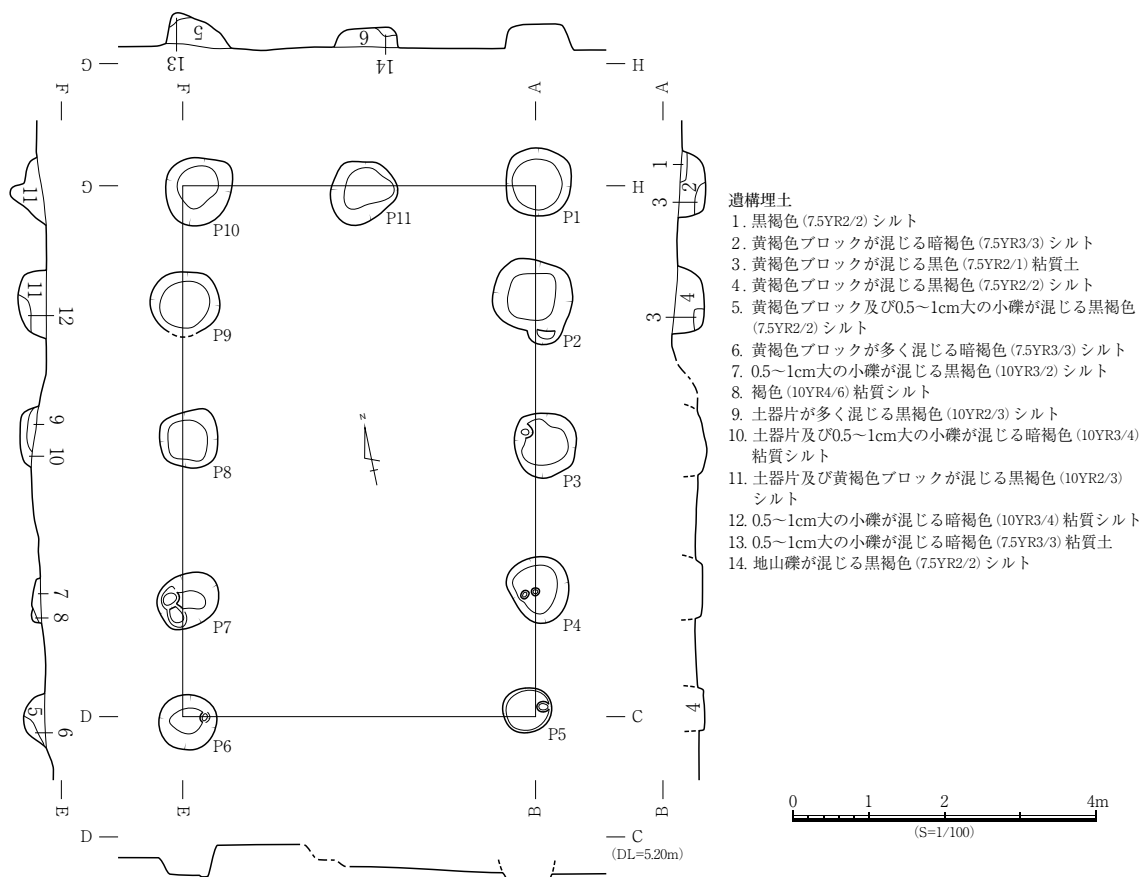


図3-82 SB4

以上の南北棟と考えられる。柱穴の掘方は概ね円形状を呈し、径はP1は約70cm、その他は50cm前後を測る。検出面からの深さはP4が10cmと浅いが、その他は30cm前後を測る。柱間寸法は梁間1.9~2.2m、桁行1.8~2.4mで、埋土は黒褐色(10YR3/2)シルトと黄褐色土ブロックが混じる暗褐色(10YR3/4)シルトである。

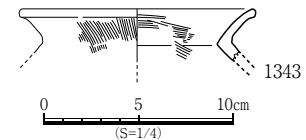


図3-83 SB4出土遺物実測図

SB4(図3-82)

調査区中央部北側に位置する。ST46を切り、SD8に切られる。柱穴の一部はST46の調査段階で確認した。梁間2間(4.6m)、桁行4間(7.0m)の南北棟で、方位はN-11°-Eである。柱穴の掘方は円形状を呈し、径はP2が1.0m前後、P5は60cm前後で、その他は70~90cmを測る。検出面からの深さは10~40cmであったと思われる。柱間寸法は梁間2.2~2.4m、桁行1.5~2.2mで、埋土は黄褐色土ブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルトと黄褐色土ブロック及び小礫が混じる暗褐色(10YR3/4)粘質シルト、小礫が混じる黒褐色(10YR3/2)シルトである。出土

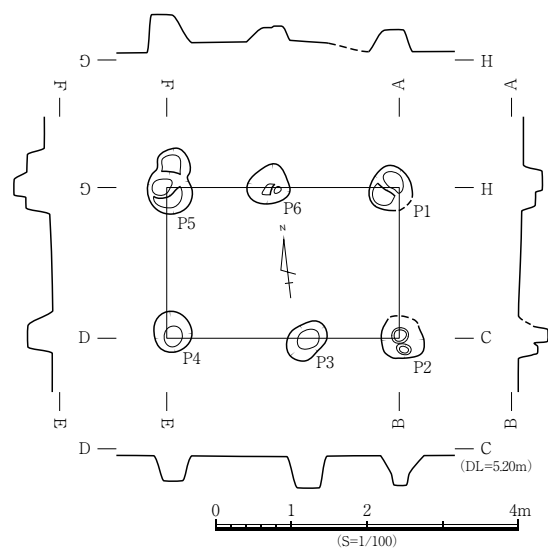


図3-84 SB5

2. 検出遺構と遺物 (2) 掘立柱建物跡

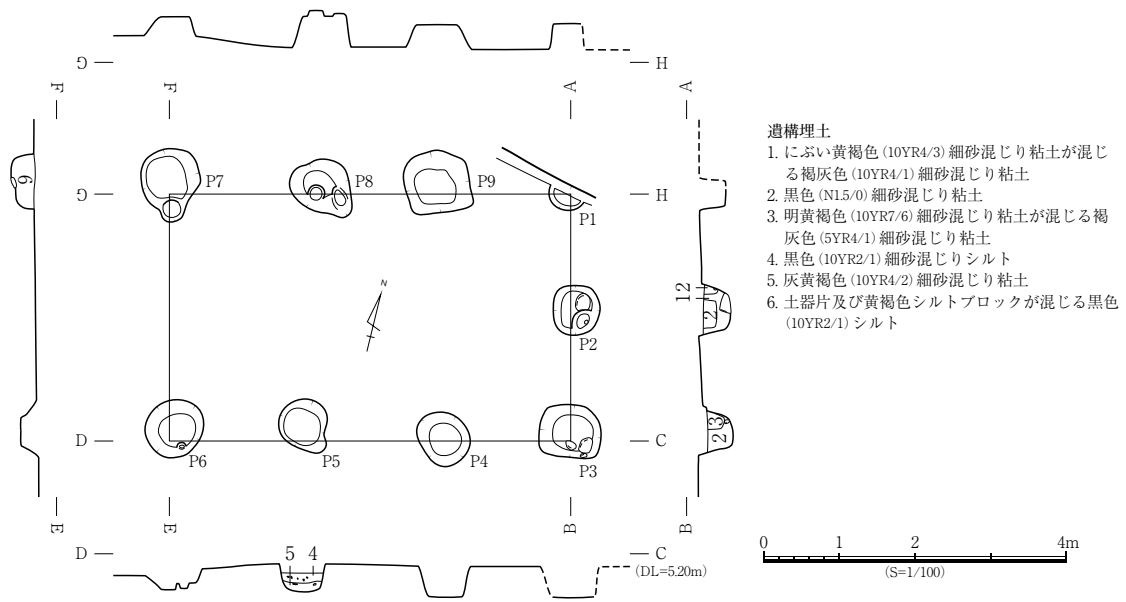


図3-85 SB6

遺物ではP9からは弥生土器甕(1343)が出土している。

埋土出土遺物(図3-83 1343)

口縁部は外反し口唇部はナデ調整により平坦面を呈する。外面は一部タタキ目が認められ、ハケ調整を施す。内面はハケ調整後にナデ調整がみられる。混入と考えられる。

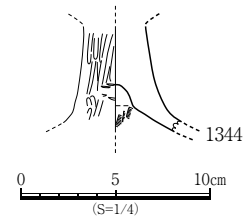


図3-86 SB6出土遺物実測図

SB5(図3-84)

調査区中央部南側に位置する。梁間1間(1.95m)、桁行2間(3.0m)の東西棟で方位はN-84°-Wである。柱穴の掘方は概ね円形を呈し、径は約50cmで検出面からの深さは20~50cmを測る。柱間寸法は梁間1.95m、桁行1.2~1.8mで、埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。

SB6(図3-85)

調査区中央部北側に位置する。掘立柱建物跡の北東隅にあたる柱穴(P1)は調査区北壁に接する。梁間2間(3.2m)、桁行3間(5.3m)の東西棟で方位はN-76°-Eである。柱穴の掘方は円形から隅丸形状を呈し、径はP2が60cm前後、P9は80cmを測る。検出面からの深さはP6が25cm、P8は45cmでその他は30~40cmである。P2の底面からは根石が確認された。柱間寸法は梁間1.5~1.7m、桁行1.6~1.9mで、埋土はにぶい黄褐色(10YR4/3)細砂混じり粘土が混じる褐灰色(10YR4/1)粘土と細砂混じりの黒色(N15/0)粘土、細砂混じりの黒色

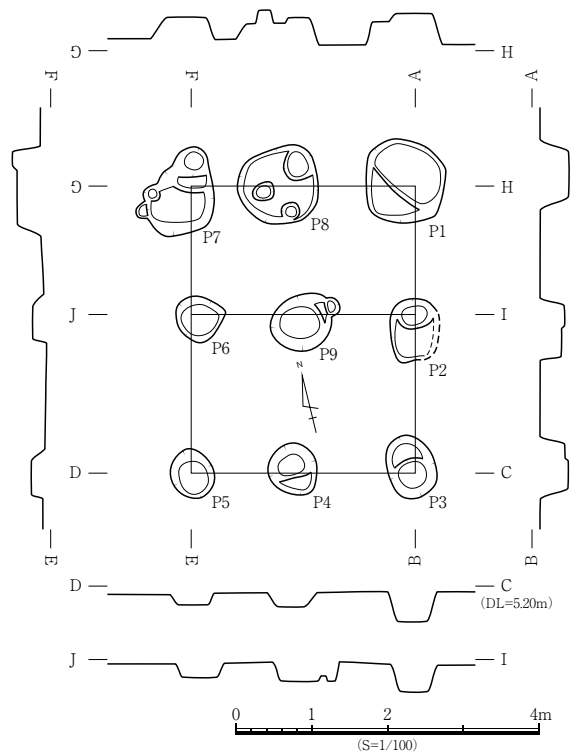


図3-87 SB7

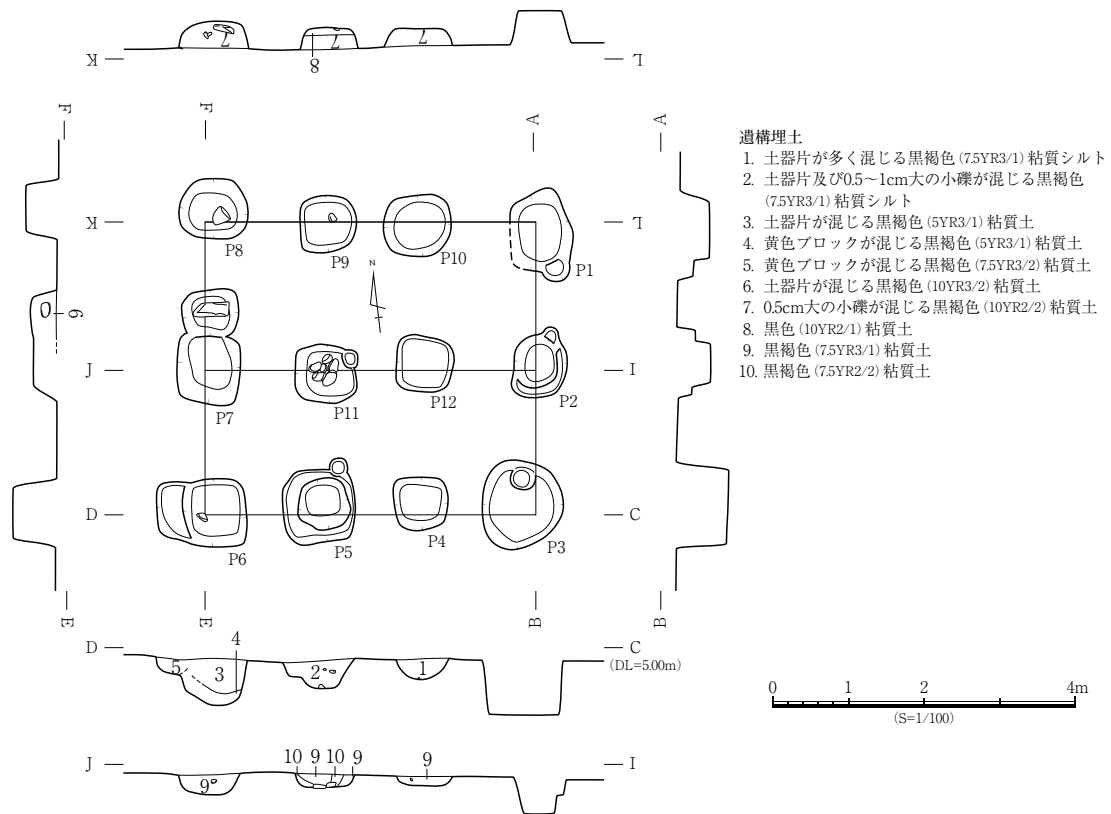


図3-88 SB8

(10YR2/1)シルト、細砂混じりの灰黄褐色(10YR4/2)粘土である。出土遺物ではP9から弥生土器高杯(1344)が出土している。

埋土出土遺物

(図3-86 1344)

脚部で、外面は縦方向の丁寧なミガキ調整で内面はハケ調整とナデ調整を施す。

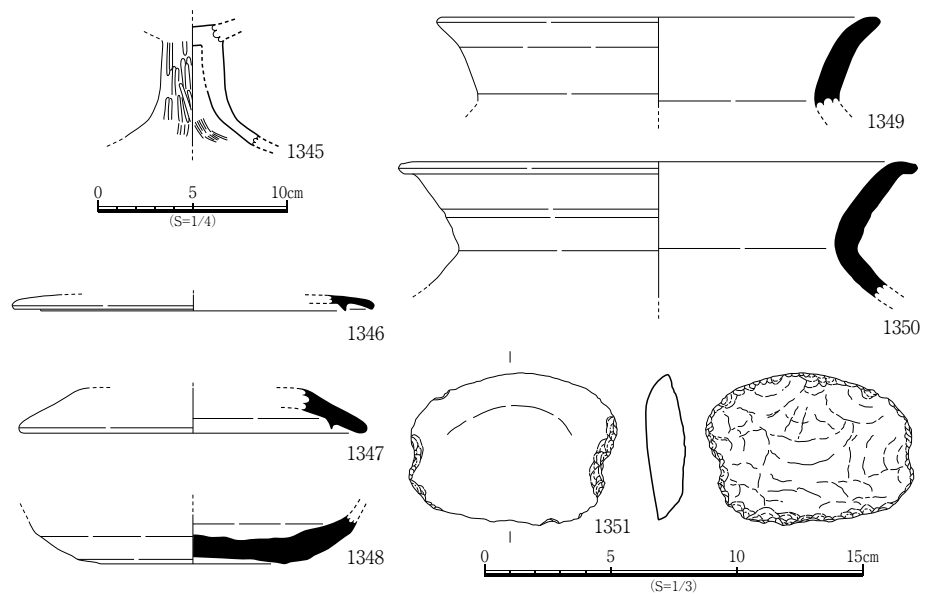


図3-89 SB8出土遺物実測図

SB7(図3-87)

調査区中央南側に位置する。ST53を切る。梁間2間(2.95m)、桁行2間(3.85m)の南北棟で方位はN-13°-Eである。柱穴の掘方は円形から隅丸形状を呈し、円形の径はP1・8が1.0m、P4~6は60cmを測る。検出面からの深さはP4~6が20cm、その他は30~40cmである。柱間寸法は梁間1.30~1.65m、桁行1.65~2.10mで、埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。

2. 検出遺構と遺物 (2) 掘立柱建物跡

SB8(図3-88)

調査区東部中央に位置する。ST63～65を切り、SD25に切られる。梁間2間(3.9m)、桁行3間(4.3m)の総柱建物跡で、方位はN-83°-Wである。柱穴の掘方は円形から隅丸方形を呈しており、径はP4は70cm前後、P3では1.1m前後を測り、その他は80～95cmである。検出面からの深さはP12が10cmと浅く、P10・11は20cm、P4・5・7・9は30cm前後、P1・2が40cm前後、P3・6においては約70cmを測る。P11の底面には根石が確認できた。柱間寸法は梁間1.95m、桁行1.3～1.6mで、埋土は小礫が混じる黒褐色(7.5YR3/1)粘質シルトを中心に黒色(10YR2/1)粘質土を含む。出土遺物ではP3から高杯(1345)、P5から須恵器杯身(1348)・甕(1350)、P6から須恵器甕(1349)、P8から打製石包丁(1351)、P9から須恵器蓋(1346)、P12から須恵器蓋(1347)が出土している。

埋土出土遺物(図3-89 1345～1351)

1345は高杯の脚部で外面はミガキ調整で内面はハケ調整とナデ調整を施す。1346・1347は須恵器蓋で断面三角形状のかえりがつく。外面内面ともに回転ナデ調整である。1348は須恵器杯身の底部と考えられる。底部外面はケズリ調整、内面はナデ調整である。1349・1350は須恵器甕の口縁部である。1350は口縁部は外反し、端部は摘み出す。外面と内面はナデ調整を施す。1351は砂岩製で一面は自然面、片面は剥離面である。両側は挟り状を呈する。

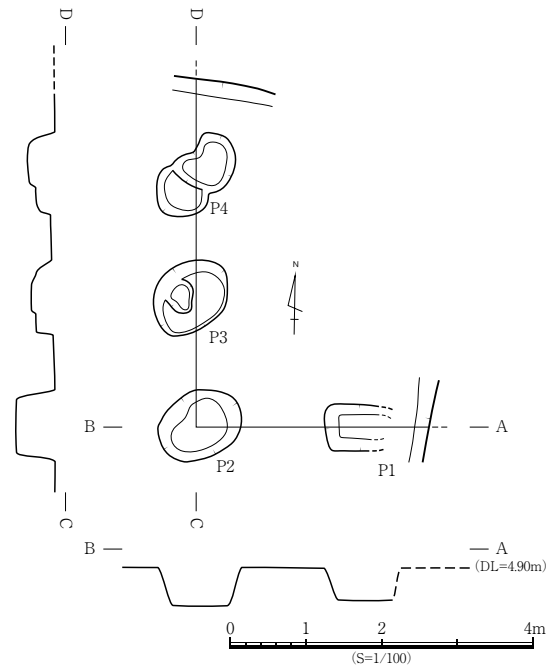


図3-90 SB9

SB9(図3-90)

調査区北東隅に位置する。ST68とSD24を切る。南北2間(3.7m)、東西1間以上を測る。柱穴の掘方は円形から楕円形状を呈しており、径はP1は80cm、P2・3は長軸1.1mで短軸は80cmを測る。検出面からの深さはP4は約30cm、P3は20～26cm、P2は50cmである。柱間寸法は1.6～1.9mを測り、埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物はP2から弥生土器鉢(1352)と支脚(1353)が出土している。

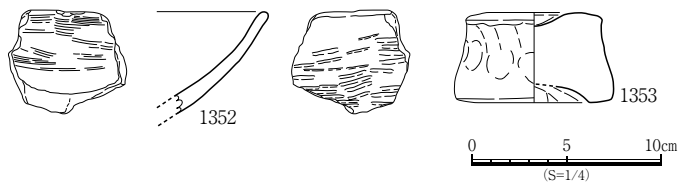


図3-91 SB9出土遺物実測図

埋土出土遺物(図3-91 1352・1353)

1352は外面はタタキ目痕が認められ、ナデ調整を施す。内面はハケ調整とナデ調整である。1353は上面と底面の中央部にかけて凹状を呈する。指頭圧痕とナデ調整を施す。ともに混入と考えられる。

SB10(図3-92)

調査区北西部隅に位置する。梁間2間(3.6m)、桁行2間(3.8m)の南北棟で方位はN-4°-Eである。柱穴の掘方は概ね円形を呈し、径は25～35cmで検出面からの深さはP1～3・7は25cm前後、P4～6は40cmを測る。柱間寸法は梁間1.7～1.9m、

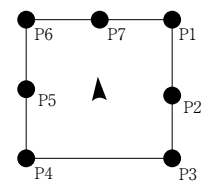


図3-92 SB10

桁行1.9mで、埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では図示できるものはなかった。

SB11(図3-93)

調査区東部北側に位置する。ST58を切る。調査区北壁に接しており、掘立柱建物の北側は検出できなかつたが、梁間1間(1.2m)以上、桁行2間(4.3m)の東西棟と考えられる。柱穴の掘方は概ね円形状を呈し、径は40~50cmで検出面からの深さは30cm前後を測る。柱間寸法は梁間1.2m、桁行1.8~1.9mで埋土は黒褐色シルトである。出土遺物では図示できるものはなかった。

SB11-1(図3-93)

調査区東部北側に位置する。ST58を切る。SB11と切合い関係がみられる。新旧関係は不明である。掘立柱建物跡の北側は検出できなかつたが、梁間1間(1.5m)以上、桁行2間(4.1m)と考えられる。柱穴の掘方は概ね円形状を呈し、径はP6・7は40cm、P2は50cm、P4は60cmで、検出面からの深さはP7が20cm、P2・4・6は50cm前後を測る。柱間寸法は梁間1.5m、桁行1.9~2.2mで、埋土は黒褐色シルトである。出土遺物では図示できるものはなかった。

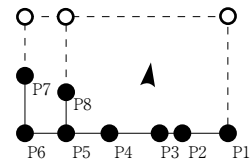


図3-93 SB11・11-1

SB12(図3-94)

調査区東部中央に位置する。ST58・65を切る。梁間1間以上(3.0m)、桁行2間(4.5m)の東西棟で方位はN-76°-Wである。掘立柱建物の北西隅の柱穴と東西梁間の柱間の柱穴については検出することはできなかつた。柱穴の掘方は概ね円形を呈し、径は30cm前後で検出面からの深さは20cm前後を測る。柱間寸法は桁行2.2~2.5mを測り、埋土は黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。出土遺物では図示できるものはなかった。

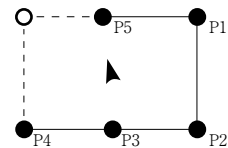


図3-94 SB12

SB13(図3-95)

調査区東部中央、SB12の南西方向に位置する。梁間1間(2.0m)、桁行2間(4.0m)の東西棟で方位はN-75°-Wである。掘立柱建物跡南側の桁行では柱間の柱穴は検出することはできなかつた。柱穴の掘方は概ね円形を呈し、径は20~30cmで検出面からの深さは30cm前後を測る。柱間寸法は梁間2.0m、桁行2.0mで、埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では図示できるものはなかった。

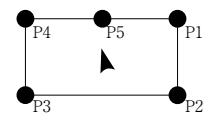


図3-95 SB13

SB14(図3-96)

調査区東部中央、SB13の南側に位置し、ST60を切る。梁間2間(2.6m)、桁行2間(3.2m)の南北棟で方位はN-12°-Eである。掘立柱建物跡南側の桁行では柱間の柱穴は確認することはできなかつた。柱穴の掘方は円形から楕円形状を呈し、径はP1・2・8は20cm、P3~7は30cm前後で検出面からの深さはP1~3、7・8は15~20cm、P4~6は35cm前後を測る。柱間寸法は梁間1.3~1.9m、桁行1.2~1.5mで、埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では図示できるものはなかった。

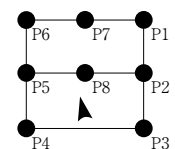


図3-96 SB14

SB15(図3-97)

調査区西部南側に位置する。ST40を切る。梁間1間(2.0m)、桁行2間(3.5m)の東西棟で方位はN-84°-Wである。柱穴の掘方は概ね円形を呈し、径は20~25cmで検出面からの深さはP1は5cm、P6は10cm、P2・4は20cm、P3・5は30cm前後を測る。柱間寸法は梁間1.9~2.0m、桁行1.5~2.0mで、埋土は暗褐色(7.5YR3/3)

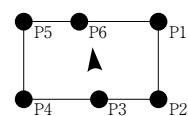


図3-97 SB15

2. 検出遺構と遺物 (3) 柵列・堀跡

シルトである。出土遺物では図示できるものはなかった。

SB16(図3-98)

調査区中央部北側に位置する。ST48・49を切る。梁間1間(2.3m)、桁行2間(5.3m)の東西棟で方位はN-79°-Wである。柱穴の掘方は概ね円形を呈し、径は30~40cmで検出面からの深さは20cm前後を測る。柱間寸法は梁間2.1~2.3m、桁行2.6~2.7mで、埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では図示できるものはなかった。

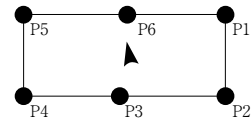


図3-98 SB16

(3) 柵列・堀跡

SA1(図3-99)

調査区南西部に位置する。SD4に切られ、ST38を切る。東西方向に3間を検出し、全長5.2mを測る。掘方は概ね円形を呈し、径はP1が40cm、その他は50cmで検出面からの深さはP1・2は20cm、P3は30cmでP4は45cmを測る。柱間寸法は1.4~2.0mで、埋土は黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。出土遺物では図示できるものはなかった。

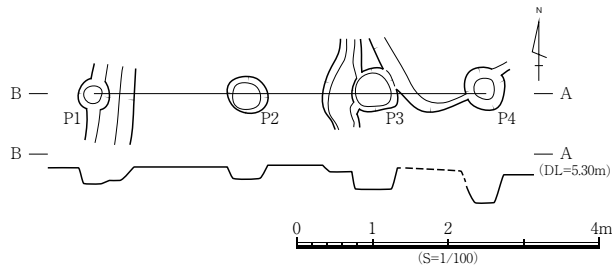


図3-99 SA1

(4) 土坑

土坑については主要なものについて具体的に述べるが、それ以外のものについては土坑一覧表にまとめた。

SK1(図3-100)

調査区西部に位置し、SK2を切る。平面形は楕円形状を呈し、長軸1.10m、短軸0.6mで検出面からの深さは約7cmを測り、断面形は皿状を呈する。埋土は暗褐色シルトである。出土遺物では弥生土器壺が図示できた。

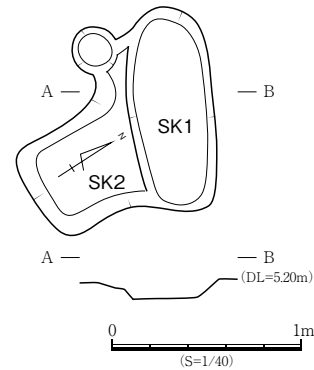


図3-100 SK1・2

埋土出土遺物(図3-101 1354)

1354は口縁部でやや外反し、口唇部は平坦面を呈する。外面はハケ調整後一部にはミガキ調整がみられる。内面もハケ調整後ミガキ調整を施す。

SK2(図3-100)

調査区西部に位置しSK1に切られる。平面形は方形状を呈していたと考えられる。南北0.45m以上、東西0.52mで、検出面からの深さは約6cmを測り、断面形は皿状を呈する。埋土は暗褐色シルトである。

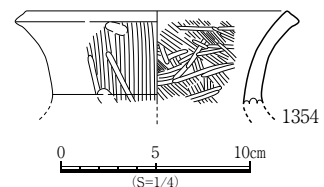


図3-101 SK1出土遺物実測図

SK3

調査区西部に位置し、SD4に切られる。平面形は楕円形状を呈していたと考えられる。南北は0.75m、東西1.10m以上で検出面からの深さは5cmを測る。埋土は暗褐色シルトである。

SK6(図3-102)

調査区の西部中央において検出した土坑である。ST39に南西部を切られる。長軸約3.5m, 短軸約3.0mの隅丸長方形を呈する。検出面からの深さは27cmである。埋土は黒色細粒砂混じりシルトである。土器焼成遺構の可能性ある。図示した出土遺物は弥生土器壺・甕・鉢・甌・高杯, ミニチュア土器, 土製品, 石製品である。

埋土出土遺物(図3-103・104 1355~1383)

1355は壺である。口縁部は直線的に外上方へのび, 口唇部には面取りを施す。内外面とも斜め方向のハケ調整である。搬入品か。1356は壺である。外面は縦方向のハケ調整である。内面は斜め方向のハケ調整後, ミガキ調整を施す。口縁部は内外面とも横方向のナデ調整を施し, 尖らせる。1357は壺である。体部は球形である。外面は斜め方向のハケ調整を基本に方向の違うハケメを重ねる。内面は横方向のハケ調整である。体部中位以下はハケ調整後, 縦方向のナデ調整を施す。肩部内面に粘土紐接合痕跡が3条認められる。1358は長胴の甕である。欠損するが丸底と考えられる。外面の底部付近はタタキ調整後ハケ調整を施す。タタキ目の方向は右下がりである。体部はタタキ調整後, ナデ調整を施す。肩部は丁寧にナデ消されている。口縁部はタタキ調整, 指頭により折り曲げる。口縁部内面は粗い斜め方向のハケ調整後, 口縁端部の内外面にはヨコナデ調整を施す。口縁部外面には指頭圧痕が認められる。内面のハケ調整は, 体部中位を境に方向が変化する。肩部内面は横方向のハケ調整を施す。また, 肩部内面には3~4条の粘土紐接合痕跡がみられる。1359は甕である。体部は中位からやや上位に最大径部を持つ。口縁部の屈曲度合いは弱く, 口頸部内面に稜は立たない。口縁端部を摘み上げ, 口唇部は尖らせる。丸底であり, 外底面にもタタキ目がみられる。外面はタタキ調整後, ハケ調整である。口縁端部付近までタタキ調整を施し, 丁寧にナデ(ハケメ)調整を施す。体部は右下がり方向のタタキ調整を底部付近まで施し, 底部は急角度の右上がり方向のタタキ調整を施す。肩部から底部付近はタタキ調整後縦方向のハケ調整を比較的密に施す。口縁部外面には横方向のハケ調整を施す。底部内面はハケ調整, 体部内面はナデ調整, 上胴部内面はハケ調整後ナデ調整, 口縁部内面はハケ調整である。肩

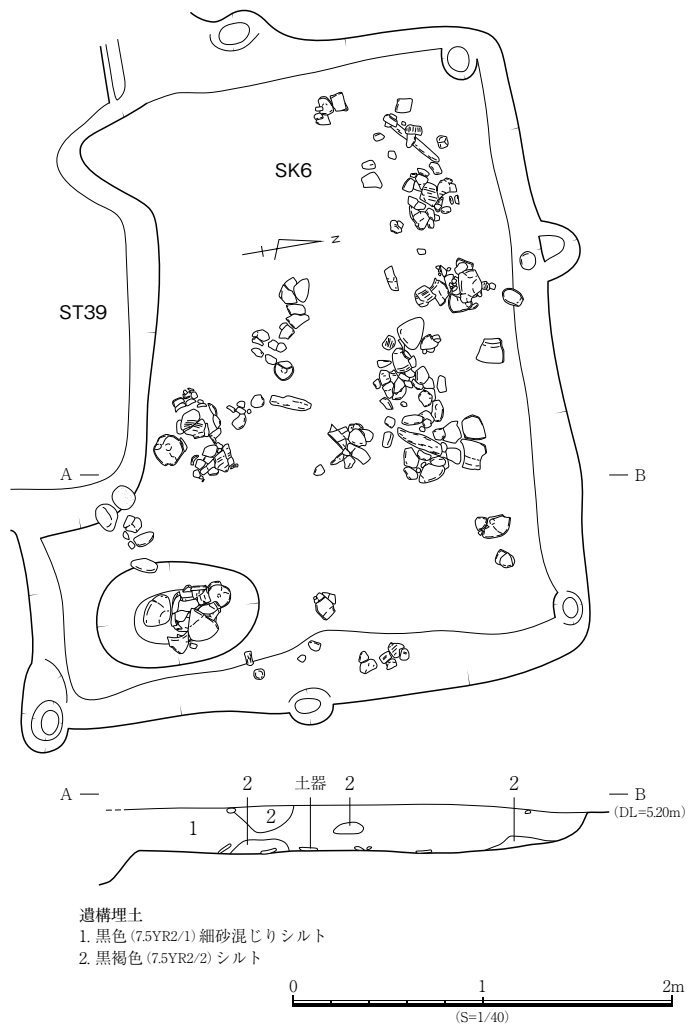


図3-102 SK6

2. 検出遺構と遺物 (4) 土坑

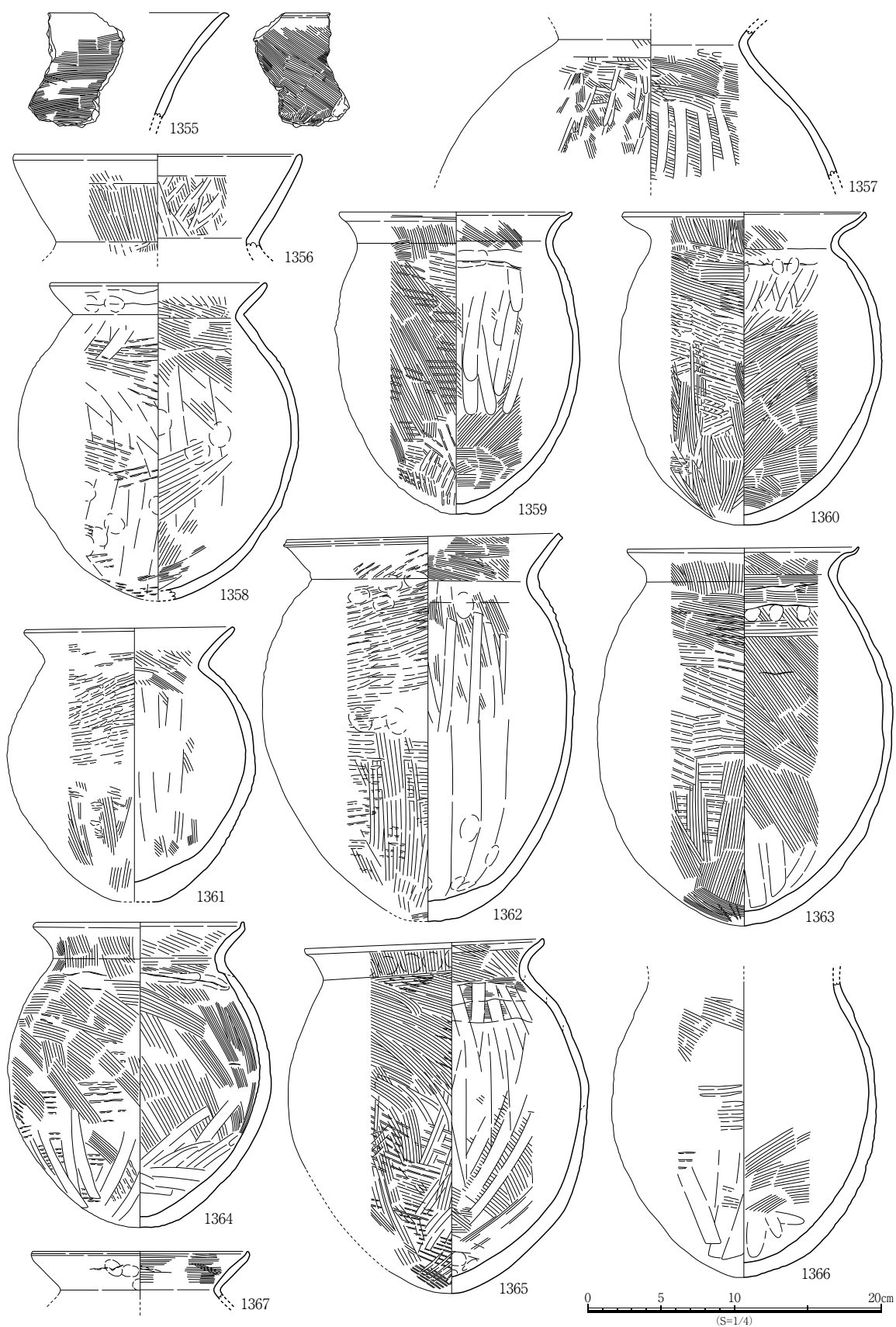


図3-103 SK6出土遺物実測図1

部内面には粘土紐接合痕跡が2条認められる。1363と類似する。1360は甕である。体部は球形を指向し、底部は完全な丸底である。口縁部は内湾させ、口唇部には面取りを施す。外面はタタキ調整後、ハケ調整を施す。上半部は右下がり方向のタタキ目、下半部には右上がり方向のタタキ目が認められる。さらに底部付近には水平方向のタタキ目が認められる。底部付近のハケ調整は密に施す。外底面にはナデ調整を施す。内面は底部から螺旋状にハケ調整を施す。肩部内面は斜め方向のハケ調整後ナデ調整を施す。頸部内面から口縁部内面にはハケ調整を施す。1361は甕である。体部中位に最大径部を持ち、球形を指向する。丸底である。外面はタタキ調整後、下半部には縦方向のハケ調整を施す。タタキ目の方向は上半部が右上がり、下半部は右下がりである。口縁部はタタキ調整後、指頭で「く」の字状に折り曲げる。口唇部は丸くおさめる。内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。口頸部内面はハケ調整であり、端部付近は横方向のナデ調整である。外面には吹きこぼれの痕跡がみられる。1362は甕である。外面は体部からの一連のタタキ調整を口縁部まで施し、「く」の字状に折り曲げる。口縁部上端にはヨコナデ調整を施し、口唇部は凹面状を呈する。体部の中位がやや張り、球形を指向する。底部は丸底である。体部下半にはタタキ調整後、縦方向のハケ調整を疎らに施す。体部内面はハケ調整後、ナデ調整を施しており、肩部内面にはハケメが残る。口縁部内面にはハケ調整を2段に分けて施す。1363は甕である。体部中位がやや張り、球形を指向する。丸底である。口縁部は緩やかに外反し、口縁端部をつまみ上げる。外面は右下がり方向のタタキ調整を施し、下半部にはタタキ調整後、縦方向のハケ調整を施す。底部付近のタタキ目は縦方向に近い急角度である。肩部外面には横方向のハケ調整が認められる。口縁部外面には縦方向のハケ調整を密に施す。体部内面には斜め方向を基調とするハケ調整を上下に分割して施す。底部付近内面の最終調整はナデ調整である。肩部内面は横方向のハケ調整である。また、粘土紐接合痕跡が4条認められ、指頭圧痕列がみられる。口縁部内面には斜め方向のハケ調整を施し、口縁端部付近はヨコナデ調整により仕上げる。1359と類似する。1364は甕である。体部は球形を呈し、丸底である。口縁部は「く」の字状を呈し、口縁端部をつまみ上げる。外面は頸部まで右下がり方向のタタキ目が残る。タタキ調整後、斜め方向のハケ調整を施す。また、外底面及び底部付近には縦方向のナデ調整を施す。口縁部外面はハケ調整である。内面は斜め方向のハケ調整であり、内底部の最終調整はナデ調整である。頸部内面は横方向のハケ・ナデ調整である。口縁部内面は斜め方向のハケ調整であり、端部付近はヨコナデ調整である。肩部内面には2条の粘土紐接合痕跡が認められる。1365は甕である。体部中位に最大径部を有し、球形を指向する。丸底である。口縁部は「く」の字状を呈し、端部をつまみ上げる。外面はタタキ調整後、斜め方向のハケ調整を施す。タタキ目の方向は右下がりを基調とする。底部付近には急角度の右上がり方向のタタキ目がみられる。口縁部外面には縦方向のハケメを丁寧に施し、頸部外面の一部には横方向のハケメが認められる。体部内面はハケ調整後、ナデ調整を施す。肩部内面には横方向のハケ調整を、口縁部には斜め方向のハケ調整を施す。また、肩部内面には粘土紐接合痕跡が3条みられる。1366は甕である。丸底である。器面が荒れており調整等の観察は困難であるが、外面はタタキ調整後、ハケ・ナデ調整である。肩部外面にハケメがみられる。内面下半部には斜め方向から横方向のハケ調整、底部付近にはナデ調整を施す。1367は甕である。口縁端部をつまみ上げる。外面は横方向のナデ調整、内面は横方向のハケ調整である。頸部内面にはケズリ調整を施す。河内産庄内式土器の胎土とは異なる印象を受ける。模倣品か。1368は小型の甕である。体部はラグビーボール形を呈し、底部は角に丸みを持った平底である。外面は全面にハケ調整を施す。肩部は斜め方向のハケメ、体部は縦方向のハ

2. 検出遺構と遺物 (4) 土坑

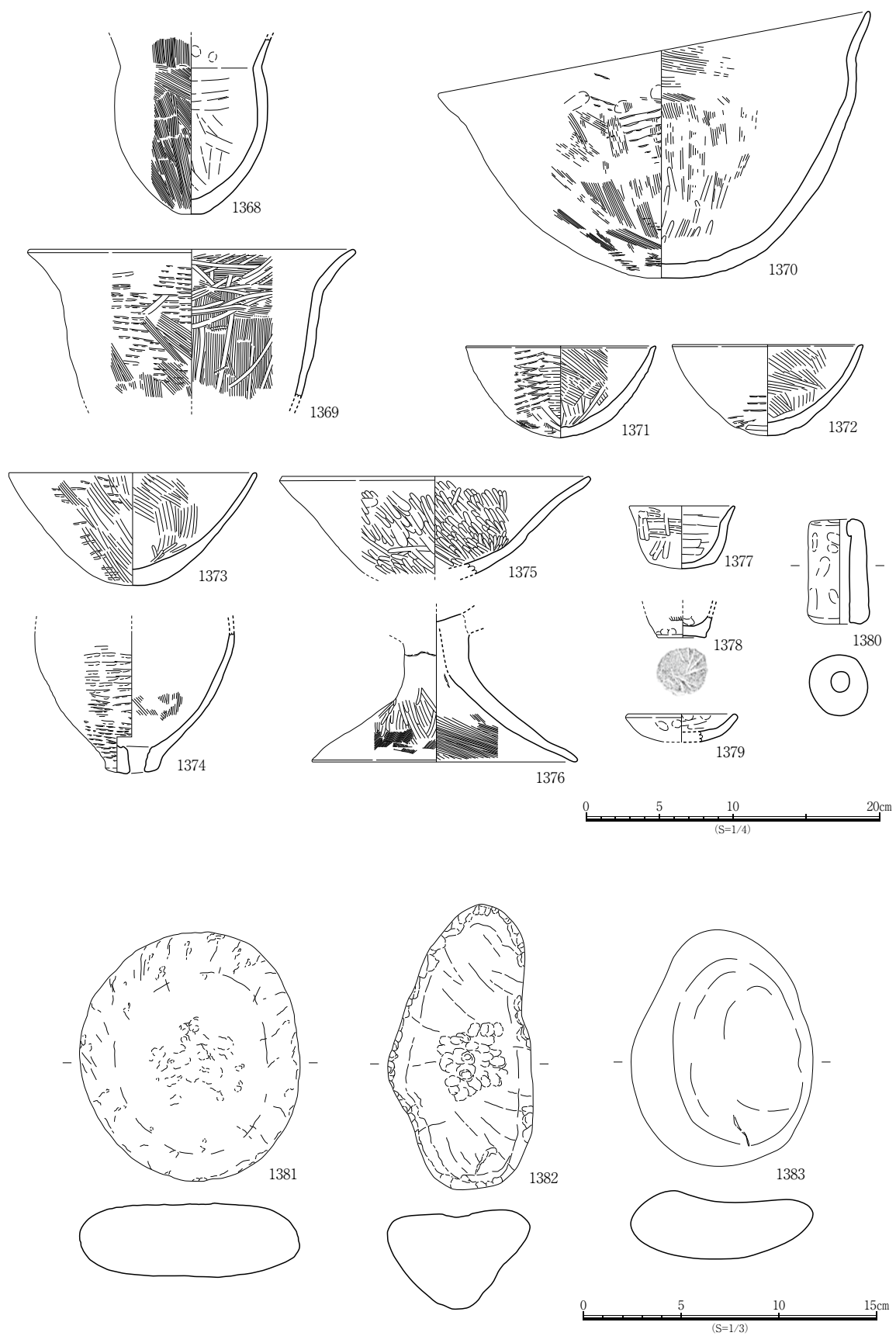


図3-104 SK6出土遺物実測図2

ケメである。内面はナデ調整である。1369 は大型の鉢である。口縁部は外反する。外面は口縁端部まで体部からの一連のタタキ調整を施す。体部にはタタキ調整後、ハケ調整を施す。体部内面は縦方向のハケ調整後、縦方向のミガキ調整を施す。口縁部内面は横方向のハケ調整である。1370 は大型の鉢である。丸底である。体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部は外反させる。外面はタタキ調整後、ハケ調整である。外底面はナデ調整である。内面は縦方向のハケ調整後、縦方向のミガキ調整を施す。内底面には指頭圧痕が認められる。片口鉢の可能性が高い。内面には環状に煤が付着する。1371 は鉢である。外面はタタキ調整後、ナデ調整を施す。底部は不定方向のケズリ・ハケ調整で丸底とする。内面は斜め方向のハケ調整を上下2段に分けて施す。ハケ調整後、ミガキ調整を疎らに施す。1372 は鉢である。体部は半球形を呈し、口唇部は丸くおさめる。外面はタタキ調整後、ナデ調整を丁寧に施す。底部はケズリあるいは強いナデ調整により丸底とする。内面は粗いハケ調整を上下2段に分けて施す。1373 は鉢である。外面はタタキ調整後、縦方向のハケ調整であり、一部ミガキ状を呈する。内面はハケ調整後、ミガキ調整を施す。内底面には指頭圧痕が認められ、内底面を押し出すことで丸底とする。1374 は甑である。口縁部にむかって内湾気味になる。底部は柱状に突出し、焼成前に外側から1穴、穿孔する。外面はタタキ調整後、ナデ調整を施す。内面はハケ調整である。1375 は高杯である。外面の底部と杯部の境に段部がみられるが、全周しない。体部は鉢状を呈し、口縁部を外反させ、口唇部は丸くおさめる。外面の最終調整は斜め方向のミガキ調整である。内面はハケ調整後ミガキ調整である。1376 は高杯である。短い中空の脚柱部から裾部は笠状にひろがる。脚柱部外面はナデ調整である。裾部外面は縦方向のハケ調整後、縦方向のミガキ調整を疎らに施す。ハケメには粗いものとやや細かいものの2種類がみられる。脚柱部内面はナデ調整であり、しぼり目が認められる。裾部内面は粗いハケ調整である。また、裾端部には横方向のナデ調整を施し、尖らせ気味に仕上げる。1377 はミニチュア土器である。外反口縁を持つ鉢がモデルか。丸みを持った平底で体部は直立し、口縁部を外反させる。外面はタタキ調整後、ナデ調整を施し、一部はミガキ状を呈する。内面はナデ調整であ

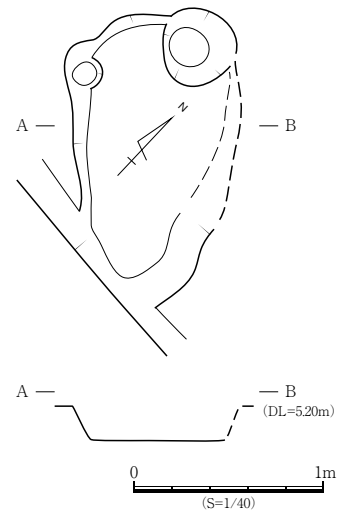


図3-105 SK7

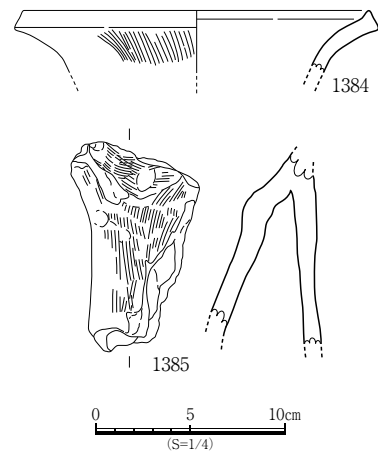


図3-106 SK7出土遺物実測図

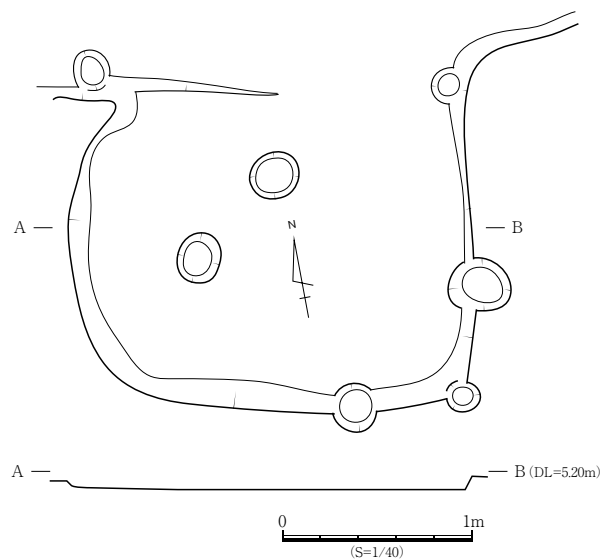


図3-107 SK9

2. 検出遺構と遺物 (4) 土坑

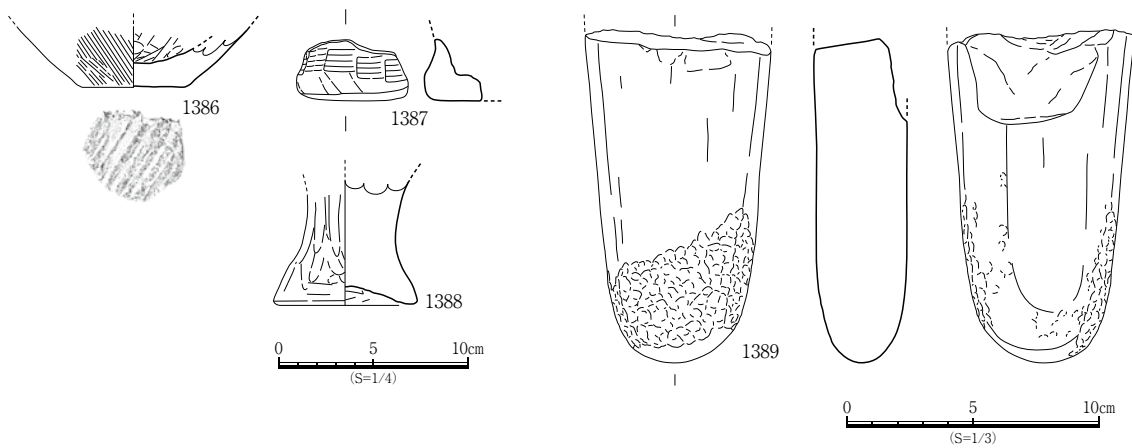


図3-108 SK9出土遺物実測図

り、ナデ調整の痕跡がハケメ状を呈する。ほぼ完存である。1378 は底部である。外底面にはヘラ状工具で円を描くように断続的な静止痕が残っている。内面はナデ調整である。搬入品と考えられる。1379 は皿状を呈したミニチュア土器である。内外面はナデ調整である。1380 は管状土錘である。ナデ調整で仕上がる。ほぼ完存である。1381 は緑色片岩製の叩石である。扁平な川原石を使用する。両面の中央部、側面に敲打痕跡が認められる。1382 は砂岩製の叩石である。平面は「く」の字状を呈し、断面形は三角形を呈する。一部は敲打により凹む。1383 は砂岩製の磨石である。全面が平滑となり一部は凹むが、人為的なものか、自然のものかは不明である。

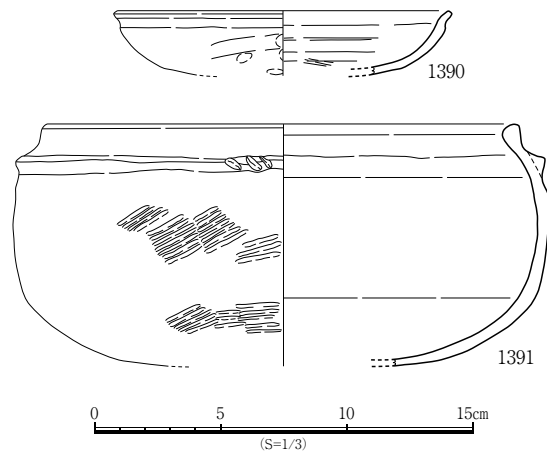


図3-109 SK11出土遺物実測図

SK7(図3-105)

調査区西部に位置し、SD7に切られる。遺構の一部は調査区南壁と接する。平面形は楕円形状を呈し、長軸1.4m、短軸0.75m(推定)を測る。埋土は黒褐色シルトである。出土遺物では弥生土器壺、支脚が図示できた。

埋土出土遺物(図3-106 1384・1385)

1384 は壺の口縁部で口唇部は平坦面を呈し、外面はハケ調整を施す。内面は摩耗する。1385 は支脚である。中空で、外面はハケ調整及びナデ調整を施す。内面はユビナデがみられる。

SK8

調査区中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸1.42m、短軸0.62mで、検出面からの深さは18cmを測る。埋土は細砂混じりの黒褐色(10YR3/1)シルトである。

SK9(図3-107)

調査区西部に位置する。遺構の北部はST40に切られ、上面もピットに切られる。平面形は隅丸方

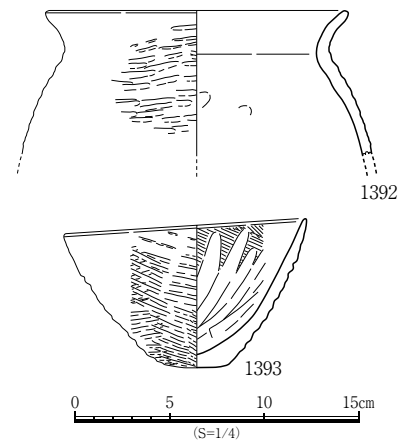


図3-110 SK13出土遺物実測図



図3-111 SK16

形状を呈すると考えられ、長軸2.14m、短軸1.68m以上(推定)で検出面からの深さは約10cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトである。出土遺物では弥生土器壺、支脚、石製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-108 1386~1389)

1386は壺の底部である。底部外面にはタタキ目が認められる。外面はハケ調整とナデ調整、内面は

2. 検出遺構と遺物 (4) 土坑

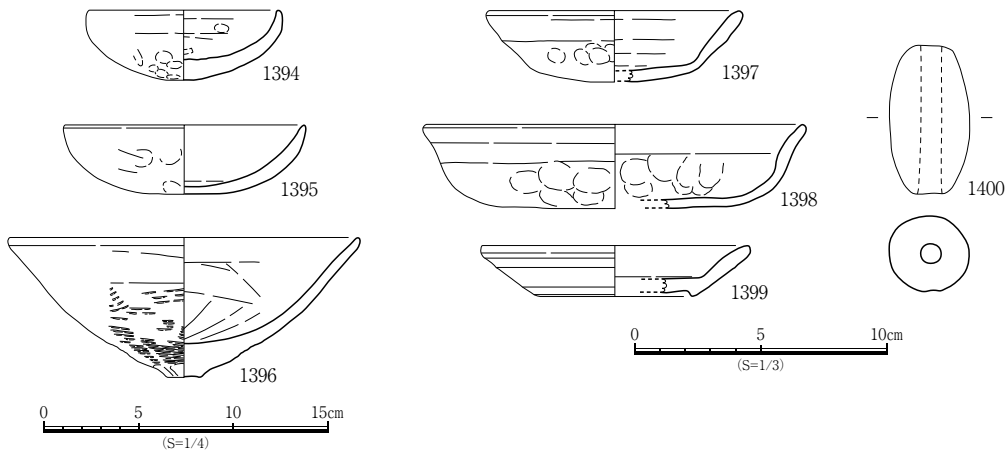


図3-112 SK16出土遺物実測図

指頭圧痕とナデ調整を施す。1387・1388は支脚と考えられる。1387の外面はケズリ調整とハケ調整, 底部はナデ調整を施す。1388は中実を呈し, 外面は指頭圧痕と工具によるナデ調整がみられる。1389は砂岩製の叩石で周縁部には敲打痕がみられる。

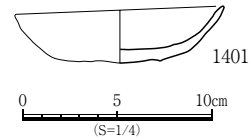


図3-113 SK22出土遺物実測図

SK10

調査区中央部北側に位置する。上面はピットに切られる。平面形は楕円形状を呈し, 長軸1.04m, 短軸0.60mで検出面からの深さは28cmを測る。埋土は褐灰色(7.5YR4/1)シルトである。

SK11

調査区中央部に位置する。ST50を切る。平面形は楕円形状を呈し, 長軸1.48m, 短軸0.58mで検出面からの深さは30cmを測り, 断面形はU字状である。埋土は土器片及び細礫が混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では土師器皿と土師質土器釜が図示できた。

埋土出土遺物(図3-109 1390・1391)

1390は手づくね皿で, 口縁端部は強い横方向のナデ調整を施す。外面は指頭圧痕及びナデ調整, 内面はナデ調整を施す。1391は土師質土器釜で口縁部外面には断面三角形の鏝が巡る。体部外面はタタキ後ナデ調整を施す。内面は丁寧なナデ調整である。体部外面には煤が付着する。

SK13

調査区中央部に位置する。平面形は楕円形状を呈し, 長軸1.0m, 短軸0.76mで検出面からの深さは概ね20cmを測り, 断面形はU字状である。埋土は炭化物が少量と細砂混じりの褐灰色(7.5YR4/1)粘土である。遺構は竪穴建物跡ST51内において検出されており, 同遺構に付属する土坑の可能性も考えられる。出土遺物では弥生土器甕・鉢が図示できた。

埋土出土遺物(図3-110 1392・1393)

1392は口縁部から体部にかけて残存しており, 口縁部は緩やかに外反する。外面はタタキ後口縁部はナデ調整, 内面はナデ調整を施す。1393は鉢である。底部は平底状を呈し, 口縁部は斜め上方に

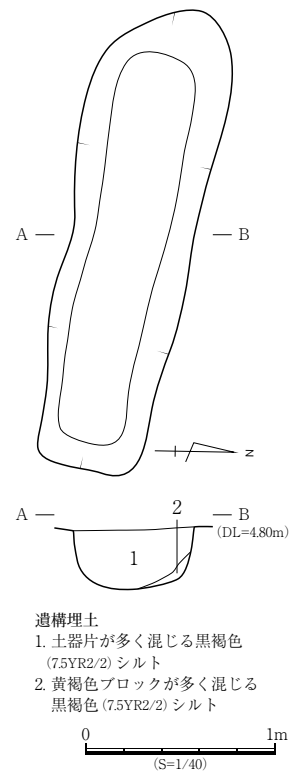


図3-114 SK27

のびる。外面はタタキ目が口縁部まで認められ、底部はナデ調整を施す。内面はハケ調整後、底部にかけてユビナデを施す。

SK16(図3-111)

調査区中央部に位置する。平面形は不整形状を呈し、長軸 4.95m、短軸 3.94m で検出面からの深さは 10～40 cm を測る。埋土は拳大の礫を多く含む褐灰色(7.5YR4/1)シルトである。遺構の重複が考えられる。出土遺物では弥生土器鉢、土師器皿、国内産陶器皿、土製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-112 1394～1400)

1394 は皿状の鉢である。底部外面と内面は指頭圧痕、口縁部はナデ調整である。1395 は皿状の鉢である。外面は指頭圧痕とナデ調整、内面はナデ調整を施す。1396 は口縁部は外方にひらく。外面はタタキ目が認められ、口縁端部はナデ調整で底部は指頭圧痕が顕著である。内面はナデ調整を施す。1397 は土師器皿である。手づくね成形で外面は指頭圧痕とナデ調整、内面はナデ調整で口縁部は横方向の丁寧なナデ調整を施す。1398 は手づくね成形の皿である。体部から底部の外面内面は指頭圧痕とナデ調整を施し、口縁部の内面と外面は横方向の強いナデ調整により口縁端部は外反する。1399 は国内産陶器の皿である。底部は碁笥底状を呈し、口縁部は外方にひらく。鉄釉を施釉する。瀬戸美濃系の皿と考えられる。

1400 は土錘である。管状を呈する。

SK22

調査区東部に位置する。平面形は楕円形状を呈すると考えられる。南北 0.6m 以上、東西 1.4m で検出面からの深さは 10 cm 前後を測る。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。遺構は竪穴建物跡 ST59 内において検出されており、同遺構に付属する土坑の可能性も考えられる。出土遺物では弥生土器の鉢が図示できた。

埋土出土遺物(図3-113 1401)

1401 は皿状の鉢で、外面内面ともに摩耗している。底部には凹みがみられる。

SK23

調査区東部南側に位置する。遺構の一部は調査区南壁に接する。平面形は円形状を呈し、径 1.05m で検出面からの深さは 13 cm を測る。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。

SK24

調査区東部に位置する。ST61 を切る。平面形は隅丸方形形状を呈し、長軸 1.0m、短軸 0.9m で検出面からの深さは 36 cm を測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。

SK27(図3-114)

調査区北東部に位置する。平面形は隅丸長方形形状を呈し、長軸 2.5m、短軸 0.66m で検出面からの深さは 30 cm を測り、断面形は逆台形状を呈する。埋土は 1 層：黒褐色(7.5YR2/2)シルト、2 層：黄褐色土ブロックが多く混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルトである。

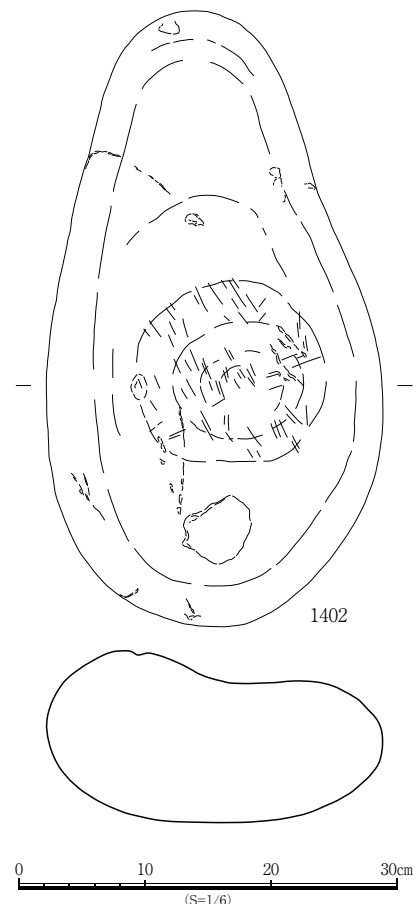


図3-115 SK27出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (4) 土坑

遺構の西側底面において台石が出土した。

埋土出土遺物(図3-115 1402)

1402は砂岩で中央部は凹み、凹みの周囲には使用痕がみられる。また周縁部の一部に敲打痕が認められる。

SK29

調査区中央部に位置する。平面形は長方形を呈していたと考えられる。南北0.8m、東西1.4m以上で検出面からの深さは約20cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/2)シルトである。出土遺物では弥生土器壺・鉢、金属製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-116 1403~1406)

1403は壺の口縁部と考えられ、口唇部には貝殻状の刺突が巡り、外面と内面はナデ調整を施す。1404は小型の鉢で、口縁部は内湾する。外面はタタキ後口縁部はナデ調整、内面は指頭圧痕及びナデ調整を施す。1405は底部は欠損している。外面はタタキ後ナデ調整で内面はハケ調整を施す。

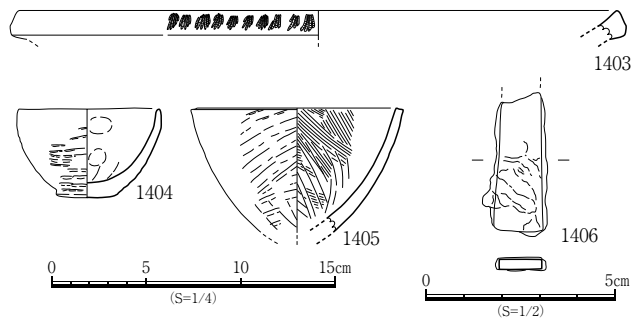


図3-116 SK29出土遺物実測図

1406は鉄製品である。鉢の可能性が考えられる。

SK30

調査区北東部に位置し、上面をSB9に切られる。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.9m以上、短軸0.7mで検出面からの深さは24cmを測る。埋土は1層：黒褐色(7.5YR2/2)シルト、2層：黄褐色土ブロックが多く混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルトである。

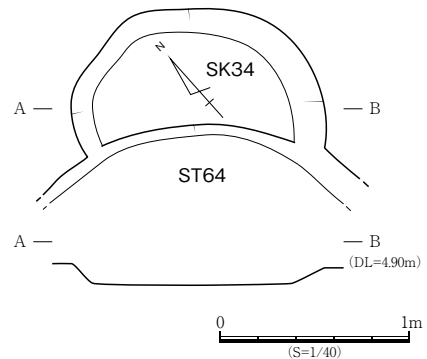


図3-117 SK34

SK34(図3-117)

調査区東部に位置する。ST64に切られる。長軸1.3m、短軸0.6m以上で平面形は楕円形状を呈すると考えられる。検出面からの深さは10cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。出土遺物では土師器碗が図示できた。

埋土出土遺物(図3-118 1407)

1407は底部は丸底で口縁部は内湾する。外面内面はナデ調整である。

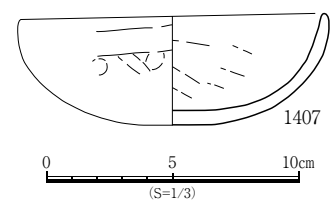


図3-118 SK34出土遺物実測図

SK36

調査区南東部に位置する。ST64を切る。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸2.3m、短軸1.0mで検出面からの深さは20cmを測る。埋土は黄褐色土がブロック状に混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。

SK38

調査区北東部に位置する。上面はピットに切られる。平面形は楕円形状を呈し、長軸1.9m、短軸約

0.6mで検出面からの深さは28cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR2/2)シルトである。出土遺物では弥生土器鉢が図示できた。

埋土出土遺物(図3-119 1408)

1408は底部は丸底を呈し、外面は丁寧なミガキ調整で内面は口縁端部はナデ調整、体部から底部にかけてはミガキ調整を施す。

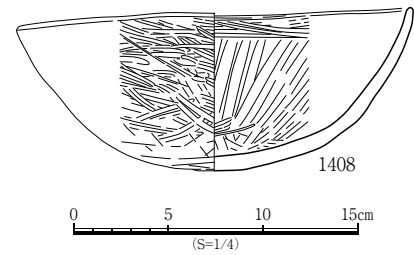


図3-119 SK38出土遺物実測図

(5) 溝跡

SD1(図3-120)

SD1は調査区西端に位置し、調査区を南北に縦断する。検出長は19.8mで幅は0.88m、検出面からの深さは0.14~0.27mを測る。遺構の断面形は逆台形状を呈し、埋土は土器片が混じる黒褐色(10YR2/2)シルトである。出土遺物では図示できるものはなかった。

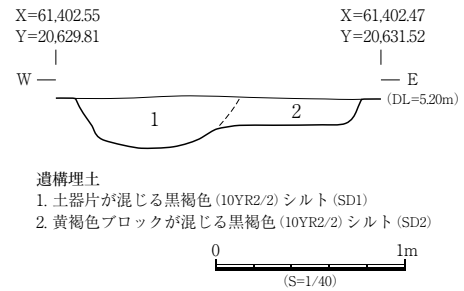


図3-120 SD1・2

SD2(図3-120)

調査区西端に位置し、南北にのびる。SD1に切られる。検出長は約19mで、幅は溝の南側では0.62mを測る。検出面からの深さは0.13~0.18mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

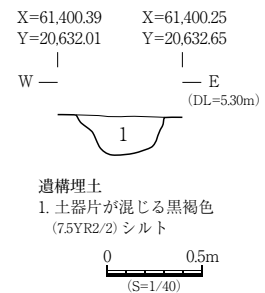


図3-121 SD4

SD4(図3-121)

調査区西部に位置し、南北にのびる。遺構の南側は調査区外に続く。検出長は15.9m、幅は0.36~0.46mで検出面からの深さは0.18mを測る。遺構の断面形はU字状を呈し、埋土は土器片が混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルトである。出土遺物では須恵器甕が図示できた。

埋土出土遺物(図3-122 1409)

1409は甕の口縁部で外反し、端部は玉縁状を呈する。外面内面ともに回転ナデ調整を施す。

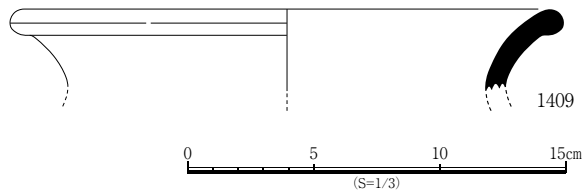


図3-122 SD4出土遺物実測図

SD5(図3-123)

調査区西部に位置し、調査区を南北に縦断する。ST37とSD6を切る。検出長は19.5m、幅は0.99~1.36mで検出面からの深さは0.40~0.48mを測る。遺構の断面形はU字状を呈し、埋土は土器片および小礫が混じる黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。検出時は1条の溝と考えられたが、掘削を進めると2条の溝跡であることが確認された。出土遺物では土師器甕・椀、須恵器杯蓋・杯身、土製品、石製品が図示できた。SD6の遺物の可能性も考えられるものである。

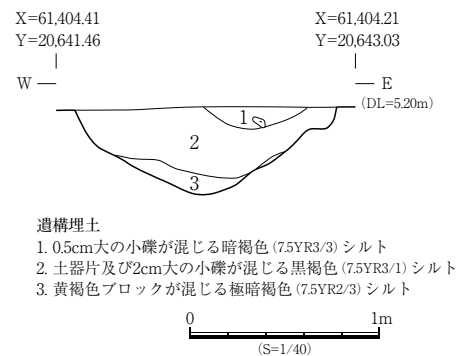


図3-123 SD5

埋土出土遺物(図3-124 1410~1416)

1410は土師器甕の口縁部から頸部で、口縁部は外反する。外面は丁寧なナデ調整、内面は口縁部はナデ調整、頸部

2. 検出遺構と遺物 (5) 溝跡

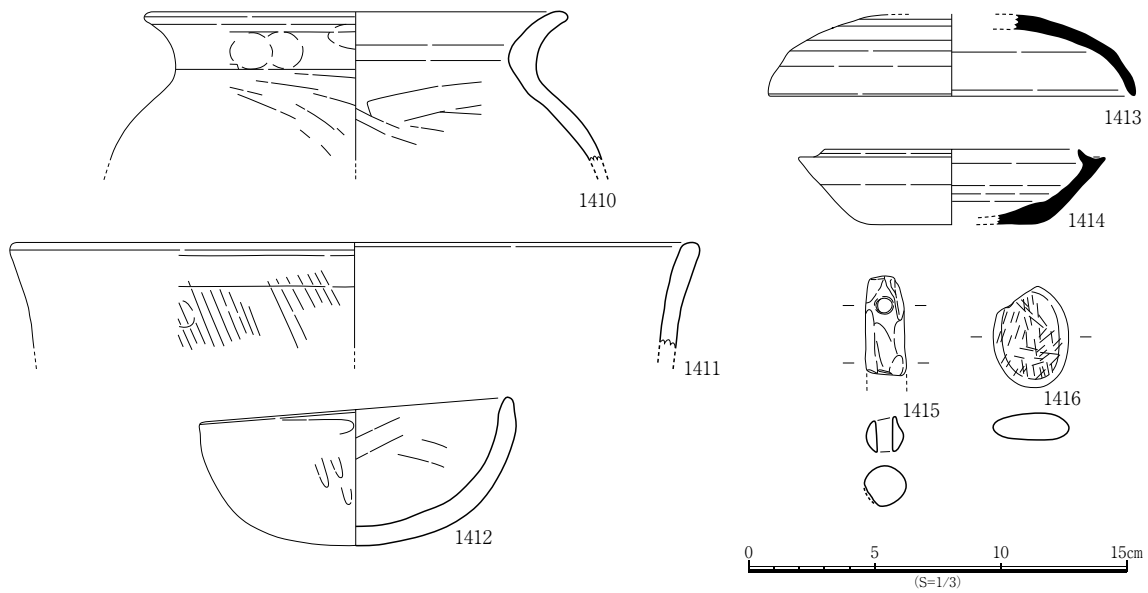


図3-124 SD5出土遺物実測図

下はケズリ調整及びナデ調整である。1411は甕あるいは甑の口縁部である。外面はハケ調整後端部はナデ調整, 内面はナデ調整を施す。1412は椀で, 器壁は厚みをもつ。外面内面ともにナデ調整である。

1413は須恵器杯蓋である。天井部外面は回転ケズリ調整で, 内面及びその他は回転ナデ調整を施す。1414は須恵器杯身で立ち上がりは短く内傾し, 受部は断面三角形状を呈する。外面内面ともに回転ナデ調整である。1415は土製品で径0.65cmの円孔を施す。外面は指頭圧痕及びナデ調整がみられる。1416は楕円形状の石で, 両面及び周縁部を磨いている。

SD6

調査区西部に位置し, 南北にのびる。SD5に切られる。検出長は17m以上, 幅0.50m以上で検出面からの深さは0.18~0.28mを測る。遺構の断面形は逆台形状からU字状を呈し, 埋土は小礫が混じる黒褐色(10YR2/2)シルトである。検出時は1条の溝跡と考えられたが, 掘削を進めると2条の溝跡であったことが確認された。出土遺物では図示できたものはなかった。

SD7(図3-125)

調査区西部に位置し, 調査区を南北に縦断する溝である。北側ではST41, 南側ではST40とSX9を切っている。調査区の南

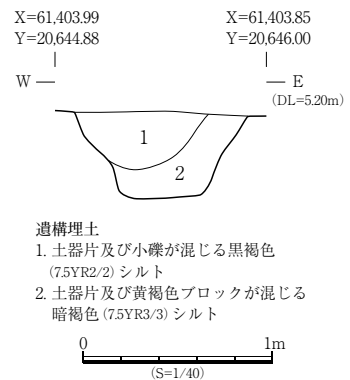


図3-125 SD7

- 遺構埋土
1. 土器片及び小礫が混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルト
 2. 土器片及び黄褐色ブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルト

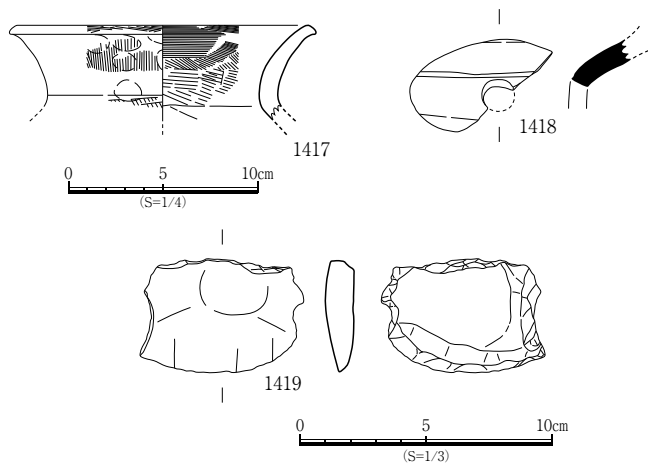


図3-126 SD7出土遺物実測図

側において東西にのびる溝SD11に接続する可能性も考えられる溝跡である。検出長は19.5m, 幅0.60~0.90mで検出面からの深さは0.22~0.48mを測る。遺構の中央より南側は一段低くなっている。同一遺構あるいは、別の溝跡があった可能性も考えられる。埋土は中央より南側の1層は土器片及び小礫が混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルト, 2層は黄褐色土ブロックが混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では弥生土器壺, 須恵器甗, 石製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-126 1417~1419)

1417は壺の口縁部で外反し, 口唇部は平坦面を呈する。外面は縦方向のハケ調整, 内面は横方向のハケ調整を施す。1418は須恵器甗の破片である。

1419は砂岩製の打製石包丁である。一面は自然面, 片面は剥離面で両側は挟り状を呈する。

SD8

調査区中央部に位置し, 南北にのびる。遺構の北側は調査区外に続き, 南側は途中確認できなくなった。ST46・47, SB4を切る。検出長は7.1m, 幅0.50~0.68mで検出面からの深さは0.22mを測る。埋土は小礫が混じる暗褐色(10YR3/3)シルトである。出土遺物では白磁皿, 瓦質土器羽釜が図示できた。

埋土出土遺物(図3-127 1420・1421)

1420は白磁皿の口縁部で口縁部端部は釉をかきとり, 面取り状をなしている。1421は外面の口縁下には断面台形状の鏝を貼付する。周囲は指頭圧痕と強いナデ調整を施す。内面はナデ調整である。

SD9

調査区西部に位置し, 南北にのびる。SD10・11と切り合う。検出長は18.4m, 幅0.50~0.60mで検出面からの深さは0.05~0.12mを測る。断面形は皿状を呈し, 埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では図示できるものはなかった。

SD10

調査区西部に位置し, 東西にのびる。SD7と切り合う。検出長は9.7m, 幅は0.45~0.70mで検出面からの深さは0.15mを測る。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルトである。出土遺物では須恵器杯蓋が図示できた。

埋土出土遺物(図3-128 1422)

1422は外面と内面に回転ナデ調整を施す。

SD11(図3-129)

調査区中央部南側に位置し, 東西にのびる。検出長は19.8m, 幅0.50~1.08mで検出面からの深さは0.08~0.15mを測る。遺構西側はSD7に接続する可能性が考えられる。東側については途中で途切れ確認できていない。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では土師器皿, 瓦質土器播鉢・鍋, 石製品が図示できた。

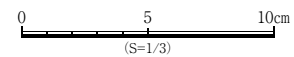
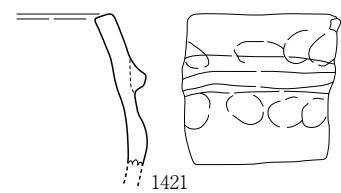
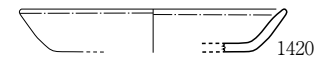


図3-127 SD8出土遺物実測図

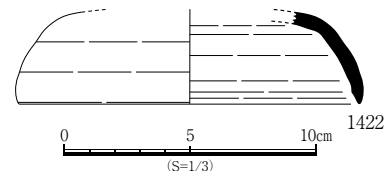


図3-128 SD10出土遺物実測図

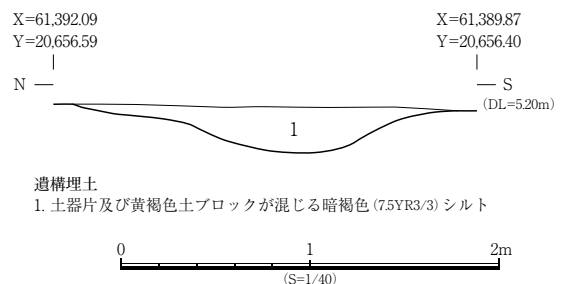


図3-129 SD11

2. 検出遺構と遺物 (5) 溝跡

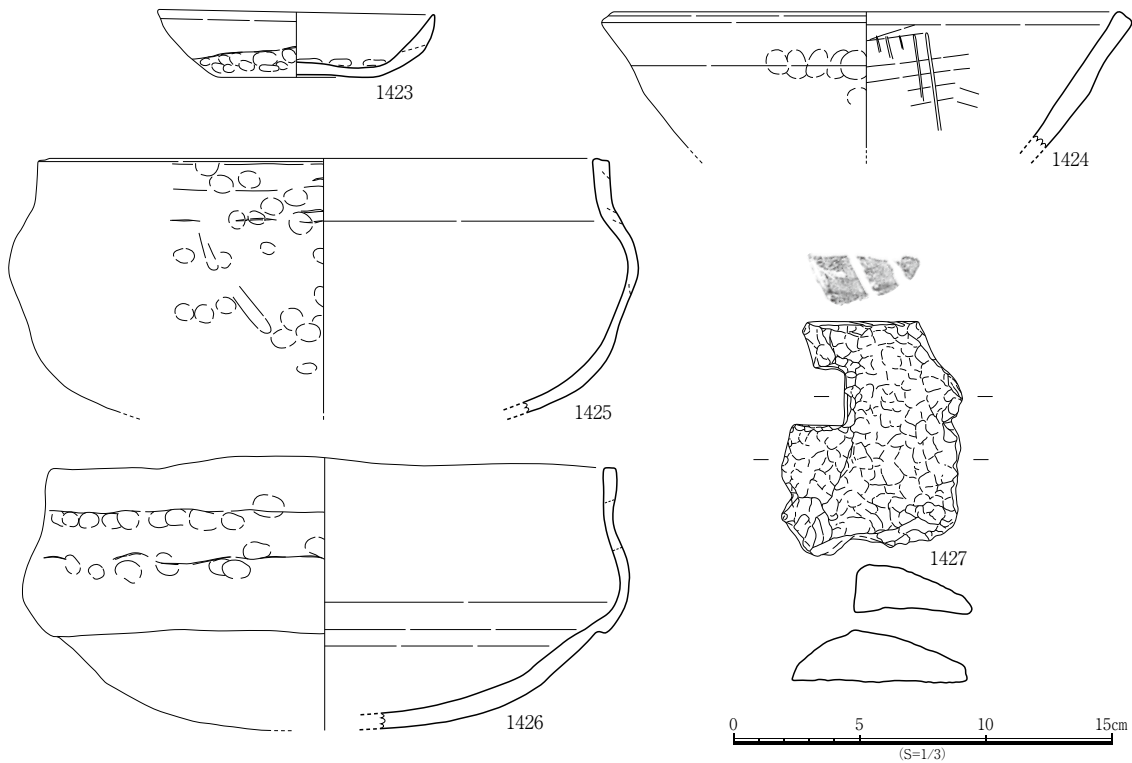


図3-130 SD11出土遺物実測図

埋土出土遺物(図3-130 1423~1427)

1423は手づくね皿である。外面は指頭圧痕及びナデ調整で口縁部は強いナデ調整, 内面はナデ調整を施す。1424は瓦質土器の播鉢で, 外面は指頭圧痕及びナデ調整, 内面には5条の摺目がみられる。1425・1426は瓦質土器鍋である。1425の口縁部は直立してのび, 口縁端部は平坦面を呈する。外面は指頭圧痕及びナデ調整, 内面はナデ調整である。外面底部には煤がみられる。1426は体部下半に段部を残す。口縁部にかけては指頭圧痕及びナデ調整, 底部はナデ調整を施す。内面はナデ調整である。口縁部には歪みがみられ, 焼成良好である。

1427は石臼で, 外面にはハツリが施される。

SD12

調査区西部に位置し, 南北に約12mのびて東西に曲がり, 約10mほどのびる。ST41・44を切り, SD9・10と切り合う。幅0.4mで検出面からの深さは約0.1mを測る。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルトである。出土遺物では図示できるものはなかった。

SD14

調査区中央部南端に位置する。遺構の南側は調査区外に続く。検出長は約3.0m, 幅は0.50~0.70mで検出面からの深さは0.09~0.13mを測る。埋土は黄褐色土ブロックが混じる暗褐色(10YR3/3)シルトである。出土遺物では須恵器蓋が図示できた。

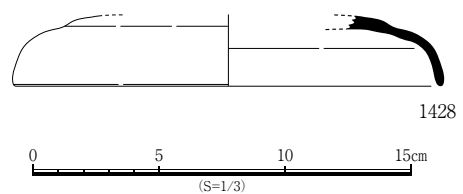


図3-131 SD14出土遺物実測図

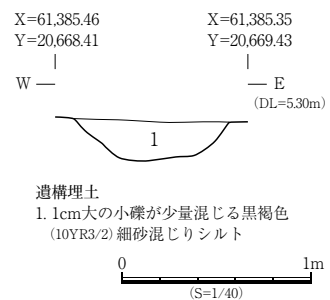


図3-132 SD15

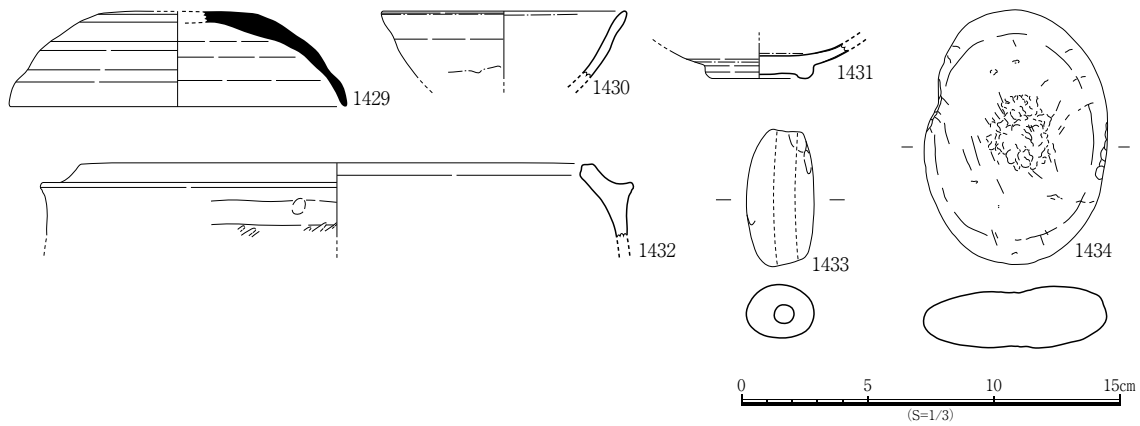


図3-133 SD15出土遺物実測図

埋土出土遺物(図3-131 1428)

1428は天井部から口縁部にかけて残存している。外面と内面は回転ナデ調整である。

SD15(図3-132)

調査区中央部南側に位置し、南北にのびる。遺構の北側は途中で途切れるが、南側については調査区外に続くと考えられる。検出長は5.4m、幅0.80mで検出面からの深さは0.20mを測る。埋土は小礫が混じる黒褐色(10YR3/2)シルトである。出土遺物では須恵器杯蓋、白磁皿・碗、土師質土器羽釜、土製品、石製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-133 1429~1434)

1429は須恵器杯蓋と考えられる。外面の天井部はケズリ調整、その他は回転ナデ調整で内面も回転ナデ調整を施す。1430は白磁皿で口縁端部は釉をかきとる。1431は白磁碗の底部である。白濁色の釉で高台と内面見込みは露胎である。1432は土師質土器羽釜である。口縁下には断面三角形の鏝が付き、鏝部分は強いナデ調整を施す。体部外面はタタキ目がみられ、内面はナデ調整である。

1433は土錘である。管状を呈する。

1434は砂岩の叩石である。両面の中央部と周縁部に敲打痕がみられる。

SD16

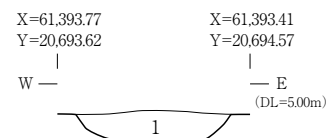
調査区中央部に位置する。検出長は6.6m、幅は0.40~0.60mで検出面からの深さは0.08mを測る。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルトである。出土遺物には図示できるものはなかった。

SD17

調査区中央部南側に位置し、東西にのびる。ST53を切る。検出長は9.8m以上、幅0.45mで検出面からの深さは0.08~0.18mを測る。出土遺物には図示できるものはなかった。

SD19

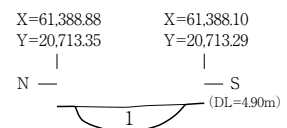
調査区中央部に位置し、南北にのびる。ST52・53を切る。遺構の南北は調査区外に続くと考えられる。検出面からの深さは0.16mを測る。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルトで、出土遺物では図示できるものはなかった。



遺構埋土
1. 土器片及び10cm大の河原礫が混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルト

0 1m
(S=1/40)

図3-134 SD20



遺構埋土
1. 土器片及び砂礫が混じる黒褐色(10YR2/2)粘質シルト

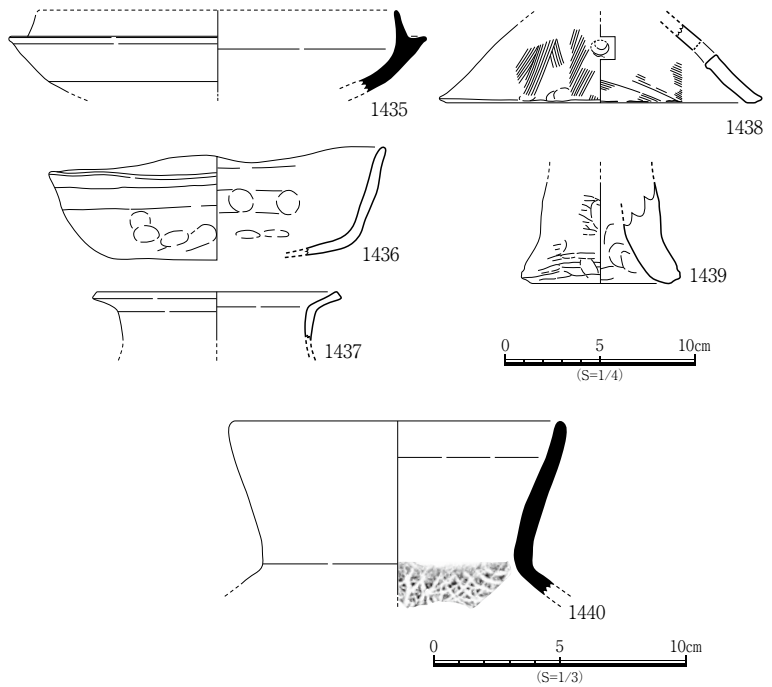
0 0.5m
(S=1/40)

図3-135 SD22

2. 検出遺構と遺物 (5) 溝跡

SD20(図3-134)

調査区東部に位置し、南北にのびる。ST55を切る。遺構の南部は途中で確認できなくなったが、北部については調査区外に続くと考えられる。検出長は9.0m、幅0.50～0.80mで検出面からの深さは0.18mを測る。埋土は土器片及び礫が混じる黒褐色(7.5YR2/2)シルトで、出土遺物では図示できるものはなかった。



SD21

調査区東部に位置し、南北にのびる。ST57～59を切る。遺構の南北ともに調査区外に続くと考えられる。検出長は19m、幅0.58mで、検出面からの深さは0.10～0.15mを測る。埋土は土器片及び細礫が混じる暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では須恵器杯身と土師器皿が図示できた。

図3-136 SD21・22出土遺物実測図

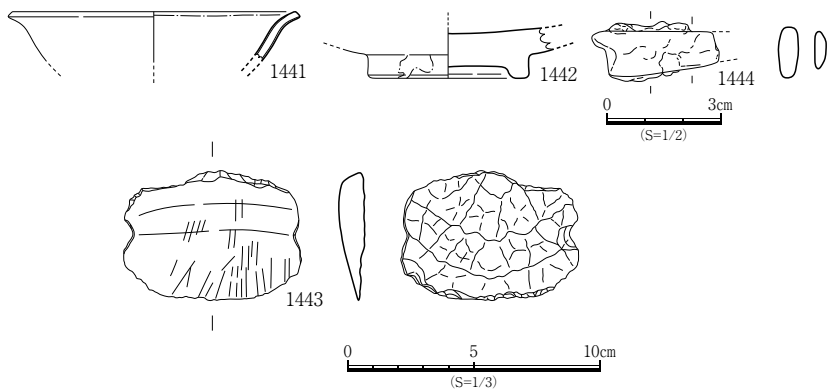


図3-137 SD24出土遺物実測図

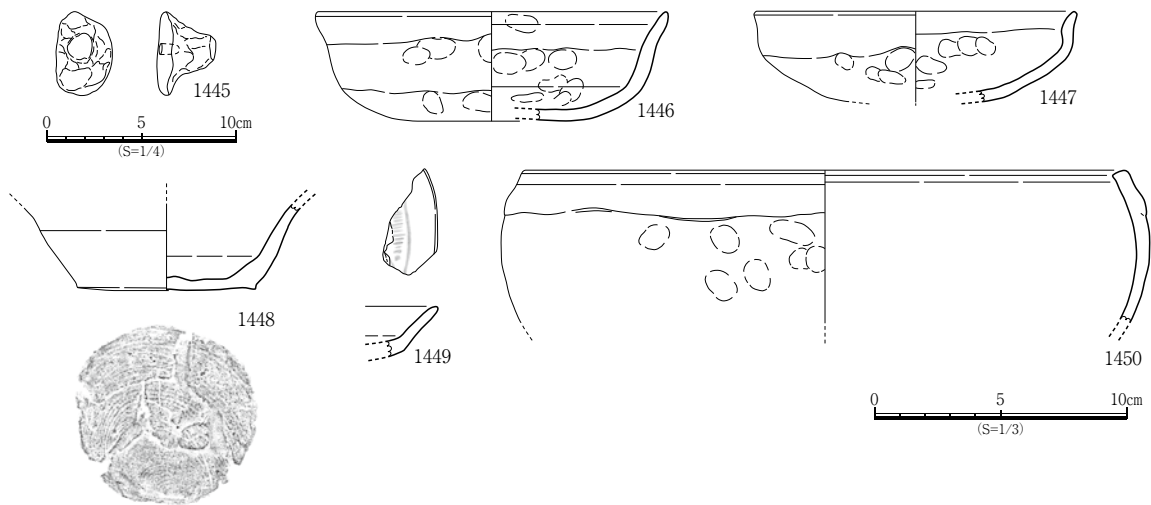


図3-138 SD25出土遺物実測図

埋土出土遺物(図3-136 1435・1436)

1435は須恵器杯身で、外面内面ともに回転ナデ調整を施す。外面には自然釉がみられる。1436は手づくね皿で外面内面ともに指頭圧痕とナデ調整、口縁端部は強い横方向のナデ調整を施す。

SD22(図3-135)

調査区東部に位置し、東西にのびる。ST65を切り、SD25に切られる。検出長は15.6m、幅0.50～0.60mで検出面からの深さは0.14mを測る。埋土は土器片及び小礫が混じる黒褐色(10YR2/2)粘質シルトである。出土遺物では壺、弥生土器高杯、支脚、須恵器壺が図示できた。

埋土出土遺物(図3-136 1437～1440)

1437は壺の口縁部で、外反し口唇部は平坦面を呈する。1438は高杯または器台の脚部と考えられる。外面内面はハケ調整を施す。1439は支脚である。外面はタタキ後指頭圧痕及びナデ調整、内面は指頭圧痕及びナデ調整である。1440は須恵器の壺で、口縁部は外方にのびる。口縁部は外面内面ともにナデ調整、頸部内面は同心円文がみられる。

SD23

調査区東部に位置する。ST59・60を切る。検出長は17.4m、幅0.48mで検出面からの深さは0.14mを測る。埋土は砂礫及び褐色土ブロックが混じる黒褐色(10YR2/3)粘質シルトである。

SD24

調査区東端に位置する。調査区を南北方向に縦断し、調査区外に続く。ST67・68を切る。検出長は15.5m、幅0.82～1.04mで検出面からの深さは0.28mを測る。埋土は土器片及び細礫を含む暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では白磁皿、青磁碗、石製品、金属製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-137 1441～1444)

1441は白磁皿の口縁部で端部は露胎である。1442は青磁碗の底部で、高台脇まで施釉する。

1443は砂岩製の打製石包丁である。一面は自然面、片面は剥離面で両側は抉り状を呈する。

1444は鉄製品で、刀子の可能性が考えられる。

SD25

調査区東部に位置し、逆L字状を呈した区画溝である。ST61・62・64・65、SB8を切る。検出長は南北方向に約15mで西側方向に折れ、約19mのびる。南北では北部は調査区外に続き、西側はSD26と繋がる可能性も考えられる。幅は0.70m、検出面からの深さは0.20～0.28mを測る。埋土は細礫が

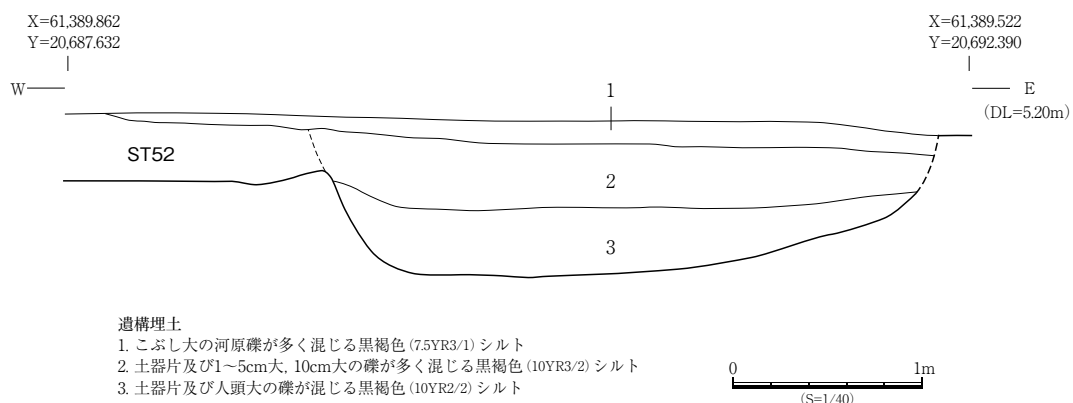


図3-139 SD26

2. 検出遺構と遺物 (5) 溝跡

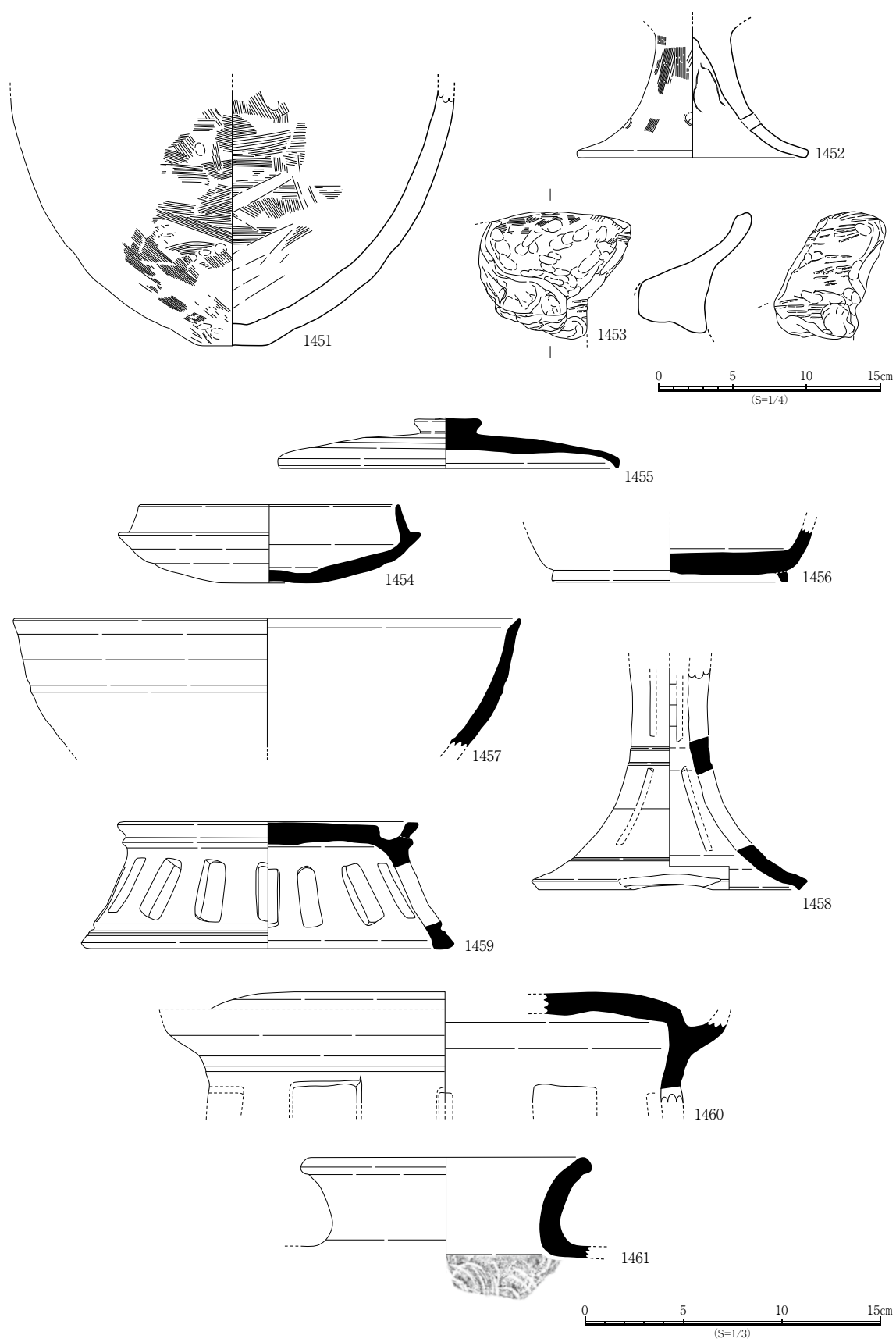


図3-140 SD26出土遺物実測図1

混じる暗褐色(7.5YR3/3)粘質シルトである。出土遺物ではミニチュア土器, 土師器皿, 土師質土器杯, 青磁皿, 瓦質土器が図示できた。

埋土出土遺物(図3-138 1445~1450)

1445は外面は指頭圧痕及びナデ調整で円孔を穿つ。1446・1447は手づくね皿で外面内面ともに指頭圧痕と丁寧なナデ調整を施す。口縁部は横方向に強いナデ調整を施し, やや外反させる。1448は土師質土器杯で, 底部外面には回転糸切り痕がみられる。外面内面ともに回転ナデ調整を施す。1449は青磁皿で内面見込みに櫛描文がみられる。1450は瓦質土器で口縁部外面には扁平な鏝が貼付される。外面は指頭圧痕及びナデ調整, 内面はナデ調整である。

SD26(図3-139)

調査区中央部に位置し, 調査区を南北に縦断し, 調査区外につづく。ST52を切る。検出長は20.5m, 幅3.00~3.50m, 検出面からの深さは0.68mを測る。埋土は土器片及び1~5cm大の礫と10cm大の礫が多く混じる黒褐色(10YR3/2)シルトと土器片及び礫が混じる黒褐色(10YR2/2)シルトである。また南部の底部近くからは10~20cm大の礫とともに土器片や石製品が出土した。さらに中央部の底面からは円面硯が出土している。出土遺物では弥生土器壺・高杯, 支脚, 須恵器杯身・杯蓋・杯・鉢・高杯・硯・壺, 緑釉陶器, 青磁, 瓦質土器, 国内産陶器, 瓦, 土製品, 石製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-140~143 1451~1476)

1451は弥生土器の壺である。底部は平底状を呈し, 外面はハケ調整とナデ調整, 内面もハケ調整及びナデ調整を施す。1452は高杯の脚部で, 中空を呈する。外面はハケ調整とナデ調整, 内面はナデ調整で4カ所に円孔が認められる。1453は支脚で外面はタタキ目痕とナデ調整, 内面はハケ調整, 指頭圧痕とナデ調整がみられる。1454は須恵器杯身である。底部は回転ケズリ調整, 立ち上がりまでは回

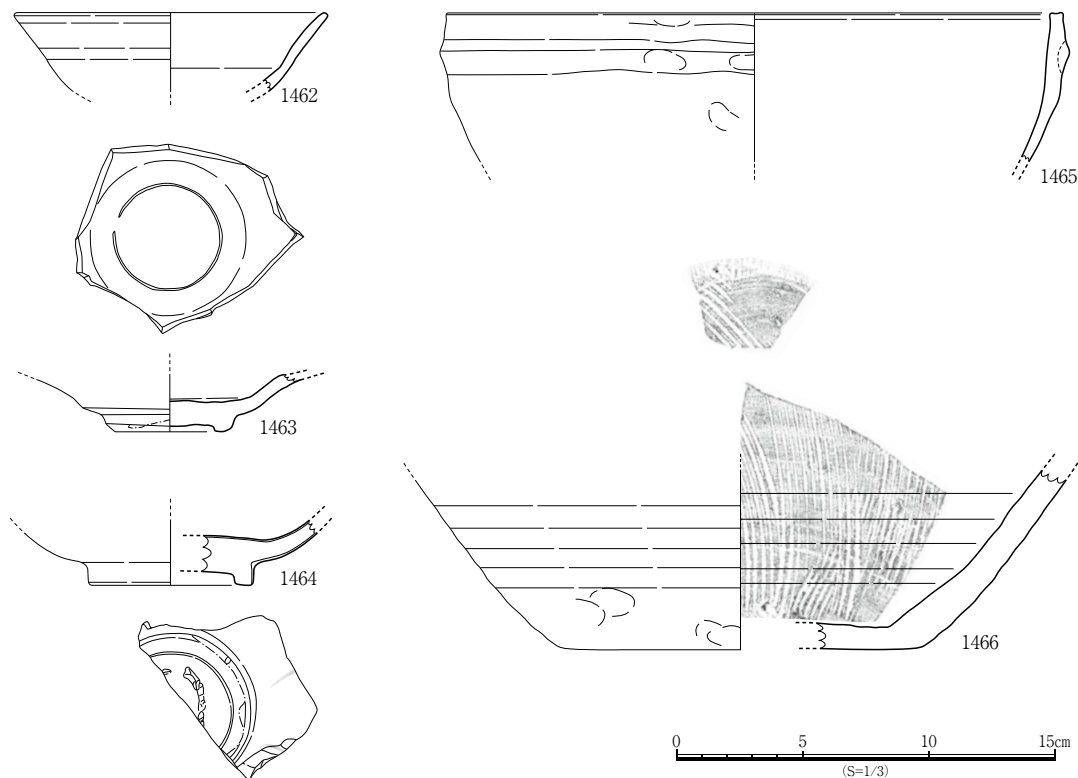


図3-141 SD26出土遺物実測図2

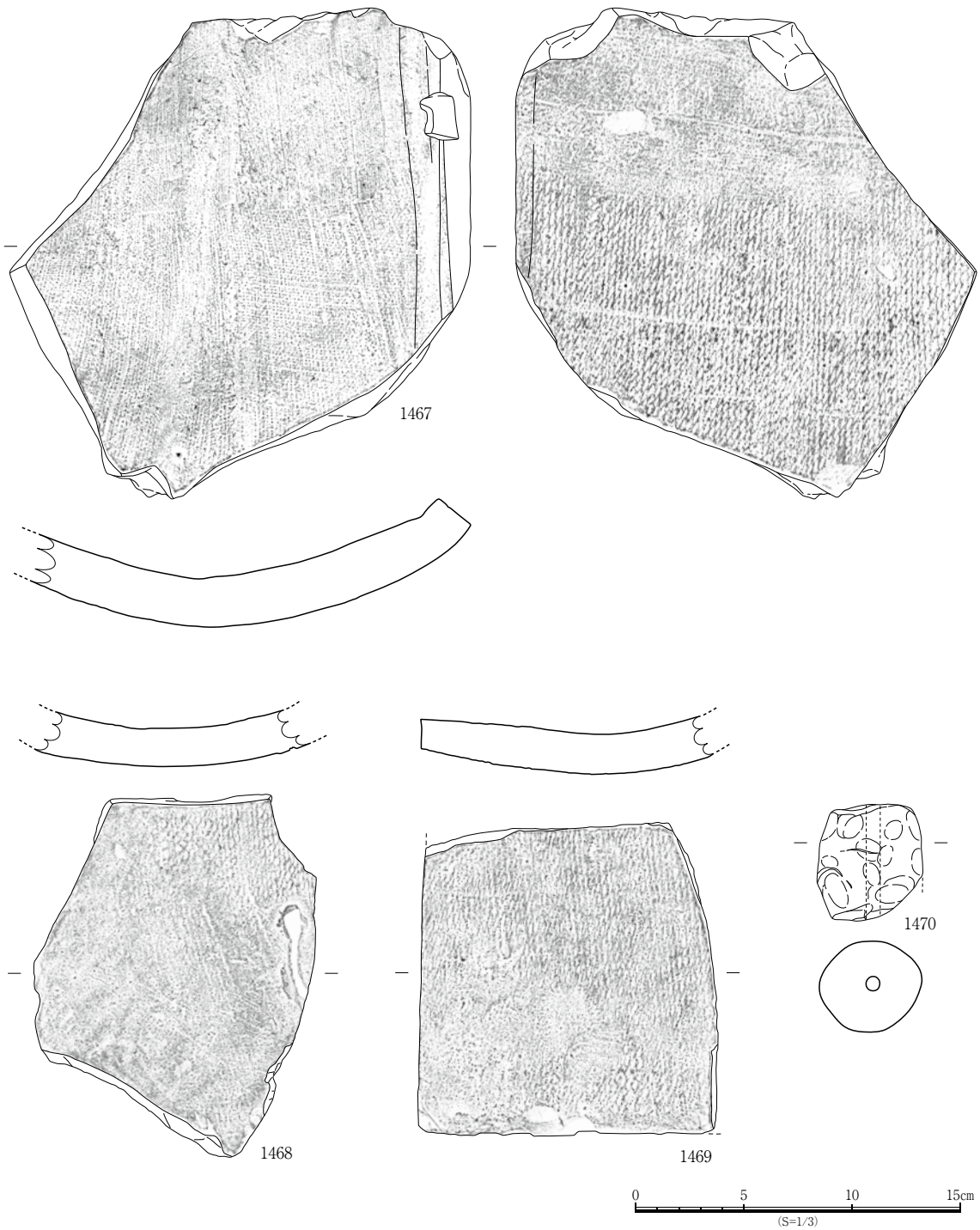


図3-142 SD26出土遺物実測図3

転ナデ調整を施す。内面は回転ナデ調整である。1455は杯蓋で扁平な宝珠状のつまみが付く。外面天井部は一部ケズリ調整, 内面はナデ調整を施す。1456は杯である。底部外面には断面方形の高台が付く。外面内面ともにナデ調整。1457は鉢あるいは器台と考えられる。外面内面ともにナデ調整を施す。1458は須恵器高杯の脚部である。透かしを施し, 裾端部は一部抉り状を呈する。外面内面ともに回転ナデ調整である。1459と1460は円面硯である。1459の陸部はほぼ平坦である。脚台部には17カ所の透かしが設けられていたと推測される。陸部内面はケズリ調整とナデ調整がみられる。1460は

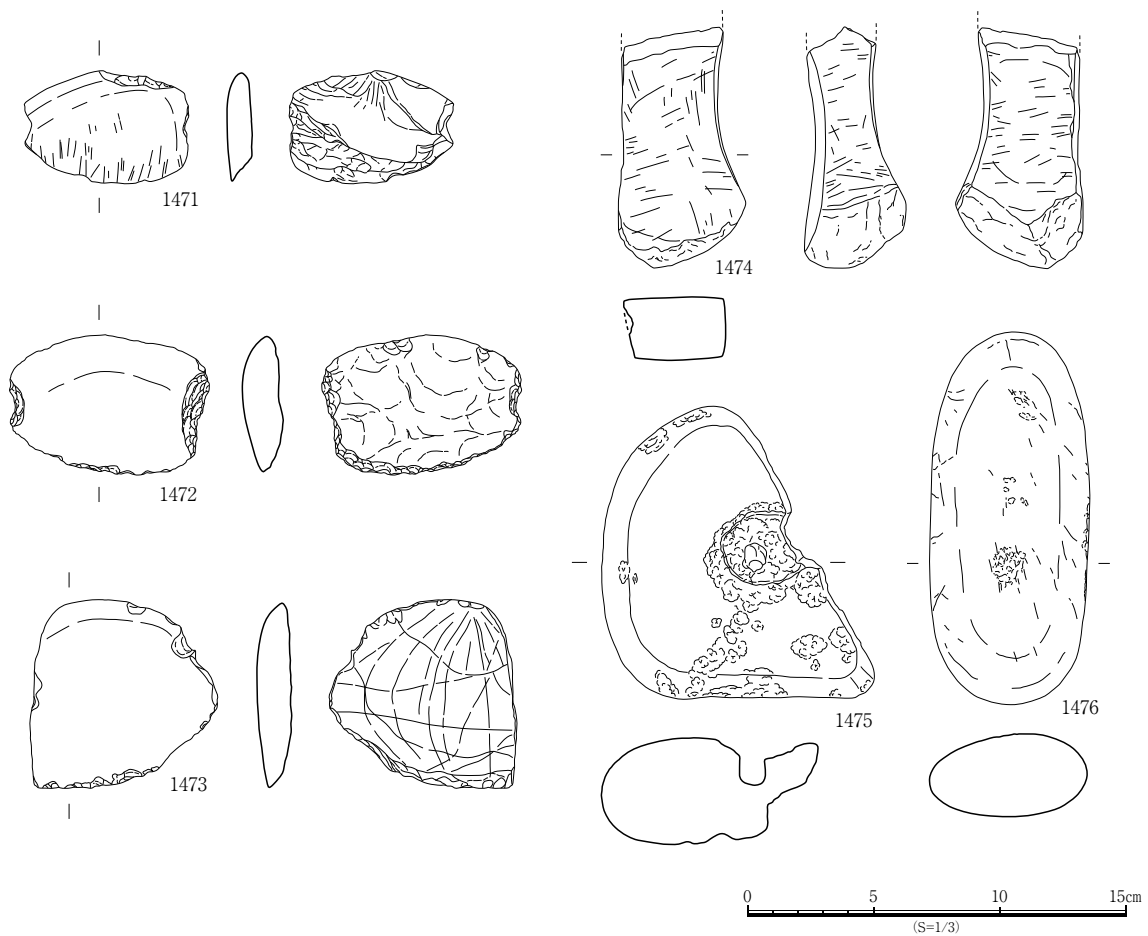


図3-143 SD26出土遺物実測図4

脚台部には8~9カ所の透かしが設けられていたと推測される。外面は陸部に回転ナデ調整, 内面も回転ナデ調整を施す。1461は須恵器壺である。口縁部は外反する。外面内面ともにナデ調整で頸部内面には同心円文がみられる。焼成不良である。1462は緑釉陶器皿である。1463・1464は青磁である。1463は皿で高台壘付及び内面は露胎を呈し, 内面見込みには円状の印刻がみられる。1464は碗で底部は削り出し高台を呈する。外面には蓮弁文が施されている。1465は瓦質土器釜で口縁下には断面三角形の鏝がめぐる。外面は指頭圧痕及びナデ調整で, 内面はナデ調整を施す。1466は備前焼の播鉢である。外面はナデ調整で内面には10条単位の摺目を施す。

1467~1469は平瓦である。1467・1469は凹面には布目痕, 凸面に縄目痕がみられる。1468は凸面に縄目痕がみられる。

1470は土錘で, 外面は指頭圧痕とナデ調整を施す。

1471・1472は砂岩製の打製石包丁である。1471は両側を挟り状に打ち欠く。1472も同じく両側は挟り状を呈する。1473は砂岩の剥片である。1474は砥石で四面を使用している。1475は中央部が凹み, 周囲には敲打痕がみられる。1476は砂岩製の磨石と考えられる。中央部周囲には敲打痕がみられる。

(6) ピット

掘立柱建物跡や柵列跡に属さないピットが450個以上検出されている。区画溝とピットの性格を

2. 検出遺構と遺物 (6) ピット

明らかにすることは難しいが、復元し得なかった掘立柱建物跡や柵列跡に付属するものも多いと考えられる。

P1

調査区北西部に位置する。平面形は円形を呈し、径は概ね 0.45m で検出面からの深さは 32 cm を測る。埋土は暗褐色 (7.5YR3/3) シルトである。ST43 の南側壁面に接しており、同遺構に付随したピットの可能性も考えられる。出土遺物では弥生土器甕が図示できた。

埋土出土遺物(図3-145 1477)

1477 は甕または鉢の底部と考えられる。ほぼ丸底を呈し、外面はタタキ後はハケ調整とナデ調整である。内面はハケ調整とナデ調整を施す。

P2(図3-144)

調査区北西部に位置する。ST36 を掘削した段階で検出した。ST36 に伴う遺構の可能性も考えられる。平面形は円形を呈し、径は 0.6m、検出面からの深さは 42cm を測る。埋土は黒褐色 (10YR2/2) シルトである。埋土からは土器片が多数出土した。出土遺物では弥生土器甕・鉢・高杯が図示できた。

埋土出土遺物(図3-145 1478~1483)

1478 は甕で口縁部は外反し、体部上半部に最大径をもつと考えられる。外面は体部がタタキ後ハケ調整、口縁部はナデ調整を施す。内面は口縁部にハケ調整とナデ調整、体部はナデ調整で、粘土紐接合痕がみられる。1479 は丸底の鉢である。外面はナデ調整で底部近くは工具によるナデ調整がみられる。内面は丁寧なハケ調整を施す。1480 は鉢である。底部は平底状で一部凹状を呈する。外面はミガキ調整とナデ調整、内面は口縁端部にハケ調整、体部から底部はハケ調整後丁寧なナデ調整を施す。完形である。1481 ~ 1483 は高杯である。1481 は杯部で口縁部は外方にひらく。外面はハケ調整後ミガキ調整で内面は丁寧なハケ調整とミガキ調整を施す。1482 は脚部のみである。外面はミガキ調整で裾部にかけてナデ調整を施す。内面はハケ調整とナデ調整である。径 1.0cm の円孔を 4 ヲ所に施す。1483 は脚部で外面は丁寧な横方向のミガキ調整を施す。内面はナデ調整と指頭圧痕で裾部はハケ調整とナデ調整を施す。径 1.0cm の円孔を 4 ヲ所に施す。

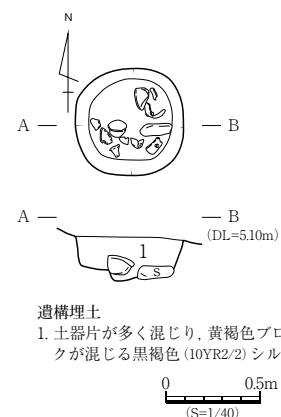


図3-144 P2

P3

調査区中央部北側に位置する。平面形は円形を呈し、径は 0.3m で検出面からの深さは 26cm を測る。埋土は暗褐色 (7.5YR3/3) シルトである。出土遺物では土師質土器杯が図示できた。

埋土出土遺物(図3-145 1484)

1484 は底部外面には回転糸切り痕が認められ、口縁部は外方にひらく。外面と内面は回転ナデ調整である。

P4

調査区西部南側に位置する。平面形は円形を呈し、径は 0.2m で検出面からの深さは 18cm を測る。埋土は黒褐色 (7.5YR3/1) シルトである。出土遺物では土師器甕が図示できた。

埋土出土遺物(図3-145 1485)

1485 は口縁部は外反し、口唇部は丸くおさめる。外面と内面はナデ調整を施す。

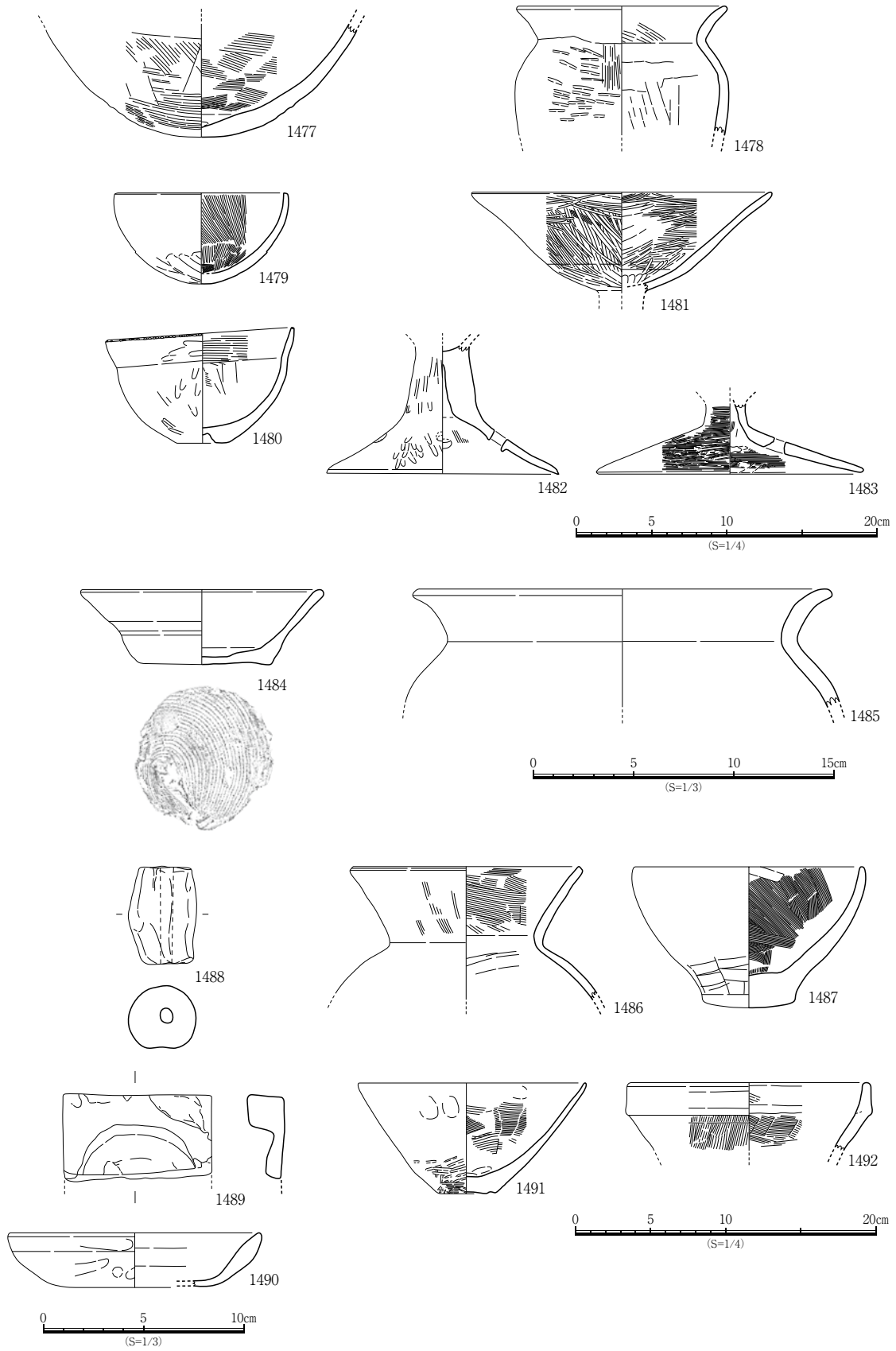


図3-145 ピット出土遺物実測図1

2. 検出遺構と遺物 (6) ピット

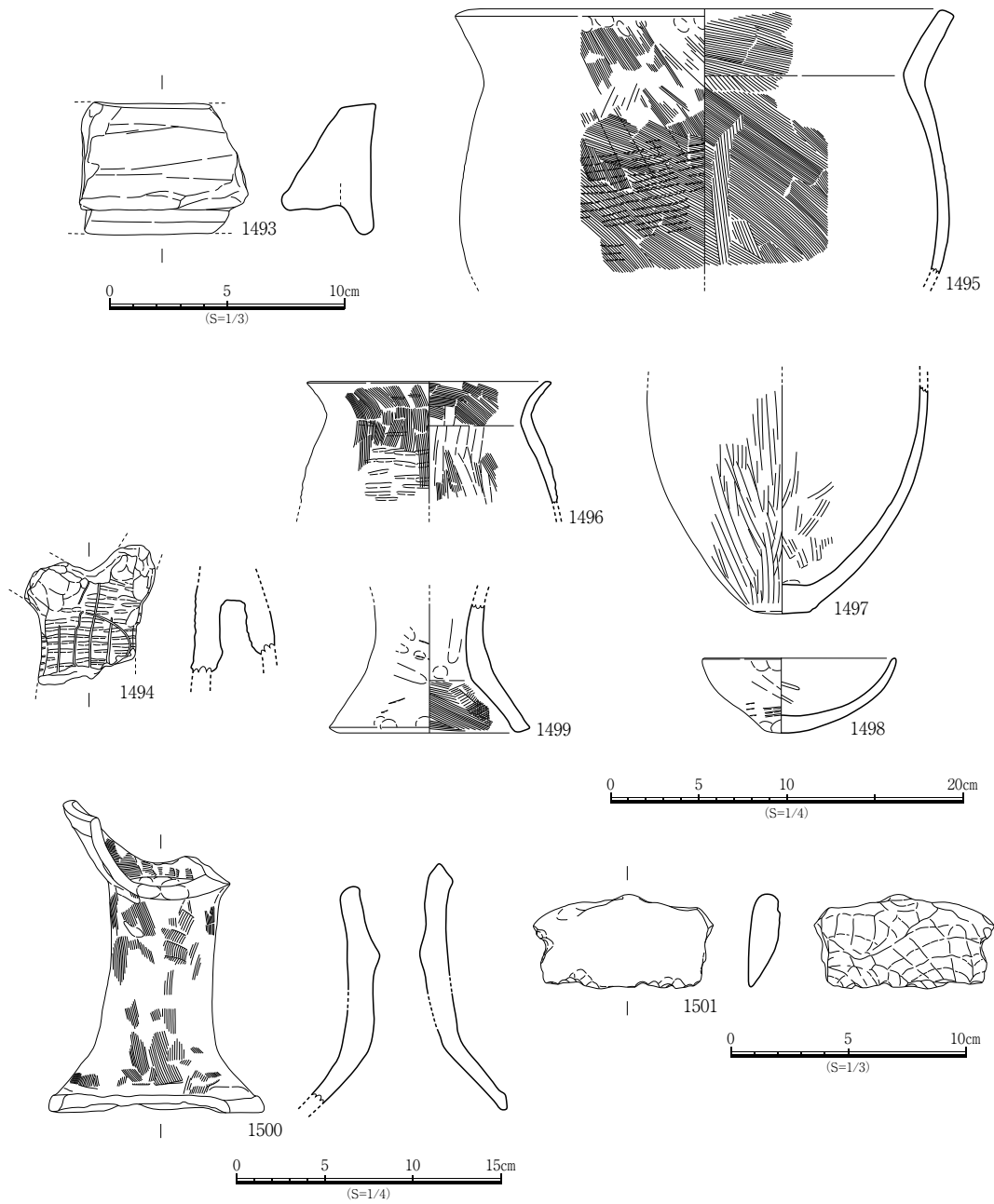


図3-146 ピット出土遺物実測図2

P5

調査区中央部南側に位置する。平面形は楕円形状を呈し、長軸0.6m、短軸0.4mで検出面からの深さは37cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。出土遺物では弥生土器壺が図示できた。

埋土出土遺物(図3-145 1486)

1486は口縁部は外方にひらき、口唇部は平坦面を呈する。外面と内面はハケ調整とナデ調整を施す。

P6

調査区中央南側に位置し、上面はピットに切られる。平面形は円形を呈していたと考えられ、径は概ね0.4mを測る。検出面からの深さは16cmで、埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では弥生土器鉢が図示できた。

埋土出土遺物(図3-145 1487)

1487は底部は平底で、器壁は厚みをもつ。外面はナデ調整で、体部下半部はケズリ調整後ナデ調整、内面は丁寧なハケ調整を施す。

P7

調査区中央南側に位置する。平面形は円形を呈しており、径は概ね0.4mで検出面からの深さは24cmを測る。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では土製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-145 1488)

1488は土錘で、管状を呈する。外面はナデ調整である。

P8

調査区中央部南側に位置する。平面形は円形を呈し、径は0.15mで検出面からの深さは18cmを測る。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では硯が図示できた。

埋土出土遺物(図3-145 1489)

1489は硯で、側縁部にミガキ調整が施される。

P9

調査区中央部南側に位置する。平面形は円形を呈し、径は0.15mで検出面からの深さは12cmを測る。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では土師器皿が図示できた。

埋土出土遺物(図3-145 1490)

1490は手づくね皿で口縁部は横方向の丁寧なナデ調整を施す。

P10

調査区中央部に位置する。平面形は円形を呈し、径は0.3mで検出面からの深さは17cmを測る。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では弥生土器鉢が図示できた。

埋土出土遺物(図3-145 1491)

1491は鉢である。底部は平底状で体部下半部の外面にはタタキ目痕が認められる。口縁部外面はナデ調整を施す。内面はハケ調整とナデ調整である。

P11

調査区中央部南端に位置し、調査区南壁に接する。平面形は円形状を呈していたと考えられる。径は0.25m以上で検出面からの深さは18cmを測る。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では弥生土器壺が図示できた。

埋土出土遺物(図3-145 1492)

1492は壺で、口縁端部は直立する。口縁部外面は縦方向のハケ調整とナデ調整、内面は横方向のハケ調整とナデ調整を施す。

P12

調査区中央部南側に位置する。平面形は円形を呈し、径は0.3mで検出面からの深さは24cmを測る。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では土師器カマドが図示できた。

埋土出土遺物(図3-146 1493)

1493はカマドの一部と考えられ、外面は工具によるナデ調整とケズリ調整、内面はナデ調整がみられる。

2. 検出遺構と遺物 (6) ピット

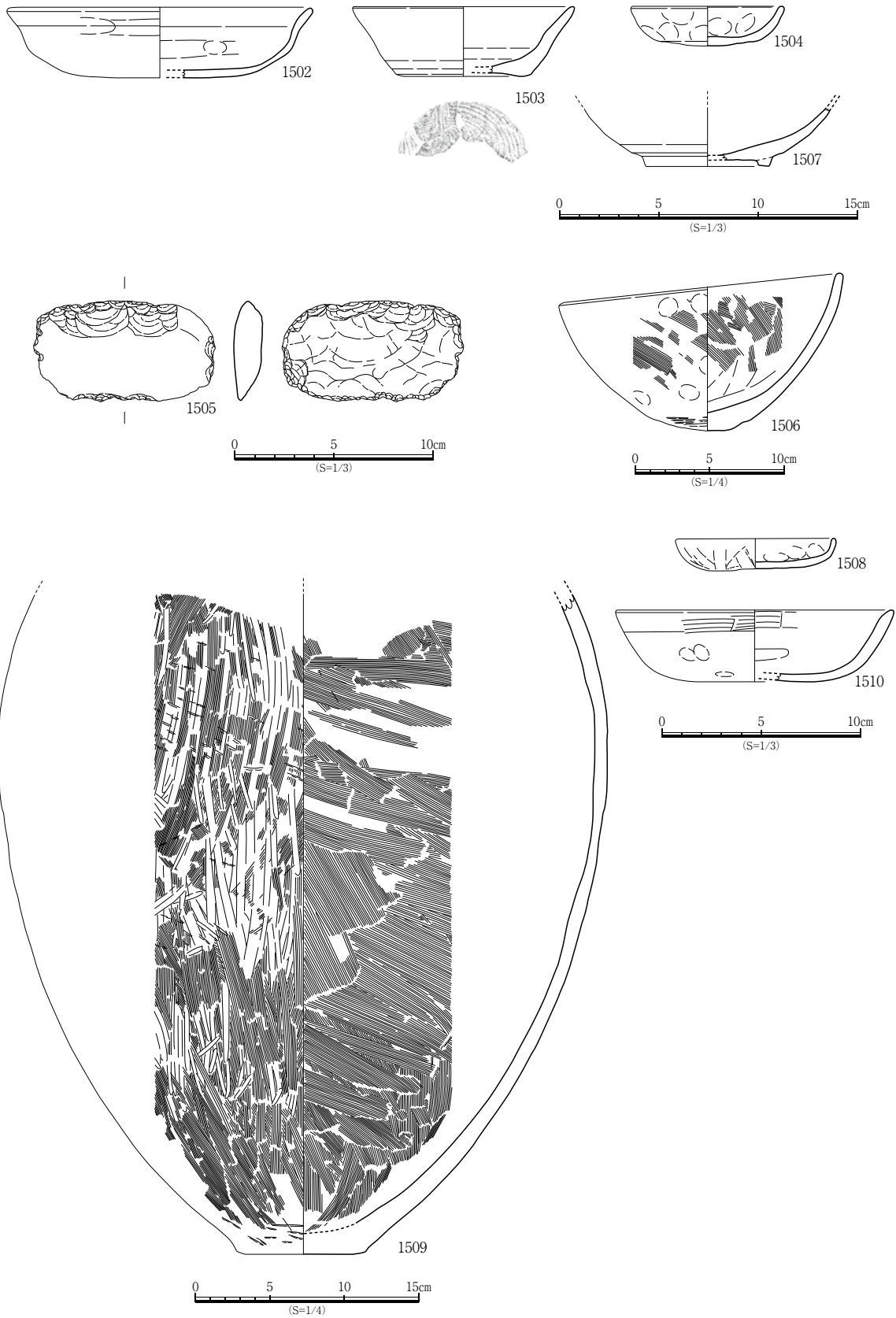


図3-147 ピット出土遺物実測図3

P13

調査区中央部南側に位置する。平面形は円形を呈し、径は概ね0.2mで検出面からの深さは6cmを測る。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では支脚が図示できた。

埋土出土遺物(図3-146 1494)

1494は支脚である。中空で外面はタタキ後指頭圧痕と工具によるヘラ状痕がみられる。

P14

調査区中央部に位置する。平面形は円形状を呈し、径は概ね0.5mで検出面からの深さは12cmを測る。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では弥生土器甕・鉢、支脚が図示できた。

埋土出土遺物(図3-146 1495~1500)

1495は甕で、外面は頸部近くまでタタキ目痕が認められ、ハケ調整とナデ調整を施す。内面は丁寧なハケ調整である。1496も甕で、外面にはタタキ目痕が認められ、口縁部から頸部はハケ調整を施す。内面はハケ調整とナデ調整である。1497は甕の体部から底部と考えられる。平底状を呈する。外面はタタキ後は粗いハケ調整で内面はハケ調整とナデ調整を施す。1498は小型の鉢で外面はタタキ後にナデ調整を施す。底部周辺は工具による強いナデ調整がみられる。内面はナデ調整で一部ミガキ調整がみられる。1499は支脚で中空を呈する。外面は指頭圧痕とナデ調整、内面にはユビナデとハケ調整を施す。1500は支脚である。中空を呈し、外面は指頭圧痕、ハケ調整とナデ調整を施す。内面はハケ調整で、裾部はナデ調整である。

P15

調査区東部北側に位置する。SD26の東側に位置し、調査区北壁に接する。平面形は円形状を呈すると考えられ、径は概ね0.3mを測る。検出面からの深さは28cmを測り、埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では石製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-146 1501)

1501は砂岩の打製石包丁で、表面は自然面である。側辺の一部に抉りをもつ。

P16

調査区東部中央に位置する。平面形は円形状を呈すると考えられ、径は概ね0.25mを測る。検出面からの深さは19cmを測り、埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では土師器皿が図示できた。

埋土出土遺物(図3-147 1502)

1502は手づくね皿で、口縁部は横方向の強いナデ調整により外反する。外面と内面は指頭圧痕とナデ調整を施す。

P17

調査区東部中央に位置する。平面形は円形を呈し、径は0.2mで検出面からの深さは23cmを測る。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では土師質土器杯が図示できた。

埋土出土遺物(図3-147 1503)

1503は土師質土器杯で、底部外面には回転糸切り痕がみられる。体部から口縁部にかけては外面と内面ともに回転ナデ調整を施す。

P18

調査区東部中央、P17の東側に位置する。平面形は円形を呈し、径は概ね0.3mで検出面からの深さは14cmを測る。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では土師器皿が図示できた。

2. 検出遺構と遺物 (6) ピット

埋土出土遺物(図3-147 1504)

1504は小型の手づくね皿で外面と内面は指頭圧痕とナデ調整を施す。

P19

調査区東部に位置する。平面形は円形を呈し、径は概ね0.3mで検出面からの深さは14cmを測る。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では石製品が図示できた。

埋土出土遺物(図3-147 1505)

1505は砂岩の打製石包丁で一面は自然面、片面は剥離面で側辺一部に抉り状を呈する。

P20

調査区東部に位置する。平面形は円形を呈し、径は概ね0.4mで検出面からの深さは19cmを測る。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では弥生土器鉢が図示できた。

埋土出土遺物(図3-147 1506)

1506は鉢で底部が丸底に近く、外面は底部にタタキ目が認められ、体部から口縁部はハケ調整とナデ調整である。内面はハケ調整とナデ調整を施す。

P21

調査区中央部に位置する。平面形は円形状を呈し、径は概ね0.15mで検出面からの深さは20cmを測る。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では土師器椀が図示できた。

埋土出土遺物(図3-147 1507)

1507は土師器椀で、底部外面には断面台形状の高台を貼付する。高台上部はケズリ調整、その他は回転ナデ調整を施す。

P22

調査区東部に位置する。平面形は円形を呈し、径は概ね0.25mで検出面からの深さは26cmを測る。埋土は暗褐色(7.5YR3/3)シルトである。出土遺物では土師器皿が図示できた。

埋土出土遺物(図3-147 1508)

1508は小型の手づくね皿で外面と内面は指頭圧痕とナデ調整を施す。完形である。

P23(図3-148)

調査区中央部に位置し、遺構の北側は調査区北壁に接する。平面形は円形状を呈し、長軸0.6m、短軸0.5mで検出面からの深さは37cmを測る。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。出土遺物では弥生土器壺を図示することができた。

埋土出土遺物(図3-147 1509)

1509は壺で、底部から体部にかけて残存している。底部は平底で、外面はタタキ後縦方向の丁寧なハケ調整と縦方向のミガキ調整を施す。内面は丁寧なハケ調整である。外面には部分的に赤色顔料がみられる。

P24

調査区東部中央に位置する。平面形は円形を呈し、径は約0.25mを測る。検出面からの深さは17cmである。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。出土遺物では土師器皿が図示できた。

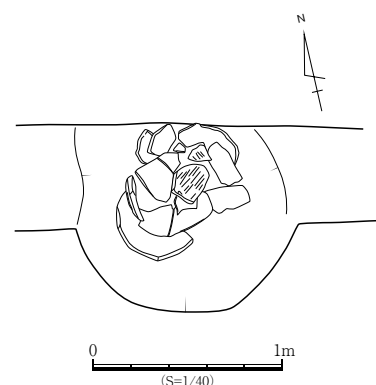


図3-148 P23

埋土出土遺物(図3-147 1510)

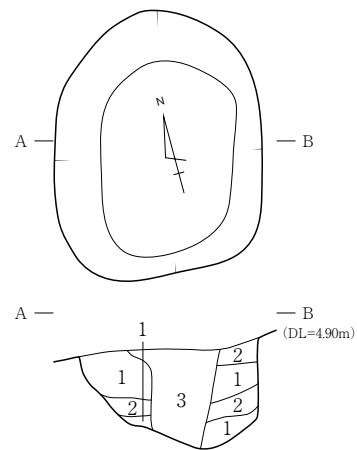
1510 は手づくね皿で、外面内面ともに指頭圧痕及びナデ調整で口縁部は横方向の丁寧なナデ調整を施す。

P25(図3-149)

調査区東部中央に位置する。ST65 を切る。平面形は隅丸楕円形状を呈し、長軸1.4m、短軸1.1mを測る大型のピットである。検出面からの深さは約 50 cmである。埋土は1層：礫を多く含む黒褐色(7.5YR3/1)粘質土、2層：小礫を含む黄褐色(10YR5/6)粘質土で3層は小礫を含む黒褐色(7.5YR3/1)粘質土である。

P26

調査区東部中央でP25の西側約 4.2mに位置する。平面形は隅丸楕円形状を呈し、長軸 1.3m、短軸 1.2mを測る大型のピットである。ST65の調査時に検出した。検出面からの深さは約 30 cmである。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)シルトである。P25 と同等の規模を有しており、建物を構成していた可能性も考えられる。



遺構埋土
 1. 1~5cm大の礫が多く混じる黒褐色(7.5YR3/1)粘質土
 2. 0.5~1cm大の小礫が混じる黄褐色(10YR5/6)粘質土
 3. 土器片及び0.5~1cm大の小礫が混じる黒褐色(7.5YR3/1)粘質土(柱痕)

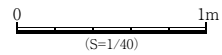


図3-149 P25

(7) 性格不明遺構

SX1(図3-150)

調査区の東部北側に位置する。調査区北壁近く、第II層の掘削段階で検出した。幅約 20 cmを測る暗渠と考えられる遺構である。上面

には5~15 cm大の礫の集石がみられた。溝状に掘削した側面と底面には瓦と小石が置かれていた。上面の集石からの出土遺物では石鍋が図示できた。

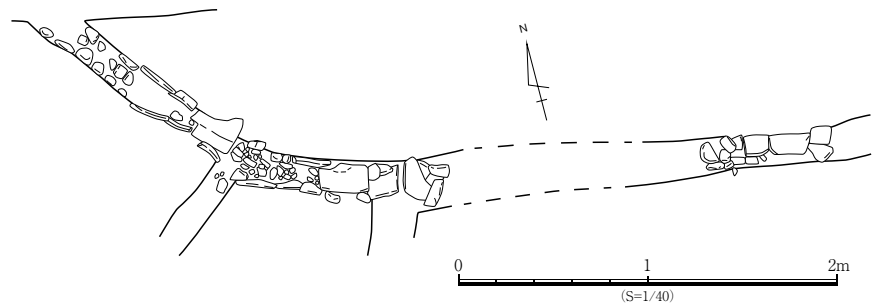


図3-150 SX1

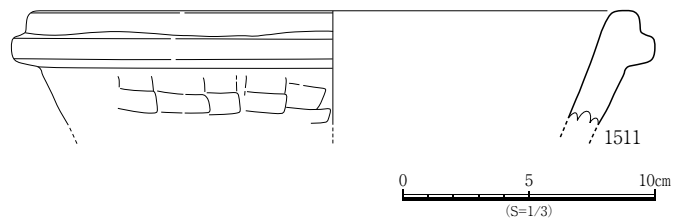


図3-151 SX1出土遺物実測図

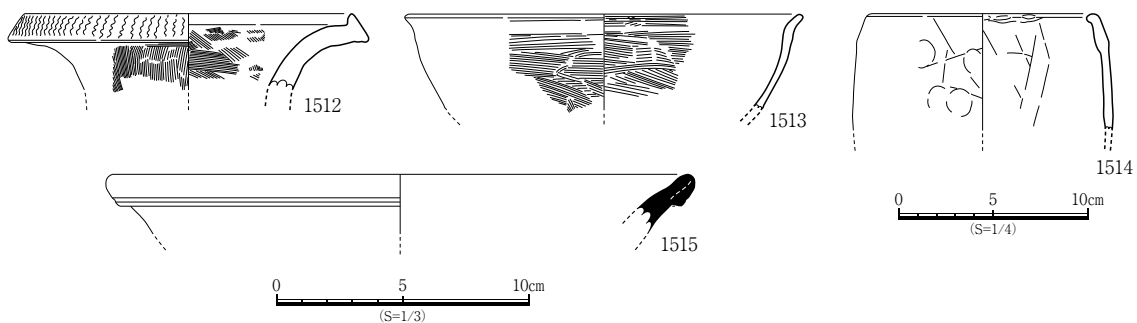


図3-152 SX2出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (7) 性格不明遺構

埋土出土遺物(図3-151 1511)

1511 は口縁部下方に断面台形状の鏝を削り出す。外面はケズリ痕が認められる。混入と考えられる。

SX2

調査区中央部南側において検出した。ST53 の南側上面を切る。検出長は東西 4.3m, 南北 1.2m 以上で検出面からの深さは 20 cm 前後を測る。埋土は暗灰色粘質土である。出土遺物では弥生土器壺・鉢, 須恵器甕が図示できた。

埋土出土遺物(図3-152 1512~1515)

1512は壺である。口縁部は外方にひらき, 口唇部は上下に拡張し櫛描による刺突を施す。外面はハケ調整, 内面はハケ調整で口唇部内側は丁寧なナデ調整を施す。1513は鉢の口縁部で, 口縁端部は外反する。外面と内面はハケ調整で, 口縁端部はナデ調整を施す。1514 は器形は不明である。口縁部はやや内傾している。外面内面ともに指頭圧痕とナデ調整を施す。1515は須恵器甕の口縁部である。口縁端部は折り返し, 沈線が巡る。自然釉がかかる。

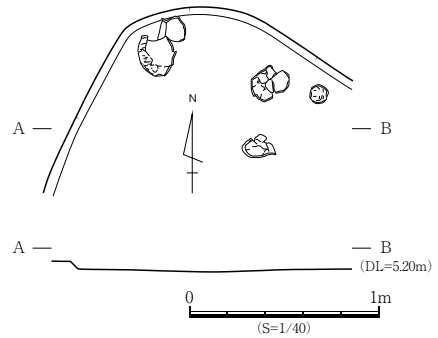


図3-153 SX9

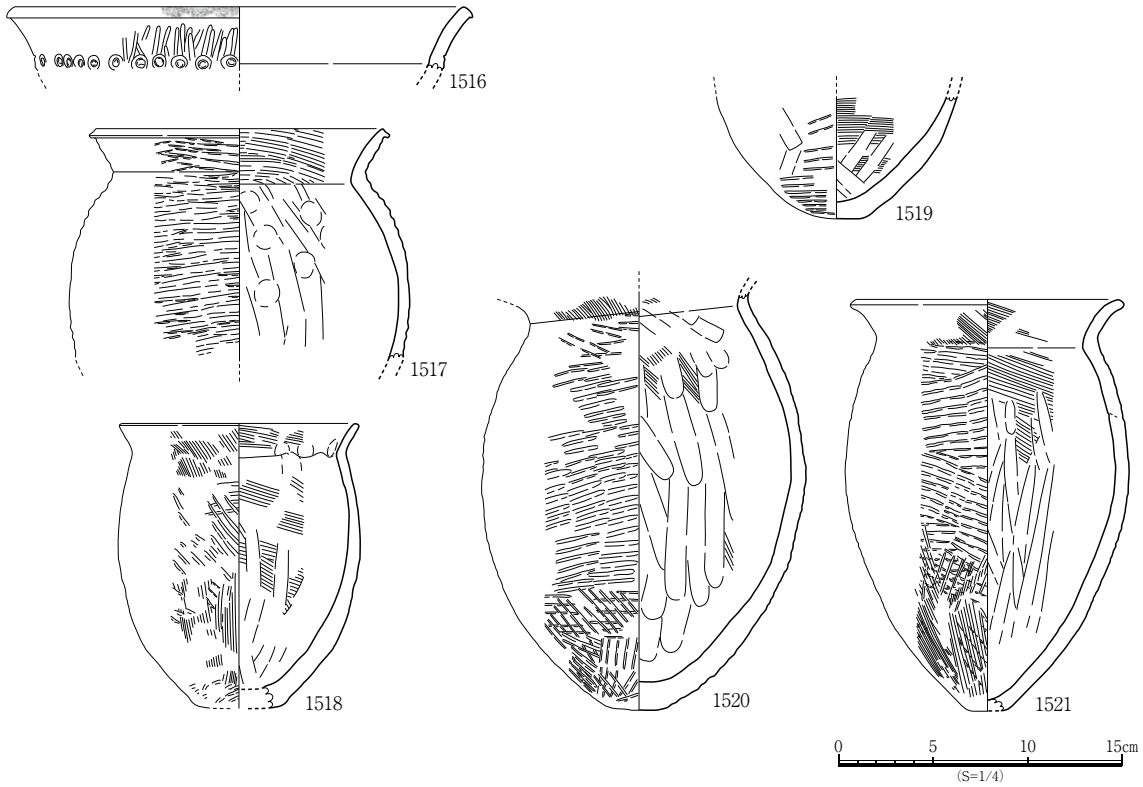


図3-154 SX9出土遺物実測図

SX8

調査区中央部北側に位置する。ST45 と SB4 を切る。平面形は扁平な長方形を呈し, 長軸 5.75m, 短軸 2.95m で検出面からの深さは 20 ~ 28 cm を測る。埋土は小礫が混じる暗褐色 (10YR3/4) シルトである。出土遺物では図示できるものはなかった。

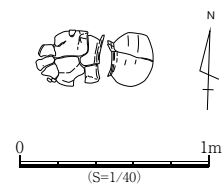


図3-155 SX10

SX9

調査区西部中央に位置する。SD7とST40に切られる。検出長は南北3.4m, 東西2.8mを測る。検出面からの深さは約5cmを測る。埋土は黒褐色シルトである。出土遺物では弥生土器壺・甕・鉢が図示できた。

埋土出土遺物

(図3-154 1516~1521)

1516は壺の口縁部である。口縁部外面はミガキ調整で竹管文を施す。口唇部にはハケ状原体による文様がみられる。内面はナデ調整である。1517は口縁部が「く」の字状を呈する甕である。外面は口縁部までタタキ目が認められ、内面は口縁部がハケ調整、頸部から体部は指頭圧痕とナデ調整が施される。体部外面は煤がつく。1518は小型の甕である。外面は頸部までタタキ目が認められ、口縁部はハケ調整を施す。内面は口縁部にハケ調整、頸部から底部はハケ調整とユビナデによる調整を施す。体部外面には一部煤がつく。1519は鉢と考えられる。外面はタタキ目とナデ調整、内面はハケ調整後ナデ調整を施す。1520は甕である。口縁部は欠損する。外面は頸部までタタキ目が認められ、頸部はハケ調整、内面はハケ調整、頸部から体部下半部までユビナデを施す。1521は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。外面は頸部までタタキ目が認められ、口縁部と体部下半部にはハケ調整が施される。内面は口縁部から体部上半部までハケ調整、体部下半部から底部まではユビナデによる調整を施す。

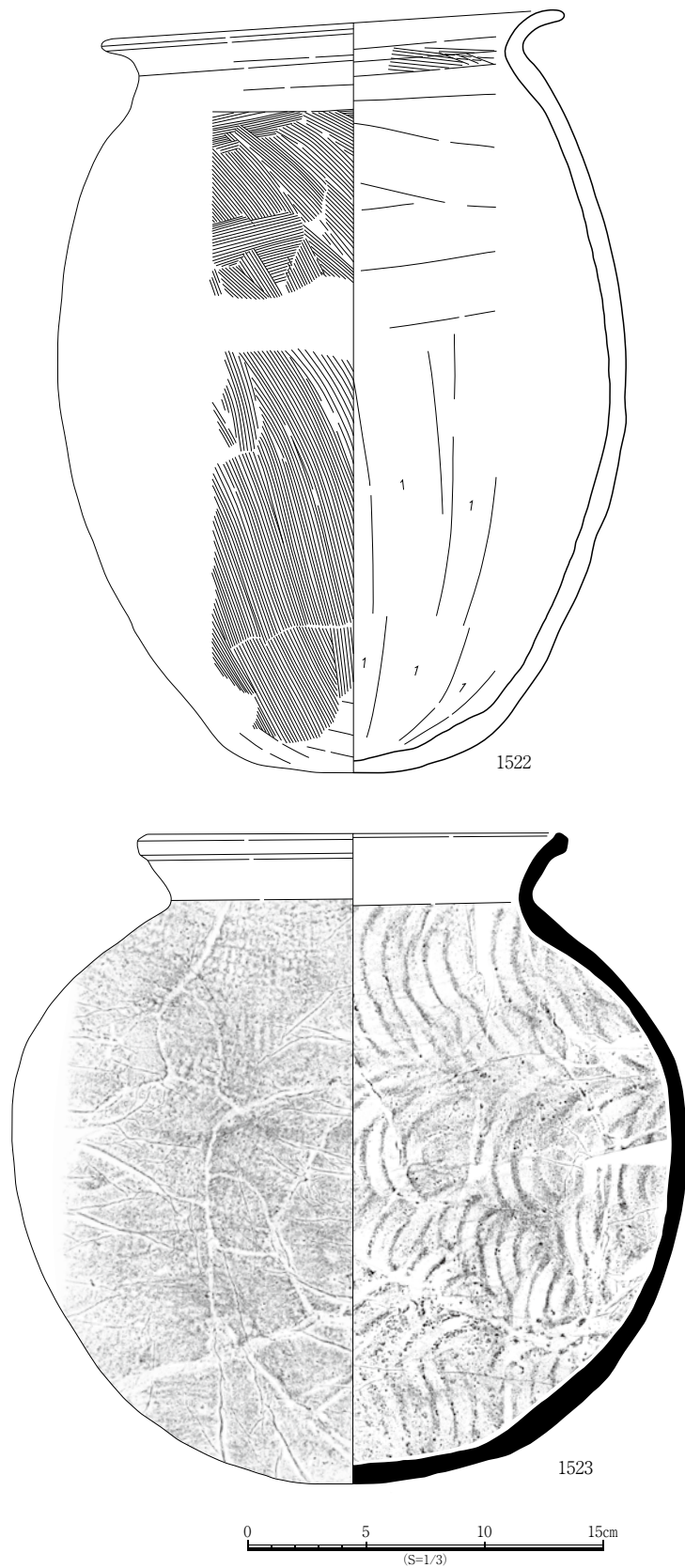


図3-156 SX10出土遺物実測図

2. 検出遺構と遺物 (8) 遺物包含層

SX10(図3-155)

ST65の検出段階において確認した。土師器甕(1522)と須恵器甕(1523)の口縁部を合わせた状態で検出された。遺構の掘方等は確認することができなかった。

埋土出土遺物(図3-156 1522・1523)

1522は口縁部は外反し、口唇部は丸くおさめる。胴部は長胴状を呈する。外面は口縁部から頸部がナデ調整、体部から底部にかけて丁寧なハケ調整を施す。内面は頸部がハケ調整で体部上半部はナデ調整、体部下半部と底部はケズリ調整である。ほぼ完形である。1523は須恵器甕である。口縁部はやや外反し、口縁端部は玉縁状で体部は球形を呈する。体部は外面と内面は摩耗が著しい。内面には同心円文が薄くみられる。

(8) 遺物包含層

調査区のⅡ～Ⅲ層において遺物が出土している。ここでは遺物包含層出土遺物として記載する。

弥生土器(図3-157～160 1524～1576)

1524は弥生土器の壺である。二重口縁を有する。口唇部は刻目、二次口縁部外面には櫛描波状文を施す。また二次口縁部と接合部は突出しており外面には3～4条を一単位とする櫛描波状文に2個一対の竹管文を等間隔に巡らせる。突出部の端部には刻目を施す。内面は摩耗する。1525は壺で複合口縁を有し、二次口縁の外面は丁寧なミガキ調整で、二次口縁部との接合部は強いナデ調整を施し、突出している。内面は摩耗するがミガキ調整がみられる。1526は壺で、複合口縁を有し、口唇部は丸くおさめる。外面は丁寧なナデ調整で、二次口縁部との接合部は強いナデ調整を施し、突出している。内面も丁寧なナデ調整を施す。1527は壺で複合口縁を有し、口唇部は櫛描による刻目を施す。二次口縁部は外面と内面にナデ調整、口縁下の外面はハケ調整、内面はハケ調整とナデ調整を施す。1528は口縁部で口唇部は肥厚する。外面と内面はナデ調整である。搬入品の可能性がある。1529は壺と考えられる。口唇部は肥厚する。外面内面は丁寧なナデ調整である。1530は壺で、頸部外面には粘土紐を貼付し、格子状の刻みを施す。外面はハケ調整、内面はハケ調整とナデ調整を施す。1531は壺あるいは器台の口縁部の可能性が考えられる。口唇部は肥厚し外面には櫛描による波状文を施す。外面はハケ調整で口唇部下はナデ調整、内面は丁寧なミガキ調整がみられる。1532は壺の口縁部である。口唇部は平坦面を呈し、ハケ状原体の刺突を格子状に配する。外面はナデ調整、内面はハケ調整、一部にミガキ調整がみられる。1533は壺口縁部で、大きく外反し、口唇部は平坦面を呈する。外面はハケ調整と工具状のナデ調整、内面は摩耗するが一部ハケ調整を施す。1534は壺で口縁部は外反する。頸部までタタキ目が認められる。口縁部の外面と内面はナデ調整で、頸部から体部の内面はハケ調整を施す。1535は壺の口縁部である。外反し口唇部は平坦面を呈する。一部刻目がみられる。外面は縦方向のハケ調整、内面は横方向のハケ調整とナデ調整を施す。1536は壺で口縁部は二重口縁を有し、二次口縁部の外面と内面はナデ調整、二次口縁下は外面にナデ調整、内面はハケ調整を施す。1537は壺の底部から体部と考えられる。外面はタタキ後ハケ調整で体部下半部はミガキ調整を施す。内面はハケ調整とナデ調整で、体部下半部から底部にかけユビナデがみられる。1538は弥生土器甕で、口縁部は外反する。体部中央部に最大径をもつ。外面は頸部までタタキ目が認められ、口縁部はナデ調整、内面は口縁部から体部までナデ調整で頸部下には粘土紐接合痕がみられる。体部外面には煤が付く。1539は甕で外面は口縁部までタタキ目が認められ、ナデ調整を施す。内面は口縁部にハケ調整、頸部から体部はユビナデによる調整を施す。1540は甕

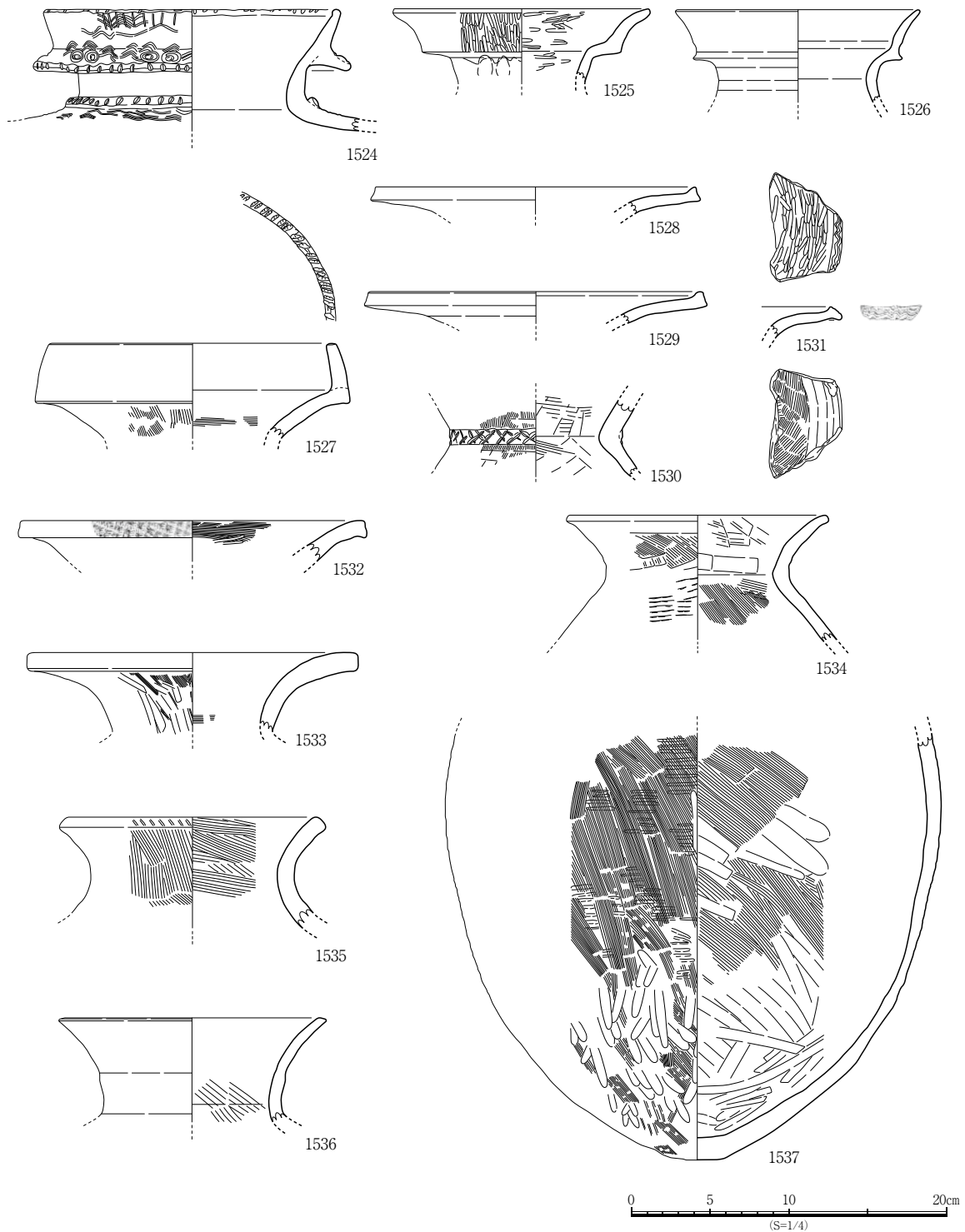


図3-157 遺物包含層出土遺物実測図1

で口縁部は緩やかに外反し、口唇部は平坦面を呈する。外面はタタキ後ハケ調整、内面は口縁部から頸部はハケ調整で体部はナデ調整を施す。1541・1542は甕で口縁部は「く」の字状を呈する。外面は頸部までタタキ目が認められる。1541は口縁部内面に横方向のハケ調整、頸部から体部はハケ調整、下半部はナデ調整である。1542は外面の頸部から底部までハケ調整、内面は口縁部から体部上半部までハケ調整で底部にかけてはナデ調整を施す。体部外面には煤が付く。1543は甕の口縁

2. 検出遺構と遺物 (8) 遺物包含層

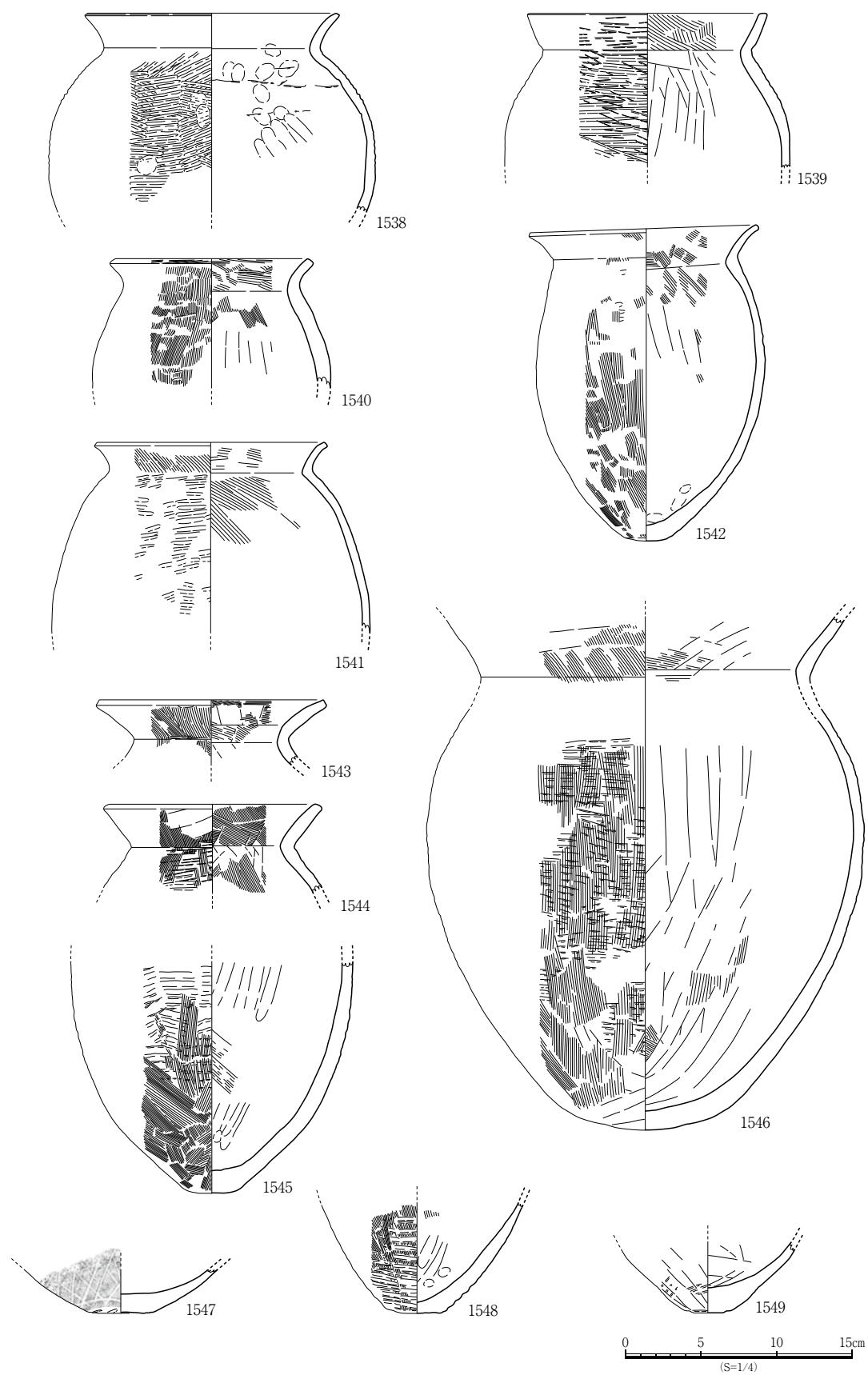


図3-158 遺物包含層出土遺物実測図2

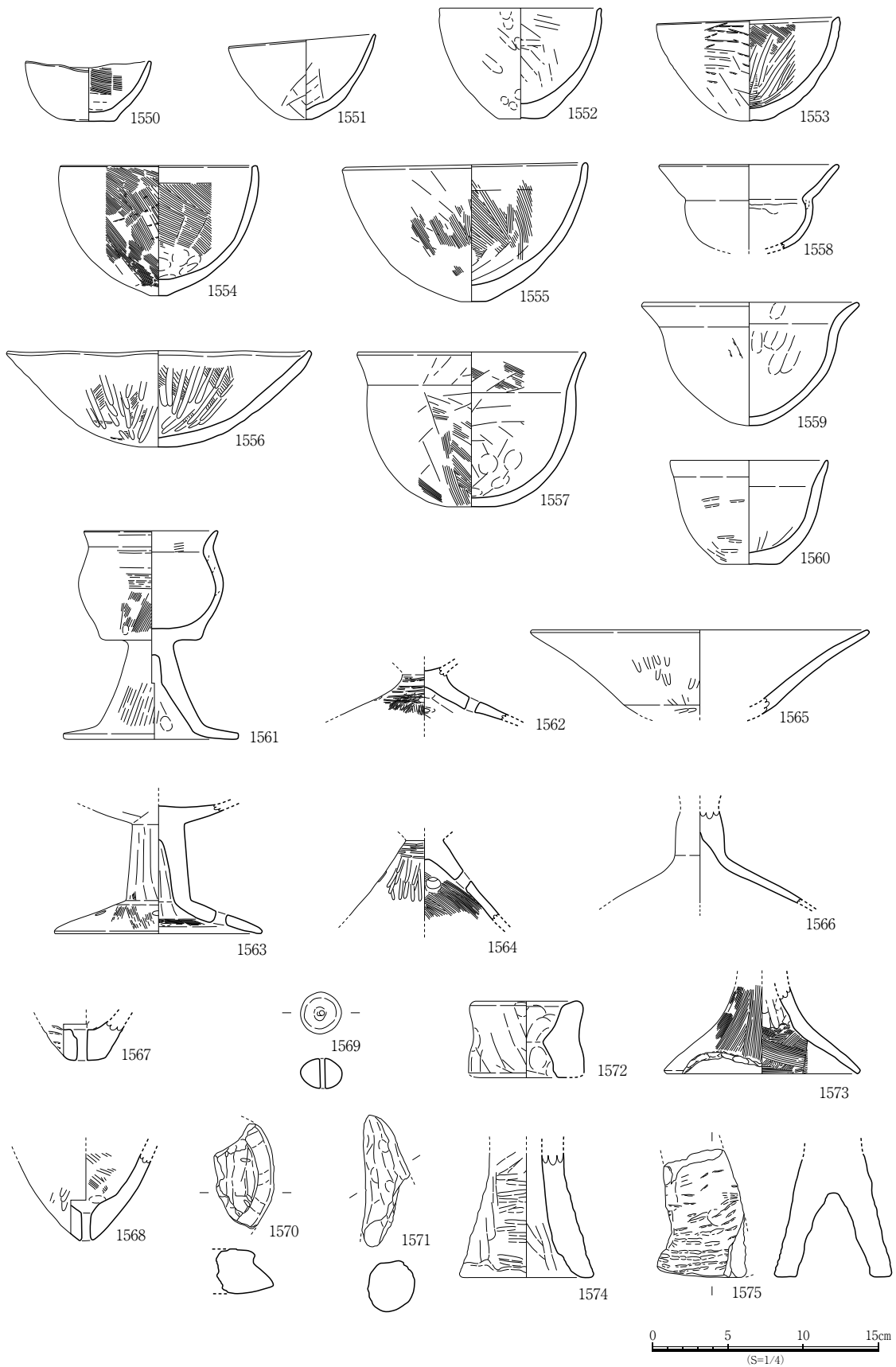


图3-159 遺物包含層出土遺物実測図3

2. 検出遺構と遺物 (8) 遺物包含層

部で外面はハケ調整,内面は口縁部にハケ調整,頸部はナデ調整を施す。1544 は甕の口縁部で「く」の字状を呈する。外面は頸部までタタキ目が認められる。口縁部から頸部はハケ調整とナデ調整で内面はハケ調整を施す。1545 は甕の底部から体部で, 底部は平底状を呈し,外面にはハケ調整がみられる。体部外面はタタキ後下半部にかけてハケ調整,体部内面はナデ調整で一部にハケ調整がみられる。底部内面は指頭圧痕が施される。1546 は弥生土器甕である。底部は丸底状を呈し,外面は体部上半部までタタキ後ハケ調整,頸部外面はハケ調整を施す。内面はハケ調整とナデ調整である。1547 は甕あるいは鉢の底部である。外面は格子状の文様とナデ調整,内面はナデ調整である。1548 は甕あるいは鉢と考えられる。外面はタタキ後縦方向のハケ調整を施し,内面は底部にかけてナデ調整で一部ハケ調整がみられる。外面には一部煤が付く。1549 は甕あるいは鉢の底部である。外面はタタキ後ナデ調整を施し, 底部外面はケズリ調整に近いナデ調整である。内面もナデ調整である。1550 は小型の鉢で底部は平底状を呈する。外面はナデ調整,内面はハケ調整とナデ調整である。1551 は小型の鉢である。底部は丸底に近く, 外面内面ともに摩耗する。1552 は鉢で底部は平底状を呈し,口縁部はやや内湾する。外面は指頭圧痕とナデ調整で内面はハケ調整とナデ調整を施す。1553 は鉢で外面はタタキ後ナデ調整,体部下半から底部は強いナデ調整を施す。内面は口縁部は丁寧なハケ調整,体部から底部には粗いハケ調整が見られる。1554 は鉢で底部から口縁部にかけて内湾する。外面はハケ調整で底部はナデ調整を施す。内面はハケ調整で底部は指頭圧痕とナデ調整である。1555 は丸底状を呈し,口縁部にかけ内湾する鉢である。外面は丁寧なハケ調整で口縁端部はナデ調整を施す。内面も同じく丁寧なハケ調整を施し, 底部はナデ調整を施す。1556 は鉢で丸底状を呈し,口縁部にかけて外方に広がる。外面はタタキ後ハケ調整とミガキ調整を施し,内面にはハケ調整後ミガキ調整を施す。口縁端部はナデ調整である。1557 は鉢で口縁端部はやや外反する。外面内面ともにハケ調整とナデ調整を施す。1558 は小型丸底鉢である。口縁部はナデ調整, 体部もナデ調整を施す。体部外面には一部ミガキ調整が施される。口縁部から体部内面には粘土紐接合痕がみられる。1559 は鉢で口縁部は外反する。外面はナデ調整で一部にタタキ目が認められる。内面は指頭圧痕とナデ調整である。1560 は鉢で底部は平底状を呈する。外面はタタキ後ナデ調整を施し,内面はナデ調整である。1561 は台付き鉢と考えられる。鉢部は口縁端部が外反し,外面はハケ調整,ナデ調整, 脚部は裾部は「ハ」の字状に開く。外面はハケ調整, ナデ調整, 内面はナデ調整である。1562 は高杯の脚部である。外面は横方向と縦方向のミガキ調整を施し,円孔を施す。内面は摩耗している。1563 は高杯の脚部である。柱部の外面は縦方向のナデ調整,裾部にはハケ調整とナデ調整を施す。裾部には径0.8cmの円孔が4カ所みられる。内面は柱部はナデ調整,裾部はハケ調整とナデ調整を施す。1564 は器台の脚部と考えられる。外面は丁寧なミガキ調整で内面はハケ調整を施す。径0.9cmの円孔が3カ所に認められる。1565 は高杯の杯部である。外方に大きくひらき,外面は一部ミガキ調整がみられる。内面はナデ調整である。1566 は高杯の脚部である。外面と内面は摩耗している。1567 は甌と考えられる。底部には径0.7cmの円孔を施す。外面はタタキ目とナデ調整,内面は指頭圧痕がみられる。1568 は甌と考えられる。底部には径0.8cmの円孔を施す。外面はナデ調整,内面は指頭圧痕とハケ調整である。1569 は土製土玉である。中央部には径0.4cmの円孔を施す。1570 は支脚の一部と考えられる。外面と内面は指頭圧痕とナデ調整を施す。1571 は支脚の一部である。外面は指頭圧痕とユビナデが見られる。1572 は支脚で,中空を呈し,上部はやや内傾する。外面と内面は指頭圧痕とナデ調整を施す。1573 は支脚である。外面は丁寧なハケ調整で,内面は柱部には

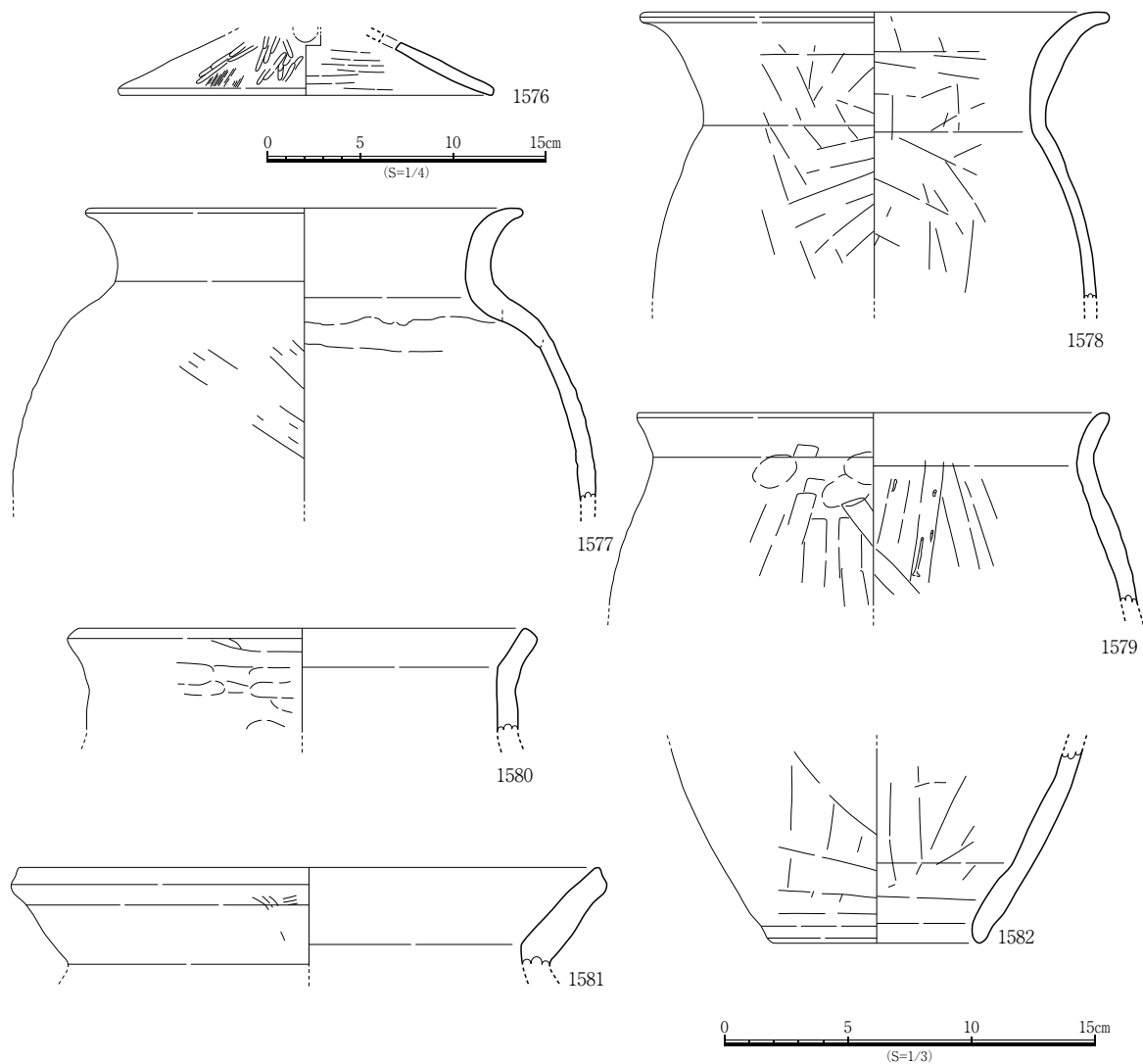


図3-160 遺物包含層出土遺物実測図4

ユビナデ, 裾部はハケ調整を施す。1574は支脚で中空を呈する。外面はタタキ後ユビナデによる調整, 内面はユビナデを施す。1575は支脚で中空部分と中実部分がみられる。外面はタタキ後指頭圧痕とナデ調整で内面は指頭圧痕とユビナデが施される。1576は高杯の脚部で, 穿孔がみられる。外面はハケ調整とミガキ調整, 内面はナデ調整である。

土師器(図3-160・161 1577~1586)

1577は土師器甕である。口縁部は外反しており, 体部中央部に最大径をもつ。口縁部はナデ調整で, 頸部から体部外面は摩耗している。内面はナデ調整を施す。頸部内面には粘土紐接合痕が見られる。1578は土師器の甕である。口縁端部は外反し, 頸部から体部の器壁は薄くなる。外面と内面はナデ調整を施す(工具によるナデ調整)。1579は甕で口縁部は外反し, 短くのびる。外面は頸部は指頭圧痕とナデ調整, 内面は口縁部ナデ調整, 頸部から体部はケズリ調整である。1580・1581は土師器甕である。口縁部は外反し短くのびて口唇部は平坦面を呈する。1580は外面に指頭圧痕がみられ, 外面と内面はナデ調整を施す。1581は外面内面ともにナデ調整である。1582は甑である。外面内面は工具によるナデ調整を施す。1583は甑である。口縁端部はやや外反する。左右には把手がつく。外面は縦方

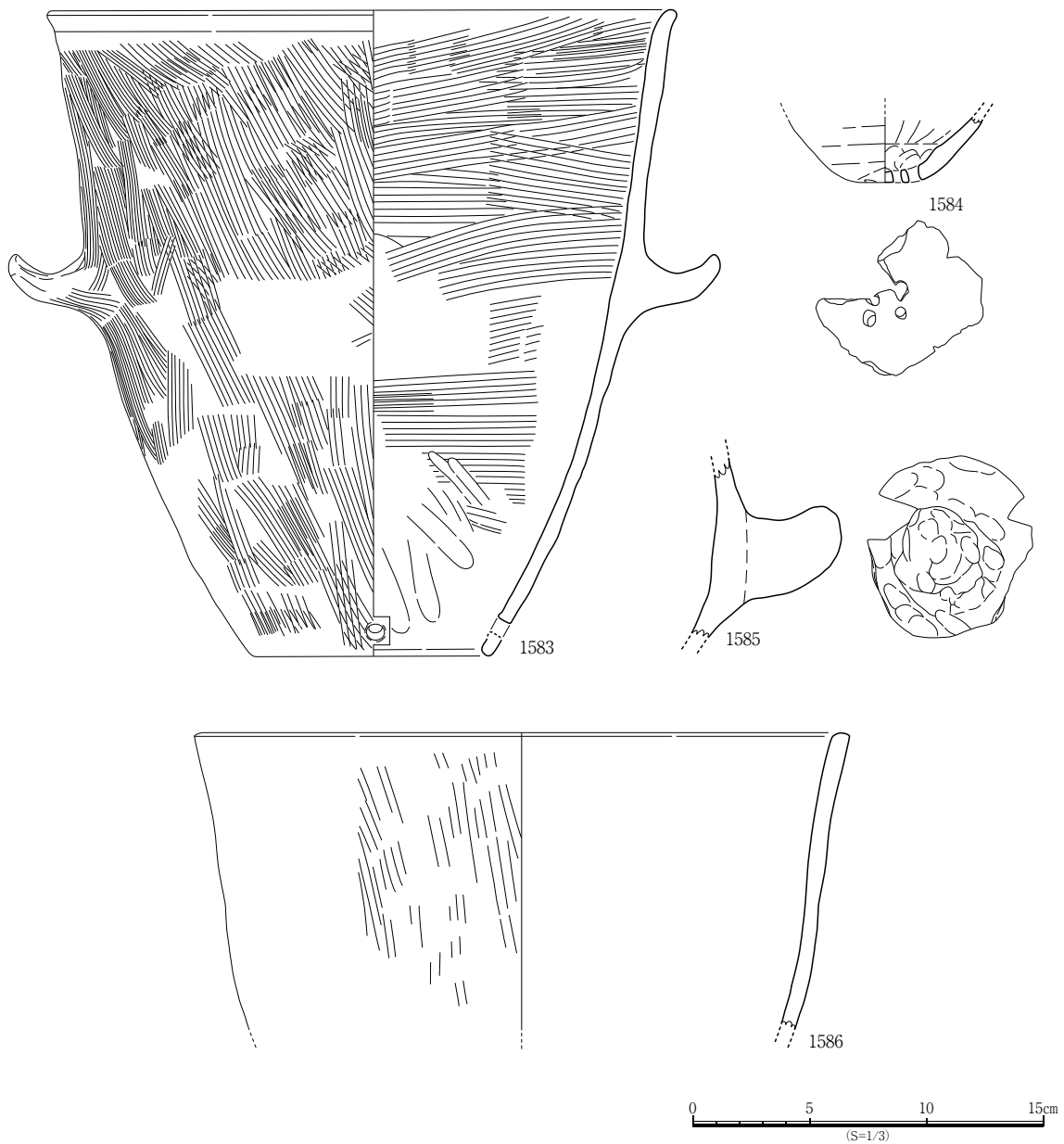


図3-161 遺物包含層出土遺物実測図5

向のハケ調整で口縁端部と体部下半部はナデ調整である。内面は体部下半部まで横方向のハケ調整、口縁端部と体部下半部は指頭圧痕とナデ調整が施される。底部には円孔を施す。1584は甑で、底部に4カ所の穿孔が施される。外面はナデ調整、内面は指頭圧痕、ナデ調整を施す。1585は把手と考えられる。外面はナデ調整と指頭圧痕が顕著である。内面は指頭圧痕とナデ調整が施される。1586は甑である。外面は縦方向のハケ調整で口縁端部はナデ調整を施す。内面はナデ調整である。

須恵器(図3-162~165 1587~1632)

1587~1598は須恵器杯蓋である。1587は天井部外面は回転ケズリ調整で、口縁部は回転ナデ調整、内面は回転ナデ調整を施す。1588は、口縁部途中に稜をもち、口縁端部は浅い凹状を呈する。天井部外面は回転ケズリ調整、口縁部から内面は回転ナデ調整を施す。1589は天井部外面は回転ケズリ調整で口縁部から内面は回転ナデ調整を施す。1590・1591は口縁部途中に稜をもつ。天井部外面は回転

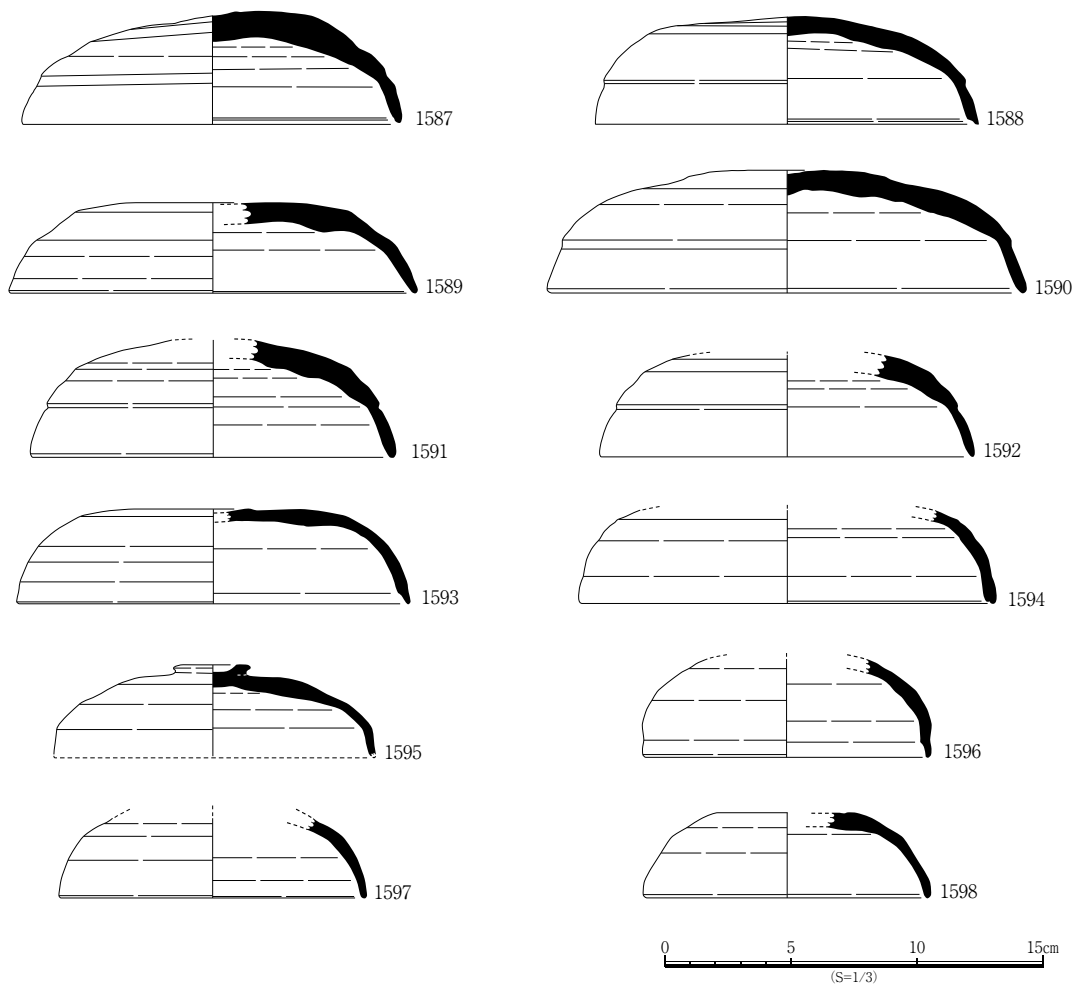


図3-162 遺物包含層出土遺物実測図6

ケズリ調整,口縁部から内面は回転ナデ調整を施す。1592 は口縁部途中に稜をもつ。天井部外面は回転ケズリ調整, 外面内面はナデ調整である。1593 は天井部外面に回転ケズリ調整で, 口縁部外面から内面は回転ナデ調整を施す。1594 は口縁部端部には沈線がみられ, 外面と内面は回転ナデ調整を施す。1595 は天井部外面にはつまみが付き, 自然釉が掛かる。外面と内面は回転ナデ調整である。1596 は口縁部端部は丁寧なナデ調整を施す。1597 は口縁部のみ残存する。外面内面ともに回転ナデを施す。1598 は天井部外面はケズリ調整で口縁部と内面にかけては回転ナデ調整を施す。1599 ~ 1611 は須恵器杯身である。1599 ~ 1604 は立ち上がりは内傾してのび, 受部は断面三角形状を呈する。底部外面は回転ケズリ調整, 立ち上がりまでは回転ナデ調整, 内面は回転ナデ調整を施す。1605 は外面は底部が回転ケズリ調整と回転ナデ調整, 内面は回転ナデ調整を施す。1606・1607は外面内面ともに回転ナデ調整である。1608 は立ち上がりはやや内傾して短くのび, 受部は断面三角形状を呈する。外面は底部はケズリ調整で立ち上がりまでは回転ナデ調整, 内面は回転ナデ調整を施す。1609 は立ち上がりは内傾して短くのび, 受部は扁平な三角形状を呈する。外面は底部回転ケズリ調整と回転ナデ調整, 内面は回転ナデ調整を施す。1610 は立ち上がりは内傾して短くのび, 受部端部は丸い形状をなす。外面は底部回転ケズリ調整で立ち上がりまでは回転ナデ調整, 内面は回転ナデ調整を施す。1611 は須恵器杯身の一部で杯蓋の一部が熔着している。外面には自然釉がかかる。1612 は須恵器杯である。平底で底部外

2. 検出遺構と遺物 (8) 遺物包含層

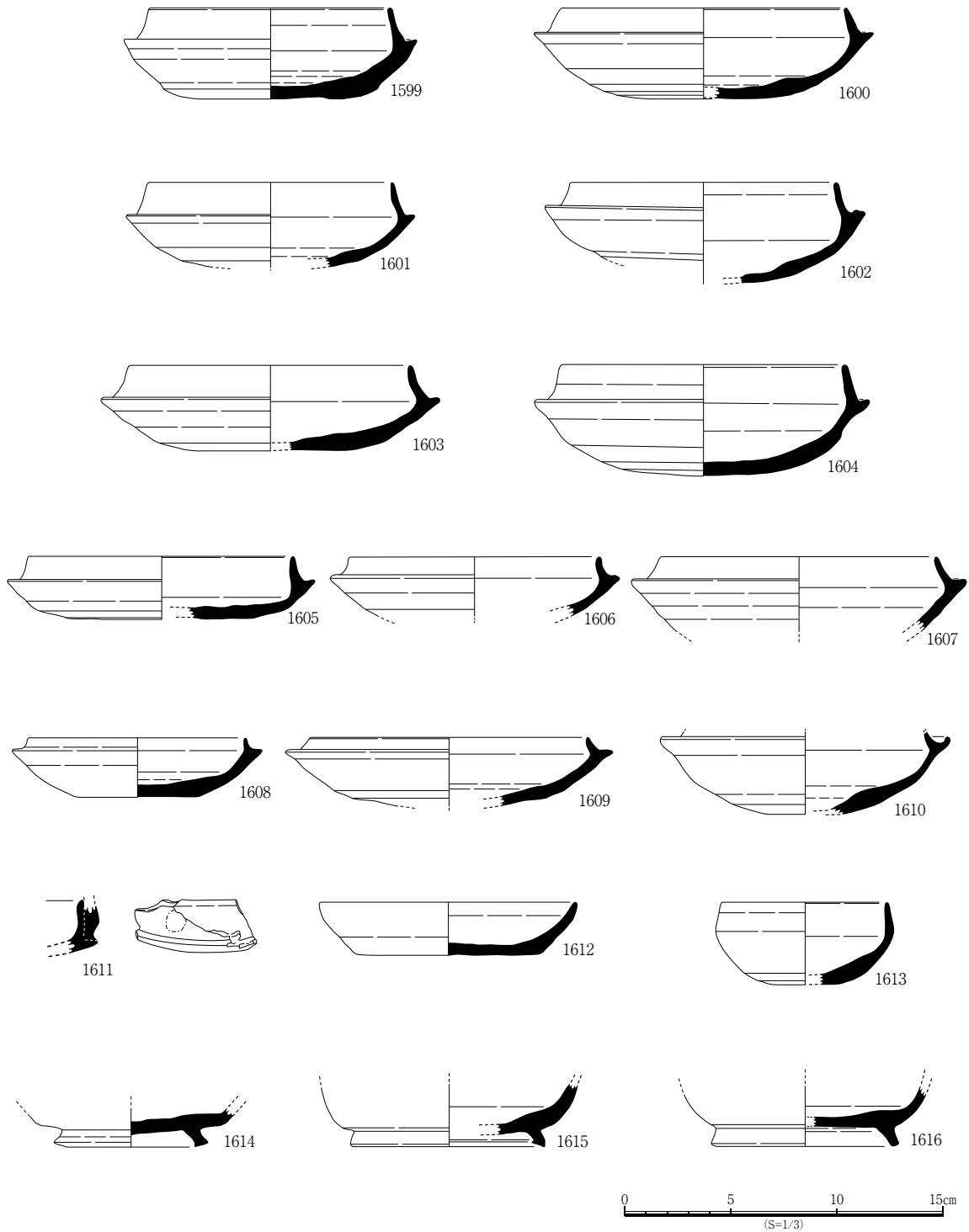


図3-163 遺物包含層出土遺物実測図7

面は回転ヘラ切り痕が見られる。口縁部の外面と内面は回転ナデ調整である。1613は須恵器の杯身あるいは杯蓋と考えられる。底部は回転ケズリ調整で口縁部にかけては回転ナデ調整、内面も回転ナデ調整である。外面には自然釉がかかる。1614は須恵器杯で、底部外面には断面方形状の高台が付く。高台脇は強いナデ調整を施す。1615は須恵器杯で、底部外面には高台が付く。外面と内面は回転ナデ調整で外面の一部には自然釉が掛かる。1616は須恵器杯で、底部外面には断面長方形の高台が付

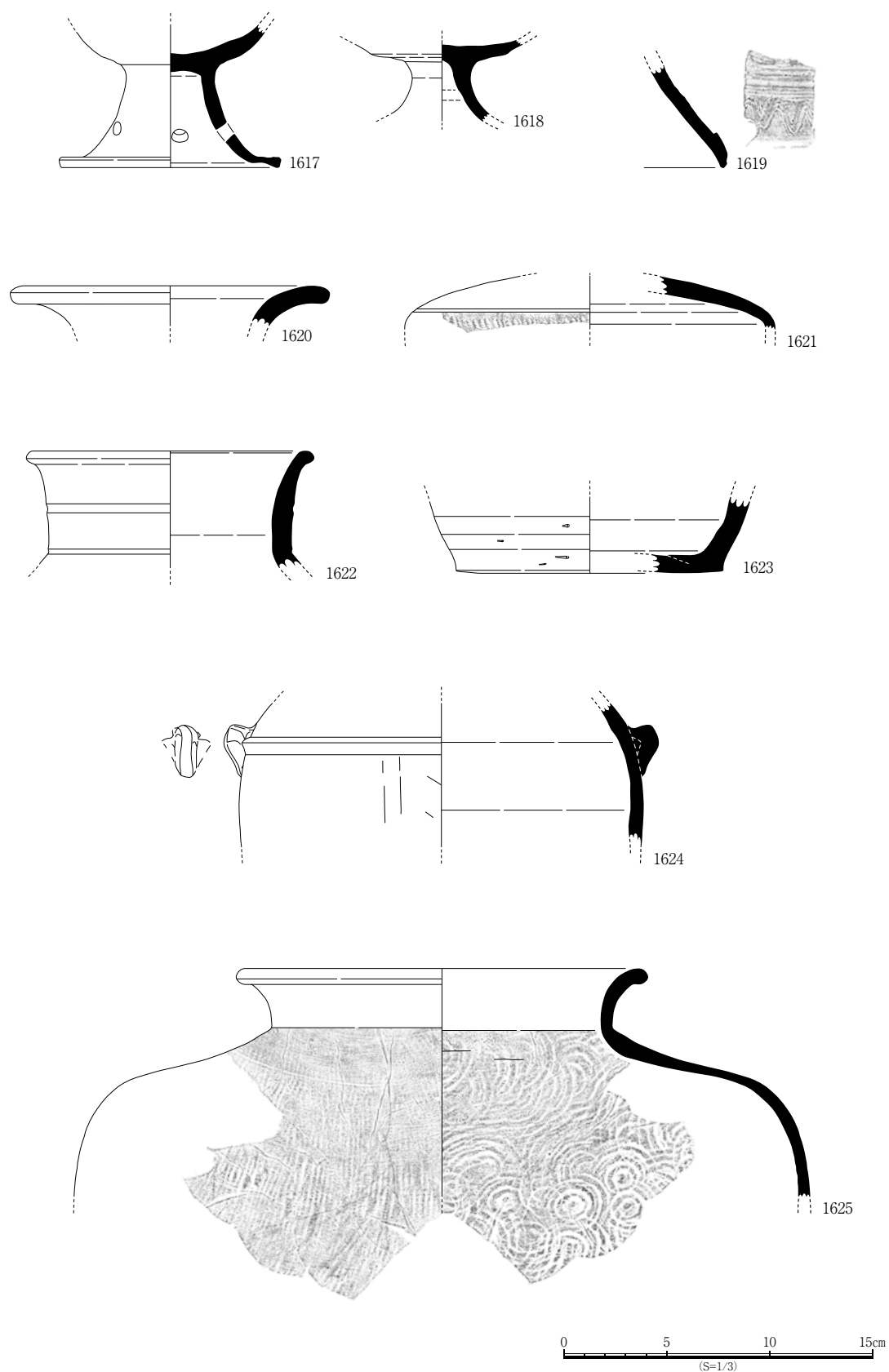


图3-164 遺物包含層出土遺物実測図8

2. 検出遺構と遺物 (8) 遺物包含層

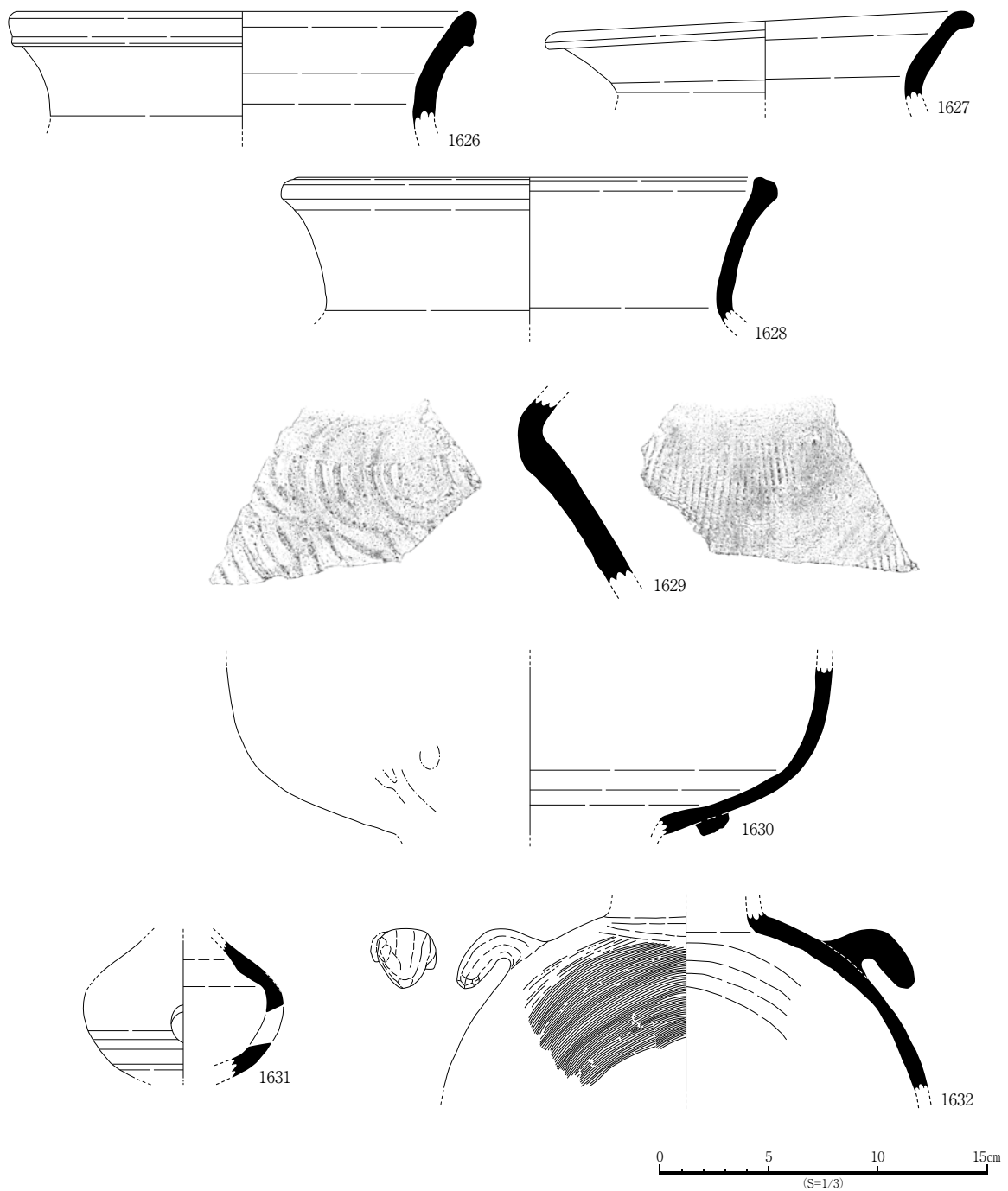


図3-165 遺物包含層出土遺物実測図9

く。高台脇は強いナデ調整を施す。1617は須恵器の高杯である。脚部には径0.6cmの円孔が2カ所認められる。外面と内面は摩耗する。1618は須恵器高杯で杯部と脚部の一部である。外面はナデ調整,内面もナデ調整を施す。1619は須恵器高杯の脚部と考えられる。外面には櫛描波状文を施す。外面と内面はナデ調整である。1620は須恵器壺の口縁部で外反する。外面と内面はナデ調整で,自然釉が掛かる。1621は須恵器壺で外面には櫛状工具による刺突がめぐる。1622は須恵器壺で,口縁部はやや外傾し端部は外反する。外面と内面は回転ナデ調整である。1623は須恵器壺の底部である。底部外面と内面はナデ調整で,底部側面はケズリ調整後ナデ調整を施す。1624は須恵器壺で双耳壺と考えられる。外面

には断面三角形の突帯が巡り、耳部分は粘土帯を貼付し、ナデで仕上げる。外面と内面はナデ調整である。1625は須恵器甕で口縁部は外反し、口縁端部は玉縁状を呈する。外面はタタキ目痕をハケ状工具でナデている。内面は同心円文がみられる。1626は須恵器甕でやや外反し、口縁端部は肥厚する。外面と内面はナデ調整で一部に自然釉がかかる。1627は須恵器甕で口縁部はやや外反し、口唇部は丸くおさめる。外面と内面は回転ナデ調整である。1628は須恵器甕の口縁部で口縁端部は左右に肥厚する。外面と内面は回転ナデ調整で一部に自然釉がかかる。1629は須恵器甕の頸部から体部である、外面はタタキ目が認められ、内面には同心円文が見られる。1630は須恵器甕の底部と考えられる。外面は回転ハケ調整、内面はナデ調整を施す。外面には窯内の礫の一部が熔着する。1631は須恵器甕の一部と考えられる。円孔の一部が確認出来る。外面は体部下半部はケズリ調整とナデ調整、内面はナデ調整を施す。1632は須恵器提瓶で、形骸化した鈎状の把手が付く。外面は回転ハケ調整とナデ調整、内面はナデ調整を施す。

土師器・土師質土器(図3-166 1633~1639)

1633は手づくね皿で、外面は底部から体部にかけて指頭圧痕とナデ調整、口縁部の内面から外面は横方向の丁寧なナデ調整を施す。1634は手づくね皿で外面内面ともに指頭圧痕とナデ調整で、口縁端部はヨコナデにより外反する。

1635は土師質土器皿である。底部は回転糸切りで口縁部の外面内面は回転ナデ調整である。1636は土師器椀である。底部外面には台形状の高台を貼付する。外面と内面は摩耗する。1637は土師質土器杯である。口縁部にかけて外上方にのびる。底部外面は回転糸切り痕がみられ、外面と内面は回転ナデ調整である。内面にはロクロ目が残る。1638は土師質土器杯である。底部外面は回転糸切り痕がみられる。外面と内面は回転ナデ調整である。1639は土師質土器の小型壺である。底部外面は回転糸切り痕が認められ、外面と内面は回転ナデ調整で内面にはロクロ目がみられる。

瓦器(図3-166 1640)

1640は瓦器椀である。底部外面には扁平な粘土帯を貼付する。外面と内面は摩耗する。

瓦質土器(図3-166 1641)

1641は小型壺で胎土は瓦質土器に類似する。口縁部は外反し、短くのびる。内面はナデ調整である。

白磁(図3-166 1642~1645)

1642は白磁皿である。内面見込みは蛇ノ目状の釉剥ぎ、高台内は回転ケズリ痕がみられる。1643は白磁碗の底部である。底部はケズリ出し高台を呈し、露胎である。1644は白磁碗である。口縁端部は玉縁状を呈する。1645は白磁碗である。口縁端部は玉縁状を呈する。

青磁(図3-166 1646~1654)

1646は青磁皿と考えられる。口縁端部は横方向にのびる。1647は同安窯系の青磁皿と考えられる。底部内面は櫛描文、底部外面は露胎である。1648は青磁皿で底部内面には文様がみられ、底部外面は露胎である。1649は青磁碗の底部である。ケズリ出し高台で、内面見込み部分には印刻文がみられる。1650は青磁碗の底部である。高台付途中まで施釉し、高台内は露胎である。1651~1654は青磁碗の口縁部である。外面には鎬蓮弁文を施す。

東播系須恵器(図3-167 1655)

1655は東播系須恵器の鉢である。口縁部は上方に拡張される。外面はナデ調整、口縁部下方は指頭圧痕とナデ調整が施される。

2. 検出遺構と遺物 (8) 遺物包含層

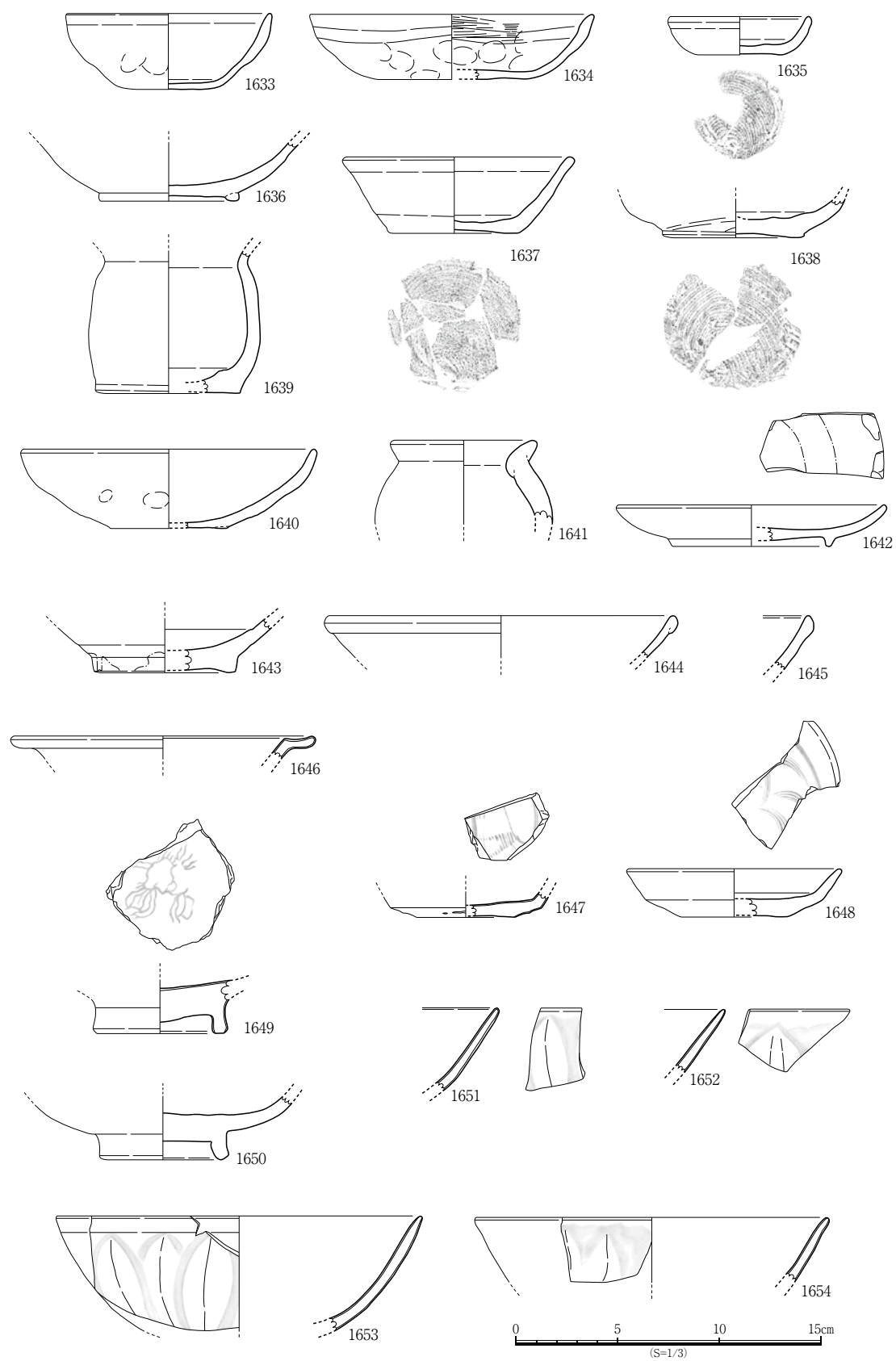


图3-166 遺物包含層出土遺物実測図10

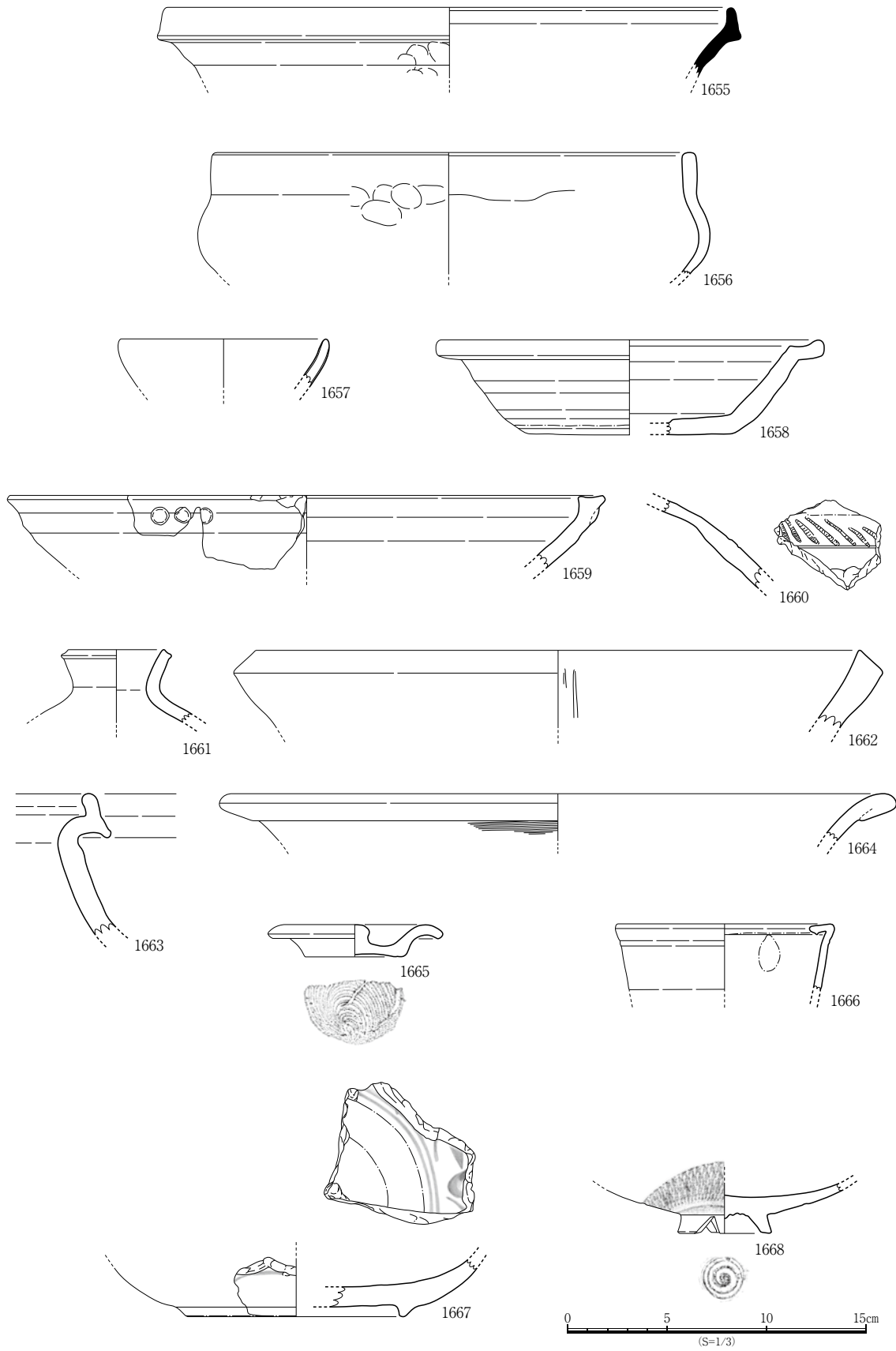


图3-167 遺物包含層出土遺物実測図11

2. 検出遺構と遺物 (8) 遺物包含層

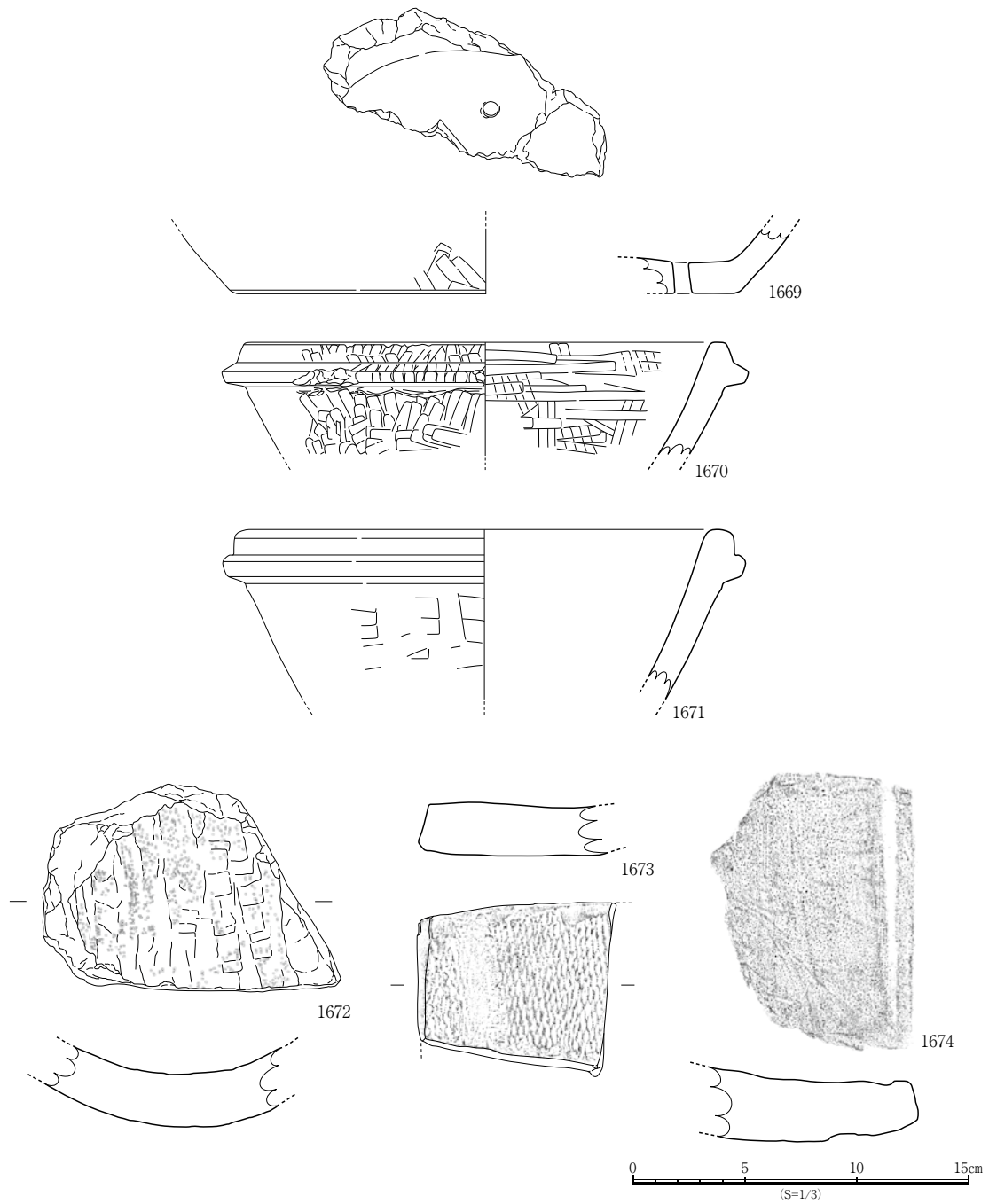


図3-168 遺物包含層出土遺物実測図12

瓦質土器(図3-167 1656)

1656は瓦質土器鍋である。口縁部は直立してのびる。外面は指頭圧痕とナデ調整, 内面はナデ調整である。

国内産陶器(図3-167 1657~1665)

1657は瀬戸美濃系碗の口縁である。口縁部は丸みをおびる。1658は瀬戸焼の折縁中皿で口縁端部は横方向に拡張する。外面と内面は回転ナデ調整である。1659は瀬戸焼の皿(大皿)と考えられる。口縁端部は左右に肥厚する。口縁部下には円形の浮文が貼付される。1660は外面には沈線と櫛状工具

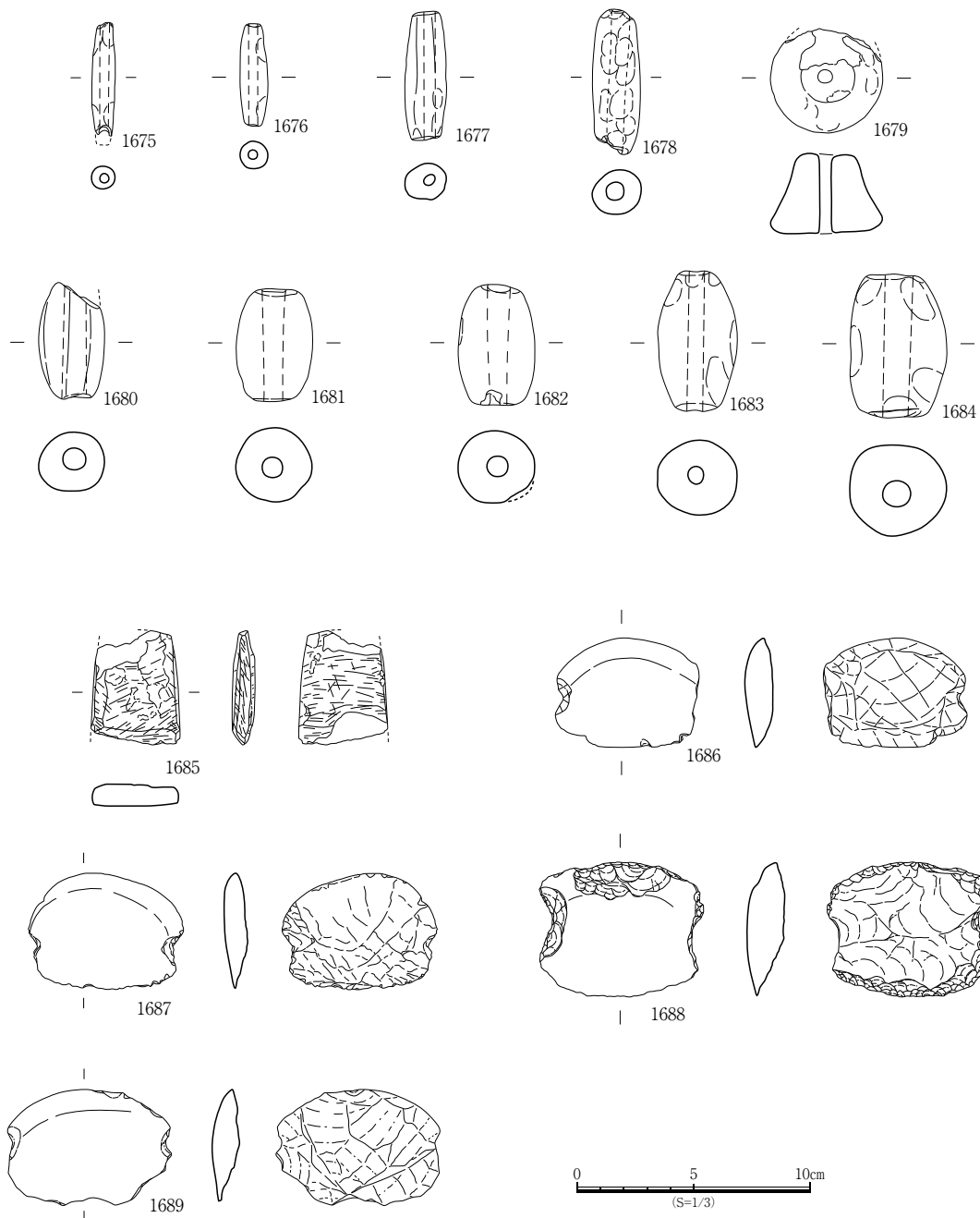


図3-169 遺物包含層出土遺物実測図13

による刻目が施される。1661は小型壺で口縁部は外上方に短くのびる。外面と内面はナデ調整で外面の一部には自然釉がかかる。備前焼と考えられる。1662は備前焼擂鉢の口縁部である。口縁端部は平坦面を呈する。内面には2条の摺目が認められる。外面と内面はナデ調整である。1663は甕の口縁部である。断面はN字状を呈し、縁帯が上下にのびる。外面と内面はナデ調整を施す。常滑焼と考えられる。1664は甕の口縁部である。口縁端部は肥厚させる。外面の口縁端部下はハケ調整、内面はナデ調整を施す。1665は蓋である。底部は回転糸切り痕がみられ、口縁部の外面と内面は回転ナデ調整である。

2. 検出遺構と遺物 (8) 遺物包含層

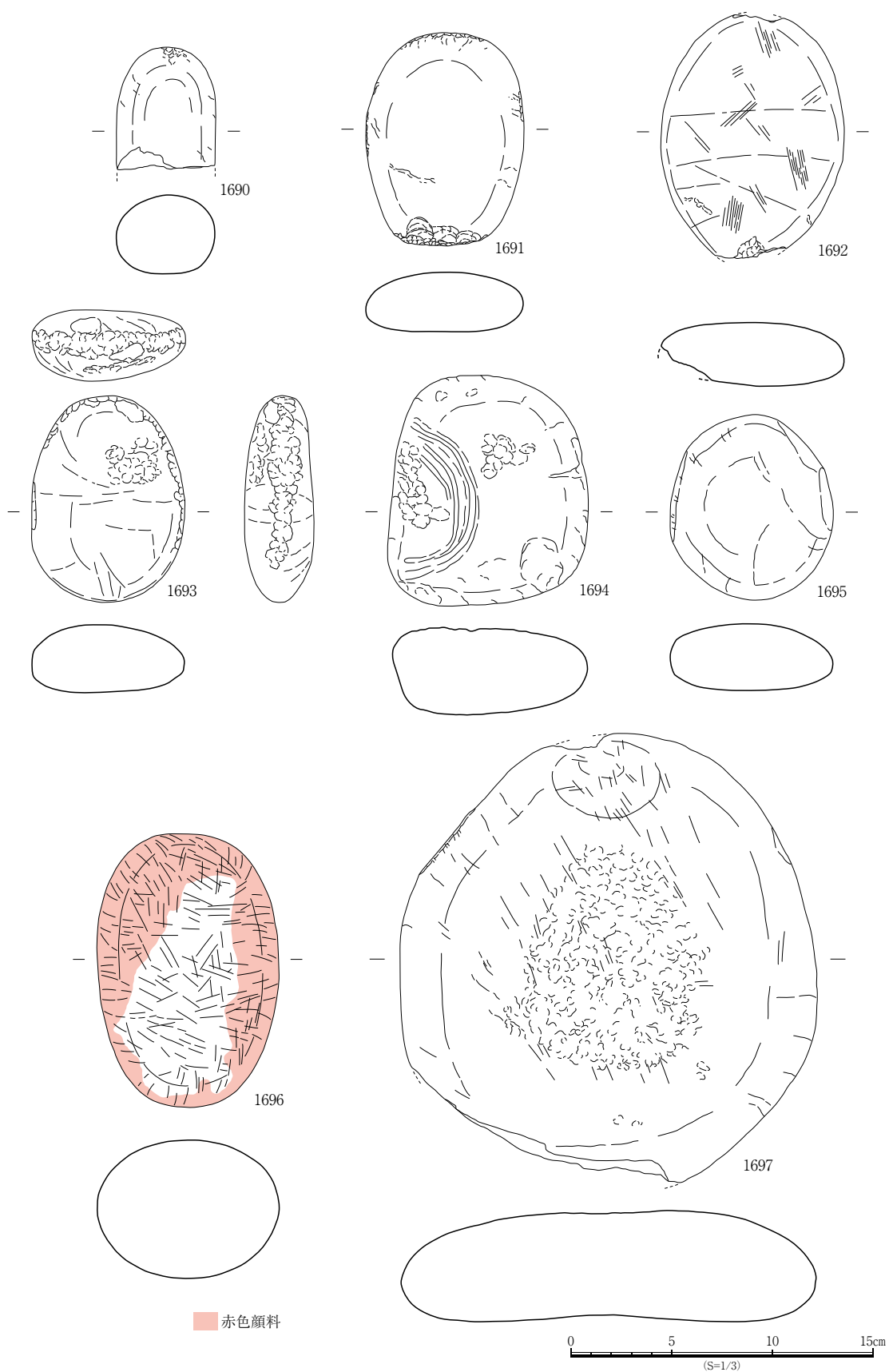


図3-170 遺物包含層出土遺物実測図14

近世陶磁器(図3-167 1666~1668)

1666は香炉あるいは火入れと考えられる。口縁端部は内側に折り返す。内面は露胎である。1667は近世陶磁器の染付皿である。内面見込みは蛇ノ目釉剥ぎ, 高台畳付も釉剥ぎを施す。肥前系磁器と考えられる。1668は陶器碗あるいは皿である。ケズリ出し高台で三角形の切り込みを3カ所もうける。内面は鉄釉, 外面は飛鉦文を施す。

石製品(図3-168 1669~1671)

1669~1671は石鍋である。1669は底部である。径0.8cmの円孔を施す。二次使用されたものと考えられる。1670は口縁部下方には断面台形状の鏝を削り出す。外面と内面はケズリ調整を施す。1671は口縁部下方に断面台形状の鏝を削り出す。外面にはケズリ調整を施す。

瓦(図3-168 1672~1674)

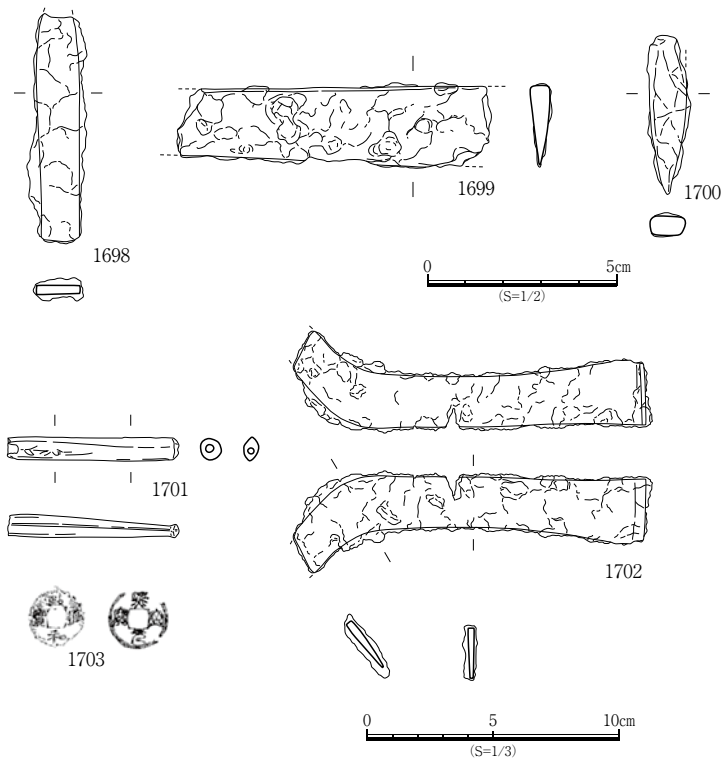
1672~1674は平瓦である。1672は凹面には布目痕がみられ, 自然釉がかかる。1673の凹面は布目痕, 凸面は縄目痕がみられる。1674は凹面には布目痕がみられ, 凸面は摩耗のため調整は不明瞭である。

土製品(図3-169 1675~1684)

1675~1678は管状の土錘である。1679は土製品で形状は紡錘車である。径0.6cmの円孔が施され, 外面はナデ調整である。1680~1684は土錘である。管状を呈し, 中央部に最大径をもつ。

石製品(図3-169・170 1685~1697)

1685は扁平片刃石斧である。刃部の一部は欠損する。1686は打製石包丁である。砂岩製で表面は自然面で, 側辺には抉りを施す。1687~1689は打製石包丁である。砂岩製で表面は自然面を有し, 両側には抉りを施す。1690は叩石である。砂岩製で周縁部には敲打痕がみられる。1691は叩石と考えられる。砂岩製で周縁部には敲打痕がみられる。1692は石錘の可能性が考えられる。周縁部の対極する2カ所を打ち欠く。1693は叩石である。砂岩製で周縁部には敲打痕がみられる。1694は磨石で, 片面に半円状の凹みが3カ所みられる。1695は磨石で, 周縁部に使用痕がみられる。1696は磨石と考えられる。中央部から周縁部にかけて赤色顔料が付着している。1697は磨石あるいは台石である。砂岩製で両面の中央部には敲打痕がみられる。



金属製品(図3-171 1698~1702)

1698は鉄製品である。断面は長方形を呈する。鉦の可能性も考えられる。1699は鉄製品である。欠損しているが, 刀子の可能性が考えられる。1700は鉄製品であるが器形は不明である。1701は煙管の吸口部分と考えられる。外面の一部には

図3-171 遺物包含層出土遺物実測図15

2. 検出遺構と遺物 (8) 遺物包含層

文様を刻む。1702 は鉄鎌と考えられる。刃先は欠損している。竪穴建物跡ST52 の上面から出土しており、竪穴建物跡に属する可能性も考えられる。

銭貨(図3-171 1703)

1703は銭貨である。2枚が貼り付く。「熙寧元寶」と「政和通寶」の可能性が考えられる。

遺物觀察表

凡例

法量は土器を基準にcmで示しているが、土製品・石製品・金属製品の場合は口径が全長(cm)、器高が全幅(cm)、底径が全厚(cm)、銭貨の場合は口径が銭径(cm)、器高が内径(cm)、底径が銭厚(cm)と読み替えている。それ以外の値については、特徴・備考または本文中に記している。かっこ付きの数値は残存値を示している。

IV A ☒

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1	ST19	弥生土器 甕	10.6	(10.0)	13.4	-	口縁部内面にヨコナデ、外面にナデ、胴部内面にはハケ、外面にはタタキとヘラナデ	
2	〃	〃 〃	14.6	(4.9)	-	-	口縁部内面にハケ、外面にヨコナデ、胴部内面にはナデ、外面にはタタキ	
3	〃	〃 〃	-	(20.0)	17.6	3.2	内面には上部にハケのちナデ、下部にナデ、底部にハケ。外面にはタタキ、下部にハケを加え、中央部には煤	
4	〃	〃 〃	-	(9.1)	-	-	口縁部内面にハケ、外面にヨコナデ。胴部内面にはハケのちナデ、外面にはハケ	
5	〃	〃 高杯	7.9	(5.9)	-	-	内面にはナデ、外面にはハケを施したあと、内外面とも丁寧なヘラミガキ	
6	〃	石製品 砥石	12.6	16.9	3.7	-	両面と両側面に使用痕。石材は砂岩	重量1120.0g
7	〃	〃 台石	22.5	21.2	7.5	-	片面中央部に使用痕	重量3.8kg
8	ST20	弥生土器 甕	-	(3.0)	-	1.6	内面にはナデ、外面にはタタキのちナデ	
9	〃	須恵器 杯身	10.8	(3.2)	-	-	内外面に回転ナデ。底部外面は回転ヘラケズリで、粘土塊が付着	
10	〃	〃 〃	13.1	(3.0)	-	-	内外面に回転ナデ。底部外面には回転ヘラケズリ	
11	ST21	弥生土器 甕	-	(9.1)	-	-	内面にはハケとナデ。外面にはタタキ、胴中央部下端には煤が付着	
12	ST22	〃 壺	15.5	(2.1)	-	-	広口壺。口縁部内外面と口縁部内面にヨコナデ、口縁部外面にヨコナデのちハケ	
13	〃	〃 〃	-	(16.8)	26.2	3.3	胴中央部内面にはハケ、胴下部から底部の内面にはナデ。胴部外面にはタタキ、底部外面にはナデ	
14	〃	〃 甕	14.6	(6.8)	-	-	内面にはハケ、外面にはタタキ	
15	〃	〃 鉢	5.1	3.4	-	1.4	内外面にナデ、外面には手づくね成形による亀裂が明瞭に残る。	
16	〃	〃 〃	8.1	5.8	-	1.8	内面にナデ、外面にはタタキとナデ	
17	〃	〃 〃	7.4	2.5	-	1.5	内外面にナデ、底部内面には指頭圧痕	
18	ST23	〃 甕	-	(5.3)	-	2.0	内面にナデ、外面にタタキ	
19	〃	土師器 甕	17.0	(4.2)	-	-	調整は摩耗が著しく不明	
20	〃	須恵器 杯身	11.8	3.8	-	2.8	内面と口縁部外面に回転ナデ、底部外面には回転ヘラケズリ	
21	〃	〃 〃	12.2	(3.9)	-	6.0	内面と口縁部外面に回転ナデ、底部外面には回転ヘラケズリ	
22	〃	〃 甕	-	(11.7)	9.6	-	胴中央部には径1.7cmの孔、外面には刻目、頸部外面上端には櫛描波状文、胴部外面の一部と頸部内面には自然釉	
23	〃	石製品 叩石	15.0	6.7	3.4	-	両面中央部に強い敲打痕、両側面と片側の端部に弱い敲打痕。石材は砂岩	重量564.7g
24	ST24 上層	弥生土器 高杯	-	(3.3)	-	-	外面にはヘラミガキ、内面にはナデ	
25	〃 〃	〃 器台	-	(2.3)	-	-	内面にはナデ、外面にはヘラミガキ。受部の内面には煤が付着	

遺物観察表2

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
26	ST24 上層	須恵器 杯蓋	15.3	(3.4)	-	-	内面と口縁部外面には回転ナデ、天井部外面には回転ヘラケズリ	
27	〃 〃	〃 杯身	12.7	(3.8)	-	-	内面と口縁部外面に回転ナデ、底部外面には回転ヘラケズリ	
28	〃 〃	〃 〃	14.0	(3.2)	-	-	内面と口縁部外面に回転ナデ、底部外面には回転ヘラケズリ	
29	〃 〃	〃 高杯	13.3	(4.4)	-	-	内外面に回転ナデ、底部内面にはナデ	
30	〃 下層	弥生土器 甕	-	(3.1)	-	4.0	内面にナデ、外面にタタキのちナデ	
31	〃 〃	〃 高杯	-	(4.6)	-	-	有稜高杯。内外面にヨコナデのちヘラミガキ	
32	〃 〃	〃 〃	-	(5.0)	-	-	脚柱部下端に4カ所の穿孔、内面にナデ、外面に丁寧なナデ。脚柱部外面上端にはヘラミガキ	
33	〃 〃	〃 〃	-	(6.3)	-	-	内面に絞り目	
34	〃 〃	須恵器 甕	-	(6.8)	-	-	頸部内面に回転ナデ、胴部から底部内面に同心円状のタタキ。胴部外面にはハケ、頸部内外面には自然釉	
35	ST25 上層	弥生土器 壺	13.2	30.0	26.8	3.5	口縁部内外面にナデ、胴部内面にハケ。外面にはハケとタタキ、底部外面にはタタキ	
36	〃 〃	〃 〃	19.3	(6.5)	-	-	広口壺。口縁部内外面にはヨコナデ、口縁部内外面には粗いハケ	
37	〃 〃	〃 〃	-	(5.6)	-	4.2	内面にハケとナデ	
38	〃 〃	〃 甕	16.2	30.7	22.7	1.8	口縁部内外面にはヨコナデ、内面にはハケと強いナデ。胴部外面にはタタキとハケ	
39	〃 〃	〃 〃	12.6	(11.2)	15.7	-	口縁部はヨコナデ、口縁部はハケ、胴部内面にナデ。胴部外面にはタタキ、中央部にはハケを加え、全体に煤が付着	
40	〃 〃	〃 〃	16.1	(4.4)	-	-	内面にハケ、外面にタタキのちハケ、外面には煤が付着	
41	〃 〃	〃 〃	24.0	(10.4)	26.3	-	内面にハケのちナデ、外面にタタキ、口縁部にはヨコナデ	
42	〃 〃	〃 〃	-	(18.6)	18.0	-	内面にはハケのちナデ。外面には胴上半にタタキ、下半にタタキとハケ、胴上部には煤が付着	
43	〃 〃	〃 〃	-	(18.0)	26.0	-	内面にはナデ、外面の上半にタタキ、下半にタタキのちハケ、外面の胴下部には煤が付着	
44	〃 〃	〃 鉢	21.4	9.6	-	5.2	内面は口縁部にハケ、体部から底部にかけてナデ。外面はナデと指頭圧痕	
45	〃 〃	〃 〃	19.2	6.8	-	2.0	口縁部内外面にヨコナデ、内面はヘラミガキ。外面は体部上半にタタキのちハケ、底部のみヘラミガキ	
46	〃 〃	〃 〃	7.4	4.7	-	-	内面にハケのちヘラミガキ、外面にナデのちヘラミガキ	
47	〃 〃	〃 〃	12.3	(6.0)	-	-	内面にナデ、外面にタタキのちナデ	
48	〃 〃	〃 〃	15.4	(4.3)	-	-	口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデ、体部外面に粗いナデ	
49	〃 〃	〃 〃	8.0	7.3	-	2.2	内面にはナデ、外面にはタタキ	
50	〃 〃	〃 〃	13.5	6.0	-	5.7	脚付鉢。内外面にはナデ、底部内面に充填された粘土塊は剥離する。	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
51	ST25 上層	土製品 支脚	-	(4.9)	-	8.3	中実。表面には指頭圧痕とナデ	
52	〃 〃	〃 土錘	6.6	3.2	2.8	-	ほぼ完存。表面にはナデとハケ	重量63.8g 孔径1.1cm
53	〃 中層	弥生土器 壺	-	(4.0)	-	2.2	内面にハケ、外面にナデ	
54	〃 〃	〃 甕	18.8	(7.1)	-	-	口縁部内面にハケ、胴部内面にハケのちナデ、口縁部外面にはタタキとハケ、胴部外面にはタタキ	
55	〃 〃	〃 〃	32.0	(4.1)	-	-	内外面にヨコナデ、外面には煤が付着	
56	〃 〃	〃 〃	-	(2.3)	-	2.9	底部外面にはタタキ。内面にナデ、外面にタタキ	
57	〃 〃	〃 〃	-	(3.8)	-	3.0	底部外面にはタタキ。内面にナデ、外面にタタキ。タタキのあとナデ	
58	〃 〃	〃 鉢	16.8	6.8	-	7.0	内面にはヘラミガキ、外面にはタタキ、体部外面下半にはタタキのあとナデ	
59	〃 〃	〃 高杯	-	(4.6)	-	14.8	径1.3cmの孔を穿つ。器面には丁寧な調整、内面にはハケ、外面にハケとヘラミガキ	
60	〃 〃	〃 器台	-	(4.3)	-	-	内面にナデ、外面にハケ	
61	〃 〃	土製品 土錘	9.3	4.1	3.8	-	ほぼ完存	重量150.7g 孔径1.2cm
62	〃 下層	弥生土器 壺	11.3	(4.9)	-	-	胴部内面上端には強いヨコナデ、明瞭な稜。内外面ともハケ	
63	〃 〃	〃 甕	14.6	(11.4)	14.7	-	内面にハケ、胴部外面にタタキのちハケ、口縁部内外面にはヨコナデ	
64	〃 〃	〃 〃	15.3	(21.7)	19.3	-	内面はハケとナデ。外面にはタタキ、胴下部外面にはハケ、全体に煤が付着	
65	〃 〃	〃 鉢	11.3	6.2	-	1.6	内面にナデ、外面にタタキのちナデ、口縁端部外面にはヨコナデ	
66	〃 〃	〃 器台	9.3	(2.2)	-	-	内外面にヘラミガキ	
67	〃 〃	石製品 摺石	10.5	9.6	3.9	-	片側側面にのみ使用痕。石材は砂岩	重量602.3g
68	〃 床面	弥生土器 壺	-	(17.5)	30.0	-	外面上半にタタキとハケ	
69	〃 〃	〃 甕	-	(25.2)	22.0	2.1	内面は上半にナデ、下半にハケ。外面にはタタキ、外面下半にはハケ。胴中央部外面には煤が付着	
70	〃 〃	〃 鉢	9.5	4.4	-	1.0	口縁端部内外面にヨコナデ、口縁部内面にハケ、体部内面にナデ。外面にタタキとナデ。手づくね成形による亀裂	
71	〃 〃	〃 〃	12.2	6.9	-	2.1	内面にハケのちナデ、外面にタタキ、口縁部外面にはヨコナデ、体部外面にはハケ	
72	〃 〃	石製品 叩石	10.6	8.6	3.1	-	側面の一部に弱い敲打痕。石材は砂岩	重量534.3g
73	〃 〃	〃 台石	25.3	18.3	6.0	-	片面の中央部に敲打痕。石材は砂岩	重量(3.8) kg
74	〃 中央P	土製品 土錘	(7.4)	3.5	(2.2)	-	片側端部を欠損。全体的に摩耗	重量(53.8) g 孔径(1.2) cm
75	ST26	弥生土器 壺	21.6	(3.5)	-	-	広口壺。口縁端部に刻目。	

遺物観察表4

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
76	ST26	弥生土器 壺	-	(1.9)	-	-	広口壺。外面に波状文と円形浮文。調整はヨコナデ	
77	〃	〃 鉢	9.6	(3.8)	-	-	内外面にヨコナデ	
78	〃	〃 〃	-	(2.1)	-	2.5	内面にナデ, 外面にハケ, 外底面には明瞭なタタキ	
79	〃	土製品 支脚	-	(9.6)	-	-	中空。脚部と指を欠損。表面にはタタキと手づくね成形による亀裂	
80	〃	石製品 砥石	7.9	5.5	4.2	-	両面に使用痕。石材は砂岩	重量207.3g
81	〃 P1	弥生土器 壺	-	(4.2)	-	4.0	外面にハケ	
82	〃 P2	〃 甕	18.3	(4.6)	-	-	内面にハケ, 外面にタタキ	
83	ST27 上層	〃 壺	14.8	(3.1)	-	-	広口壺。内外面にはヨコナデ, 外面下端にはハケとヘラミガキ	
84	〃 〃	〃 〃	18.8	(4.0)	-	-	広口壺。口縁端部内外面にはヨコナデ, 口縁部内外面にはハケ	
85	〃 〃	〃 〃	22.2	(4.3)	-	-	広口壺。内外面にはハケ	
86	〃 〃	〃 〃	-	(3.5)	-	-	内面にナデ, 外面にヨコナデとハケ	
87	〃 〃	〃 甕	-	(4.9)	-	2.7	内面にナデ, 外面にハケ, 外底面にはナデ	
88	〃 〃	〃 〃	-	(2.3)	-	2.0	内面にナデ, 外面にハケ, 外底面にはナデ	
89	〃 〃	〃 〃	-	(3.3)	-	2.0	内面にナデ, 外面にタタキのちハケとナデ, 外底面にはナデ	
90	〃 〃	〃 鉢	16.3	6.7	-	-	内面にナデ, 外面にタタキとナデの痕跡	
91	〃 〃	〃 〃	11.9	(6.5)	-	-	内面にはハケとナデ, 外面にはタタキのちハケ, 口縁端部にはヨコナデ	
92	〃 〃	〃 〃	14.8	(3.6)	-	-	内面にハケ, 外面にタタキとハケ	
93	〃 〃	〃 〃	-	(3.2)	-	2.8	内面にはヘラミガキ, 外面にはハケ, 外底面にはナデ	
94	〃 〃	土製品 支脚	-	(3.2)	-	-	中実	
95	〃 〃	石製品 磨石	8.0	1.9	1.1	-	側面両端に使用痕。石材は泥岩	重量28.0g
96	〃 下層	弥生土器 甕	14.4	(4.1)	-	-	口縁部は内面にハケ, 外面にタタキのちヨコナデ, 胴部は内面にナデ, 外面にハケ	
97	〃 〃	〃 〃	-	(4.2)	-	2.7	内面にナデ, 外面にハケ, 外底面にはナデ	
98	〃 〃	〃 〃	-	(4.1)	-	2.0	外面にタタキのちナデ, 外底面にはナデ	
99	〃 〃	〃 高杯	-	(6.8)	-	-	内面にヘラミガキ。脚部内面には絞り目, 内面にハケ, 外面にヘラミガキ	
100	〃 〃	〃 〃	-	(5.1)	-	-	内面にナデ, 外面にヘラミガキ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
101	ST27 下層	土製品 土錘	7.7	3.0	2.8	-	完存。表面にはナデ	重量71.3g 孔径1.2cm
102	〃 床面	弥生土器 壺	23.8	(4.8)	-	-	広口壺。内面にはハケとナデ、外面にはヨコナデとハケ、口縁端部には刻目	
103	〃 〃	〃 〃	-	(7.6)	-	-	広口長頸壺。頸部と胴部の境には粘土帯に斜傾する刻み、胴部外面上端には3条単位の波状文	
104	〃 〃	〃 〃	-	(4.3)	-	7.4	内面にナデ、外面にハケを施し、外底面にはナデ	
105	〃 〃	〃 〃	-	(5.5)	-	1.7	内面にハケのちナデ、外面にハケを施し、外底面にはナデ	
106	〃 〃	〃 甕	11.0	17.3	13.5	1.5	内面にハケとナデ。外面全体にタタキ、胴中央部から底部にかけてハケとナデ。胴上部外面には煤が付着	
107	〃 〃	〃 〃	16.5	(5.4)	-	-	内面に粗いハケ、胴部にはナデ。外面は口縁部に粗いハケ、胴部にタタキ	
108	〃 〃	〃 〃	16.8	(8.2)	-	-	内面に粗いハケ、胴部にはナデ。外面は口縁部に粗いハケ、胴部にタタキ	
109	〃 〃	〃 〃	24.7	(4.5)	-	-	内面にハケ、外面にタタキとハケ	
110	〃 〃	〃 〃	15.0	(8.6)	-	-	口縁部内面にハケ、胴部内面にハケのちナデ、外面にはタタキ	
111	〃 〃	〃 〃	16.8	(10.7)	18.8	-	口縁部内面にヨコナデ、胴部内面にハケとナデ、外面はハケのちヨコナデ、胴部にタタキ、胴上部には煤が付着	
112	〃 〃	〃 〃	-	(7.8)	-	0.8	内面はハケのちナデ、外面はタタキ	
113	〃 〃	〃 鉢	15.0	6.3	-	4.5	内面にはハケのちナデ、外面にはタタキのちナデ、外底面にはナデ	
114	〃 〃	〃 〃	16.2	7.8	-	6.4	内面にハケ、外面にタタキのちナデ	
115	〃 〃	〃 〃	11.9	6.1	-	-	手づくね成形。器面には指頭圧痕	
116	〃 〃	〃 〃	8.0	2.9	-	1.1	内面にはハケのちナデ、外面にはナデ	
117	〃 〃	土製品 土錘	7.5	3.4	3.7	-	完存。表面は摩耗	重量107.1g 孔径1.2cm
118	〃 〃	〃 〃	10.6	3.6	3.3	-	完存。表面にナデ	重量133.0g 孔径1.3cm
119	〃 P2	〃 〃	10.1	3.9	3.4	-	端部が一部欠損。全体的に摩耗	重量(139.1) g 孔径1.5cm
120	ST28 上層	弥生土器 壺	18.2	(6.1)	-	-	広口壺。内外面にヨコナデ。外面にはヨコナデのあとハケ、口縁端部外面には煤が付着	
121	〃 〃	〃 〃	21.8	(4.2)	-	-	広口壺。口縁端部に刺突文、口縁端部内外面と頸部外面上端に波状文	
122	〃 〃	〃 〃	20.7	(3.2)	-	-	広口壺。口縁部外面下方にはハケ、口縁端部には4条単位の波状文	
123	〃 〃	〃 〃	-	(4.4)	-	-	二重口縁壺。内面にはハケのちヘラミガキ、外面にはヘラミガキ。外面段部にはヨコナデ、外面には4条単位の波状文	
124	〃 〃	〃 〃	10.0	(6.4)	-	-	直口壺。口縁部内外面にはヘラミガキ、胴部外面にはハケのちヘラミガキ、胴部内面にはヨコナデと指頭圧痕	
125	〃 〃	〃 〃	-	(2.8)	-	2.0	内面にナデ、外面にタタキのちナデとハケ	

遺物観察表6

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
126	ST28 上層	弥生土器 壺	-	(3.8)	-	4.5	内面にナデ, 外面にハケ, 外底面にはナデ	
127	〃 〃	〃 甕	-	(4.1)	-	3.0	内面にナデ, 外面にタタキ, 外底面にはナデ	
128	〃 〃	〃 鉢	10.6	5.8	-	1.7	内面にハケのちナデ, 外面にナデ	
129	〃 〃	〃 〃	11.4	5.3	-	1.0	口縁部内外面にヨコナデ, 体部内外面にナデ, 外面には手づくね成形に伴う亀裂	
130	〃 〃	〃 〃	13.5	(5.3)	-	-	内面にナデ, 口縁部外面にヨコナデ, 体部外面に指オサエのちナデ, 内面には焼成時の破裂痕	
131	〃 〃	〃 〃	8.4	4.7	-	5.4	脚付鉢。口縁部内外面と体部外面にヨコナデ, 体部内面にナデ, 脚端部内外面にヨコナデ。脚部内外面には指頭圧痕	
132	〃 〃	〃 〃	11.6	5.8	-	2.0	口縁部内外面にはヨコナデ, 体部内面にはナデ, 体部外面にはナデと指オサエ	
133	〃 〃	〃 高杯	12.0	(5.6)	-	-	口縁部内外面にヨコナデ, 体部外面下半にハケ, 内面には丁寧なヘラミガキ	
134	〃 〃	〃 〃	13.4	(4.3)	-	-	内面と口縁部外面にはヘラミガキ, 体部外面には粗いハケのあとヨコ方向のヘラミガキ	畿内からの搬入品
135	〃 〃	〃 〃	23.7	(8.2)	-	-	有稜高杯。内外面にヨコナデ, 内面のみ粗いヘラミガキ	
136	〃 〃	〃 〃	-	(5.3)	-	-	穿孔が残り, 内面にヘラケズリ, 外面にナデ	
137	〃 〃	〃 〃	-	(6.4)	-	-	杯部内面にヘラミガキ, 脚柱部内面にハケのちナデ, 脚柱部外面に板ナデ	
138	〃 〃	〃 〃	-	(7.5)	-	14.1	脚裾部に5ヶ所の穿孔。杯部内面にナデ, 脚部内面にヘラケズリとハケ, ナデ, 脚部外面にハケ, 脚端部にはヨコナデ	
139	〃 〃	〃 器台	-	(3.8)	-	-	内面にハケ, 外面にタタキ	
140	〃 〃	〃 〃	-	(5.9)	-	13.7	内面にハケ, 外面にタタキ, 脚端部内外面にはヨコナデ	
141	〃 〃	〃 柄杓形土器	(6.0)	(7.9)	(7.5)	-	内外面には指頭圧痕とナデ	
142	〃 〃	石製品 叩石	11.8	9.6	4.8	-	片側端部に敲打痕, 反対側端部には被熱痕。石材は砂岩	重量647.7g
143	〃 〃	〃 磨石	13.3	6.6	5.0	-	両端に使用痕。石材は砂岩	重量705.3g
144	〃 〃	〃 砥石	7.8	4.1	2.7	-	全ての側面に使用痕。石材は泥岩	重量77.7g
145	〃 中層	弥生土器 壺	17.2	(5.2)	-	-	広口壺。内外面にハケのちヨコナデ	
146	〃 〃	〃 〃	17.6	(4.9)	-	-	広口壺。内外面にハケ, 外面のみヨコナデ	
147	〃 〃	〃 〃	-	(2.9)	-	-	広口壺。内外面にヨコナデ。端部外面には縦方向の沈線と2条単位の山形文	
148	〃 〃	〃 〃	22.7	(10.7)	-	-	二重口縁壺。口縁部内外面にヨコナデ, 胴部内外面にナデ。口縁部内外面と胴部外面には粗いヘラミガキ	
149	〃 〃	〃 〃	10.2	(15.8)	12.0	-	脚付の直口壺。内面にナデ, 外面にハケ	
150	〃 〃	〃 〃	-	(7.2)	10.3	-	内面に指オサエとナデ, 外面にタタキのちナデ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
151	ST28 中層	弥生土器 壺	-	(13.3)	30.3	-	内面にハケ, 外面にタタキのちナデ	
152	〃 〃	〃 〃	-	(12.9)	12.1	2.0	内面にナデとハケ, 外面にタタキ, 外面のタタキは丁寧にな デ消す。	
153	〃 〃	〃 甕	16.0	(17.2)	18.8	-	内面にハケとナデ, 外面にタタキ, 口縁部内外面にはヨコナ デ。外面はタタキをナデ消す。胴部には煤が付着	
154	〃 〃	〃 〃	17.0	(10.4)	18.3	-	内面全体にハケ, 胴部外面にタタキ, 口縁部内外面にはヨコ ナデ	
155	〃 〃	〃 鉢	12.8	5.4	-	3.5	内面にハケ, 外面にナデ, 体中央部に焼成後の意図的な穿孔	
156	〃 〃	〃 〃	13.4	5.8	-	3.8	内外面にナデ, 口縁部内外面にはヨコナデ	
157	〃 〃	〃 〃	9.6	5.6	-	1.6	内面と口縁部外面にナデ, 体部下半にタタキのちナデ	
158	〃 〃	〃 〃	16.9	8.4	-	2.2	内面にナデのちヘラミガキ, 外面にタタキ	
159	〃 〃	〃 〃	20.5	7.7	-	2.0	口縁部にヨコナデ, 内面にナデ, 外面にハケ, 外面下端に は静止ヘラケズリ	
160	〃 〃	〃 〃	9.1	1.9	-	4.0	内面に指オサエとナデ, 外面にナデ	
161	〃 〃	〃 〃	7.6	6.0	-	0.7	内外面にナデ, 口縁部外面にはハケ	
162	〃 〃	〃 〃	8.0	6.4	8.8	1.9	体部内外面に指オサエとナデ, 口縁部内外面にはヨコナデ	
163	〃 〃	〃 〃	-	(3.1)	-	1.6	外面にハケ	
164	〃 〃	〃 高杯	13.6	(4.0)	-	-	内面に丁寧なナデ, 外面にヘラミガキ, 口縁部外面にはヨコ ナデ	
165	〃 〃	〃 〃	11.9	11.0	-	11.3	有稜高杯。杯部内面にヨコナデ, その他の部位には丁寧なハ ケ	
166	〃 〃	〃 〃	20.9	(8.2)	-	-	有稜高杯。内面はヨコナデ, ハケ, ヘラミガキ。外面はタタキ, ヨコナデ, ハケ, ヘラミガキ。口縁部外面には煤が付着	
167	〃 〃	〃 〃	21.3	14.3	-	15.0	有段高杯。脚上部に4カ所の穿孔。位置をずらし下部にも4カ 所の穿孔	
168	〃 〃	〃 〃	-	(7.1)	-	-	杯部内底面にナデを施し, 脚部内面にはヘラケズリ	
169	〃 〃	〃 〃	-	(8.0)	-	14.8	脚裾部に3カ所の穿孔。内面にはヨコナデとナデ, 外面には ナデのちヘラミガキ	
170	〃 〃	〃 器台	10.7	10.0	-	11.0	脚部に4カ所の穿孔。受部内面にはハケのちナデ, 外面はヨ コナデ, 脚部内面はハケ, 外面はタタキのちハケ, ヘラミガキ	
171	〃 〃	〃 鼓形器台	14.8	(4.0)	-	-	口縁部内面上半にはヨコナデのち不定方向のヘラミガキ, 下 半にはナデ, 外面全体にはヨコ方向のヘラミガキ	山陰系
172	〃 〃	〃 〃	15.7	(4.1)	-	-	内外面にヨコナデのち暗文状を呈すタテ方向のヘラミガキ	山陰系
173	〃 〃	土製品 支脚	(9.4)	(7.6)	8.0	-	中実	
174	〃 〃	石製品 叩石	14.1	12.1	4.1	-	片面中央部に敲打痕。石材は砂岩	重量828.3g
175	〃 〃	〃 〃	16.9	8.1	5.6	-	片側端部に敲打痕。石材は粗い砂岩	重量1029.2g

遺物観察表8

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
176	ST28 中層	石製品 石杵	16.4	9.3	5.2	-	片側端部に赤色顔料とみられるものが付着。石材は砂岩	重量1128.5g
177	〃 〃	庄内式土器 甕	16.2	24.0	22.6	1.7	口縁部内外面はヨコナデ、胴部内面はヘラケズリ、胴部外面はタタキとハケ。外面には煤が付着	
178	〃 下層	弥生土器 壺	-	(3.7)	-	-	外面にはハケとヘラミガキ、多重沈線と円形刺突文	
179	〃 〃	〃 鉢	14.8	7.1	-	1.3	内面にはナデ。口縁部内面にはヘラミガキ。外面はタタキのちナデ。外底面にはナデ	
180	〃 〃	〃 〃	8.8	2.5	-	-	内外面に指頭圧痕	
181	〃 〃	〃 器台	9.4	10.2	-	9.4	5ヶ所の穿孔。口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデ。脚部内面にはハケ、脚部外面にはタタキのちハケ、ヘラミガキ	
182	〃 床面	〃 鉢	13.9	6.6	-	3.9	内面にはナデのちハケ、外面にはナデ	
183	〃 〃	〃 〃	15.1	7.7	-	3.4	内面には粗いハケのち粗いナデ、外面には指オサエ、外底面にはナデ	
184	〃 〃	〃 〃	7.3	2.8	-	1.7	手づくね成形。内面に指オサエのちナデ、外面に指オサエ	
185	〃 〃	〃 〃	10.1	2.7	-	2.0	手づくね成形。内面にナデ、外面に指オサエ。口縁端部内面はヨコナデにより凹線状	
186	〃 〃	〃 〃	7.1	8.0	-	1.7	内面にナデ、外面にはタタキのちナデ、口縁端部にはヨコナデ	
187	〃 〃	〃 高杯	16.5	(4.9)	-	-	有段高杯。内外面に焼成時の破裂痕	
188	ST29 上層	〃 壺	16.6	(4.2)	-	-	広口壺。口縁端部内外面にヨコナデ、内面にハケのちナデ、外面にハケ	
189	〃 〃	〃 〃	-	(2.3)	-	-	広口壺。6条単位の波状文	
190	〃 〃	〃 〃	-	(4.5)	-	-	広口壺。6条単位の波状文	
191	〃 〃	〃 〃	18.2	(5.8)	-	-	複合口縁壺。口縁部内外面にヨコナデ、頸部内外面にハケ、胴部内面にヨコナデ。胴部外面にはハケのちヨコナデ	
192	〃 〃	〃 〃	-	(6.0)	-	2.3	内面にハケのちナデ、外面にタタキのちナデ	
193	〃 〃	〃 〃	-	(12.0)	-	4.0	内面にハケのちナデ、外面にタタキのちヘラミガキ	
194	〃 〃	〃 〃	-	(5.3)	-	2.6	内面にハケ、外面にタタキのちハケ	
195	〃 〃	〃 甕	15.1	(9.4)	14.8	-	口縁部から胴上部内面にハケ、胴中央部内面にナデ、外面にタタキ、口縁部外面に煤が付着	
196	〃 〃	〃 〃	18.7	(4.9)	-	-	内面にハケ、外面にタタキ	
197	〃 〃	〃 〃	14.0	(10.1)	13.5	-	内面にナデ、外面にタタキ、口縁部外面にはナデ、胴中央部から下方には被熱痕	
198	〃 〃	〃 〃	-	(4.4)	-	4.9	内面にナデ、外面にタタキのちハケ	
199	〃 〃	〃 鉢	10.0	6.8	-	1.4	内面上半にハケ、下半にナデ、外面全体にナデ	
200	〃 〃	〃 〃	12.1	5.7	-	2.3	内面にハケのちナデ、外面にタタキのちナデ、内底面にはナデ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
201	ST29 上層	弥生土器 鉢	17.2	9.1	-	1.6	口縁部内外面にナデ, 体部内面にハケ, 外面にタタキのちナデ。内底面には指頭圧痕, 外面全体には煤が付着	
202	〃 〃	〃 〃	18.9	(6.6)	-	-	内面に粗いハケ, 外面に粗いタタキ	
203	〃 〃	〃 〃	21.7	8.4	-	2.2	内面にハケ, 外面にタタキのちナデ	
204	〃 〃	〃 高杯	12.2	(4.6)	-	-	内外面には丁寧なヘラミガキ	
205	〃 〃	土製品 土錘	(5.4)	2.9	2.6	-	片側を欠損	重量(39.4) g 孔径1.0cm
206	〃 〃	石製品 叩石	10.5	7.5	3.5	-	片側端部と両側面に敲打痕。石材は砂岩	重量352.8g
207	〃 中層	弥生土器 壺	-	(10.0)	-	2.0	内面にハケ, 外面にタタキのちハケ	
208	〃 〃	〃 甕	16.6	24.7	18.8	-	内面にハケとナデ。外面全体にはタタキ, 外面下半にはハケ, 胴中央部には煤が付着	
209	〃 〃	〃 〃	13.3	21.5	17.1	-	口縁部内外面にヨコナデ, 胴部内面上半に粗いハケ, 下半にナデ。外面全体にタタキ, 口縁部から胴中央部に煤が付着	
210	〃 〃	〃 〃	13.7	(11.1)	(17.6)	-	胴部内面上端に指オサエ, 胴部内面にナデ, 外面にタタキのちハケ, 外面全体に煤が付着	
211	〃 〃	〃 〃	13.0	(22.0)	25.4	-	内面にハケとナデ, 外面全体にタタキ。口縁部から胴上部外面にはハケ, 胴中央部から下方には煤が付着	
212	〃 〃	〃 〃	15.0	(13.3)	(22.5)	-	内面にはハケとナデ, 胴中央部外面にはタタキのちハケ, 胴中央部には煤が付着	
213	〃 〃	〃 鉢	9.4	3.9	-	3.1	内面にナデ, 外面にタタキのちナデと指オサエ, 内面には赤色顔料とみられるものが付着	
214	〃 〃	〃 〃	11.6	5.1	-	4.0	内面にナデ, 外面にタタキのちナデ	
215	〃 〃	〃 〃	12.4	5.0	-	1.3	内面にハケ, 外面にタタキ	
216	〃 〃	土製品 支脚	7.0	6.3	-	3.3	表面には明瞭な指頭圧痕	
217	〃 〃	〃 土錘	6.9	3.3	3.0	-	完存。表面にはナデ	重量74.3g 孔径1.1cm
218	〃 〃	石製品 石杵	12.0	7.5	5.2	-	端部に赤色顔料とみられるものが付着。石材は砂岩	重量705.1g
219	〃 下層	弥生土器 壺	18.0	(7.5)	-	-	広口壺。口縁端部内外面にヨコナデ, 口縁部から頸部内外面にハケ, 胴部内面にナデ	
220	〃 〃	〃 〃	20.8	(6.1)	-	-	広口壺。口縁端部に斜傾する刻目。内外面にハケ, 内面全体と口縁部外面にはヨコナデ	
221	〃 〃	〃 〃	-	(11.7)	12.5	2.7	内外面にナデ。胴部内面上端には強いヨコナデ, 頸部内面と外面には赤色顔料とみられるものが付着	
222	〃 〃	〃 甕	15.0	(15.8)	20.7	-	口縁部内面にはハケのちナデ, 胴部内面に粗いナデ, 外面にタタキのちハケとナデ, 胴上部より下方には煤が付着	
223	〃 〃	〃 〃	-	(12.3)	-	0.9	内面にナデ, 外面にタタキのちナデ	
224	〃 〃	〃 鉢	16.5	8.0	-	3.2	内面にはナデ, 外面にはタタキ, 口縁部外面にはヨコナデ, 体部外面にナデ	
225	〃 〃	〃 〃	-	10.7	-	5.8	内面にハケのち部分的にヘラミガキ, 外面全体にヘラミガキ。底部外面にはヨコナデ, 外底面にはナデ	

遺物観察表 10

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
226	ST29 下層	弥生土器 高杯	14.3	(3.2)	-	-	外面にハケのちヘラミガキ	
227	〃 〃	土製品 支脚	(14.3)	(6.8)	8.5	-	中空。内面にはナデ、外面にはタタキのちナデ	
228	〃 〃	石製品 叩石	9.4	8.2	3.2	-	片側端部に敲打痕、部分的に被熱。石材は砂岩	重量361.0g
229	〃 床面	弥生土器 壺	-	(27.9)	24.2	4.2	内面にナデ、外面にタタキ、胴中央部より下方にはハケ。胴中央部には焼成後の穿孔	
230	〃 〃	〃 〃	-	(23.7)	29.1	-	内面にナデとハケ、外面にハケのち丁寧なヘラミガキ	
231	〃 〃	〃 〃	-	(5.1)	-	4.0	内面にハケのち指オサエ、外面にハケ	
232	〃 〃	〃 甕	14.3	21.0	15.9	0.7	内面にはハケ、外面にはタタキ、胴部内面にはナデ、胴部外面下半にはハケ、煤が付着	
233	〃 〃	〃 〃	15.2	27.7	20.5	(2.3)	内面にはハケ、外面にはタタキ、胴部内面にはナデ、胴部外面下半にはハケ、煤が付着	
234	〃 〃	〃 〃	-	(16.0)	15.5	2.2	内面にはナデとヨコナデ、外面にはタタキのちハケ、口縁部外面下端にはハケ。胴中央部外面には煤が付着	
235	〃 〃	〃 〃	-	(8.9)	-	1.8	内面にナデ、外面にタタキのちハケ。内面に煤が付着	
236	〃 〃	〃 〃	-	(12.0)	-	1.4	内面にナデ、外面にタタキのちハケ	
237	〃 〃	〃 鉢	11.2	7.2	-	2.5	内面にナデのちヘラミガキ、口縁部外面にナデ、体部外面にハケのちナデ、外底面にはナデ	
238	〃 〃	〃 〃	12.2	6.1	-	1.6	内面にナデ、外面にタタキのちナデ	
239	〃 〃	〃 〃	15.8	6.3	-	4.0	口縁部内外面にヨコナデ、内面にナデ、外面にタタキのちナデ、内面にはヘラ状工具による暗文状のミガキ	
240	〃 〃	〃 〃	-	(5.5)	-	1.5	体部内面にハケ、底部内面にナデ、外面にタタキ、内面には指頭圧痕、体部外面にはナデ	
241	〃 〃	〃 〃	12.3	6.0	-	-	摩耗が著しく調整は不明	
242	〃 〃	〃 〃	-	(2.9)	-	3.1	内外面にナデ。外底面には木葉の押圧痕	
243	〃 〃	〃 〃	-	(4.2)	-	1.2	外面にはタタキ	
244	〃 〃	石製品 叩石	16.6	9.2	5.2	-	片側端部に敲打痕。石材は砂岩	重量1209.5g
245	〃 〃	〃 砥石	21.9	6.9	5.9	-	片側を欠損。4面とも使用痕が顕著。石材は極細粒砂岩	重量1019.8g
246	〃 中央P	弥生土器 鉢	12.8	5.8	-	-	内外面には丁寧なナデ	
247	ST30 上層	〃 壺	22.2	(9.3)	-	-	広口壺。口縁部内外面にヨコナデ、頸部内面にナデ。頸部内面下端と頸部外面にはハケ、頸部と胴部の境にはヨコナデ	
248	〃 〃	〃 甕	21.1	(9.5)	-	-	口縁部内面にハケ、胴部外面にタタキ	
249	〃 〃	〃 〃	16.6	(11.3)	19.1	-	口縁部から胴中央部内面にハケ、胴中央部内面にナデ、外面にタタキ、外面全体に煤が付着	
250	〃 〃	〃 〃	-	(15.5)	15.5	-	器壁が薄く丁寧な調整。内面にはハケとナデ、外面にはタタキのちハケ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
251	ST30 上層	弥生土器 鉢	10.0	5.2	-	1.5	体部下端外面にタタキ	
252	〃 〃	〃 〃	11.0	5.7	-	2.7	外面にタタキ、外底面にナデ。内面には赤色顔料とみられるもの、外面には煤が付着	
253	〃 〃	〃 〃	14.0	7.8	-	3.7	内面にナデ、外面にタタキ、口縁部外面にはナデ	
254	〃 〃	〃 〃	12.3	5.0	-	1.0	内面にナデ、外面に指オサエ、外面にはナデ	
255	〃 〃	〃 〃	7.8	2.9	-	-	内面に指オサエとナデ、外面に指オサエ	
256	〃 〃	〃 〃	10.0	(7.4)	-	-	脚付の可能性有り。内外面にヘラミガキ、口縁端部内外面にはヨコナデ	
257	〃 〃	〃 〃	-	(5.1)	8.9	2.7	内面にナデと指オサエ、外面にナデ	
258	〃 〃	〃 高杯	-	(5.3)	-	-	内外面にハケ、外面上端にはナデ	
259	〃 〃	〃 〃	-	(6.5)	-	-	杯部内面と脚柱部内面にナデ、脚裾部内面にハケ、外面にヘラミガキ、裾部の穿孔は4ヶ所	
260	〃 〃	土製品 土錘	6.7	2.8	2.6	-	ほぼ完存。表面にはナデと指頭圧痕	重量52.4g 孔径1.2cm
261	〃 〃	〃 〃	11.4	3.7	3.0	-	ほぼ完存。表面にはナデと指頭圧痕	重量(121.4)g 孔径1.3cm
262	〃 〃	〃 〃	11.1	4.6	4.3	-	ほぼ完存。表面にはナデと指頭圧痕。片側端部はハケ状原体による面取り	重量245.1g 孔径1.4cm
263	〃 〃	〃 〃	(5.6)	2.9	2.7	-	片側を欠損。残存側には抉り	重量(43.3)g 孔径1.0cm
264	〃 中層	弥生土器 壺	15.6	(27.0)	27.2	-	広口壺。内面にはハケのちナデ、口縁部から胴上部外面にはハケ、胴中央部から下部外面にはタタキのちハケ	
265	〃 〃	〃 〃	-	(7.0)	-	3.4	内面にナデ、外面にタタキのちハケ、外底面にはナデ	
266	〃 〃	〃 甕	14.0	(10.8)	-	-	口縁部内外面にハケ、胴部内面にハケのちナデ、胴部外面にタタキ。胴中央部にはハケ。煤が付着	
267	〃 〃	〃 鉢	-	(5.3)	-	2.0	内外面にナデ	
268	〃 〃	〃 〃	17.2	(6.7)	-	-	内面にハケ、外面にナデ	
269	〃 〃	〃 〃	-	(4.2)	-	-	内外面にナデ、外面にはヘラ描きの文様	
270	〃 〃	〃 高杯	12.4	(5.2)	-	-	内外面には丁寧なヘラミガキ	搬入品の可能性有り
271	〃 〃	〃 〃	-	(8.1)	-	-	有段高杯。脚柱部外面にはヘラミガキ、脚裾部内面にはナデとハケ、穿孔	
272	〃 〃	石製品 叩石	10.4	8.2	3.1	-	片側端部と両側面に明瞭な敲打痕。石材は砂岩	重量414.5g
273	〃 下層	弥生土器 壺	-	(3.1)	-	-	広口壺。端部にはハケ状原体による斜傾する刻目、器面にはヨコナデ	
274	〃 〃	〃 〃	-	(12.2)	-	-	広口壺。頸部内面にヨコナデ、胴部内面と頸部から胴上部外面にナデ、胴中央部外面にはタタキ	
275	〃 〃	〃 〃	-	(7.2)	-	-	頸部と胴部の境には突帯を貼付け、一部に三日月状の刺突文、胴部外面には多重沈線	

遺物観察表12

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
276	ST30 下層	弥生土器 甕	13.5	(7.6)	-	-	口縁部内外面にヨコナデ, 胴部内面にハケのちナデ, 胴部外 面にタタキ, 胴部外面上端にはハケ	
277	〃 〃	〃 〃	14.6	(14.5)	17.6	-	口縁部から胴上部内面にハケ, 胴中央部内面にナデ。外面に はタタキのちハケ, 部分的に煤が付着	
278	〃 〃	〃 〃	15.0	(13.5)	20.8	-	口縁部内外面にヨコナデ, 胴部内面にナデ, 胴部外面にタタ キ, 胴中央部外面には煤が付着	
279	〃 〃	〃 鉢	12.2	7.3	-	3.1	口縁部内面にハケ, 体部内面にナデ, 外面全体にタタキ, 外 底面にはナデ	
280	〃 〃	〃 〃	13.7	5.4	-	1.7	口縁部内面にハケ, 体部内面と外面全体にナデ	
281	〃 〃	〃 〃	15.8	6.8	-	1.1	口縁部内外面にヨコナデ, 体部内面にハケのちナデ	
282	〃 〃	〃 高杯	-	(4.1)	-	-	有段高杯	
283	〃 〃	〃 〃	24.0	(1.9)	-	-	口縁部に円形浮文, 端部内面に5条単位の波状文	
284	〃 〃	〃 〃	12.2	10.0	-	17.3	脚裾部には4ヵ所の穿孔, 杯部内面には暗文状を呈する放射 状のヘラミガキ	畿内からの搬 入品
285	〃 〃	〃 〃	-	(2.4)	-	-	内面には暗文状を呈する放射状のヘラミガキ	畿内からの搬 入品
286	〃 〃	〃 〃	-	(5.0)	-	16.7	脚裾部にヨコナデ, その他の部位にはハケ, 4ヵ所の穿孔	
287	〃 〃	土製品 支脚	7.0	8.2	-	6.6	内外面に指オサエとナデ	
288	〃 床面	弥生土器 壺	-	(22.4)	27.3	3.8	内面にはナデ, 外面にはタタキのちナデ	
289	〃 〃	〃 甕	14.5	17.5	16.3	1.8	口縁部内面にハケ, 胴部内面にハケのちナデ, 外面全体にタ タキ, 口縁部から胴上部外面には煤が付着	
290	〃 〃	〃 〃	14.8	21.3	19.5	2.1	内面にハケとナデ, 外面にタタキ, 胴中央部より下方の外 面には煤が付着	
291	〃 〃	〃 〃	12.6	(21.5)	17.9	(2.5)	口縁部内面にヨコナデ, 胴部内面にナデ, 口縁部外面に板ナ デ, 胴部外面にタタキのちナデ	
292	〃 〃	〃 鉢	-	(3.7)	-	6.0	脚付鉢。脚端部内外面にヨコナデ, 脚部内外面にヘラミガキ。 非常に丁寧な調整	
293	〃 〃	〃 高杯	-	(7.0)	-	-	杯部内外面にヘラミガキ, 脚部内面にナデ, 脚部外面にヨコ ナデとヘラミガキ, 脚裾部には穿孔	
294	〃 〃	土製品 土錘	10.2	4.4	4.1	-	ほぼ完存。表面には指頭圧痕とナデ	重量(169.7)g 孔径1.3cm
295	〃 〃	〃 〃	11.3	4.1	3.8	-	ほぼ完存。表面には指頭圧痕とナデ	重量207.5g 孔径1.4cm
296	〃 〃	石製品 叩石	(9.6)	10.1	3.4	-	側面の一部に敲打痕。石材は砂岩	重量(437.0)g
297	〃 〃	〃 〃	15.7	14.2	4.2	-	側面の一部に敲打痕。石材は砂岩	重量1542.4g
298	〃 〃	〃 台石	25.9	22.6	10.9	-	片面の一部に使用痕。石材は砂岩	重量7.8kg
299	〃 〃	〃 〃	34.2	29.2	17.8	-	片面の一部に使用痕。石材は砂岩	重量28.2kg
300	〃 中央P	弥生土器 壺	16.5	(15.0)	-	-	広口壺。端部に8条単位の波状文。外面と内面の一部にハケ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
301	ST30 中央P	石製品 石柱	10.1	5.4	2.1	-	片側端部に敲打痕。赤色顔料とみられるものが付着。石材は砂岩	重量181.3g
302	〃 SK2	〃 叩石	14.4	10.2	3.5	-	側面3ヵ所と片面に明瞭な敲打痕。石材は砂岩	重量701.1g
303	ST31	弥生土器 甕	12.4	22.2	18.1	1.4	内面の一部と口縁部外面にハケ、胴部外面にタタキとハケ	
304	〃	〃 高杯	17.3	(12.0)	-	-	有稜高杯。脚裾部の穿孔は4ヵ所	
305	ST32 上層	〃 壺	13.0	(4.8)	-	-	二重口縁壺。内外面にヨコナデ	
306	〃 〃	〃 甕	14.9	(21.2)	19.0	-	口縁端部内外面にヨコナデ、口縁部内外面にハケ、胴部内面にナデ、胴部外面にタタキのちハケ、胴部外面には煤が付着	
307	〃 〃	〃 〃	16.2	(11.2)	16.5	-	口縁端部内外面にヨコナデ、口縁部内外面にハケ、胴部内面にハケのちナデ、胴部外面にタタキのちハケ、外面には煤が付着	
308	〃 〃	〃 〃	-	(11.6)	-	5.1	内面にナデ、外面にタタキのハケ、外底面にはナデ	
309	〃 〃	〃 鉢	12.2	7.3	-	1.2	体部内面にハケ、口縁部内外面と体部外面にナデ	
310	〃 〃	〃 〃	12.0	6.0	-	1.0	内面にハケ、外面にタタキのちナデ	
311	〃 〃	〃 〃	7.7	7.8	7.1	(1.5)	口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデ、体部外面にハケとナデ	
312	〃 〃	〃 高杯	21.7	16.2	-	14.7	有稜高杯。杯部内外面には丁寧なヘラミガキ、内面には暗文状のヘラミガキ、杯裾部の穿孔は4ヵ所	
313	〃 〃	土製品 支脚	6.2	5.6	-	5.1	円柱状。外底面を凹ませ、表面には指オサエとナデ	
314	〃 〃	〃 土錘	7.6	3.0	2.7	-	完存。粘土板を丸めて成形したと考えられ、端部には接合部	重量61.3g 孔径1.0cm
315	〃 下層	弥生土器 甕	14.0	(7.9)	-	-	内面にハケ、外面にタタキ、外面全体には煤が付着	
316	〃 〃	〃 〃	-	(20.2)	25.3	-	内面にハケのちナデ、外面にタタキのちハケ	
317	〃 〃	〃 鉢	13.4	5.1	-	2.2	内面にハケのちナデ、外面にタタキのちナデ	
318	〃 〃	〃 〃	-	(4.1)	-	1.5	内外面にはハケ、外底面にはナデ	
319	〃 〃	〃 〃	11.5	6.2	-	-	口縁部内面にハケのちナデ、体部内面にナデ、外面全体にタタキのちナデ	
320	〃 〃	〃 〃	16.7	(7.2)	-	-	口縁部内面にハケのちナデ、体部内面にナデ、外面全体にタタキのちナデ。外面に焼成時の破裂痕	
321	〃 〃	〃 高杯	22.2	(12.9)	-	-	有稜高杯。杯部内外面にヘラミガキ、脚部内面にヘラケズリ、杯部外面にハケのちヘラミガキ	
322	〃 〃	〃 製塩土器	16.2	11.8	-	7.7	底部内面と脚部内外面にナデ、外面全体にタタキ	
323	〃 〃	土製品 支脚	(12.0)	(10.5)	(11.3)	-	中空。表面には指頭圧痕	
324	〃 床面	弥生土器 甕	14.5	(9.5)	-	-	胴部内面にナデ、胴部外面にタタキ	
325	〃 〃	〃 鉢	19.4	9.5	-	1.8	口縁部内面にハケ、口縁端部外面にヨコナデ、体部外面にタタキのちナデ、内面には丁寧なヘラミガキ	

遺物観察表14

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
326	ST32 床面	弥生土器 鉢	9.3	5.6	-	-	口縁部内面にハケのちナデ, 体部内面にナデ, 外面全体にタタキ	
327	〃 〃	〃 〃	6.5	5.9	-	1.5	内面にナデと指オサエ, 外面にタタキのちナデ, 外面には焼成時の破裂痕	
328	〃 〃	〃 高杯	-	(9.1)	-	-	杯底部内面と脚部外面にヘラミガキ, 脚部内面にヘラケズリ	
329	〃 〃	土製品 支脚	-	5.2	-	7.6	円柱状。外底面を凹ませ, 表面には指オサエとナデ	
330	〃 中央P	石製品 叩石	10.1	8.4	3.2	-	側面には明瞭な敲打痕。石材は砂岩	重量422.1g
331	ST33 上層	弥生土器 壺	-	(11.3)	-	2.2	内面にナデ, 外面にタタキのちハケ	
332	〃 〃	〃 甕	14.1	(13.2)	17.3	-	口縁部内面と口縁端部外面にヨコナデ, 胴部内面にナデ, 口縁部外面と胴部外面上半にタタキのちナデ, 外面に煤が付着	
333	〃 〃	〃 〃	15.9	(3.6)	-	-	口縁部内外面にヨコナデとナデ, 胴部内外面にナデ	
334	〃 〃	〃 鉢	9.7	3.2	-	4.4	内外面にナデ	
335	〃 〃	〃 〃	11.2	5.5	-	1.2	内面にハケ, 外面にタタキのちナデ	
336	〃 〃	〃 高杯	24.2	16.7	-	14.9	有稜高杯。口縁部内外面にヨコナデ, 杯部内面にナデ, 杯部外面と脚部内外面にハケ, 杯部内外面と脚部外面にヘラミガキ	
337	〃 〃	〃 〃	-	(8.9)	-	14.2	外面にハケのちヘラミガキ, 内面にナデ, 脚裾端部にヨコナデ	
338	〃 〃	〃 〃	21.5	(4.5)	-	-	有稜高杯。口縁端部に刺突文, 外面には波状文と山形状のヘラミガキ。内面には波状文と放射状のヘラミガキ	
339	〃 〃	〃 〃	22.4	(2.8)	-	-	有段高杯。口縁端部内外面にヨコナデ, 体部内外面にヘラミガキ	
340	〃 〃	〃 〃	-	(2.1)	-	-	有段高杯。段部外面に波状文。内外面にヘラミガキ	織内からの搬入品
341	〃 〃	〃 〃	-	(2.6)	-	-	有段高杯。段部外面に波状文。内外面にヨコナデ	
342	〃 〃	土製品 土錘	9.0	4.0	3.7	-	完存。表面にはナデ	重量146.5g 孔径1.3cm
343	〃 〃	石製品 叩石	11.0	(7.0)	3.7	-	片側端部に敲打痕, 表面の一部に赤色顔料とみられるものが付着。石材は砂岩	重量(382.9) g
344	〃 下層	弥生土器 壺	16.0	28.4	24.5	-	口縁部外面には波状文。胴中央部外面には煤が付着	
345	〃 〃	〃 甕	-	(7.5)	-	1.4	内面にナデ, 外面にタタキのちハケ	
346	〃 〃	〃 〃	-	(8.8)	-	2.0	内面に指オサエとナデ, 外面にハケ, 胴部外面下端にはナデ。胴部外面下半には煤が付着	搬入品の可能性有り
347	〃 〃	〃 鉢	11.8	4.7	-	3.5	内外面には丁寧なナデ	
348	〃 〃	〃 〃	14.5	6.5	-	2.0	内面にナデ, 外面にタタキのちハケ, 口縁端部外面には煤が付着	
349	〃 〃	〃 〃	10.3	4.1	-	4.1	内外面に丁寧なナデ	
350	〃 〃	〃 〃	12.4	6.1	-	2.8	内面にハケのちナデ, 外面にタタキのちナデ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
351	ST33 下層	弥生土器 鉢	12.1	6.9	-	-	内面にはナデ, 外面にはタタキのちナデ	
352	〃 〃	〃 〃	8.0	(2.9)	-	2.0	内外面に指頭圧痕とナデ	
353	〃 〃	〃 〃	9.2	3.6	-	2.0	内外面にナデ	
354	〃 〃	〃 〃	-	(3.9)	-	10.8	脚付鉢。内面に板ナデとハケ, 外面にハケのちナデ, 脚裾端部にはヨコナデ	
355	〃 〃	〃 〃	-	6.7	-	2.8	内面にナデ, 外面にタタキのちハケ, 外底面にはタタキ	
356	〃 〃	〃 高杯	17.9	(8.9)	-	-	有稜高杯。口縁端部内外面にヨコナデ, 体部内外面と脚部外面に丁寧なヘラミガキ	
357	〃 〃	〃 〃	-	(7.1)	-	-	有稜高杯。外面にヘラミガキ, 脚部内面にハケ	
358	〃 〃	〃 〃	19.0	(5.8)	-	-	有段高杯。体部内面上半にヘラミガキとナデ, 下半にハケのちヘラミガキ, 外面全体にヘラミガキ, 口縁端部内外面に波状文	
359	〃 〃	〃 〃	9.6	(3.6)	-	-	内外面に丁寧なヘラミガキ	
360	〃 〃	〃 〃	-	(6.6)	-	-	外面にはナデのちヘラミガキ。脚裾部の穿孔は1ヵ所のみ残存	
361	〃 〃	〃 〃	-	(10.5)	-	14.8	内面上半に板ナデ, 下半にヨコナデ, 外面に丁寧なヘラミガキ	
362	〃 〃	庄内式土器 甕	15.0	(4.0)	-	-	口縁部内外面にヨコナデ, 胴部内面にヘラケズリ, 胴部外面にタタキ	
363	〃 床面	弥生土器 鉢	13.1	6.1	-	(2.0)	内面にナデ, 外面にタタキのちナデ	
364	〃 〃	〃 高杯	17.5	12.5	-	11.9	口縁部内外面にヨコナデ, 体部内面にヘラミガキ, 体部外面にハケのちナデ, 脚部は内面にハケ, 外面にタタキのちハケ	
365	〃 〃	石製品 台石	28.1	22.8	11.5	-	片面に使用痕。一部に赤色顔料とみられるものが付着	重量 9.8kg
366	〃 〃	〃 〃	36.3	29.6	11.9	-	片面に使用痕	重量 19.0kg
367	〃 〃	金属製品 鉄鏝	6.3	1.4	0.8	-	有茎式。錆膨れにより全体の形状は不明瞭	重量 4.9g
368	〃 SK2	弥生土器 甕	16.0	(5.0)	-	-	口縁端部にヨコナデ, 内面にハケ, 口縁部外面にハケ, 胴部外面にタタキのちハケ, 口縁端部外面にはヨコナデ	
369	〃 〃	〃 鉢	12.7	(4.2)	-	-	内面にナデ, 外面にタタキ	
370	〃 〃	〃 〃	15.7	(9.6)	-	-	脚付鉢。鉢部と脚部の内面にナデ, 鉢部外面にタタキのちハケ, 脚部外面にハケ	
371	〃 〃	〃 甌	-	(3.0)	-	2.0	内面に指頭圧痕, 外面にタタキ。底部の穿孔は1ヵ所	
372	ST34 上層	〃 壺	11.4	(3.4)	-	-	口縁部内外面にはヨコナデ, 頸部内外面にはハケのちナデ	
373	〃 〃	〃 〃	18.1	(4.7)	-	-	広口壺。口縁端部に刻目。口縁部内面にヨコナデ	
374	〃 〃	〃 〃	14.2	(5.0)	-	-	内面にハケ, 外面にヨコナデのちハケ	
375	〃 〃	〃 甕	14.6	(5.9)	-	-	口縁部内外面にヨコナデ, 胴部内面にナデ, 胴部外面にタタキのちナデとハケ	

遺物観察表 16

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
376	ST34 上層	弥生土器 甕	16.0	(10.5)	18.2	-	口縁部内外面にハケのちヨコナデ, 口縁部内面下端から胴部内面にハケのち強いナデ, 胴部外面にタタキのちハケ	
377	〃 〃	〃 〃	-	(13.7)	13.4	1.8	胴部内面上半にハケ, 胴部内面下半にナデ, 胴部外面にタタキ, 胴中央部外面にハケ, 胴下部外面にナデ	
378	〃 〃	〃 〃	-	(20.7)	17.4	-	胴部内面上半にハケのちナデ, 下半にナデ, 胴部外面にタタキ, 胴部外面上端と下半にハケ, 外面に煤が付着	
379	〃 〃	〃 鉢	8.8	4.3	-	3.2	内面にハケのちナデ, 外面にナデ。器面には焼成時の破裂痕	
380	〃 〃	〃 〃	18.5	8.4	-	2.9	口縁端部にヨコナデ, 口縁部内面にハケのちナデ, 体部内面に丁寧なナデ, 外面全体にナデ	
381	〃 〃	〃 〃	19.4	8.0	-	3.7	内面にハケのち丁寧なナデ, 外面にタタキ, 外面下端にはナデ	
382	〃 〃	〃 〃	20.2	10.9	-	2.8	内面にハケのち丁寧なナデ, 外面にタタキのちナデ	
383	〃 〃	〃 〃	11.6	7.5	-	-	口縁部内面にハケのちナデ, 体部内面にナデと指オサエ, 外面全体にタタキのちナデ	
384	〃 〃	〃 〃	-	(4.3)	-	1.0	内面にハケのちナデ, 外面にハケ	
385	〃 〃	〃 〃	19.6	(3.9)	-	-	口縁部内外面にヨコナデ, 体部内面にヨコナデのちヘラミガキ, 体部外面にハケのち部分的にヘラミガキ	
386	〃 〃	〃 甑	-	(2.6)	-	1.2	底部の穿孔は1カ所	
387	〃 〃	〃 器台	-	(3.4)	-	9.8	内面と脚裾端部内外面にヨコナデ, 外面にハケ, 穿孔は4カ所	
388	〃 〃	〃 手づくね	-	(4.2)	5.4	1.4	内外面にはナデと指オサエ	
389	〃 〃	土製品 支脚	-	(5.1)	-	6.5	中実。外底面は凹み, 表面には指オサエとナデ	
390	〃 〃	庄内式土器 甕	17.6	(3.5)	-	-	口縁部内面にハケ, 口縁部外面にヨコナデ, 胴部内面にヘラケズリ, 胴部外面にタタキ, 外面全体には煤が付着	
391	〃 下層	弥生土器 甕	9.6	12.8	10.8	2.0	口縁端部にヨコナデ, 口縁部内外面にハケ, 胴部内面にナデ, 胴部外面にタタキ, 外底面にはナデ	
392	〃 〃	〃 〃	18.4	(8.8)	-	-	口縁部内面にはハケ, 胴部内面にはナデ, 外面全体にはタタキ, 口縁部外面のみ煤が付着	
393	〃 〃	〃 〃	-	(7.0)	-	-	外面にタタキ	
394	〃 〃	〃 鉢	17.1	6.5	-	2.5	口縁端部内外面にヨコナデ, 内面に丁寧なナデ, 外面にタタキのちナデ	
395	〃 〃	〃 〃	9.8	3.0	-	-	手づくね成形。内外面にナデ	
396	〃 〃	〃 〃	-	(11.0)	-	1.4	口縁部と体部内面上半にハケ, 体部内面下半にナデ, 外面全体にタタキ	
397	〃 〃	〃 高杯	8.2	(4.2)	-	-	口縁部内外面にヨコナデ, 体部内面にヘラミガキ, 体部外面にナデ	
398	〃 〃	〃 〃	-	(6.7)	-	-	脚部の穿孔は3カ所とみられ, 杯部と脚部の接合方法は差し込み	
399	〃 〃	石製品 砥石	6.4	2.6	2.3	-	3面に使用痕。一部に赤色顔料とみられるものが付着。石材は泥岩	重量37.9g
400	〃 床面	弥生土器 甕	11.0	16.4	14.1	-	内面にハケとナデ, 外面にヨコナデとタタキ, ハケ, ナデ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
401	ST34 床面	弥生土器 甕	14.6	(10.8)	16.4	-	口縁端部にヨコナデ, 内面にハケと強いナデ, 外面にハケ, タタキ	
402	〃 〃	〃 〃	16.4	(21.6)	19.5	-	口縁部内外面と胴部内面上半にハケ, 胴部内面にナデ, 胴部外面にタタキ。胴部外面下半にハケ。外面には煤が付着	
403	〃 〃	〃 鉢	12.9	4.1	-	5.4	摩耗のため調整は不明	
404	〃 〃	〃 〃	12.4	(4.1)	-	-	口縁端部内外面にはヨコナデ, 体部内面にはナデ, 体部外面にはタタキのちナデ	
405	〃 〃	〃 高杯	11.4	(6.5)	-	-	内外面ともヨコ方向の密なヘラミガキ。内面には放射状のヘラミガキ, 一部に赤色顔料とみられるものが付着	
406	〃 〃	〃 〃	18.4	(9.1)	-	-	口縁部内外面にヨコナデ, 体部内面にヨコナデとナデのちヘラミガキ, 体部外面にハケとタタキのち部分的にヘラミガキ	
407	SB2 P5	〃 甕	11.2	13.0	12.2	1.5	口縁部内外面にヨコナデ, 内面に指オサエのちナデ, 外面にタタキのち丁寧なヘラミガキ	
408	SB4 P8	須恵器 器台	19.4	(5.1)	-	-	内外面に回転ナデ, 外面には2条の沈線	
409	SB6 P5	弥生土器 壺	16.0	(4.0)	-	-	内外面にはヨコナデ, 外面下部は摩耗のため調整不明	山陰系
410	SB7 W	〃 〃	14.6	(6.1)	-	-	広口壺。内外面にはハケ, 口縁端部外面にはヨコナデ	
411	〃 〃	〃 〃	-	(4.5)	-	1.5	内面にハケのちナデ, 外面にナデ	
412	〃 E	〃 〃	-	(5.1)	-	-	内面にはナデ。外面にはヘラミガキと直線状と波状の櫛描文	
413	〃 〃	〃 甕	-	(5.8)	-	2.0	内面にナデ, 外面にタタキ, 外底面にはナデ	
414	〃 〃	〃 鉢	12.9	4.9	-	1.9	内面にヘラミガキ, 外面にナデ	
415	SB8 P2	土製品 土錘	8.2	4.3	(3.6)	-	片側を欠損。全体的に摩耗が著しく調整は不明	重量(123.4)g 孔径(1.2)cm
416	〃 P3	弥生土器 壺	10.4	(9.3)	-	-	広口壺。口縁部内面にヨコナデとナデ, 外面にヨコナデ, 胴部内面にはハケ, 胴部外面にはタタキのちハケ	
417	〃 〃	〃 鉢	16.2	7.0	-	3.4	内面にハケ, 外面にタタキのちナデ	
418	〃 P10	〃 〃	10.7	4.4	-	-	内面にハケのち指オサエ, 外面に指オサエ	
419	SB9 P11	石製品 石庖丁	5.8	9.7	1.4	-	両端に抉り。刃部は押圧剥離。石材は砂岩	重量90.5g
420	SB10 P1	瓦質土器 鍋	-	(9.4)	-	-	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ, 胴部内面にナデ, 胴部外面に指オサエ, 外面全体に煤が付着	
421	〃 P4	〃 〃	19.0	(3.2)	-	-	口縁端部外面にヨコナデ	
422	〃 P7	土師質土器 小皿	9.0	1.5	-	5.3	器面には回転ナデ。底部内面にはナデ。底部切り離しは回転糸切りで, 板状圧痕	
423	〃 〃	〃 杯	-	(2.1)	-	7.5	器面には回転ナデ, 底部切り離しは回転糸切り	
424	SB15 P3	〃 小皿	5.6	1.5	-	4.4	内外面には回転ナデ, 底部切り離しは回転糸切り	
425	SB18 P8	土製品 土錘	(4.2)	2.1	1.8	-	片側を欠損。摩耗が著しく調整は不明	重量(14.3)g 孔径0.6cm

遺物観察表18

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
426	SA1	石製品 砥石	6.2	4.2	(2.7)	—	片面と両端部, 一側面に使用痕。石材は砂岩	重量(99.3) g
427	SA2	土師質土器 小皿	9.2	1.2	—	4.8	内外面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
428	SK1	土製品 支脚	—	(4.7)	—	—	内面にナデ, 外面にハケとタタキのちナデで, 穿孔が認められる。	
429	SK2	土師器 甕	16.0	(10.3)	16.1	—	口縁部内外面にヨコナデ, 胴部内面にハケのち指オサエとナデ, 胴部外面にハケ	
430	SK5	須恵器 杯	—	(2.3)	—	6.7	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転ヘラ切りで, 切り離し痕は丁寧にナデ消す。	
431	SK13	土師質土器 皿	13.1	4.6	—	10.5	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ, 体部外面に指オサエ, 底部内外面にナデ	
432	〃	〃 小皿	6.4	2.3	—	3.8	器面には回転ナデ, 底部切り離しは回転糸切り	
433	〃	〃 〃	6.5	1.8	—	4.4	器面には回転ナデ, 底部切り離しは回転糸切り	
434	〃	〃 〃	6.8	2.4	—	3.9	器面には回転ナデ, 底部切り離しは回転糸切り	
435	〃	〃 〃	7.9	1.8	—	4.6	手づくね成形。内面にはナデ, 外面には指オサエ	
436	〃	〃 〃	8.0	1.8	—	3.2	手づくね成形。内面にはナデ, 外面には指オサエ	
437	SK22	弥生土器 高杯	—	(5.9)	—	—	外面にはハケのちナデ, 内面にはハケ	
438	〃	土製品 支脚	(6.2)	(6.8)	(6.5)	—	中空。外面には明瞭なタタキ	
439	〃	土師質土器 杯	—	(1.9)	—	7.0	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
440	SK25	〃 〃	—	(2.0)	—	5.8	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
441	〃	〃 〃	—	(2.8)	—	6.6	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
442	〃	〃 〃	—	(4.1)	—	5.4	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
443	〃	〃 皿	12.6	(3.9)	—	—	手づくね成形。口縁部内外面にハケ, 底部内面にナデ, 体部と底部外面に指オサエ	
444	〃	〃 小皿	6.2	1.8	—	4.3	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
445	〃	〃 〃	6.4	1.5	—	4.7	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
446	〃	〃 〃	7.1	1.6	—	4.5	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
447	〃	〃 〃	7.2	1.9	—	4.7	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
448	〃	〃 〃	7.0	1.8	—	4.0	手づくね成形。内面にはナデとヨコナデ, 外面には指オサエ	
449	〃	〃 〃	8.3	1.5	—	5.0	手づくね成形。内面にはナデとヨコナデ, 外面には指オサエ	
450	SK26	弥生土器 壺	—	(3.9)	—	—	二重口縁壺。内面にヨコナデ, 外面にはハケのちヨコナデ, 竹管状の刺突を施した円形浮文	搬入品の可能性有り

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
451	SK26	弥生土器 鉢	-	(5.5)	8.1	2.6	内面にハケのちナデ, 外面にナデ	
452	〃	〃 〃	-	(4.3)	-	13.8	脚付鉢。脚端部内外面にヨコナデ, 脚部内外面にナデ	
453	〃	土製品 支脚	-	(5.0)	-	-	内面にナデ, 外面にタタキのちハケ, 2ヵ所の穿孔	
454	SK28	土師質土器 小皿	6.3	1.2	-	4.5	器面には回転ナデ, 底部切り離しは回転糸切り	
455	SK30	〃 皿	12.4	3.9	-	7.4	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ, 体部と底部内面にナデ, 体部と底部外面に指オサエのちナデ。外面に煤が付着	
456	〃	〃 〃	12.7	3.9	-	8.6	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ, 体部と底部内面にナデ, 体部と底部外面に指オサエのちナデ	
457	SK33	弥生土器 甕	14.3	(9.8)	16.4	-	口縁部内面にハケ, 胴部内面にハケのちナデ。外面全体にはタタキ	
458	〃	〃 高杯	-	(6.0)	-	-	脚裾部の穿孔は4ヵ所	
459	〃	須恵器 杯蓋	-	(2.3)	-	-	天井部外面には宝珠形のつまみ。天井部外面に回転ヘラケズリ, 他の部位には回転ナデ	つまみ径1.8cm
460	〃	石製品 摺石	14.6	9.1	4.0	-	側面全体に使用痕。石材は砂岩	重量879.2g
461	〃	〃 台石	40.4	33.2	12.1	-	片面中央部に使用痕。石材は砂岩。	重量21.2kg
462	SK38	須恵器 杯	-	(2.1)	-	9.9	内面にはナデ, 外面には回転ナデ, 底部切り離しは回転ヘラ切り。切り離し痕はナデ消す。	
463	〃	土師質土器 杯	11.7	4.0	-	7.4	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
464	〃	〃 〃	-	(2.1)	-	6.6	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
465	〃	〃 皿	10.3	3.2	-	2.8	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ, 底部内面に指オサエとナデ, 底部外面に指オサエとナデ	
466	〃	〃 〃	10.8	3.5	-	5.4	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ, 底部内面に指オサエとナデ, 底部外面に指オサエとナデ	
467	〃	〃 〃	11.6	4.3	-	3.2	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ, 底部内面に板ナデ, 底部外面に指オサエとナデ	
468	〃	〃 〃	11.2	(3.4)	-	-	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ, 底部内面に指オサエとナデ, 底部外面に指オサエとナデ	
469	〃	〃 〃	12.8	(3.3)	-	-	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ, 底部内面に指オサエとナデ, 底部外面に指オサエとナデ	
470	〃	〃 小皿	6.1	2.1	-	4.7	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。内底面中央部は凸状に残る。	
471	〃	〃 〃	6.4	1.9	-	4.5	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。内底面中央部は凸状に残る。	
472	〃	瓦質土器 鍋	19.2	(9.8)	17.6	-	口縁部内外面と胴部内面にヨコナデ, 底部内面にナデ, 胴部と底部外面に指オサエとナデ, 体部外面には煤が付着	
473	〃	〃 〃	28.9	(9.8)	31.9	-	口縁部内外面にヨコナデ, 胴部内面にナデ, 胴部外面に指オサエ, 頸以下には煤が付着	
474	〃	青磁 碗	-	(1.7)	-	5.2	削り出し高台。高台内は釉剥ぎ	
475	SK40	須恵器 壺	-	(7.3)	-	11.0	内面に指オサエのち回転ナデ, 外面にタタキと指オサエのちナデ	

遺物観察表 20

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
476	SK40	土師質土器 杯	-	(1.7)	-	7.7	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
477	〃	〃 皿	10.0	(4.1)	-	-	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部内外面にナデ	
478	〃	瓦質土器 鍋	24.2	(7.1)	26.3	-	摩耗のため調整は不明	
479	〃	瓦 平瓦	(4.7)	(4.6)	(2.0)	-	凸面には菊花状の陰刻	
480	〃	石製品 叩石	11.8	7.9	4.6	-	端部と側面の片側に明瞭な敲打痕。石材は砂岩	重量605.1g
481	SK46	弥生土器 甕	12.3	(14.0)	16.2	-	内面全体にハケ、外面全体にタタキ、口縁部外面には指頭圧痕、胴部外面下半にはハケ	
482	〃	土師質土器 鍋	18.8	(6.7)	22.8	-	口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にナデ、胴部外面にタタキ、頸の直下にはヨコナデ	
483	SK47	弥生土器 壺	-	(2.5)	-	-	外面に崩れた波状文	
484	〃	〃 甕	11.8	18.0	15.0	1.9	内面にハケとナデ、外面にタタキとハケ	
485	〃	〃 〃	10.2	(6.8)	10.5	-	内面にハケ、外面にタタキ。口縁部内外面にヨコナデ	
486	〃	〃 〃	14.7	(13.2)	16.5	-	内面にハケと板ナデ、外面全体にタタキ。口縁部内外面にヨコナデ、胴部外面下端にハケ、胴部外面上半に煤が付着	
487	〃	〃 〃	15.0	(14.2)	21.0	-	口縁部内面にハケ、胴部内面にナデ、外面全体にタタキ。口縁部内外面にヨコナデ、胴部外面上半にハケ、外面全体に煤	
488	〃	〃 鉢	-	(5.9)	-	1.6	内面にナデ、外面にタタキのちナデ	
489	〃	〃 高杯	-	(2.7)	-	-	有段高杯。段部外面下端に竹管状の刺突文	
490	SK50	土師質土器 小皿	6.4	1.4	-	5.1	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
491	SK55	瓦質土器 捏鉢	22.6	(5.5)	-	-	器面には指頭圧痕	
492	〃	〃 鍋	12.2	(5.6)	-	-	口縁部下端に断面台形状の頸。器面には指頭圧痕	
493	SK61	須恵器 杯蓋	13.2	(4.3)	-	-	天井部外面にナデ、その他の部位に回転ナデ	
494	〃	〃 〃	17.1	2.4	-	-	擬宝珠形のつまみ。天井部外面に回転ヘラケズリ、その他の部位に回転ナデ、天井部内面にはナデ	つまみ径3.1cm
495	〃	〃 高杯	12.6	8.6	-	7.8	器面には回転ナデ。脚裾部内面に断面三角状の突帯が巡り、杯部内面と脚部内外面に自然釉	
496	〃	〃 甕	17.7	(4.9)	-	-	内外面に回転ナデ	
497	〃	〃 〃	-	(2.3)	-	-	外面に櫛描波状文と沈線	
498	〃	土師器 盤	-	(3.3)	-	12.0	「ハ」の字状に開く高台。内面にナデ	
499	〃	〃 甕	28.0	(5.2)	-	-	外面にヨコナデ	
500	〃	瓦 平瓦	(10.2)	(10.8)	1.3	-	凹面に明瞭な布目圧痕、凸面にナデ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
501	SK61	石製品 砥石	16.4	8.9	2.8	-	片面の一部と側面に使用痕。石材は細粒砂岩	重量360.7g
502	SK65	〃 石庖丁	10.5	5.6	0.8	-	径5mmの孔を2ヵ所穿孔。刃部は摩耗。表面には調整痕。石材は粘板岩	重量64.4g
503	SK68	〃 砥石	5.6	1.9	1.9	-	2面に使用痕。石材は砂岩	重量33.0g
504	SK69	土製品 土錘	(3.9)	1.3	1.2	-	片側を欠損。摩耗のため調整は不明	重量(5.0)g 孔径0.5cm
505	SK72	須恵器 甕	-	(10.6)	-	16.3	器面に回転ナデ、底部外面にはナデ	
506	〃	石製品 台石	31.2	23.3	8.6	-	片面に明瞭な使用痕。石材は砂岩	重量9.4kg
507	SK73	〃 石臼	25.4	(11.7)	(8.1)	-	上臼。使用面に5～6条の条痕。側面と上端部は丁寧に磨き、加工痕を消す。石材は砂岩	重量(2.8)kg
508	〃	〃 〃	24.0	(13.9)	11.1	-	下臼。使用面には5条単位の条痕。側面部は摩耗。外面には粗い加工痕。石材は砂岩	重量(4.6)kg
509	SK75	瓦質土器 鍋	15.8	(5.7)	16.0	-	口縁端部内外面にヨコナデ、外面に指オサエのちナデ。内面は摩耗し、外面全体に煤が付着	
510	SK78	土師質土器 小皿	7.2	1.5	-	4.0	手づくね成形。内外面に指オサエのちナデ。口縁端部内面にヨコナデ	
511	SK79	〃 椀	-	(2.9)	-	5.4	内面に回転ナデのちナデ、外面に回転ヘラケズリ。底部切り離し痕はナデ消す。	
512	〃	〃 〃	-	(2.1)	-	5.7	内面に回転ナデのちナデ、外面に回転ヘラケズリ。底部切り離し痕はナデ消す。	
513	SK81	庄内式土器 甕	14.8	(3.1)	-	-	口縁部内外面にヨコナデ。胴部内面にはヘラケズリ。口縁部外面には煤が付着	
514	SK84	弥生土器 甕	20.7	(2.3)	-	-	内面にハケ。口縁端部には幅広の刻目	
515	SK85	〃 〃	-	(5.0)	-	3.6	内面にナデ、外面にタタキのちハケ、外底面にはタタキ	
516	〃	〃 〃	-	(8.9)	-	6.3	内面にハケのちナデ、外面にタタキ、外底面にはタタキのちナデ	
517	〃	土師器 甕	16.6	(16.7)	22.4	-	口縁端部にヨコナデ、胴部内面上半に強いナデ、下半にヘラケズリ、胴部外面全体に指オサエのちナデ、外面に煤が付着	
518	〃	〃 〃	27.4	(4.0)	-	-	長胴甕。内外面にハケ	
519	〃	金属製品 鉄鏝	4.1	1.3	0.8	-	無頸有茎鏝。鏝膨れのため鏝身の外形は不明。茎部には木質が残る。	重量35g
520	〃	〃 〃	5.5	1.5	0.8	-	有茎式鏝。鏝身の大部分は欠損。茎部に木質が残る。	重量4.8g
521	SK90	弥生土器 甕	20.6	(6.0)	-	-	口縁部内面にハケのちヨコナデ、胴部内面にナデとハケ、口縁部外面にハケ、胴部外面にタタキのちハケ、外面には煤が付着	
522	SK93	土師質土器 皿	10.8	3.5	-	6.8	手づくね成形。口縁部内外面と体部内面にヨコナデ、体部外面に指オサエのちナデ。外面にタールが付着	
523	SK95	〃 小皿	8.5	2.7	-	5.8	手づくね成形	
524	SK97	瀬戸焼 天目茶碗	-	(1.8)	-	4.3	削り出し高台。器面には回転ヘラケズリ、内面には黒色鉄釉	
525	〃	白磁 皿	11.9	(2.0)	-	-	端反。体部内面に1条の沈線。器面には灰白色釉	

遺物観察表 22

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
526	SK97	金属製品 鉢	6.3	1.3	0.7	-	錆膨れのため全体の形状は不明。基部には木質が残る。	重量 7.7g
527	SK98	土師質土器 小皿	6.1	2.0	-	4.2	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
528	SK102	備前焼 播鉢	-	(6.0)	-	13.2	内外面に回転ナデ。体部と底部内面に条痕	
529	〃	青花 皿	10.0	2.4	-	5.4	体部外面に牡丹唐草文、見込に十字花文。畳付は露胎	
530	SK103	白磁 皿	12.1	2.9	-	6.5	端反。畳付は露胎。砂が附着	
531	SD2	弥生土器 壺	-	(5.4)	-	-	内面にナデ、外面上半にハケ、外面下半にタタキのちハケ	
532	〃	土製品 支脚	-	7.2	-	5.8	上下面と体部中位が凹む。中央部には径約0.8cmの穿孔。表面には指オサエとナデ	
533	〃	瓦質土器 鍋	17.7	(6.5)	17.2	-	胴部外面下端には煤が附着	
534	SD11	土師器 羽釜	20.2	(7.6)	-	-	胴部内外面にナデ、頸周辺にヨコナデ。胴部外面には指頭圧痕	
535	SD13	須恵器 杯	-	(1.7)	-	6.1	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
536	〃	緑釉陶器 椀	-	(2.3)	-	7.9	削り出し高台。釉は全面施釉後高台内を掻き取る。底部内面には凹線による圏線	近江産 10世紀代
537	〃	瓦 平瓦	-	-	(2.8)	-	凸面には格子状のタタキ	
538	〃	土師質土器 杯	12.8	4.6	-	6.3	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
539	〃	〃 〃	13.7	4.5	-	7.2	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
540	〃	〃 〃	-	(2.0)	-	6.2	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
541	〃	〃 皿	13.4	(3.3)	-	-	手づくね成形。内面にヘラナデ、外面に指オサエのちナデ。口縁部内外面にはヨコナデ	
542	〃	〃 鍋	23.8	(10.2)	-	-	胴部外面には煤が附着	
543	〃	瓦器 椀	-	(0.9)	-	4.5	器面にはナデ。底部内面にはジグザグ状の暗文	
544	〃	瓦質土器 捏鉢	25.6	11.2	-	15.6	口縁部外面には下垂する突帯	
545	〃	〃 鍋	16.6	(6.5)	-	-	胴部上端に低い突帯。口縁部外面にヨコナデ	
546	〃	〃 〃	17.0	(5.4)	19.0	-	口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にハケのち指オサエ、胴部外面に指オサエ。胴部外面下半には煤が附着	
547	〃	白磁 碗	15.2	(2.8)	-	-	玉縁。器面には灰白色の釉	
548	〃	〃 皿	11.8	(2.5)	-	-	端反	
549	SD15	須恵器 杯蓋	20.6	(4.6)	-	-	天井部内面にナデ、天井部外面に回転ヘラケズリ、口縁部内外面に回転ナデ	
550	SD17	土師質土器 小杯	6.8	2.6	-	4.1	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
551	SD18	瀬戸焼 天目茶碗	10.4	(6.1)	-	-	口縁部は「S」字状に屈曲して立ち上がる。被熱のため釉調は赤褐色	
552	〃	青磁 皿	9.8	2.1	-	5.1	底部外面に回転ヘラケズリ。見込には割花文	
553	〃	〃 〃	-	(2.1)	-	-	稜花皿。口縁端部内面に2条の沈線文	
554	〃	土製品 土錘	(6.1)	2.3	1.9	-	両端の一部を欠損。表面には指オサエとナデ。一部にヘラナデ	重量(21.5) g 孔径0.7cm
555	SD19	土師質土器 杯	-	(2.1)	-	6.4	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
556	SD21	〃 〃	8.6	5.0	-	4.9	器面には回転ナデ。底部内面にはナデ。底部切り離しは回転糸切り	
557	〃	〃 〃	9.1	4.8	-	4.6	器面には回転ナデを施し、底部内面にはナデを加える。底部切り離しは回転糸切り。体部外面に煤が付着	
558	SD37	弥生土器 壺	-	(4.5)	-	6.0	内面にナデ	
559	〃	須恵器 壺	10.8	(3.2)	-	-	器面には回転ナデ	
560	〃	土師質土器 杯	-	(3.1)	-	6.0	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
561	〃	〃 皿	13.8	4.0	-	9.2	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部から底部内外面に指オサエのちナデとヨコナデ	
562	〃	瓦質土器 鍋	20.4	(9.5)	21.0	-	口縁部内面にヨコナデ。内面の屈曲部分にタールが付着	
563	〃	土製品 土錘	4.7	3.8	3.3	-	円柱状。一部を欠損。表面にはナデ	重量(73.6) g 孔径0.8cm
564	〃	〃 〃	4.5	1.8	1.7	-	完存。表面には指頭圧痕とナデ	重量11.6g 孔径0.5cm
565	〃	石製品 叩石	11.3	9.2	3.1	-	片面に弱い敲打痕、側面に強い敲打痕。石材は砂岩	重量493.8g
566	SD38	弥生土器 鉢	10.8	(6.6)	-	-	脚付鉢。外面の一部にハケ	
567	〃	庄内式土器 甕	16.1	(3.7)	-	-	口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にヘラケズリ、胴部外面にタタキ。口縁部外面には煤が付着	
568	〃	土師質土器 杯	-	(2.1)	-	6.4	内面と体部外面に回転ナデ、体部外面下端に回転ヘラケズリ。内面にはナデ。底部切り離しは回転糸切り	
569	〃	〃 皿	12.5	3.9	-	7.4	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部と底部内外面に指オサエとナデ	
570	〃	青磁 碗	-	(4.9)	-	-	外面にヘラ描きの細蓮弁文、見込にヘラ描き花弁文	
571	〃	白磁 皿	-	(1.1)	-	4.4	底部外面には回転ヘラケズリ	
572	〃	石製品 石杵	19.8	8.2	7.4	-	両端部に明瞭な敲打痕。石材は砂岩	重量1848.3g
573	SD39	弥生土器 甕	-	(3.4)	-	3.2	内面にハケ、外面にタタキを施し、底部外面にはナデ	
574	〃	〃 高杯	-	(4.0)	-	-	内面にヘラナデ、外面にヘラミガキ。脚部穿孔は4カ所	
575	〃	須恵器 杯蓋	-	(2.0)	-	-	天井部外面に回転ヘラケズリ、他の部位に回転ナデ	

遺物観察表 24

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
576	SD39	須恵器 高杯	17.7	(3.7)	-	-	器面には回転ナデ。杯部内底面にはナデ、杯部外底面には回転ヘラケズリ	
577	〃	〃 甕	15.4	(3.7)	-	-	口縁部内外面に回転ナデ、胴部内外面にタタキのち回転ナデ。口縁部内外面に自然釉	
578	〃	石製品 石庖丁	7.7	5.2	1.3	-	両端に抉り。石材は細粒砂岩	重量80.5g
579	〃	〃 砥石	12.9	9.7	9.2	-	片面の一部に使用痕。石材は砂岩	重量1620.7g
580	SD42	土師質土器 皿	12.6	(3.5)	-	-	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部内外面に指オサエとナデ	
581	SD45	須恵器 杯	-	(2.3)	-	11.3	底部外面外端に高台。器面には回転ナデ。内面にはナデ	
582	〃	〃 高杯	-	(5.0)	-	-	外面には回転ナデ、脚部内面にはナデ	
583	〃	〃 壺	18.2	(4.3)	-	-	器面には回転ナデ。外面には幅広の沈線とその上下に櫛描波状文	
584	〃	〃 甕	35.1	(4.7)	-	-	器面には回転ナデ	
585	〃	〃 鉢	-	(3.8)	-	10.9	器面には回転ナデ。底部外面にはナデ	
586	〃	瓦 平瓦	(6.4)	(6.2)	2.3	-	側面と端部の面取りを行い、ナデを施す。凹面には布目圧痕	
587	〃	〃 〃	(11.5)	(9.1)	2.3	-	端部の面取りを行い、凹面の角をヘラで削る。凹面にハケ、凸面に格子状のタタキ	
588	〃	〃 〃	(12.4)	(8.9)	(2.5)	-	凹面の布目圧痕と凸面の縄目状タタキを丁寧にナデ消す。	
589	〃	土師質土器 椀	16.4	6.0	-	6.1	内面にヘラナデのちナデ、外面に回転ナデ、下端に回転ヘラケズリ。底部切り離しは回転糸切りで、切り離し痕はナデ消す。	
590	〃	瓦器 椀	15.4	(4.5)	-	-	内面にヘラミガキ、口縁部外面にヨコナデ、体部外面に指頭圧痕とヘラミガキ	
591	〃	瓦質土器 三足鍋	(8.0)	2.0	2.0	-	摩耗のため調整は不明	
592	〃	備前焼 播鉢	-	(4.1)	-	11.5	器面には回転ナデ。内面には10条単位の条痕	
593	〃	〃 〃	-	(5.7)	-	11.0	器面には回転ナデ。内面には10条単位の条痕	
594	〃	常滑焼 甕	-	(5.1)	-	-	内外面にヨコナデ。外面には巴の押型文	
595	〃	青磁 碗	13.3	(5.4)	-	-	口縁部内面にヘラ描き沈線	
596	〃	〃 〃	-	(3.2)	-	5.4	見込にヘラ描き沈線	
597	〃	白磁 皿	9.2	(2.1)	-	-	菊皿。器面には灰白色の釉	
598	〃	石製品 叩石	11.2	8.7	3.8	-	両端部に強い敲打痕、両面に弱い敲打痕。石材は砂岩	重量528.6g
599	SE1	土師質土器 皿	9.0	3.5	-	4.5	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、他の部位に指オサエとナデ。外面には接合痕が明瞭に残る。	
600	〃	〃 〃	8.4	(2.4)	-	-	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、他の部位に指オサエとナデ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
601	SE1	瓦質土器 鍋	26.4	(5.6)	29.2	-	口縁部内外面にヨコナデ、胴部外面に指オサエのちナデ。胴部外面には煤が付着	
602	〃	備前焼 播鉢	-	(3.9)	-	-	器面には回転ナデ。内面には9条の条痕	
603	〃	青花 皿	11.5	(1.8)	-	-	口縁部内外面と見込、体部外面下端に界線を1条施し、外面には焼成時の砂目が大量に付着	
604	P1	瓦質土器 鍋	23.3	(3.9)	-	-	口縁部直下に顎が巡る。	
605	P2	弥生土器 壺	-	(4.3)	-	2.5	内面にナデ、外面にタタキ。外面にはナデ	
606	P3	土師質土器 椀	-	(1.7)	-	6.8	底部外面の高台内には回転糸切り痕	
607	P4	〃 皿	10.0	2.2	-	6.6	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転ヘラ切り	
608	P5	〃 〃	10.0	1.9	-	6.8	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転ヘラ切り。底部外面には板状圧痕	
609	P6	〃 〃	11.9	3.1	-	6.0	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、底部内面にナデ、胴部から底部外面に指オサエとナデ	
610	P7	〃 小皿	9.0	1.6	-	6.0	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
611	P8	〃 皿	13.7	4.4	-	9.6	手づくね成形。口縁部外面にヨコナデ、口縁部から体部内面にハケ、底部内面にナデ、体部から底部外面に指オサエとナデ	
612	P9	〃 杯	-	(3.4)	-	6.4	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
613	P10	須恵器 鉢	31.5	(12.8)	-	-	器面には回転ナデ	
614	〃	土師質土器 椀	15.3	5.6	-	6.5	器面には回転ナデ。口縁部内外面にはヘラミガキ、体部内面にはナデ、体部外面には回転ヘラケズリ	
615	〃	〃 杯	14.6	4.2	-	6.5	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切りで、底部外面には板状圧痕	
616	〃	〃 〃	15.1	4.0	-	8.1	器面に回転ナデ。底部外面には板状圧痕	
617	P11	瓦質土器 鍋	-	(3.5)	-	-	器面にはヨコナデ。顎以下には煤が付着	
618	P12	土製品 土錘	3.8	1.0	1.0	-	ほぼ完存。摩耗が著しく調整は不明	重量3.1g 孔径0.4cm
619	〃	〃 〃	3.5	1.2	1.1	-	ほぼ完存。摩耗が著しく調整は不明	重量3.9g 孔径0.4cm
620	P13	白磁 皿	-	(1.1)	-	5.1	回転ヘラケズリ。体部外面下端と底部外面は露胎	
621	P14	土師質土器 杯	10.3	3.9	-	5.3	器面には回転ナデ。底部内面にはナデ。底部切り離しは静止糸切り	
622	P15	東播系須恵器 片口鉢	27.7	(3.9)	-	-	器面には回転ナデ	
623	P16	土製品 土錘	4.1	1.1	1.0	-	ほぼ完存。摩耗が著しく調整は不明	重量(3.6)g 孔径0.5cm
624	P17	弥生土器 壺	-	(8.7)	-	-	調整は内面にハケ、外面にタタキ	
625	P18	土師質土器 皿	12.8	(3.6)	-	-	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデ、体部外面に指オサエのちナデ	

遺物観察表 26

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
626	P19	土師質土器 皿	13.6	3.8	-	10.3	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部と底部内外面にナデと指オサエ。内面には煤が付着	
627	〃	〃 〃	13.6	4.5	-	9.8	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部と底部内外面にナデと指オサエ	
628	〃	〃 〃	15.1	3.5	-	12.0	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部と底部内外面にナデと指オサエ	
629	〃	〃 〃	15.3	4.2	-	11.0	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部と底部内外面にナデと指オサエ	
630	〃	〃 小皿	7.8	1.6	-	5.9	手づくね成形。口縁部内面にヨコナデ、他の部位に指オサエとナデ	
631	P20	〃 皿	14.1	4.5	-	9.7	口縁部内外面にヨコナデ、その他の部位に指オサエとナデ	
632	〃	青磁 碗	11.0	(3.6)	-	-	口縁部内外面と体部内面下端に圈線	
633	P21	土師質土器 杯	11.6	3.8	-	6.8	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
634	P22	〃 皿	14.4	(3.4)	-	8.6	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、その他の部位に指オサエとナデ	
635	P23	〃 杯	14.0	5.3	-	7.4	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
636	P24	〃 椀	15.9	5.5	-	6.8	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
637	P25	〃 杯	11.4	3.5	-	6.3	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
638	P26	〃 皿	13.1	3.2	-	8.8	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、その他の部位に指オサエとナデ	
639	P27	〃 椀	-	(2.7)	-	5.6	器面には回転ナデ、内面に丁寧なナデ、外面に回転ヘラケズリ。底部切り離し痕は丁寧にナデ消す。	
640	P28	〃 杯	13.2	4.2	-	5.7	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
641	P29	〃 小皿	7.6	1.8	-	5.4	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。底部外面には板状圧痕	
642	P30	〃 杯	9.3	6.3	-	4.8	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。底部外面には板状圧痕	
643	P31	白磁 碗	17.0	6.8	-	7.2	玉縁状。体部外面下半と底部外面は露胎	
644	P32	須恵器 高杯	-	(4.2)	-	7.7	器面には回転ナデ	
645	P33	土師質土器 椀	-	(2.2)	-	6.8	体部外面下端に回転ヘラケズリ。底部切り離しは回転糸切り	
646	P34	瓦 平瓦	(5.9)	(6.6)	2.5	-	凹面に丁寧なナデ、凸面に縄目状のタタキ	
647	P35	弥生土器 壺	-	(29.2)	27.8	4.0	内面に指オサエのちナデ、外面にタタキのち丁寧なハケとヘラミガキ	
648	〃	〃 鉢	23.6	(9.9)	22.1	-	口縁部内面にハケのちヨコナデ、胴部内面にハケのちナデ、外面全体にタタキ	
649	P36	石製品 台石	20.5	17.1	7.3	-	片面に使用痕。端部には明瞭な被熱痕。石材は砂岩	重量3.4kg
650	P37	土師質土器 皿	9.8	3.5	-	4.7	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、他の部位に指オサエとナデ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
651	P38	近世磁器 皿	-	(1.7)	-	4.7	見込に蛇ノ目釉剥ぎ。高台と体部外面下端は露胎。見込に二重の圏線、体部外面下端に1条の圏線	
652	P39	土製品 土錘	10.0	3.8	3.7	-	ほぼ完存。表面には指オサエとナデ	重量(148.8)g 孔径1.3cm
653	P40	弥生土器 高杯	-	(6.6)	-	17.4	外面の一部にハケ	
654	P41	土師器 甕	28.8	(15.3)	25.3	-	内面全体と口縁部、胴部上端の外面にはヨコナデ、胴中央部にハケのちタタキ、胴部下方にはタタキ、外面全体には煤が付着	
655	P42	金属製品 鉄鏃	4.8	1.9	0.9	-	錆膨れのため鏃身の外形は不明	重量4.0g
656	P43	石製品 砥石	10.6	2.5	2.8	-	3面に使用痕。石材は砂岩	重量133.9g
657	P44	青磁 碗	-	(5.2)	-	-	外面には剣頭を意識したヘラ描き蓮弁文	
658	P45	土製品 土錘	3.9	1.1	1.1	-	ほぼ完存。表面にはナデ	重量3.5g 孔径0.5cm
659	P46	青磁 碗	-	(3.3)	-	5.7	高台内は露胎	
660	P47	土師質土器 椀	16.5	5.6	-	6.3	器面には回転ナデ。内面にヘラミガキ、外面下端に回転ヘラケズリ	
661	〃	〃 〃	-	(1.6)	-	6.6	内面にヘラミガキとナデ、外面に回転ヘラケズリ	
662	〃	〃 〃	-	(2.1)	-	7.0	内面に丁寧なヘラミガキ、外面に回転ヘラケズリ。底部切り離しは回転糸切り	
663	P48	〃 杯	-	(1.8)	-	6.8	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
664	P49	〃 〃	10.9	3.7	-	6.4	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
665	〃	〃 〃	11.4	4.5	-	5.2	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
666	第Ⅲ層	弥生土器 壺	14.4	(5.1)	-	-	複合口縁壺。内外面にハケ。ヨコナデ	
667	〃	〃 〃	10.0	(4.1)	-	-	内外面にヨコナデ、ヘラミガキ	
668	〃	〃 甕	-	(2.4)	-	1.9	内面にヘラナデ、外面にタタキ	
669	〃	〃 〃	-	(3.1)	-	2.0	内面にナデ、外面にはタタキのちハケ	
670	〃	〃 鉢	23.5	(9.4)	21.1	-	口縁部外面にヨコナデ、胴部外面にタタキ	
671	〃	〃 高杯	-	(6.0)	-	-	内面にナデ、外面にハケ	
672	〃	土師器 羽釜	17.0	(7.3)	-	-	口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にヘラナデ、胴部外面にナデ。頸下部に煤が付着	
673	〃	〃 〃	-	(4.4)	-	-	内面にハケ、口縁部外面にヘラケズリ、頸と胴部外面にヨコナデ。頸下部には煤が付着	
674	〃	〃 〃	-	(5.4)	-	-	口縁部内外面にヨコナデ、胴部内外面にナデ。頸下部には煤が付着	
675	〃	須恵器 高杯	-	(4.2)	-	-	脚柱部に3ヶ所の透かし。器面には回転ナデ	

遺物観察表 28

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
676	第Ⅲ層	須恵器 高杯	-	(6.2)	-	-	器面には回転ナデ。内面にはナデ	
677	〃	〃 壺	8.8	(5.0)	-	-	無頸壺。口縁部内外面に回転ナデ、胴部内面に同心円状のタタキ、胴部外面に格子状のタタキ、口縁端部には穿孔	
678	〃	〃 〃	-	(10.0)	-	-	長頸壺。器面には回転ナデ。内面上半にはナデ。内外面に成形時の絞り目。外面に一部には自然釉	
679	〃	〃 〃	-	(9.0)	15.0	8.8	胴部外面上部には回転カキ目	
680	〃	〃 〃	-	(4.6)	-	9.1	器面には回転ナデ。内面には自然釉	
681	〃	〃 杯	-	(3.3)	-	9.8	高台を有する。器面に回転ナデ	
682	〃	〃 〃	-	(1.9)	-	9.1	高台を有する。器面に回転ナデ、底部内面にはナデ	
683	〃	〃 〃	-	(2.3)	-	6.8	無高台。器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
684	〃	〃 皿	16.0	2.0	-	12.8	口縁部内外面に回転ナデ、底部内面にナデ。底部切り離しは回転ヘラ切り、内外面に火襷痕	
685	〃	土師質土器 椀	-	(1.1)	-	5.7	内面にナデ、外面に回転ヘラケズリ	
686	〃	〃 〃	-	(1.7)	-	7.8	調整は摩耗のため不明	
687	〃	〃 杯	15.0	4.6	-	6.5	玉縁状。器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
688	〃	〃 〃	14.8	4.2	-	8.1	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
689	〃	〃 〃	14.8	3.6	-	8.6	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。底部外面に板状圧痕	
690	〃	〃 〃	15.0	3.0	-	6.0	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
691	〃	〃 〃	15.6	(2.1)	-	-	器面には回転ナデ	
692	〃	〃 〃	-	(2.5)	-	-	器面には回転ナデ	
693	〃	〃 〃	-	(2.8)	-	6.1	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
694	〃	〃 〃	-	(1.4)	-	6.8	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
695	〃	〃 〃	-	(1.8)	-	6.7	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
696	〃	〃 〃	-	(2.8)	-	6.6	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
697	〃	〃 〃	12.2	4.2	-	5.9	柱状高台。器面には回転ナデ。体部外面下端に回転ヘラケズリ。底部切り離しは回転糸切り	
698	〃	〃 〃	-	(2.2)	-	6.0	柱状高台。器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
699	〃	〃 〃	-	(4.2)	-	7.1	柱状高台。器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
700	〃	〃 小皿	7.8	1.1	-	5.0	底部切り離しは回転糸切り	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
701	第Ⅲ層	土師質土器 小皿	7.8	1.4	-	4.9	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
702	〃	〃 〃	8.2	1.4	-	5.1	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
703	〃	〃 皿	12.8	(4.1)	-	-	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデ、体部外面に指オサエ	
704	〃	〃 〃	13.3	(2.4)	-	-	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデ、体部外面に指オサエ	
705	〃	〃 〃	13.6	(3.7)	-	-	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデ、体部外面に指オサエ	
706	〃	瓦質土器 鍋	22.4	(7.8)	24.9	-	口縁部内外面に回転ナデ、胴部内面にナデ、胴部外面に指オサエ。頸より下方には煤が付着	
707	〃	〃 三足鍋	(7.8)	2.0	1.9	-	摩耗のため調整は不明	
708	〃	備前焼 壺	14.0	(5.7)	-	-	器面には回転ナデ。外面の一部には自然釉	
709	〃	瀬戸焼 壺	-	(4.9)	-	-	耳付壺。器面には回転ナデ。内面上部には指オサエ。耳部は欠損し、内面は露胎	
710	〃	青磁 碗	-	(2.7)	-	5.5	蓮弁文碗。高台内には回転ヘラケズリ	
711	〃	〃 〃	-	(3.7)	-	-	細蓮弁文碗	
712	〃	〃 〃	-	(5.7)	-	6.0	細蓮弁文碗。内面にはヘラ描きによる文様	
713	〃	土製品 土錘	3.6	1.3	1.3	-	両端の一部を欠損。表面には指頭圧痕	重量(4.8)g 孔径0.4cm
714	〃	〃 〃	7.1	1.9	2.0	-	片側の一部を欠損。表面は摩耗	重量(25.2)g 孔径0.5cm
715	〃	〃 〃	(7.5)	2.2	2.5	-	片側を欠損。表面には指頭圧痕	重量(33.0)g 孔径0.7cm
716	〃	石製品 扁平片刃石斧	4.2	3.3	0.8	-	使用により刃部の一部が欠損。石材は粘板岩	重量(23.4)g
717	〃	〃 石庖丁	7.4	5.5	1.1	-	打製。両端に抉り。石材は砂岩	重量59.3g
718	〃	〃 〃	11.2	8.1	2.3	-	打製。両端に抉り。石材は砂岩	重量228.1g
719	〃	〃 石錘	8.3	7.2	2.4	-	両端に抉り。石材は砂岩	重量219.7g
720	〃	〃 叩石	10.8	9.6	5.7	-	片面に弱い敲打痕。石材は砂岩	重量833.8g
721	〃	〃 砥石	7.0	5.9	2.0	-	片面と両側面に使用痕。石材は砂岩	重量102.2g
722	〃	〃 〃	9.3	6.4	3.3	-	3面に使用痕。石材は砂岩	重量217.3g
723	第Ⅳ層	弥生土器 甕	-	(4.4)	-	2.3	内面にナデ、外面にハケ	
724	〃	〃 高杯	-	(5.2)	-	-	杯部内面に丁寧なヘラミガキ、脚柱部内面にハケ、脚柱部外面にハケのちヘラミガキ	
725	〃	土師器 羽釜	22.4	(5.2)	-	-	器面にヨコナデ、把手には貼り付け時の指頭圧痕。胴部と把手の接合部には孔を穿ち、把手外面には煤が付着	

遺物観察表30

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
726	第IV層	須恵器 杯蓋	12.6	(1.4)	-	-	器面には回転ナデ	
727	〃	〃 甕	17.0	(5.3)	-	-	器面には回転ナデ。外面にはヘラ描きの文様。肩部外面には刺突文	
728	〃	〃 杯	-	(1.6)	-	9.4	器面には回転ナデ。底部切り離し痕はナデ消す。	
729	〃	土師質土器 杯	12.3	4.1	-	6.4	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
730	〃	〃 〃	14.2	4.4	-	9.4	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切りで、体部外面下半にはタールが付着	
731	〃	〃 〃	-	(1.9)	-	6.0	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
732	〃	〃 〃	-	(2.0)	-	6.2	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
733	〃	〃 〃	-	(1.6)	-	6.2	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
734	〃	〃 〃	-	(2.7)	-	7.1	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
735	〃	〃 〃	-	(2.3)	-	7.2	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
736	〃	〃 〃	-	(2.0)	-	7.4	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
737	〃	〃 〃	-	(2.3)	-	4.4	柱状高台。器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
738	〃	〃 小皿	6.1	2.1	-	4.9	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。底部内面中央部が盛り上がる。	
739	〃	〃 〃	6.2	2.2	-	4.4	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
740	〃	〃 〃	7.6	1.6	-	6.0	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。底部外面には板状圧痕	
741	〃	〃 〃	-	(1.2)	-	4.2	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
742	〃	〃 皿	10.6	(3.4)	-	-	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部内外面にナデ	
743	〃	備前焼 播鉢	30.4	(3.9)	-	-	器面には回転ナデ。内面には6条単位の条痕	
744	〃	〃 〃	-	(7.5)	-	-	器面には回転ナデ。内面には5条の条痕	
745	〃	〃 〃	-	(7.4)	-	13.2	器面には回転ナデ。内面に6条単位の条痕。底部内面には爪形状圧痕	
746	〃	〃 甕	-	(8.6)	-	-	玉縁状。口縁部内外面に回転ナデ、胴部内外面にナデ	
747	〃	青磁 碗	-	(2.9)	-	-	外面に蓮弁文	
748	〃	〃 〃	15.2	(4.2)	-	-	外面に剣頭を省略した細蓮弁文	
749	〃	〃 〃	-	(3.0)	-	-	内面の一部に文様	
750	〃	瓦 平瓦	(6.9)	(8.4)	1.9	-	凹面には布目圧痕。側面は丁寧に面取り。凸面にはヘラケズリ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
751	第Ⅳ層	瓦 平瓦	(5.7)	(8.3)	1.9	-	凹面には布目圧痕。側面は丁寧面に面取り。凸面には縄目状のタタキ	
752	〃	土製品 土錘	3.6	1.1	1.2	-	ほぼ完存。摩耗のため調整は不明瞭であるが、表面には指頭圧痕	重量3.8g 孔径0.4cm
753	〃	〃 〃	4.1	1.7	1.7	-	ほぼ完存。摩耗のため調整は不明瞭であるが、表面には指頭圧痕	重量9.7g 孔径0.5cm
754	〃	〃 〃	(4.3)	1.2	1.1	-	ほぼ完存。摩耗のため調整は不明瞭であるが、表面には指頭圧痕	重量(4.7)g 孔径0.4cm
755	〃	〃 〃	4.4	1.2	1.2	-	ほぼ完存。摩耗のため調整は不明瞭であるが、表面には指頭圧痕	重量4.9g 孔径0.4cm
756	〃	〃 〃	5.0	1.4	1.1	-	ほぼ完存。摩耗のため調整は不明瞭であるが、表面には指頭圧痕	重量4.9g 孔径0.4cm
757	〃	〃 〃	(6.0)	2.2	(2.0)	-	片側を欠損。表面には指頭圧痕	重量(21.2)g 孔径0.6cm
758	〃	石製品 石鍋	18.2	(4.4)	-	-	内外面とも丁寧な調整。外面には煤が付着。石材は滑石	重量(115.3)g
759	〃	〃 〃	22.6	(5.5)	-	-	口縁部と胴部外面には細かな成形痕。内面は使用に伴い摩耗。石材は滑石	重量(210.4)g
760	〃	〃 石鏝	(1.5)	(1.1)	0.2	-	凹基式。先端部と基部の片側を欠損。石材はサヌカイト	重量(0.1)g
761	〃	〃 叩石	(6.1)	8.1	1.8	-	片側を欠損。両面と側面に敲打痕。石材は砂岩	重量(154.0)g
762	〃	〃 砥石	5.3	3.1	0.7	-	全面に使用痕。石材は粘板岩	重量17.3g
763	〃	金属製品 銭貨	2.3	1.9	0.1	-	紹聖元寶	量目2.5g
764	第Ⅴ層	弥生土器 壺	15.7	(5.4)	-	-	複合口縁壺。口縁部内外面にヨコナデ、口縁部内外面下端にハケ。屈曲部上方の外面には波状文	
765	〃	〃 〃	-	(2.2)	-	-	器面にはヨコナデ。櫛描波状文と円形浮文	
766	〃	〃 〃	-	(5.4)	-	-	肩部外面に波状文	
767	〃	〃 〃	-	(11.7)	-	3.0	胴部内面にナデ、底部内面にナデのち指オサエ、外面にタタキのちハケ	
768	〃	〃 甕	12.6	14.8	13.3	0.9	内面にハケとナデ、外面にヨコナデとタタキ。口縁部内面にはヨコナデ。底部外面以外には煤が付着	
769	〃	〃 〃	-	(4.4)	-	3.3	内面にナデ、外面にタタキのちナデ。外底面にはナデ	
770	〃	〃 鉢	-	(2.1)	-	-	脚付鉢。外面にはヨコナデ、底部内面にハケ	
771	〃	〃 〃	-	(3.2)	-	-	脚付鉢。外面にはヨコナデ	
772	〃	〃 高杯	-	(2.5)	-	-	口縁端部内外面にヨコナデ、口縁部内外面にヘラミガキ。口縁端部に細かな刺突文、口縁部内外面に波状文	
773	〃	〃 〃	-	(4.7)	-	-	杯底部と脚柱部内面にナデ、脚柱部外面にヘラミガキ	
774	〃	〃 〃	-	(6.5)	-	-	脚柱部内面にはナデ	
775	〃	〃 ミニチュア	-	(2.1)	-	2.4	内外面にナデ。胴部外面下端には指頭圧痕	

遺物観察表 32

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
776	第V層	土製品 支脚	-	6.8	-	-	中央部は孔が開く。表面には指頭圧痕	
777	〃	〃 〃	-	(8.4)	-	11.2	内面に指オサエ、外面にタタキ。外面の一部には指頭圧痕	
778	〃	土師器 羽釜	22.2	(7.4)	24.4	-	口縁部外面上端に顎が巡り、器面にはヨコナデ	
779	〃	〃 〃	-	(5.5)	-	-	内面と顎部にはヨコナデ、胴部外面にはナデ。顎下部には煤が付着	
780	〃	須恵器 杯蓋	15.1	(4.1)	-	-	天井部外面に回転ヘラケズリ。他の部位には回転ナデ	
781	〃	〃 〃	-	(0.9)	-	-	器面にはナデ。つまみは粘土塊を貼り付け、上部を撫でる	つまみ径1.3～1.5cm
782	〃	〃 〃	10.3	(1.9)	-	-	天井部と口縁部の境には明瞭な屈曲。器面に回転ナデ	
783	〃	〃 〃	9.3	(1.9)	-	-	天井部外面に回転ヘラケズリ。他の部位には回転ナデ	かさ径11.2cm
784	〃	〃 杯身	12.2	3.9	-	3.6	底部外面に回転ヘラケズリ、他の部位には回転ナデ	
785	〃	〃 高杯	17.6	11.8	-	11.5	器面には回転ナデ	
786	〃	〃 〃	-	(4.7)	-	-	摩耗のため調整は不明	
787	〃	〃 壺	7.2	(5.0)	-	-	短頸壺。器面には回転ナデ。外面の一部に自然釉	
788	〃	〃 〃	-	(5.2)	-	-	内面上半に回転ナデ、内面下半に同心円状のタタキ、外面に回転ナデ。外面にはボタン状の浮文	
789	〃	〃 甕	-	(6.9)	-	-	内面には同心円状のタタキ、外面には並行タタキのち粗い回転ナデ	
790	〃	〃 器台	-	(5.1)	-	-	器面には回転ナデ。外面には3条の沈線と斜行するヘラ描き沈線文	
791	〃	〃 杯	-	(2.1)	-	6.8	器面には回転ナデ。底部切り離しは静止糸切り	
792	〃	〃 〃	-	(1.9)	-	7.5	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。底部外面には板状圧痕	
793	〃	土師質土器 椀	-	(1.8)	-	5.7	摩耗のため調整は不明	
794	〃	〃 〃	-	(1.9)	-	7.8	摩耗のため調整は不明	
795	〃	〃 〃	-	(3.5)	-	7.6	比較的高い高台を有し、器面には回転ナデ。調整が非常に丁寧	搬入品の可能性有り
796	〃	〃 杯	12.2	4.5	-	7.2	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転ヘラ切り、切り離し痕はナデ消す。	
797	〃	〃 〃	(8.7)	(3.1)	-	5.2	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
798	〃	〃 〃	11.2	3.2	-	5.4	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
799	〃	〃 〃	11.9	3.2	-	6.2	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
800	〃	〃 〃	11.1	4.9	-	6.1	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
801	第Ⅴ層	土師質土器 杯	13.9	4.5	-	7.7	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
802	〃	〃 〃	-	(2.0)	-	4.8	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
803	〃	〃 〃	-	(2.2)	-	6.1	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
804	〃	〃 〃	-	(1.7)	-	5.9	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
805	〃	〃 〃	-	(3.7)	-	6.2	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。底部切り離しをやり直した痕跡有り	
806	〃	〃 〃	-	(3.1)	-	6.2	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
807	〃	〃 〃	-	(1.3)	-	6.6	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
808	〃	〃 〃	-	(2.2)	-	6.6	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。底部切り離し時に体部外面下端に糸が当たった痕跡有り	
809	〃	〃 〃	-	(1.7)	-	6.8	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
810	〃	〃 〃	-	(2.7)	-	6.9	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。体部内面にタールが付着	
811	〃	〃 〃	-	(1.8)	-	7.4	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
812	〃	〃 〃	-	(1.5)	-	7.1	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
813	〃	〃 〃	-	(2.2)	-	7.4	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
814	〃	〃 〃	-	(3.0)	-	7.3	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
815	〃	〃 〃	-	(2.0)	-	7.5	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
816	〃	〃 〃	-	(1.5)	-	7.7	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
817	〃	〃 〃	-	(1.6)	-	7.8	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
818	〃	〃 〃	-	(1.7)	-	7.6	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
819	〃	〃 〃	-	(1.7)	-	8.2	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
820	〃	〃 〃	-	(2.0)	-	3.9	柱状高台。摩耗のため調整と底部切り離しは不明	
821	〃	〃 〃	-	(2.2)	-	5.5	柱状高台。器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
822	〃	〃 小皿	6.6	1.6	-	4.4	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。口縁部外面に煤が付着	
823	〃	〃 〃	7.4	1.3	-	5.6	器面に回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。底部外面に板状圧痕	
824	〃	〃 〃	10.0	2.0	-	6.6	底部外面には回転糸切り痕	
825	〃	〃 〃	6.0	2.2	-	3.8	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	

遺物観察表 34

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
826	第V層	土師質土器 小皿	6.2	2.5	-	4.2	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
827	〃	〃 〃	5.6	2.0	-	4.4	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
828	〃	〃 〃	6.5	2.2	-	4.4	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。底部内面中央部が山状に盛り上がる。	
829	〃	〃 〃	7.1	2.4	-	4.2	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
830	〃	〃 〃	6.5	2.3	-	4.5	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。底部内面中央部が山状に盛り上がる。	
831	〃	〃 〃	7.0	1.8	-	4.6	器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り	
832	〃	〃 〃	6.7	(1.6)	-	-	器面には回転ナデ	
833	〃	〃 〃	-	(1.6)	-	4.6	柱状高台。器面には回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。底部内面には凹み	
834	〃	〃 皿	9.0	2.3	-	6.4	手づくね成形。口縁部内外面にはヨコナデ、体部から底部外面には指頭圧痕とナデ	
835	〃	〃 〃	11.8	2.8	-	7.6	手づくね成形。口縁部内外面にはヨコナデ、底部内面にはナデ、底部外面には指頭圧痕	
836	〃	〃 〃	12.9	3.6	-	8.3	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部と底部内面に指オサエとナデ、体部外面に指オサエ、底部外面にナデ	
837	〃	〃 〃	13.0	2.9	-	6.0	手づくね成形。口縁部内外面にはヨコナデ、体部から底部外面には指頭圧痕	
838	〃	〃 〃	9.7	(3.4)	-	-	手づくね成形。体部内外面には指頭圧痕	
839	〃	〃 〃	13.7	(3.5)	-	-	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデ、体部外面に指オサエ。口縁部内面にはナデ	
840	〃	〃 〃	13.7	(3.4)	-	-	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデ、体部外面に指オサエ	
841	〃	〃 〃	14.8	(4.0)	-	-	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデ、体部外面に指オサエ	
842	〃	〃 〃	17.2	(3.4)	-	-	手づくね成形。口縁部内外面にヨコナデ、体部内面にナデ、体部外面に指オサエ	
843	〃	〃 鍋	18.9	(6.4)	21.4	-	口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にナデ、胴部外面にタタキ。胴部外面には煤が付着	
844	〃	〃 〃	47.7	(8.7)	-	-	体部外面にナデとヘラケズリ	
845	〃	瓦質土器 播鉢	-	(3.6)	-	-	内面にナデ、外面に指オサエ。内面には条痕	
846	〃	〃 〃	-	-	-	-	内面には放射状の条痕	
847	〃	〃 鍋	18.2	(5.3)	21.2	-	口縁部内外面と胴部内面にヨコナデ、胴部外面に指頭圧痕	
848	〃	〃 〃	20.6	(3.6)	-	-	頸周辺にヨコナデ。頸下部には煤が付着	
849	〃	〃 〃	-	(6.5)	-	-	摩耗のため調整は不明	
850	〃	〃 〃	-	(6.8)	-	-	摩耗のため調整は不明	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
851	第V層	瓦質土器 鍋	-	(4.4)	-	-	器面に回転ナデ	
852	〃	〃 〃	-	(6.7)	-	-	口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にナデ、胴部外面に指オサエ。顎下方には煤が付着	
853	〃	〃 〃	-	(4.9)	-	-	口縁部内外面にはヨコナデ、胴部外面には指頭圧痕。顎下方には煤が付着	
854	〃	〃 〃	21.8	(6.3)	23.6	-	摩耗のため調整は不明	
855	〃	〃 〃	-	(9.0)	-	-	口縁部外面にはヨコナデ。胴中央部より下方には煤が付着	
856	〃	瓦器 椀	13.6	(4.2)	-	-	口縁部内外面にヨコナデ、体部外面に指頭圧痕	
857	〃	備前焼 播鉢	-	(6.3)	-	-	器面に回転ナデ	
858	〃	〃 〃	-	(6.1)	-	-	器面に回転ナデ。4条単位の条痕	
859	〃	〃 〃	-	(6.1)	-	-	器面に回転ナデ	
860	〃	〃 甕	-	(6.0)	-	-	玉縁状。口縁部内外面に回転ナデ	
861	〃	〃 〃	-	(7.9)	-	-	玉縁状。口縁部内外面に回転ナデ、胴部内外面にはヨコナデ	
862	〃	瀬戸焼 天目茶碗	-	(2.4)	-	3.6	削り出し高台。底部外面には回転ヘラケズリ。内面全体と体部外面には黒褐色釉	
863	〃	〃 皿	10.8	(1.7)	-	-	菊皿	
864	〃	青磁 碗	-	(2.1)	-	-	外面には蓮弁文	
865	〃	〃 〃	-	(3.3)	-	-	内面にはヘラによる片彫りと櫛によるジクザグ文様、外面には細かな櫛目	
866	〃	〃 〃	14.2	(4.1)	-	-	外面にヘラ描き細蓮弁文	
867	〃	〃 〃	-	(3.8)	-	-	内面にヘラによる片彫り、外面にヘラ描き細蓮弁文	
868	〃	〃 〃	-	(6.2)	-	5.4	外面にヘラ描き細蓮弁文。高台内は釉剥ぎ	
869	〃	〃 〃	-	(2.4)	-	5.3	削り出し高台	
870	〃	〃 皿	-	(1.7)	-	6.7	削り出し高台。高台内は釉剥ぎ	
871	〃	白磁 碗	-	(2.0)	-	6.8	削り出し高台。見込に沈線	
872	〃	〃 皿	11.0	3.3	-	4.8	見込に沈線	
873	〃	〃 〃	12.0	3.1	-	7.2	畳付は露胎。内外面には被熱痕	
874	〃	瓦 平瓦	(8.2)	(5.1)	2.0	-	側面と凹面の一部は丁寧なヘラケズリ。凹面には布目圧痕、凸面には縄目状のタタキ	
875	〃	土製品 土錘	4.0	1.3	1.1	-	完存。表面には指頭圧痕	重量5.0g 孔径0.3cm

遺物観察表36

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
876	第V層	土製品 土錘	4.2	1.2	1.2	-	完存。表面には指頭圧痕	重量4.4 g 孔径0.4cm
877	〃	〃 〃	4.3	1.6	1.4	-	完存。表面には指頭圧痕	重量6.8 g 孔径0.3cm
878	〃	〃 〃	4.4	1.2	1.2	-	完存。表面には指頭圧痕	重量5.3 g 孔径0.4cm
879	〃	〃 〃	5.4	1.4	1.2	-	完存。表面には指頭圧痕	重量6.7 g 孔径0.5cm
880	〃	〃 〃	(6.8)	2.4	2.3	-	一部を欠損。表面には指頭圧痕	重量(26.4) g 孔径0.7cm
881	〃	〃 〃	8.9	2.3	2.0	-	一部を欠損。表面には指頭圧痕	重量(27.0) g 孔径0.7cm
882	〃	〃 〃	(3.0)	1.3	1.2	-	一部を欠損。表面には指頭圧痕	重量(3.1) g 孔径0.5cm
883	〃	〃 〃	(7.6)	3.1	2.8	-	一部を欠損。表面には指頭圧痕とナデ	重量(54.9) g 孔径1.2cm
884	〃	〃 〃	(5.6)	3.1	-	-	大部分を欠損。表面には指頭圧痕とナデ	重量(34.1) g 孔径1.0cm
885	〃	〃 〃	(4.1)	3.3	(3.1)	-	大部分を欠損。表面には指頭圧痕とナデ	重量(48.1) g 孔径0.7cm
886	〃	石製品 叩石	(5.8)	3.2	3.1	-	端部と片面に敲打痕。石材は砂岩	重量(68.3) g
887	〃	〃 〃	(11.4)	8.5	6.0	-	断面三角形。角2ヵ所に弱い敲打痕。石材は砂岩	重量(857.5) g
888	〃	〃 砥石	(4.8)	4.9	1.0	-	片面と両側面に使用痕。石材は砂岩	重量(42.0) g
889	〃	〃 〃	(8.3)	(4.1)	1.8	-	片面と側面に使用痕。石材は砂岩	重量(114.1) g
890	〃	〃 〃	(7.6)	(8.7)	1.3	-	片面と両側面に使用痕。石材は砂岩	重量(112.7) g
891	〃	〃 〃	(8.2)	(8.4)	1.3	-	片面と側面に使用痕。石材は泥岩	重量(146.5) g

IV B - 1 ☒

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
892	ST35	弥生土器 壺	20.5	(6.0)	-	-	外面は口唇部ナデ, ヘラミガキ。口縁部はハケとヘラミガキ。内面はナデとヘラミガキ	
893	〃	〃 甕	12.3	(7.4)	-	-	外面口縁部までタタキ。内面は口縁部～頸部までハケ。体部はナデと指頭圧痕	
894	〃	〃 〃	14.5	22.9	17.5	2.0	外面は口縁部までタタキ, 体部下半部はハケ。内面は口縁部から頸部はハケ, 体部から底部はナデ	外面に煤あり
895	〃	土製品 支脚	上部径 5.4	8.1	-	6.2	中実。外面は指頭圧痕が顕著, ナデ。底部に工具状の圧痕がみられる。	
896	〃	〃 〃	-	(9.6)	-	8.0	外面はタタキ後, 工具によるナデ。内面はナデ, 指頭圧痕。	
897	ST36	弥生土器 甕	14.2	(10.2)	14.0	-	外面は頸部までタタキ, 口縁部から体部はナデ。内面はナデ。体部には粘土紐接合痕がみられる。	
898	〃	〃 鉢	18.3	(5.2)	-	-	外面はハケ, ナデ。内面はナデ	
899	〃	〃 高杯	-	(3.9)	-	14.2	外面はハケ後ミガキ。内面はナデ, 一部ミガキがみられる。	
900	〃	ミニチュア土器	5.0	4.8	-	-	手づくね成形。外面内面は指頭圧痕, ナデ。内面には接合痕がみられる。	
901	〃	移動式竈	(13.5)	(24.8)	-	1.5	外面はハケ, 周縁部はナデ。内面はハケ, 周縁部はナデ	
902	〃	-	-	(12.9)	-	-	外面はハケ, ナデ。内面はナデ	
903	ST37 P6	弥生土器 壺	16.6	(7.7)	-	-	外面はナデ。内面は口縁部ナデ, 口縁部下半部はハケ	
904	〃	〃 〃	13.6	(3.0)	-	-	二重口縁壺。外面はナデ, 内面はナデ	
905	〃	〃 〃	-	(4.2)	-	-	外面は口縁部はハケ, ナデ, 口唇部はナデ。内面はナデ	
906	〃	小型丸底壺	12.0	(6.3)	-	-	小型丸底壺か。外面はナデ, 縦方向のヘラミガキ。内面はナデ	
907	ST37 ST39	弥生土器 壺	-	(13.5)	-	5.8	外面はタタキ後ハケ。内面は剥離及び摩耗, 一部にハケ	
908	ST37	〃 甕	16.3	(16.2)	16.8	-	外面はタタキ後口縁部はナデ, 内面は口縁部～体部上半部までハケ, 体部下半部はナデ	外面に煤あり
909	〃	〃 〃	15.2	(15.8)	14.0	-	外面は口縁部までタタキ, 口縁端部は指頭圧痕, ナデ。内面は口縁部ハケ, 頸部から体部下半部はハケ, 底部はナデ	
910	〃	〃 〃	13.0	18.1	16.7	1.4	外面は口縁部までタタキ後体部下半部から底部はハケ。内面はハケ, ナデ	外面に煤あり
911	ST37 中央P	〃 〃	13.8	20.3	16.9	-	外面は口縁部までタタキ後ハケ。内面は口縁部から頸部に指頭圧痕, ナデ, 体部から底部はナデ	体部と底部外面に煤
912	ST37 ベッド	〃 壺又は甕	13.0	(5.2)	-	-	二重口縁。外面口縁部はナデ。内面は口縁部ナデ, 頸部下はケズリ	外面に煤あり
913	〃	〃 甕	-	(5.6)	-	-	外面は口縁部はナデ, 頸部から体部はハケ, 頸部下には波状文。内面は口縁部ナデ, 頸部から体部はケズリ	
914	ST37 床面	〃 〃	-	(13.2)	16.3	-	外面はハケ。内面はヘラケズリ	
915	ST37 P6	〃 鉢	13.3	5.3	-	-	外面には一部タタキ。口縁部にかけてナデ, 底部は強いナデ。内面はナデとヘラミガキ	
916	ST37	〃 〃	19.2	8.6	-	3.0	外面は口縁部までタタキ後ナデ。内面はナデ	

遺物観察表 38

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
917	ST37	弥生土器 鉢	12.8	7.2	-	4.7	外面は指頭圧痕, ナデ。内面は口縁部から下半部までハケ, 底部は指頭圧痕, ナデ	
918	ST37 床面	〃 〃	11.4	5.4	-	-	外面内面は指頭圧痕, ナデ	
919	ST37 P6	〃 高杯	22.0	17.2	-	14.9	外面杯部はミガキ, ナデ。内面はナデと放射状のミガキ。脚部外面はミガキ。内面は指頭圧痕, ナデ。4カ所に円形の穿孔	
920	ST37	〃 〃	-	(4.2)	-	17.2	4カ所の穿孔。外面は放射線状のミガキ。端部はナデ	
921	〃	〃 〃	-	(8.9)	-	14.5	柱部外面は縦方向の強いナデ, 指頭圧痕。裾部はナデ。内面はナデ, 対極する4カ所に円形の穿孔	
922	ST37 ベッド	〃 〃	-	(1.1)	-	-	外面内面はナデ	
923	ST37 床面	ミニチュア土器	-	(4.4)	-	7.7	外面はハケ後ナデ。内面はハケ, ナデ	
924	ST37 ベッド	〃	8.5	2.9	-	-	手づくね成形。外面内面は指頭圧痕, ナデ	
925	ST37	土製品 支脚	-	6.7	-	-	外面は指頭圧痕, ナデ。内面は指頭圧痕, ナデ	
926	ST37 中央P	石製品 台石	22.1	(10.9)	-	4.7	重量1760g。砂岩製, 被熱を受ける。両面に使用痕あり。	
927	ST37	金属製品 鉄鏝	4.3	1.4	-	0.4	重量3.0g。有茎式鉄鏝	
928	ST38 ベッド	弥生土器 壺	22.8	(6.3)	-	-	接合部は剥離。外面はハケ後ナデ。内面はハケ, ナデ	
929	ST38	〃 〃	21.0	(4.7)	-	-	外面は口唇部ナデ, 口縁部はハケ。内面はハケ, ナデ	
930	〃	〃 〃	11.4	(6.1)	-	-	複合口縁。外面はハケ, ナデ。内面の二次口縁部はナデ, 口縁部下はハケ, ナデ	
931	〃	〃 〃	-	(4.7)	-	-	複合口縁。外面内面は丁寧なナデ	
932	〃	〃 甕	26.6	(9.7)	-	-	外面は口縁部ナデ, 体部はタタキ後ハケ。内面は口縁部ナデ, 体部はハケ	
933	〃	〃 〃	13.5	(15.8)	15.0	-	外面は口縁部までタタキ後, 体部はハケ。内面は口縁部ハケ, 頸部から体部下半部はナデ	
934	ST38 ST39	〃 〃	13.6	25.4	20.8	1.4	外面は口縁部までタタキ, 体部中央から下半部はハケ。口唇部はナデ。内面は口縁部ハケ, 体部下半部にハケ, ナデ	外面に煤あり
935	〃	〃 〃	16.7	(17.8)	18.8	-	外面頸部までタタキ。口縁部はハケ, ナデ, 体部はハケ。内面は口縁部ハケ, ナデ。体部ハケ, 底部ナデ。体部に1カ所の円孔	外面内面煤あり
936	ST38	〃 〃	13.3	(9.8)	-	-	口縁部までタタキ後ハケとナデ調整。内面は口縁部ナデ, 体部はハケ	外面に煤あり
937	ST38 ST39	〃 〃	15.8	(14.5)	22.4	-	外面は口唇部と口縁部はナデ。体部はハケ。内面は口縁部ナデ, 頸部は指頭圧痕, 体部はケズリ	頸部から体部 外面に煤あり
938	ST38	庄内式土器 甕	15.3	(11.4)	20.4	-	外面は口縁部はナデ, 体部はタタキ後ハケ。内面は口縁部ナデ, 頸部から体部はケズリ	外面に煤あり
939	〃	- 甕	-	(3.9)	-	-	外面はハケ, ナデ, 波状文。内面はナデ, ケズリ	
940	〃	- 〃	-	(8.5)	15.2	-	外面はハケ, ミガキ。内面はナデ	搬入品か?
941	〃	弥生土器 鉢	9.9	4.3	-	-	外面内面ともにナデ。底部外面は指頭圧痕	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
942	ST38	弥生土器 鉢	10.0	4.6	-	3.5	外面一部剥離。外面内面はナデ。外面体部下半部から底部は指頭圧痕	
943	〃	〃 〃	8.7	4.6	-	3.0	外面にはタタキ、ナデ。内面は口縁部はナデ、底部は指頭圧痕、ナデ	
944	〃	〃 〃	15.2	8.5	-	2.4	外面はタタキ後ナデ、指頭圧痕。内面はナデ	
945	〃	〃 高杯	10.4	(8.5)	-	-	杯部外面内面はナデ、ミガキ。脚部外面はヘラ状工具によるナデ、内面はハケとナデ。4カ所に円孔を施す。	
946	〃	〃 〃	14.7	(5.3)	-	-	杯部外面はハケ、ナデ。口縁端部はナデ。内面はハケ後ナデ	
947	ST38 ST39	〃 〃	25.1	(8.4)	-	-	口縁部はナデ。外面はハケとナデ。内面はミガキ	
948	ST38	〃 〃	-	(8.5)	-	-	杯底部は外面ナデ、内面ハケ。脚部外面は柱部ハケとミガキ、裾部ナデ、内面はナデ。2カ所に円孔を施す。	
949	〃	ミニチュア土器	-	(2.5)	-	6.1	外面内面ともにナデと指頭圧痕	
950	〃	土製品 支脚	-	(8.6)	-	5.0	中空。円柱状を呈し、外面はナデ、指頭圧痕	
951	〃	〃 〃	-	(9.0)	-	9.6	中空。外面はタタキ後強いハケ、ユビナデ、指頭圧痕。内面は指頭圧痕、ナデ	
952	〃	土師器 甕	17.0	8.8	-	-	外面はナデ。内面はナデ、頸部には接合痕が認められる。	
953	ST38 カマド	〃 〃	17.9	(13.1)	26.2	-	口縁部は外反し、口唇部は丸くおさめる。外面と内面はナデ、頸部内面には指頭圧痕	
954	ST38	須恵器 杯蓋	14.2	4.3	-	-	天井部は回転ケズリ、内面は回転ナデ	
955	〃	石製品 砥石	(6.1)	(9.3)	-	(2.9)	重量235.1g。砂岩製。二面使用	
956	〃	〃 石包丁	7.0	4.4	-	1.0	重量43.8g。砂岩製。打製石包丁。両側に抉りを施す。	
957	〃	〃 〃	7.1	5.1	-	1.7	重量74.5g。砂岩製。打製石包丁。表面は自然面を残す。両側には抉りを施す。	
958	〃	〃 〃	5.8	6.0	-	1.3	重量49.8g。砂岩製。剥片か。表面には敲打痕がみられる。	
959	〃	〃 〃	4.5	7.8	-	1.8	重量68.6g。砂岩製。表面は自然面、裏面は剥離面を呈する。	
960	ST39	弥生土器 壺	-	(3.5)	-	-	口唇部はナデ、外面はハケ。内面はナデとミガキ	
961	ST39 床面	〃 〃	22.2	(4.4)	-	-	外面は口唇部ナデ、ハケ。内面はハケ、ナデ	
962	ST39	〃 甕	13.0	(2.1)	-	-	外面内面ともに摩耗のため調整は不明瞭	
963	〃	〃 〃	14.7	6.5	-	-	外面はタタキ後、口縁部はナデ。内面は口縁部はハケ、体部はナデ	
964	ST39 床面	〃 〃	12.1	(9.1)	14.5	-	外面はタタキ後口縁部ハケ、体部下半部ハケ。内面は口縁部ハケ、体部はハケ、ナデ	外面に煤あり
965	ST40	〃 壺	-	(2.2)	-	-	複合口縁壺か。外面はナデ及び波状文。内面はナデ	
966	〃	〃 〃	-	(5.4)	-	-	外面はハケ、ナデ。内面はナデ	

遺物観察表40

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
967	ST40 床面	弥生土器 甕	29.6	(6.6)	-	-	外面はタタキ後口縁部はハケ。内面はハケ	
968	ST40 カマド	〃 〃	13.6	19.0	16.2	2.6	外面はタタキ後口縁部はハケ。内面はハケ、体部下半部はハケ後ナデ	外面に煤あり
969	ST40 カマド北	〃 鉢	13.1	5.9	-	3.0	外面はタタキ後口縁部はナデ。内面は口縁部から体部はハケ、底部はナデ。口縁部下には1ヵ所の円孔を穿つ。	
970	ST40	〃 高杯	-	(5.9)	-	-	外面はミガキ。内面はナデ	
971	〃	土製品 支脚	-	(10.6)	-	-	中空。外面は指頭圧痕が顕著、ナデ。内面は強いナデ	
972	〃	土師器 甕	-	(5.9)	-	-	外面はナデ。内面は摩耗	
973	ST40 カマド	須恵器 杯蓋	11.4	3.7	-	-	天井部は回転ケズリ、回転ナデ。内面は回転ナデ	
974	ST41	弥生土器 鉢	14.8	7.5	-	1.2	外面はタタキ後口縁部と底部はナデ。内面はハケ、ナデ	
975	〃	ミニチュア土器	-	(3.9)	-	-	外面は指頭圧痕、ナデ。内面はナデ	
976	〃	土師器 甕	17.6	(4.0)	-	-	外面内面ともにナデ	
977	〃	〃 甗	22.0	(6.4)	-	-	外面は摩耗。内面はナデ	
978	〃	須恵器 杯身	14.0	(3.4)	-	-	立ち上がりは斜め上方にのび、受部は断面三角形状を呈する。外面内面は回転ナデ	
979	〃	〃 〃	12.8	4.7	-	-	立ち上がりは斜め上方にのび、受部は断面三角形状を呈する。外面は底部回転ケズリ、ナデ。内面は回転ナデ	
980	〃	〃 杯蓋	13.4	(3.7)	-	-	外面内面は回転ナデ	
981	ST41 焼土周辺	〃 高杯	11.2	(3.9)	-	-	外面は回転ナデ、口縁下には櫛目状の刺突が巡る。内面は回転ナデ	
982	ST41	〃 甕	-	(10.4)	-	-	外面は平行のタタキ、ナデ。内面は同心円文	
983	〃	石製品 -	(13.4)	(7.5)	-	5.6	重量650g。周縁部に打痕あり。	
984	〃	〃 台石	32.7	25.0	-	8.9	重量1005g。砂岩製。両面中央部に敲打痕あり。	
985	ST42	弥生土器 甕	-	(4.7)	-	-	外面は頸部近くまでタタキ、頸部はナデ。内面はナデとケズリ	
986	〃	〃 鉢	12.6	6.9	-	4.2	外面はナデ、指頭圧痕。内面は口縁部ナデ、体部下半までハケ、底部ナデ	
987	ST43	〃 壺	-	(19.0)	-	8.2	外面はタタキ、底部はナデ。内面はナデ	
988	〃	〃 甕	21.0	(6.7)	-	-	外面は口縁部までタタキ後端部は指頭圧痕。内面は口縁部ハケ、頸部はナデ	
989	〃	〃 壺	-	(5.3)	-	4.5	外面はタタキ後ハケ。内面はナデ、指頭圧痕	
990	〃	〃 〃	-	(3.8)	-	4.6	外面はタタキ後ナデ。内面はハケ、底部は指頭圧痕	
991	〃	〃 鉢	18.2	6.9	-	-	外面は口縁部ナデ、体部ハケ。内面は口縁部から体部にかけてハケ、ナデ、ミガキ。底部はナデ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
992	ST43 焼土	弥生土器 鉢	11.5	(6.1)	-	1.8	外面ナデ, 体部下半部はハケ。内面は口縁部から体部下半部にかけハケ, ミガキ。底部はナデ	
993	ST43	〃 〃	14.1	5.8	-	4.0	外面はタタキ後ナデ及び指頭圧痕。内面はナデ	
994	〃	〃 〃	13.9	7.7	-	2.0	外面は指頭圧痕, ナデ。内面はナデ	
995	〃	〃 〃	9.8	9.5	-	1.9	外面はタタキ後ナデ。内面はハケ, ナデ, 底部はナデ	
996	〃	〃 高杯	-	(4.5)	-	-	外面はナデ, ミガキ。内面はハケ, 工具状の痕がみられる。	
997	〃	〃 〃	-	(3.2)	-	16.0	裾部端部は2条の凹線状を呈する。外面はハケ, 内面もハケ	
998	〃	土製品 紡錘車	(3.5)	(2.6)	-	1.0	重量8.0g。外面内面ともにナデ。中央部には穿孔を有するか。	
999	〃	〃 〃	(3.8)	(2.6)	-	0.9	重量7.2g。外面内面はナデ。中央部には穿孔を有するか。	
1000	ST43 中央P	石製品 砥石	17.3	4.3	-	6.1	重量809.2g。砂岩製。二面を使用	
1001	ST43	〃 石包丁	8.3	5.2	-	1.0	重量57.0g。砂岩製。表面は自然面, 裏面は剥離面を残す。背部には敲打痕。両側には抉りを施す。	
1002	ST43 中央P	〃 〃	7.8	5.1	-	1.6	重量64.1g。表面は自然面, 裏面は剥離面。背部には敲打痕。両側には抉りを施す。	
1003	ST43	〃 石包丁?	6.6	6.0	-	1.2	重量48.0g。砂岩製。表面は自然面。裏面は剥離面。両側は抉り状を呈する。	
1004	〃	〃 磨石	11.5	10.9	-	6.1	重量1109.6g。中央部と周縁部に使用痕	
1005	〃	〃 〃	11.8	9.7	-	4.5	重量696.3g。砂岩製	
1006	〃	金属製品 鉄鎌	4.0	1.3	-	0.5	重量3.7g。有茎式鉄鎌	
1007	〃	〃 鉢	5.8	1.0	-	0.5	重量5.8g	
1008	ST44	弥生土器 鉢	9.9	8.1	-	3.6	外面はナデ, 指頭圧痕。内面は口縁部から体部はハケ, ナデ。底部はナデ, 指頭圧痕	
1009	〃	〃 高杯	22.0	(3.5)	-	-	外面はナデ, ハケ。内面はナデ。工具によるナデ	
1010	〃	土製品 支脚	上部径 10.1	7.3	-	12.2	中空。側面には対極に穿孔。外面は指頭圧痕, ナデ。内面は指頭圧痕, ナデ	
1011	〃	須恵器 杯身	12.7	4.4	-	-	底部は回転ケズリ。受部は断面三角形状を呈し, 立ち上がりは斜め上方にのびる。内面は回転ナデ	
1012	〃	石製品 石斧	7.6	4.8	-	1.1	重量83.0g。扁平片刃石斧。刃部は一部剥離	
1013	〃	〃 台石	18.0	16.4	-	4.3	重量1916g。砂岩製。中央部には敲打痕あり。	
1014	ST45	土師器 甕	15.7	(7.2)	-	-	外面は口縁部から体部にかけナデ。内面は口縁部ナデ。体部はヘラケズリ	
1015	ST45 焼土	〃 〃	13.8	(10.5)	-	-	外面は口縁部ナデ。体部はナデ, 一部摩耗。内面は口縁部ナデ。体部ケズリ	
1016	〃	〃 〃	17.5	(11.2)	-	-	外面は口縁部ナデ。内面は口縁部ナデ。頸部から体部は指頭圧痕, ナデ	

遺物観察表 42

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1017	ST45	土師器 甕	16.5	16.3	19.1	6.0	外面は口縁部ナデ。頸部から体部下半にかけナデ。頸部には指頭圧痕。内面は口縁部から体部はナデ。底部はユビナデ	外面に煤あり
1018	ST45 焼土	須恵器 甕	-	(14.5)	-	-	焼成不良。外面内面は摩耗	
1019	ST46	弥生土器 壺	18.4	(17.2)	24.4	-	外面は頸部までタタキ、口縁部はナデ、ハケ、頸部は工具状のナデ。内面はナデ	
1020	〃	〃 〃	-	(12.9)	-	4.9	外面はタタキ後体部下半部にミガキ、ナデ。内面はナデ	SD8と接合
1021	〃	〃 〃	20.9	(11.1)	-	-	外面は頸部近くまでタタキ、口縁部から頸部はナデ。内面は口縁部から頸部までナデ、頸部はユビナデ	
1022	〃	〃 〃	20.3	(5.5)	-	-	口唇部は肥厚する。外面は口縁下はナデ、頸部まではハケ。内面はナデ、ハケ	ST47床面?と接合
1023	〃	〃 〃	17.4	(4.2)	-	-	外面には波状文、1条の沈線。内面はハケ、ナデ	
1024	〃	〃 〃	-	(13.2)	10.9	3.6	外面は頸部から底部近くまでミガキ。内面は指頭圧痕、ナデ。下半部外面に一部黒斑	
1025	〃	〃 鉢	17.4	7.0	-	-	外面は口縁部までタタキ、体部から底部までミガキ。底面は指頭圧痕、ナデ。内面はハケ、ミガキ、底部はナデ	
1026	〃	〃 〃	15.0	8.6	-	4.1	外面にはタタキ、口縁部はナデ。内面は口縁部から体部にかけハケ、底部はナデ	
1027	〃	〃 〃	22.8	6.3	-	6.6	外面内面ともに丁寧なミガキ。口縁端部はナデにより平坦面をなす。	
1028	〃	〃 〃	13.3	(5.6)	-	-	外面内面はナデ	
1029	〃	〃 〃	-	(5.3)	-	1.5	外面は一部タタキが認められる。指頭圧痕、ナデ。内面はナデ、指頭圧痕	
1030	〃	〃 〃	-	(4.7)	-	-	外面は指頭圧痕。内面はナデと指頭圧痕	
1031	〃	ミニチュア土器	8.3	4.3	-	4.2	外面はナデ、脚部は指頭圧痕。内面はハケ、ナデ	
1032	〃	〃	5.8	5.0	-	1.8	外面は口縁部までタタキで口縁端部は指頭圧痕により摘み出す。内面は指頭圧痕とナデ	
1033	〃	〃	8.0	6.0	-	-	外面は指頭圧痕、内面は指頭圧痕、ナデ	
1034	〃	土製品 支脚	-	(4.2)	-	8.8	外面はナデ、指頭圧痕。内面はナデと指頭圧痕	
1035	〃	須恵器 杯蓋	13.8	3.5	-	-	外面は天井部は回転ケズリ、口縁部から体部は回転ナデ。内面は回転ナデ	
1036	〃	石製品 石包丁	7.7	5.1	-	1.2	重量50.8g。砂岩製。両側には抉りを施す。自然面を残す。	
1037	ST46 中央P	〃 台石	31.7	29.0	-	11.7	重量15.0kg。砂岩製。側部には敲打痕あり。	
1038	ST47 床面	弥生土器 壺	21.1	(6.1)	-	-	外面内面ともに摩耗。内面はハケが認められる。	
1039	ST47	〃 〃	22.0	(2.1)	-	-	口縁端部は拡張する。外面は波状文、口縁下はハケ、ナデ。内面はミガキ、ナデ	
1040	〃	〃 甕	15.0	(17.8)	17.5	-	外面はタタキ後、ハケ、ナデ。内面口縁部はハケ、頸部から体部下半までナデ	外面に煤あり
1041	〃	- 甕	13.4	(4.7)	-	-	外面は口縁部ナデ。内面はナデ、頸部はケズリ	外面に煤あり

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1042	ST47	弥生土器 甕	13.5	(7.1)	15.1	-	外面は口縁部までタタキ、頸部外面は工具を使用した強いナデ。内面は口縁部はナデ、頸部から体部は指頭圧痕、ナデ	
1043	〃	〃 〃	-	(16.4)	15.4	3.0	外面はタタキ、体部下半部は縦方向のハケ。内面はハケ、体部下半部にかけてナデ	
1044	〃	〃 壺	-	(7.4)	-	4.4	外面はタタキ後縦方向のハケ。底部外面はナデ。内面はナデ。工具状の道具を使用したナデ	
1045	〃	〃 甕	-	(6.3)	-	2.3	外面はタタキ後ハケ、底部ハケ。内面はナデ、指頭圧痕	外面に煤あり
1046	ST47 P2	〃 鉢	12.3	5.6	-	2.9	外面の一部にタタキ。指頭圧痕、ナデ。内面は口縁部から体部にかけてハケ。底部はナデ	
1047	〃	〃 〃	13.7	6.5	-	2.5	外面はタタキ後口縁部ナデ、体部はハケ、ナデ。内面は口縁部から体部はハケ、底部はナデ	
1048	〃	〃 〃	12.2	4.0	-	4.2	外面はナデ。内面はハケ、指頭圧痕。外面に黒斑あり。	
1049	ST47	〃 〃	20.6	9.8	-	4.0	外面はタタキ後ハケ、ナデ。内面はナデ	
1050	〃	〃 〃	9.8	6.7	-	-	外面は摩耗が著しい。内面ナデ	
1051	〃	ミニチュア土器	8.3	7.1	-	3.9	外面はタタキ後口縁部は指頭圧痕とナデ。内面は指頭圧痕とナデ。粘土紐接合部は段状を呈する。	
1052	〃	土製品 支脚	-	-	-	(3.2)	外面は指頭圧痕。外面に煤あり。	
1053	〃	〃 〃	(12.4)	3.1	-	3.1	中実。外面は指頭圧痕、ナデ	
1054	〃	土師器 皿	13.6	3.1	-	6.4	外面は口縁部横方向のナデ、体部は指頭圧痕、ナデ。内面は指頭圧痕、ナデ	
1055	ST47 床面	石製品 磨石	10.3	(6.7)	-	4.4	重量427.0g。砂岩製。朱付着。中央部と側面に使用痕あり。	
1056	ST47	〃 〃	11.8	8.4	-	4.5	重量607.0g。砂岩製。朱付着。上部、下部、中央部、側面に使用痕あり。	
1057	ST47 床面	〃 〃	10.5	8.2	-	2.7	重量372.9g。砂岩製。中央部に朱付着。側面と上部に使用痕あり。	
1058	ST47	〃 〃	16.1	7.6	-	5.5	重量994.0g。砂岩製。朱付着。中央部と側縁部に敲打痕あり。	
1059	ST48	弥生土器 壺	-	(3.8)	-	-	外面波状文を施す。ハケ。内面ハケ、ナデ	
1060	〃	〃 〃	16.8	(8.3)	-	-	外面は口縁部から頸部はハケ。体部はミガキ。内面は口縁部はミガキ、頸部から体部はナデ	
1061	〃	〃 甕	-	(11.3)	-	4.0	外面はタタキ後ナデ、ハケ。内面はハケ、ナデ	
1062	〃	〃 〃	13.4	(7.1)	-	-	口唇部は平坦面を呈する。外面はタタキ後ハケ。内面はハケ、ナデ	
1063	〃	〃 壺又は甕	-	(16.2)	19.9	3.9	外面はタタキ後ハケ。内面は指頭圧痕、ナデ	外面に煤あり
1064	〃	〃 甕	11.3	(10.0)	11.6	-	外面はタタキ後ハケ、ナデ。内面は口縁部横方向のハケ、頸部から体部ハケ、ナデ	
1065	〃	〃 〃	-	(7.8)	-	2.3	外面はタタキ後ナデ。内面はナデ	
1066	〃	〃 鉢	20.8	(6.2)	-	-	外面は口縁部ナデ。頸部から体部はハケ。内面はハケ、ナデ	

遺物観察表44

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1067	ST48	弥生土器 鉢	14.0	(6.6)	-	-	外面内面とも摩耗	
1068	〃	〃 〃	11.8	7.9	-	-	外面はタタキ後ミガキ。底部ケズリ。内面はミガキ。口縁部はナデ	
1069	〃	〃 〃	-	(4.2)	-	4.0	外面はタタキが認められる。指頭圧痕。内面ナデ、ハケ	
1070	〃	土師器 甕	14.2	(5.9)	-	-	外面内面は摩耗が著しい。	
1071	〃	〃 〃	-	(8.9)	14.6	-	外面はタタキ後ハケ。内面は指頭圧痕、ナデ	
1072	〃	土製品 支脚	上部径 6.2	5.9	-	7.2	中空。外面指頭圧痕、ナデ。内面はハケ、ナデ	
1073	ST48 P1	〃 土錘	5.5	1.9	-	(1.5)	重量13.0g。孔径0.6cm	
1074	ST48 中央P	石製品 石包丁	7.5	3.8	-	0.9	重量30.0g。砂岩製。自然面を残す。剥片か？	
1075	ST48	〃 叩石	11.3	9.7	-	4.5	重量746.0g。砂岩製。中央部と側面には使用痕あり。	
1076	ST49	弥生土器 壺	12.8	(9.2)	-	-	外面はタタキ後ハケ、ナデ。内面はハケ、ナデ	
1077	〃	〃 〃	22.0	(5.6)	-	-	口唇部は拡張する。外面はナデ、ハケ。内面はハケ、ナデ	
1078	ST49 カマド	土師器 甕	16.3	(12.1)	22.1	-	外面内面は摩耗著しく調整不明瞭	
1079	ST49	〃 〃	20.0	(11.1)	-	-	口唇部は平坦面を呈する。外面はナデ、ハケ。内面は口縁部ナデ。頸部から体部はハケ	
1080	〃	〃 〃	17.3	(6.7)	-	-	外面はナデ。内面は口縁部ナデ。頸部はハケ。口唇部には一部刻目状の凹凸が見られる。	
1081	〃	須恵器 杯蓋	15.8	(4.2)	-	-	天井部外面回転ヘラケズリ。外面内面ともに回転ナデ	
1082	〃	〃 杯身	13.1	5.0	-	2.6	立ち上がりは内傾してのびる。内外面は回転ナデ。底部外面は回転ヘラケズリ。底部内面は横方向のナデ	
1083	〃	〃 〃	14.3	(3.3)	-	-	断面三角形の受部。外面内面は回転ナデ	
1084	〃	〃 〃	11.9	(3.0)	-	-	回転ナデ	
1085	〃	〃 甕	16.7	(10.4)	-	-	外面は口縁部ナデ。頸部から体部はタタキ後ナデ。内面は口縁部ナデ。頸部から体部は指頭圧痕、ナデ	
1086	〃	石製品 石鍋	-	(4.9)	-	13.3	重量144.0g。外面、内面はケズリ。二次加工した可能性あり。滑石製	外面に煤あり
1087	〃	土製品 土錘	5.5	1.4	-	1.3	重量9.0g。孔径0.4cm。指頭圧痕、ナデ	
1088	〃	石製品 叩石	11.1	9.8	-	2.2	重量387.0g。中央部と側面には敲打痕あり。	
1089	ST50	弥生土器 壺	23.1	(3.8)	-	-	複合口縁壺。一次口縁端部、上端に粘土紐を貼付し、二次口縁とする。櫛描波状文。内外面、ハケ。粘土紐接合痕が残る。	
1090	〃	〃 〃	21.1	(4.2)	-	-	口唇部、面取り。上方へ拡張。外面、ハケ後ヨコナデ。内面、ヨコナデ後、ミガキ。口唇部、櫛描直線文	
1091	〃	〃 〃	19.4	(5.5)	-	-	口唇部、面取り。外面、ハケ。内面、ハケ後ミガキ。やや摩滅	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1092	ST50	弥生土器 壺	15.4	(4.7)	-	-	口唇部, 面取り。外面, ハケ。内面, ナデ	
1093	〃	〃 甕	15.0	(7.6)	-	-	口唇部, ハケ状工具による面取り。体部外面, タタキ。口縁部 外面, タタキ後ハケ。内面, ハケ, ナデ	
1094	ST50 中央P	〃 鉢	9.2	(2.8)	-	-	口縁部, 丸みを持って立ち上がる。口唇部は尖らせる。外面, ミガキ。内面, ナデか	内面煤付着か
1095	ST50	- 鉢	14.4	(4.2)	-	-	外面, タタキ後ナデ。内面, ハケ。黒斑	
1096	〃	ミニチュア土器	8.0	(5.6)	-	-	壺形。口縁部, 外反。外面, ナデ。内面, ハケ, ナデ	
1097	〃	石製品 刃器	(6.7)	4.2	-	0.8	重量 31.0g。両面とも主要な剥離面が残る。刃部には細かな 調整剥離。背部は強い打撃により剥離。両端, 欠損	
1098	〃	〃 磨石	14.1	8.3	-	7.8	重量 1412.0g。両端を使用。赤色顔料が付着。完存	
1099	〃	〃 〃	12.6	10.6	-	6.5	重量 1236.0g。先端部に敲打痕。全体的に平滑。赤色顔料が付 着。完存	
1100	〃	〃 叩石	9.0	8.0	-	7.8	重量 753.0g。両端, 側面に敲打痕。完存。被熱変色	
1101	〃	金属製品 鉄鏃	3.6	0.6	-	0.3	重量 3.0g。茎部である。断面長方形から方形を呈する。両端, 欠損	
1102	〃	石製品 角錐状石器	3.77	1.35	-	0.95	重量 4.27g。素材は厚い剥片。腹面から両側面にかけて連続 的な急角度剥離。先端部, 鋭利。完存。混入品	
1103	ST51	弥生土器 壺	-	(7.0)	-	-	二重口縁壺。口唇部, 面取り。一次口縁は内外面ともハケ, 二 次口縁は内外面ともナデ	
1104	〃	〃 〃	18.2	(7.0)	-	-	口唇部, 面取り。外面, 縦方向のハケ。内面, 横方向のハケ	
1105	〃	〃 〃	18.6	(6.2)	-	-	摩滅	
1106	ST51 検出面	〃 〃	24.2	(3.7)	-	-	口唇部, 下方に拡張。櫛描文。内面, ハケ後ミガキ。外面, ハケ	
1107	ST51	〃 〃	-	(14.2)	24.2	-	外面, ハケ後ミガキ。内面, ケズリ。外面, 斜格子に組まれた 籠の痕跡あり。	外面煤付着
1108	〃	〃 甕	23.2	(5.3)	-	-	「く」の字状口縁。口唇部, 面取り, 摘み上げ。外面, タタキ。内 面, ハケ	
1109	〃	〃 鉢	9.0	2.7	-	-	皿状鉢。内外面, ナデ。外面, 指頭圧痕顕著。残存率, 良好	
1110	ST51 検出面	〃 〃	13.6	(4.0)	-	-	外面, タタキ後ナデ。内面, ナデ(ミガキ状)。外面, 亀裂あり。 内面, 赤色顔料付着	外面煤付着
1111	ST51	〃 〃	11.6	7.3	-	-	深いタイプ。丸底。外面, タタキ後ナデ。内面, ナデ。やや摩滅	
1112	〃	〃 〃	14.5	5.7	-	2.1	丸底。外面, タタキ後ナデ。内面, ナデ。内外面とも底部付近 に丸底化にともなう指頭圧痕。ほぼ完存	
1113	ST51 検出面	〃 高杯	-	(7.9)	-	-	裾部の4カ所に円孔か。外面, ミガキ。杯部内面, ミガキ。脚 部内面, ハケ。黒斑あり。	
1114	ST51	〃 〃	19.2	(3.3)	-	-	内外面, ヨコナデ。内面, 縦方向の調整。ミガキか。摩滅	
1115	〃	ミニチュア土器	5.0	3.3	-	2.5	手づくね成形。亀裂あり。やや摩滅。残存率, 良好	
1116	〃	弥生土器 鼓形器台	15.2	(5.0)	-	-	脚柱部から水平に短くのび, 口縁部に長く大きく外反する。 摩滅	

遺物観察表46

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1117	ST51	弥生土器 鉢	13.3	(3.3)	-	-	口縁部は外反する。口唇部は尖らせる。内外面, ヨコナデ	
1118	〃	〃 甕	15.2	(3.5)	-	-	口縁端部, 摘み上げ。外面, ヨコナデ。口縁部内面, ヨコナデ。 体部内面, ケズリ。庄内式土器を模倣	
1119	〃	庄内式土器か 甕	15.6	(3.4)	-	-	口縁端部, 弱い摘み上げ。内外面, ヨコナデ	
1120	〃	石製品 石包丁	9.2	5.3	-	1.4	重量 99.0g。打製石包丁の未成品か。表面は主要な剥離面を残す。裏面は自然面を残す。四周に調整剥離を施す。	
1121	〃	〃 〃	8.5	4.5	-	1.4	重量 65.0g。両面とも主要な剥離面を残す。調整剥離により刃部を作り出す。両端に紐掛け用の抉りを入れる。欠損	
1122	〃	〃 台石	30.6	20.6	-	7.8	重量8000g。両面とも使用により平滑。被熱変色。欠損	
1123	ST52	弥生土器 甕	13.8	(5.4)	-	-	外面はタタキ後ハケ, 口縁部はハケ, ナデ	
1124	ST52 床面	土師器 壺	-	(3.6)	-	-	外面はハケ。内面はナデ	
1125	〃	須恵器 杯身	11.2	4.5	-	6.1	内外面は回転ナデ, 底部外面は回転ヘラケズリを施す。外面立ち上がりを除き自然釉がかかる。	
1126	〃	〃 〃	12.5	4.7	-	7.8	外面は底部回転ヘラケズリ, 回転ナデ。内面は回転ナデ	
1127	〃	〃 〃	14.0	3.5	-	-	外面内面ともに回転ナデ, 底部外面は回転ヘラケズリ	
1128	〃	〃 高杯	12.0	(4.1)	-	-	脚部は三方に透孔が施される。杯部外面には櫛描波状文, 底部は回転ヘラケズリ, 口縁部外面及び内面は回転ナデ	
1129	〃	石製品 台石	37.0	21.7	-	10.6	重量 11.5kg。砂岩製。中央部と周縁部に敲打痕あり。	
1130	ST53	弥生土器 壺	-	(2.6)	-	4.5	外面は指頭圧痕。内面はナデ	
1131	〃	〃 〃	-	(4.9)	-	7.0	底部外面には板状の圧痕が認められる。外面には指頭圧痕。内面は摩耗	
1132	〃	土製品 支脚	-	(7.1)	-	-	外面は指頭圧痕	
1133	〃	須恵器 杯身	12.0	(3.5)	-	-	断面三角形の受部。外面内面ともに回転ナデ	
1134	〃	〃 〃	14.3	(3.7)	-	-	断面三角形の受部。外面内面は回転ナデ	
1135	〃	〃 甕	20.4	(5.2)	-	-	口縁端部下は凸状を呈する。外面内面はナデ。内面の一部は自然釉がかかる。	
1136	〃	石製品 砥石	13.2	7.5	-	4.8	重量 662.0g。砂岩製。五面使用	
1137	ST54 床面	〃 石包丁	8.1	5.1	-	1.3	重量 63.0g。砂岩製。打製石包丁。自然面が残る。両側面には抉り状を呈する。	
1138	ST55 床面	弥生土器 壺	-	(7.2)	-	-	外面には一部タタキ, ハケ, ナデ。内面はナデ, 指頭圧痕	
1139	ST55 土器集中	〃 -	14.2	(3.7)	-	-	外面内面ともに摩耗著しい。	
1140	ST55 中央P	〃 甕	14.0	(7.2)	-	-	口縁部は「く」の字状を呈する。外面は口縁部までタタキ後ナデ。内面はハケ, ナデ	
1141	ST55 土器集中	〃 〃	14.8	(9.4)	-	-	口縁部は「く」の字状。外面は口縁部までタタキ, 口縁部はナデ。内面はハケ, ナデ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1142	ST55 中央P	庄内式土器 甕	-	(5.1)	-	-	外面タタキ。内面ケズリによる調整	
1143	ST55	弥生土器 鉢	10.2	5.5	-	3.0	外面内面ともに摩耗著しい。	
1144	ST55 土器集中	〃 高杯	-	(9.0)	-	13.6	柱部は中実。外面は縦方向のミガキ、裾部は粗いミガキ。内面はハケ、ナデ。4~5カ所円孔を施す。黒斑あり。	外面に煤付着
1145	〃	土師器 甕	21.5	(2.5)	-	-	外面ナデ、指頭圧痕。内面はナデ	
1146	〃	〃 〃	16.3	(10.5)	-	-	外面は指頭圧痕、ナデ。一部ヘラ状原体によるナデ。内面ナデ、指頭圧痕。粘土紐接合痕あり。	
1147	〃	須恵器 杯蓋	14.6	4.8	-	-	天井部外面回転ヘラケズリ、ナデ。内面は回転ナデ	
1148	〃	〃 蓋	14.2	4.0	-	-	外面天井部は回転ケズリで口縁部にかけて回転ナデ、内面も回転ナデ。天井部は強いナデ。全体に歪む。	
1149	〃	〃 甕	17.4	27.5	28.6	-	外面は口縁部回転ナデ、頸部から体部はタタキ後回転ハケ、内面は口縁部回転ナデ、頸部から底部に同心円文	
1150	ST55 P12	土製品 支脚	6.5	7.2	-	(5.3)	中央部には径1.4cmの穿孔あり。外面は指頭圧痕、ナデ	
1151	ST55 土器集中	〃 土錘	7.3	4.1	-	4.0	重量122.0g。孔径1.2cm。煤付着。厚い器壁。外面は指頭圧痕	
1152	ST57	弥生土器 鉢	12.6	(6.2)	-	-	外面は口縁部から体部にかけナデ。底部はケズリ、ナデ。内面は口縁部ナデ。体部から底部はハケ	
1153	〃	ミニチュア土器	7.5	5.2	-	-	外面指頭圧痕、ナデ。内面指頭圧痕、ナデ	
1154	〃	弥生土器 高杯	-	(8.7)	-	11.2	柱部の外面はハケ、裾部はハケ。内面はナデ	
1155	〃	土師器 壺	13.8	(6.7)	-	-	外面はナデ。内面はハケ状原体によるナデ	
1156	〃	小型丸底鉢	13.0	7.1	-	3.0	口縁部外面ハケ、ナデ。内面口縁部ハケ、ナデ。底部はヘラ状原体によるナデ	
1157	〃	- 鉢	12.6	(5.3)	-	-	外面は口縁部から体部にかけナデ。底部はケズリ、ナデ。内面は口縁部と底部はナデ。体部はハケ	
1158	〃	須恵器 甕	-	(8.3)	-	-	沈線間に波状文を施す。	
1159	ST57 P6	石製品 叩石	11.7	10.0	-	4.5	重量700g。砂岩製。中央部と両側面に敲打痕あり	
1160	ST58	弥生土器 壺	20.7	(5.9)	-	-	外面に径1.0cm大の浮文を貼付。波状文。内面は摩耗	ST58_A
1161	〃	〃 〃	24.0	(4.0)	-	-	複合口縁壺。外面はハケ状工具による刻目。ハケ。内面はハケ、ナデ	〃
1162	ST58 中央P	〃 〃	13.6	(3.3)	-	-	口唇部は拡張する。外面はハケ。内面は摩耗する。	〃
1163	ST58 P2	〃 甕	16.7	(4.7)	-	-	口縁部「く」の字状を呈する。外面はタタキ後、ナデ。内面は口縁部ナデ、頸部はハケ、ナデ	〃
1164	ST58	〃 高杯か	12.6	(5.8)	-	-	外面はハケ、ナデ。内面はナデ。鉢あるいは高杯	〃
1165	〃	〃 高杯	-	(5.4)	-	12.1	外面はミガキ、ナデ。内面はハケ、ナデ。裾端部に黒斑	〃
1166	〃	ミニチュア土器	8.0	5.8	-	-	外面内面ともに指頭圧痕、ナデ	〃

遺物観察表 48

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1167	ST58	土師器 甕	18.0	(4.0)	-	-	口縁部は外反する。外面ナデ。内面ナデ	ST58_B
1168	〃	〃 〃	19.4	(3.8)	-	-	外面ナデ, 頸部にはハケ。内面はナデ	〃
1169	〃	〃 〃	16.0	(7.2)	-	-	口縁部は外反。外面は指頭圧痕, ナデ。内面はナデ, ハケ。体部はヘラケズリ	〃
1170	〃	〃 〃	15.4	(8.1)	-	-	外面は口縁部ナデ, 頸部から体部にかけてハケ。内面は口縁部ハケ, ナデ。一部ヘラ状工具の圧痕残る。	〃
1171	〃	〃 〃	24.6	(20.1)	26.6	-	外面は口縁部ナデ, 頸部から体部下半部までハケ。内面体部はケズリ, ハケ。頸部はナデ	〃 外面に煤あり
1172	〃	〃 〃	20.0	32.3	22.8	-	長胴状。外面は丁寧なハケ, 口縁部はナデ。内面は頸部指頭圧痕とナデ, 体部から底部はケズリと工具によるナデ	〃 外面に煤あり
1173	〃	〃 甑	17.2	(14.5)	18.9	-	外面は縦方向のハケ。内面はナデ, ハケ	〃 石英を含む
1174	〃	〃 〃	28.8	(10.0)	-	-	外面は口縁部ナデ, 体部ハケ。内面横方向のハケ	〃
1175	〃	須恵器 杯身	-	(2.5)	-	-	受部径 15.1 cm。断面三角形の受部。外面は回転ナデ。内面は回転ナデ	〃
1176	〃	〃 甕	18.2	(3.9)	-	-	口縁部は外反。外面は回転ナデ。内面は回転ナデ	〃
1177	ST58 中央P	土製品 支脚	(9.2)	(4.1)	-	4.2	中実。外面はタタキ後指頭圧痕, ナデ	ST58_A
1178	ST58 検出面	石製品 紡錘車	全径 (3.6)	-	-	1.5	重量 6.73g。滑石製。側面と底部外面に鋸歯文を巡らす。	ST58_B
1179	ST59	弥生土器 甕	-	(17.5)	19.2	4.4	外面タタキ。内面はハケ, ナデ。壺あるいは甕	
1180	〃	〃 壺	-	(10.8)	13.0	-	外面はタタキ, ナデ。内面体部上半部は横方向のナデ。体部下半部は縦方向のナデ。外面には黒斑	
1181	〃	〃 鉢	-	(5.8)	-	-	底部丸底。外面タタキが施され, ナデ。底部にはハケ。内面は指頭圧痕, ナデ	
1182	〃	〃 〃	7.7	2.3	-	4.1	外面は指頭圧痕, ナデ。内面はナデ。外面には亀裂あり	
1183	〃	〃 〃	10.1	5.3	-	4.8	外面は口縁部ナデ。体部指頭圧痕, ナデ。内面はナデ, ハケ	
1184	〃	〃 〃	12.0	5.2	-	-	外面はナデ。体部下半部は指頭圧痕。内面はハケ, ナデ	
1185	〃	土製品 土錘	5.1	1.7	-	2.3	重量 15.7g。断面形は分銅形状を呈する。指頭圧痕, ナデ	
1186	〃	石製品 叩石か	11.1	6.0	-	(3.5)	重量 213.0g。砂岩製	
1187	〃	〃 砥石	8.9	7.9	-	2.4	重量 244.0g。砂岩製	
1188	〃	〃 〃	25.5	7.3	-	5.0	重量 1297g。砂岩製。二面使用痕	
1189	〃	鉄製品 刀子又は鉈	(5.4)	1.8	-	0.4	重量 4.9g	
1190	ST59・60	弥生土器 甕	10.5	(13.8)	13.3	-	外面タタキ後, 体部下半部はハケ。内面はナデ。一部ハケ状原体によるナデ	
1191	ST60	〃 〃	18.6	(11.3)	-	-	外面にはタタキ後ハケ。内面口縁部はハケ, ナデ。体部は指頭圧痕, ナデ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1192	ST60	須恵器 杯身	14.0	4.0	-	7.4	外面回転ナデ。底部は回転ケズリ。内面は回転ナデ	
1193	〃	石製品 叩石	12.4	11.7	-	5.0	重量1023g。砂岩製。側面に使用痕が認められる。	
1194	〃	〃 台石	26.3	22.5	-	8.3	重量6000g。砂岩製	
1195	ST60 SK1	〃 砥石	(10.6)	3.9	-	3.2	重量163.0g。断面多角形状。四面に使用痕	
1196	ST61	弥生土器 壺	-	(3.3)	-	-	広口壺。口縁端部肥厚。外面にハケ状原体による刻目。口縁下外面ハケ。内面横方向のハケ	外面に煤あり
1197	〃	〃 甕	19.0	(5.2)	-	-	口縁部は「く」の字状を呈する。頸部外面までタタキ。外面はハケ。内面はハケ、ナデ	外面に煤付着
1198	ST61・62 床面・P9	〃 壺	-	(4.0)	-	3.0	外面はタタキ、ハケ。内面は指頭圧痕、ナデ	
1199	ST61	〃 甕	15.1	(13.2)	14.5	-	口縁部「く」の字状を呈する。外面はタタキ。内面は口縁部と体部下半部はハケ。頸部はナデ	
1200	ST61 壁側	〃 〃	30.8	(9.2)	-	-	外面は頸部までタタキ。口縁部ハケ。頸部から体部にかけてハケ。内面はハケ、ナデ	
1201	ST61・62 P10	〃 鉢	15.7	8.2	-	3.2	口唇部は平坦面を呈する。外面はナデ、ハケ。内面ミガキ、ハケ、ナデ	
1202	ST61	〃 〃	20.0	8.9	-	4.0	底部平底。外面はタタキ、ハケ、ミガキ。内面は口縁部ハケ、体部はミガキ、底部はナデ	
1203	ST61・62 床面・P9	〃 高杯	18.9	(6.6)	-	-	杯部のみ残存。外面はナデ、ハケ、ミガキ。内面はナデ、ミガキ、ハケ	外面の一部に煤付着
1204	ST61	ミニチュア土器	-	(2.6)	-	1.6	内面指頭圧痕。外面指頭圧痕、ナデ	
1205	ST61 床面	土製品 -	-	(3.6)	-	-	径0.4cmを測る穿孔。内面にはヘラ状工具と思われる圧痕あり。	
1206	ST61	土師器 甕	16.7	(27.4)	21.0	-	外面は口縁部は工具状のナデ。体部はミガキ、ナデ。内面は口縁部ナデ。頸部から底部にかけて指頭圧痕、ナデ、ハケ	外面に煤付着
1207	〃	〃 〃	21.2	(4.1)	-	-	口縁部は外反。口唇部は凹状を呈する。外面はハケ、ナデ。内面はハケ、ナデ	
1208	ST61 検出面	須恵器 杯蓋	13.0	3.6	-	-	天井部はやや歪む。外面回転ナデ、天井部回転ケズリ。内面回転ナデ	
1209	ST61	〃 杯身	11.7	4.3	-	-	立ち上がりは内傾して短くのびる。受部は断面三角形形状を呈する。外面回転ナデ、底部は回転ケズリ。内面は回転ナデ	
1210	ST62 床面	石製品 石包丁	7.8	3.6	-	0.9	重量320g。結晶片岩。両側には抉りを施す。片刃。一部剥離する。	
1211	ST63	弥生土器 鉢	17.5	10.1	-	8.0	外面はハケ、ナデ。内面はハケ、ナデ、指頭圧痕	
1212	〃	土師器 甕	16.8	(11.2)	15.6	-	摩耗が著しい。外面にはナデ	
1213	ST63 床面	〃 〃	16.3	(13.2)	16.4	-	外面はナデ、指頭圧痕。内面指頭圧痕。粘土紐接合痕が認められる。	
1214	ST63	須恵器 壺	12.2	(22.2)	26.5	-	外面平行タタキ、内面同心円文、ナデ	
1215	〃	〃 杯蓋	12.0	3.7	-	-	外面内面回転ナデ。底部外面は回転ケズリ	
1216	〃	〃 〃	12.0	2.9	-	-	外面内面回転ナデ。底部外面にはヘラ状工具による圧痕が認められる。	

遺物観察表50

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1217	ST63	須恵器 杯身	13.9	(3.5)	-	-	外面内面回転ナデ	
1218	〃	土製品 支脚か	(12.8)	5.8	-	5.5	円柱状を呈し、途中中空。外面指頭圧痕、ナデ。一部剥離する。	
1219	〃	石製品 石包丁	5.9	4.5	-	1.0	重量 33.0g。砂岩製。打製石包丁。自然面を残す。両側には挟りを施す。	
1220	ST64・67	土師器 甕	15.1	23.7	20.2	-	口縁部は「く」の字状を呈する。外面はハケ、ナデ。内面はハケ、指頭圧痕、ナデ。口縁部と胴部外面には煤付着	
1221	ST64	〃 〃	-	(12.4)	13.9	-	頸部外面はミガキ、ナデ。外面下半部はハケ。頸部から胴部上半部内面はヘラケズリ、ナデ	
1222	〃	〃 〃	-	(11.7)	13.2	-	外面は摩耗する。亀裂あり。内面はナデ、頸部内面はヘラケズリ	
1223	〃	〃 椀	11.4	7.2	-	-	手づくね成形。内面は指頭圧痕、ナデ。外面指頭圧痕が顕著	
1224	〃	〃 〃	12.5	(5.2)	-	-	内外面に指頭圧痕。内面には板状の工具痕がみられる。器面には亀裂あり	
1225	〃	〃 〃	18.4	6.4	-	4.0	内外面は丁寧なナデ。底部外面は指頭圧痕	
1226	〃	小型丸底鉢	9.0	9.2	-	2.1	口縁部外面はナデ、体部下半はハケ。口縁部内面はナデ、体部～底部内面は指頭圧痕、ナデ	
1227	〃	〃	10.1	9.1	-	-	口縁部から頸部外面はナデ。底部外面はヘラケズリ、指頭圧痕。口縁部内面はナデ。体部内面はユビナデ	
1228	〃	〃	8.5	6.2	-	1.4	外面はナデ。内面はナデ、底部内面はヘラ状原体の工具痕がみられる。	
1229	〃	土師器 高杯	15.7	12.9	-	11.2	杯部内面はナデ、ハケ。外面ナデ、ハケ。脚部外面はヘラミガキ。裾部外面はナデ。脚部内面はヘラケズリ、裾部内面はハケ	
1230	〃	〃 〃	-	(8.7)	-	11.2	分割成形。外面はヘラケズリ、ハケ、ナデ。裾部外面はハケ。内面はヘラケズリ、ナデ。裾部内面はハケ	
1231	〃	〃 〃	-	(11.7)	-	11.8	分割成形。外面はハケ、ナデ。内面は横方向のヘラケズリ、ナデ	
1232	〃	須恵器 杯蓋	11.9	(2.7)	-	-	内外面は回転ナデ	
1233	〃	〃 杯身	11.2	4.6	-	6.4	立ち上がりは内傾して上方にのびる。内外面回転ナデ、下半外面は回転ヘラケズリ	
1234	ST64 床面	〃 〃	-	(3.2)	-	8.6	受部径14.7cm。回転ナデ。底部外面は回転ヘラケズリ	
1235	ST65	弥生土器 壺	15.9	(5.4)	-	-	口縁部のみ残存。外面はハケ、ナデ。内面は横方向のハケ、ナデ	外面に煤付着
1236	〃	〃 〃	-	(3.8)	-	-	二重口縁壺。外面には浮文を貼付。ハケ、ナデ。内面はナデ	
1237	〃	〃 〃	8.2	(11.0)	-	-	直口壺。外面にタタキが認められる。外面ハケ、ナデ。内面ナデ、指頭圧痕、ハケ、ナデ	
1238	〃	〃 甕	15.1	(6.2)	-	-	薄い器壁。口縁部は「く」の字状。外面タタキ、内面ナデ	
1239	〃	〃 鉢	-	(4.5)	-	4.4	底部平底状を呈する。外面内面ナデ	外面の一部に煤付着
1240	〃	〃 〃	11.9	4.9	-	-	外面内面はミガキ、ナデ。底部内面はナデ	
1241	〃	ミニチュア土器	8.9	2.1	-	-	外面内面指頭圧痕、ナデ	外面の一部に煤付着

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1242	ST65	弥生土器 高杯	-	(8.8)	-	13.1	脚部外面はハケ状原体によるナデ。脚部内面はナデ。脚部には径0.8~0.9cmを測る円孔を4ヵ所施す。	
1243	〃	〃 〃	-	(10.0)	-	-	杯部外面はミガキ、ハケ。脚部外面はミガキ。内面は杯部はミガキ、脚部はナデ。径0.9cmの円孔を施す。	
1244	〃	- -	-	(4.6)	-	-	外面タタキが認められる。ナデ。内面はナデ	
1245	〃	石製品 叩石	9.7	7.9	-	3.0	重量363.0g。砂岩製。楕円形状を呈する。上部に使用痕	
1246	〃	〃 砥石	9.3	3.9	-	2.3	重量129.0g。四面使用。撥状を呈する。	
1247	〃	金属製品 鉈	(5.8)	1.5	-	0.4	重量7.3g	
1248	〃	土師器 甕	11.5	(7.8)	13.2	-	外面はナデ。内面はナデ、指頭圧痕。頸部内面には接合痕が認められる。	外面には煤が付着
1249	ST67	弥生土器 壺	17.0	(6.8)	-	-	外面摩耗する。内面はハケ、ナデ	
1250	〃	〃 〃	17.6	(5.0)	-	-	口縁部は「く」の字状で、口唇部は平坦面を呈する。外面はナデ、縦方向のハケ。内面はナデ、頸部内面はハケ	
1251	〃	〃 〃	19.6	(7.3)	-	-	広口壺。外面口縁部はハケ、ナデ。内面はハケ、ナデ	
1252	〃	〃 〃	18.0	(4.2)	-	-	広口壺。口唇部は肥厚させ、端部は上方に摘み出す。外面はハケ。内面はハケ。	
1253	〃	〃 〃	22.3	(3.8)	-	-	広口壺。口唇部は平坦面を呈する。外面はハケ、ミガキ。内面はナデ、ハケ	
1254	〃	〃 〃	6.7	17.7	-	9.2	脚付壺。外面口縁部はハケ、ナデ。体部は指頭圧痕、ナデ。脚部ハケ、ナデ。内面ハケ、ナデ。体部ナデ、ハケ。脚部ハケ、ナデ	
1255	〃	〃 〃	20.4	(4.1)	-	-	二重口縁を呈する。内外面は摩耗が著しく、調整は不明瞭	
1256	〃	〃 〃	-	(2.5)	-	-	頸部外面に粘土帯を貼付し、ヘラ状工具により押圧。内外面ともに細かいハケ	
1257	〃	〃 〃	16.2	(14.7)	-	-	外面頸部近くまでタタキ。口縁部は縦位のハケ、ナデ。内面口縁部から頸部までハケ、ナデ。体部は指頭圧痕、ナデ	
1258	〃	〃 〃	14.9	(15.1)	24.2	-	外面は摩耗する。内面口縁部はハケ、体部は指頭圧痕	
1259	〃	〃 〃	-	(18.1)	28.5	-	外面は頸部から胴部はハケ、ナデ。内面は頸部から体部にかけてナデ	
1260	〃	〃 〃	15.6	(24.0)	26.5	-	複合口縁壺。二次口縁部は直立してのび、口唇部は平坦面を呈する。外面は口縁部ナデ、頸部から体部は丁寧なナデ	
1261	〃	〃 〃	-	(5.8)	-	-	二重口縁壺。内外面は摩耗のため調整は不明瞭	
1262	〃	〃 〃	-	(4.0)	-	4.6	外面は面取り状を呈する。外面には一部タタキ。内面は一部ハケ	
1263	〃	〃 壺?	-	(4.2)	-	3.0	外面にはタタキ、指頭圧痕。内面はハケ、ナデ、指頭圧痕	
1264	〃	小型丸底鉢	8.8	9.3	9.4	-	口縁部は「く」の字状に外方にひらく。口縁部外面はナデ、頸部から体部はミガキ。口縁部内面はミガキ。体部内面はナデ	
1265	〃	弥生土器 壺	10.6	(4.7)	-	-	口縁部外面はナデ、内面はナデ	
1266	〃	〃 甕	29.6	(5.7)	-	-	口唇部は平坦面を呈する。口縁部外面はタタキ、縦方向のハケ。口縁部内面はハケ、ナデ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1267	ST67	弥生土器 甕	17.6	(7.3)	-	-	外面は口縁部までタタキ。外面はハケ、ナデ。内面はハケ、エビナデ	
1268	〃	〃 〃	12.0	(4.0)	-	-	口縁部「く」の字状を呈する。口唇部はナデ。外面はナデ、ハケ。内面はハケ	
1269	〃	〃 〃	16.6	(5.9)	-	-	口縁部は「く」の字状を呈する。外面はハケ、ナデ。内面は口縁部ハケ、頸部から胴部ハケ、ナデ	
1270	〃	〃 〃	15.0	(8.5)	-	-	タタキ成形。外面はナデ。内面はナデ。胴部内面には粘土紐接合痕が残る。	
1271	〃	〃 〃	15.6	(8.2)	16.1	-	口縁部は「く」の字状を呈する。外面は頸部までタタキ。内面はハケ、ナデ。頸部内面には粘土紐接合痕が認められる。	外面には煤が付着
1272	〃	〃 〃	-	(8.4)	-	3.3	底部は平底、タタキ。外面はハケ。内面はハケ、ナデ	
1273	〃	〃 〃	10.8	(3.6)	-	-	口縁部は外反し、口唇部は丸くおさめる。内外面はナデ	
1274	〃	- -	-	(4.6)	-	-	外面は波状文、ミガキ。内面はハケ	
1275	〃	弥生土器 甕	-	(16.1)	19.4	2.0	外面底部はタタキ後ナデ。内面はナデ	
1276	〃	〃 〃	-	(6.4)	-	4.5	底部外面にタタキ。外面は横方向のハケ。内面は指頭圧痕とナデ	
1277	〃	〃 〃	17.2	17.0	16.4	3.0	外面はタタキ、ナデ。内面はヘラ状原体によるナデ。頸部下には粘土紐接合痕が認められる。	
1278	〃	- 甕	12.5	(14.0)	18.0	-	外面体部下半にハケ。上半部はナデ。内面ハケ、ナデ。口唇部はナデによる段部がみられる。	
1279	〃	東阿波型土器 甕	14.4	(12.3)	20.3	-	外面は口縁部ナデ。体部はハケ。内面口縁部はナデ。体部は指頭圧痕、ナデ	
1280	〃	〃 〃	18.7	(1.1)	-	-	外面内面はナデ	
1281	〃	庄内式土器 甕	15.2	(2.4)	-	-	器壁は薄い。内面はハケ	外面には煤が付着
1282	〃	〃 〃	-	(2.1)	-	-	口唇部は上方に摘み上げる。内外面はナデ	
1283	〃	〃 〃	-	(2.2)	-	4.6	底部のみ残存。薄い器壁。外面はミガキ	搬入品か
1284	〃	- 甕	-	(3.0)	-	-	口縁部はやや拡張する。外面内面ともにナデ	搬入品
1285	〃	弥生土器 甕	13.3	(3.3)	-	-	内外面はナデ	
1286	〃	〃 鉢	16.2	7.2	-	2.0	外面は口縁部から体部にかけてナデ。下半部はケズリ。内面はハケ、ナデ	
1287	〃	〃 〃	14.4	6.5	-	3.2	底部平底気味。外面内面ともにナデ	
1288	〃	〃 〃	8.5	3.2	-	-	手づくね成形。外面は指頭圧痕、ナデ。内面はナデ。鉢あるいはミニチュア土器	
1289	〃	〃 〃	10.4	5.5	-	-	外面はタタキ、体部下半はハケ状原体によるナデ。内面は横方向のハケ	
1290	〃	〃 〃	9.7	3.6	-	-	手づくね成形。外面は指頭圧痕、ナデ。内面はミガキ、ナデ。鉢あるいはミニチュア土器	
1291	〃	〃 〃	11.3	6.2	-	2.4	底部平底。外面ナデ。内面ハケ状工具によるナデ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1292	ST67	弥生土器 鉢	13.6	(3.7)	-	-	外面口縁部横方向のミガキ。内面は縦方向のミガキ	
1293	〃	〃 〃	11.3	6.9	-	-	外面口縁部はナデ, 体部下半から底部はミガキ。内面は口縁部ナデ。体部内面はミガキ	
1294	〃	〃 〃	12.9	(4.9)	-	-	内外面とも摩耗のため調整は不明瞭	
1295	〃	〃 〃	-	(6.1)	-	2.5	底部平底。タタキ成形。底部内面はナデとハケ	
1296	〃	〃 〃	-	(6.9)	-	6.4	脚付き鉢。外面タタキ。脚部分は指頭圧痕	
1297	〃	小型丸底鉢	12.1	(4.4)	-	-	口縁部外面はナデ, 体部はハケ。口縁部内面はハケ状原体によるナデ	
1298	〃	弥生土器 鉢	-	(4.1)	-	4.5	脚付き鉢。外面は指頭圧痕, ナデ。内面はハケ状原体によるナデ	外面に煤付着
1299	〃	〃 甕又は鉢	10.4	(10.1)	13.8	-	外面はタタキが施され, 口縁部ナデ, 体部下半部はハケ。内面は口縁部ハケ。体部は指頭圧痕とナデ	
1300	〃	〃 鉢	13.7	7.0	-	6.9	脚付き鉢。外面ナデ, 接合部は指頭圧痕。内面はハケ, ミガキ, ナデ	
1301	〃	〃 〃	10.1	5.6	-	3.7	底部は平底。外面は指頭圧痕, ナデ。内面はハケ	
1302	〃	〃 〃	11.9	(6.5)	-	-	手づくね成形。外面指頭圧痕, ナデ。内面ナデ, 工具状単位のナデ。底部外面には粘土紐接合痕が認められる。	
1303	〃	〃 高杯	17.0	(6.5)	-	-	杯部のみ残存。外面はミガキ, ナデ。内面はミガキ, ナデ	
1304	〃	〃 〃	-	(4.9)	-	9.9	外面ハケ, ナデ。内面はハケ状原体によるナデ。径1.1~1.3cmの円孔を3ヵ所施す。	
1305	〃	〃 〃	-	(6.8)	-	7.3	脚部のみ残存。外面ハケ, ナデ。杯部内面ハケ, ナデ。脚部内面ハケ	
1306	〃	〃 〃	15.0	10.6	-	11.6	杯部外面はハケ, ミガキ, ナデ。脚部外面はハケ, ミガキ。口縁部内面はハケ状原体によるナデ, ハケ, ミガキ	脚部には径0.7~0.8cm大の円孔
1307	〃	〃 〃	-	(10.3)	-	12.2	脚部のみ残存。外面はナデ, ミガキ。脚部内面はケズリ, ナデ。杯部内面は指頭圧痕, ナデ	
1308	〃	〃 〃	-	(4.8)	-	15.7	外面にはナデ, 内面にはハケとナデ。裾部には径0.8cmの円孔を施す。	
1309	〃	〃 〃	-	(3.9)	-	11.4	脚部のみ残存。外面内面ともにハケ, ナデ	
1310	〃	〃 〃	-	(3.0)	-	-	外面は黒色化? 外面は横方向のミガキ, 内面は斜位方向のミガキ。鉢あるいは高杯である。	
1311	〃	ミニチュア土器	7.4	2.2	-	-	手づくね成形。外面内面は指頭圧痕, ナデ	
1312	〃	〃	7.0	4.3	-	-	手づくね成形。外面は指頭圧痕, ナデ。内面ナデ	
1313	〃	〃	3.9	4.1	-	4.9	外面にはタタキ, ナデが施される。内面は指頭圧痕, ナデ	
1314	〃	〃	-	(2.3)	-	1.8	外面タタキ, 指頭圧痕。内面には指頭圧痕, ナデ	
1315	〃	〃	-	(1.8)	-	-	内外面には指頭圧痕が顕著	
1316	〃	〃	-	(3.5)	-	1.8	外面は摩耗する。内面は一部剥離。指頭圧痕が認められる。	

遺物観察表54

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1317	ST67	土製品 支脚	上部径 6.4	2.9	-	7.6	円柱状を呈する。外面指頭圧痕, ナデ。側面には一部ハケ。被熱	
1318	〃	〃 〃	-	13.8	-	8.2	中空。外面は指頭圧痕, ナデ。上端部は外方に広がる。	
1319	〃	〃 〃	-	(4.8)	-	7.9	外面にタタキ, 指頭圧痕, ナデ	
1320	〃	〃 〃	-	(4.0)	-	8.6	手づくね成形。中実。外面は指頭圧痕, ナデ	
1321	〃	〃 〃	-	(7.9)	-	-	手づくね成形。中空。内外面は指頭圧痕とユビナデ, 穿孔を施す。	
1322	〃	〃 〃	-	(7.1)	-	-	大形の支脚。外面はタタキと指頭圧痕。背面には把手状のつまみがつく。	
1323	〃	〃 〃	-	(10.1)	-	-	タタキ成形。中空。指頭圧痕, ナデ。径約1.6cmの穿孔	
1324	〃	〃 〃	-	(13.9)	-	-	タタキ成形。中空。内面は指頭圧痕, ユビナデが顕著	
1325	〃	石製品 石包丁	(6.1)	5.0	-	1.2	重量51.0g。砂岩製。打製石包丁。側面には挟りを施す。自然面を残す。	
1326	〃	〃 叩石	12.6	10.8	-	2.9	重量573.0g。砂岩製。中央部と側面には使用痕跡が残る。	
1327	〃	〃 叩石?	(16.5)	7.7	-	3.1	重量682.0g。砂岩製。上部は欠損する。	
1328	〃	金属製品 鉢	(4.8)	1.5	-	0.3	重量4.5g	
1329	ST68	弥生土器 壺	16.0	(2.4)	-	-	口唇部は上下に拡張。ナデにより浅い凹状を呈する。外面はハケ, ナデ。内面はハケ	
1330	ST68 床面	〃 〃	6.8	12.7	10.4	2.1	小型壺。外面口縁部はミガキ, ナデ。内面はナデ。内底部はハケ状原体によるナデ	
1331	〃	〃 〃	-	(16.8)	-	5.4	底部平底。タタキ成形。外面体部下半は縦方向のハケ	
1332	〃	〃 〃	-	(19.0)	17.0	5.2	底部平底。タタキ成形。外面下半部は縦方向のハケ。内面はナデ。壺あるいは甕である。	下半部には煤付着
1333	ST68	〃 甕	14.6	(3.8)	-	-	口縁部「く」の字状を呈する。外面はナデ, 指頭圧痕, ハケ。内面はナデ	口縁部外面には一部煤付着
1334	ST68 床面	〃 〃	23.0	(6.6)	-	-	口縁部「く」の字状を呈する。タタキ成形。外面はハケ。内面口縁部はハケ。頸部下はナデ	
1335	ST68	〃 鉢	19.9	8.8	-	2.9	底部平底。外面はナデ, ハケ, 下半部はミガキ。内面はハケ, ミガキ	外面に煤付着
1336	〃	金属製品 鉄鉢	(3.0)	-	-	(0.4)	重量3.9g。上部欠損か? 有茎式。茎部分欠損	
1337	SB2 P4	土師質土器 皿	8.9	1.9	-	6.7	底部外面回転糸切り痕。外面内面ともに回転ナデを施す。	
1338	〃	〃 杯	15.2	3.7	-	7.4	口縁部はやや外反する。外面内面は回転ナデ	
1339	〃	〃 〃	-	(1.9)	-	5.5	底部外面は糸切り痕。外面内面は摩耗のため調整不明瞭	
1340	〃	〃 〃	-	(2.3)	-	7.0	底部外面は糸切り痕。外面底部側面は工具によるナデ。薄い器壁をもつ。	
1341	〃	土師器 椀	16.6	5.7	-	5.8	底部外面は回転糸切り痕。逆台形状の輪高台を貼付。外面は回転ナデ, ミガキ。内面は回転ナデ, 底部はミガキ	外面に煤付着

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1342	SB2 P4	土師器 椀	15.5	5.4	-	5.7	底部外面は回転糸切り痕。逆台形状の輪高台を貼付。外面は回転ナデ。体部下半部から底部はミガキ	
1343	SB4 P9	弥生土器 甕	12.2	(2.7)	-	-	口縁部は外反し、口唇部はナデにより平坦面を呈する。外面一部タタキ、ハケ。内面はハケ、ナデ	
1344	SB6 P9	〃 高杯	-	(5.6)	-	-	脚部。外面は丁寧な縦方向のミガキ、内面はハケ、ナデ	
1345	SB8 P3	〃 〃	-	(6.4)	-	-	脚部。中空。外面は柱部はミガキ、裾部はハケ、ナデ。内面はハケ、ナデ	
1346	SB8 P9	須恵器 蓋	14.2	(0.6)	-	-	断面三角形のかえりがつく。外面と内面はナデ	
1347	SB8 P12	〃 〃	13.4	1.8	-	-	断面三角形の短いかえりがつく。外面と内面はナデ	
1348	SB8 P5	〃 杯	-	(2.0)	-	7.3	底部外面はケズリ、ナデ。内面はナデ	
1349	SB8 P6	〃 甕	17.2	(3.6)	-	-	外面と内面はナデ	
1350	SB8 P5	〃 〃	20.4	(5.5)	-	-	口縁端部は外方に摘み出す。外面と内面はナデ	
1351	SB8 P8	石製品 石包丁	8.3	6.1	-	1.6	重量94.5g。表面は自然面で、両側は抉り状を呈する。	
1352	SB9 P2	- 鉢	-	(5.5)	-	-	外面はタタキ後ナデ。内面はハケ、ナデ	
1353	〃	土製品 支脚	上部径 7.2	4.8	-	8.2	上面及び底面の中央部にかけて凹状を呈する。指頭圧痕、ナデ	
1354	SK1	弥生土器 壺	13.8	(4.9)	-	-	口唇部はナデ、外面はハケ後一部ミガキ、内面はハケ後ミガキ	
1355	SK6	〃 〃	-	(7.3)	-	-	内外面、ハケ	煤付着 搬入品か
1356	〃 床面	〃 〃	14.6	(4.9)	-	-	外面ハケ。内面、ハケ後ミガキ。口縁端部、ナデ。被熱変色	
1357	SK6	〃 〃	-	(10.3)	-	-	外面、ハケ後ミガキ。内面、ハケ後ナデ、粘土紐接合痕跡あり。黒斑	
1358	〃	〃 甕	14.6	(21.7)	19.1	-	外面タタキ後ナデ。内面ハケ。肩部内面に粘土紐接合痕跡。被熱変色。残存率、良好	外面に煤付着
1359	〃	〃 〃	15.8	20.6	16.7	2.8	丸底。口縁部、摘み上げ。外面、タタキ後ハケ。内面、粘土紐接合痕跡。被熱変色。残存率、良好	外面に煤付着
1360	〃	〃 〃	16.3	21.3	17.9	1.4	「く」の字状口縁。体部、球形指向。丸底。外面、タタキ後ハケ。内面、ハケ。残存率、良好	煤付着
1361	〃	〃 〃	14.1	18.8	16.9	-	丸底。外面、タタキ後ハケ。内面、ハケ後ナデ。被熱変色。吹きこぼれ痕。残存率、良好	煤付着
1362	〃	〃 〃	18.5	26.3	21.3	4.2	「く」の字状口縁。丸底。外面、タタキ後ハケ。内面、ハケ後ナデ。被熱変色。残存率、良好	煤付着
1363	〃	〃 〃	15.8	25.9	20.1	-	口縁部、摘み上げ。丸底。体部外面、タタキ後ハケ。内面、ハケ。内面、粘土紐接合痕跡。被熱変色	1359と類似
1364	〃	〃 〃	14.3	21.0	18.0	-	口縁部を摘み上げ。外面、タタキ。口縁部外面ハケ、体部上半はハケ、ナデ。内面はハケ。被熱変色	外面に煤付着
1365	ST38床 面・SK6	〃 〃	16.2	24.0	20.4	1.3	口縁部、摘み上げ。丸底。外面、タタキ後ハケ。内面、ハケ後ナデ。肩部内面、ヨコハケ。被熱変色	外面に煤付着
1366	SK6	〃 〃	-	(20.2)	18.0	-	丸底。外面、タタキ後ハケ、ナデ。内面、ハケ、ナデ。器面、荒れる。被熱変色	外面に煤付着

遺物観察表56

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1367	SK6	弥生土器 甕	14.6	(3.4)	-	-	口縁端部を摘み上げ。外面, ナデ。内面, ハケ, 頸部ケズリ。庄内式土器の模倣品。やや摩滅	煤付着
1368	〃	〃 小型甕	-	(12.1)	10.4	1.6	底部は角に丸みを持った平底。外面, ハケ。内面, ナデ	外面に煤付着
1369	〃	〃 鉢	22.0	(10.2)	-	-	口縁部, 外反。外面, タタキ後ハケ。内面, ハケ後ミガキ	
1370	〃	〃 〃	29.8	18.2	-	2.8	片口鉢か。丸底。口縁部, 外反。外面, タタキ後ハケ。内面, ハケ後ミガキ。摩滅	煤付着
1371	〃	〃 〃	12.8	6.3	-	-	丸底。外面, タタキ後ナデ。底部, ハケ, ケズリ。内面, ハケ, ミガキ。残存率, 良好	
1372	〃	〃 〃	13.0	6.2	-	-	丸底。外面, タタキ後ナデ。外底面, ケズリ。内面, ハケ。被熱変色	煤付着
1373	〃	〃 〃	16.8	7.7	-	-	丸底。タタキ後ハケ。内面, ハケ後ミガキ	
1374	〃	〃 甌	-	(9.7)	-	3.6	外面, タタキ後ナデ。内面, ハケ。底部, 焼成前穿孔。被熱変色。器面, 荒れる。ほぼ完存	煤付着
1375	〃	〃 高杯	20.9	(6.6)	-	-	外面, ミガキ。内面, ハケ後ミガキ。被熱変色	煤付着
1376	〃	〃 〃	-	(10.1)	-	18.1	外面, ハケ後ミガキ。内面, ハケ。脚裾部, ヨコナデ。分割成形。被熱変色	煤付着
1377	〃	ミニチュア土器	7.0	4.3	-	4.4	平底。口縁部, 外反。外面, タタキ後ナデ。内面, ナデ。外面, 亀裂。黒斑。ほぼ完存	
1378	〃	弥生土器 -	-	(1.5)	-	3.1	外面, ナデか。外底面, 断続的に円を描くように工具痕。内面, ナデ	搬入品
1379	SK6 床面	ミニチュア土器	7.3	1.9	-	(2.6)	内外面, ナデ。亀裂	
1380	SK6	土製品 管状土錘	3.5	7.2	-	4.0	孔径1.4cm。外面, ナデ。被熱変色。ほぼ完存	煤付着
1381	〃	石製品 叩石	12.8	11.3	-	3.8	重量946.8g。扁平な自然石を使用。両面中央部, 側面に敲打痕。完存	
1382	〃	〃 〃	14.6	7.3	-	5.1	重量624.5g。棒状。断面三角形。一部に敲打痕。完存	
1383	〃	〃 磨石	12.1	9.3	-	3.3	重量521.6g。扁平な自然石。全面が平滑, 一部は凹むが加工によるものか, 自然のものか不明である。完存	
1384	SK7	弥生土器 壺	18.3	(3.3)	-	-	口唇部は平坦面を呈する。外面はハケ, ナデ。内面は摩耗	
1385	〃	土製品 支脚	-	(11.1)	-	-	中空。外面はハケとナデ, 内面は強いユビナデ	
1386	SK9	弥生土器 壺	-	(3.2)	-	5.4	底部外面にはタタキ。外面はハケ, 内面は指頭圧痕及びナデ	
1387	〃	土製品 支脚	-	(3.2)	-	-	外面はケズリとハケ, 底部はナデ	
1388	〃	〃 〃	-	(6.6)	-	7.6	中実。外面は指頭圧痕及び工具によるナデ	
1389	〃	石製品 叩石	(13.1)	7.4	-	3.7	重量549.0g。砂岩製。周縁部には敲打痕がみられる。	
1390	SK11	土師器 皿	13.1	2.7	-	-	口縁端部は強い横方向のナデ。外面は指頭圧痕, ナデ。内面はナデ	
1391	〃	土師質土器 羽釜	18.5	(9.7)	-	-	播磨型釜。断面三角形の鍔が巡る。体部外面はタタキ後ナデ, 内面は丁寧なナデ	外面には煤

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1392	SK13	弥生土器 甕	15.6	(7.7)	-	-	口縁部は緩やかに外反する。外面はタタキ後口縁部はナデ、内面はナデを施す。	
1393	〃	〃 鉢	12.8	7.9	-	3.4	平底状。口縁部は斜め上方にのびる。外面は口縁部までタタキ。内面はハケ後、底部にかけてユビナデ	
1394	SK16	〃 〃	10.0	3.7	-	1.6	外面口縁部はナデ、底部は指頭圧痕。内面はナデ、ユビナデ	
1395	〃	〃 〃	12.6	3.7	-	4.0	皿状。外面はナデ、底部指頭圧痕。内面はナデ	
1396	〃	〃 〃	18.4	7.4	-	1.7	外面はタタキ後ナデ、底部は指頭圧痕が顕著。内面はナデ	
1397	〃	土師器 皿	9.9	2.8	-	6.6	外面は指頭圧痕とナデ、内面はナデ。口縁部は横方向の丁寧なナデ	
1398	〃	〃 〃	14.9	3.4	-	-	外面内面は指頭圧痕とナデ。口縁部は横方向のナデ	
1399	〃	国内産陶器 皿	10.6	2.0	-	6.1	丸皿あるいは稜皿。外面内面は鉄釉	
1400	〃	土製品 土錘	5.9	3.2	-	3.0	重量 53.5g。孔径 0.8cm。管状。外面ナデ	
1401	SK22	弥生土器 鉢	11.0	3.0	-	3.8	外面内面ともにナデ。底部外面はやや凹状を呈する。	
1402	SK27	石製品 台石	48.9	26.7	-	13.7	重量 25.5kg。中央部は凹む。凹み部分周囲には使用痕、周縁部の一部には敲打痕がみられる。	
1403	SK29	弥生土器 壺か	31.6	(1.5)	-	-	口唇部には貝殻状の刺突を施す。外面と内面はナデ	
1404	〃	〃 鉢	7.4	4.7	-	3.0	外面はタタキ後口縁部はナデ、内面は指頭圧痕及びナデ	
1405	〃	〃 〃	10.5	(6.6)	-	-	外面はタタキ後ナデ、内面はハケ	
1406	〃	金属製品 鉈か	3.7	1.3	-	0.3	重量 5.1g	
1407	SK34	土師器 椀	12.0	4.5	-	2.6	底部丸底。外面ナデ、内面ナデ	
1408	SK38	弥生土器 鉢	20.7	8.4	-	2.7	外面は丁寧なミガキ、内面は、口縁端部はナデで体部から底部はミガキを施す。	
1409	SD4	須恵器 甕	21.0	(3.2)	-	-	口縁部は外反し、端部は玉縁状。外面内面はナデ	
1410	SD5	土師器 甕	16.2	(5.9)	-	-	口縁部は外反し、頸部にかけて器壁厚い。外面は丁寧なナデ、内面は口縁部ナデ、頸部下はケズリ、ナデ	
1411	〃	〃 甕又は甕	26.8	(4.3)	-	-	外面はハケ、ナデ	
1412	〃	〃 椀	12.0	5.9	-	-	器壁は厚い。丸底状。外面内面はナデ	
1413	〃	須恵器 杯蓋	14.5	(3.3)	-	-	外面は天井部は回転ケズリ、口縁部から内面は回転ナデ	
1414	〃	〃 杯身	10.0	3.0	-	7.1	立ち上がりは内傾し短くのび、受部は断面三角形状を呈する。外面内面は回転ナデ	
1415	〃	土製品 不明	4.0	1.7	-	1.6	重量 10.6g。下半部は欠損。外面は指頭圧痕とナデ、径約 0.65cmの円孔を施す。	
1416	〃	石製品 不明	4.0	3.0	-	1.1	重量 19.3g	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1417	SD7	弥生土器 壺	15.4	(5.0)	-	-	口唇部は平坦面を呈する。外面はハケ、ナデ。内面はハケ	
1418	〃	須恵器 甗	-	(3.7)	-	-	外面と内面はナデで、円孔の一部がみられる。孔径1.3cm	
1419	〃	石製品 石包丁	6.6	4.6	-	1.1	重量 44.0g。打製石包丁。砂岩製。表面は自然面で、両側は挟り状を呈する。	
1420	SD8	白磁 皿	10.5	1.7	-	-	口縁端部は釉剥ぎ	
1421	〃	瓦質土器 釜	-	(6.0)	-	-	断面台形状の鍔が巡る。口縁端部は平坦面を呈する。外面は指頭圧痕、ナデ	
1422	SD10	須恵器 蓋	13.4	(3.7)	-	-	外面内面は回転ナデを施す。	
1423	SD11	土師器 皿	10.9	2.7	-	6.6	手づくね皿。外面内面は指頭圧痕、ナデ。口縁端部は強いヨコナデ	
1424	〃	瓦質土器 摺鉢	20.0	(5.4)	-	-	口縁端部は平坦面を呈し、内面は5条の摺目がみられる。外面は指頭圧痕、ナデを施す。	
1425	〃	〃 鍋	21.8	(10.2)	-	-	口縁部は直立してのびる。外面は指頭圧痕、ナデを施す。	底部外面は煤がつく
1426	〃	〃 〃	22.3	(10.9)	-	-	体部下半に段部あり。外面は粘土紐接合痕あり。外面は指頭圧痕、ナデ。内面はナデ	
1427	〃	石製品 石臼	(9.4)	(7.2)	-	(2.0)	重量 159.4g。下臼か。外面にはハツリが施される。	
1428	SD14	須恵器 蓋	16.7	2.8	-	-	外面内面は回転ナデを施す。	
1429	SD15	〃 〃	13.4	3.8	-	-	外面天井部には回転ケズリ、口縁部から内面には回転ナデを施す。	
1430	〃	白磁 皿	9.6	(2.6)	-	-	口縁端部は釉剥ぎ、口縁部下半部まで施釉	
1431	〃	〃 碗	-	(1.4)	-	3.8	削り出し高台を呈し、高台と内面見込み部分は露胎。白濁色の釉	
1432	〃	土師質土器 羽釜	20.2	(3.0)	-	-	断面三角形の鍔が巡り、口縁端部は面取り状を呈する。外面はタタキ。外面は口縁部ナデ、内面ナデ	
1433	〃	土製品 土錘	5.5	2.7	-	2.1	重量 29.4g。管状を呈し、外面はナデ。孔径 0.8cm	
1434	〃	石製品 叩石	10.1	7.3	-	2.5	重量 269.7g。砂岩製。両面中央部と周縁部に敲打痕がみられる。	
1435	SD21	須恵器 杯身	-	(3.1)	-	-	立ち上がりは内傾してのび、受部は断面三角形を呈する。外面内面は回転ナデ	
1436	〃	土師器 皿	13.2	4.5	-	9.2	手づくね皿。外面内面ともに指頭圧痕、丁寧なナデ。口縁端部はヨコナデ	
1437	SD22	- 壺	12.6	(2.6)	-	-	口縁部は外反し、口唇部は平坦面を呈する。器壁は薄い。外面はナデ、内面は摩耗	
1438	〃	弥生土器 高杯	-	(4.2)	-	17.2	外面はハケ、裾端部はナデ。内面はハケ、ナデ。高杯あるいは器台である。	
1439	〃	土製品 支脚	-	(5.4)	-	7.4	外面はタタキ、指頭圧痕。内面は指頭圧痕、ナデ	
1440	〃	須恵器 直口壺	12.8	(6.9)	-	-	口縁部外面と内面はナデ、頸部内面は同心円文がみられる。	
1441	SD24	白磁 皿	11.2	(2.0)	-	-	口縁端部は釉剥ぎ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1442	SD24	青磁 碗	-	(2.0)	-	6.2	削り出し高台	
1443	〃	石製品 石包丁	7.1	5.2	-	1.1	重量 39.9g。打製石包丁。砂岩製。表面は自然面で両側は挟り 状を呈する。	
1444	〃	金属製品 不明	(3.4)	1.6	-	0.6	重量 4.5g	
1445	SD25	ミニチュア土器	4.5	3.0	-	-	外面は指頭圧痕が顕著。径 0.6cm の穿孔が途中までみられる。	
1446	〃	土師器 皿	13.8	4.3	-	6.2	手づくね皿。外面と内面は指頭圧痕、ナデ。口縁端部は横方 向の強いナデ	
1447	〃	〃 〃	12.6	(3.6)	-	-	手づくね皿。外面と内面は指頭圧痕、ナデ。口縁端部は横方 向の強いナデ	
1448	〃	土師質土器 杯	-	(3.4)	-	7.0	底部外面は回転糸切り痕。外面内面は回転ナデ	
1449	〃	青磁 皿	-	(2.0)	-	-	同安窯系青磁。内面見込みには櫛描文	
1450	〃	瓦質土器 鍋又は釜	23.7	(6.1)	-	-	扁平な鍔を貼付。外面は指頭圧痕、ナデ。内面はナデ	
1451	SD26 床面集石	弥生土器 壺	-	(17.3)	-	5.0	外面はハケ、ナデ。内面はハケ、ナデ	
1452	SD26	〃 高杯	-	(8.9)	-	15.6	中空。外面はハケ、ナデ。内面はナデ。4カ所には径約 0.8cm の 円孔が施される。	
1453	〃	土製品 支脚	-	(8.1)	-	-	外面はタタキ後指頭圧痕、ナデ。内面はハケ、ナデ、指頭圧痕	
1454	〃	須恵器 杯身	13.1	4.0	-	5.0	立ち上がりは内傾してのび、受部は断面三角形状を呈する。 外面は底部回転ケズリ。内面は回転ナデ	
1455	〃	〃 杯蓋	17.1	2.6	-	-	扁平な宝珠状のつまみをもつ。外面は天井部に一部ケズリ、 ナデ。内面はナデ	
1456	〃	〃 杯	-	(2.9)	-	12.0	底部外面に断面方形の高台がつく。外面内面ともにナデ	
1457	〃	〃 鉢	25.6	(6.5)	-	-	外面内面ともにナデ。鉢あるいは器台である。	
1458	〃	〃 高杯	-	(11.3)	-	13.2	対極に透かしを設ける。外面内面ともに回転ナデ	
1459	〃	〃 硯	陸部径 11.2	6.6	-	18.7	円面硯。外堤 0.8cm。陸部はほぼ平坦面。脚部の透かしは 17カ 所と推定。海部は強いナデ、陸部内面はヘラケズリ、ナデ	透かし部分に は歪み
1460	〃	〃 〃	-	(5.6)	-	-	円面硯。脚台部には 8~9カ所の透かしが推定	
1461	〃	〃 壺	14.0	(5.1)	-	-	外面内面ともにナデ。頸部内面には同心円文がみられる。焼 成不良	
1462	〃	緑釉陶器 皿	12.2	(3.1)	-	-	口縁部は外上方に広がる。外面内面はナデ	
1463	〃	青磁 皿	-	(2.3)	-	4.3	高台畳付及び内面は露胎。内面見込みには円状の印刻文	
1464	〃	〃 碗	-	(2.7)	-	6.6	底部は削り出し高台を呈する。外面には蓮弁文	
1465	〃	瓦質土器 釜	24.3	(6.0)	-	-	口縁部下に扁平な三角形の鍔が巡る。外面は指頭圧痕、ナ デ。内面はナデ	
1466	〃	備前焼 播鉢	-	(7.1)	-	14.3	外面はナデ。内面には 10 条単位の摺目	

遺物観察表 60

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1467	SD26	瓦 平瓦	(22.7)	(21.4)	-	2.4	凸面縄目痕, ナデ。凹面布目痕, ナデ	
1468	〃	〃 〃	(16.8)	(13.1)	-	1.9	凸面は縄目痕, 凹面はナデ	
1469	〃	〃 〃	(14.5)	(13.8)	-	1.9	凸面縄目痕, ナデ。凹面布目痕, ナデ	
1470	〃	土製品 土錘	(5.4)	4.9	-	4.3	重量104.5g。外面は指頭圧痕, ナデ。0.6~0.7cmの穿孔	
1471	〃	石製品 石包丁	6.5	4.5	-	1.0	重量36.0g。砂岩製。打製石包丁。表面は自然面で両側は挟り状を呈する。	
1472	〃	〃 〃	7.9	5.6	-	1.6	90.0g。砂岩製。打製石包丁。表面は自然面。両側は挟り状を呈する。	
1473	〃	〃 剥片	7.5	7.4	-	1.4	104.9g。砂岩製	
1474	〃	〃 砥石	(9.6)	5.1	-	2.5	重量207.6g。四面に使用痕	
1475	〃	〃 不明	11.7	10.9	-	4.5	重量629.7g。中央部は凹みがみられる。	
1476	〃	〃 磨石	14.8	6.3	-	3.3	重量482.1g。砂岩製。中央部周辺に敲打痕あり。	
1477	P1	弥生土器 甕	-	(7.5)	-	2.0	外面はタタキ後ハケとナデ。内面はハケとナデ	
1478	P2	〃 〃	13.8	(8.6)	14.2	-	外面はタタキ後ハケとナデ。内面は口縁部ハケ, 体部はナデと粘土紐接合痕がみられる。	外面には煤が付着
1479	〃	〃 鉢	11.0	6.1	-	-	底部丸底。外面はナデ, 底部近くは工具によるナデ。内面は丁寧なハケ	
1480	〃	〃 〃	12.2	7.7	-	3.4	完形。平底で一部凹状を呈する。外面はミガキとナデ, 内面は口縁部はハケ, 体部から底部はハケ後丁寧なナデ	
1481	〃	〃 高杯	19.9	(6.7)	-	-	外面はハケとミガキ。内面はハケと丁寧なミガキ	
1482	〃	〃 〃	-	(8.5)	-	15.4	外面はナデとミガキ。内面はハケとナデ。4ヶ所には円孔を穿つ。	
1483	〃	〃 〃	-	(4.7)	-	17.7	脚部。外面は丁寧な横方向のミガキ, 内面は柱部はナデ, 裾部はハケとナデ。4ヶ所に円孔が施される。	
1484	P3	土師質土器 杯	12.2	3.8	-	6.8	底部外面は回転糸切り痕。外面は回転ナデ, 内面は摩耗	
1485	P4	土師器 甕	20.4	(5.9)	-	-	口縁部は外反する。外面内面ともにナデ	
1486	P5	弥生土器 壺	15.0	(8.9)	-	-	外面は口縁部はハケとナデ。内面はハケとナデ	
1487	P6	〃 鉢	15.3	9.4	-	-	外面はナデ, 体部下半部はヘラケズリとナデ, 内面は丁寧なハケ。厚みのある器壁	
1488	P7	土製品 土錘	4.9	3.4	-	3.2	重量55.2g。孔径0.6cm。管状を呈する。指頭圧痕及びナデ	
1489	P8	- 硯	(4.4)	7.4	-	1.9	側縁部はミガキ	
1490	P9	土師器 皿	12.4	2.8	-	6.5	手づくね成形。口縁部外面内面は横方向のナデを施す。外面は指頭圧痕とナデ。内面は丁寧なナデ	
1491	P10	弥生土器 鉢	15.1	7.5	-	3.7	外面は下半部はタタキが認められる。口縁部はナデ, 内面はハケ及びナデ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1492	P11	弥生土器 壺	15.6	4.5	-	-	外面は口唇部ナデ, 口縁部は細かいハケ。内面はナデ, ハケ	
1493	P12	土師器 カマド	5.7	(7.1)	-	3.9	外面はケズリ状の強いナデで, 内面はナデ	
1494	P13	土製品 支脚	(8.0)	7.5	-	-	中空。外面はタタキ後指頭圧痕及び工具による圧痕がみられる。内面はナデ	
1495	P14	弥生土器 甕	26.9	(15.1)	27.8	-	外面はタタキ後ハケとナデ, 内面は口縁部から体部上半部までハケ	
1496	〃	〃 〃	13.4	(7.0)	-	-	外面はタタキ後口縁部から頸部はハケ, 内面は口縁部ハケで頸部から体部はハケ, ナデ	
1497	〃	〃 〃	-	(13.0)	15.9	3.2	底部平底状を呈する。外面はタタキ後縦方向の粗いハケ, 内面はハケ, ナデ	
1498	〃	〃 鉢	10.8	4.3	-	0.8	外面はタタキ後ナデ, 内面はナデ, 一部ミガキ	
1499	〃	土製品 支脚	-	(7.3)	-	10.4	中空。外面はタタキ後指頭圧痕とナデ, 内面は指頭圧痕, ナデ。裾部はハケ	
1500	〃	〃 〃	-	17.8	-	-	中空。外面は指頭圧痕とハケ, ナデ, 内面はナデ, ハケ	
1501	P15	石製品 石包丁	7.7	4.1	-	1.2	重量 53.0g。砂岩製。表面は自然面で, 側辺の一部に挟り状を呈する。	
1502	P16	土師器 皿	15.2	3.6	-	8.0	手づくね成形。口縁部は強いヨコナデ, 外反。外面内面は指頭圧痕	
1503	P17	土師質土器 杯	11.2	3.5	-	6.0	底部外面は回転糸切り痕。外面内面は回転ナデ	
1504	P18	土師器 皿	7.6	2.0	-	1.3	手づくね成形。外面内面ともに指頭圧痕, ナデ	
1505	P19	石製品 石包丁	9.2	5.1	-	1.4	重量 88.7g。砂岩製。打製石包丁。表面は自然面で側辺の一部を打ち欠く。	
1506	P20	弥生土器 鉢	18.7	10.6	-	3.9	底部外面はタタキが認められる。口縁部外面は丁寧なハケ, ナデ, 指頭圧痕。内面は丁寧なハケ, ナデ	
1507	P21	土師器 椀	-	(3.0)	-	6.2	底部外面逆台形状の輪高台を貼付する。外面は回転ナデで高台脇は回転ケズリ。内面は摩耗	
1508	P22	〃 皿	7.9	1.7	-	-	手づくね成形。内外面は指頭圧痕とユビナデ	
1509	P23	弥生土器 壺	-	(44.4)	40.8	7.0	底部は平底。外面はタタキ後丁寧なハケと縦方向のミガキ。内面は丁寧なハケ	
1510	P24	土師器 皿	13.8	3.7	-	6.0	手づくね成形。口縁部は横方向の強いナデ。外面内面ともに指頭圧痕及びナデ	
1511	SX1	石製品 鍋	24.0	(4.6)	-	-	重量 195.7g。口縁部直下に断面台形状の鑊を削り出す。外面はケズリ	
1512	SX2	弥生土器 壺	17.2	4.0	-	-	口唇部は上方に拡張し, ハケ状原体での烈点文。外面は丁寧なハケ, 内面はハケとナデ	
1513	〃	- 鉢	20.6	(5.1)	-	-	口縁端部は外反。外面内面はナデ。体部は外面は丁寧なハケ	
1514	〃	- -	11.6	(6.1)	-	-	手づくね成形。外面内面に指頭圧痕, ナデ	
1515	〃	須恵器 甕	23.0	(2.4)	-	-	口縁部には沈線が巡る。外面内面はナデ	
1516	SX9	弥生土器 壺	23.7	(3.4)	-	-	口唇部はハケ状原体の文様と竹管文。外面はミガキ, 内面はナデ	

遺物観察表 62

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1517	SX9	弥生土器 甕	15.1	(12.3)	18.0	-	外面はタタキ後ナデ, 内面は口縁部はハケ, 頸部から体部は指頭圧痕, ナデ	外面に煤付着
1518	〃	〃 〃	12.2	(15.1)	12.0	-	外面はタタキ後口縁部ハケ, 内面は口縁部はハケ, 頸部から底部はハケ後ナデ	外面に煤付着
1519	〃	〃 鉢	-	(6.5)	-	3.0	外面はタタキ後ナデ, 内面はハケ, ナデ	
1520	〃	〃 甕	-	(22.2)	17.1	3.2	外面はタタキ後口縁部はハケ, 内面はハケ, ナデ	外面に煤付着
1521	〃	〃 〃	13.9	21.8	15.0	2.4	外面はタタキ後口縁部と体部下半部はハケ, 内面は口縁部ハケ, 頸部から底部はハケ, ナデ	外面に煤付着
1522	SX10	土師器 甕	18.9	32.2	24.0	8.3	外面は口縁部ナデ, 体部は丁寧なハケ。内面は口縁部から体部上半部はナデ, 体部下半部はケズリ	
1523	〃	須恵器 甕	17.4	27.5	28.5	-	口縁端部は玉縁状。全体に摩耗。頸部から体部外面に平行のタタキ痕, 内面は体部から底部にかけ同心円文	
1524	包含層	弥生土器 壺	18.3	(7.7)	-	-	二重口縁。口唇部は刻目, 二次口縁外面に櫛描波状文。突出部外面に櫛描波状文, 2個一対の竹管浮文, 刻目	
1525	〃	〃 〃	16.2	(4.8)	-	-	二重口縁壺。外面はミガキ, 内面は摩耗, 一部ミガキ	Ⅲ層
1526	〃	〃 〃	15.2	(5.9)	-	-	二重口縁。外面内面ともに丁寧なナデ	
1527	〃	〃 〃	18.0	(6.0)	-	-	複合口縁。口唇部は刻目。外面内面はハケ, ナデ	Ⅱ層
1528	〃	〃 〃	20.2	(1.7)	-	-	口唇部ナデ, 外面内面ともにナデ	Ⅱ層
1529	〃	〃 〃	21.0	(2.0)	-	-	口唇部は肥厚する。外面内面はナデ, 内面に一部ハケ	Ⅲ層
1530	〃	〃 〃	-	(4.9)	-	-	頸部には粘土帯を貼付, 格子状の刻目。外面はハケ, 内面はハケ, ナデ	Ⅲ層
1531	〃	〃 〃	-	(2.0)	-	-	口唇部は櫛描の波状文。外面はハケ及びナデ。内面は横方向のミガキ	Ⅱ層
1532	〃	〃 〃	21.7	(2.7)	-	-	口唇部はハケ状原体を格子状に刺突。外面はナデ, 内面はハケ, ナデ, ミガキ	Ⅲ層
1533	〃	〃 〃	21.0	(5.1)	-	-	口唇部は平坦面を呈する。外面はハケとナデ, 内面は摩耗するが一部ハケ	Ⅲ層
1534	〃	〃 〃	16.2	(8.1)	-	-	外面は頸部までタタキ後口縁部はハケ, ナデ。内面は口縁部はナデ, 頸部から体部はハケ	Ⅱ層
1535	〃	〃 〃	15.7	7.1	-	-	口縁部は外反し, 口唇部は刻目状の文様。外面は縦方向のハケ, 内面は横方向のハケ	Ⅲ層
1536	〃	〃 〃	16.0	(6.6)	-	-	口縁部は外反し, 外面はナデ, 内面はナデ, 頸部にはハケ	Ⅲ層
1537	〃	〃 〃	-	(27.1)	31.5	3.8	外面はタタキ後ハケ, 体部下半部はミガキ。内面はハケ, ナデ, 体部下半部から底部にかけユビナデ	Ⅲ層
1538	〃	〃 甕	16.4	(13.2)	21.6	-	外面はタタキ後口縁部はナデ, 内面は口縁部ナデ, 体部は指頭圧痕, ナデ。頸部には粘土紐接合痕あり。	北壁TR 外面に煤付着
1539	〃	〃 〃	15.6	(10.3)	18.8	-	外面は口縁部までタタキ後ナデ, 内面は口縁部はハケ, 頸部から体部はユビナデ	Ⅲ層
1540	〃	〃 〃	12.6	(8.6)	15.8	-	外面はタタキ後ハケ, 内面はハケ, ナデ	
1541	〃	〃 〃	14.9	(12.7)	21.0	-	口縁部「く」の字状。外面頸部までタタキ, 内面は口縁部ハケ, 体部はナデ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1542	包含層	弥生土器 甕	14.9	20.9	15.1	2.8	口縁部「く」の字状。外面頸部までタタキ、頸部から底部までハケ。内面は口縁部ハケ、体部はナデ	外面に煤付着
1543	〃	〃 〃	14.8	(4.3)	-	-	外面内面はハケ、ナデ	II層
1544	〃	〃 〃	13.4	(5.9)	-	-	口縁部は「く」の字状を呈し、外面は頸部までタタキ後ハケ、内面はハケ	西TR
1545	〃	〃 〃	-	(15.4)	-	2.0	外面はタタキ後ハケ、内面はナデ、体部はハケ、底部付近は指頭圧痕	III層
1546	〃	〃 〃	-	(33.9)	29.0	3.6	底部は丸底状。外面は体部上半部までタタキ後ハケ、頸部外面はハケ。内面はハケ、ナデ	III層
1547	〃	〃 甕又は鉢	-	(2.9)	-	3.7	底部平底状を呈する。外面はナデ。内面はナデ。格子目状の文様	III層
1548	〃	〃 〃	-	(7.3)	-	3.0	外面はタタキ後ハケ、内面はハケ、ナデ	外面に煤付着
1549	〃	〃 〃	-	(4.7)	-	2.2	外面はタタキ後ナデ、底部側面は強いナデ。内面はナデ	TR
1550	〃	〃 鉢	8.3	4.0	-	3.4	底部は平底状を呈する。外面ナデ。内面はハケ、ナデ	II層
1551	〃	〃 〃	9.7	5.7	-	1.4	外面内面ともにナデ	
1552	〃	〃 〃	10.6	7.3	-	3.0	底部は平底状を呈する。外面は指頭圧痕、ナデ、内面はハケ、ナデ	
1553	〃	〃 〃	12.1	6.9	-	1.5	外面はタタキ後ナデ、内面は口縁端部は細かいハケ、体部は粗いハケ	
1554	〃	〃 〃	12.8	8.7	-	1.0	外面はハケ、ナデ、内面は丁寧なハケ、ナデ	III層
1555	〃	〃 〃	15.9	9.3	-	1.6	外面内面ともにハケ、ナデ	
1556	〃	〃 〃	20.0	6.4	-	-	口縁端部はナデ。外面はタタキ後ハケ、ミガキ。内面はハケ後ミガキ	
1557	〃	〃 〃	15.0	10.3	-	3.2	外面は口縁部から頸部はナデ、体部下半部にかけてハケ。内面は口縁部ハケ、ナデ	III層
1558	〃	小型丸底鉢	11.7	(5.6)	-	-	外面はナデで一部ミガキ。内面はナデ、粘土紐接合痕	III層
1559	〃	弥生土器 鉢	14.2	8.2	-	1.0	口縁部は外反する。外面はナデ、一部タタキ。内面は指頭圧痕、ナデ	
1560	〃	〃 〃	10.4	7.0	-	4.0	外面はタタキ後ナデ、口縁部はナデ。内面はナデ	西壁TR
1561	〃	〃 台付鉢	8.8	13.9	-	11.5	口縁部は外反する。外面は体部下半部はハケ、ナデ。内面はナデ。脚部外面はハケとナデ。内面はナデ	III層
1562	〃	〃 高杯	-	(3.5)	-	-	外面は丁寧なミガキ。内面は摩耗。孔径0.8cmの円孔を施す。	III層
1563	〃	〃 〃	-	(8.6)	-	13.6	中空。柱部外面は縦方向のナデ、裾部はハケとナデ。内面はハケとナデ。4カ所に孔径0.8cmの円孔を施す。	
1564	〃	〃 〃	-	(5.5)	-	-	外面は丁寧なミガキ、ナデ。内面はハケ。孔径0.9cmの円孔を施す。	II層
1565	〃	〃 〃	22.2	(5.6)	-	-	外面には一部ミガキ。内面はナデ	
1566	〃	〃 〃	-	(6.1)	-	-	外面内面ともに摩耗	II層

遺物観察表64

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1567	包含層	弥生土器 甌	-	(2.6)	-	2.5	外面はタタキ。内面は指頭圧痕, ナデ。孔径0.7cm大の円孔を施す。	II層
1568	〃	〃 〃	-	(5.8)	-	-	底部には孔径0.8cm大の円孔を施す。外面はナデ。内面はハケと指頭圧痕	III層
1569	〃	土製品 土玉	2.8	2.8	-	2.0	重量14.3g。中央部に孔径0.4cmの円孔	
1570	〃	〃 支脚	(7.0)	(4.0)	-	3.0	外面は指頭圧痕, ユビナデ。内面は指頭圧痕, ナデ	III層
1571	〃	〃 〃	(8.8)	3.2	-	3.4	外面は指頭圧痕, ナデ	II層
1572	〃	〃 〃	上部径 6.7	5.1	-	7.7	中空。外面内面ともに指頭圧痕, ナデ	II層
1573	〃	〃 〃	-	(5.8)	-	12.6	外面は丁寧なハケ。内面はハケ, 指頭圧痕, ナデ	
1574	〃	〃 〃	-	(8.3)	-	8.5	外面はタタキ後ユビナデ。内面はユビナデ	III層
1575	〃	〃 〃	-	(8.5)	-	7.7	中空。外面はタタキ, 指頭圧痕, ナデ。内面は指頭圧痕, ナデ	III層
1576	〃	弥生土器 高杯	-	(3.3)	-	20.0	外面はハケとミガキ。内面はナデ。円孔を施す。	III層
1577	〃	土器 甕	17.4	(11.9)	23.6	-	口縁部は外反する。口縁部は外面内面ともにナデ, 頸部下は粘土紐接合痕	
1578	〃	〃 〃	18.7	(11.6)	18.0	-	口縁部は外反する。外面はナデ, 内面はナデ	III層 外面に煤付着
1579	〃	〃 〃	19.0	(7.8)	-	-	口唇部は丸くおさめる。外面は指頭圧痕及びナデ, 内面は口縁部ナデで頸部から体部はケズリ	III層
1580	〃	〃 〃	18.0	(4.2)	-	-	外面内面ともにナデ	
1581	〃	〃 〃	23.5	(4.0)	-	-	口唇部はナデ, 外面内面ともにナデ	III層
1582	〃	〃 甌	-	(7.9)	-	8.4	外面内面ともにナデ	
1583	〃	〃 〃	26.5	27.8	-	10.0	外面縦方向のハケ, 口縁端部と体部下半部はナデ。内面は横方向のハケ, 口縁端部と体部下半部は指頭圧痕, ナデ	III層。孔径0.9cmの円孔
1584	〃	〃 〃	-	(2.8)	-	2.0	外面はナデ。内面は指頭圧痕, ナデ。4カ所に孔径0.7cmの円孔を施す。	II層
1585	〃	〃 甌把手	-	(7.7)	-	-	外面内面ともに指頭圧痕, ナデ	III層
1586	〃	〃 甌	27.2	(12.7)	-	-	外面はハケ, ナデ。内面はナデ	TR
1587	〃	須恵器 杯蓋	15.0	4.5	-	-	外面は天井部回転ケズリ, その他ナデ, 内面は回転ナデ	III層
1588	〃	〃 〃	15.2	4.3	-	-	外面天井部は回転ケズリ, その他は回転ナデ。内面には回転ナデ	II~III層
1589	〃	〃 〃	16.0	3.6	-	-	外面は天井部回転ケズリ, その他は回転ナデ。内面は回転ナデ	II層
1590	〃	〃 〃	18.8	4.9	-	-	天井部は回転ケズリ, その他は回転ナデ	II~III層
1591	〃	〃 〃	14.3	(4.7)	-	-	外面天井部は回転ケズリ, その他はナデ。内面は回転ナデ	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1592	包含層	須恵器 杯蓋	14.8	(4.0)	-	-	外面は天井部回転ケズリ, その他ナデ, 内面は回転ナデ	
1593	〃	〃 〃	15.4	3.8	-	-	外面天井部は回転ケズリ, その他はナデ。内面は回転ナデ	
1594	〃	〃 〃	16.4	(3.7)	-	-	外面内面は回転ナデ	II層
1595	〃	〃 〃	-	(3.6)	-	-	つまみ径3.0cm。外面内面は回転ナデ。外面に自然釉	
1596	〃	〃 〃	11.2	(3.9)	-	-	外面内面は回転ナデ	III層
1597	〃	〃 〃	12.1	(3.2)	-	-	外面内面は回転ナデ	II層
1598	〃	〃 〃	11.1	3.4	-	-	外面は天井部は回転ケズリ, その他はナデ。内面は回転ナデ	II層
1599	〃	〃 杯身	11.2	4.4	-	6.8	立ち上がりは内傾してのび, 受部は断面三角形状を呈する。外面は底部回転ケズリ, ナデ。内面は回転ナデ	II~III層/III層
1600	〃	〃 〃	13.4	4.3	-	-	立ち上がりは内傾してのびる。受部は断面三角形状を呈する。底部外面は回転ケズリ, 内面は回転ナデ	II層
1601	〃	〃 〃	11.6	(4.0)	-	-	立ち上がりは内傾してのびる。受部は断面三角形状を呈する。底部外面は回転ケズリ, 内面は回転ナデ	III層
1602	〃	〃 〃	12.5	(4.8)	-	-	立ち上がりは内傾してのびる。外面内面は回転ナデ	III層
1603	〃	〃 〃	13.2	4.1	-	-	立ち上がりは内傾してのび, 受部は断面三角形状を呈する。外面は底部回転ケズリ, 回転ナデ。内面は回転ナデ	III層
1604	〃	〃 〃	13.3	5.3	-	-	立ち上がりは内傾してのび, 受部は断面三角形状を呈する。外面は底部回転ケズリ, 回転ナデ。内面は回転ナデ	
1605	〃	〃 〃	12.4	3.0	-	5.6	立ち上がりは内傾してのび, 受部は断面三角形状を呈する。外面は底部回転ケズリ, 回転ナデ。内面は回転ナデ	III層
1606	〃	〃 〃	11.8	(2.8)	-	-	立ち上がりは斜め上方に内傾してのび, 受部は断面三角形状を呈する。外面は回転ケズリとナデ。内面は回転ナデ	III層
1607	〃	〃 〃	13.0	(3.5)	-	-	立ち上がりは内傾してのび, 受部は断面三角形状を呈する。外面内面ともに回転ナデ	III層
1608	〃	〃 〃	10.2	2.8	-	5.8	受部径11.8cm。立ち上がりは内傾して短くのびる。受部は断面三角形状を呈する。底部外面はケズリ。内面は回転ナデ	III層北壁TR
1609	〃	〃 〃	13.0	(3.2)	-	-	受部径15.4cm。立ち上がりは内傾して短くのび, 受部は断面三角形状を呈する。底部は回転ケズリ, 外面内面は回転ナデ	II~III層
1610	〃	〃 〃	-	(4.0)	-	3.6	受部径13.7cm。立ち上がりは内傾して短くのび, 受部端部は丸い。底部外面は回転ケズリその他は回転ナデ。内面は回転ナデ	III層
1611	〃	〃 〃	-	(2.0)	-	-	杯蓋と杯部が溶着している。自然釉がかかる。	II~III層
1612	〃	〃 杯	12.0	2.5	-	8.8	底部外面は回転ヘラ切り痕。外面内面は回転ナデ	II層/東壁
1613	〃	〃 杯身	7.8	4.0	-	-	杯身あるいは杯蓋。底部外面は回転ケズリ, 口縁部まで回転ナデ, 内面は回転ナデ	III層
1614	〃	〃 杯	-	(1.8)	-	6.1	底部外面には断面方形状の高台。外面回転ナデ。内面回転ナデ	II層
1615	〃	〃 〃	-	(2.9)	-	9.0	底部外面には高台がつく。外面は回転ナデ。内面は回転ナデ	III層
1616	〃	〃 〃	-	(2.9)	-	8.2	底部外面には断面方形状の高台。外面内面ともにナデ	III層北壁TR

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1617	包含層	須恵器 高杯	-	(7.0)	-	10.5	脚部には2ヵ所に孔径約0.6cmの円孔を施す。外面内面はナデ	II層
1618	〃	〃 〃	-	(3.9)	-	-	外面内面は回転ナデ	II層
1619	〃	〃 〃	-	(5.0)	-	-	外面には波状文。外面は回転ナデ, 内面は摩耗	II～III層
1620	〃	〃 壺	14.5	(2.0)	-	-	外面内面はナデ	
1621	〃	〃 〃	-	(2.6)	-	-	外面に櫛状工具による刺突。外面内面はナデ	III層
1622	〃	〃 〃	13.4	(5.7)	-	-	外面内面ともに回転ナデで外面には2条の沈線がみられる。	
1623	〃	〃 〃	-	(3.7)	-	13.0	外面はケズリ, ナデ。内面はナデ	III層
1624	〃	〃 〃	-	(7.0)	-	-	双耳壺か。断面三角形の突帯が巡る。外面内面は回転ナデ	II～III層
1625	〃	〃 甕	19.4	(11.1)	35.8	-	口縁部は外反し, 肩部に最大径をもつ。外面は平行のタタキ, 内面には同心円文	III層
1626	〃	〃 〃	20.8	(5.4)	-	-	口唇部は肥厚させる。外面内面は回転ナデ	II層
1627	〃	〃 〃	18.6	(4.1)	-	-	口唇部は丸くおさめる。外面内面ともに回転ナデ	II～III層
1628	〃	〃 〃	21.0	(6.8)	-	-	口縁端部は肥厚する。内外面回転ナデ	
1629	〃	〃 〃	-	(8.5)	-	-	外面は平行のタタキ。内面には同心円文	III層
1630	〃	〃 〃	-	(7.7)	-	-	外面には回転ハケ。内面にはナデ。底部外面には礫の一部が溶着	III層
1631	〃	〃 甕	-	(6.3)	-	-	外面は体部下半部はケズリ後ナデ。内面はナデ	III層
1632	〃	〃 提瓶	-	(8.3)	-	-	把手はかぎ状の突起。外面はハケ及び回転ナデ。内面はナデ	II～III層
1633	〃	土師器 皿	10.0	3.8	-	3.4	手づくね成形。口縁部は横方向のナデ。外面は指頭圧痕, ナデ。内面はナデ	
1634	〃	〃 〃	13.8	3.2	-	3.4	手づくね成形。口縁部は強い横ナデ, 外面は指頭圧痕, ナデ。内面は指頭圧痕, ハケ状原体によるナデ	II層
1635	〃	土師質土器 皿	6.8	1.9	-	4.1	底部外面回転糸切り痕。外面内面は回転ナデ	
1636	〃	土師器 椀	-	(2.9)	-	6.8	底部外面は断面台形状の高台を貼付。外面内面は摩耗	III層
1637	〃	土師質土器 杯	11.1	3.8	-	6.3	底部外面は回転糸切り痕。外面内面は回転ナデ	I層
1638	〃	〃 〃	-	(1.9)	-	6.0	底部外面は回転糸切り痕に板状圧痕がみられる。外面内面は回転ナデ	II層 外面に煤付着
1639	〃	〃 壺	-	(7.0)	-	7.0	底部外面は回転糸切り痕。外面はナデ, 内面はロクロ	
1640	〃	瓦器 椀	14.3	3.9	-	5.8	底部外面には扁平な高台を貼付。外面内面は摩耗	II～III層
1641	〃	瓦質土器 小型壺	6.9	(4.2)	8.8	-	口縁部は短く外反する。外面は摩耗。内面はナデ	III層

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1642	包含層	白磁 皿	13.0	2.1	-	7.8	内面見込みは蛇ノ目釉剥ぎ, 高台内は回転ケズリ痕	Ⅲ層
1643	〃	〃 碗	-	(2.7)	-	6.6	削り出し高台で外面は露胎	Ⅱ層
1644	〃	〃 〃	16.8	(2.1)	-	-	口縁部は玉縁状を呈する。	Ⅱ～Ⅲ層
1645	〃	〃 〃	-	(2.6)	-	-	口縁端部は玉縁状を呈する。	Ⅲ層
1646	〃	青磁 皿	14.6	(1.1)	-	-	口縁部は横方向にのびる。	Ⅱ層
1647	〃	〃 〃	-	(1.2)	-	4.8	内面には櫛描文。外面は露胎	Ⅱ層
1648	〃	〃 〃	10.4	2.4	-	5.2	内面見込み部分に文様。底部外面は露胎	Ⅱ～Ⅲ層
1649	〃	〃 碗	-	(2.6)	-	6.2	内面見込みに印刻文がみられる。高台内は蛇ノ目釉ハギ	
1650	〃	〃 〃	-	(3.1)	-	6.4	高台畳付まで施釉し, 高台内は露胎	Ⅱ層
1651	〃	〃 〃	-	(4.1)	-	-	外面は鎬蓮弁文	Ⅱ層
1652	〃	〃 〃	-	(3.1)	-	-	外面は鎬蓮弁文	Ⅲ層
1653	〃	〃 〃	17.9	(5.7)	-	-	外面は鎬蓮弁文	Ⅲ層
1654	〃	〃 〃	17.3	(3.2)	-	-	外面は鎬蓮弁文	Ⅲ層
1655	〃	須恵器 鉢	28.2	(3.6)	-	-	東播系須恵器。口縁端部は上方に肥厚する。外面内面は回転ナデ, 外面には指頭圧痕	Ⅲ層
1656	〃	瓦質土器 鍋	24.4	(6.1)	-	-	外面はナデ, 口縁部は指頭圧痕。内面はナデ	
1657	〃	国内産陶器 天目茶碗	10.3	(2.4)	-	-	外面内面ともに鉄釉。瀬戸美濃系か	Ⅱ層
1658	〃	瀬戸焼 皿	19.1	(4.8)	-	9.8	折縁中皿。灰釉。口縁端部は横方向に拡張。外面内面は回転ナデ	
1659	〃	〃 〃	29.8	(3.7)	-	-	口縁部は横方向に肥厚する。口縁部下には円形の浮文を貼付	Ⅱ～Ⅲ層
1660	〃	〃 不明	-	(4.5)	-	-	外面は沈線と櫛描状の刻目	Ⅲ層
1661	〃	備前焼 壺	4.6	(3.7)	-	-	小型壺。外面内面はナデ, 外面には自然釉がかかる。	Ⅲ層
1662	〃	〃 播鉢	30.2	(3.9)	-	-	口縁端部は平坦面を呈する。内面には2条の摺目	Ⅲ層
1663	〃	常滑焼 甕	-	(7.1)	-	-	口縁部はN字状を呈する。縁帯部は上下に拡張。外面内面はナデ	Ⅲ層
1664	〃	炆器 甕	33.0	(2.4)	-	-	口縁端部は肥厚させる。外面内面ともにナデ	Ⅱ層
1665	〃	陶器又は炆器 蓋	-	1.5	-	-	笠径8.8cm。底部外面は回転糸切り痕。外面内面には回転ナデ	Ⅱ～Ⅲ層
1666	〃	磁器 香炉又は火入	10.8	(3.4)	-	-	口縁部端部は内側に折り返す。内面口縁部下は露胎	Ⅱ層

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1667	包含層	近世陶磁器 染付皿	-	(2.9)	-	10.8	肥前系磁器。内面見込みは蛇ノ目釉剥ぎ, 高台畳付釉剥ぎ	
1668	〃	陶器 碗	-	(2.5)	-	4.5	削り出し高台で高台には3カ所の切り込み。外面は飛鉋, 内面は鉄釉	II層
1669	〃	石製品 石鍋	-	(2.9)	-	22.0	重量146.1g。孔径0.8cm大の円孔を施す。二次使用	II～III層
1670	〃	〃 〃	21.2	(5.0)	-	-	重量134.0g。口縁部下には断面台形状の鑿を削り出す。外面内面ともにケズリ	II層
1671	〃	〃 〃	21.2	(7.6)	-	-	重量438.3g。断面台形状の鑿を削り出す。外面はケズリ	III層
1672	〃	瓦 平瓦	(9.2)	(13.3)	-	2.4	凹面は布目がみられ, 自然釉がかかる。	I～II層
1673	〃	〃 〃	(7.8)	(8.9)	-	2.4	凹面は布目痕, ナデ。凸面には縄目痕	III層
1674	〃	〃 〃	(12.5)	(9.4)	-	3.4	凹面には布目痕	II層
1675	〃	土製品 土錘	(4.9)	1.0	-	1.0	重量3.5g。孔径0.4cm。管状を呈する。外面ナデ	II層
1676	〃	〃 〃	4.4	1.2	-	1.2	重量5.3g。孔径0.4cm。管状を呈する。	III層
1677	〃	〃 〃	5.5	1.8	-	1.6	重量14.6g。孔径0.5cm。管状を呈する。外面ナデ	II層
1678	〃	〃 〃	6.3	2.1	-	2.0	重量21.5g。孔径0.9cm。外面は指頭圧痕とナデ	III層
1679	表採	〃 紡錘車	(4.5)	4.8	-	3.5	重量63.1g。中央部に孔径0.6cmの円孔を施す。ナデ	
1680	包含層	〃 土錘	(5.0)	2.9	-	2.6	重量30.4g。孔径1.0cmの円孔を施す。管状を呈する。外面ナデ	II層
1681	〃	〃 〃	4.9	3.3	-	3.2	重量45.8g。孔径0.9cmの円孔を施す。管状を呈する。外面はナデ	III層
1682	〃	〃 〃	5.2	3.3	-	3.1	重量48.7g。孔径0.9cmの円孔を施す。	III層
1683	〃	〃 〃	6.1	3.4	-	3.2	重量58.1g。筒状を呈し, 中央部に最大径をもつ。	III層集石
1684	〃	〃 〃	6.2	4.2	-	4.0	重量87.7g。筒状を呈し, 中央部に最大径をもつ。	III層
1685	〃	石製品 石斧	(4.9)	3.8	-	1.0	重量33.9g。扁平片刃石斧	
1686	〃	〃 石包丁	6.2	4.7	-	1.2	重量42.8g。砂岩製。表面は自然面, 側辺には抉りを呈する。	III層
1687	〃	〃 〃	5.0	6.7	-	1.0	重量37.8g。砂岩製。表面は自然面で, 両側は抉り状を呈する。	III層
1688	〃	〃 〃	7.1	5.8	-	1.6	重量77.8g。砂岩製。打製石包丁。表面は自然面。両側は抉りを施す。	III層
1689	〃	〃 〃	7.0	5.0	-	1.2	重量44.5g。砂岩製。打製石包丁。表面は自然面。両側は抉り状を呈する。	
1690	〃	〃 叩石	(6.1)	5.0	-	3.9	重量178.9g。砂岩製。周縁部は使用痕がみられる。	II層
1691	〃	〃 〃	10.6	7.9	-	3.0	重量388.4g。砂岩製。周縁部には敲打痕	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1692	包含層	石製品 石錘	12.1	3.2	-	9.1	重量471.5g。周縁部の2ヵ所を打ち欠く。石錘の可能性	Ⅲ層
1693	〃	〃 叩石	10.3	7.6	-	3.4	重量379.4g。砂岩製。周縁部に敲打痕がみられる。	
1694	〃	〃 磨石	11.5	10.0	-	4.4	重量685.7g。半円状の凹みが3ヵ所にみられる。風化する。	Ⅲ層
1695	〃	〃 〃	9.2	8.1	-	3.3	重量356.8g。砂岩製。周縁部には使用痕がみられる。	Ⅱ層
1696	〃	〃 〃	13.6	9.1	-	6.9	重量1257.0g。砂岩製。赤色顔料が付着する。	
1697	〃	〃 磨石(台石)	(22.3)	20.8	-	5.5	重量4060g。砂岩製。両面の中央部には敲打痕	Ⅲ層
1698	〃	金属製品 刀子又は鉈	6.0	1.1	-	0.2	重量10.3g。鉈及び刀子と考えられる。	Ⅱ層
1699	〃	〃 -	(8.3)	2.1	-	0.5	重量18.9g。刀子の一部と考えられる。	Ⅲ層
1700	〃	〃 -	4.3	1.0	-	0.5	重量5.0g。断面は長方形状を呈する。	Ⅲ層
1701	〃	〃 煙管	6.8	1.0	-	0.9	重量3.6g。吸口部。外面には印刻文がみられる。	Ⅲ層
1702	〃	〃 鉄鎌	14.0	3.9	-	0.3	重量32.7g。刃先は欠損する。	Ⅲ層
1703	〃	〃 錢貨	2.5	2.0	-	-	熙寧元寶か	
			2.3	-	-	-	政和通寶か	

遺構計測表

竪穴建物跡計測表1

番号	調査区	平面形	長軸(m)	短軸(m)	面積(m ²)	床面標高(m)	時期	備考
ST19	IV A区	隅丸方形	3.2	3.0	9.6	5.4	古墳時代後期	
ST20	〃	〃	-	-	-	5.1	〃	
ST21	〃	〃	-	-	-	5.2	〃	
ST22	〃	〃	3.3	3.2	10.6	5.2	〃	
ST23	〃	〃	-	-	-	5.2	〃	
ST24	〃	〃	-	-	-	4.7	〃	
ST25	〃	〃	5.2	5.0	26.0	4.8	弥生時代終末～古墳時代初頭	ベッド有り
ST26	〃	〃	4.2	3.3	13.9	5.2	〃	〃
ST27	〃	〃	4.0	3.3	13.2	5.1	〃	
ST28	〃	〃	5.6	5.3	29.7	4.8	〃	ベッド・貯蔵穴有り
ST29	〃	〃	5.9	5.5	32.3	4.7	〃	〃
ST30	〃	〃	7.1	-	-	4.7	〃	〃
ST31	〃	〃	-	-	-	4.7	〃	
ST32	〃	〃	5.7	5.4	30.8	4.7	〃	ベッド・貯蔵穴有り
ST33	〃	〃	4.7	4.6	21.6	4.8	〃	〃
ST34	〃	不整形	-	-	-	4.8	〃	〃
ST35	IV B-1区	隅丸方形	3.5(南北)	1.3(東西)	(4.5)	4.6	弥生時代終末	ベッド有り
ST36	〃	〃	3.2(東西)	1.2(南北)	(3.8)	4.9	弥生時代終末～古墳時代初頭	
ST37	〃	〃	4.9(東西)	2.6(南北)	13	4.5	古墳時代初頭	ベッド有り
ST38	〃	〃	6.2	5.4	33	4.9	古墳時代後期	カマド。ST39と重複
ST39	〃	〃	5.0	4.2	21	4.6	古墳時代初頭	
ST40	〃	方形	4.2	3.9	16	4.9	古墳時代後期	
ST41	〃	隅丸方形	5.0(東西)	3.3(南北)	(16)	4.8	〃	
ST42	〃	〃	4.0(東西)	1.2(南北)	(4.8)	4.6	古墳時代初頭	
ST43	〃	円形	6.2(東西)	4.8(南北)	(30)	4.6	弥生時代終末	

竪穴建物跡計測表2

番号	調査区	平面形	長軸(m)	短軸(m)	面積(m ²)	床面標高(m)	時期	備考
ST44	IVB-1区	隅丸方形	4.9	4.5	22	4.9	古墳時代後期	
ST45	〃	〃	5.3	3.5	(18)	4.9	〃	
ST46	〃	〃	5.1	4.8	24	4.8	弥生時代終末	
ST47	〃	多角形	7.6	-	45	4.7	〃	
ST48	〃	隅丸方形	5.3(東西)	3.9(南北)	(20)	4.7	〃	ベッド有り
ST49	〃	方形	5.0	4.8	24	4.9	古墳時代後期	
ST50	〃	多角形	8.0	-	41.5	4.7	弥生時代終末～古墳時代初頭	(五角形)・六角形 ベッド有り
ST51A	〃	隅丸方形	8.0	8.0	64	4.6	古墳時代初頭	
ST51B	〃	方形	6.7以上	-	-	4.6		重複している可能性 がある。
ST52	〃	隅丸方形	5.3(南北)	4.0(東西)	(21)	4.7	古墳時代後期	
ST53	〃	〃	6.4(東西)	6.2(南北)	39	4.8	〃	2軒の可能性有り
ST54	〃	-	2.9(東西)	0.9(南北)	-	-		
ST55	〃	方形	4.9(東西)	4.6(南北)	22	4.5	古墳時代初頭・後期	上に古墳時代後期の 竪穴建物跡
ST56	〃	-	-	-	-	-		欠番
ST57	〃	方形	5.8	5.1	29	4.7	古墳時代初頭	
ST58A	〃	隅丸方形	6.6	6.4	42	4.5	弥生時代終末	ベッド有り
ST58B	〃	〃	4.5	4.4	(20)	4.6	古墳時代後期	
ST59	〃	〃	4.7	4.6	21	4.7	古墳時代初頭	ベッド有り
ST60	〃	〃	3.8(南北)	3.3(東西)	(12)	4.7	古墳時代後期	
ST61	〃	〃	7.0(東西)	3.6(南北)	-	4.6～4.7	〃	
ST62	〃	-	-	-	-	4.6	弥生時代終末	
ST63	〃	隅丸方形	4.9	4.1	20	4.7	古墳時代後期	
ST64	〃	〃	4.9	4.5	22	4.6	古墳時代前期	
ST65	〃	方形	5.3	4.9	26	4.5	古墳時代初頭	ベッド有り
ST66	〃	-	4.3(南北)	0.8(東西)	(3.4)	-	-	

竪穴建物跡計測表3

番号	調査区	平面形	長軸(m)	短軸(m)	面積(m ²)	床面標高(m)	時期	備考
ST67	IVB-1区	隅丸方形	5.6(南北)	1.7(東西)	(9.5)	4.3	弥生時代終末～古墳時代初頭	ベッド有り
ST68	々	隅丸楕円形	5.6(南北)	4.1(東西)	(23)	4.4	弥生時代後期後半	長軸1.6m、短軸0.9m、深さ0.12mのビット有り

小数第2位, 8以上切り上げ, 7以下切り捨て

掘立柱建物跡計測表

番号	調査区	規模 (桁行×梁行)	面積(m ²)							
			0～5	5～10	10～15	15～20	20～25	25～30	30～35	35～40
SB1	IV A区	2間×2間		○						
SB2	〃	〃				○				
SB3	〃	3間×2間				○				
SB4	〃	3間×3間				○				
SB5	〃	2間以上×3間以上								
SB6	〃	2間以上×3間								
SB7	〃	3間×2間					○			
SB8	〃	4間×2間					○			
SB9	〃	5間×2間							○	
SB10	〃	2間×2間				○				
SB11	〃	〃				○				
SB12	〃	2間以上×2間								
SB13	〃	2間×2間				○				
SB14	〃	〃				○				
SB15	〃	3間×2間				○				
SB16	〃	2間×2間					○			
SB17	〃	4間×2間								○
SB18	〃	5間×2間							○	
SB19	〃	3間×2間					○			
SB1	IV B-1区	2間×1間以上								
SB2	〃	2間×1間								
SB3	〃	2間×2間								
SB4	〃	4間×2間						○		
SB5	〃	2間×1間		○						
SB6	〃	3間×2間			○					
SB7	〃	2間×2間			○					
SB8	〃	3間×2間				○				
SB9	〃	2間×1間								
SB10	〃	2間×2間			○					
SB11	〃	2間×1間								
SB11-1	〃	〃		○						
SB12	〃	〃			○					
SB13	〃	〃		○						
SB14	〃	2間×2間		○						
SB15	〃	2間×1間		○						
SB16	〃	〃			○					

番号	調査区	平面形状	規模			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	
SK1	IV A 区	隅丸長方形	3.1	—	17～26	北側は調査区外へ続く。
SK2	〃	不整隅丸長方形	1.7	0.8	36	
SK3	〃	不整楕円形	0.9	0.8	7	SK4に切られる。
SK4	〃	不整隅丸方形	1.0		8	SK3を切る。
SK5	〃	隅丸方形	1.0	0.8	11～12	SK6を切る。
SK6	〃	〃	1.1		24	SK5に切られる。
SK7	〃	隅丸長方形	2.0	0.8	8	SK8を切る。
SK8	〃	不整楕円形	1.4	1.0	9～12	SK7に切られる。
SK9	〃	隅丸長方形	1.1	0.8	11～17	
SK10	〃	—	—	—	4	北側は調査区外へ続き、東側はSD2に切られる。
SK11	〃	隅丸長方形	1.5	0.4	42	SD2を切り、P4に切られる。
SK12	〃	不整楕円形	0.8	0.5	14～16	SK13を切る。
SK13	〃	〃	1.3	0.9	16	SK12に切られる。
SK14	〃	不整隅丸方形	0.8		14	SK15を切る。
SK15	〃	隅丸長方形	2.4	0.9	45～48	SK16・18を切り、SK14・17に切られる。
SK16	〃	不整隅丸方形	0.7		11	SK15・17に切られる。
SK17	〃	不整形	1.0	0.8	15	SK15・16を切る。
SK18	〃	楕円形	0.9	0.7	9～11	SK15に切られる。
SK19	〃	〃	1.2	0.9	15	
SK20	〃	隅丸長方形	0.9	0.6	18	
SK21	〃	不整形	0.9	0.7	14	
SK22	〃	不整楕円形	4.3	2.7	26～36	SD2を切り、SK23に切られる。
SK23	〃	隅丸方形	0.8		5	SK22を切る。
SK24	〃	円形	1.1		11	
SK25	〃	不整楕円形	0.8	0.7	31	P8に切られる。
SK26	〃	不整隅丸方形	1.5		20～25	SK27に切られる。
SK27	〃	不整隅丸長方形	1.0	0.7	15	SK26を切る。
SK28	〃	不整形	1.2	1.0	19～24	
SK29	〃	〃	1.3	0.8	10～14	
SK30	〃	楕円形	1.1	1.0	53	
SK31	〃	円形	0.9		22～47	SD6に切られる。
SK32	〃	隅丸長方形	1.2	1.0	14～16	SK33を切る。
SK33	〃	不整隅丸長方形	4.5	1.7	29～36	SB13, SK32, P13に切られる。
SK34	〃	隅丸方形	0.9		12	
SK35	〃	隅丸長方形	—	0.7	8	西側は調査区外へ続く。
SK36	〃	隅丸方形	0.7		6	
SK37	〃	隅丸長方形	1.1	0.7	6	SB4のP9を切る。

土坑計測表2

番号	調査区	平面形状	規模			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	
SK38	IV A区	不整隅丸方形	2.7	2.2	10~28	SB4のP2・3, SA1を切る。
SK39	〃	円形	1.5		30	SD18に切られる。
SK40	〃	楕円形	3.9	—	23~38	東側は調査区外へ続く。
SK41	〃	〃	1.0	—	13	西側は調査区外へ続く。
SK42	〃	〃	1.0	0.6	17	SD10を切る。
SK43	〃	隅丸方形	0.9		12	
SK44	〃	〃	1.2		27	
SK45	〃	不整楕円形	1.2	0.8	39	ST19を切る。
SK46	〃	楕円形	2.0	1.3	35	SD11を切る。
SK47	〃	円形	1.5		58	
SK48	〃	楕円形	1.0	0.8	14	
SK49	〃	〃	1.0	0.6	6	
SK50	〃	隅丸長方形	0.7	0.6	8	
SK51	〃	隅丸方形	0.7		11	SD11を切る。
SK52	〃	隅丸長方形	1.0	0.7	11	
SK53	〃	楕円形	—	0.7	7	SD11を切り, SK54に切られる。
SK54	〃	長楕円形	4.0	0.8	22~38	SK53を切り, SK55に切られる。
SK55	〃	〃	3.0	0.8	47~55	SK54を切る。
SK56	〃	不整形	—	—	18~27	SD18に切られる。
SK57	〃	不整隅丸長方形	1.9	1.2	8~10	
SK58	〃	隅丸長方形	1.0	0.7	5~6	SD14を切る。
SK59	〃	隅丸方形	1.0		18	SD12を切る。
SK60	〃	不整形	1.1	0.5~0.9	6~7	
SK61	〃	〃	4.8	2.9	32~36	SD13・15に切られる。
SK62	〃	不整隅丸長方形	1.6	1.4	9~12	
SK63	〃	長楕円形	—	0.8	6	SD23を切る。
SK64	〃	不整隅丸長方形	—	0.5	5	SK65に切られる。
SK65	〃	隅丸長方形	2.3	1.0	33~36	土坑墓。ST22とSK64を切る。
SK66	〃	不整隅丸長方形	2.8	1.0	62~64	土坑墓
SK67	〃	楕円形	1.3	0.7	16~21	
SK68	〃	不整楕円形	2.5	2.3	13~19	SB8のP10を切り, SK69に切られる。
SK69	〃	隅丸長方形	2.1	0.8	29	土坑墓。SK68を切る。
SK70	〃	不整円形	1.0		14	SB8のP1を切る。
SK71	〃	不整楕円形	1.6	1.0	10	SK72に切られる。
SK72	〃	円形	1.7		8	ST28とSK71, SD33を切る。
SK73	〃	不整隅丸方形	0.7		8	SK74とSD23を切る。
SK74	〃	〃	0.9		15	SD23を切り, SK73に切られる。

番号	調査区	平面形状	規模			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	
SK75	IV A 区	隅丸長方形	—	—	39～55	西側は調査区外へ続く。
SK76	〃	〃	0.9	0.8	16	
SK77	〃	楕円形	1.3	0.9	17	SD30を切る。
SK78	〃	〃	1.4	1.2	25	
SK79	〃	〃	1.0	0.9	27	
SK80	〃	〃	2.7	1.8	7	SD28・33に切られる。
SK81	〃	〃	1.3	1.1	78	SD39を切り、SK82に切られる。
SK82	〃	〃	1.5	1.3	76	SK81とSD39を切る。
SK83	〃	〃	0.9	0.6	13	
SK84	〃	隅丸方形	1.0		41～44	ST25を切る。
SK85	〃	〃	1.1		19	
SK86	〃	隅丸長方形	0.9	0.8	42	ST26を切る。
SK87	〃	〃	1.8	1.5	10～28	
SK88	〃	不整長楕円形	2.5	0.9	8～10	SB9のP15に切られる。
SK89	〃	長楕円形	1.7	0.8	9～11	SB9のP16に切られる。
SK90	〃	隅丸長方形	1.3	1.0	8～12	ST25を切り、SB18のP4とSB19のP4に切られる。
SK91	〃	長楕円形	—	0.4	7	SD13に切られる。
SK92	〃	不整楕円形	0.8	0.5	24～28	P43を切る。
SK93	〃	隅丸長方形	2.4	2.2	11～21	SD13・23を切る。
SK94	〃	不整楕円形	0.8	0.7	11	SD23を切る。
SK95	〃	〃	3.2	2.2	12～47	SK97とSD13を切り、SK96に切られる。
SK96	〃	不整隅丸長方形	2.5	—	8～13	SK95、SD37を切る。
SK97	〃	不整楕円形	1.8	1.2	38	SD13を切り、SK95に切られる。
SK98	〃	楕円形	2.0	1.6	6	SD37を切る。
SK99	〃	〃	2.4	2.1	30	SD13を切る。
SK100	〃	〃	—	0.9	9	SK101に切られる。
SK101	〃	不整楕円形	—	1.2	11	SK100を切り、SK102に切られる。
SK102	〃	不整隅丸長方形	3.6	2.1	20	SK101を切り、SA3に切られる。
SK103	〃	隅丸長方形	1.8	1.6	113～121	SB11のP5を切る。
SK104	〃	—	—	—	25	SD45に切られる。
SK1	IV B - 1区	楕円形	1.1	0.6	7	SK2を切る。
SK2	〃	方形	0.52	0.45	6	SK1に切られる。
SK3	〃	楕円形	1.1	0.75	5	
SK4	〃	〃	1.5	1.15	—	
SK5	〃	〃	1.7	0.6	5	
SK6	〃	隅丸長方形	3.5	3.0	27	ST48に切られる。
SK7	〃	楕円形	1.4	0.75	40	SD7に切られる。

土坑計測表4

番号	調査区	平面形状	規模			備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	
SK8	IV B - 1区	楕円形	1.42	0.62	18	
SK9	〃	隅丸方形	2.14	1.68	10	ST40に切られる。
SK10	〃	楕円形	1.04	0.6	28	
SK11	〃	〃	1.48	0.58	30	SD11に切られる。
SK12	〃	-	-	-	-	欠番
SK13	〃	楕円形	1.0	0.76	20	ST51に付属する可能性有り
SK14	〃	-	-	-	-	欠番
SK15	〃	楕円形	1.2	0.55	5	
SK16	〃	不整形	4.95	3.94	10~40	
SK17	〃	楕円形	1.0	0.6	26	
SK18	〃	-	-	-	-	欠番
SK19	〃	不整形	0.8	-	8	
SK20	〃	隅丸方形	1.4	0.6以上	-	ST59を切る。
SK21	〃	-	-	-	-	欠番
SK22	〃	楕円形	1.4	0.6	10	
SK23	〃	円形	1.05	-	13	
SK24	〃	隅丸方形	1.0	0.9	36	
SK25	〃	円形	0.7	0.6	-	ST63を切る。
SK26	〃	〃	0.6	0.6	-	
SK27	〃	隅丸長方形	2.5	0.66	30	
SK28	〃	-	-	-	-	欠番
SK29	〃	長方形	1.4	0.8	20	ST53に切られる。
SK30	〃	隅丸長方形	1.9	0.7	24	SB9に切られる。
SK31	〃	楕円形	0.7	0.4	-	SD24に切られる。
SK32	〃	-	-	-	-	欠番
SK33	〃	長方形	1.7	0.4	10	SB9に切られる。
SK34	〃	楕円形	1.3	0.6	10	ST64を切る。
SK35	〃	隅丸楕円形	2.2	0.6以上	24	ST68を切る。
SK36	〃	隅丸長方形	2.3	1.0	20	ST64を切る。
SK37	〃	隅丸方形	1.8	1.0	32	ST68を切る。
SK38	〃	楕円形	1.9	0.6	28	

圖 版

IV A 区





調査前風景(西より)



調査区北壁セクション(南より)

図版2



調査区西側遺構検出状態(東より)



調査区西側遺構検出状態(南より)



調査区西側遺構完掘状態(東より)



調査区西側遺構完掘状態(南より)

図版4



調査区東側遺構検出状態(西より)



調査区東側遺構完掘状態(西より)



ST22・SK65完掘状態(南より)



ST25完掘状態(南より)

図版6



ST28完掘状態(南より)



ST29完掘状態(南より)



ST30完掘状態(南より)



ST32完掘状態(南より)

図版8



ST33完掘状態(東より)



SB3完掘状態(南より)



SB4完掘状態(東より)



SB6完掘状態(北より)

図版10



ST23 須恵器 (22) 出土状態



ST24 須恵器 (34) 出土状態



ST25 バンクセクション (北東より)



ST27 土製品 (101) 出土状態



ST27 弥生土器 (106) 出土状態



ST28 バンクセクション (南東より)



ST28 弥生土器 (149) 出土状態



ST28 遺物 (161・166・176・177) 出土状態



ST28 弥生土器 (165) 出土状態



ST28 庄内式土器 (177) 出土状態



ST28 弥生土器 (187) 出土状態



ST29 弥生土器 (201・203) 出土状態



ST29 弥生土器 (208) 出土状態



ST30 弥生土器 (284) 出土状態



ST30 石製品 (301) 出土状態



ST30 (SK2) バンクセクション (西より)

図版12



ST33 弥生土器 (364) 出土状態



ST33 金属製品 (367) 出土状態



ST34 石製品 (399) 出土状態



SB2 (P5) 弥生土器 (407) 出土状態



SB4 (P5) バンクセクション (南より)



SB7 東側掘方バンクセクション (南より)



SK61 須恵器 (495) 出土状態



SK65 石製品 (502) 出土状態



SK66バンクセクション(南より)



SK66完掘状態(南より)



SK69バンクセクション(南より)



SK72集石検出状態(北東より)



SK85金属製品(520)出土状態



SK103バンクセクション(南より)



SD13バンクセクション(東より)



SD21土師質土器(556・557)出土状態

図版14



SD38バンクセクション(南より)



SD39バンクセクション(南より)



SD39完掘状態(南より)



SD42バンクセクション(南より)



SD45バンクセクション(南より)



SE1バンクセクション(北より)



第Ⅲ層石製品(716)出土状態



第Ⅴ層須恵器(785)出土状態



弥生土器(壺・甕), 須恵器(甗)

图版16



弥生土器(甕·高杯·器台), 庄内式土器(甕)



弥生土器(壺・甕)



弥生土器(壺・甕)



弥生土器(壺·甕·高杯)



弥生土器(壺・甕・高杯)



弥生土器(甕·高杯)



弥生土器(甕), 土師器(甕), 須恵器(高杯)



弥生土器(鉢・高杯), 土師器(甕), 須恵器(甕)

图版24



弥生土器(壺・鉢), 土製品(支脚)



弥生土器(壺・鉢・高杯・柄杓形土器), 石製品(砥石)

图版26



弥生土器(壺・鉢・高杯), 土製品(支脚), 石製品(石杵)



弥生土器(壺・鉢), 土製品(支脚)

图版28



弥生土器(壺・鉢), 土製品(支脚), 石製品(砥石)



弥生土器(壺・鉢), 土製品(支脚), 石製品(石杵)

图版30



弥生土器(鉢・高杯・製塩土器), 土製品(支脚)



弥生土器(甕・鉢・高杯), 庄内式土器(甕)

图版32



弥生土器(甕・鉢・高杯), 土師器(甕), 瓦質土器(鍋), 石製品(砥石)



土師質土器(杯·鍋), 白磁(碗), 瓦(平瓦), 近世磁器(皿)

図版34



土師器(羽釜), 須恵器(壺), 瓦質土器(三足鍋), 瀬戸焼(壺), 青磁(碗)



土師器(羽釜), 須恵器(壺・甕・器台), 土師質土器(羽釜), 石製品(石鍋・砥石)

图版36



土師質土器(鍋), 瓦質土器(鍋・搗鉢), 瓦器(椀), 備前焼(甕), 瀬戸焼(天目茶碗), 青磁(碗)



弥生土器(壺), 須惠器(高杯·杯身), 土製品(土錘), 石製品(磨石·砥石·叩石)

図版38

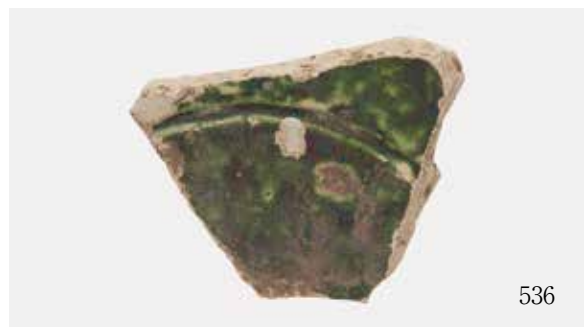


弥生土器(壺・鉢・高杯・手づくね土器), 庄内式土器(甕), 土製品(土錘), 石製品(叩石), 金属製品(鉄鏃)



弥生土器(壺・鉢), 土師質土器(皿・小皿), 石製品(石庖丁)

図版40



須恵器(杯蓋), 緑釉陶器(碗), 土師質土器(皿・小皿), 青花(皿), 石製品(石庖丁), 金属製品(鉄鏃・鈍)



土師質土器(杯·皿·小皿), 土製品(土錘), 石製品(石庖丁)

图版 42



土師質土器(杯·皿·小皿), 石製品(扁平片刃石斧·石庖丁), 金属製品(鉄鏃)



弥生土器(壺), 須恵器(杯蓋), 土師質土器(杯・小皿), 青磁(碗), 石製品(石鏃・砥石), 金属製品(錢貨)

図版44



土師質土器(杯・小皿), 瀬戸焼(皿), 白磁(皿), 瓦(平瓦), 土製品(土錘), 石製品(砥石)

Ⅳ B - 1 区





調査前風景(西より)



調査区西側遺構検出状態(東より)

図版46



調査区東側遺構検出状態(西より)



調査区西側遺構完掘状態(東より)



調査区東側遺構完掘状態(西より)



調査区西側遺構完掘状態(上空より)

図版48



調査区東側遺構完掘状態(上空より)



調査区東側遺構完掘状態(南上空より)



調査区西側北壁セクション(南より)



調査区東側北壁セクション(南より)

図版50



ST35完掘状態(北東より)



ST35遺物出土状態



ST35弥生土器(892)出土状態



ST35土製品(896)出土状態



ST36移動式カマド(902)出土状態



ST37完掘状態(南西より)



ST37遺物出土状態1



ST37遺物出土状態2



ST37中央ピット遺物出土状態



ST37北壁セクション(南より)



ST38・39完掘状態(北西より)



ST38カマドセクション(西より)



ST38セクションベルト(北より)



ST39中央ピット遺物出土状態



ST39セクション(西より)



ST40完掘状態(南西より)



ST40セクション(北より)



ST40焼土及び遺物出土状態



ST40カマド状粘土及びバンク(北より)



ST40カマド状粘土須恵器(973)出土状態

図版54



ST41・42完掘状態(南より)



ST41・42完掘状態(南西より)



ST43完掘状態(南西より)



ST43バンクセクション(北東より)



ST43弥生土器(995)出土状態



ST43遺物出土状態



ST43石製品(1002)出土状態



ST44完掘状態(南西より)



ST44バンクセクション(南より)



ST44カマド状焼土及び遺物出土状態



ST44カマド状粘土出土状態(南西より)



ST44須恵器(1011)出土状態



ST43・45完掘状態(北東より)



ST45焼土・土師器(1018)出土状態

図版58



ST46完掘状態(北より)



ST46バンク及び遺物・炭化物出土状態



ST46バンクセクション(北より)



ST46中央ピット半裁状態(南より)



ST46床面遺物出土状態



ST46・47完掘状態(西より)



ST47バンクセクション(南より)



ST47弥生土器(1043)出土状態



ST47中央ピット半裁状態(南より)



ST47石製品(1058)出土状態

図版60



ST48・49完掘状態(東より)



ST49完掘状態(南より)



ST49須恵器(1082)出土状態



ST49カマド・遺物出土状態



ST48床面中央ピット・遺物出土状態



ST50完掘状態(東より)



ST50遺物出土状態



ST50バンクセクション(東より)



ST50床面検出状態(北より)



ST50中央ピット半裁状態(南より)



ST51 完掘状態 (南東より)



ST51 バンクセクション (東より)



ST51 遺物出土状態



ST51 石製品 (1120) 出土状態



ST51 完掘状態 (南より)



ST52完掘状態(西より)



ST53・54完掘状態(西より)

図版64



ST52・大溝完掘状態(上空より)



ST53・54完掘状態(上空より)



ST54バンクセクション(東より)



ST55・57・58完掘状態(上空より)



ST55 遺物出土状態



ST55 中央ピットセクション(南より)



ST57 小型丸底鉢(1156) 出土状態



ST57 弥生土器(1154) 出土状態



ST58完掘状態(北東より)



ST58バンクセクション(東より)



ST58土師器(1172)出土状態



ST58角礫・焼土検出状態(北より)



ST58完掘状態(上空より)



ST59・60完掘状態(北より)



ST59バンクセクション(南より)



ST59弥生土器(1181・1183)出土状態



ST60弥生土器(1190)遺物出土状態



ST59・60完掘状態(上空より)



ST61・62完掘状態(北東より)



ST63～65完掘状態(北東より)

図版68



ST63～65完掘状態(南東より)



ST64バンクセクション1(北より)



ST64バンクセクション2(北より)



ST64遺物出土状態1



ST64遺物出土状態2



ST63～65完掘状態(南東より)



ST65バンクセクション(南より)



ST65バンクセクション(西より)



ST65弥生土器(1235)出土状態



ST65遺物出土状態

図版70



ST67・68完掘状態(北より)



ST67 遺物出土状態1



ST67 遺物出土状態2



ST67バンクセクション(北より)



ST67・68完掘状態(上空より)



ST68完掘状態(南より)



ST68弥生土器(1331)出土状態



SB1完掘状態(北より)



SB4完掘状態(北西より)



SB8・SD25完掘状態(南より)



SB8完掘状態(南より)



SK6遺物出土状態1



SK6遺物出土状態2

図版72



SK6 遺物出土状態



SK6 完掘状態 (西より)



SK7 土製品 (1385) 出土状態



SK11 土師質土器 (1391) 出土状態



SK16 集石出土状態



SK27 石製品 (1402) 出土状態



SK29 遺物出土状態



SK34 遺物出土状態



ST65, SK27・30・33・38完掘状態(上空より)



SD5・6完掘状態(北より)



SD5バンク南壁セクション(南より)



SD5・6バンク南壁セクション(南より)



SD7完掘状態(北より)



SD7バンク南壁セクション(南より)



SD11バンク東壁セクション(東より)



SD11瓦質土器(1426)出土状態

図版74



SD24完掘状態(南より)



SD24バンク南壁セクション(南より)



SD25完掘状態(東より)



SD25バンク西壁セクション(西より)



SD25土師質土器(1448)出土状態



SD26南壁セクション(南より)



SD26南側集石検出状態(北より)



SD26須恵器(1460)出土状態



P2 遺物出土状態



P14 遺物出土状態



P22 土師器 (1508) 出土状態



P23 弥生土器 (1509) 出土状態



SX8 遺物出土状態



SX10 土師器 (1522)・須恵器 (1523) 出土状態



遺物包含層 弥生土器 (1561) 出土状態



作業風景 (西より)



弥生土器(甕·高杯), 庄内式土器(甕)



弥生土器(壺・甕・高杯), 土師器(甕)

图版78



弥生土器(壺), 土師器(甕), 小型丸底鉢, 須恵器(甕)



弥生土器(壺), 土師器(高杯), 小型丸底鉢

图版80



弥生土器(壺・甕・高杯)



弥生土器(甕・甑), 須恵器(硯)

図版82



弥生土器(壺・台付鉢), 土師器(甕・甑), 須恵器(甕), 土製品(支脚)



弥生土器(鉢・高杯), 土製品(支脚)

图版84



弥生土器(鉢), 須恵器(杯蓋・杯身)



弥生土器(壺・鉢), ミニチュア土器, 石製品(磨石)

图版 86



弥生土器(鉢), 須恵器(杯身・高杯), 石製品(叩石・磨石)



弥生土器(鉢), 土師器(椀), 小型丸底鉢, ミニチュア土器, 石製品(砥石)

图版 88



弥生土器(壺・鉢), 土師器(椀), 土製品(支脚), 石製品(砥石)



弥生土器(壺・鉢・高杯), 土師質土器(羽釜)

图版90



弥生土器(鉢・高杯), 土師器(碗), 須恵器(高杯), 瓦質土器(鍋), 瓦(平瓦)



弥生土器(壺・鉢・高杯), 須恵器(甕・提瓶), 瀬戸焼(皿)

図版92



弥生土器(壺), ミニチュア土器, 手づくね土器, 土製品(支脚), 石製品(石庖丁・刃器), 金属製品(鉄鎌・鉈)



弥生土器(壺・鉢・高杯・器台か), 庄内式土器(甕), ミニチュア土器, 石製品(角錐状石器), 金属製品(鉄鏃)

図版94



弥生土器(鉢), 手づくね土器, 土師器(椀), 土製品(支脚), 石製品(石庖丁・紡錘車)



弥生土器(壺・甕), ミニチュア土器, 土師器(椀・皿), 瓦器(椀), 土製品(土錘)

図版96



白磁(碗・皿), 青磁(碗・皿), 常滑焼(甕), 備前焼(播鉢), 瀬戸焼(鉢), 石製品(石鍋), 金属製品(鉄鎌)

報告書抄録

ふりがな		ひがしのどいいせきさん						
書名		東野土居遺跡Ⅲ						
副書名		南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅸ						
シリーズ名		高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書						
シリーズ番号		第146集						
編著者名		坂本裕一, 筒井三菜, 久家隆芳, 下村裕						
編集機関		公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター						
所在地		高知県南国市篠原1437-1						
発行年月日		2016年2月29日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
ひがしのどいいせき 東野土居遺跡	〒781-5213 こうちけんこうなんし 高知県香南市 のいちちょうひがしのどい 野市町東野・土居	39211	200039	33° 33′ 17″	133° 43′ 01″	2010.4.26 ～ 2010.10.28	3,573㎡	記録保存 調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
東野土居遺跡	集落跡	弥生 古墳 古代 中世	竪穴建物跡 52軒 掘立柱建物跡 36棟 柵列・堀跡 4列 土坑 136基 溝跡 71条 井戸 1基 性格不明遺構 5基	弥生土器 土師器 須恵器 土師質土器 瓦質土器 青磁 白磁	弥生時代から古墳時代にかけての集落や古代の建物群, 中世の屋敷群などが確認されている。			
要約	<p>本調査区は香宗川右岸の野市台地縁辺部に立地しており, 調査対象区域全域で弥生時代終末から古墳時代前期及び古墳時代後期の竪穴建物跡が52軒検出されており, 当該期の集落が存在していたことが明らかとなった。</p> <p>古代では調査対象区域全域で掘方が隅丸方形を呈する掘立柱建物跡が確認されている。また, 当該期の瓦片なども出土していることから当該期には官衙関連施設や寺院に関連する施設があった可能性が考えられる。</p> <p>中世では調査対象区域西部を中心に溝で区画された屋敷跡が確認されており, 当該期の屋敷が展開していたとみられる。</p>							

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第146集

東野土居遺跡Ⅲ

南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅸ

(高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅻ)

2016年2月29日

発行 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

Tel. 088-864-0671

印刷 株式会社 飛 鳥

